

目 录

図 番	図 面 名 称	縮 尺	図 番	図 面 名 称	縮 尺	図 番	図 面 名 称	縮 尺	図 番	図 面 名 称	縮 尺
【意 匠】			S-13	基礎, 1, 2階伏図	1/100	【建築電気】					
A-1	全体平面図	1/500	S-14	3, 4, R階伏図	1/100	AE-1	建築電気設備工事 特記仕様書(1)	-			
A-2	建築工事特記仕様書(1)	—	S-15	軸組図(1)	1/100	AE-2	建築電気設備工事 特記仕様書(2)	-			
A-3	建築工事特記仕様書(2)	—	S-16	軸組図(2)	1/100	AE-3	構内配電線路・通信線路図	1/500			
A-4	建築工事特記仕様書(3)	—	S-17	基礎, 基礎梁リスト	1/30	AE-4	断面図(参考)	1/100			
A-5	建築工事特記仕様書(4)	—	S-18	柱リスト	1/30	AE-5	照明器具参考姿図	-			
A-6	建築工事特記仕様書(5)	—	S-19	大梁, 小梁リスト	1/30	AE-6	特高受変電室棟 電灯設備(照明)配線図(1)	1/100			
A-7	建築工事特記仕様書(6)	—	S-20	壁, スラブリスト	1/30	AE-7	特高受変電室棟 電灯設備(照明)配線図(2)	1/100			
A-8	建築工事特記仕様書(7)	—	S-21	クレーンレール取り付け詳細図	1/10	AE-8	特高受変電室棟 電灯設備(幹線・コンセント)配線図(1)	1/100			
A-9	建築工事特記仕様書(8)	—	S-22	架構配筋詳細図	1/50	AE-9	特高受変電室棟 電灯設備(幹線・コンセント)配線図(2)	1/100			
A-10	仕上表	1/100				AE-10	特高受変電室棟 動力設備配線図(1)	1/100			
A-11	求積図	1/100	【建築解体】			AE-11	特高受変電室棟 動力設備配線図(2)	1/100			
A-12	法規チェックリスト	1/100	D-1	撤去全体配置図	1/500	AE-12	幹線設備系統図	-			
A-13	平面図(1)	1/100	D-2	解体特記仕様書(1)	—	AE-13	主幹盤 単線結線図	-			
A-14	平面図(2)	1/100	D-3	解体特記仕様書(2)	—	AE-14	分電盤 単線結線図	-			
A-15	断面図	1/100	D-4	危険物屋内貯蔵所 平面図・立面図	1/25	AE-15	制御盤 単線結線図	-			
A-16	立面図	1/100	D-5	危険物屋内貯蔵所 軸組図(1)	1/25	AE-16	主幹盤・制御盤 参考姿図	-			
A-17	平面詳細図(1)	1/50	D-6	危険物屋内貯蔵所 軸組図(2)	1/25	AE-17	特高受変電室棟 雷保護設備配線図	1/100			
A-18	平面詳細図(2)	1/50	D-7	車庫 平面図	1/50	AE-18	特高受変電室棟 雷保護設備 機器詳細図	-			
A-19	平面詳細図(3)	1/50	D-8	車庫 立面図	1/50	AE-19	構内交換設備系統図	-			
A-20	断面詳細図(1)	1/60	D-9	車庫 断面図	1/50	AE-20	特高受変電室棟 構内交換設備配線図(1)	1/100			
A-21	断面詳細図(2)	1/60	D-10	車庫 伏図(1)	1/50	AE-21	特高受変電室棟 構内交換設備配線図(2)	1/100			
A-22	部分詳細図	1/20, 40	D-11	車庫 伏図(2)	1/50	AE-22	既設管理棟 構内交換設備配線図	1/100			
A-23	基準詳細図	1/5, 10	D-12	車庫 軸組図	1/50	AE-23	全体配置図(撤去・仮設工事)	1/500			
A-24	展開図(1)	1/100	D-13	車庫 基礎リスト・柱リスト	1/30	AE-24	特高変電所 電気設備配線図(撤去)	1/100			
A-25	展開図(2)	1/100	D-14	車庫 詳細図(1)	1/30	AE-25	倉庫 電気設備配線図(撤去)	1/50			
A-26	展開図(3)	1/100	D-15	車庫 詳細図(2)	1/30	AE-26	車庫・危険物屋内貯蔵所 電気設備配線図(撤去)	1/50			
A-27	天井伏図	1/100	D-16	支障物(植栽・埋設管)	1/75	AE-27	全体平面図 仮設電源・NTT移設(今回)	1/500			
A-28	建具表	1/100				AE-28	特高変電所地下1階～2階 平面図(今回)	1/100			
A-29	建具納まり図	1/100	【建築機械】			AE-29	特高変電所3階、4階、RF階 平面図(今回)	1/100			
A-30	外構図	1/100	AM-1	建築機械設備 特記仕様書(1)	-	AE-30	管理棟1階平面図(今回)	1/100			
A-32	仮設計画図	1/100	AM-2	建築機械設備 特記仕様書(2)	-	AE-31	全体平面図 NTT移設(撤去)	1/500			
A-33	仮設(山留)平面図	1/50	AM-3	建築機械設備 特記仕様書(3)	-						
A-34	仮設(山留)断面図(1)	1/50	AM-4	建築機械設備 浄化槽特記仕様書	-						
A-35	仮設(山留)断面図(2)	1/50	AM-5	全体配置図	1/500						
			AM-6	特高受変電棟 換気設備 機器表	-						
			AM-7	特高受変電室棟 換気設備 平面図(1)	1/100						
【構 造】			AM-8	特高受変電室棟 換気設備 平面図(2)	1/100						
S-1	構造関係特記仕様書(1)	—	AM-9	特高受変電室棟 換気設備 断面図	1/100						
S-2	構造関係特記仕様書(2)	—	AM-10	衛生設備 屋外配管図(改修後)	1/100						
S-3	構造関係特記仕様書(3)	—	AM-11	衛生設備 浄化槽詳細参考図(1)(改修後)	1/20						
S-4	構造関係共通事項(その1)	—	AM-12	衛生設備 浄化槽詳細参考図(2)(改修後)	1/20						
S-5	構造関係共通事項(その2)	—	AM-13	衛生設備 浄化槽詳細参考図(3)(改修後)	-						
S-6	構造関係共通事項(その3)	—	AM-14	衛生設備 屋外配管図(改修前)	1/100						
S-7	構造関係共通事項(その4)	—	AM-15	仮設計画図(参考図)	1/500						
S-8	構造関係共通事項(その5)	—									
S-9	回転貫入鋼管杭工法設計施工標準(1)	—									
S-10	回転貫入鋼管杭工法設計施工標準(2)	—									
S-11	回転貫入鋼管杭工法 機械式継手工法	—									
S-12	杭伏図	1/100									

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

項

1

1

一般共通事項

項

2

1

一般共通事項

<

章 項 目		特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項
12 木 工 事	○ 1. 表面仕上げ	見え掛り面の表面仕上げの程度 ブルーナー加工仕上げ 適用箇所：○ 図示による、○ () ○ 超自動機械かな 適用箇所：○ 図示による、○ () ○ サンダー 適用箇所：○ 図示による、○ ()	12 木 工 事	○ 6. 合板等	13 屋 根 及 び と い 工 事	○ 1. 長尺金属板葺
	○ 2. 施工一般	材料のホルムアルデヒド放散量： ☒ F☆☆☆☆ ○ ()		○ 2. 折板葺		
	○ 3. 製材 図	・ JAS 1083-5 製材-第5部に基づく下地用製材： 施工箇所 樹種名 寸法 (mm) 等級 (材料の品質) 含水率 保存処理 間伐材等の適用 ☒ 2級 ☒ A種 ○ B種 ○ ☒ 2級 ○ ☒ A種 ○ B種 ○ ・ JAS 1083-2 製材-第2部に基づく造作用製材 施工箇所 樹種名 寸法 (mm) 等級 (材料の品質) 含水率 保存処理 間伐材等の適用 見え掛り面 ☒ 上小節 ○ ☒ A種 ○ B種 ○ 見え掛り面以外 ☒ 小節以上 ○ ☒ A種 ○ B種 ○ ・ JAS 1083-6 製材-第6部に基づく広葉樹製材 施工箇所 樹種名 寸法 (mm) 等級 (材料の品質) 含水率 保存処理 間伐材等の適用 ☒ 1等 ○ ☒ 10%以下 ○ A種 ○ B種 ○ ☒ 1等 ○ ☒ 10%以下 ○ A種 ○ B種 ○ ・ JAS 1083 (製材) 以外の製材 施工箇所 寸法 (mm) 材面の品質 含水率 防虫処理の適用 間伐材等の適用 ○ 造作材 (☒ A種、○ B種) ☒ A種 ○ B種 ○ する しない する しない ○ 造作材 (☒ A種、○ B種) ☒ A種 ○ B種 ○ する しない する しない		○ 2. 粘土瓦葺		
	○ 4. 造作用集成材 図	・ JAS 1152 (集成材) に基づく造作用集成材： 施工箇所 品名 樹種名 寸法 (mm) 見付け材面 見付け材面の品質 間伐材等の適用 ☒ 1等 ○ 2等 ○ 2等 ○ 2等 ・ JAS 1152 (集成材) に基づく化粧ばり造作用集成材： 施工箇所 品名 樹種名 寸法 (mm) 化粧薄板の厚さ (mm) 見付け材面 見付け材面の品質 間伐材等の適用 化粧薄板： ☒ 1等 ○ 2等 ○ 2等 芯材： ☒ 1等 ○ 2等 ○ 2等 化粧薄板： ☒ 1等 ○ 2等 ○ 2等 芯材： ☒ 1等 ○ 2等 ○ 2等 ・ JAS 1152 (集成材) 以外の造作用集成材： 施工箇所 樹種名 寸法 (mm) 見付け材面の品質 含水率 間伐材等の適用 ☒ 15%以下 ○ 15%以下 ○ 15%以下 ○ ・ JAS 1152 (集成材) 以外の化粧ばり造作用集成材： 施工箇所 樹種名 寸法 (mm) 化粧薄板の厚さ (mm) 見付け材面の品質 含水率 間伐材等の適用 化粧薄板： ☒ 15%以下 ○ 15%以下 ○ 15%以下 ○ 芯材： ☒ 15%以下 ○ 15%以下 ○ 15%以下 ○ 化粧薄板： ☒ 15%以下 ○ 15%以下 ○ 15%以下 ○ 芯材： ☒ 15%以下 ○ 15%以下 ○ 15%以下 ○		○ 3. 貼土瓦葺		
	○ 5. 造作用単板積層材 図	・ JAS 0701 に基づく造作用単板積層材： 施工箇所 品名 寸法 (mm) 表面の化粧加工 防虫処理の適用 間伐材等の適用 ○ 有り (加工 ○ 天然木加工 ○ 塗装加工) ○ する ○ しない ○ 無し (等級 ○ 1等、○ 2等、○ 3等) ○ する ○ しない ○ 有り (加工 ○ 天然木加工 ○ 塗装加工) ○ する ○ しない ○ 無し (等級 ○ 1等、○ 2等、○ 3等) ○ する ○ しない ・ JAS 0701 以外の造作用単板積層材： 施工箇所 寸法 (mm) 表面の化粧加工 含水率 防虫処理の適用 間伐材等の適用 ○ 有り (加工 ○ 天然木加工、○ 塗装加工) ☒ 14%以下 ○ する ○ しない ○ 無し () ○ する ○ しない ○ 有り (加工 ○ 天然木加工、○ 塗装加工) ☒ 14%以下 ○ する ○ しない ○ 無し () ○ する ○ しない ・ JAS 3079 に基づく直交集成板 図： 施工箇所 品名 曲げ性能 (強度等級) 種別 接着性能 (使用環境) 樹種 寸法 (mm) 間伐材等の適用 ○ する ○ しない ○ する ○ しない		○ 7. 接合具等		○ 4. とい
				○ 8. 防腐・防蟻処理		・ 工法： 建築基準法に基づき定まる風圧力の (○ 1、○ 1.15、○ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 耐雪性能に対応した工法の適用 ○ 適用する ○ 適用しない 折板のくれば納め ☒ ければ包みによる方法、○ ()
				○ 9. 不燃処理木材等		・ 材料：板及びコイルの種類 ☒ JIS G 3322の屋根用、○ () 塗膜の耐久性の種類、めつき付着量 ○ () ・ 断熱材張り ○ 行う (種別、厚さ (mm)、防火性能、時間) ○ 行わない
				○ 10. 内部間仕切軸組及び床組		・ 工法： 建築基準法に基づき定まる風圧力の (○ 1、○ 1.15、○ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 耐雪性能に対応した工法の適用 ○ 適用する ○ 適用しない 折板のくれば納め ☒ ければ包みによる方法、○ ()
				○ 11. 窓、出入口その他		・ 材料： 材種 ☒ 表13.5.2による (溶融亜鉛めっきを行ったもの)、○ () 形状 ☒ 表13.5.2による、○ () 取付け間隔 ☒ 表13.5.2による、○ () ・ 足金物： 材種 ☒ 表13.5.2による (溶融亜鉛めっきを行ったもの)、○ () 形状 ☒ 表13.5.2による、○ () 取付け間隔 ☒ 表13.5.2による、○ () ・ 多雪地域の場合の軒どいの取付け間隔： ☒ 0.5m以下、○ () ・ 防露材のホルムアルデヒド放散量： ☒ F☆☆☆☆、○ () ・ 銅板製といの防露巻き： ☒ 適用する (工法 ☒ 標準仕様書表13.5.4による、○ 適用しない) ・ ルーフドレン 種別 呼び 施工箇所 ●ろく屋根用 (○ 縦型、●横型) ☒ ねじ込み式 ○ 100A 屋上 ○ バルコニー用 ○ ねじ込み式 ○ 差し込み式 ○ バルコニー中継用 ○ ねじ込み式 ○ 差し込み式
				○ 12. 床板張り		・ 工法： 建築基準法に基づき定まる風圧力の (○ 1、○ 1.15、○ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 耐雪性能に対応した工法の適用 ○ 適用する ○ 適用しない 折板のくれば納め ☒ ければ包みによる方法、○ ()
				○ 13. 壁及び天井下地		・ 材料： 材種 ☒ 表13.5.2による (溶融亜鉛めっきを行ったもの)、○ () 形状 ☒ 表13.5.2による、○ () 取付け間隔 ☒ 表13.5.2による、○ () ・ 足金物： 材種 ☒ 表13.5.2による (溶融亜鉛めっきを行ったもの)、○ () 形状 ☒ 表13.5.2による、○ () 取付け間隔 ☒ 表13.5.2による、○ () ・ 多雪地域の場合の軒どいの取付け間隔： ☒ 0.5m以下、○ () ・ 防露材のホルムアルデヒド放散量： ☒ F☆☆☆☆、○ () ・ 銅板製といの防露巻き： ☒ 適用する (工法 ☒ 標準仕様書表13.5.4による、○ 適用しない) ・ ルーフドレン 種別 呼び 施工箇所 ●ろく屋根用 (○ 縦型、●横型) ☒ ねじ込み式 ○ 100A 屋上 ○ バルコニー用 ○ ねじ込み式 ○ 差し込み式 ○ バルコニー中継用 ○ ねじ込み式 ○ 差し込み式
						・ 工法： 建築基準法に基づき定まる風圧力の (○ 1、○ 1.15、○ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 耐雪性能に対応した工法の適用 ○ 適用する ○ 適用しない 折板のくれば納め ☒ ければ包みによる方法、○ ()
						・ 材料： 材種 ☒ 表13.5.2による (溶融亜鉛めっきを行ったもの)、○ () 形状 ☒ 表13.5.2による、○ () 取付け間隔 ☒ 表13.5.2による、○ () ・ 足金物： 材種 ☒ 表13.5.2による (溶融亜鉛めっきを行ったもの)、○ () 形状 ☒ 表13.5.2による、○ () 取付け間隔 ☒ 表13.5.2による、○ () ・ 多雪地域の場合の軒どいの取付け間隔： ☒ 0.5m以下、○ () ・ 防露材のホルムアルデヒド放散量： ☒ F☆☆☆☆、○ () ・ 銅板製といの防露巻き： ☒ 適用する (工法 ☒ 標準仕様書表13.5.4による、○ 適用しない) ・ ルーフドレン 種別 呼び 施工箇所 ●ろく屋根用 (○ 縦型、●横型) ☒ ねじ込み式 ○ 100A 屋上 ○ バルコニー用 ○ ねじ込み式 ○ 差し込み式 ○ バルコニー中継用 ○ ねじ込み式 ○ 差し込み式
						・ 工法： 建築基準法に基づき定まる風圧力の (○ 1、○ 1.15、○ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 耐雪性能に対応した工法の適用 ○ 適用する ○ 適用しない 折板のくれば納め ☒ ければ包みによる方法、○ ()
						・ 材料： 材種 ☒ 表13.5.2による (溶融亜鉛めっきを行ったもの)、○ () 形状 ☒ 表13.5.2による、○ () 取付け間隔 ☒ 表13.5.2による、○ () ・ 足金物： 材種 ☒ 表13.5.2による (溶融亜鉛めっきを行ったもの)、○ () 形状 ☒ 表13.5.2による、○ () 取付け間隔 ☒ 表13.5.2による、○ () ・ 多雪地域の場合の軒どいの取付け間隔： ☒ 0.5m以下、○ () ・ 防露材のホルムアルデヒド放散量： ☒ F☆☆☆☆、○ () ・ 銅板製といの防露巻き： ☒ 適用する (工法 ☒ 標準仕様書表13.5.4による、○ 適用しない) ・ ルーフドレン 種別 呼び 施工箇所 ●ろく屋根用 (○ 縦型、●横型) ☒ ねじ込み式 ○ 100A 屋上 ○ バルコニー用 ○ ねじ込み式 ○ 差し込み式 ○ バルコニー中継用 ○ ねじ込み式 ○ 差し込み式
						・ 工法： 建築基準法に基づき定まる風圧力の (○ 1、○ 1.15、○ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 耐雪性能に対応した工法の適用 ○ 適用する ○ 適用

[illegible]

20

ユニット及びその他の工事

○ 23. 流し台ユニット

ユニット分類

寸法(mm)

備考

○ 流し台	W ○ 1,200 ○ 1,500 ○ 1,800 ○	D ○ 550 ○ 600 ○ 650 ○	H ○ 800 ○ 850 ○	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製
○ コンロ台	○ 600	○ 550 ○ 600 ○ 650 ○	○ 620 ○ 670 ○	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製
○ つり戸棚	○ 1,200 ○ 900 ○	○ 450 ○	○ 500 ○ 700 ○	市販品
○ 水切り	○ 1,200 ○ 900 ○ 600	—	—	市販品 ステンレス製 ○ 1段式、○

・品質・性能 : JIS A 4420による
・形状 : ☒ 図示、○ ()

○ 24. 旗竿

材質

形式

高さ(mm)

操作方法

固定方法

備考

○ アルミニウム合金製	○ テーパー式 ○ 同一断面式		○ ハンドル式 ○ ロープ式	○ 埋込式 ○ ベース式 ○ バンド式	
-------------	--------------------	--	-------------------	---------------------------	--

○ 25. 旗竿受金物

○ 26. 車止め支柱

○ 27. フェンス

フェンスの種類

高さ

○ ビニル被覆エキスパンドフェンス、○ 樹脂塗装メッシュフェンス
○ 鋼管フェンス、○ アルミフェンス、○ ()
○ 図示、○ ()

○ 28. プレキャストコンクリート

・コンクリートの設計基準強度 :
☒ 水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m³を満足する調合強度
○ 図示
・配筋 :
☒ 配筋を定めた計算書を監督職員に提出する、○ 図示
・取付け方法 :
☒ 図示、○ ()

○ 29. 間知石及びコンクリート間知ブロック積み

材質

種類

質量区分

備考

○ 間知石	○ 花こう岩 ○ 凝灰岩	—	—
○ コンクリート間知ブロック	—	○ A ○ B	

・積み方 : ☒ 谷積み、○ 布積み
・目塗り : ○ 図示、○ ()
・伸縮調整目地 : 材質 ☒ 図示、○ ()
厚さ ☒ 図示、○ ()

○ 30. 鋼製書架及び物品棚

種類

規格等

JISによる種類

○ 鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	○ 1種、○ 2種、○ 3種
○ 鋼製物品棚		○ 4種、○ 5種、○ 6種、○

○ 31. 屋内掲示板

・枠の材質 : ☒ アルミニウム製、○ ()
・表面の材質 : ☒ 増白発泡シート張り、○ ()

○ 32. 洗面カウンター

○ 33. 防煙垂れ壁

固定式

材質

厚さ(mm)

高さ(mm)

備考

○ 網入り磨板ガラス	☒ 6.8	○ 500	アルミ製枠付き
○ 網入り磨板ガラス	○	○	

・可動式 :

種類	材質	高さ(mm)	備考
○ 垂直降下式 (巻取り型)	不燃性 (不燃認定品)	☒ 500 ○ 800	○ ガイドレール ☒ 固定式 (壁埋込型) ○ 可動式 (天井収納型)
○ 回転降下式	鋼板製又はアルミ製	☒ 500 ○ 800	○ 表面仕上げ ☒ 天井材張り

降下機構 : 煙感知器連動及び手動開放装置 (埋込型)

○ 34. 屋外掲示板

○ 35. 収納家具

・材質、形状、寸法 :
☒ 図示、○ ()
・合板類、MDF 及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量 :
☒ F☆☆☆☆、○ ()
・壁等に固定する家具 : ☒ 固定方法、寸法は家具表による、○ 下表による

家具名称	設置場所	固定方法	備考
		○ 壁固定 (図示) ○ 床固定 (図示)	
		○ 壁固定 (図示) ○ 床固定 (図示)	
		○ 壁固定 (図示) ○ 床固定 (図示)	
		○ 壁固定 (図示) ○ 床固定 (図示)	
		○ 壁固定 (図示) ○ 床固定 (図示)	

軽量鉄骨壁下地等への補強 ☒ 図示、○ ()
収納物の散乱防止措置 (ラッチ機構、ロック機構等) 調べる
地震力に対する安全性
設計用震度 : 性能
設計用水平震度 (K_h) : 設計用震度の地震による引抜き力に対して、固定金具に生じる応力度が所定の応力度内にあり、有害な残留ひずみが生じないものとする。
☒ 1.0
☒ 1.0
設計用鉛直震度 (K_v) : 設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。
☒ 0.5
○ : 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準 (製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む) が定める値とする。

21

排水工事

● 1. 屋外雨水排水

排水管用材料 :

材質	管の種類	形状	呼び径	備考
○ 遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管 (1種)	○ B形管	☒ 図示、○	
● 硬質ポリ塩化ビニル管	○ RF-VP [図] ○ RS-VU [図] ● VP ○ VU		☒ 図示、○ ☒ 図示、○ ☒ 図示、○ ☒ 図示、○	

・基礎の厚さ及び種類 : ☒ 図示、○ ()
・硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料 : ☒ 接着剤、○ ゴム輪
・側溝の形状及び寸法 : ☒ 図示、○ ()
・排水樹、ふたの種類 : ☒ 図示、○ ()
・砂地業に用いる材料 (6.4.2(2)) :
○ シルト、○ 山砂、○ 川砂、○ 砕砂
・砂利地業に用いる材料 (6.4.2(1)) :
○ 再生クラッシュラン [図]、○ 切込砂利、○ 切込砕石
・現場打ちの場合のコンクリート :
種類 ☒ 普通コンクリート、○ ()
設計基準強度 ☒ 18N/mm²、○ ()
スランブ ☒ 15cm又は18cm、○ ()
・現場打ちの場合の鉄筋 :
種類の記号 ☒ SD295A、○ ()
・排水樹が現場打ちの場合の足掛け物 :
材料 ☒ ステンレス製 (幅400mm、径22mm)
○ 防錆処理を行った鋼製 (径22mm)
○ 合成樹脂被覆加工されたもの (径19mm)
・凍上抑制層の厚さ : ☒ 図示、○ ()
・凍上抑制層に用いる材料 : ☒ (砂を用いる場合の砂の粒度試験 ○ 行う、○ 行わない)

○ 2. 鉄製鉄ふた

・鉄製製マンホールふた :

種類	適用荷重	鍵	備考
○ 水封形 簡易密閉形 (パッキン式) ○ 密閉形 (テーパー・パッキン式) ○ 中ふた付き密閉形 (テーパー・パッキン式)	○ T-2 用 ○ T-6 用 ○ T-20用	○ 有り ○ 無し	左記以外の品質等は (公社) 空気調和衛生工学会 SHASE-S209による

○ ()

○ 3. グレーテング

・鋼製 :

形式	用途	適用荷重	メインバーピッチ	垂鉛めっき (付着量)	上面形状
○ 受枠付き、ボルト固定	○ 溝ふた (横断用) ○ 溝ふた (側溝用) ○ 樹ふた用 ○ U 字溝用	○ 歩行用 ○ T-2 用 ○ T-6 用 ○ T-14用 ○ T-20用	○ 細目 ○	—	○ 凹凸形 ○

○ ()

・ステンレス製 :

形式	用途	適用荷重	メインバーピッチ	垂鉛めっき (付着量)	上面形状
○ 受枠付き、ボルト固定	○ 溝ふた (横断用) ○ 溝ふた (側溝用) ○ 樹ふた用 ○ U 字溝用	○ 歩行用 ○ T-2 用 ○ T-6 用 ○ T-14用 ○ T-20用	—	—	○ 凹凸形 ○ 平形 ○

(品質・性能及び試験方法) 建築材料等品質性能表による

● 4. 街きよ、緑石、側溝

・街きよ、緑石、側溝 :

種類	形状、寸法
● 緑石	☒ 図示、○
○ L 形側溝	☒ 図示、○
○ U 形側溝	☒ 図示、○
○ U 形側溝ふた	☒ 図示、○ ☒ 図示、○

・砂地業の材料 :
○ シルト、● 山砂、○ 川砂、○ 砕砂
・砂利地業に用いる材料 :
● 再生クラッシュラン [図]、○ 切込砂利、○ 切込砕石
・砂利地業の厚さ :
☒ 100 (mm)、○ 図示
・現場打ちの場合のコンクリート :
種類 ☒ 普通コンクリート、○ ()
設計基準強度 ☒ 18N/mm²、○ ()
スランブ ☒ 15cm又は18cm、○ ()
・現場打ちの場合の鉄筋 :
種類の記号 ☒ SD295A、○ ()
・凍上抑制層の厚さ : ☒ 図示、○ ()
・凍上抑制層に用いる材料 : ☒ (砂を用いる場合の砂の粒度試験 ○ 行う、○ 行わない)

● 5. 埋戻し土

・埋戻し土 : ☒ B種、○ ()

22

舗装工事

● 1. 路床

・路床の材料 :

種別	材料	厚さ(mm)
● 盛土	● A種、○ B種、○ C種、○ D種 ○ 建設汚泥から再生した処理土 [図]	● 図示 ○
○ 凍上抑制層	○ 再生クラッシュラン [図]、○ クラッシュラン ○ 切込み砂利 ○ 砂 (標準仕様書表21.2.2による)	○ 図示 ○
○ フィルター層	○ 砂 (標準仕様書表22.2.3(3)による)	○ 図示 ○

(凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験)
・行う
・行わない
・路床安定処理 :
安定処理の方法 : ○ 置き換え工法、○ 安定処理工法
路床安定化処理用添加材料 :
種類 ○ 普通ポルトランドセメント、○ 高炉セメントB種 [図]
○ フライアッシュセメントB種
○ 生石灰 (○ 特号、○ 1号)、○ 消石灰 (○ 特号、○ 1号)
○ 固化剤 (○ セメント系、○ 石灰系)
添加量 : kg/m³ (目標QGR ○ 3以上、○)
安定処理工法に関する試験 :
安定処理土のCBR試験 (配合試験含む) ○ 行う、○ 行わない
(安定処理のCBR試験、配合試験は「舗装調査・試験法便覧」(安定処理土のCBR試験方法 (JGS 0811準拠))、「舗装施工便覧」(5-1-4(1))による)
六価クロム溶出試験 ○ 行う、○ 行わない
・路床置換処理 :
置換厚 : ☒ 図示、○ ()
置換材料の種類、品質 : ☒ 図示、○ ()
・不織布 (ジオテキスタイル) :
単位面積質量 ○ 60g/m²以上、○ ()
厚さ(mm) ○ 0.5~1.0、○ ()
引張強さ ○ 98N/5cm (10kgf/5cm) 以上、○ ()
透水係数 ○ 1.5×10⁻¹cm/sec以上、○ ()
・試験 :
路床土の支持力比 (CBR) 試験 ○ 行う (箇所)、○ 行わない
現場CBR試験 (現場密度) ○ 行う (箇所)、○ 行わない
路床締固めの試験 ● 行う (1箇所)、○ 行わない

● 2. 路盤

・路盤の構成及び厚さ : ☒ 図示、○ ()
・路盤材料の種類 (標準仕様書表22.3.1による種別) :

砕石	○ クラッシュラン ○ 粒度調整砕石
再生材	● 再生クラッシュラン [図] ○ 再生粒度調整砕石 [図]
鉄鋼スラグ	○ クラッシュラン鉄鋼スラグ [図] ○ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ [図]

● 3. アスファルト舗装

・アスファルト舗装の構成及び厚さ : ☒ 図示、○ ()
・舗装の平坦性 : ☒ 通行の支障となる水たまりを生じない程度、○ ()
・材料 :
アスファルト ● 再生アスファルト [図]
(標準仕様書表22.4.1による種類 ● 60~80、○ 80~100)
○ ストレートアスファルト
○ 道路用砕石
● アスファルトコンクリート再生骨材 [図]
・加熱アスファルト混合物等の種類 (配合は標準仕様書表22.4.4による) :
● 密粒度アスファルト混合物 (13)
● 細粒度アスファルト混合物 (13)
○ 密粒度アスファルト混合物 (13F)
・試験 :
アスファルト混合物等の抽出試験 ○ 行う、● 行わない

○ 4. コンクリート舗装

・コンクリート舗装の構成及び厚さ :

舗装の種類	部位	構成	厚さ(mm)
コンクリート舗装	○ 車路、駐車場 ○ 歩行者用通路	☒ 図示、○ ☒ 図示、○	☒ 図示、○ ☒ 70、○

・舗装の平坦性 : ☒ 通行の支障となる水たまりを生じない程度、○ ()
・材料 :
コンクリート ☒ 普通コンクリートで標準仕様書表22.5.1による
○ 以下による
コンクリートの種類 ()
設計基準強度 (N/mm²) ()
所定スランブ (cm) ☒ 8、○ ()
粗骨材の最大寸法 (mm) ()
早強ポルトランドセメント ○ 使用する、○ 使用しない
注目地材料 ☒ 低弾性タイプ、○ 高弾性タイプ
アスファルト乳剤
目地 ☒ 標準仕様書 表22.5.3及び図22.5.1による
○ 以下による
種類 ()
間隔 (m程度ごと)
構造 ○ 図示による、○ ()

○ 5. カラー舗装

○ 加熱系カラー舗装
構成及び厚さ : ☒ 図示、○ ()
加熱系混合物結合材 ○ アスファルト混合物
○ 石油樹脂系混合物 (顔料添加量 %)
添加材 :
着色骨材 ()
自然石 ()
○ 常温系カラー舗装
工法 ○ ニート工法、○ 塗布工法
着色部の下部 ○ アスファルト舗装、○ コンクリート舗装
・舗装の平坦性 : ☒ 通行の支障となる水たまりを生じない程度、○ ()

22

舗装工事

○ 6. 透水性アスファルト舗装

・舗装の構成 : ☒ 図示、○ ()
・舗装の平坦性 : ☒ 著しい不陸がないもの、○ ()
・材料 : 骨材 ○ 道路用砕石
○ アスファルトコンクリート再生骨材 [図]
(標準仕様書表22.4.1による種類 ○ 60~80、○ 80~100)
・試験 : 開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ○ 行う、○ 行わない
砂の粒度試験 ○ 行う、○ 行わない
○ 透水性コンクリート舗装 : (22.5.2~4.6)
コンクリート舗装に対する基準値

項目	基準値
最大粒径 (mm)	13
空隙率 (%)	20以上
透水係数 (cm/s)	0.01以上
目地の間隔	版厚の20倍程度

構成、厚さはコンクリート舗装による
不織布 (ジオテキスタイル)
敷設位置 ☒ フィルター層と路床の間に敷設、○ 図示
○ 透水性コンクリート平板舗装舗装 (22.8.2、3)
透水性コンクリート平板舗装は、ブロック系舗装による
○ 透水性インターロッキングブロック舗装 (22.8.2、3)
透水性インターロッキングブロック舗装は、ブロック系舗装による

○ 7. 半たわみ性舗装

・試験 :
半たわみ性舗装用アスファルト混合物等の抽出試験 ○ 行う、○ 行わない
・材料 :
浸透用セメントミルクの標準的な性状

項目	性状	試験方法
フロー値 (プロート) 砂	10 ~ 14	舗装調査・試験法便覧 (C041)
圧縮強度 (7日養生) MPa	9.8 ~ 29.4	JIS R 5201
曲げ強度 (7日養生) MPa	2.0以上	舗装調査・試験法便覧 (C042)

・配合 :
半たわみ性舗装用アスファルト混合物の標準配合

ふりの呼び名	ふりの通過質量百分率 (%)
19 mm	100
13.2 mm	95 ~ 100
4.75 mm	10 ~ 35
2.36 mm	5 ~ 22
600 μm	4 ~ 15
300 μm	3 ~ 12
75 μm	1 ~ 6
アスファルト量 (%)	3.0 ~ 4.5

半たわみ性舗装用アスファルト混合物のマーシャル安定度試験に対する基準値

項目	基準値
密度 (g/cm ³)	1.90以上
安定度 (kN)	2.94以上
フロー値 (1/100cm)	20~40
空隙率 (%)	20~28
突き固め回数 (回)	50

・施工 :
アスファルト混合物等の施工は、標準仕様書22.4.5による。
浸透用セメントミルクの施工は、(1) から (5) による。
(1) 浸透用セメントミルクの製造は、一般に移動式ミキサによって行うが、工事規模が大きい場合には専用の移動式や固定式の混合プラントを用いることもある。
(2) 浸透用セメントミルクの施工は、一般に舗装体表面の温度が50℃程度以下になってから行う。その場合、舗装体にごみ、泥、水などが残っていないことを確認する。
(3) セメントミルクが舗装表面に残っていると、路面のすべり抵抗値を低下させることがあるので、舗装表面の骨材の凹凸が現れる程度にセメントミルクをゴムレーキ等で除去する。特にすべり止め対策を必要とするところは、珪砂の使用及び余剰セメントミルクのよりいっそうの除去を、材料や施工法等で対処するか、場合によっては施工後ショットブラスト等で表面を粗くすることが必要である。
(4) 交通開放までの一般的な養生期間は、下記に示すとおりである。

セメントミルクの種類	養生期間
普通タイプ	約3日
早強タイプ	約1日
超速硬化タイプ	約3時間

(5) 浸透用セメントミルクを注入する前に交通開放すると、骨材の剥奪や飛散、またはごみ/泥等による汚れが生じることがあるので、基本的に注入前に交通開放は行わないようにする。
締固め度 : 標準仕様書22.4.2(2)による
舗装厚さの許容差 : 標準仕様書22.4.2(3)による
舗装の平坦性 : 通行の支障となる水たまりを生じない程度

工事名	佐倉浄水場特高受電橋建築工事
図面名	建築工事特記仕様書 (7) R7.11
作成年月日	令和8年度
縮尺	— 図面番号 A-8
会社名	
事業者名	千葉県企業局工業用水部

章

項目

特記事項

22

舗装工事

○ 8. 弾性舗装

・弾性舗装（歩行者用通路）の構成及び厚さ：○ 図示、○（

区分	種類	厚さ(mm)
表層	弾性塗装材	15～20
基層	再生密粒度アスファルト混合物(13)	30

加熱アスファルト混合物は、アスファルト舗装による

○ 9. ブロック系舗装

○ コンクリート平板舗装 図示、○（

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	表面加工	備考
○ 普通平板(N)	○ 300角	○ 60	○ 砂	○ 研ぎ出し	
○ 透水性平板(P)	○ 300角	○ 60	○ 砂	○ 洗い出し	
○ 保水性平板(M)	○ 300角	○ 60	○ モルタル	○ たたき出し	

クッション材 ○ 砂、○ 空練りモルタル
普通平板 ○ 再生材料を用いた舗装用ブロック 図示
透水性平板 ○ 透水性コンクリート 図示
仕上り面の平坦ん性 ○ 歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内とする

○ インターロッキングブロック舗装 図示、○（

種類	部位	厚さ(mm)	形状寸法	横断面勾配	曲げ強度(N/mm ²)	備考
○ 普通ブロック(N)	車路、駐車場	○ 80	○ 図示	2%	5.0以上	表面加工
○ 透水性ブロック(P)	車路、駐車場	○ 80	○ 図示	2%	5.0以上	表面加工
○ 保水性ブロック(M)	歩行者用通路	○ 60	○ 図示	1.5～2%	3.0以上	表面加工

クッション材 ○ 砂、○ 空練りモルタル
歩行者用通路に使用する普通ブロック ○ 再生材料を用いた舗装用ブロック 図示
透水性ブロック ○ 透水性コンクリート 図示
舗装の割付（車路、駐車場）○ ヘリンボンポンド(45°）、○ ヘリンボンポンド(90°）
仕上り面の平坦ん性 ○ 走行、歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm以内とする

区分	部位	厚さ(mm)	種類
敷砂層	○ 車路、駐車場	20	砂
	○ 歩行者用通路	30	
フィルター層		100	川砂、海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過量6%以下)

○ 舗石舗装（歩行者用通路）
構成および厚さ 図示、○（

種類	形状・寸法(mm)	厚さ(mm)	張り方	基層	基層の厚さ(mm)
○ 花崗岩	○ 割石 図示	○ 図示	○ うちこ張り	○ コンクリート版	○ 70、○ 50、○
○ 花崗岩	○ 割石 図示	○ 図示	○ うちこ張り	○ アスファルト混合物	○ 50、○

クッション材 ○ 砂、○ 空練りモルタル
仕上り面の平坦ん性 ○ 歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm以内とする

○ 10. 砂利敷き

○ 11. 路面標示用塗料

JIS K 5665（路面標示用塗料）による

種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)	備考
○ 3種1号	熔融	粉体状	○ 白	○ 150	○ 1.0	
○ 1種 図示	常温	液状	○ 白	○ 100	○	
○ 2種 図示	加熱	液状	○ 白	○ 100	○	

低揮発性有機溶剤製の路面標示用水性塗料 図示

章

項目

特記事項

23

植栽及び屋上緑化工事

○ 1. 植栽地の確認等

・土壌の水素イオン濃度 (pH) 試験：○ 行う、○ 行わない
・電気伝導度 (EC) の試験：○ 行う、○ 行わない

○ 2. 植栽基盤の整備

樹木の植栽基盤の整備（○ 適用する ○ 適用しない）

植栽	工法	有効土層の厚さ (cm)	整備範囲	土壌改良材
○ 樹木	○ A種 ○ B種 ○ C種 ○ D種	樹高12m以上 ○ 100、○ 120、○ 150) 樹高7m以上～12m未満 (○ 80、○ 100) 樹高3m以上～7m未満 (○ 60、○ 80) 樹高3m未満 (○ 50、○ 60)	○ 葉張り部分 ○ 植栽部分 ○ 図示	○ 適用する ○ 適用しない
○ 芝、地被類	○ B種 ○	○ 30	○ 植栽部分 ○ 図示 ○	○ 適用する ○ 適用しない

植栽基盤の排水設備（○ 設ける（○ 図示 ○）○ 設けない）
・植込み用土：○ 現場発生土の良質土、○ 客土
・土壌改良材：
パーク堆肥 図示
施工箇所 ○ 植栽範囲、○ 図示
使用量 植栽基盤面積1㎡あたり（○ 50L、○）
汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト） 図示
施工箇所 ○ 植栽範囲、○ 図示
使用量 植栽基盤面積1㎡あたり（○ 10L、○）
材料
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第1の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする

○ 3. 樹木

○ 4. 支柱

○ 5. 幹巻き用材料

○ 6. 芝

○ 7. 吹付けは種

○ 8. 地被類

○ 9. 新植、芝等の枯補償、移植樹木の枯損処置

○ 10. 屋上緑化 図示

・植栽基盤及び材料：
○ 屋上緑化システム
土壌層の厚さ ○ 図示、○（
排水層 ○ 改良土、○ 人工軽量土
植込み用土 ○ 改良土、○ 人工軽量土
樹木、芝及び地被類の樹種並びに種類、寸法、株立数等 ○ 図示、○（
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ○ 図示、○（
（品質・性能及び試験方法） 建築材料等品質性能表による
○ 屋上緑化軽量システム
樹木、芝及び地被類の樹種並びに種類、寸法、株立数等 ○ 図示、○（
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ○ 図示、○（
（品質・性能及び試験方法） 建築材料等品質性能表による
・工法：
建築基準法に基づき定まる風圧力の（○ 1、○ 1.15、○ 1.3）倍の風圧力に対応した工法
支柱 ○ 設置する（形式 ○ 図示、○
かん水装置 ○ 設置する（種類 ○ 図示、○

章

項目

特記事項

別記1

建設副産物の処理

1. 共通事項
1) 「千葉県建設リサイクル推進計画2016ガイドライン」に基づき、本工事に係る「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を建設副産物情報交換システム（コプリス・プラス）により作成し、施工計画書に含め、各1部提出すること。
また、計画の実施状況（実績）については、「再生資源利用実施書」、「再生資源利用促進実施書」及び「建設副産物情報交換システム登録証明書」を同システムにより作成し、各1部提出するとともに、これらの記録を工事完成後1年間保存しておくこと。
・作成対象工事
「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」は請負金額が、「再生資源利用実施書」、「再生資源利用促進実施書」及び「建設副産物情報交換システム工事登録証明書」は最終請負金額が100万円以上の全ての工事について建設資材の利用、建設副産物の発生・搬出の有無にかかわらず作成する。
2) 「建設副産物の処理基準及び再生資材の利用基準」に基づき、建設副産物の処理に先立ち「建設副産物処理承認申請書」を作成し、監督職員の確認を受け、同申請書を1部提出すること。なお、建設廃棄物の処理を委託する場合は、収集運搬又は処分について許可業者と各々建設廃棄物処理契約書を締結し、「建設廃棄物処理委託契約書」を監督職員に提出するとともに、同契約書の写しを同申請書に添付すること。
建設副産物の処理完了後速やかに、「建設副産物処理調査」を作成し、1部提出するとともに、実際に要した処理費等を証明する資料（受入伝票、写真等）を監督職員に提出し確認を受けること。
3) 建設廃棄物の処理に当たって、産業廃棄物管理票制度に基づく紙マニフェスト方式による場合は、原則として様式伝票のD票及びE票を提示すること。
また、電子マニフェスト方式による場合は、原則として廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき指定された情報処理センターが発行する当該工事のマニフェスト情報を提示すること。
4) 以下の項目の数量については、積算のための参考数量を示す。

2. 建設発生土
● 工事開流用の場合
本工事により発生する建設発生土のうち、下記に示す建設発生土については、工事開流用を図るものとし、下記指定地に搬出すること。
搬出先（粗手先工事名、場所等） 佐倉浄水場内別発注工事
土質及び処理量 約150 m³
搬出時期
なお、搬出手続き等は監督職員の指示によること。
○ 指定(A)（その他）の場合
建設発生土（ m³）は、（ ）地先に搬出するものとする。
なお、詳細については監督職員の指示によること。
○ 指定(B)の場合
建設発生土（ m³）は、（ ）地先に搬出するものとする。

1) 上記、指定(A)及び指定(B)については、「建設副産物の処理基準及び再生資材の利用基準」による。
2) 建設発生土を搬出又は搬入する場合は「建設発生土管理基準」に基づき「建設発生土の管理調査」を作成・保管する。
3) 建設発生土に係る留意事項
・利用先の確保
他の工事現場での利用を促進するため、ストックヤード、土質改良プラント及び「建設発生土情報交換システム（コプリス・プラス）」を積極的に活用し、利用先の確保に努める。
・中間処理施設の選定
中間処理施設の選定に当たっては、利用先の品質要件にあう発生処理土を確保するため、他の残土と混ざらないようにいかに再生処理できるかが大きな要素となる。このため、経済性を含めて、総合的に判断する必要がある。
また、リサイクル原則化ルールに基づき、「建設副産物情報交換システム（コプリス・プラス）」の登録処理業者を活用して、50km範囲で検索する。
・品質・安全性の確保
処理土の品質・安全性を確認するため、土質試験、土壌分析試験などを行う。
・一時保管
利用先との工程調整のため一時保管する場合には廃棄物処理法等の手続きが必要となるので注意する。

3. 路盤廃材

	数量	搬出先	片道運搬距離	処分方法	備考
● 路盤廃材	55.0 t	佐倉市 岩富地先	8.9 km	○ 中間処理場 ○ 最終処分場	

4. 建設廃棄物等

	数量	搬出先	片道運搬距離	処分方法	備考
● コンクリート塊（無筋）	2.9 t	佐倉市 岩富地先	8.9 km	○ 中間処理場 ○ 最終処分場	
● コンクリート塊（有筋）	81.4 t	佐倉市 岩富地先	8.9 km	○ 中間処理場 ○ 最終処分場	
● アスファルト廃材	133 t	佐倉市 岩富地先	8.9 km	○ 中間処理場 ○ 最終処分場	
● 廃プラスチック	0.3 m ³	佐倉市 岩富地先	8.9 km	○ 中間処理場 ○ 最終処分場	
● 金属くず	0.1 m ³	佐倉市 岩富地先	8.9 km	○ 中間処理場 ○ 最終処分場	
● 内装材類	0.1 m ³	佐倉市 岩富地先	8.9 km	○ 中間処理場 ○ 最終処分場	
● ガラス	0.1 m ³	佐倉市 岩富地先	8.9 km	○ 中間処理場 ○ 最終処分場	
● 木くず	0.2 m ³	佐倉市 岩富地先	8.9 km	○ 中間処理場 ○ 最終処分場	
● カッター汚泥	0.1 m ³	佐倉市 岩富地先	8.9 km	○ 中間処理場 ○ 最終処分場	
● 石綿含有産業廃棄物	0.3 m ³	四街道市 長岡地先	7.4 km	○ 中間処理場 ● 最終処分場	
● スクラップ控除	8.1 t		km	○ 有価物処理	鉄（H1）
● スクラップ控除	1.7 t		km	○ 有価物処理	鉄（H3）
● スクラップ控除	0.3 t		km	○ 有価物処理	鉄（H4）
● スクラップ控除	41.7 kg		km	○ 有価物処理	1号銅線
● スクラップ控除	14.9 kg		km	○ 有価物処理	2号銅線

工事発注後、事情により上記の指定処理により難しい場合は、監督職員と協議するものとする。
なお、運搬に先立ち受け入れ条件等を確認し、監督職員に報告するものとする。

章

項目

特記事項

別記2

工事区分

工事内容		施工区分
開口部	はり、床、壁貫通部	鉄筋補強 ○ ○ ○ 鉄筋補強 ○ ○ ○ 鉄筋補強 ○ ○ ○ スリープ、型枠埋め ○ ○ ○ スリープ、型枠埋め ○ ○ ○ 軽量鉄骨下地天井、壁ボード類の切込み ○ ○ ○ スリープ穴埋め、型枠穴埋め ○ ○ ○ 鉄骨、PC板等への穴開け、補強、スリープ入れ（工場加工） ○ ○ ○
基礎	屋内 配電盤、制御盤、発電機、キュービクル、受水槽、サービスタック	躯体と一体のもの ○ ○ ○ 上記以外 ○ ○ ○
	屋外 配電盤、制御盤、キュービクル、受水槽、消火水槽	鉄筋基礎 ○ ○ ○ 無筋基礎 ○ ○ ○
	屋上 テレビアンテナ、避雷針、高架水槽、クーリングタワー、消化栓補給水槽	躯体と一体のもの ○ ○ ○ 上記以外 ○ ○ ○
接続口	架台、アンカーボルト	○ ○ ○
	床、天井	○ ○ ○
	配線ビッド、トレンチビッド	○ ○ ○
	その他	○ ○ ○
配管配線	機器付属の制御盤（接地とも）	一次側 ○ ○ ○ 二次側 ○ ○ ○ 電源供給 ○ ○ ○ 操作 配管 ○ ○ ○ 回路 配線（ ） ○ ○ ○
	制御盤と動力盤の間（接地とも）	電源供給 ○ ○ ○ 操作 配管 ○ ○ ○ 回路 配線（ ） ○ ○ ○
	天井吊り型FOU及び全熱交換形換気扇（接地とも）	○ ○ ○ ○ ○ ○
	煙感知器から運動制御盤を経て防火ダンパーに至る配線配管	○ ○ ○ ○ ○ ○
	防油堤	○ ○ ○
	インサート、吊りボルト（設備機器、器具、背反、ダクト用）	○ ○ ○
	インサート、吊りボルト（天井）	○ ○ ○
	換気扇枠	○ ○ ○
	外部取り付けガラリ（ダクト、チャンバー接続用フランジを含む）	○ ○ ○
		○ ○ ○
		○ ○ ○
		○ ○ ○
		○ ○ ○

工事名

佐倉浄水場特高受変電線建築工事

図面名

建築工事特記仕様書（8） R7.11

作成年月日

令和8年度

縮尺

-

図面番号

A-9

会社名

事業者名

千葉県企業局工業用水部

章	項目	特記	品質・性能、試験方法																																																				
9	1	乾式保護材	・乾式保護材：窯業系パネル、無石棉の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレープ養生したものの金属合板、金属板と樹脂を積層一体化したもの ・品質・性能： <table><tr><th>分類・規格</th><th>窯業系パネルⅠ類 (耐衝撃性に優れ、また寒冷地仕様)</th><th>窯業系パネルⅡ類 (一般地仕様)</th><th>金属複合板</th></tr><tr><td>寸法の許容差</td><td>厚さ+10%、-5%、幅±1%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>外観</td><td>割れ、貫通、き裂がない。欠け、ねじれ、そり、異物の混入、汚れ、はく離など使用上支障がない。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>含水率</td><td>—</td><td></td><td></td></tr><tr><td>曲げ強さ・曲げモーメント(N・cm)</td><td>標準時凍結融解完了時(試験サイクル数)</td><td>550N・cm以上</td><td>450N・cm以上</td></tr><tr><td>単位幅1cmあたりの曲げモーメント</td><td>400N・cm以上(300)</td><td>320N・cm以上(200)</td><td>250N・cm以上(300)</td></tr><tr><td>吸水率(%)</td><td>20以下</td><td>20以下</td><td>1以下</td></tr><tr><td>吸水による長さ変化率(%)</td><td>0.07以下</td><td>0.07以下</td><td>0.01以下</td></tr><tr><td>難燃性</td><td>不燃</td><td>不燃</td><td>表面材は不燃</td></tr><tr><td>耐凍結融解性能</td><td>300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。</td><td>300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。</td><td>300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。(明らかに吸水しないと認められるものは耐凍結融解試験を省略できる。)</td></tr><tr><td>耐摩擦性能</td><td>質量1,000gのなす形おもりを高さ1.0mから試験体の隅点部に落とすとき、表面に達する穴があかないこと。</td><td>質量500gのなす形おもりを高さ1.0mから試験体の隅点部に落とすとき、表面に達する穴があかないこと。</td><td>質量500gのなす形おもりを高さ1.0mから試験体の隅点部に落とすとき、表面に達する穴があかないこと。残留変形量1/100以下</td></tr><tr><td>剛性(E×I)</td><td>(スパン40cm幅30cmの中央曲げ時に荷重720Nの時、たわみ4mm以下となる剛性)</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>80,000N・cm²以上</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ・試験方法： 1) 寸法の測定方法 厚さ 供試体の周辺から20mm以上内側の四隅を0.05mmまで測定できる測定器で測り、4点の平均値を求めたパネルの厚さとする。 幅 供試体を平らな台に置き、供試体のほぼ中央1箇所幅寸法を、JIS B 7512「鋼製巻尺」に規定する目量で1mmの1級直尺を用いて測定する。 2) 曲げ強度試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」による。試験体は3号試験体とする。幅及び厚さは製品寸法とし、支持スパン長さは400mmとする。試験方法は試験体の表面からスパン中央幅に集中荷重を載荷し、試験体が破壊した時の最大荷重を測定する。同時に破壊時の中央部のたわみ量について、変位計を用いて測定する。測定項目については、凍結融解試験前と、同試験100、200、300サイクル完了後の合計4項目に亘って測定する。(窯業系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。) なお、荷重を加える時の平均速度は、1～3分間で予想最大荷重に達する程度とする。 3) 吸水率試験は、JIS A 5430「繊維強化セメント板」に準じて行う。 4) 難燃性試験は、JIS A 1321「建築物の内装材料及び工法の難燃性試験方法」に準じて行う。 5) 吸水による長さ変化率試験は、試験体(幅40mm×長さ160mm×素材厚さ)を乾燥機に入れ、その温度を60±3℃に保ち24時間経過した後取り出してJIS K 8123「塩化カルシウム(試薬)」に規定する塩化カルシウム又はJIS K 1464「工業用乾燥機」に規定する品質に適合するシリカゲルで調湿したデシケータに入れ、常温まで冷却する。次に、試験片の標線間隔が140mmになるように標線を刻む。 その後、1/150mm以上の精度をもつコンパレータを用いて標線間の長さを測定し、それを基準(L1)とする。次に試験片の長さ方向を水平にこは立てし、その上端が水平下約30mmとなるように保持して、常温の水に浸せきする。 24時間経過した後、試験片を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り、再び標線間の長さ(L2)を測る。 吸水による長さ変化率(ΔL)は、次式によって求める。 (ΔL) = (L2 - L1) / L1 × 100 ΔL 吸水による長さ変化率(%)、L1 乾燥時の標線間の長さ(mm)、L2 吸水時の標線間の長さ(mm) 6) 耐凍結融解性能試験は、JIS A 5422「窯業系サイディング」の気中凍結水中融解法によって行う。 100、200、300各サイクル完了時の曲げ強度測定及び外観の状態を観察する。(窯業系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。) 凍結融解操作の試験条件は、試験片の切断小口面をあらかじめシールし、5～35℃の清水中に24時間浸せきさせた後、凍結融解試験装置の槽内に設置し、-20±3℃の気中で約2時間の凍結、20±3℃の水中で約1時間の融解を行う約3時間を1サイクルとする。 7) 耐衝撃性能試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃性試験に準じて行う。 試験体の支持装置は、記号S2対 辺単端支持方法による。 試験体の大きさは、4号(長さ400mm、幅300mm)とする。おもりは、鋼製のなす形おもり又は球形おもりとし、記号(W-1000)、質量1,000gとする。試験体を支持装置で支持して、堅固な床に水平に置き、おもりを試験体のほぼ中央の鉛直上1.0mから試験体の隅点部に自然落下させ、表面に達する穴の「有・無」を確認する。金属複合板の残留変形量は、最大くぼみ深さを測定する。	分類・規格	窯業系パネルⅠ類 (耐衝撃性に優れ、また寒冷地仕様)	窯業系パネルⅡ類 (一般地仕様)	金属複合板	寸法の許容差	厚さ+10%、-5%、幅±1%			外観	割れ、貫通、き裂がない。欠け、ねじれ、そり、異物の混入、汚れ、はく離など使用上支障がない。			含水率	—			曲げ強さ・曲げモーメント(N・cm)	標準時凍結融解完了時(試験サイクル数)	550N・cm以上	450N・cm以上	単位幅1cmあたりの曲げモーメント	400N・cm以上(300)	320N・cm以上(200)	250N・cm以上(300)	吸水率(%)	20以下	20以下	1以下	吸水による長さ変化率(%)	0.07以下	0.07以下	0.01以下	難燃性	不燃	不燃	表面材は不燃	耐凍結融解性能	300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。	300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。	300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。(明らかに吸水しないと認められるものは耐凍結融解試験を省略できる。)	耐摩擦性能	質量1,000gのなす形おもりを高さ1.0mから試験体の隅点部に落とすとき、表面に達する穴があかないこと。	質量500gのなす形おもりを高さ1.0mから試験体の隅点部に落とすとき、表面に達する穴があかないこと。	質量500gのなす形おもりを高さ1.0mから試験体の隅点部に落とすとき、表面に達する穴があかないこと。残留変形量1/100以下	剛性(E×I)	(スパン40cm幅30cmの中央曲げ時に荷重720Nの時、たわみ4mm以下となる剛性)	—	—	80,000N・cm ² 以上			
分類・規格	窯業系パネルⅠ類 (耐衝撃性に優れ、また寒冷地仕様)	窯業系パネルⅡ類 (一般地仕様)	金属複合板																																																				
寸法の許容差	厚さ+10%、-5%、幅±1%																																																						
外観	割れ、貫通、き裂がない。欠け、ねじれ、そり、異物の混入、汚れ、はく離など使用上支障がない。																																																						
含水率	—																																																						
曲げ強さ・曲げモーメント(N・cm)	標準時凍結融解完了時(試験サイクル数)	550N・cm以上	450N・cm以上																																																				
単位幅1cmあたりの曲げモーメント	400N・cm以上(300)	320N・cm以上(200)	250N・cm以上(300)																																																				
吸水率(%)	20以下	20以下	1以下																																																				
吸水による長さ変化率(%)	0.07以下	0.07以下	0.01以下																																																				
難燃性	不燃	不燃	表面材は不燃																																																				
耐凍結融解性能	300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。	300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。	300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。(明らかに吸水しないと認められるものは耐凍結融解試験を省略できる。)																																																				
耐摩擦性能	質量1,000gのなす形おもりを高さ1.0mから試験体の隅点部に落とすとき、表面に達する穴があかないこと。	質量500gのなす形おもりを高さ1.0mから試験体の隅点部に落とすとき、表面に達する穴があかないこと。	質量500gのなす形おもりを高さ1.0mから試験体の隅点部に落とすとき、表面に達する穴があかないこと。残留変形量1/100以下																																																				
剛性(E×I)	(スパン40cm幅30cmの中央曲げ時に荷重720Nの時、たわみ4mm以下となる剛性)	—	—																																																				
80,000N・cm ² 以上																																																							

項目		特記	品質・性能、試験方法										
11	2	既調合モルタルによるタイル張り	・既調合モルタル： モルタルを下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。										
			・品質・性能： <table><tr><th>項目</th><th>品質・性能</th></tr><tr><td>保水率</td><td>70.0 %以上</td></tr><tr><td>単位容積質量</td><td>1.80 kg/L以上</td></tr><tr><td>接着強さ</td><td>標準時 0.60 N/mm²以上 温冷繰り返し後 0.40 N/mm²以上</td></tr><tr><td>長さ変化率</td><td>0.20 %以下</td></tr><tr><td>曲げ強さ</td><td>4.0 N/mm²以上</td></tr></table> ・試験方法： 1) 試料の調整 製造業者の定める、正味質量と標準繰り上がり量より換算して、所定量の試料を繰り上げるのに要する材料と繰り混ぜ水を計算して用意する。繰り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する繰り混ぜ機を使用し、繰りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間繰り混ぜて試料とする。 2) 保水率の試験方法 JIS R 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P 3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径11cm）をのせ、その中央部に真鍮製リング型わく（内径30mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、1)で調整した試料を金べらで平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がり最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さsをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率 = 50 / 平均値×100 （注） 50 リング型わくの内径（mm） 3) 単位容積質量の試験方法 JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。 4) 接着強さ（標準時）の試験方法 イ) 適用タイルが「モザイクタイル」の場合 （試験体の作製） JIS A 5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B(規定)のうちの推奨仕様B-1 規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに1)で調整した試料を厚さ5mmになるように塗付けする。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレキャスト型わく（内径50mmの150角ユニットタイル（外寸のみ寸法約 300mm×300mm））を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿潤養生を行い、これを試験体とする。 （試験方法） JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。 また、試験後の部材破断位置の表示を下記のものの中から選び明記する。 T タイルの母材破断 TM 既調合モルタルとタイルの界面破断 M 既調合モルタルの母材破断 MG 既調合モルタルと下地板の界面破断 G 下地板の母材破断 （なお、標準時の接着強さは、抜き取った試験片5箇所とも全て0.6N/mm ² 以上を確保していること。） ロ) 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合 （試験体の作製） JIS A 5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B(規定)のうちの推奨仕様B-1 規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに1)で調整した試料を厚さ7mmになるように塗付けする。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形のI類（施す）「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2丁、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿潤養生を行い、これを試験体とする。 （試験方法） 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。 5) 接着強さ（温冷繰り返し）の試験方法 （試験体の作製） 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々「4)接着強さ（標準時）の試験方法」の「試験体」と同様とする。 （温冷繰り返し試験） 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A 6909に規定する「建築用仕上塗材」に規定する7.11温冷繰り返し試験に準じて行う。試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに-20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間による1サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び崩れの有無を目視によって調べる。 （温冷繰り返し後の接着強さ試験方法） 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰り返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。 なお、温冷繰り返し後の接着強さは、抜き取った試験片5か所とも全て0.4N/mm ² 以上を確保していること。 6) 長さ変化率の試験方法 JIS A 6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂」9.9 長さ変化率に準ずる。 7) 曲げ強さの試験方法 JIS A 6916「建築用下地調整塗材」の7.11 曲げ強さ試験に準ずる。 （試験室の状態 試験室は、温度20±2℃、湿度65±10%とする。）	項目	品質・性能	保水率	70.0 %以上	単位容積質量	1.80 kg/L以上	接着強さ	標準時 0.60 N/mm ² 以上 温冷繰り返し後 0.40 N/mm ² 以上	長さ変化率	0.20 %以下
項目	品質・性能												
保水率	70.0 %以上												
単位容積質量	1.80 kg/L以上												
接着強さ	標準時 0.60 N/mm ² 以上 温冷繰り返し後 0.40 N/mm ² 以上												
長さ変化率	0.20 %以下												
曲げ強さ	4.0 N/mm ² 以上												
		既調合目地材	・品質・性能： <table><tr><th>項目</th><th>品質・性能</th></tr><tr><td>保水率</td><td>30.0 %以上</td></tr><tr><td>単位容積質量</td><td>1.80 kg/L以上</td></tr><tr><td>長さ変化率</td><td>0.20 %以下（収縮）</td></tr><tr><td>吸水量</td><td>50 g以下</td></tr></table> ・試験方法： 1) 試験の条件 試験室は、温度20±2℃、湿度65±5% RHの標準状態とする。また、試験に使用する材料、器具などを、予め24時間以上標準状態に置いた後使用する。 2) 試料の調整 正味質量と標準繰り上がり量より、1.0～1.2Lの試料を繰り上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準加水量より用意した材料に相当する量の繰り混ぜ水を計算して用意する。繰り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」11.2に規定する繰り混ぜ機を使用し、繰りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し3分間繰り混ぜて試料とする。 3) 保水性（ろ紙法） JIS R 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦200mm、横200mm、厚さ5mm）の上にJIS P 3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径18.5cm）をのせ、その中央部に真鍮製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、2)で繰り混ぜた試料を金べらで平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。10分後にろ紙へにじみ出した水分の広がり最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さsをノギスを用いて1mmまで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率(%) = 50 / 平均値×100 （注） 50 リング型わくの内径（mm） 4) 単位容積質量 2)で繰り混ぜた試料を、JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の6.4に規定する方法で求める。 5) 長さ変化率 2)で調整した試料を用いてJIS A 1171の7.8長さ変化率試験に従って行う。 6) 吸水量 2)で調整した試料を用いてJIS A 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」7.5に規定する方法で24時間の吸水量を求める。試験体数は3個とし、その平均値とする。	項目	品質・性能	保水率	30.0 %以上	単位容積質量	1.80 kg/L以上	長さ変化率	0.20 %以下（収縮）	吸水量	50 g以下
項目	品質・性能												
保水率	30.0 %以上												
単位容積質量	1.80 kg/L以上												
長さ変化率	0.20 %以下（収縮）												
吸水量	50 g以下												

特記事項		品質・性能、試験方法	
15	1 左官工事	防水剤	・品質・性能： 項目 防水剤の種類 混合割合 凝結及び安定性 曲げ及び圧縮強度比 吸水比 透水比 試験方法： JIS A 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」による。ただし、透水試験における水圧は、 3.0×10^5 Paとし1時間行う。
			品質・性能 建築用のモルタルに用いるセメント防水剤 セメント重量の5%以下 凝結時間 始発：1時間以上 終結：10時間以内 安定性 収縮性、膨張性のひび割れ及びそりがない 防水剤を混入したもの、しないもの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上 防水剤を混入したもの、しないものの吸水比 95%以下 防水剤を混入したもの、しないものの透水比 80%以下
16	11 建具工事	錠前類 (シリンドラ箱錠及びシリンドラ本締め錠)	・品質： デッドボルトの出寸法は17mm以上とする。 鍵付きのものはマスターキー、グランドマスターキー、コンストラクションキーなどのキーシステムが構築できるものとする。
			・性能： 使用頻度による性能 外力に対する性能 使用扉の質量に対する性能(シリンドラ箱錠のみ) 鍵違い ・試験方法： JIS A 1541-1「建築金物-錠-第1部：試験方法」による。
クロノゾーザ類			・品質・性能： 性能試験項目 初期値 区分 閉じ速度(秒) 温度依存性(℃) ストッパー バックチェック性能(秒)(バックチェック機能を有する機種のみ適用) ディレードアクション性能(秒) ディレードアクション解除角度(60°～75°) (ディレードアクション機能を有する機種のみ適用) 戸の開閉位置(中心吊り込み両自由のみに適用) 線返し開閉後の閉じモーメント(N・m) 線返し開閉後の効力 線返し開閉後の閉じ速度(秒) 線返し開閉後のバックチェック性能(秒) 線返し開閉後のディレードアクション性能(秒) 線返し開閉後の戸閉鎖位置(mm) 耐久性的試験回数(繰り返し開閉回数) Grade1を選定する場合は、図示による。 注1) バラレル取付けは、右記の閉じモーメントの70%程度までとする。 注2) コンシールド型は右記の閉じモーメントの50%程度までとする。
			区分 ドアクローザ ヒンジクローザ フロアヒンジ 番号 1 2 3 4 5 6 常温(5～35℃)無風状態において、開扉(70°)から全開(0°)までの時間を5～8秒に調整すること。 揮発油の流動点は、JIS K 2269(原油及び石油製品の流動点並びに石油製品量り点試験方法)により測定し、-15℃以下であること。 60 N・m以下 但しコンシールド型は 200 N・m以下 8 N・m以上 20 N・m以上 2

章	項目	特記	品質・性能、試験方法						
16	14	自閉式上吊り引戸装置	・試験方法： (1) 耐久性（開閉繰り返し）試験 JIS A 5545(2011)「サッシ用金物」の7.1(戸車の試験)開閉繰り返しに準じる。ただし、閉については、外力によらず、試験体の自閉制装置及び御装置のみにより扉を開端位置から閉端位置までの作動を確認できる試験を行う。 1) 同試験に用いる試験体は片引戸とし、開口内法有効高さ2,000mm、幅は最大寸法とする。 2) 適用戸総質量の区分毎に試験を行う。自閉装置、制御装置は10万回以上の時点で1回の目調整を行えるものとする。 3) その他の制御装置については、メーカーの耐久性能試験成績書において2万回以上の耐久性能を確認できるものとする。 (2) 耐衝撃性試験 JIS A 1518(1996)「ドアセットの砂袋による耐衝撃性試験方法」に準じ、重量30kgの砂袋を用い落下高さ17cmで、ドアの中央部にドアが外れる方向に衝撃を与える。耐衝撃性試験に用いる試験体は片引戸、開口内法有効寸法は高さ2,000mm、幅900mmとする。適用戸総質量の区分毎に試験を行う。 (3) 気密性能試験 JIS A 1516「建具の気密性試験方法」による。						
19	13	現場発泡断熱材	・品質・性能： <table><tr><th>項目</th><th>品質・性能</th></tr><tr><td>吹付け硬質ウレタンフォーム密度 (kg/m³)</td><td>JIS A 9526 によるA種またはA種IH 25 以上 次のいずれかによること。 1) 難燃2級又は難燃3級 2) 準不燃相当品又は難燃材料相当品</td></tr><tr><td>難燃性</td><td></td></tr></table> ・試験方法： 1) 原液試験（原液粘度試験） JIS A 9526「6.1吹付け硬質ウレタンフォーム原液の試験」による。 2) 発泡品試験 イ) 試料の作製は、JIS A 9526「建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム」の6.2.1による。 ロ) 試料の状態調節は、JIS A 9526の6.2.2による。 ハ) 試験片の作製はJIS A 9526の6.2.3Iによる。 ニ) 試験場所は、JIS A 9526の6.2.4による。 ホ) 密度の測定は、JIS A 9526の6.2.5Iによる。 ヘ) 熱伝導率試験は、JIS A 9526の6.2.6Iによる。 ヘ) 透湿率試験は、JIS A 9526の6.2.7Iによる。 ト) 圧縮強さ試験は、JIS A 9526の6.2.8Iによる。 チ) 接着強さ試験は、JIS A 9526の6.2.9Iによる。 3) 難燃性試験 下記に規定する表面試験及び発熱性試験による。 イ) 表面試験については、JIS A 1321に規定する試験方法に準じる。 ロ) 発熱性試験は、建築基準法に基づく指定性能評価機関が準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している試験方法に準じる。 4) 難燃2級又は難燃3級の判定は、次による。 試験の結果、次のイ～オに適合していること イ) 試験体の全厚にわたる溶融、試験体の表面に対する亀裂（表面における亀裂の幅が全厚の1/10以上であるものに限る。）その他防火上著しく有害な変形などのないこと。 ロ) 加熱終了後30秒以上残炎がないこと。 ハ) 試験結果の排気温度曲線は、加熱試験中、標準温度曲線を超えないこと。ただし、難燃2級又は難燃3級については、試験を開始して3分を経過した後は、次のロの条件の範囲内で超えることができる。 ニ) 排気温度曲線が標準温度曲線を超えている部分の排気温度曲線と標準温度曲線で囲まれた部分との面積（単位×分）が、難燃2級にあっては100以下、難燃3級にあっては350以下であること。 ホ) 単位面積当たりの発熱係数が、難燃2級で60、難燃3級で120を超えないこと。 5) 準不燃材料相当品又は難燃材料相当品の判定は、次による。 法定準不燃材料、難燃材料の評価方法を使用している発熱性試験（コンカロリー試験）による試験で、準不燃材料相当品においては加熱時間10分、難燃材料相当品において加熱時間は5分の結果、次のイ～ニに適合していること。 イ) 総発熱量が8MJ/m ² 以下であること。 ロ) 防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 ハ) 最高発熱温度が10秒以上継続して200KW/m ² を超えないこと。	項目	品質・性能	吹付け硬質ウレタンフォーム密度 (kg/m ³)	JIS A 9526 によるA種またはA種IH 25 以上 次のいずれかによること。 1) 難燃2級又は難燃3級 2) 準不燃相当品又は難燃材料相当品	難燃性	
項目	品質・性能								
吹付け硬質ウレタンフォーム密度 (kg/m ³)	JIS A 9526 によるA種またはA種IH 25 以上 次のいずれかによること。 1) 難燃2級又は難燃3級 2) 準不燃相当品又は難燃材料相当品								
難燃性									
			工事名	佐倉浄水場特高変電所電機建築工事					
			図面番	建築材料等品質性能表（1） R7.11					
			作成年月日	令和8年度					
			縮尺	—	図面番号	A—			
			会社名						
			事業者名	千葉県企業局工業用水部					

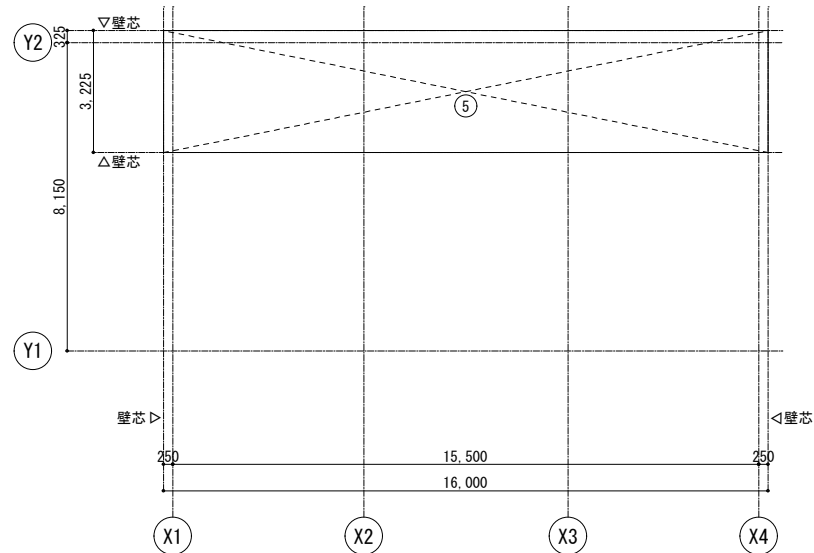
項目		品質・性能・試験方法		項目		品質・性能・試験方法		項目		品質・性能・試験方法		項目		品質・性能・試験方法																						
20	1 フリーアクセスフロア ユニット及びその他の工事	標準仕様書20.2.2によるほか以下とする。 ・性能： 1)耐震性能 イ)固定台試験による耐震性能（設計床高さH=300mm超え、600mm以下の場合） 項目 ① ベースプレート又はアンカーが耐力に達したとき又はコンクリート接着面が剝離したとき ② 上記①以外の部分が耐力に達したとき ③ 適用地震時水平力を加力した時の支柱頂部の変位 ＜適用地震時水平力＞ ・3.000N・0.66タイプ 支柱一本が負担する床加重〔(㎡当り自重+3.000N)/㎡当りの支柱本数〕×0.6 ・3.000N・1.06タイプ 支柱一本が負担する床加重〔(㎡当り自重+3.000N)/㎡当りの支柱本数〕×1.0 ・5.000N・0.66タイプ 支柱一本が負担する床加重〔(㎡当り自重+5.000N)/㎡当りの支柱本数〕×0.6 ・5.000N・1.06タイプ 支柱一本が負担する床加重〔(㎡当り自重+5.000N)/㎡当りの支柱本数〕×1.0 d)振動台試験による耐震性能（設計床高さ≤300mmの場合のみ） パネルの脱落や使用上支障をきたす損傷、せり上がり、隙間及び水平移動がない。 2)歩行感 通常の歩行において空洞音やたつきがなく、歩行感に違和感がない 3)メンテナンス性 交換が必要な部品については交換できるよう設計されている ・試験方法： 1)耐震性能 イ)設計床高さ≤300mmの場合 試験体ユニット1000mm×2500mm程度 所定の重りの質量 3000N 200kg、5000N 350kg 加振 0.6g：所定加速度600cm/s ² 、1.0g：所定加速度1000cm/s ² d)300mm<設計床高さ≤600mmの場合 ①固定台による耐震性能試験 a.支柱調整式・支柱分離式・支柱固定タイプの全てのタイプ共、下記の試験方法-1 又は、試験方法-2による。 b.原則として、試験方法-1はパネル単体設置（Aタイプ）に適用し、試験方法-2はパネル連結設置（Bタイプ）に適用するものとする。 ②試験方法-1 a.試験は、コンクリート（JIS A 5371プレキャスト無筋コンクリート製品 種類 N300）に接着した支柱の頂部に対し、水平方向に適用地震時水平力及び水平最大耐力で加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。 b.加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。試験体数は、3個とする。 ③試験方法-2 a.試験は、コンクリート（JIS A 5371プレキャスト無筋コンクリート製品 種類 N300）に接着した数ユニットの支柱の頂部に対し、水平方向に数ユニット分相当の、適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。 b.最終的に水平力を支持する支柱の本数で除した値を、支柱1本当たりの水平力とする。また、800mm×800mmに荷重板荷重3,200 N (5,000 N/㎡相当) を1箇所設ける。試験体数は、1セットとする。 ④等点補正及び測定記録 試験機と試験機の隙間等を除去するため、始めに適用地震時水平力の1/2程の水平力を加力した後、速やかに除荷して“0”にした状態を零点とする。また、水平力による各測定点の荷重及び変形曲線を測定し記録する。 n)共通事項 試験に使用する表面仕上材 種類：タイルカーペット、 繊維素材：ナイロン100%、 バイル携帯：ループバイル、 バイル長：3.0mm～4.0m、 バッキング素材：塩化ビニル樹脂、全厚：6.0mm～7.0mm、 単位質量：4.0kg/㎡～6.0kg/㎡、人体耐電圧：2KV以下		20 4 トイレ ユニット及びその他の工事	標準仕様書表20.2.5によるほか以下とする。 ・品質・性能： 1)付属金物 項目 ヒンジ ラッチセット 戸当り 2)外観 JIS A 6512「可動間仕切」の5.b)による。 3)パネル表面材の耐薬品性・耐汚染性・耐ひびき性・開閉耐久性 項目 耐薬品性及び耐汚染性 耐引っかけ性 開閉耐久性 メラミン樹脂系化粧板 及びメラミン樹脂系単一材 JIS K 6903(2008)「熱硬化性樹脂高圧化粧板」の表8品質による耐汚染性（B法）の規定を満足していること。 下記項目のポリエステル樹脂系加工化粧板、ポリエステル樹脂系化粧MDF、ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボードのいずれかの品質に適合していること。 JAS「合板の日本産林規格」第9条（特殊加工化粧板の規格）に示された耐汚染性試験を満足していること。 JAS「合板の日本産林規格」第9条（特殊加工化粧板の規格）に示された耐引っかけ硬度試験を満足していること。 ポリエステル樹脂系化粧MDF JIS A 5905「繊維板」に規定する表18の化粧MDFの品質に適合していること。 ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボード JIS A 5908「パーティクルボード」に規定する表11の化粧パーティクルボードの品質に適合していること。 ・試験方法： 1)ヒンジは、JIS A 1510-2「建築用ドア金物の試験方法-第2部：ドア用金物」の規定による。 2)戸当りの衝撃試験は、JIS A 1510-20の規定による。		20 18 床 床点検口 ユニット及びその他の工事	・品質・性能： 以下のもの又は同等のものとす。 部材名 材質 屋内外用 アルミニウム及びアルミニウム合金押出型材 （材質）JIS H 4100「アルミニウム及びアルミニウム合金の押出型材」に規定するA6063S-T5 アルミニウム合金押出型材 （材質）JIS H 8602「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化塗装被膜」に規定するB種又はJIS H 8601「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化被膜」に規定するAA15 受枠材・蓋枠材 ステンレス製 （材質）JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定するSUS SUS304、SUS430J1L、SUS443J1（表面処理）HL又は2B仕上げ程度 鋼製 - （材質）鋼板又はJIS G 3313「電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯」に規定する鋼板にメラミン樹脂焼付塗装等の防錆処理を行ったもの（防錆処理）JIS G 3313又は鋼板に標準仕様表18.3.1及び表18.3.2の錆止め塗料塗りを防錆処理を行ったもの 二重蓋の中蓋 鉄板 （材質）JIS G 5501「ねずみ鉄品」に規定するFC150、FC200 その他 （材質）塩化ビニル樹脂製等 アルミニウム及びアルミニウム合金押出型材、ステンレス鋼板、鋼板の場合は、受枠材・蓋枠材と同じ 目地材（材質） 貴銅 JIS H 3100「鋼及び銅合金の板及び条」に規定するG2600、G2720、G2801 JIS H 3250「鋼及び銅合金の棒」に規定するG3602、G3604 ステンレス JIS G 4305に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 JIS G 4308「ステンレス鋼板」に規定するSUS304 ステンレス鋼板 （材質）JIS G 4305に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 JIS G 4308に規定するSUS304 アルミニウム板 （材質）JIS H 4000「アルミニウム及びアルミニウム合金の板及び条」に規定するA1100P H24（表面処理）JIS H 8602に規定するB、JIS H 8601に規定するAA15 鋼材 - （材質）鋼板又はJIS G 3313「電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯」に規定する鋼板にメラミン樹脂焼付塗装等の防錆処理したもの、理を行ったもの（防錆処理）JIS G 3313、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2の錆止め塗料塗等防錆処理を行ったもの バックシン材 塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジラバー、エチレンプロピレン等外枠と蓋枠の材質、形状に適した弾力性及び密着性を有するもの。 アンカー材 鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗料を行ったもの。 取手 貴銅鉄板、貴銅板、アルミニウム押出型材・合金鋳鉄製、ステンレス鋳鋼品、ステンレス鋼材製等の堅牢な材質のもの、ステンレス鋼材、アルミニウム押出型材などで被覆した合成樹脂製のものは、衝撃による変形・割れが生じないもの。 鍵 貴銅製、ステンレス鋼製、亜鉛合金製（クロムめっき）の類。 施錠・開錠は、鍵又は開閉用ハンドル式 1)製品の許容差 イ)受け枠基準寸法 600角程度まで ロ)受け枠寸法の許容差 ±0.5mm ハ)蓋付き寸法の許容差 ±0.5mm ニ)受け枠と蓋枠のクリアランス 片側2mm以内 2)蓋の耐荷重性能 イ)加圧する荷重値P=1,000N ロ)蓋中央部の残留たわみが点検口の有効径の0.08%以内 ハ)受け枠、蓋その他の使用上支障がないこと ニ)破壊荷重が、加圧荷重値Pの2倍以上 ・試験方法（耐荷重試験）： 1)試験体 イ)貼物用とし、600mm角程度とする。 ロ)枠見込みは、40mm以下とする。 2)試験 イ)試験は、蓋枠の四周を支持させ、蓋の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。 ロ)本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。 ハ)本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰り返し行った後、その後試験体が破壊する（終局荷重）まで加圧する。 3)測定 蓋中央部にかかる加圧を200N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の異常について1,000Nまで3回繰り返し、荷重ごとに記録。また、終局荷重を記録する。		23 10 屋上緑化システム 植栽及び屋上緑化工事	4)性能基準 イ)設計荷重時の3回繰返し荷重後のひずみ度の判定基準は、「2)許容曲げ応力度」より定める。（この時のヤング係数は、鋼材・・・206KN/mm ² （2.1×10 ⁴ kgf/cm ² ）、ステンレス鋼材・・・212KN/mm ² （2.16×10 ⁴ kgf/cm ² ）を用いる。 ロ)設計荷重の1.5倍までの加力に対して、溶接部のはずれ等その他の異常がないこと。 5)試験体 溝ふた、U字溝ふたとし、下記の種別ごとに強度計算における応力度が最大となる製品について試験を行う。 イ)溝ふた 横断用 T-20～T-2のうち1体 歩道用 1体 ロ)溝ふた 横断用 T-20～T-2のうち1体 歩道用 1体 ハ)U字溝 側溝用 T-14～T-2のうち1体 歩道用 1体 6)材料強度試験について グレーチングの荷重耐力試験に先立ち、グレーチングの試験体に用いたメインバー材の耐力を確認するため、下記のイ)の試験又はロ)の試験データを提出する。 イ)試験供試体を使用したものと同材のグレーチングの荷重耐力試験に先立ち、下記による材料強度試験を行う。 ・材料試験供試体：試験片はJIS Z 2241「金属材料引張試験方法」による。 また、試験片数は各3本とする。 ・試験方法：JIS Z 2241に基づく耐力及び引張り強さとする。ただし、ステンレス材の耐力は、JIS Z 2242に示すオフセット法で算出した0.2%耐力とする。 ロ)試験供試体を使用したものと同材の試験を上記1)と同様の試験を行ったデータがある場合は、そのデータを提出する。 7)グレーチング荷重試験の試験供試体の大きさについて 溝幅に直角方向の寸法は、原則として1m程度とする。																									
		・品質・性能： 項目 品質・性能 透水フィルターの材質及び透水性能 傾向を確認できること。 透水、排水層等構成材の主要材質 合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。 （保水層を有する場合は、保水層共） 排水層 植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び植込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。 排水層の鉛直方向の排水性能 240L/㎡・h以上 耐荷重性能 （排水層の許容圧縮強度） 最大土壌層厚の単位面積当たりの重量の1.5倍以上、かつ、3×10 ⁴ N/㎡の載荷重で破壊・有害なひずみなど異常のないこと。また、一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊等しないこと。（保水層を有する場合は保水層共） 耐根層 重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して3年以上の耐根性能（貫通防止能力）を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。 耐根層保護層 材質は合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護するものであること。ただし、耐根層を保護コンクリート（絶縁シートも含む）の下に設ける場合は省略することができるものとする。 ・試験方法： 1)透水フィルターの透水性能 イ)JIS A 1218「土の透水試験方法」の定水位透水試験に準じたインターロッキングブロックの透水性試験装置の下部に試験体（透水フィルタ）をセットし、その上に砂（JIS A/5308「レディミクストコンクリート」付属書Aに規定する砂）及びシルト#250を容積比9：1の割合で混合し、高さ80mmの試験容器に加圧せずに均一に充填する。（試験体1体） ロ)常温で1日置いた後、上部より給水する。給水5日間連続後取り出して自然水切り2日とした給水サイクルを繰り返す。週2回を下回らない測定回数で圧力差の水頭差10mmを保持したまま、1分間の透水量を計量し、透水係数を算出する。なお、乾燥工程の試験室は室温20±3℃、湿度60±5%とする。 ハ)水切り工程は、試験体の入った試験装置を取り出し、試験室内に水が切れる状態で保管する。 ニ)各サイクルごとの透水係数の推移をグラフ化し、6週間を過ぎるまでにその週の数値が直前の週の数値より高い値を維持し、透水係数の上昇傾向を確認できれば目詰まりが解消方向にあると判断し、合格とする。 ホ)試験開始後6週間、流水時間合計が30日を超えた時点で透水係数がまだ上昇に転じない場合は、その後も透水量が増加する方向へ向かうまで流水時間を延長して確認することも可とする。 2)排水層の耐荷重性能 イ)最大土壌層厚の単位面積当たりの重量の1.5倍かつ3×10 ⁴ N/㎡の等分布荷重による加圧試験を行ない、排水層及び耐根層等に有害な変形・破壊の起きないことを確認する。又その時の圧縮応力に対する歪み(%)を測定する。（保水層を有する場合は保水層も対象とする。） ロ)試験体は耐根層から透水層までを通常使用状態にセットした3体とする。加圧速度は10mm/min以下とする。			・品質・性能： 項目 品質・性能 透水、排水層等構成材の主要材質 合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。 （保水層を有する場合は、保水層共） 透水層 目詰まりにより植物の生育に支障を生じることがなく、植え込み用土を流出させない構造であること。 植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び植込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。 排水層 排水層の鉛直方向の排水性能 240L/㎡・h以上 耐荷重性能 （排水層の許容圧縮強度） 3×10 ⁴ N/㎡以上の載荷重で破壊・有害なひずみなど異常のないこと。また、一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。 耐根層 重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して3年以上の耐根性能（貫通防止能力）を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。 材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護するものであること。ただし、耐根層を保護コンクリート（絶縁シートも含む）の下に設ける場合は省略することができるものとする。 ・試験方法 排水基礎の耐荷重性能 イ)3×10 ⁴ N/㎡の等分布荷重による加圧試験を行ない、排水層及び耐根層等に有害な変形・破壊の起きないことを確認する。また、その時の圧縮応力に対する歪み(%)を測定する。（保水層を有する場合は保水層も対象とする。） ロ)試験体は耐根層から透水層までを通常使用状態にセットした3体とする。加圧速度は10mm/min以下とする。																															
20	3 移動間仕切	標準仕様書表20.2.4によるほか以下とする。 ・品質： 1)パネル（表面材、心材、フレーム材、幅木、芝木及び補強材）及びハンガーレール JIS A 6512「可動間仕切」の表9材料又はこれらと同等以上の品質性能を有し、かつ、接触腐食をおこさないもの又は防食処理を施したものとする。 2)パネルの外観 JIS A 6512「可動間仕切」の5.a)～c)による。 ・性能及び試験方法： 1)パネルの操作性 パネル操作の初期力は98N以下とする。 2)パネル圧接装置の耐久性 パネル圧接装置の固定・解除は、7,500回の繰返し耐久試験実施後、質量50kg衝撃試験で異常のないものとする。 3)耐腐食性 質量50kgにおける衝撃試験において構造部材の折れ、曲りの異常がなく、表面の割れ、はがれがないものとする。また、接点・接床部が外れないこと及び多少のずれがあっても圧接装置の調整で元に戻せるものとする。 4)レールの耐久性 レールは普通パネルで吊り車2個が通過する部分を1m以上とし、吊り車の通過回数が30,000回以上で異常のないものとする。 5)吊り車の耐久性 吊り車は、走行距離60Kmで操作性に異常がなく、レールに大きな変形がないものとする。 6)ランナーの引張強度 引張試験を実施し、普通パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナーの数で除した値以上の強度があるものとする。 7)吊りボルトの引張強度 一本にかかる荷重の10倍以上の引張強度があるものとする。 8)遮音性能 遮音性試験はJIS A 6512に規定する透過損失単位による各区分ごとに、500Hzの音について透過損失の規格値に適合するものとする。 遮音性能試験は、JIS S 1416「実験室における建築物の空気音遮断性能の測定方法」に規定する試験方法又はJIS A 1441-1「音響・音響インテンシティ法による建築物及び建築物材の空気音遮断性能の測定方法-第1節：実験室における測定」による。 9)ホルムアルデヒド等 JIS等の材料規格において放散量が規定されているものについては、☆☆☆☆とする。		17 天井 天井点検口	・品質・性能： 1)内外枠の材質は、アルミニウム製とする。 イ)JIS H 4100「アルミニウム及びアルミニウム合金の押出型材」に規定するA6063S-T5 又は同等の性能を有するものとする。 ロ)表面処理は、JIS H 8601「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化皮膜」に規定するAA6 又は同等の性能を有するものとする。 2)内枠及び外枠のコーナピース 鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するものとする。 3)外枠の取付け金物 イ)吊り金具 鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するものとする。 ロ)吊り金具取付けボルト 鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するものとする。 4)内枠の仕上材留付金物 アルミニウム及びアルミニウム合金押出型材、亜鉛めっき鋼板の類似又は同等以上の品質並びに仕上材を固定する性能を有するものとする。 5)寸法許容差（枠の許容差） 枠の寸法許容差 ±0.5mm 外枠と内枠のクリアランス 片側2.0mm以内 6)耐久性（繰り返し開閉試験） イ)300回の繰返し開閉試験後の内蓋の垂れ下がり、0.5mm以内とする。 ロ)開閉試験後、使用上支障をきたす異常がないこと。 ・試験方法： 内蓋（内枠）の繰り返し開閉試験 1)試験体は、枠見込み40mm程度のものとする。 2)吊り金物は、外枠を天井下地取付用補強材に直接留付ける方式（天井ボードなどの仕上材を挟んで固定しない方式）とする。標準仕様書14章4節により製作した試験体固定天井下地開口補強に試験体の天井点検口450mm×450mmを吊り金具4箇所にて各メーカー仕様に従い取付ける。 3)野線の種類は、19形とし仕上材は、せっこうボード厚さ9.5mm（JIS A 6901「せっこうボード製品」のGP-Rの難燃2級又は発熱性2級以上）二重張りとする。 4)試験は、内蓋を閉じた状態から自由開放状態にする動作を繰り返し行う。 5)測定は、上記繰り返し試験を300回行い、試験後の内蓋の垂れ下がり状態を測定する。		21 3 排水工事 グレーチング	・品質・性能： 以下のもの又は同等のものとす。 鋼製グレーチング 項目 品質・性能 メインバー、サイドバー及びエンドプレート JIS G 3101「一般用構造用圧延鋼材」に規定するSS400 JIS G 3101に規定するSS400及びJIS G 3505「軟鋼線材」に規定するSWRM JIS G 3101に規定するSS400及びJIS G 3132「鋼管用熱間圧延炭素鋼鋼帯」に規定するSPHT 受け枠用アングル材 JIS H 8641「溶融亜鉛めっき」に規定する溶融亜鉛めっきの付着量がHDZT 56以上又はHDZT 70以上のもの 溶融亜鉛めっきの膜厚 HDZT 56以上又はHDZT 70以上のもの 受け枠用アングル材 塗装仕上げとする場合は、樹脂系塗料 ステンレス製グレーチング（表面仕上げは2B程度） JIS G 4303「ステンレス鋼棒」、JIS G 4304「熱間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」、JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」、JIS G 4308「ステンレス鋼線材」、JIS G 4318「冷間仕上ステンレス鋼棒」に規定するSUS 304又はJIS G 4304、JIS G 4305に規定するSUS430J1L JIS G 4303、JIS G 4304、JIS G 4305、JIS G 4308、JIS G 4318に規定するSUS304、又はJIS G 4304、JIS G 4305に規定するSUS430J1L及びJIS G 4317に規定するSUS304 サイドバー、エンドバー 受け枠用アングル材 JIS G 4304、JIS G 4305、JIS G 4317、JIS G 4320に規定するSUS304又はJIS G 4304、JIS G 4305に規定するSUS430J1L JIS G 3101に規定するSS400の類似とし、塩害の多い地区は塩害に対する防錆処理を行っているもの 1)組み立て加工 イ)溶接は、融合不良、溶込み不良、スラグ巻き込み、ビット、ブローホール等の有害な欠陥がないものとする。 ロ)アンカーの間隔は、側溝の場合500mm内外とする。 ハ)平坦地は、変形がなく据付けに支障がないものとする。 ニ)ふたの幅及び長さの許容差は、±3.0mmとする。 2)耐荷重性能 設計荷重の1.5倍までの加力に対して、溶接部のはずれ等その他の異常がないものとする。 ・試験方法（荷重試験）： 1)設計荷重は以下の通りとする。 <table><tr><th>歩車道区分</th><th>荷重種別</th><th>後輪一輪荷重 (KN)</th><th>衝撃を考慮した荷重 (KN)</th><th>後輪設置面積 (cm)</th></tr><tr><td rowspan="4">車道</td><td>T-20</td><td>78.5</td><td>109.8</td><td>20×50</td></tr><tr><td>T-14</td><td>54.9</td><td>76.9</td><td>20×50</td></tr><tr><td>T-6</td><td>23.5</td><td>33.0</td><td>20×24</td></tr><tr><td>T-2</td><td>7.8</td><td>11.0</td><td>20×16</td></tr><tr><td>歩道</td><td></td><td colspan="3">4.903N/㎡の等分布荷重</td></tr></table> 2)許容曲げ応力度 許容曲げ応力度は、実施する試験体のメインバー材と同じ材で行った材料強度試験耐力N/mm ² (kgf/cm ²)データにより設定する。 3)試験方法（試験体への加力） イ)設計荷重を基準として一方方向繰り返し加力を行う。加力速度は、4.903N/s (0.5tf/秒) とする。 ロ)繰り返し加力は3回行った後、残留ひずみ等がないか確認する。その後設計荷重の1.5倍まで加力し、溶接部のはずれ等異常の有無について確認する。		歩車道区分	荷重種別	後輪一輪荷重 (KN)	衝撃を考慮した荷重 (KN)	後輪設置面積 (cm)	車道	T-20	78.5	109.8	20×50	T-14	54.9	76.9	20×50	T-6	23.5	33.0	20×24	T-2	7.8	11.0	20×16	歩道		4.903N/㎡の等分布荷重		
		歩車道区分	荷重種別		後輪一輪荷重 (KN)	衝撃を考慮した荷重 (KN)		後輪設置面積 (cm)																												
車道	T-20	78.5	109.8	20×50																																
	T-14	54.9	76.9	20×50																																
	T-6	23.5	33.0	20×24																																
	T-2	7.8	11.0	20×16																																
歩道		4.903N/㎡の等分布荷重																																		
工事名 佐倉浄水場特高受変電棟建築工事 図面名 建築材料等品質性能表（2） R7.11 作成年月日 令和8年度 縮尺 — 図面番号 A-11 会社名 事業者名 千葉県企業局工業用水部																																				

特高受変電棟 仕 上 表			略 号			外部付属物及び詳細番号			内部付属物及び詳細番号		
1. 外部仕上表及び内、外部付属物の適用分類、詳細番号は、○印のついたものを適用する。 2. 仕上表に記載の詳細番号のうち、(例) 1－0 2－3 は建築工事標準詳細図(国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修)を示す。 3. 特記以外の木、鉄部の塗装はSOPとする。但し、和室回りは除く。 4. 付属物のうち、室名札、床点検口、揭示板、案内板、ビクトグラフ、階段表示板等は、平面図による。 5. 付属物のうち、カーテンボックス、ブラインドボックス、ブラインド、天井点検口等は天井伏図による。 6. P F板、木毛板等打込み箇所は、別図による。 7. 内壁の見え掛りとなるP F板打込み部分は、GB厚1 2. 5直張り(継目処理工法)とし、塗装は、その部屋の壁面と同様とする。 8. 壁のボード張りは水平方向に継手は設けない。 9. 天井仕上ボード張りのうち、GB－NC (NT) 及びDR (下地GB共) は突付け張りとし、天井回り縁は、アルミ製、天井付き目地とする。 10. 直接地業工事に接する内部床のコンクリート下地には、防湿層としてポリエチレンフィルム厚0. 1 5の敷込みを行う。ただし、床仕上げがビニル床タイル、ビニル床シート及び合成樹脂塗床、床用塗料の場合とする。 11. 打放し仕上げの出隅部分は、面取りを行う。 12. 本工事に使用する指定建築材料は建築基準法第3 7条に適合するJ I S・J A S適合品または国土交通大臣認定品とする。			C CB W S GB－R GB－NC (N) GB－NC (NT) GB－D (W) GB－S GB－F ケイカル板 DR DR (凹凸) DR (軒天) DR (軒天凹凸) P F板 木毛板 T B 外装薄塗材 (E) 内装薄塗材 (S i) 内装薄塗材 (E) 複層塗材 (S i) C (B) C (C) M 軽量吹付	コンクリート下地 コンクリートブロック下地 木造下地 軽量鉄骨下地 せっこうボード 不燃積層せっこうボード(化粧無し:下地張り用) 不燃積層せっこうボード(化粧有り:トラバーチン模様) 木目化粧せっこうボード シーシングせっこうボード 強化せっこうボード けい酸カルシウム板(タイプ2) ロックウール化粧吸音板 トラバーチン模様 ロックウール化粧吸音板 凹凸模様 ロックウール化粧吸音板 軒天井用:トラバーチン模様 ロックウール化粧吸音板 軒天井用:凹凸模様 押出法ポリスチレンフォーム保温材 木質系セメント板 テラゾーブロック 外装合成樹脂エマルション系薄付け仕上塗材 内装けい酸質系薄付け仕上塗材 内装合成樹脂エマルション系薄付け仕上塗材 けい酸質系複層仕上塗材 コンクリート下地(打放シB) コンクリート下地(打放シC) モルタル 軽量骨材仕上塗材	複層塗材 (CE) 複層塗材 (E) 複層塗材 (RE) CL FE AE DP (UE) DP (ASE) DP (FUE) EP－G EP EP－M EP－T UC OS SOP GP AC NAD LE WP	ポリマーセメント系複層仕上塗材 合成樹脂エマルション系複層仕上塗材 反応硬化形合成樹脂エマルション系複層仕上塗材 テレビアンテナ塗り フタル酸樹脂エナメル塗り アクリル樹脂エナメル塗り 2液形ポリウレタンエナメル塗り アクリルシリコン樹脂エナメル塗り 常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗り つや有合成樹脂エマルションペイント塗り 合成樹脂エマルションペイント塗り 多彩模様塗料塗り 合成樹脂エマルション模様塗料塗り ウレタン樹脂ワニス塗り オイルステイン塗り 合成樹脂調合ペイント塗り グラファイトペイント塗り アクリル樹脂ワニス塗り(アクリル樹脂クリヤ塗り) アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り ラッカーエナメル塗り 木材保護塗料塗り	・屋上点検口 ・屋上管類貫通部 ・クーリングタワー基礎 ・テレビアンテナ基礎 ・屋上換気塔 ・煙突 ○タラップ ○土 ○土 ・トップライト ・EXP. J金物 ・笠木兼用避雷導体 ○手すり ・旗竿 ・くつふきマット ・くつ洗い流し ・グレーチング ・電気用ハンドホール蓋 ・文字板 ・庁名板 ・郵便受 ○目地 ○土 ・H－1 9－ ・背もたれ付 H－1 6－2 ・5－3 1. 3 2. 3 3 ・5－3 2－1 ・5－3 3－1 ・E－0 2－3 ・既製品 ・S－1 3 ・E－0 1－1 ○アルミ(図示) ・ステンレス(図示) ・スチール(図示) ・図示 ・H－2 1－1・2・3 ・8－2 1－1・2・3	・流し台 ・フード ・コンロ台 ・流し上部水切り ・つり戸だな ・水切りだな ・脱衣箱 ・天井点検口 ・床点検口 ・便所へだて ・肢体不自由者対応便所 ・多機能便所 ・便所手すり ・くつふきマット ○タラップ ・フック ・グレーチング受枠 ・浴室まわり ・F－0 1－1 ・図示 ・F－0 1－2 ・図示 ・F－0 1－3 ・F－0 1－4 ・図示 ・6－1 1－5 ・図示 ・6－3 2－1 ・3－4 2－2 ・既製品 ・既製品 ・6－2 2 ・6－2 3－1・2 ・6－2 4－1 ・6－2 6－1・2・3・4 ・6－2 7－1・2・3・4・5 ・1－2 1－ ・A－0 3－ ・H－2 1－ ・8－2 1－ ○8－3 1－1 ・背もたれ付 H－1 6－2 ・図示 ・H－1 6－1 ・U型H－1 7－1 ・図示 ・6－3 1－ ・カーテンボックス ・ブラインドボックス ・銅製・3－3 1－1. 2 ・3－3 2－5・6・7 ・アルミ製・3－3 1－3 ・C－0 1－1 ・C－0 1－2 ・既製品 ・アルミ ・H－1 2－1 ・H－1 3－ ・H－1 4－ ・図示 ・アルミ ・H－1 2－1 ・図示 ・H－1 3－2 ・7－1 2－ ・B－0 2－ ・断熱材打込み ・7－0 1－1・7－0 1－2 ・6－4 6－1 ・S－1 5－1 ○図示 ・図示 ・図示 ・図示 ・8－4 3－1 ・8－4 4－1 ・8－4 2－1 ・図示			

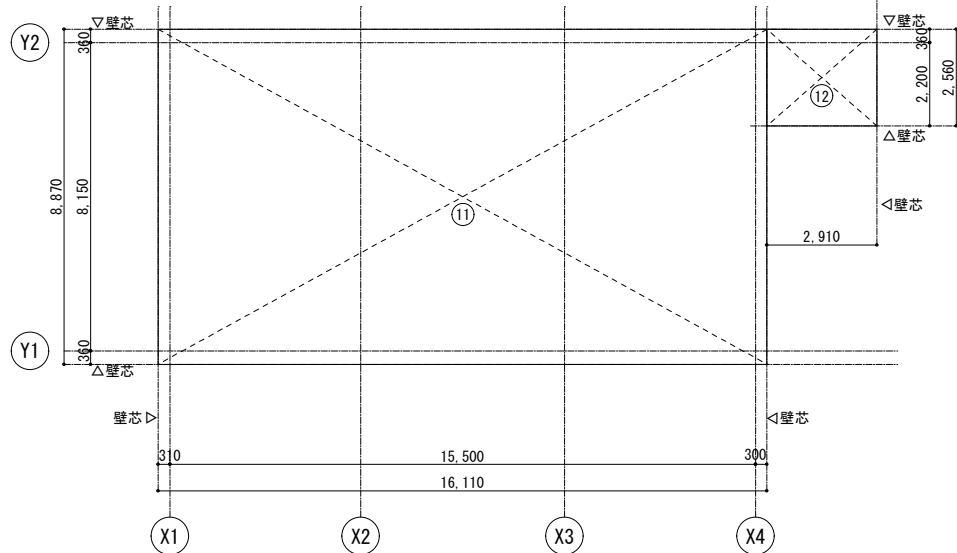
外 部 仕 上 表											
根廻り	外 壁	屋 根		パラペット	搬入バルコニー			屋外階段			備 考
		下地・防水層	押え・仕上		床	手 す り	上 裏	床	手 す り	上 裏	
・磁器質タイル ○コンクリート打放し（Ｂ）	・磁器質タイル ○コンクリート打放し（Ｂ）の上 複層塗材（Ｅ） ・ＡＬＣ板（ $t=125$ ）の上 複層塗材（Ｅ）	下 地○コンクリート直均し 防水層○アスファルト防水（Ａ１－１） 絶縁材・ポリエチレンフィルム厚0.15 ○フラットヤークロス（Ａ１－１） 70g/m ² ・タイトフレーム $t=3.2$ （亜鉛メッキ）	押え○無筋コンクリート厚80 補強用溶接金網6φ－100@ 仕上○押えコンクリート直均し仕上 仕上・折板屋根（ φ 素 がん' リウム鋼板 $t=0.8$ 山高 $H=165$ ）	笠 木 ○アルミ既製品 ・避雷導体兼用 $E-01-1$ 立上がり防水押え ○5-01-1 ・5-02 ・5-11	仕 上 ・磁器質タイル ○防水モルタル塗り ・無筋コンクリートの上 塗膜防水 X-2	・磁器質タイル ○コンクリート打放し（Ｂ）の上 複層塗材（Ｅ） ・軒天用ロックウール（外部用） 化粧吸音板 ○既製品アルミ手摺（取外し式）	○コンクリート打放し（Ｃ）の上 外装薄塗材（Ｅ）	仕 上 ○防水モルタル塗り	○コンクリート打放し（Ｂ）の上 複層塗材（Ｅ）	○コンクリート打放し（Ｃ）の上 外装薄塗材（Ｅ）	○ 堅 樋（カラーVP 100φ） ○ 横引きドレンφ100用 ○ 屋上避雷針基礎（図示） ○ 屋上室外機基礎（図示）

内 部 仕 上 表																								
階	室 名	床			幅 木				腰 壁				壁					天 井					備 考	
		下地	仕 上	詳細番号	下地	仕 上	高さ	詳細番号	下地	仕 上	高さ	詳細番号	下地	仕 上	詳細番号	柱型仕上	詳細番号	下地	仕 上	高さ	詳細番号	梁型仕上		詳細番号
地下	配線ビット	C	C直均し仕上	1-01-3	—	—	—	—	—	—	—	—	C	C打放し(C)	2-02-7	壁仕上と同様 一面打増t=15	2-02-7 2-02-11	C	C打放し(C)	直天	3-01-11	下面：C打放し(C) 打増t=15 側面：C打放し(C)	3-01-11	
1階	倉庫	無筋C t=100	C直均し 合成樹脂塗床	1-01-3	C	合成樹脂塗床立上げ	100	—	—	—	—	—	C	C打放し(B) EP-G	2-02-7	壁仕上と同様 一面打増t=15	2-02-7 2-02-11	C	C打放し(C) EP-G	直天	3-01-11	下面：C打放し(C) EP-G 打増t=15 側面：C打放し(B) EP-G	3-01-11	ホイスレー
	配線室	C	C直均し仕上	1-01-3	—	—	—	—	—	—	—	—	C	C打放し(C)	2-02-7	壁仕上と同様 一面打増t=15	2-02-7 2-02-11	C	C打放し(C)	直天	3-01-11	下面：C打放し(C) 打増t=15 側面：C打放し(C)	3-01-11	
2階	特高設備電気室A	C	C直均し ＜フリアクセア707H=300+ 帯電防止ビニル床タイル＞ [PE]	1-02-14	C	<ビニル巾木＞ [PE]	100	—	—	—	—	—	C	C打放し(B) EP-G	2-02-7	壁仕上と同様 一面打増t=15	2-02-7 2-02-11	C	C打放し(C) EP-G	直天	3-01-11	下面：C打放し(C) EP-G 打増t=15 側面：C打放し(B) EP-G	3-01-11	
3階	特高設備監視室	C	C直均し ＜フリアクセア707H=300+ 帯電防止ビニル床タイル＞ [PE]	1-02-14	C	<ビニル巾木＞ [PE]	100	—	—	—	—	—	C	C打放し(B) EP-G	2-02-7	壁仕上と同様 一面打増t=15	2-02-7 2-02-11	C	C打放し(C) EP-G	直天	3-01-11	下面：C打放し(C) EP-G 打増t=15 側面：C打放し(B) EP-G	3-01-11	
	特高設備電気室B	C	C直均し ＜フリアクセア707H=300+ 帯電防止ビニル床タイル＞ [PE]	1-02-14	C	<ビニル巾木＞ [PE]	100	—	—	—	—	—	C	C打放し(B) EP-G	2-02-7	壁仕上と同様 一面打増t=15	2-02-7 2-02-11	C	C打放し(C) EP-G	直天	3-01-11	下面：C打放し(C) EP-G 打増t=15 側面：C打放し(B) EP-G	3-01-11	
4階	特高設備電気室C	C	C直均し ＜フリアクセア707H=300+ 帯電防止ビニル床タイル＞ [PE]	1-02-14	C	<ビニル巾木＞ [PE]	100	—	—	—	—	—	C	C打放し(B) EP-G	2-02-7	壁仕上と同様 一面打増t=15	2-02-7 2-02-11	C	C打放し(C) EP-G	直天	3-01-11	下面：C打放し(C) EP-G 打増t=15 側面：C打放し(B) EP-G	3-01-11	
共通	E P S	C	C直均し仕上	1-01-3	—	—	—	—	—	—	—	—	C	C打放し(C)	2-02-7	壁仕上と同様 一面打増t=15	2-02-7 2-02-11	C	C打放し(C)	直天	3-01-11	下面：C打放し(C) 打増t=15 側面：C打放し(C)	3-01-11	

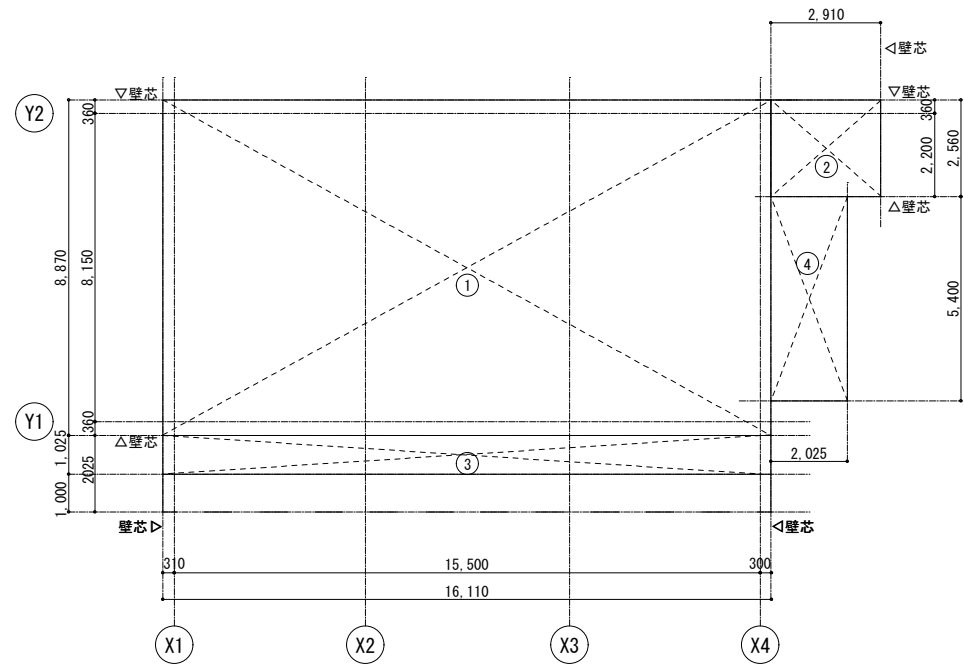
特記なき限り										工事区分略号	工事名		
仕上材料の厚さ	材 料 名	種別	壁 (m/m)	天井 (m/m)	備 考	材 料 名	種別	壁 (m/m)	天井 (m/m)	備 考	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
											仕上表		
											令和8年度		
											縮 尺	図面番号	A－12
											事業者名		
											千葉県企業局工業用水部		



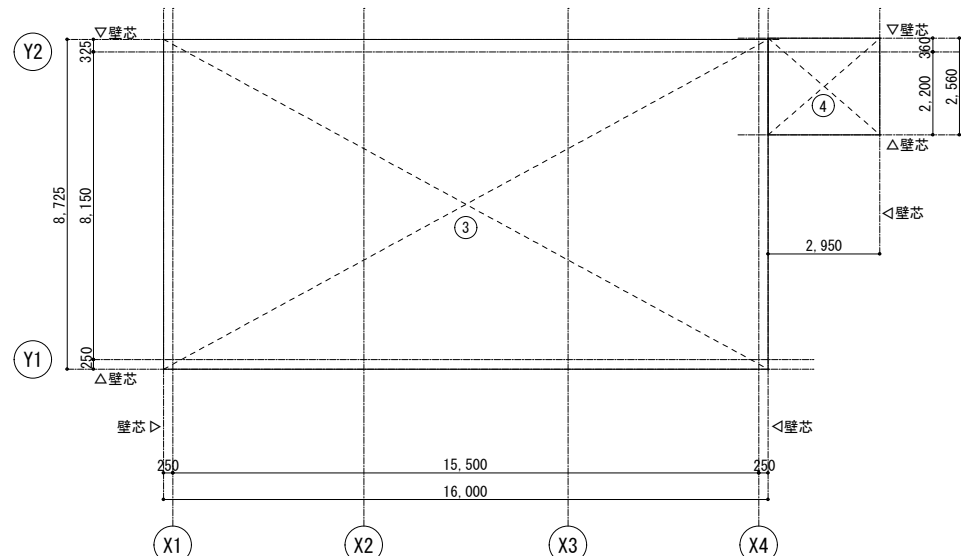
1FL (上部) 求積図 1/100



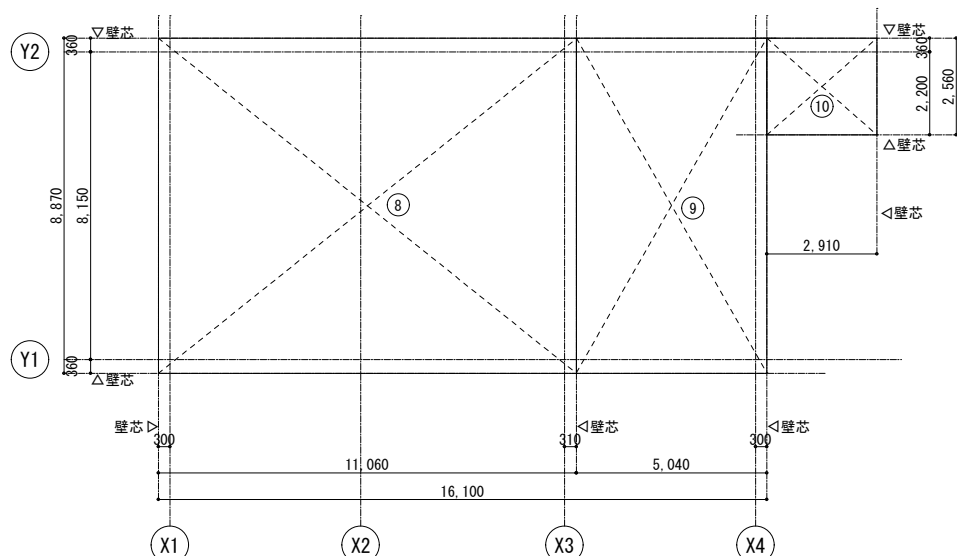
4FL 求積図 1/100



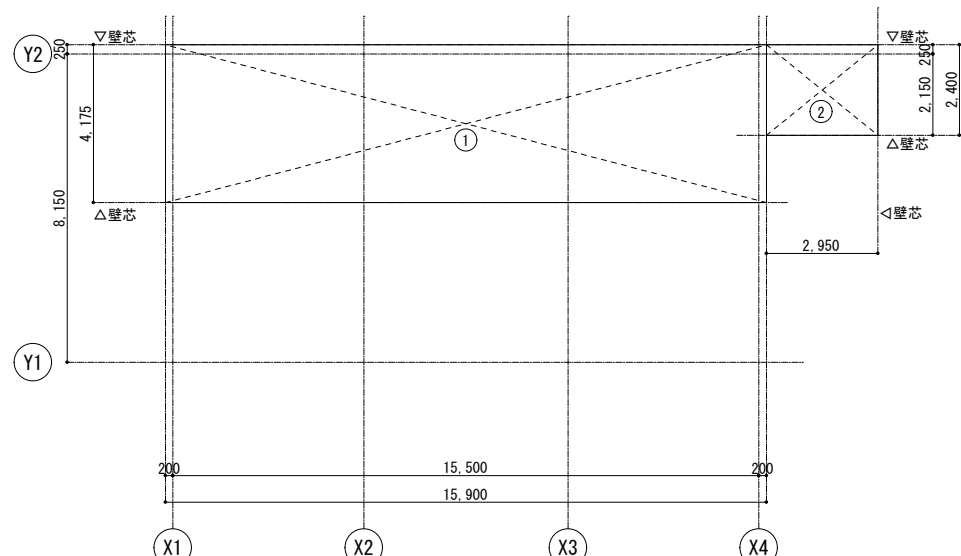
建築面積求積図 1/100



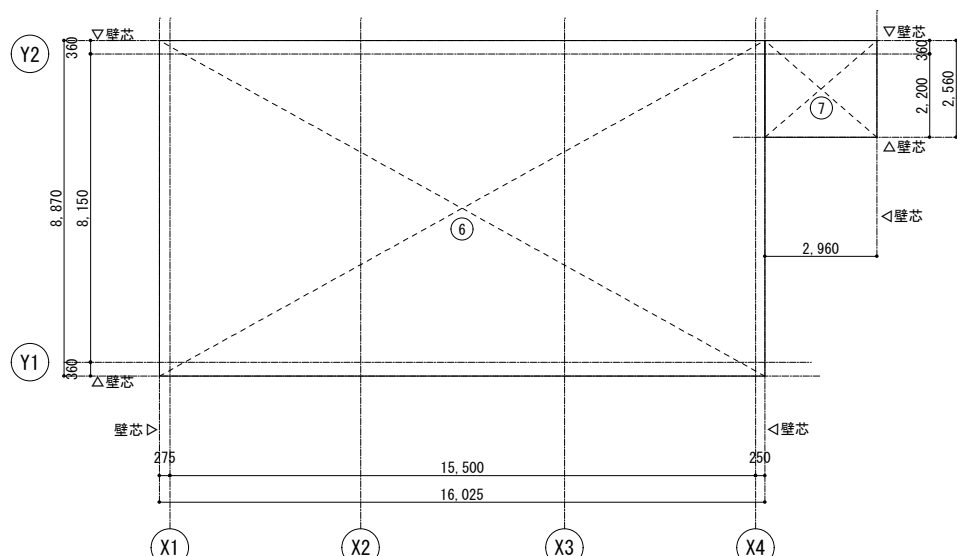
1FL 求積図 1/100



3FL 求積図 1/100



B1FL 求積図 1/100



2FL 求積図 1/100

延べ面積求積表

符号	計 算 式 (m)	床面積
①	15.900 × 4.175	66.38250
②	2.950 × 2.400	7.08000
B1FL床面積		73.46
③	16.000 × 8.725	139.60000
④	2.950 × 2.560	7.55200
1FL床面積		147.15
⑤	16.000 × 3.225	51.60000
1FL (上部) 床面積		51.60
⑥	16.025 × 8.870	142.14175
⑦	2.960 × 2.560	7.57760
2FL床面積		149.71
⑧	11.060 × 8.870	98.10220
⑨	5.040 × 8.870	44.70480
⑩	2.910 × 2.560	7.44960
3FL床面積		150.25
⑪	16.110 × 8.870	142.89570
⑫	2.910 × 2.560	7.44960
4FL床面積		150.34
延べ面積 計		722.51 m ²

建築面積求積表

符号	計 算 式 (m)	
①	16.110 × 8.870	142.8957
②	2.910 × 2.560	7.4496
③	16.110 × 1.025	16.5127
④	2.025 × 5.400	10.9350
建築面積 計		177.79 m ²

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	求積図		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	1／100	図面番号	A-13
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

建 築 概 要		地 域・地 区 等		その他の確認事項	
建 物 名		法令・条項	項目	該当事項	
敷 地 面 積	-㎡	都計法	都 市 計 画 区 域	都市計画区域内	
構 造・規 模	RC造 地下1階 地上4階	建基法 43条	敷地等と道路との関係		
建 築 面 積	177.79㎡	建基法 48条	用 途 地 域	指定なし	
延 べ 床 面 積	722.51㎡	建基法 52・53条	容積・建ぺい率（全施設）	200% 60%	
軒 高 さ	24.60m	建基法56・56の2条	建築物の各部分の高さ 	道路斜線、隣地斜線制限 無し（対象区域外）	
最 高 の 高 さ	25.30m	建基法 61・62条	防火・準防火地域内の建築物	法22条区域	
		関係法・同条例・同規定等	騒音規制、各種保全地域、宅地規制 公園法、その他	騒音・振動規制法	

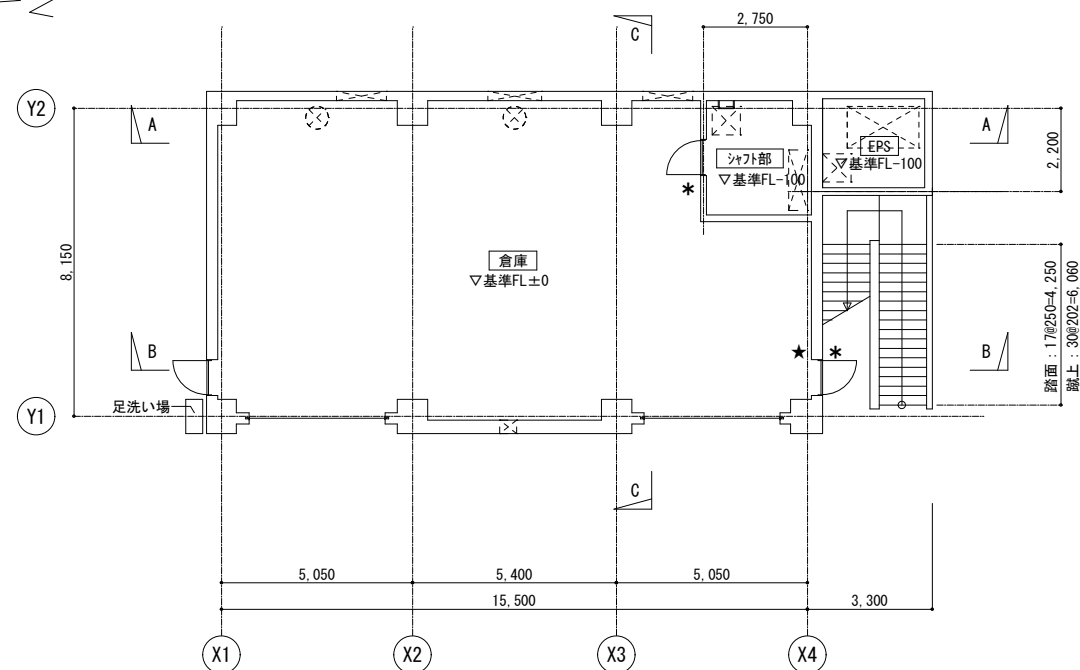
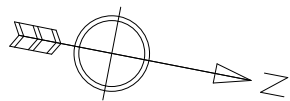
建 築 基 準 法（令）						
審 査 項 目		法令条項		チェック	判 定	
		法	令			
耐火・準耐火構造等	地域・規模による構造	6 1 6 2		防火地域一階数（ ） 延べ面積（ m ² ） 構 造（ ） [階数3以上又は延べ面積100㎡を超えるもの 耐火、左記以外の準耐火又は耐火] 準防火地域一階数（ ） 延べ面積（ m ² ） 構 造（ ） [地上4以上又は延べ面積1,500㎡を超えるもの 耐火] [地上3又は延べ面積500㎡を超え、1,500㎡以下 準耐火又は耐火]	該当無し	
	屋 根 葺 材	2 2 6 3	1 0 9 の 5 136の2の2	構 造（ 耐火構造） 屋根材（ コンクリート ） ○ 法 2 2 条の区域 [H12建告第1361号] ・ 法 6 3 条の区域 [H12建告第1365号] ・ 区域外	○ K	
居室の採光・換気等	居室の採光及び換気	2 8		[別表の計算書による]	該当無し	
	換気設備の技術的基準	2 8	2 0 の 2 2 0 の 3 129の2の6	居室の換気のための窓その他開口部 [別図の計算書による] ・ 換気上有効な面積（ m ² ）/居室の床面積（ m ² ） ≥ 1/20 換気方法（ ） 火を使用する室の有無 ・ 有 ー 室名（ ） 換気方法（ ） ○ 無	○ K	
	換気設備（自然換気）	2 8	2 0 の 2 129の2の6	給気口高さ（ m）/天井高さ（ m） ≤ 1/2 排気口高さ（ m） > 給気口高さ（ m）	該当無し	
	窓その他開口部を有しない居室等	3 5	1 1 6 の 2	無窓（採光）居室 ・ 有（室名： ） ・ 無	無窓（排煙）居室 ・ 有（室名： ） ・ 無	該当無し
	無窓居室の主要構造部	3 5 の 3		構 造（ ）[耐火構造又は不燃材料]		該当無し
階 段・廊 下	2 以上の直通階段（5階以下の階の場合）	3 5	1 1 7 1 2 1	居室の床面積 避難階の直上階（ ー m ² ） >400m ² ・ 2カ所 （ ー m ² ） ≤400m ² ・ 1カ所 その他の階（ ー m ² ） >200m ² ・ 2カ所 （ ー m ² ） ≤200m ² ・ 1カ所	該当無し	
	避難階段の設置及び特別避難階段	3 5	1 2 2	地上（ 4 ）階、地下（ ）階 ・ 避難階段[5階以上、地下2階以下] ・ 特別避難階段[15階以上、地下3階以下] ○ 該当せず	該当無し	
	直通階段・歩行距離	3 5	1 1 7 1 2 0 1 2 1	[主要構造部が準耐火構造又は、不燃材料でつくられている場合] 無窓居室：歩行距離（ m） ≤ 30m・（40m：居室及び避難路を 準不燃材料以上で内装） その他の居室：歩行距離（ m） ≤ 50m・（60m：居室及び避難路を 準不燃材料以上で内装） [2以上の直通階段を設ける場合] 重複距離（ m） ≤ 当該歩行距離の2分の1	該当無し	
	階段・踊場の幅 蹴上・踏面寸法	3 6	2 3	直上階居室の合計（ m ² ） >200m ² 地階又は地下工作物内の居室の面積の合計（ m ² ） >100m ² ・ 階段幅1.2m ≤（ m）、踊場幅1.2m ≤（ m）、蹴上20cm ≥（ cm） 踏面24cm ≤（ cm） 上 記 外 ○階段幅0.75m ≤（ 1.20m）、踊場幅0.75m ≤（ 1.20m）、蹴上22cm ≥（ 20.2cm） 踏面21cm ≤（ 25 cm）	○ K	
	踊場の位置及び直階段の踏幅	3 6	2 4	階高（ ）m ○4mまで ・ 階高4m ≤（ m）、踊場（ ）カ所、踏幅（ ） ≥1.2m 直階段なし	○ K	
	階段及び踊場の手すり等	3 6	2 5	階段の幅（ 1.2 m） ≤3.0m、高さ（ 5.96m） >1.0 一般手摺 ○設置 中間手すり ・ 設置[幅 > 3、かつ 高さ > 1.0m] ○不要[けあげ：（ cm） ≤15cm、踏面：（ cm） ≥30cm]	○ K	
	階段に代わる傾斜路	3 6	2 6	勾 配（ / ） ≤ 1/8 表面仕上材（ ）	該当無し	
	廊 下 幅	3 5	1 1 7 1 1 9	その階の居室の床面積の合計【A】（ m ² ）、廊下幅（ m） [A >200㎡(地階の場合は100㎡)は、両側居室1.6m以上、片側居室1.2m以上]	該当無し	
	屋 外 階 段	3 6	2 3 1 2 1 の 2	直通階段の幅（ ー ） ≥90cm、その他の階段（ 120cm） ≥60cm 直通階段の構造（ 鉄筋コンクリート造 ）[木造以外]	○ K	
屋上広場・バルコニー等の手摺	3 5	1 2 6	高さ（ 1.10 m） ≥ 1.10 m	○ K		

建 築 基 準 法（令）					
審 査 項 目		法令条項		チェック	判 定
		法	令		
防 火 区 画・防 火 戸	面 積 区 画	3 6	1 1 2	1,500㎡以内	○ K
	堅 穴 区 画	3 6	1 1 2－9	該当なし	該当無し
	防火区画に接する部分の構造等	3 6	112-10, 11, 14	90cm以内の壁面等の構造（耐火構造）〔準耐火構造・H12建告第1358号〕 防火戸面積（ ㎡） ≤ 3㎡ ・ 常時閉鎖式 ・ 随時閉鎖式 〔防火設備等の構造・S48建告第2563号〕 〔遮煙性能を有する防火設備等の構造・S48建告第2564号〕 〔特定防火設備の構造・H12建告第1369号〕	該当無し
	防火区画を貫通するダンパーの構造等	3 6	112-16	AM No.（ 図）による 〔防火設備等の構造・S48建告第2565号〕 〔風道に防火設備を設ける方法・H12建告第1376号〕	該当無し
	防火戸その他の防火設備	2	1 0 9	延焼のおそれのある部分 ・ 有 	

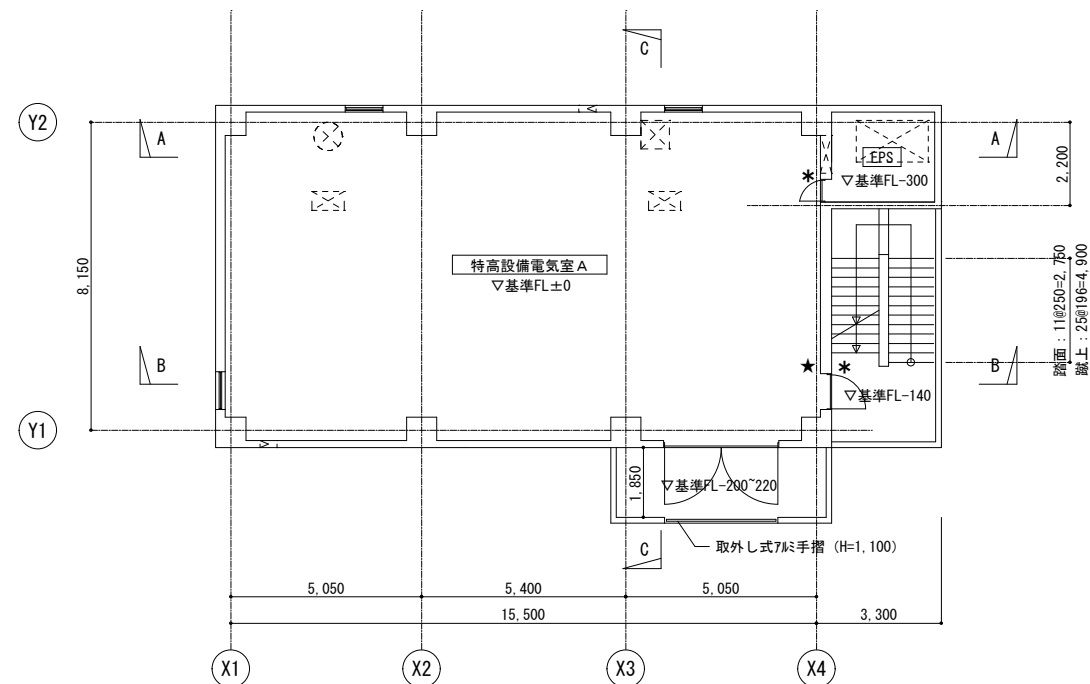
建 築 基 準 法（令）					
審 査 項 目		法令条項		チェック	判 定
		法	令		
そ の 他	避雷設備	3 3	129の14	○ 設置 ・ 最高の高さ（ 21.30 m）＞20m ・ 指定数量の10倍以上の危険物の製造所・貯蓄庫 ※消防法（危険物の規制に関する政令；第9条第1項第19号、第10条第1項第14号） ・ 不要	設 置
	石綿その他の物質の飛散 又は発散	2 8 の 2	2 0 の 4 2 0 の 5 2 0 の 6 2 0 の 7	化学物質を発散する建築材料を使用する居室[H14国交告第1112、1113、1114、1115、H15国交告第273、274] ・ 有 室名（ ）、換気方式（ ） ○ 無	該当無し

消 防 法（令）					
審 査 項 目		法令条項		判 定	
		法	令		
消 火 設 備	消火器具	1 7	1 0	延べ面積（ 722.51 ㎡） 地階・無窓階・3階以上の階の床面積（ 地階 部分： ㎡） ○ 設置[延べ面積300㎡以上又は地階等の部分で床面積50㎡以上] ・ 不要	設 置
	屋内消火栓設備	1 7	1 1	延べ面積（ 722.51 ㎡） 構造（ ） 地階・無窓階又は4階以上の階の床面積（ 地階 部分： ㎡） ・ 設置[耐火構造で延べ面積3,000㎡以上又は地階等の部分で床面積600㎡以上] （主要構造部を耐火構造とし、かつ壁・天井の仕上げを難燃材料） ○ 不要	不 要
	水噴霧消火設備等	1 7	1 3 1 8	発電機室・電気室・ボイラー室等の床面積（ 部分： ㎡） ・ 設置[発電機室等の部分で床面積200㎡以上] ・ 緩和申請する（スプリンクラー設備を設置） ○ 不要	不 要
	屋外消火栓設備	1 7	1 9	地上階の1階又は1及び2階の部分の床面積の合計（ 348.46 ㎡） 構造（ ） 建築物相互の外壁間の中心線からの水平距離が、1階にあっては3m以下、2階に あっては5m以下の部分を有するものは1の建築物とみなす ・ 設置[耐火建築物で床面積9,000㎡以上] ○ 不要	不 要
警 報 設 備	自動火災報知器設備	1 7	2 1	延べ面積（ 722.51 ㎡） 地階・無窓階・3階以上の階の床面積（ 地階 部分： ㎡） ・ 設置[延べ面積1,000㎡以上又は地階等の部分で床面積300㎡以上] ○ 不要	不 要
	非常警報設備	1 7	2 4	地階階数（ ） ・ 設置[地階階数3以上但し自火報設備無し] ○ 不要[地階階数2以下又は自火報設備有り]	不 要
避 難 設 備	誘導灯・誘導標識	1 7	2 6	[避難口・通路誘導灯] 地 階 ○ 有 ・ 無 無窓階 ○ 有 ・ 無 ○ 設 置 ・ 不 要 [誘導標識] ○ 設 置 ・ 不 要[誘導灯の有効範囲内]	設 置
そ の 他	消防用水	1 7	2 7	敷地面積（ ㎡） 床面積（ ㎡） 構造（ ） 建築物相互の外壁間の中心線からの水平距離が、1階にあっては3m以下、2階に あっては5m以下の部分を有するもので、これらの建築物の床面積を耐火建築物 （準耐火建築物・その他）にあっては15,000㎡（10,000㎡・5,000㎡）でそれぞれ除 した商の和が1以上となるものは1の建築物とみなす ・ 設置[敷地面積が20,000㎡以上かつ耐火建築物で15,000㎡以上] ○ 不 要	不 要
	連結散水設備	1 7	2 8 の 2	地階の床面積合計（ ㎡） ・ 設置[地階の床面積の合計700㎡以上] ○ 不 要	不 要
	無 窓 階		規則 5-2	避難上消火活動上有効な開口部 [別表の計算書による] ・ 各階共床面積の1/30以上有り ○床面積の1/30未満の階有り（ 3階 ）	無窓階
	緩和適用条項		3 2	・ 屋内消火栓設備 ・ 水噴霧消火栓設備等 ・ 屋外消火栓設備 ・ 消防用水 ・ 連結散水設備 ・ 自動火災警報装置	該当無し
危 険 物	危険物の貯蔵・取扱い制限等	1 0		軽油・重油・潤滑油等の使用量及び保管場所（A重油）	該当無し
	(危険物の規制に関する政令)			・ 少量危険物 ・ 一般取扱所 室名（ ） ・ 貯 蔵 所	該当無し
				危険物の量（ ） 構造及び仕上（ ）	該当無し

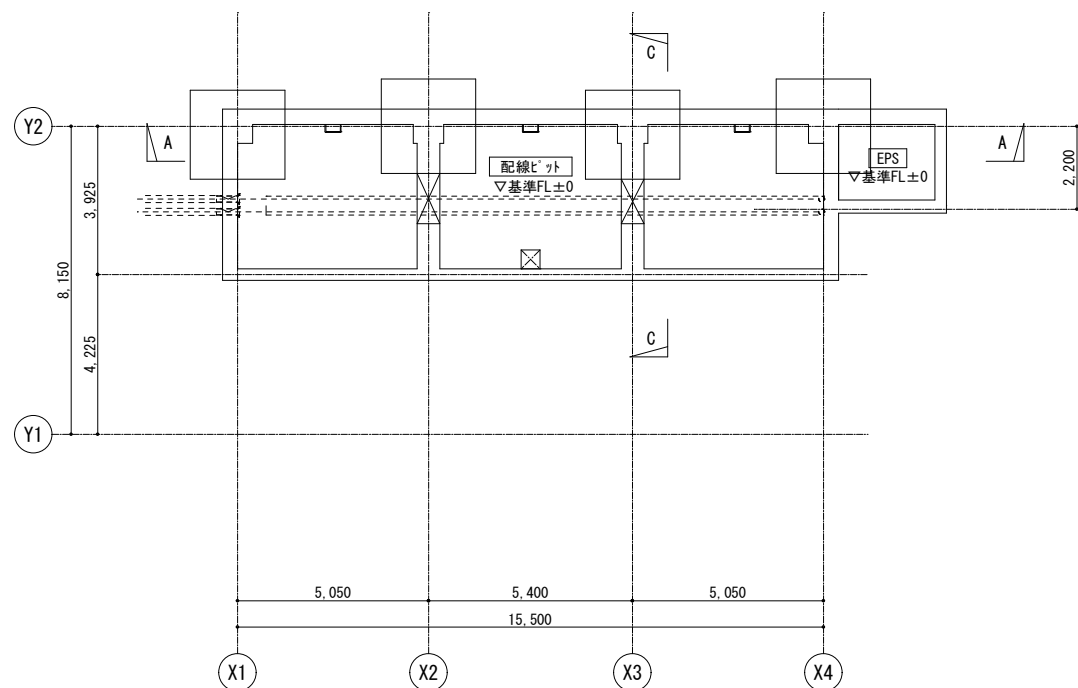
工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	法規チェックリスト		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	-	図面番号	A-14
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



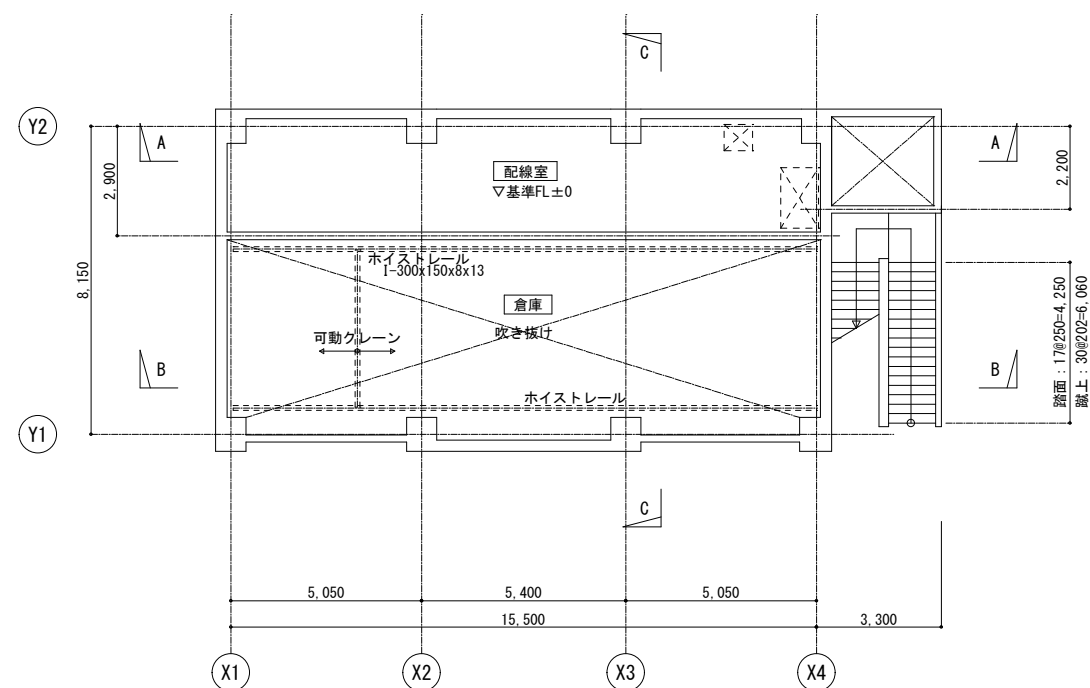
1 F 平面図 (下部) 1/100
基準FL : GL+100



2 F 平面図 1/100
基準FL : GL+6,200



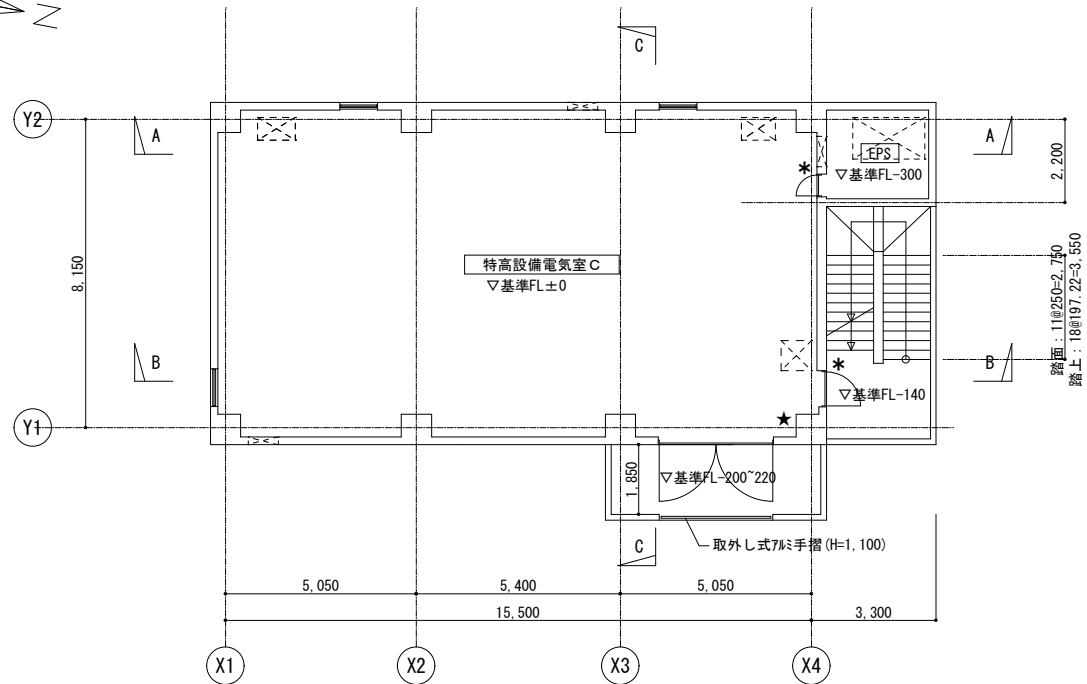
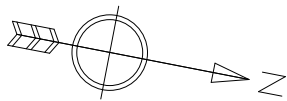
B 1 F 平面図 1/100
基準FL : GL-2,300



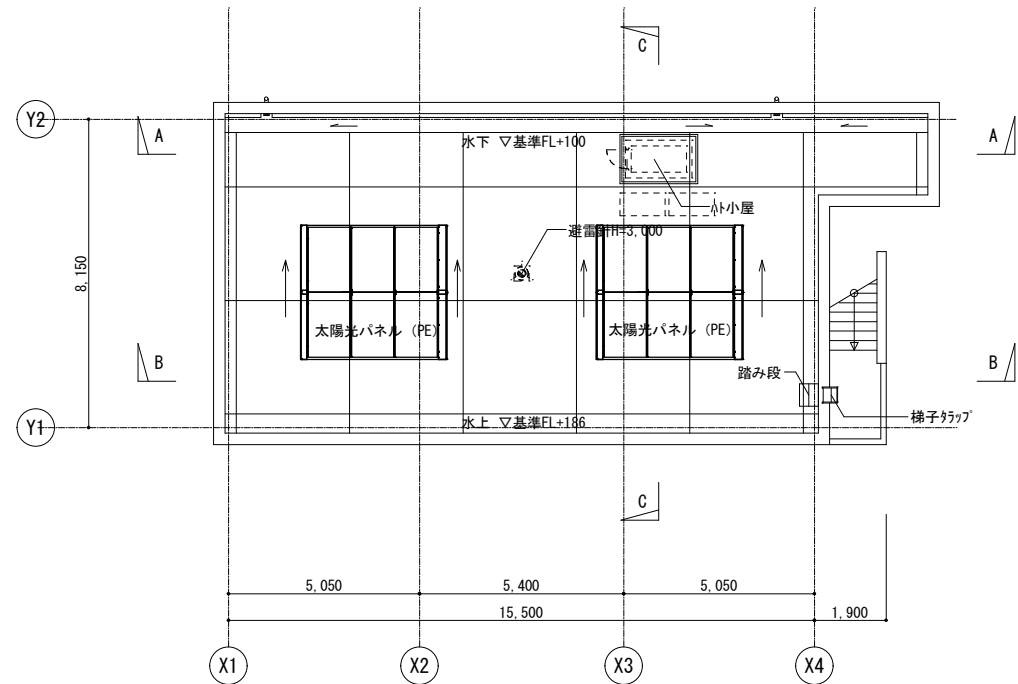
1 F 平面図 (上部) 1/100
基準FL : GL+3,000

- * : 室名札設置
- ★ : 消火器 ABC10型 (壁掛け) 表示板共

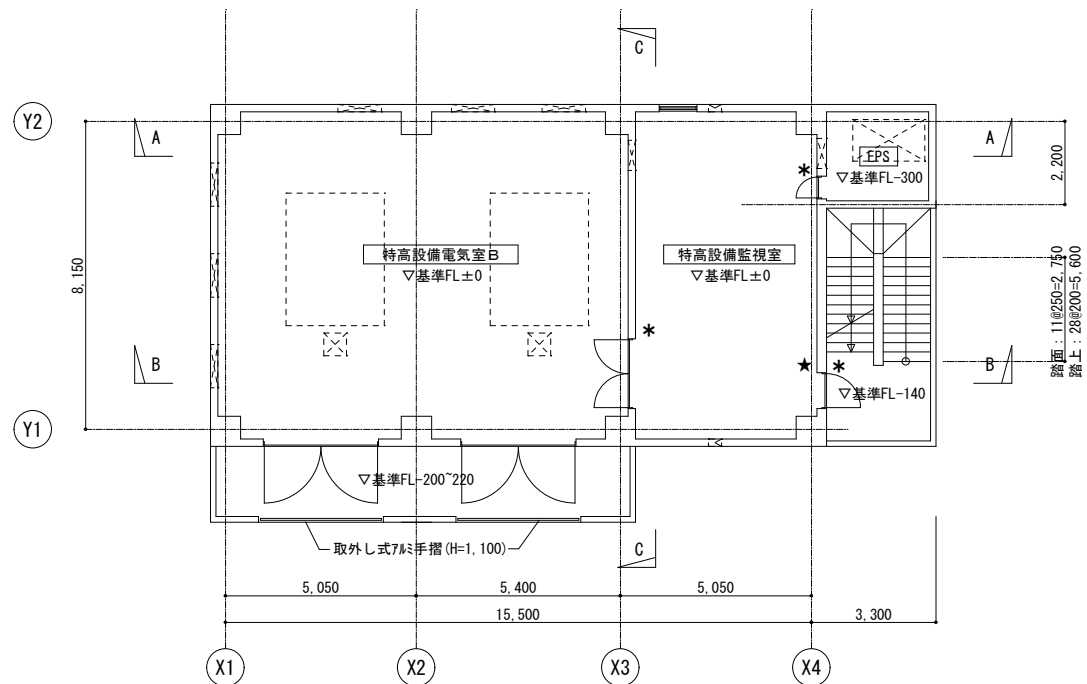
工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	平面図 (1)		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1/100	図面番号	A-15
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



4 F 平面図 1/100
基準FL : GL+16,700



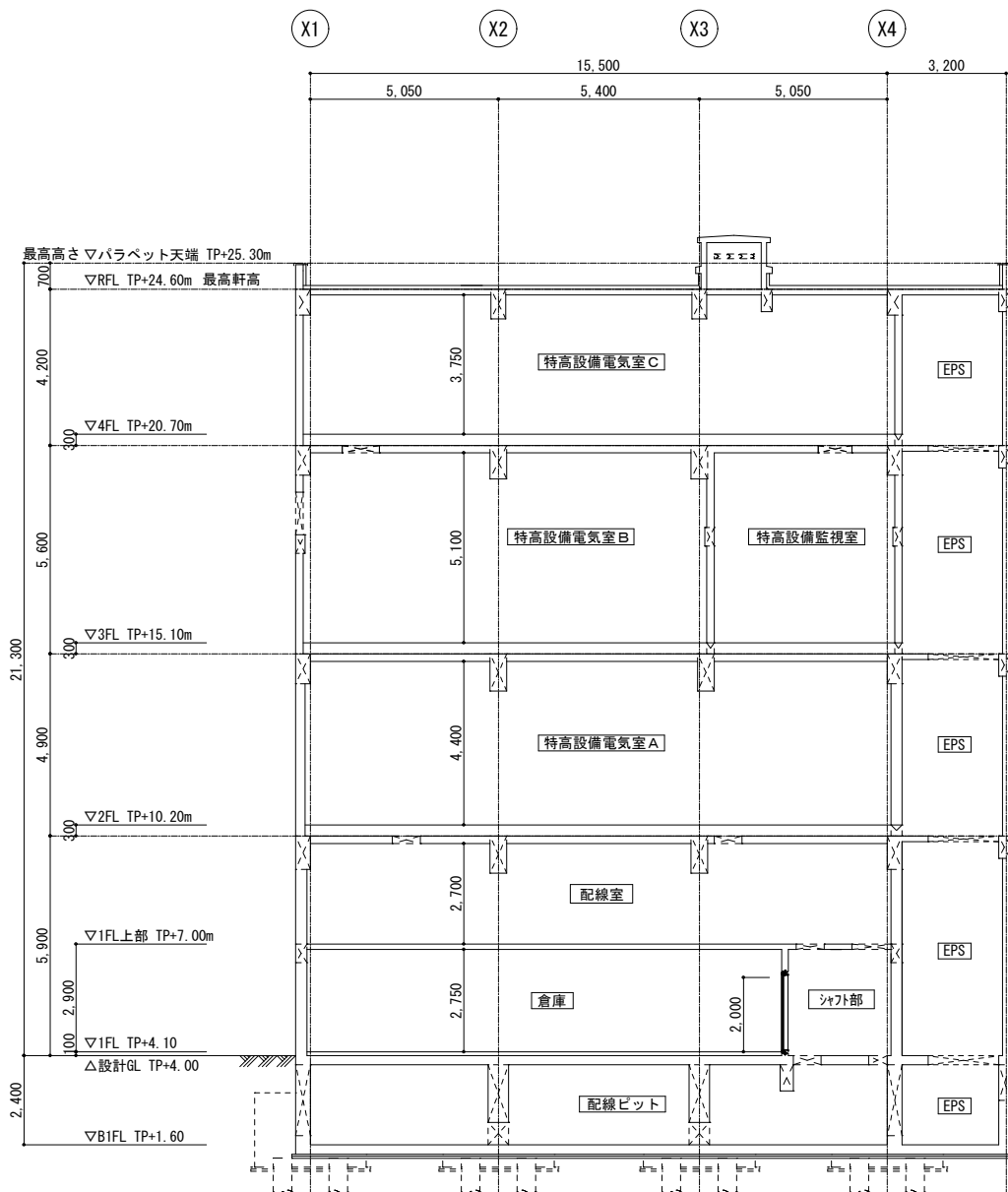
RF 平面図 1/100
基準FL : GL+20,600



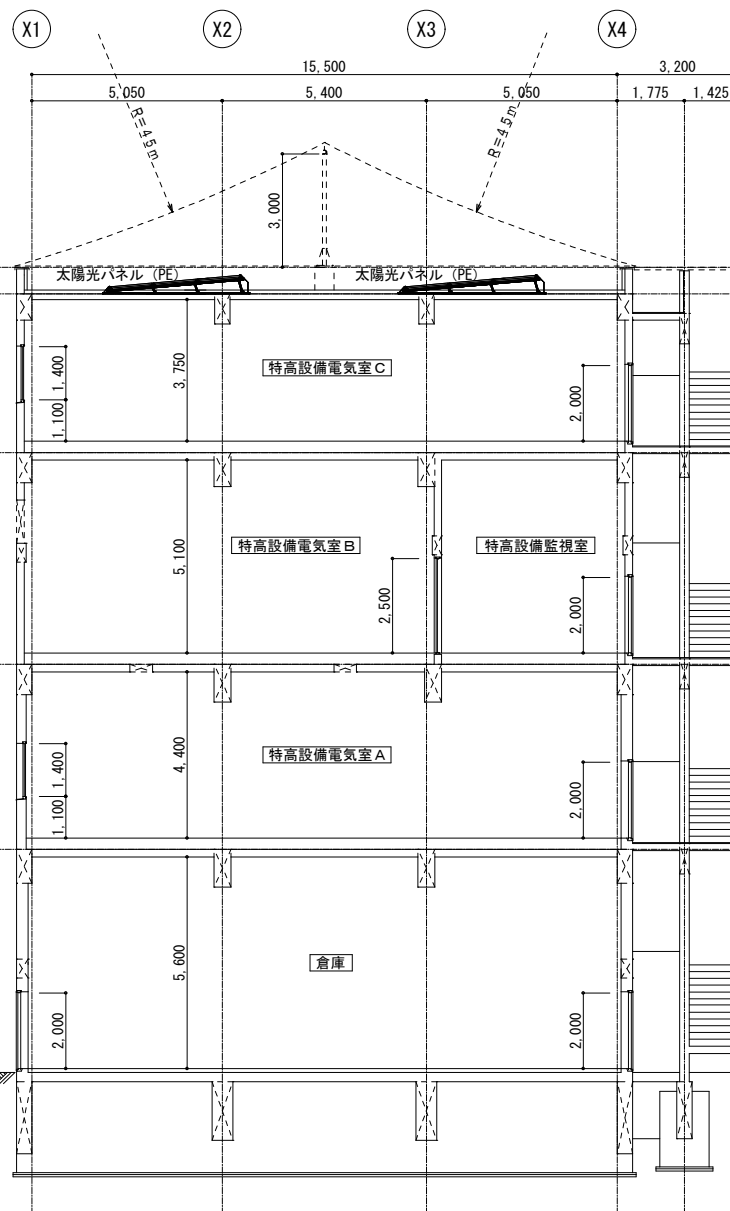
3 F 平面図 1/100
基準FL : GL+11,100

- * : 室名札設置
- ★ : 消火器 ABC10型(壁掛け) 表示板共

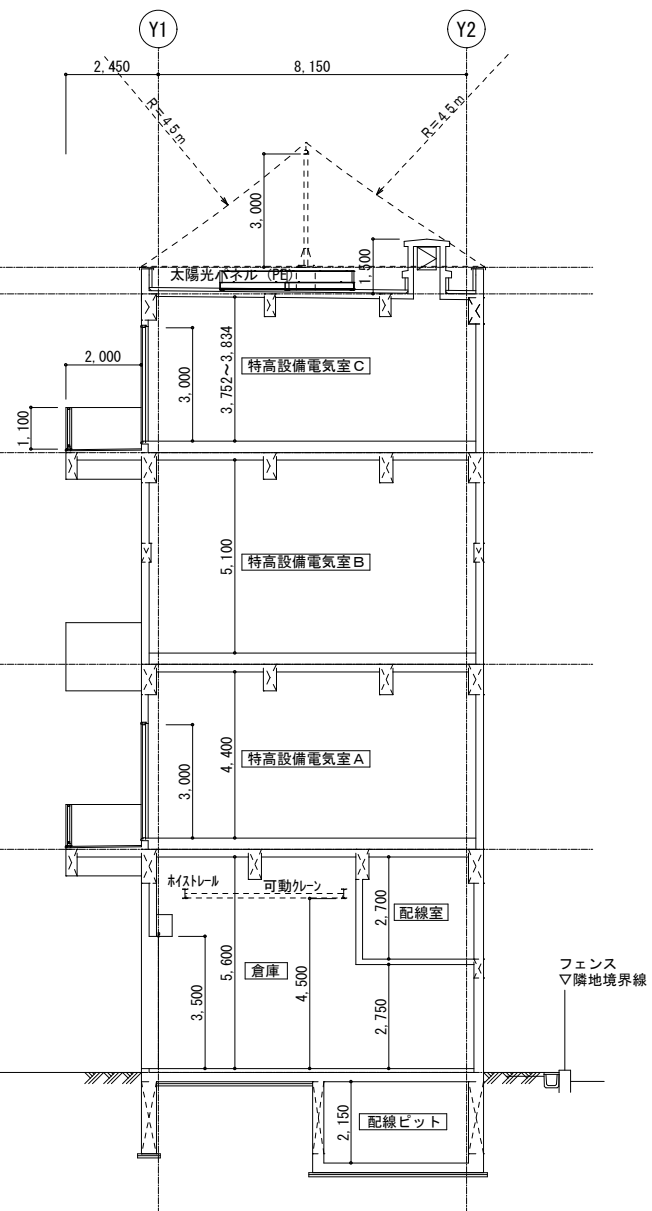
工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	平面図 (2)		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1/100	図面番号	A-16
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



A-A断面図 1/100

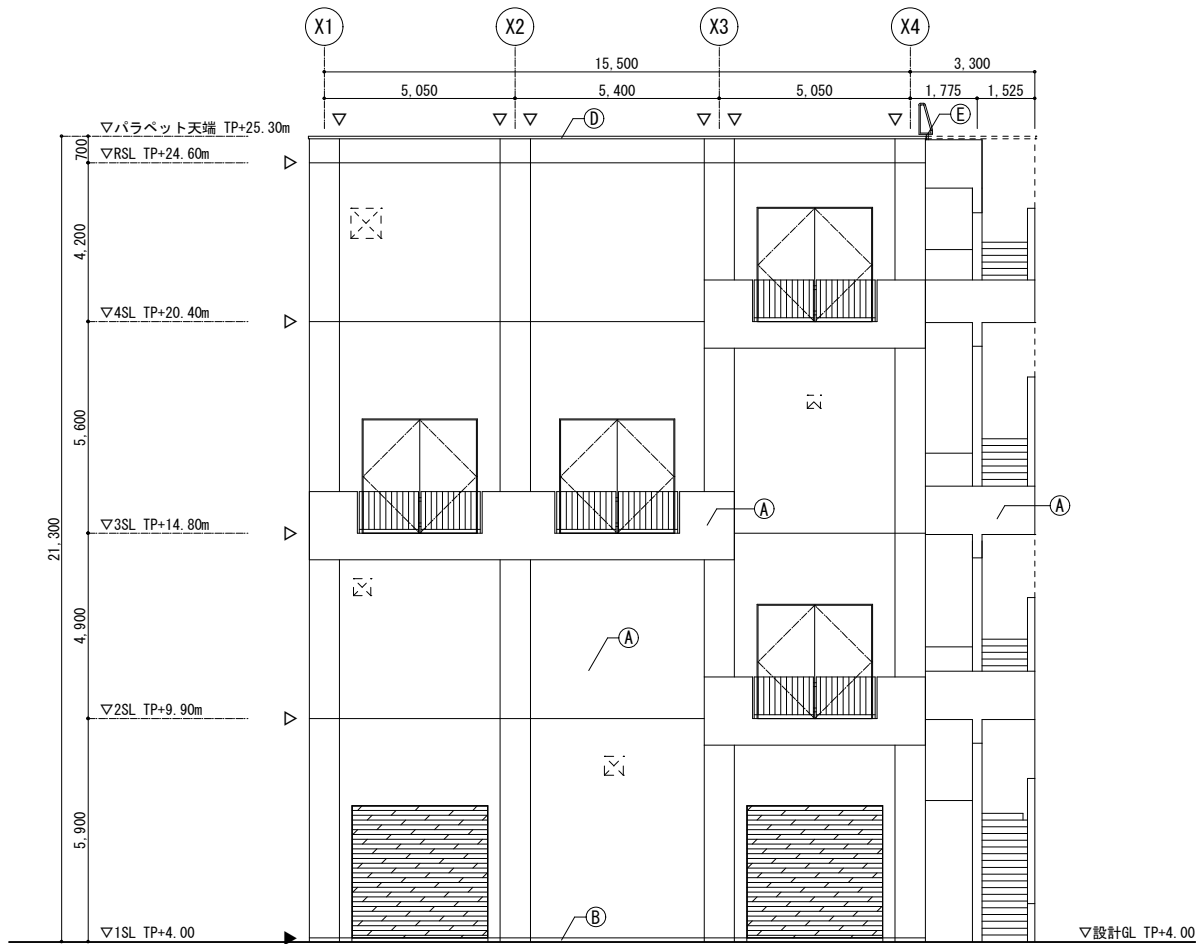


B-B断面図 1/100

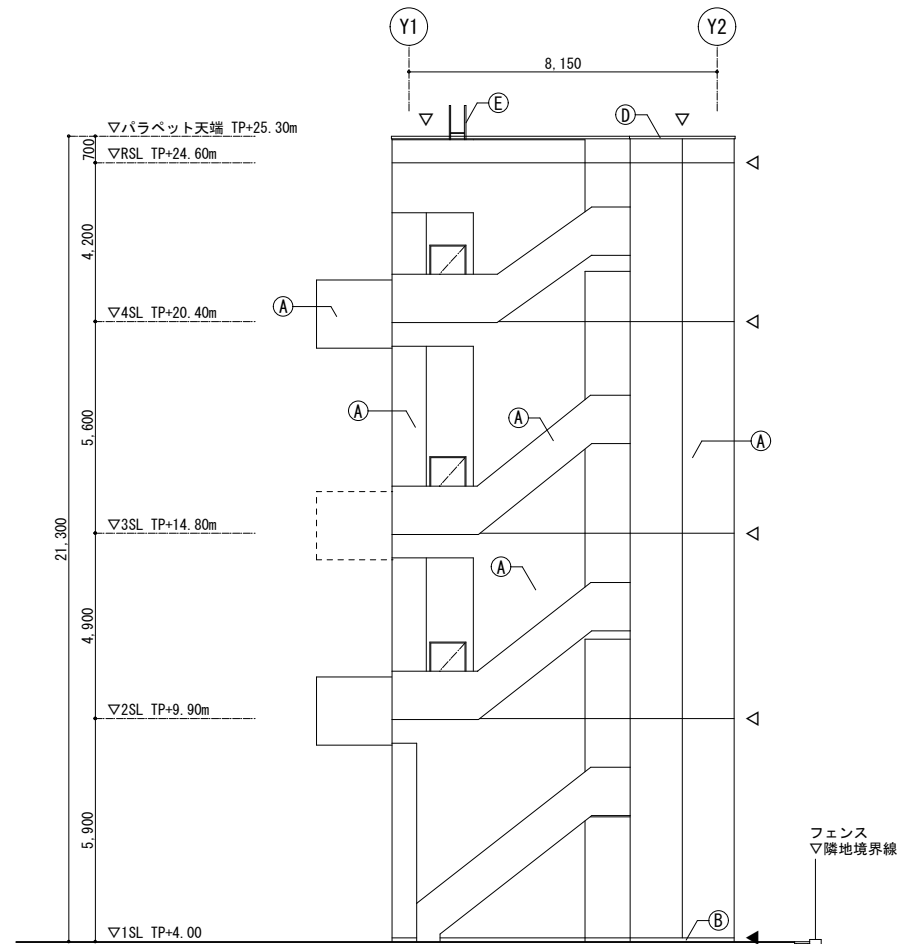


C-C断面図 1/100

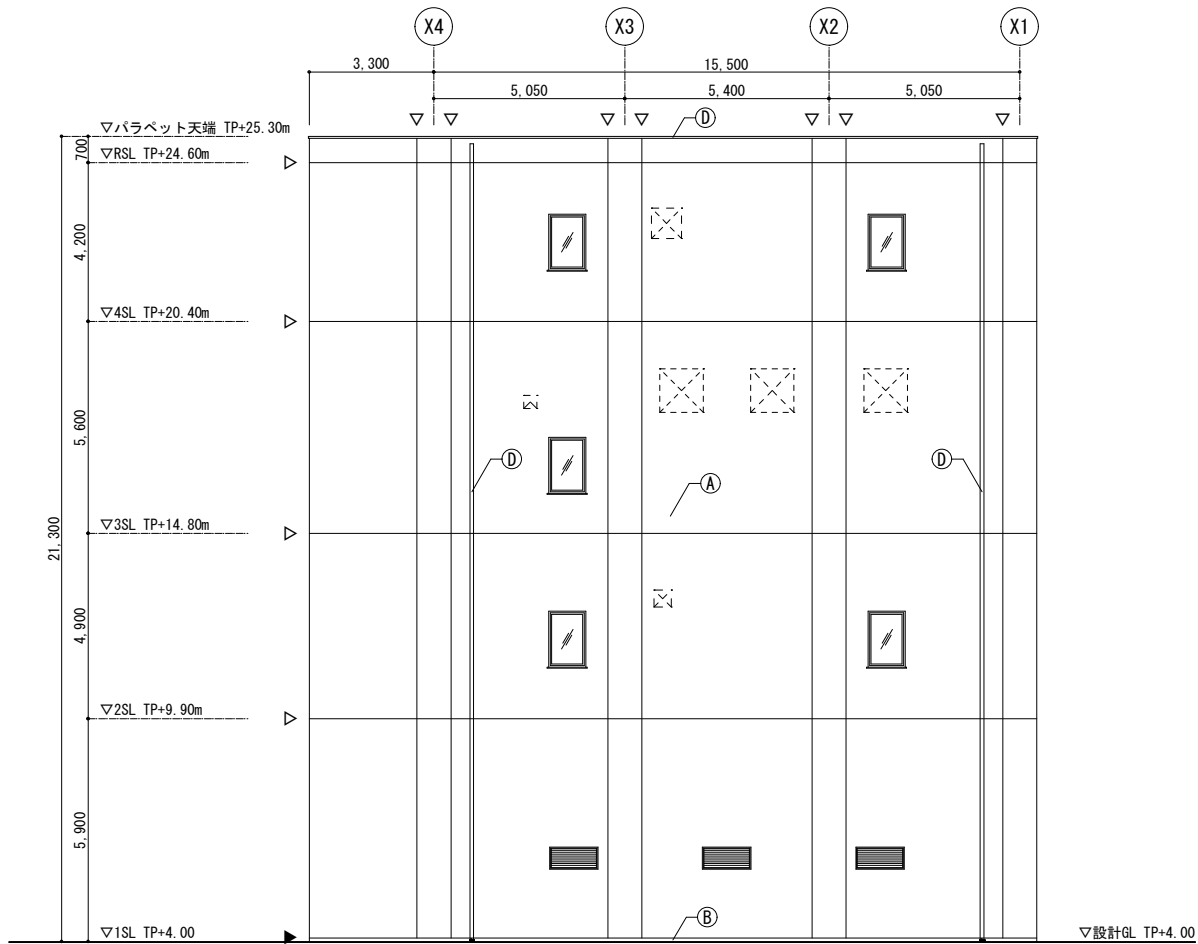
工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	断面図		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1/100	図面番号	A-17
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



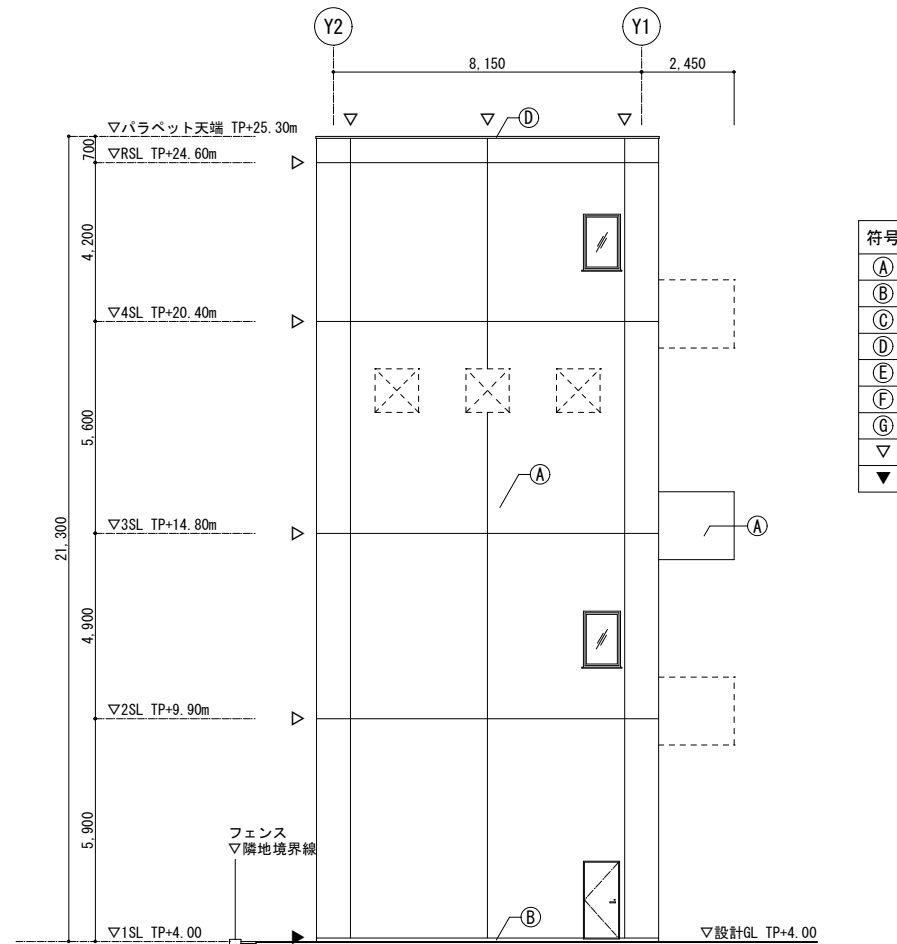
東側立面図 S=1/100



北側立面図 S=1/100



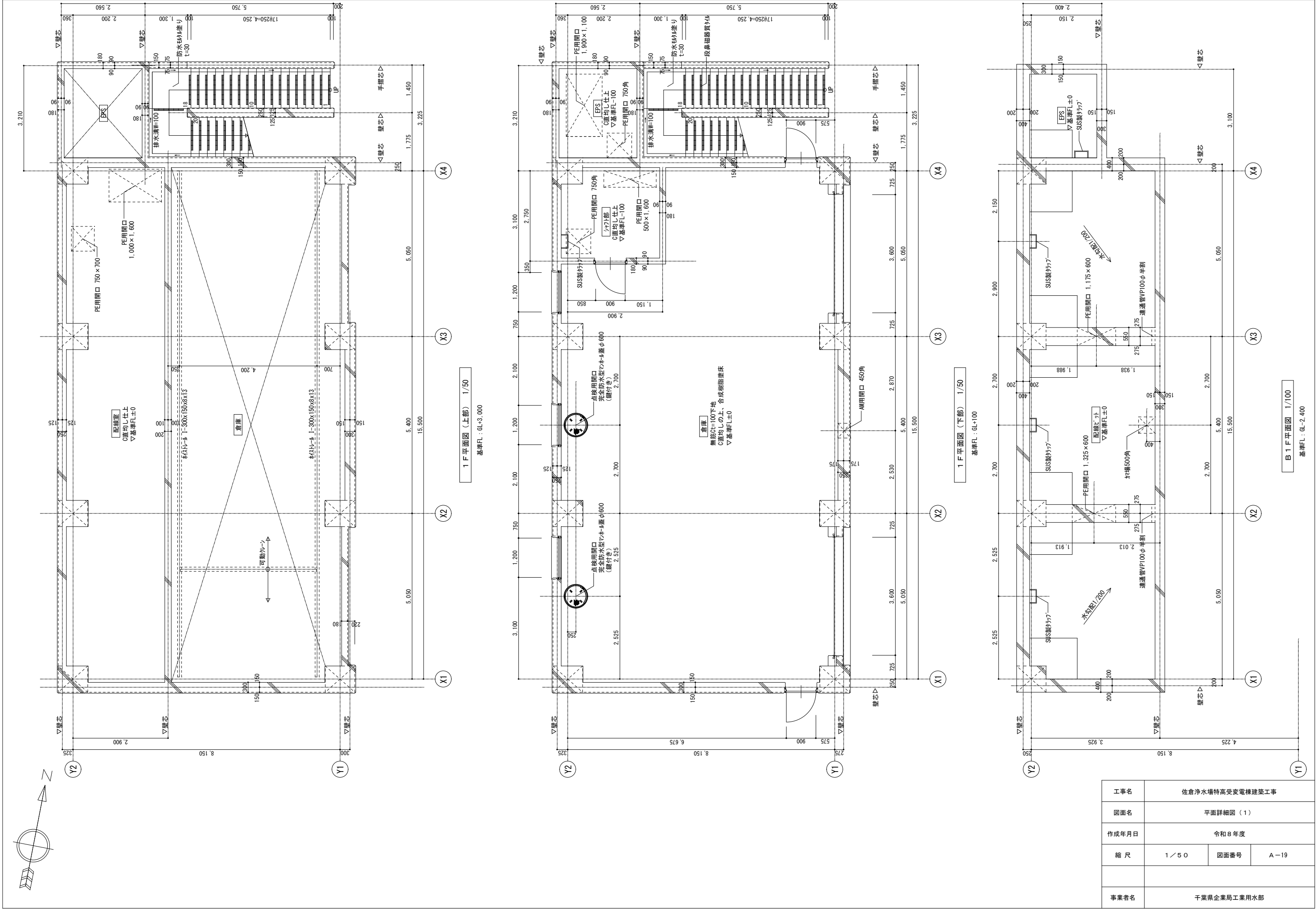
西側立面図 S=1/100

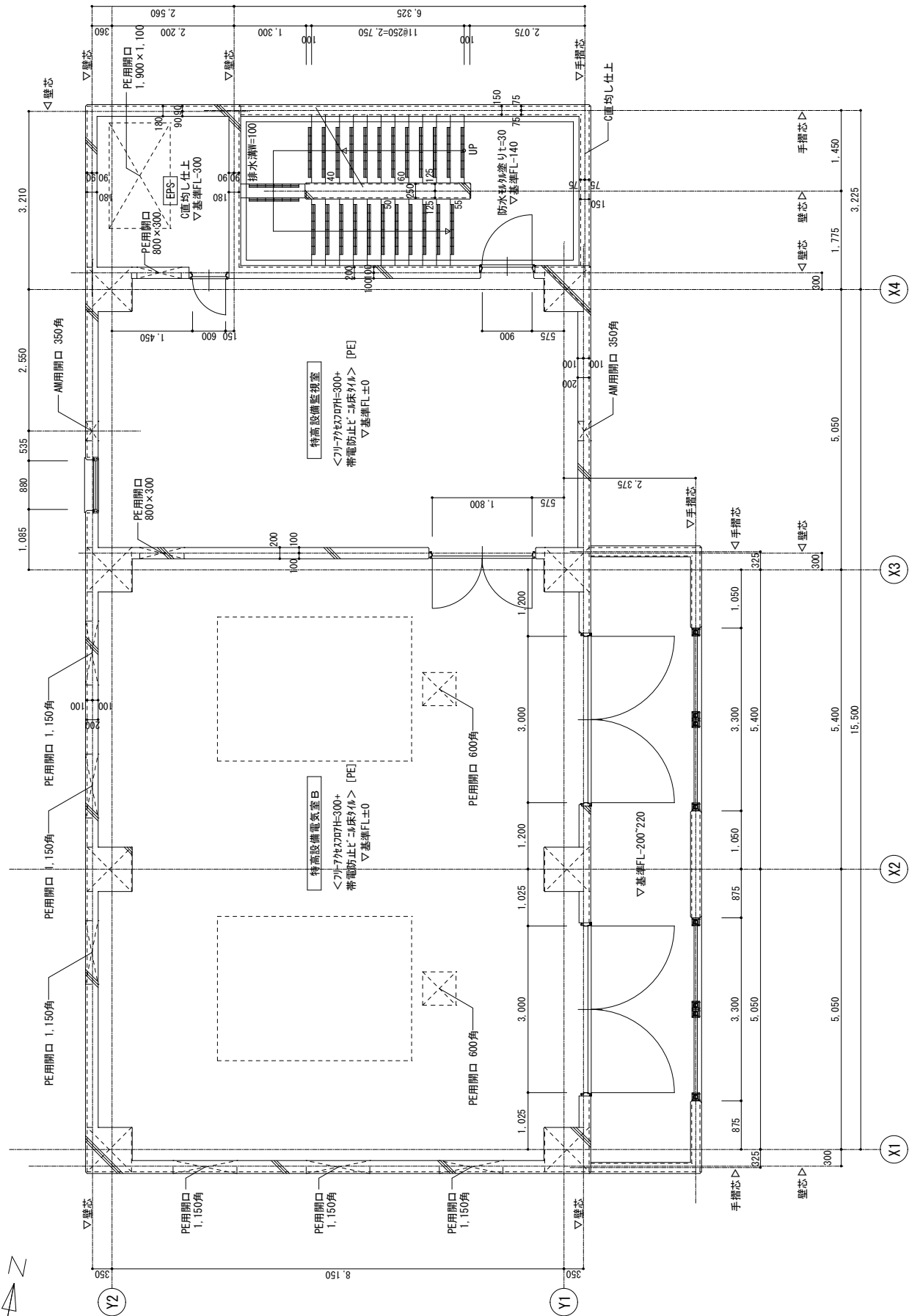
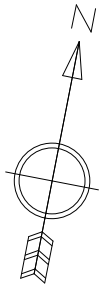


南側立面図 S=1/100

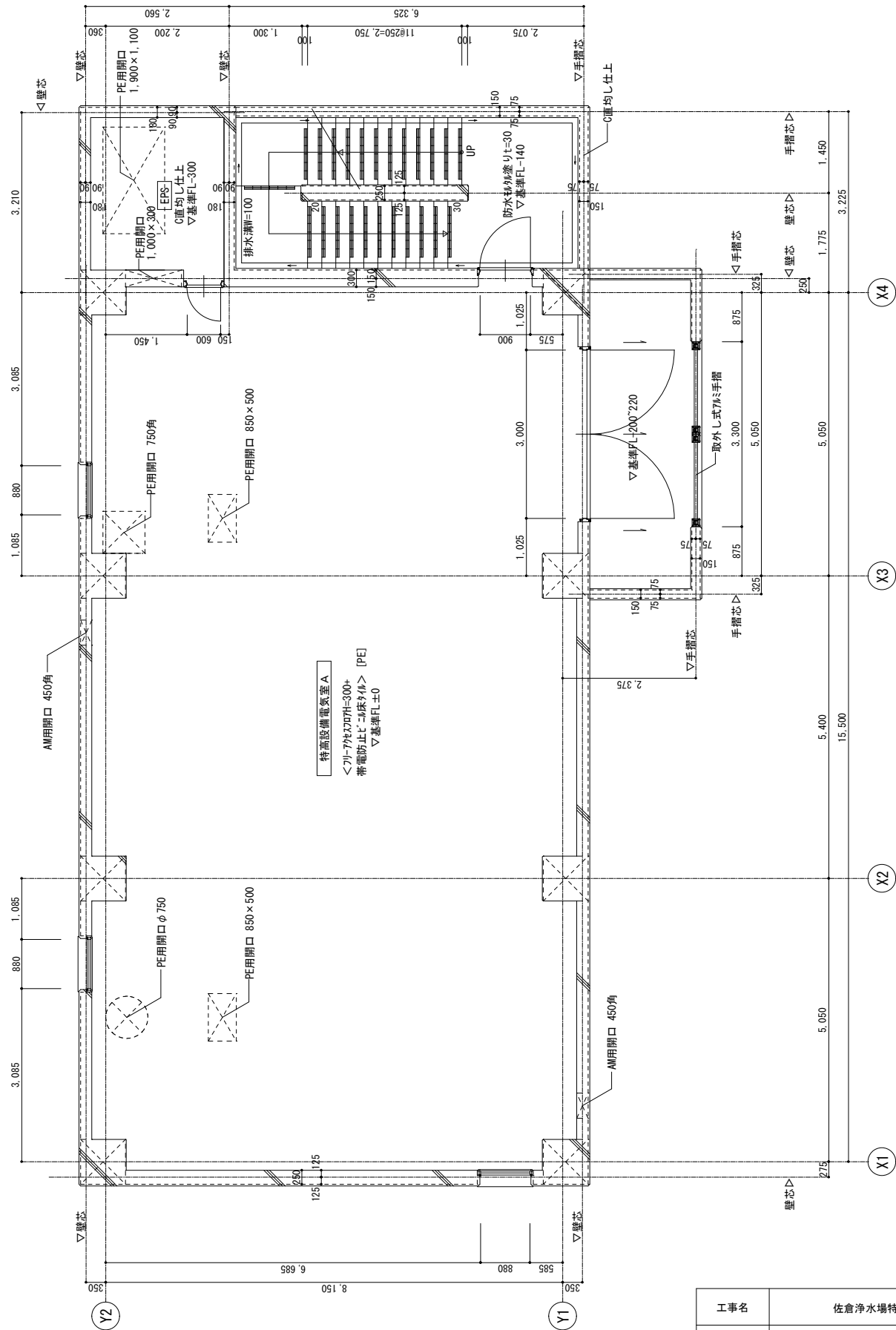
符号	外 部 仕 上
(A)	C打放し(B) 増打t=30 複層塗材(E)
(B)	C打放し(B) 増打t=30
(C)	アルミ製笠木 W=350
(D)	縦樋：カラ-VP φ100
(E)	ステンレス製タラップ 頂部歩み板：ステンレス製編鋼板
(F)	
(G)	
▽	ひび割れ誘発目地 20×15×20
▼	打継目地 20×15×20

工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	立面図		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	1／100	図面番号	A-18
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



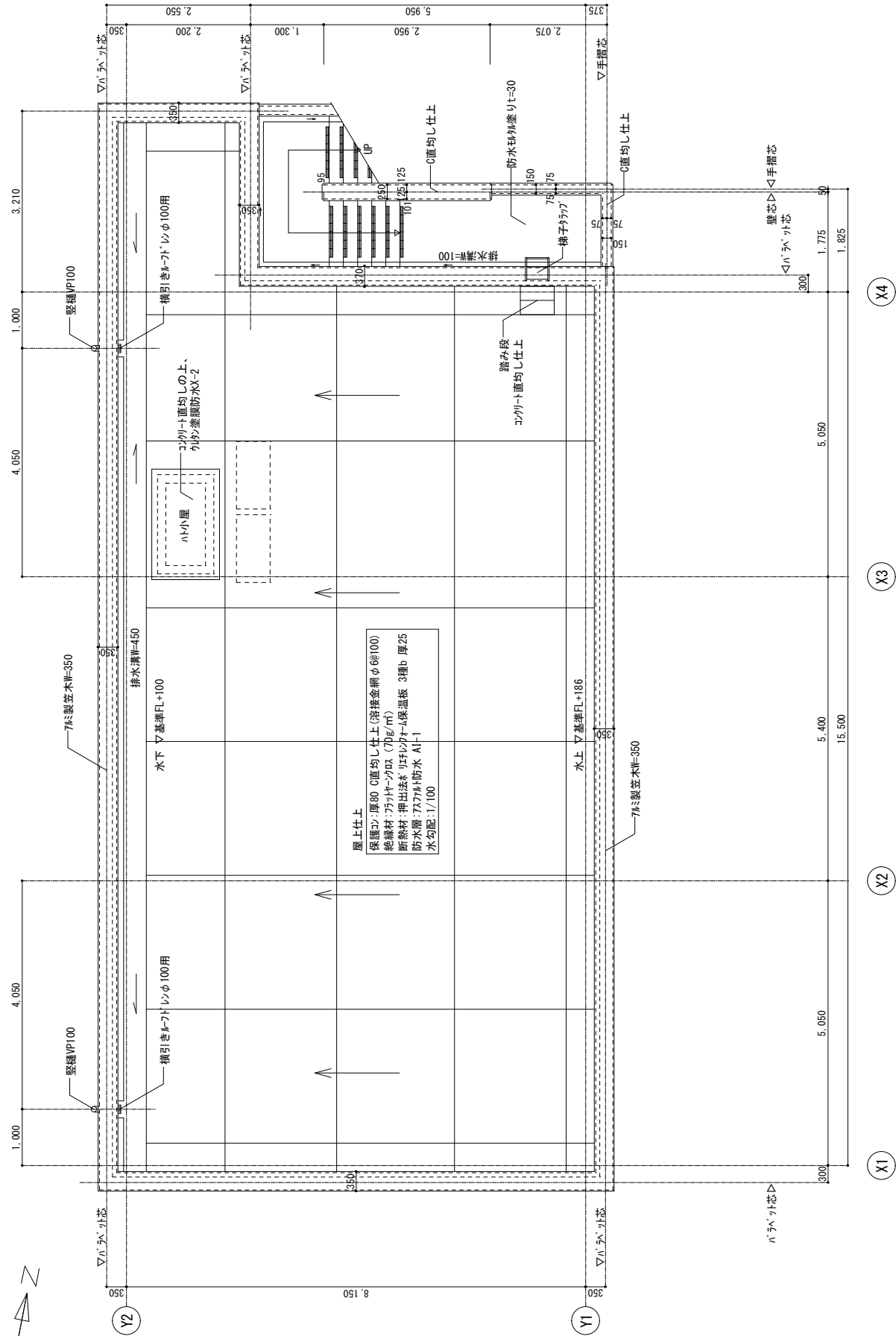
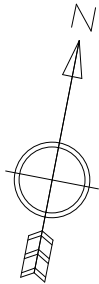


3 F 平面図 1/100
基準FL : GL+11.100

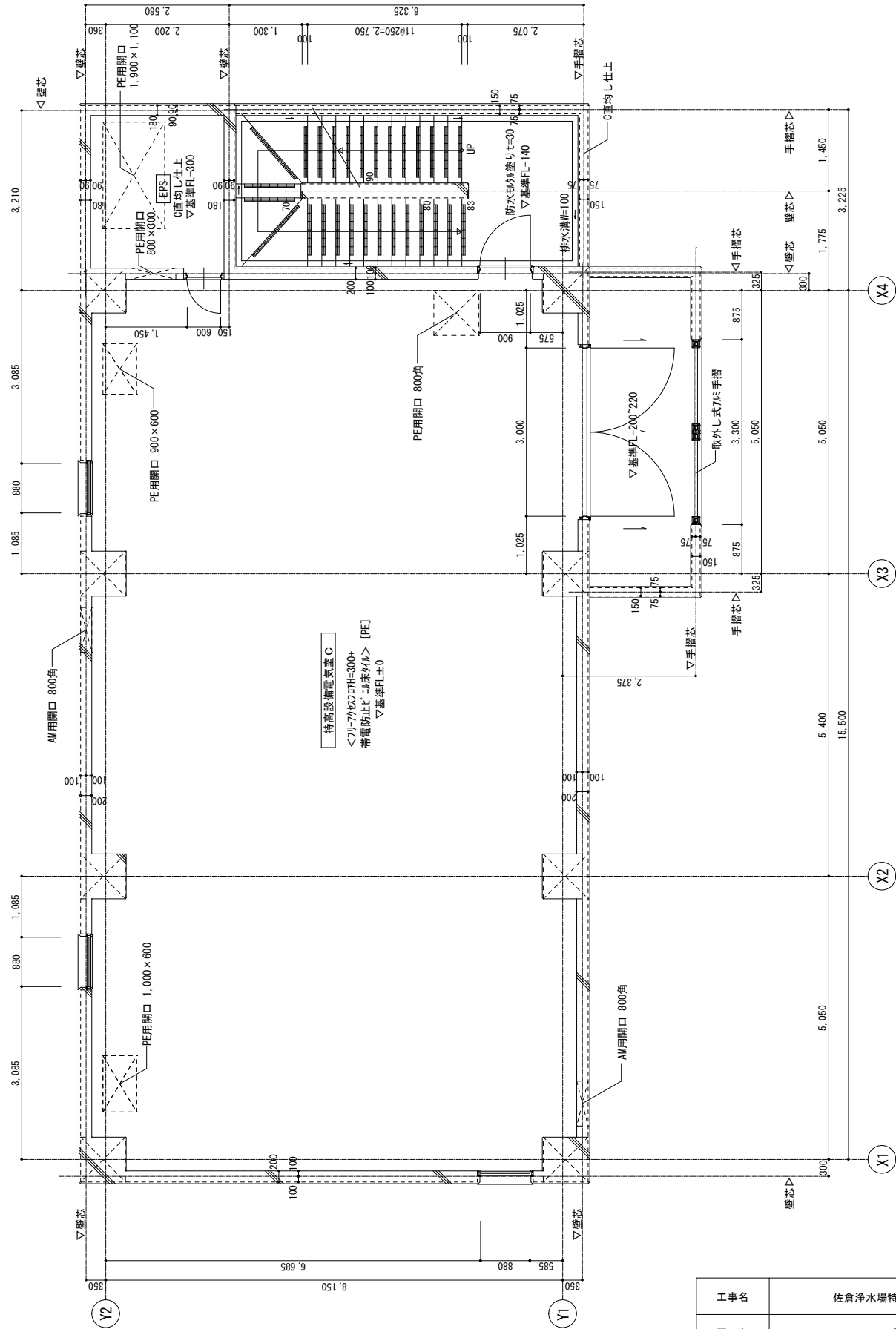


2 F 平面図 1/100
基準FL : GL+6.200

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	平面詳細図 (2)		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1/50	図面番号	A-20
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



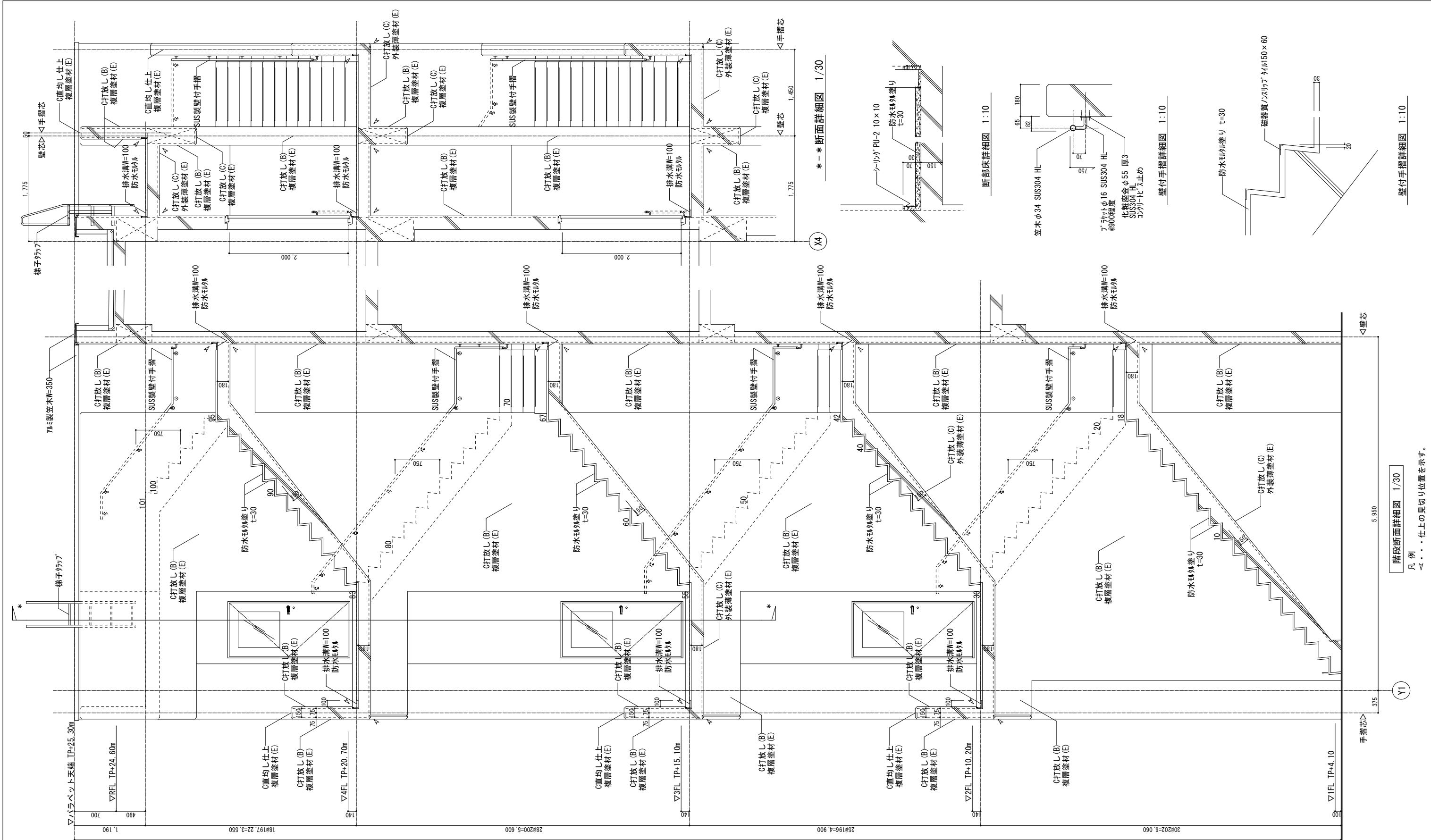
R F 平面図 1/50
基準FL : ㈬+20,600



4 F 平面図 1/50
基準FL : ㈬+16,700

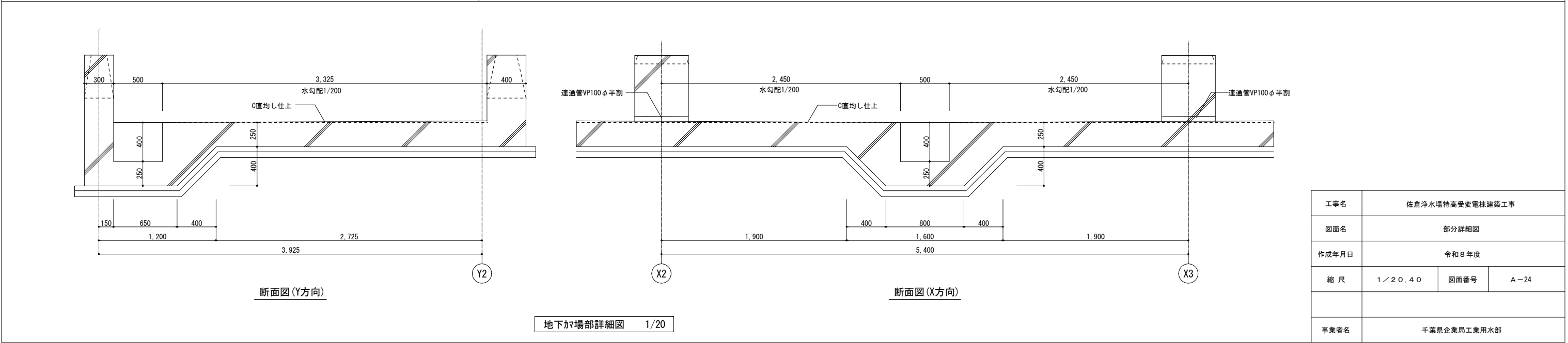
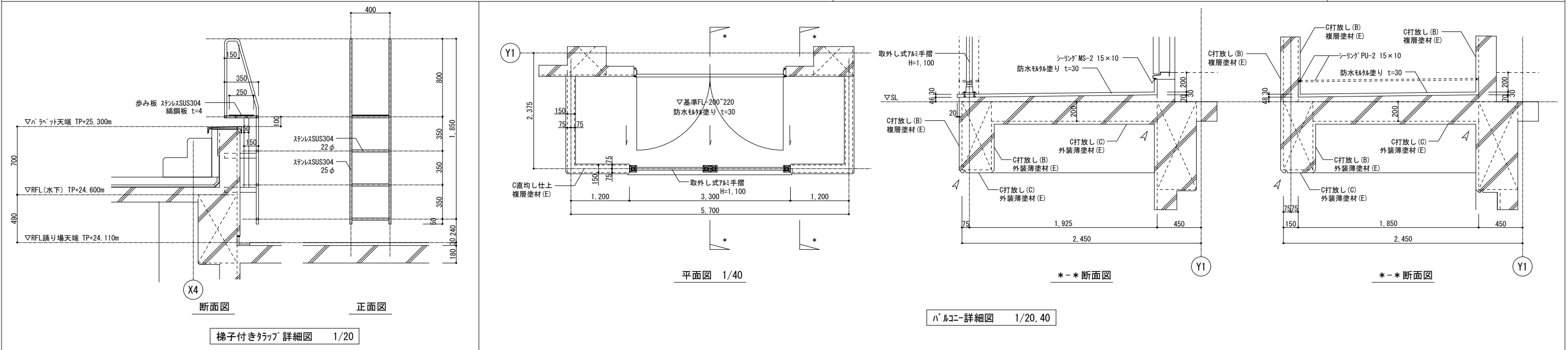
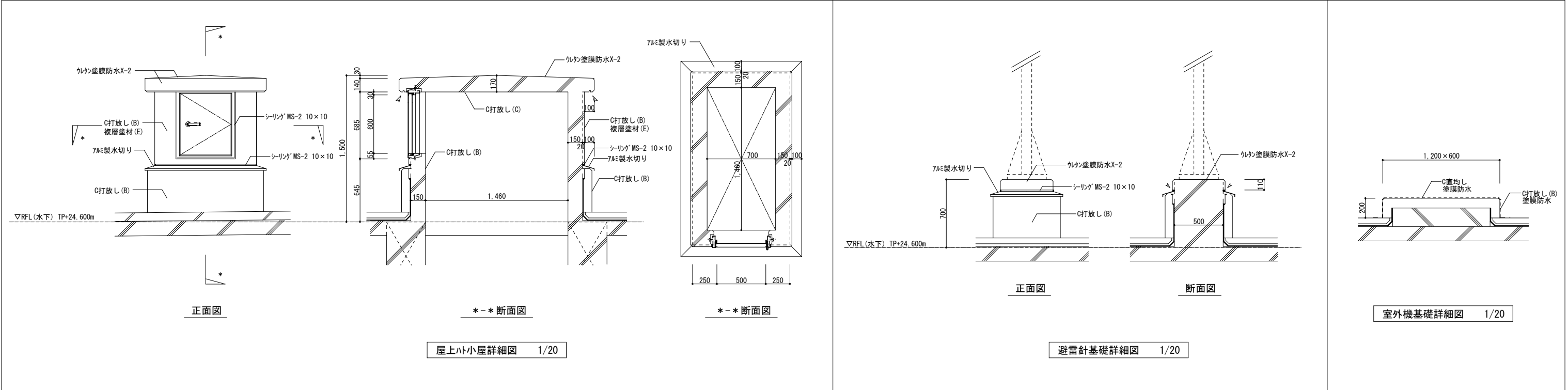
工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	平面詳細図 (3)		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1/50	図面番号	A-21
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	断面詳細図（2）		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1／30	図面番号	A-23
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



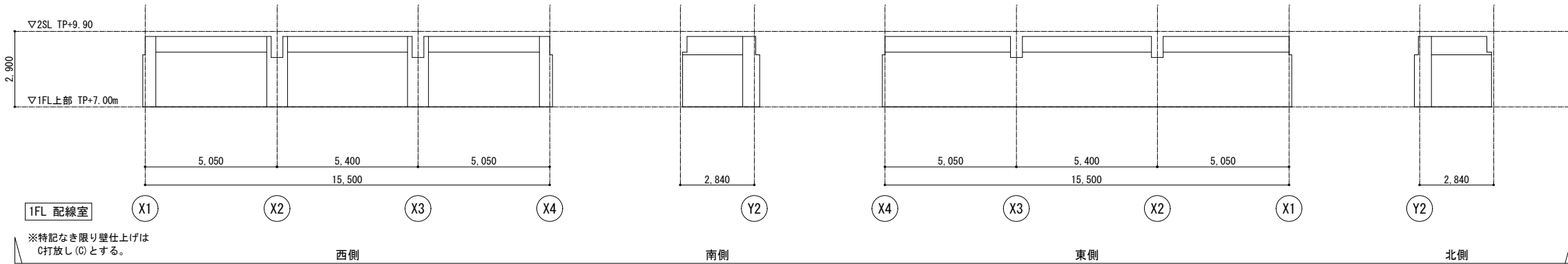
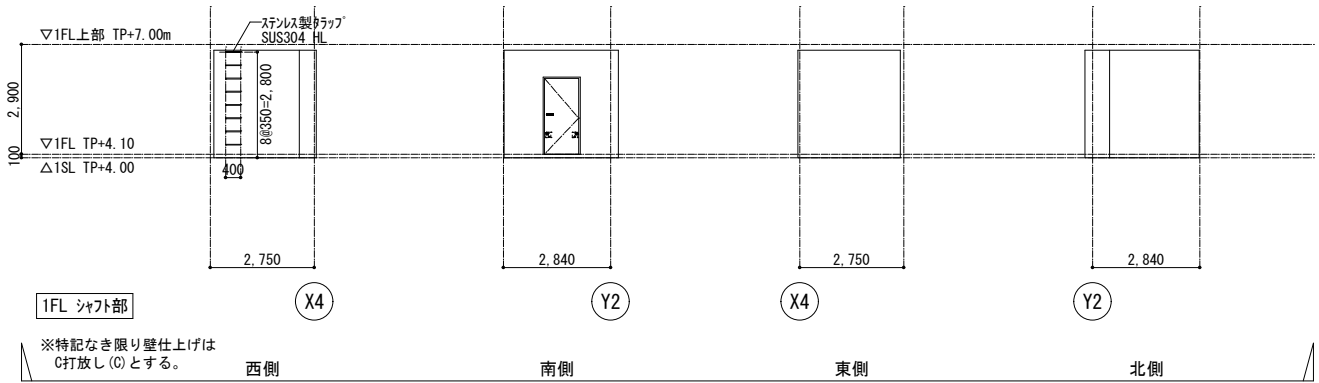
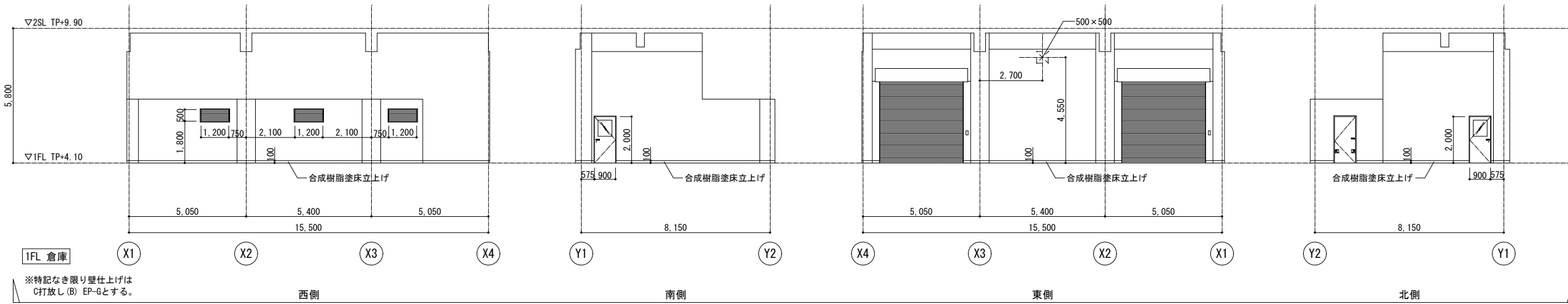
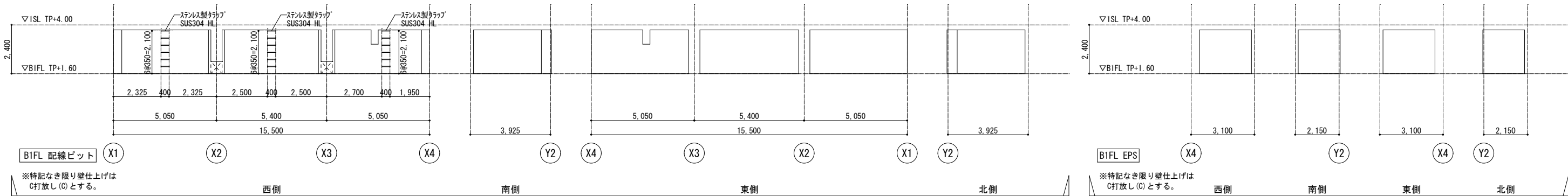
階段断面詳細図 1/30

凡例
△・・・仕上の見切り位置を示す。

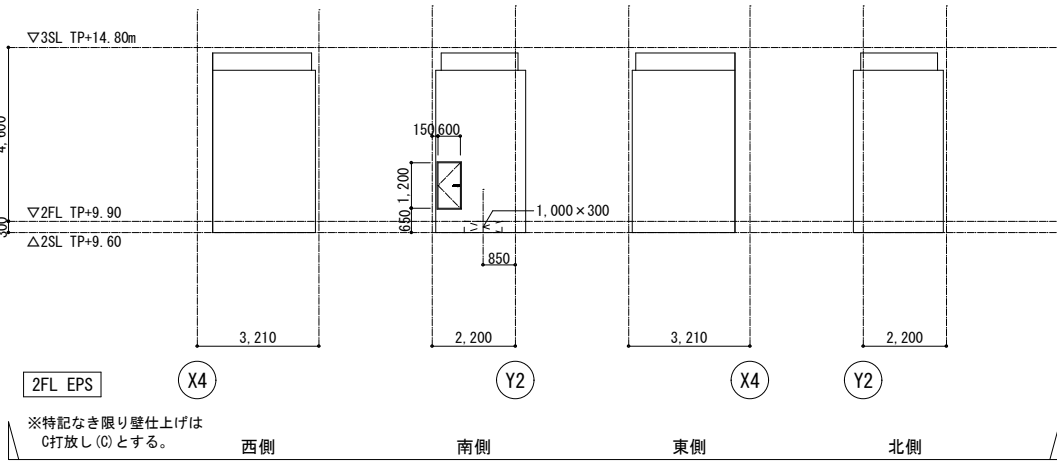
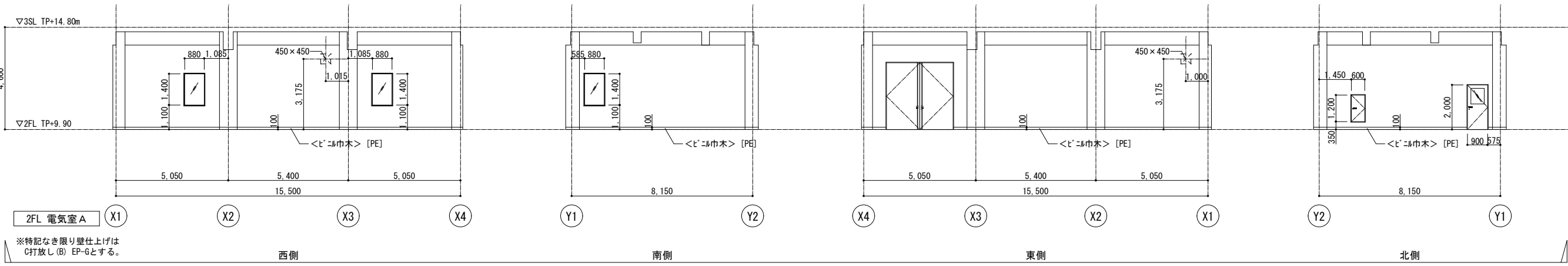
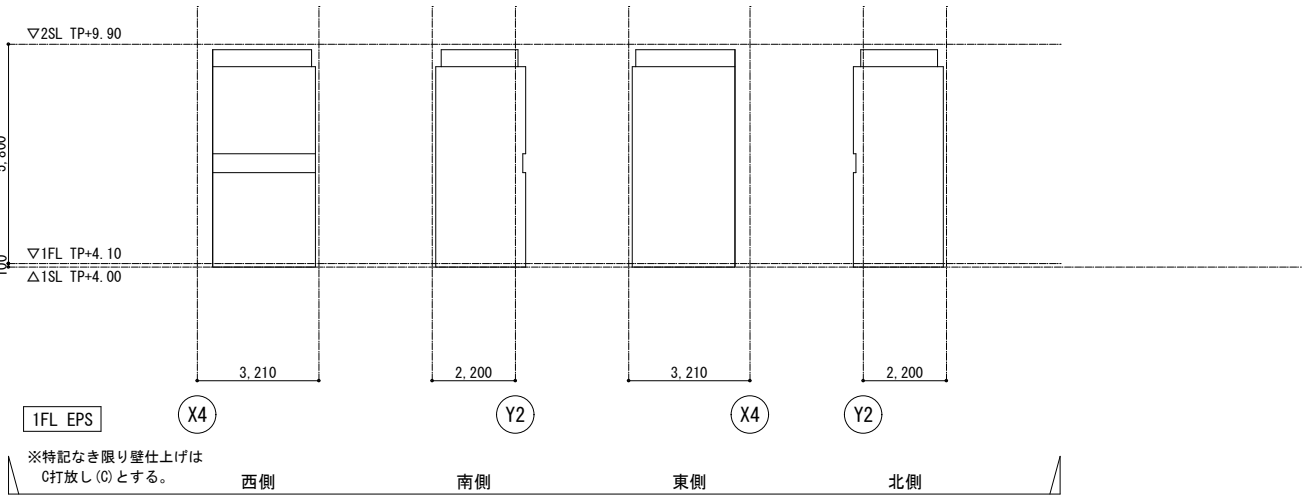


工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	部分詳細図		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1/20, 40	図面番号	A-24
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

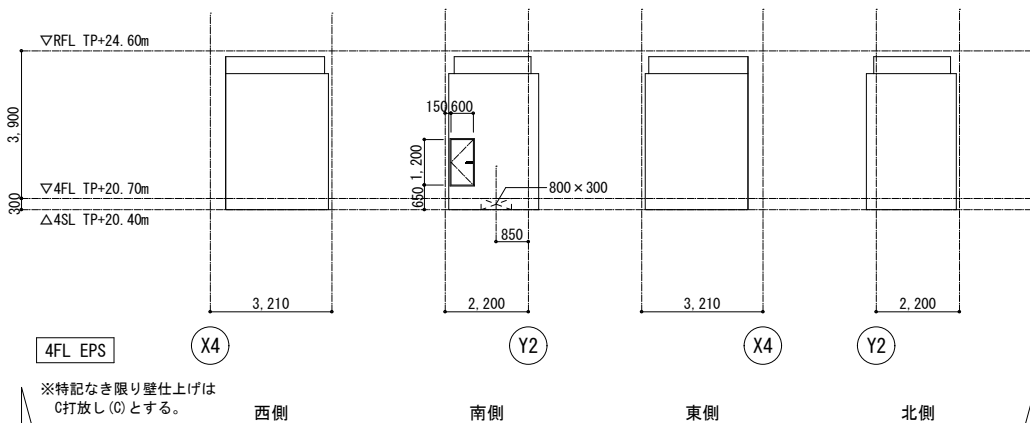
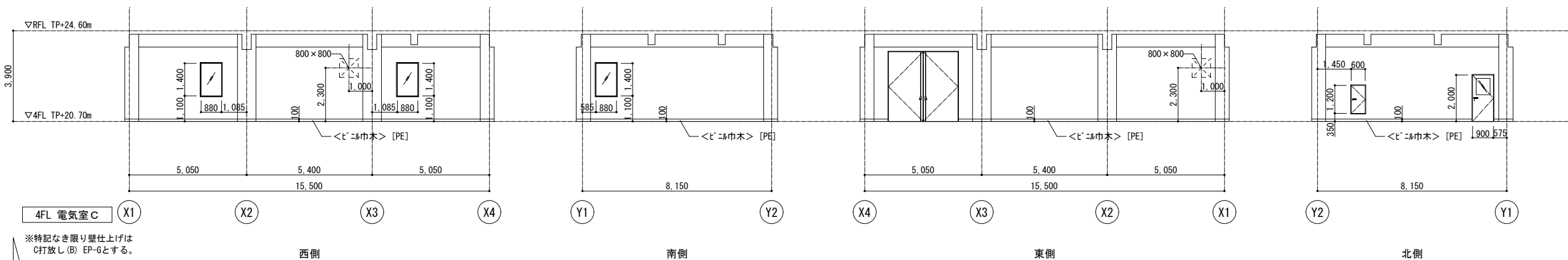
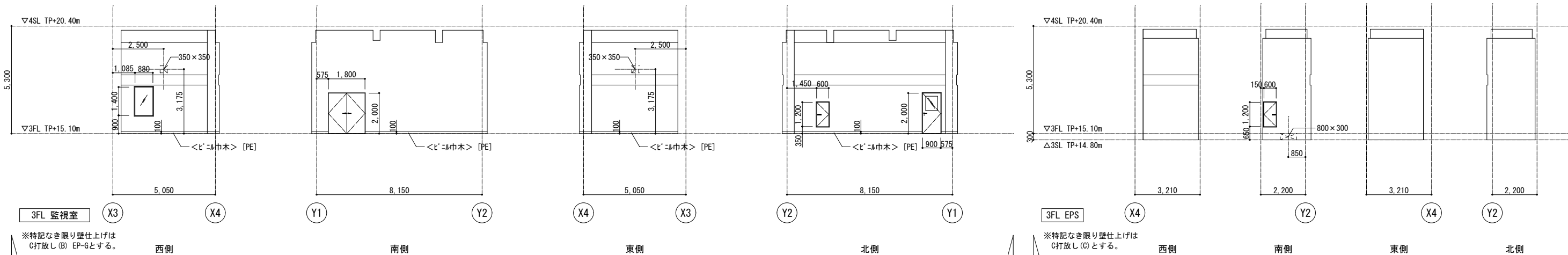
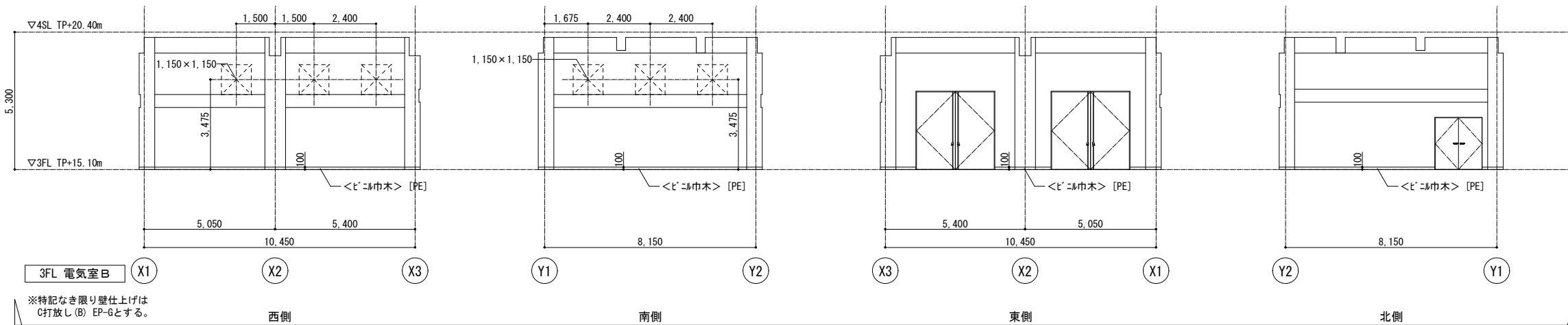
DT-1	屋上パラペット	1/10				DT-2	屋上取合い（塔屋等）	1/10																							
DT-3	屋上踏み段	1/10	DT-4	取外し式アルミ手摺	1/10	DT-5	外壁目地	1/5	DT-6	シャッター詳細図	1/10																				
									<table><tr><td>工事名</td><td colspan="3">佐倉浄水場特高受変電棟建築工事</td></tr><tr><td>図面名</td><td colspan="3">基準詳細図</td></tr><tr><td>作成年月日</td><td colspan="3">令和8年度</td></tr><tr><td>縮尺</td><td>1/5, 10</td><td>図面番号</td><td>A-25</td></tr><tr><td>事業者名</td><td colspan="3">千葉県企業局工業用水部</td></tr></table>			工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事			図面名	基準詳細図			作成年月日	令和8年度			縮尺	1/5, 10	図面番号	A-25	事業者名	千葉県企業局工業用水部		
工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事																														
図面名	基準詳細図																														
作成年月日	令和8年度																														
縮尺	1/5, 10	図面番号	A-25																												
事業者名	千葉県企業局工業用水部																														



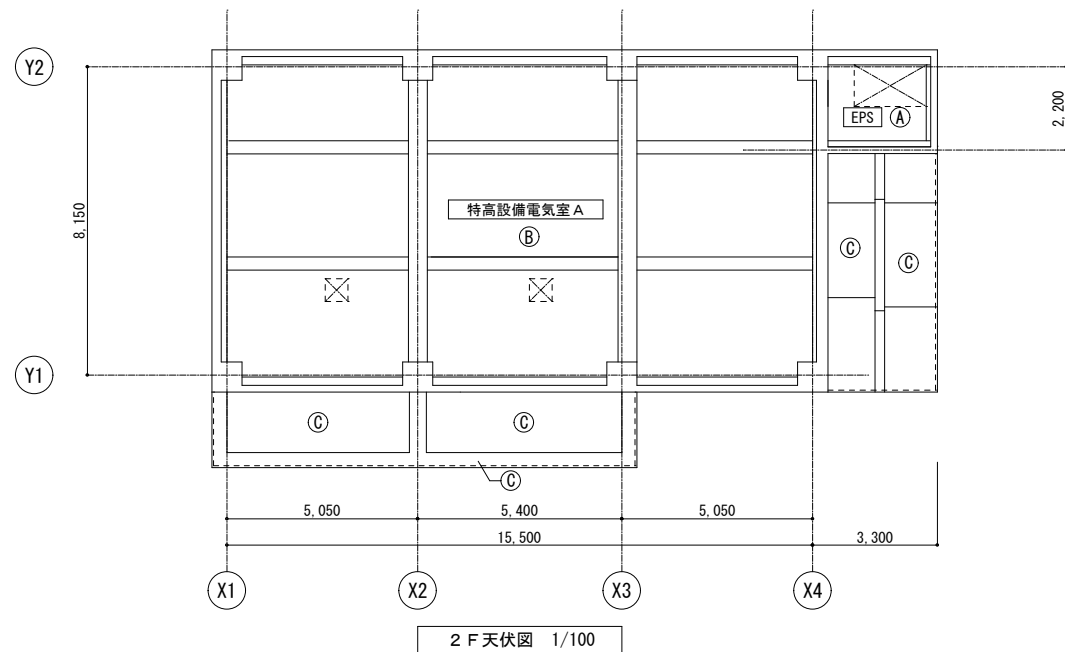
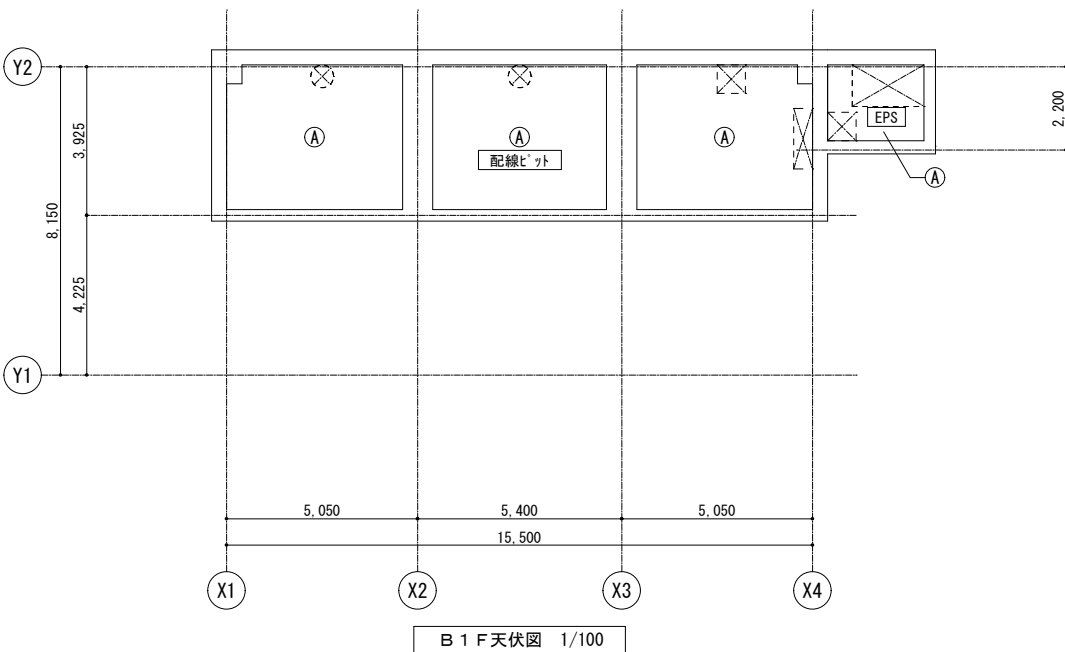
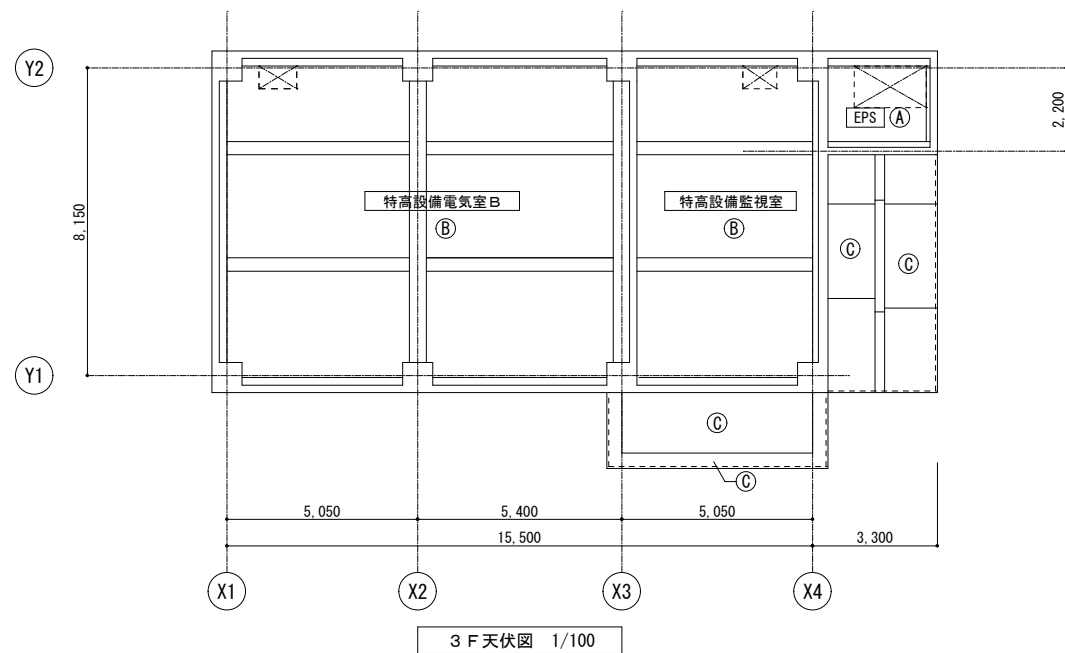
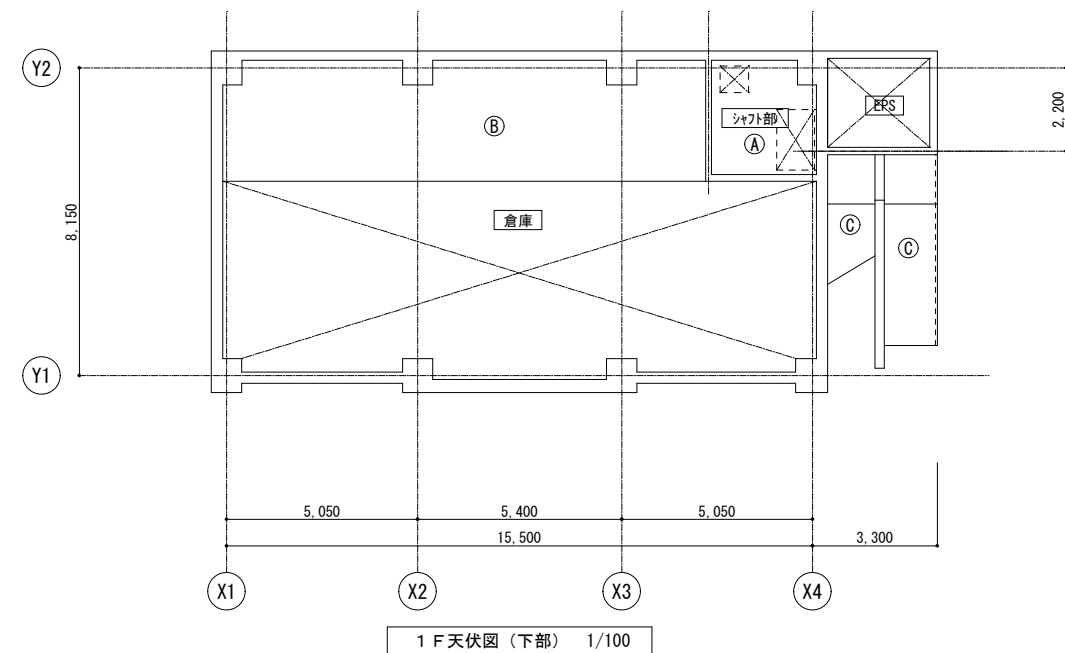
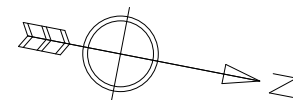
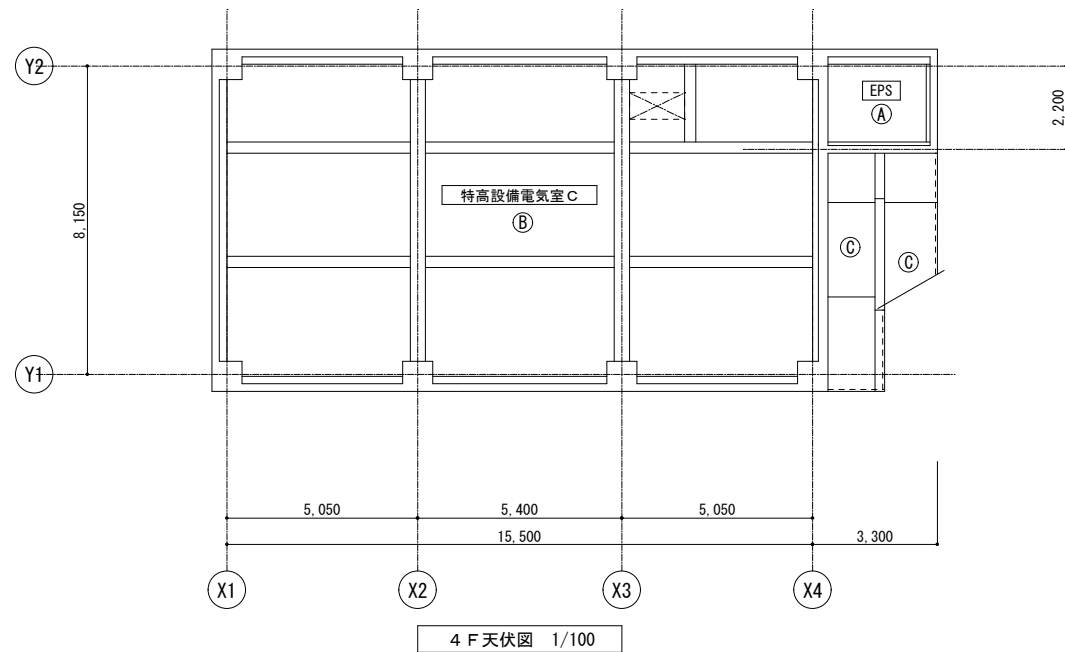
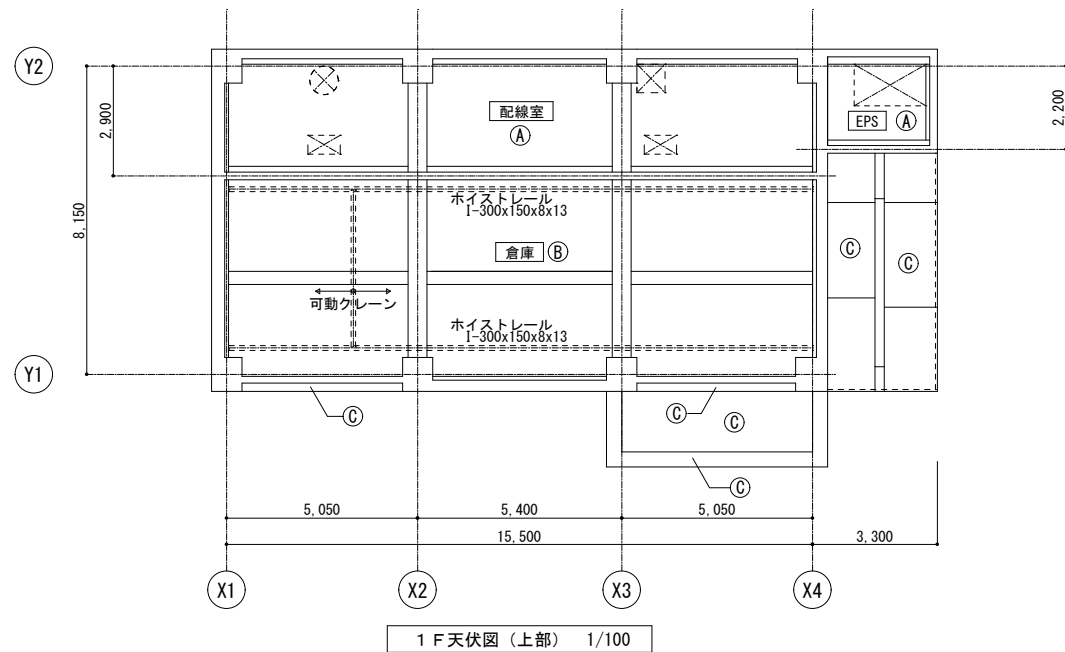
工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	展開図 (1)		
作成年月日	令和 8 年度		
縮 尺	1 / 1 0 0	図面番号	A - 26
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	展開図（2）		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1／100	図面番号	A-27
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	展開図 (3)		
作成年月日	令和 8 年度		
縮 尺	1 / 1 0 0	図面番号	A - 28
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



符号	外 部 仕 上
Ⓐ	C打放し(C)
Ⓑ	C打放し(C) EP-G
Ⓒ	C打放し(C) 外装薄塗材(E)
◎	ホイストレール支持位置
※特記なき限り梁下面は増打t=15の上、天井仕上と同一とする。	
※特記なき限り屋外上裏面は増打t=30とする。	

工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	天井伏図		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	1／100	図面番号	A-29
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

防：防火戸

1階建具配置図 S=1/200

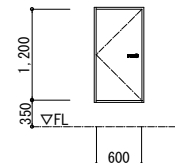
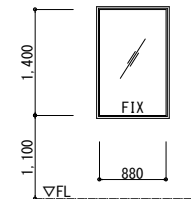
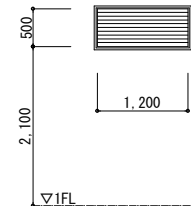
2階建具配置図 S=1/200

3階建具配置図 S=1/200

4階建具配置図 S=1/200

R階建具配置図 S=1/200

符号・名称・個数				① S.S.1	電動重量シャッター		2	① S.D.1	鋼製両開き戸 (外部用気密)		4	② S.D.2	鋼製片開き戸 (外部用気密)		5	③ S.D.3	鋼製片開き戸 (外部用簡易気密)		1	④ S.D.4	鋼製両開き戸 (内部用簡易気密)		1	⑤ S.D.5	鋼製片開き防水扉		1
場所				倉庫				特高設備電気室 A、特高設備電気室 B、特高設備電気室 C				倉庫、特高設備電気室 A、特高設備監視室、特高設備電気室 C				屋上ハト小屋				特高設備電気室 B / 特高設備監視室				倉庫 / ハト部			
仕上 (枠共)				スラット: カチー銅板 シャッター: ホックス: DP (1級)				DP (1級)				DP (1級)				DP (1級)				SOP				SOP			
建具	見込 (ランマ)			G 形スラット 厚1.6 (耐風型)				80				40				40				40				40			
	硝子 (ランマ)											P t=6.0															
	ガラリ																										
建具枠	見込	取合	沓摺	図示による				190 AT-1 a				120 AT-2 a				100 SAT-1 b				120 SAT-2 d				120 ※防水扉メーカー仕様による			
建具金物				耐風形ハンドル (埋込形)、L 形座板、座板ゴム、スリットホック、障害物自動検知装置 他 付属金物一式				両面締りハンドル (面付3点・2点締り)、シングル本締り錠、DC、順位調整器、 大型丁番、大型戸当り、大型上げ落とし、他 付属金物一式				両面締りハンドル、シングル本締り錠、DC、一般丁番、戸当り 他 付属金物一式				レバーハンドル、シングル本締り錠、DC、一般丁番、戸当り、他 付属金物一式				レバーハンドル、一般丁番、戸当り 他 付属金物一式				止水レバーハンドル、止水グレン、面付けグレン、二軸丁番、 D.C、スリットゴム、止水ゴム、戸先ゴム、戸当り 他 付属金物一式 ※防水扉メーカー仕様による			
その他				電源出力: 0.75kw 三相200V 設計耐風圧強度: 2,000N/m ²																				浸水防止性能 Ws-3以上			
形状・寸法 (1/50)																											

符号	名称	個数	(S.D. 6)防	鋼製片開き戸 (内部用簡易気密)	3	(A.W. 1)防	アルミ製 F I X 窓	7	(A.G. 1)	アルミ製ガラリ	3	
場所			特高設備電気室 A、特高設備監視室、特高設備電気室 C / EPS			特高設備電気室 A、特高設備監視室、特高設備電気室 C			倉庫			
仕上 (枠共)			SOP			BB-1種			BB-1種			
建具	見込 (ランマ)	4 0				—	—	—	—			
	硝子 (ランマ)					P t=6.0	—	—	—			
	ガラリ					—	開口率30% (イ-1)					
建具枠	見込	取合	吝摺	1 0 0	S A T-2	d	7 0	A-1	a-1	7 0	A-1	a-1
建具金物			レバーハンドル、一般丁番、戸当り 他 付属金物一式			アルミ製水切り、アルミ製額縁 25×25 他 付属金物一式			アルミ製水切り、アルミ製額縁 25×25、防虫網 他 付属金物一式			
その他												
形状・寸法 (1/50)												

階	階床面積 (A m ²)	必要開口面積 (A/30) (m ²)	有効開口部計算式	有効開口部面積 (m ²)	判 定
1	199.03	6.64	(SS-1) 3.60×3.50×2 = 25.200 (SD-2) 0.90×2.00×2 = 3.600	28.800	無・ <u>有</u>
2	149.40	4.98	(AW-1) 0.88×1.40×3 = 3.696 (SD-2) 0.90×2.00×1 = 1.800	5.496	無・ <u>有</u>
3	149.94	5.00	(AW-1) 0.88×1.40×1 = 1.232 (SD-2) 0.90×2.00×1 = 1.800	3.032	<u>無</u> ・有
4	149.94	5.00	(AW-1) 0.88×1.40×3 = 3.696 (SD-2) 0.90×2.00×1 = 1.800	5.496	無・ <u>有</u>

建 具 略 号	種 別	戸	窓	が引	オート ハブ	紙障子	ふすま	シャッター	網戸
	アルミニウム製	AD	AW	AG	AOD			AS	aW
	銅 製	SD	SW	SG	SOD			SS	
	銅 製 軽 量	LD						LS	
	ステンレス製	SSD	SSW	SSG				SSS	
号	木 製	WD	WW	WG		P	H		
ガ ラ ス 略 号	F 型板ガラス			金	D	C	ドアクローザー		
	P フロート板ガラス			物	A	H	オートヒンジ		
	N 網入型板ガラス			略	F	H	フロアヒンジ		
	NP 網入みがき板ガラス			号	P	H	ピポットヒンジ		

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	建具表		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	-	図面番号	A-30
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

共 1. 特記なき限り外部はシンダ箱錠（内部サムターン）とし内部は本締り付きモノロックとする。 8 特記なき限り内部建具ガラリはイ型とする。

通 但し、押板、押棒の場合は、シンダ本締り錠とする。 9 特記なき限り鋼製戸の見込みは 4 0mm とする。

事 2. バイパスース、ダクトスペースの点検扉の錠はシンダ本締り錠（特記なき限り同一キー） 1 0 防火戸の位置は建具配置図による。

項 とする。（内部サムターン付） 1 1 特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の充填は行わないものとする。

3. 便所等の施錠を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。 1 2 階段室の施錠を必要としない箇所は空錠とする。

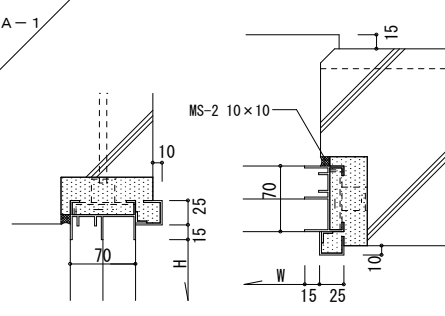
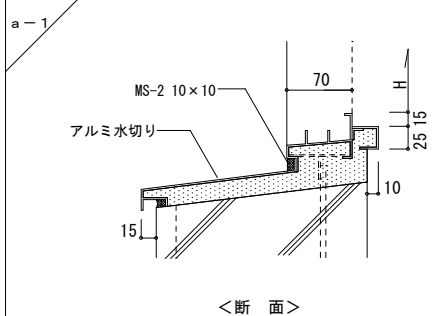
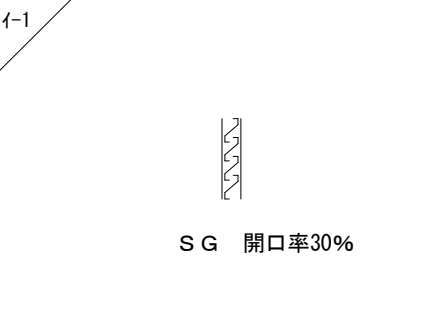
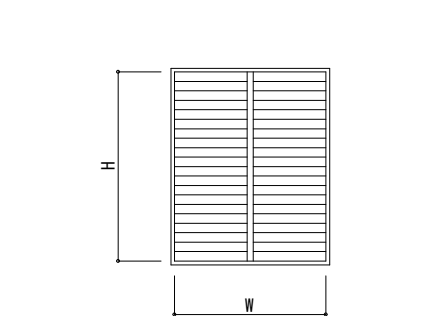
4. A H、F H を除き D C の有無にかかわらず出入口には戸当り、あおり止め（防火戸を除く）をつける。 1 3 特記なき限り両開きの防火戸は順位調整器付とする。

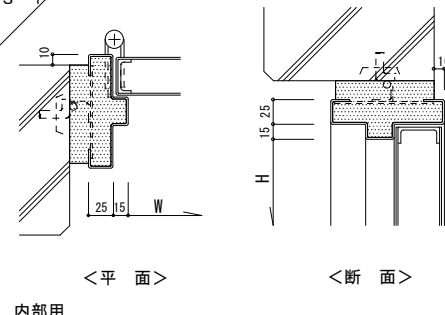
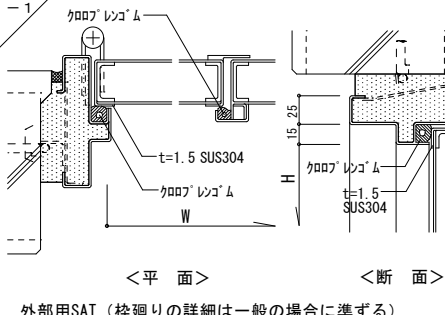
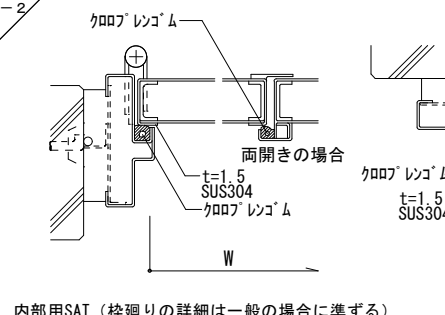
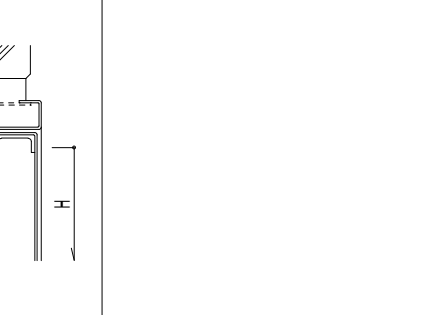
壁仕上ボード類の場合は床付とする。（但し、通行に支障のあるものは除く。） 1 4 特記なき限り扉の取手はレバーハンドルとする。

5. 特記なき限り外部に面するガラリは防鳥網付きとする。

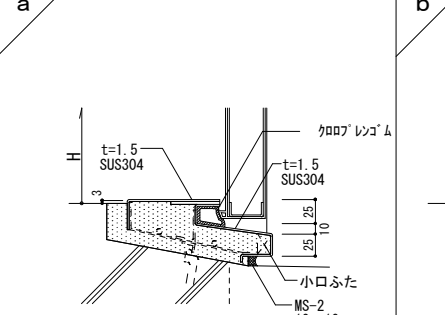
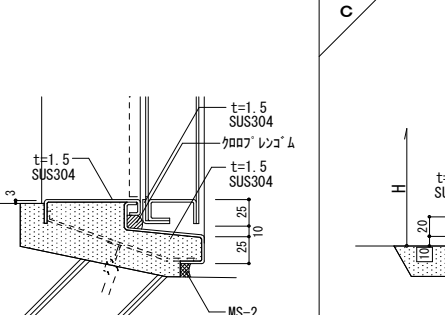
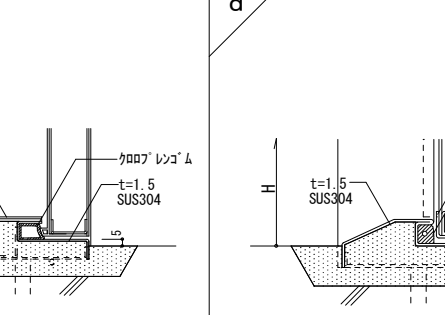
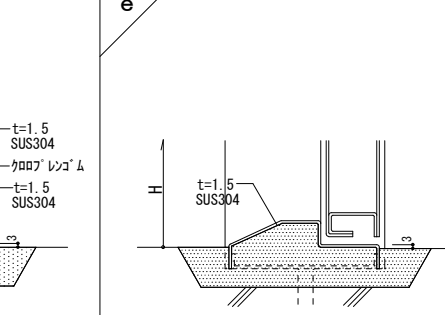
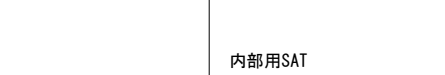
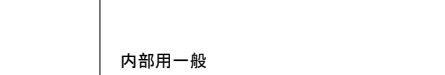
6. アルミニウム製窓の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から 1、5 0 0 以内とする。

7. 大型、気密鋼製建具はシンダ本締り錠付きとする。

建具枠廻り詳細図				
アルミ製建具		ガラリ形状	ガラリ姿図	
A-1  <断面>  <平面>		a-1  <断面> i-1  S G 開口率30%	 H W W=1,500以上は方立を設ける	

鋼 製 建 具		鋼 製 建 具 (簡 易 気 密)		
S-1  <断 面>  <平 面> 内部用		SAT-1  <断 面>  <平 面> 外部用SAT (枠廻りの詳細は一般の場合に準ずる)		SAT-2  <断 面>  <平 面> 内部用SAT (枠廻りの詳細は一般の場合に準ずる)

鋼製建具（気密）			
AT -1			

沓 摺				
a  <断面>  <平面> 外部用AT	b  <断面>  <平面> 外部用SAT	c  <断面>  <平面> 内部用AT		
d  <断面>  <平面> 内部用SAT	e  <断面>  <平面> 内部用一般			

工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事
-----	----------------

共
通
事
項

1. 特記なき限り外部はシリンダ箱錠（内部サムターン）とし内部は本締り付きモノロックとする。
但し、押板、押棒の場合は、シリンダ本締り錠とする。

2. バイブスペース、ダクトスペースの点検扉の鍵はシリンダ本締り錠（特記なき限り同一キー）とする。（内部サムターン付）

3. 便所等の施錠を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。

4. A H、F Hを除きD Cの有無にかかわらず出入口には戸当り、あおり止め（防火戸を除く）をつける。
壁仕上げボード類等の場合は床付とする。（但し、通行に支障のあるものは除く。）

5. 特記なき限り外部に面するガラリは防鳥網付きとする。

6. アルミニウム製窓の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から1、500以内とする。

7. 大型、気密鋼製建具はシリンダ本締り錠付きとする。

8 特記なき限り内部建具ガラリはI型とする。

9 特記なき限り鋼製戸の見込みは4 0 mmとする。

1 0 防火戸の位置は建具配置図による。

1 1 特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の
充填は行わないものとする。

1 2 階段室の施錠を必要としない箇所は空錠とする。

1 3 特記なき限り両開きの防火戸は順位調整器付と
する。

1 4 特記なき限り扉の取手はレバーハンドルとする。

建
具
略
号

種 別

戸

窓

ガラリ

紙障子

ふすま

シャッター

網戸

アルミニウム製

AD

AW

AG

AOD

AS

aW

鋼 製

SD

SW

SG

SOD

SS

鋼 製 軽 量

LD

LS

ステンレス製

SSD

SSW

SSG

SSS

木 製

WD

WW

WG

P

H

F 型板ガラス

金物略号

D C ドアクローザー

P フロート板ガラス

A H オートヒンジ

N 網入型板ガラス

F H フロアヒンジ

NP 網入みがき板ガラス

P H ビボットヒンジ

図面名

建具納まり図

作成年月日

令和8年度

縮 尺

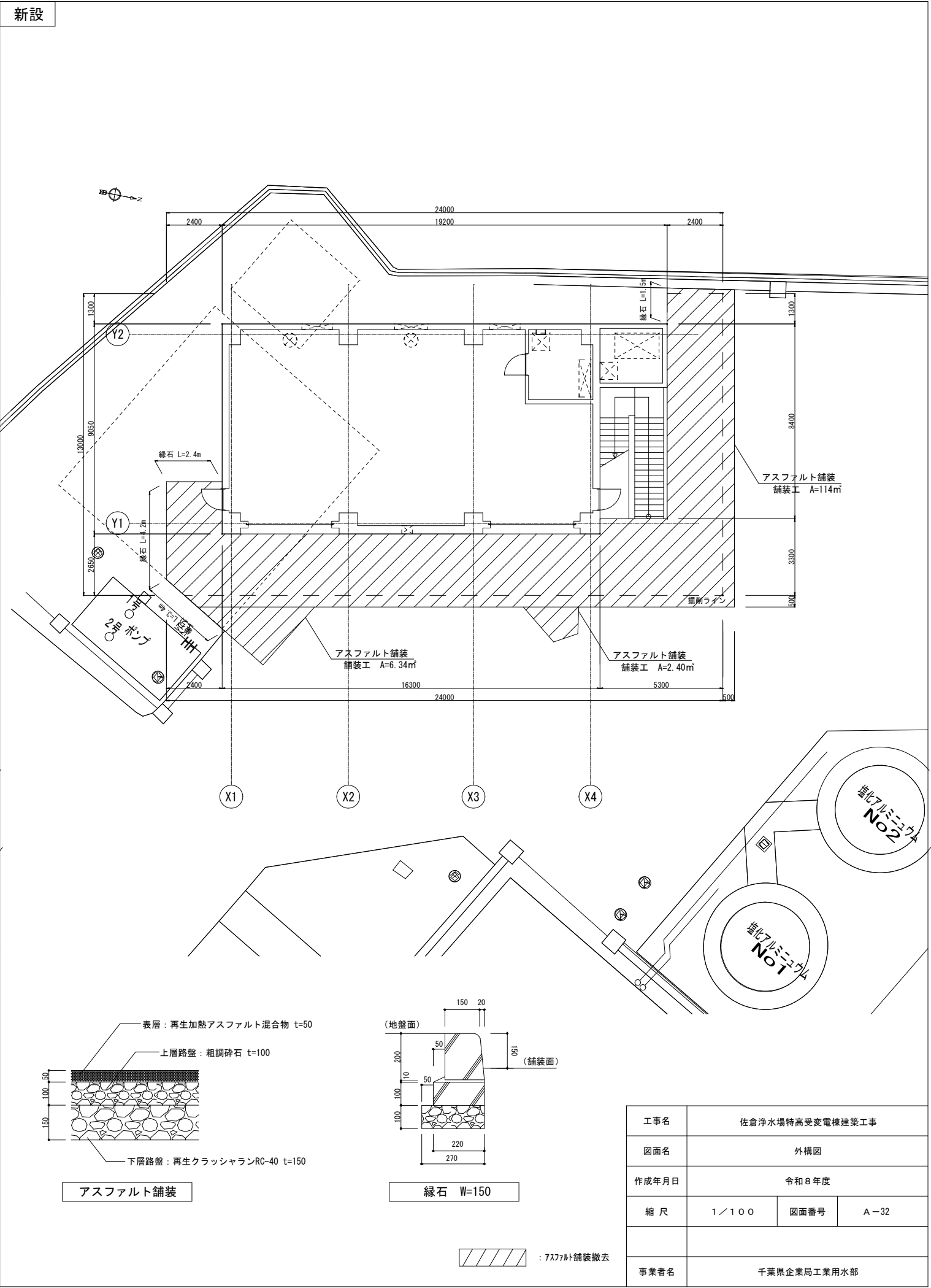
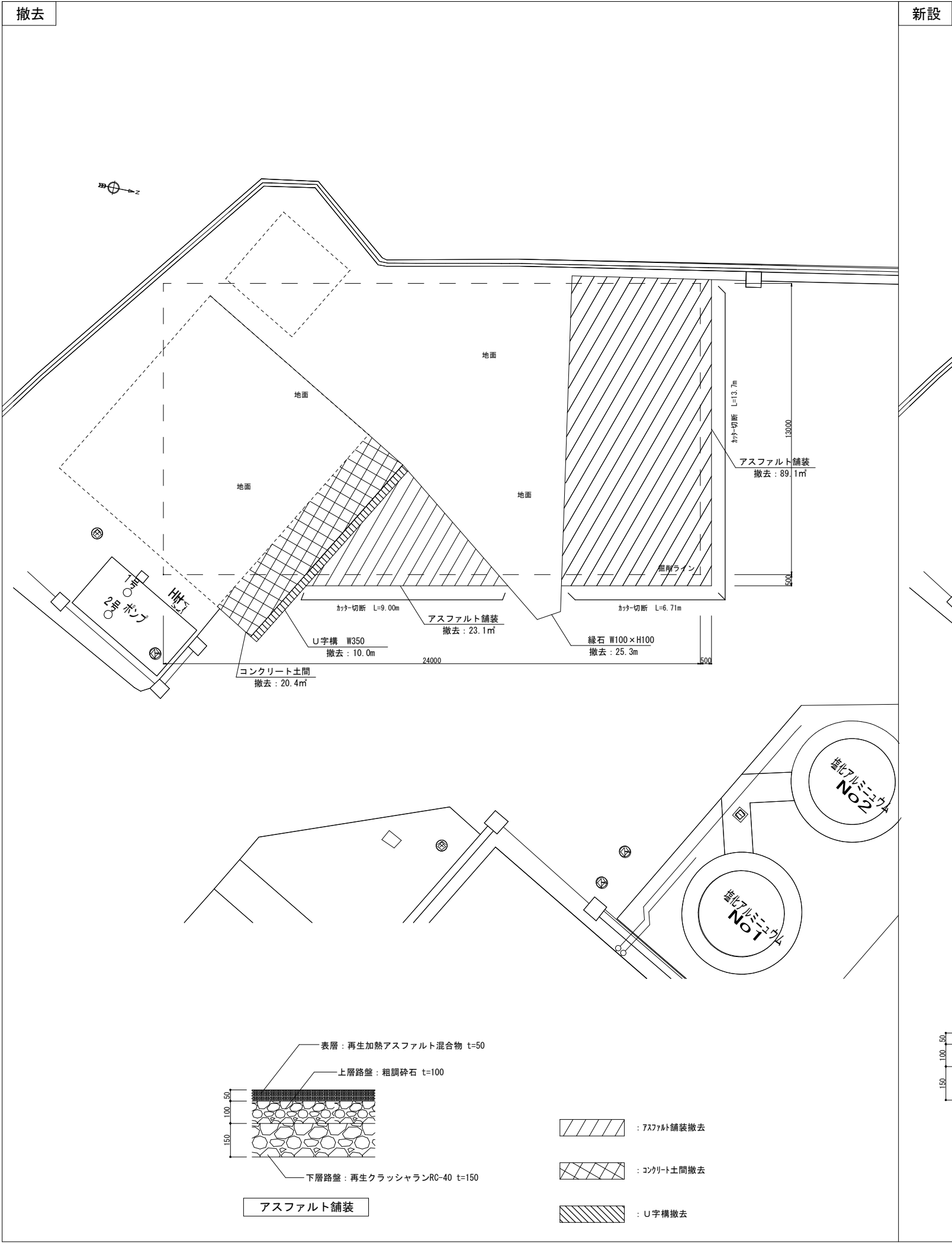
—

図面番号

A-31

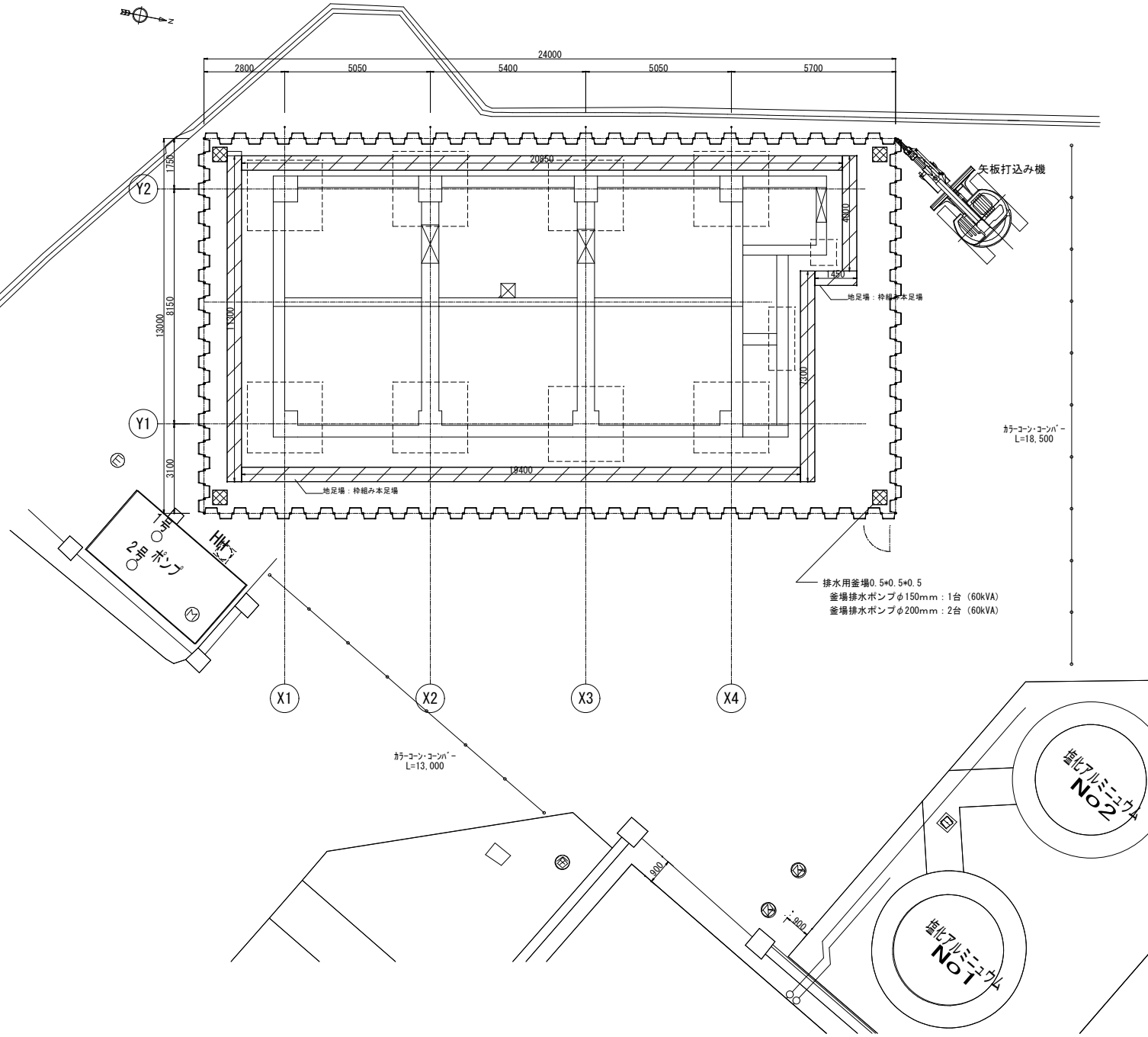
事業者名

千葉県企業局工業用水部



工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	外構図		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1/100	図面番号	A-32
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

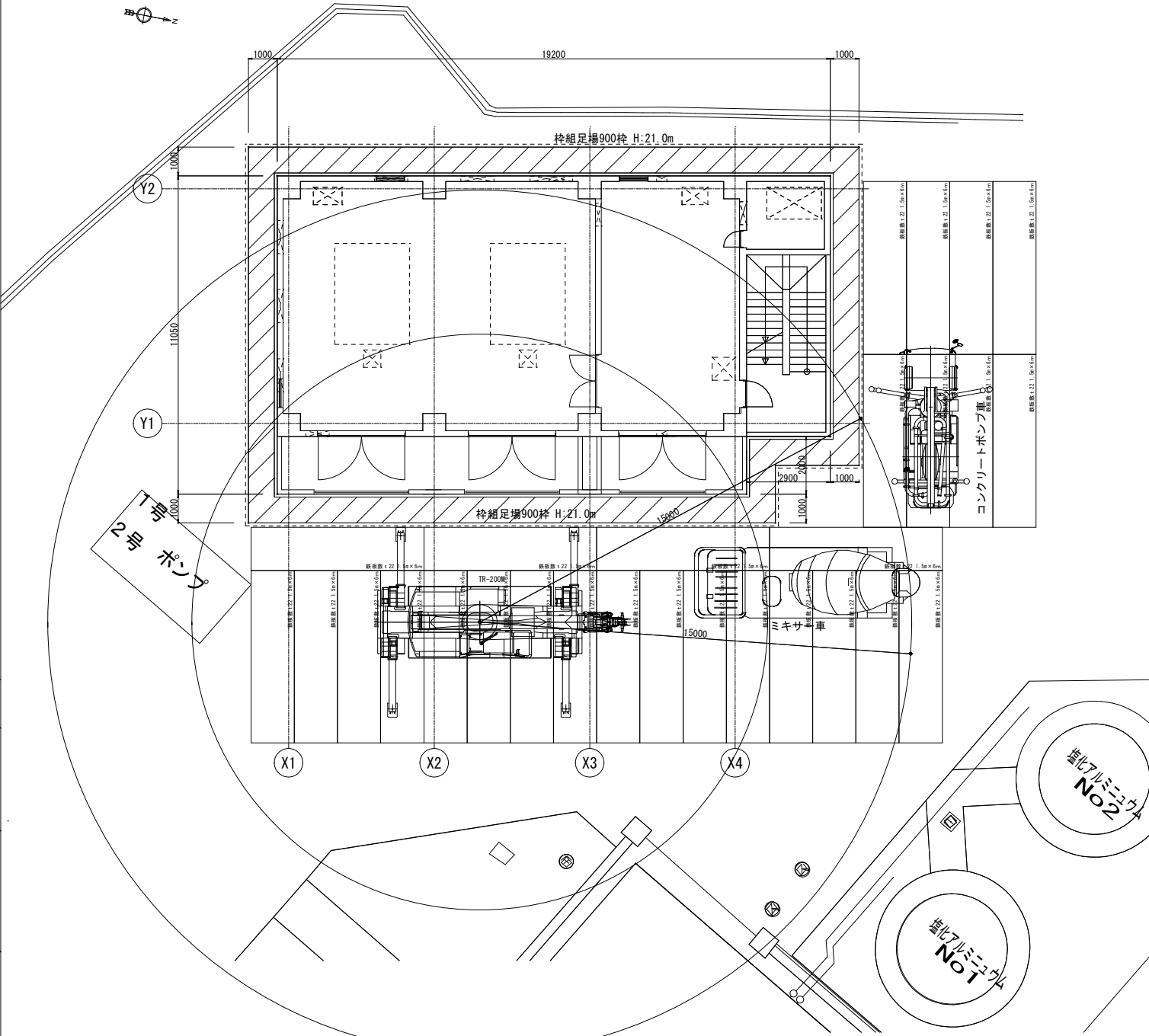
地下部



地下部

- /// : 足場範囲を示す
- ⊗ : 窯場を示す
- : カチコン・コンバー (設置期間: 掘削時から埋戻し完了まで)

※工事期間中に月に2回程度、塩化アルミニウムの補充のため、車両が工事エリアに入るので留意すること



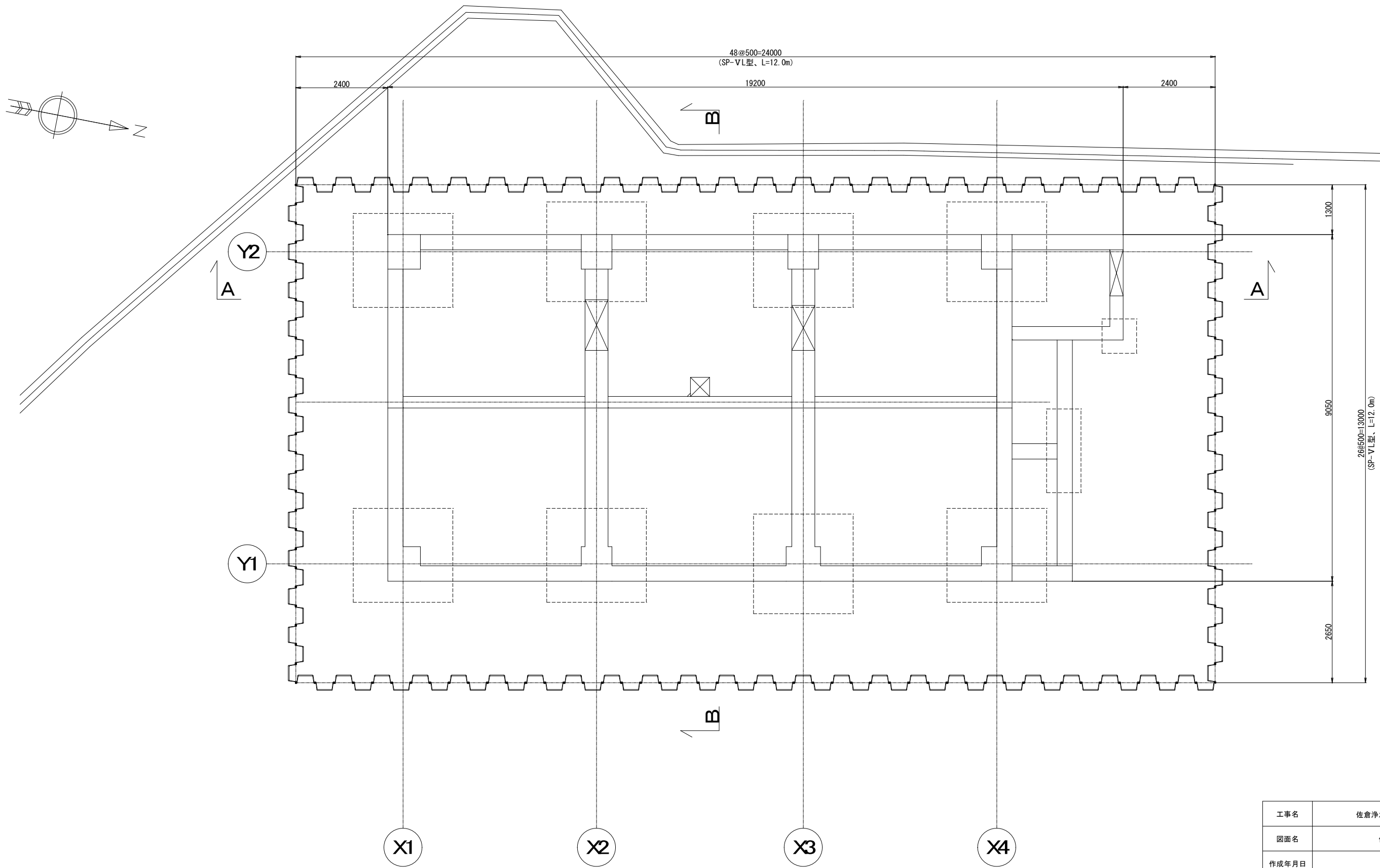
地上部

- /// : 足場範囲を示す

参考図

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	仮設計画図		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1/100	図面番号	A-33
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

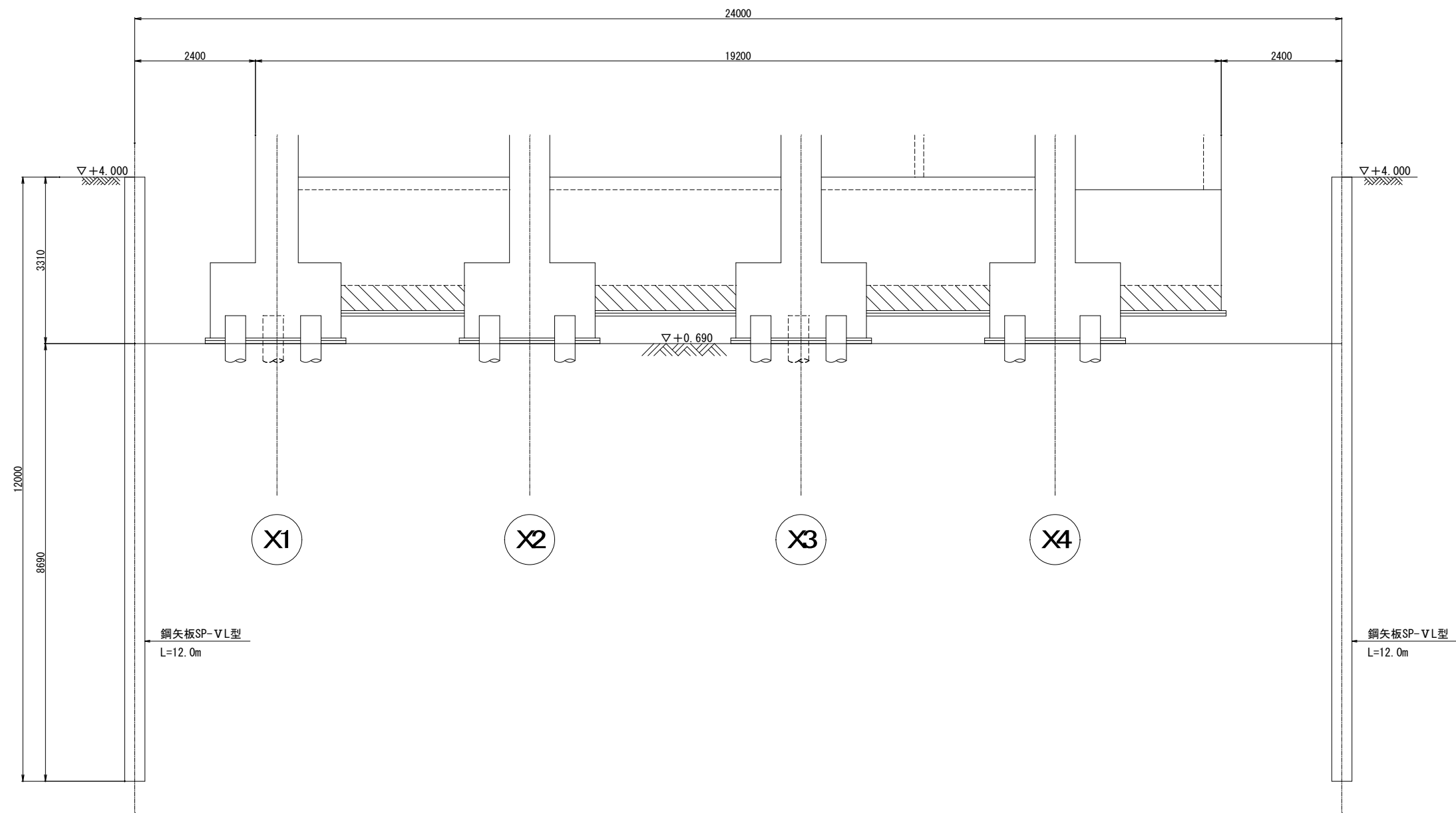
仮設平面図 S=1/50



工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	仮設（山留）平面図		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1／50	図面番号	A-34
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

仮設断面図 S=1/50

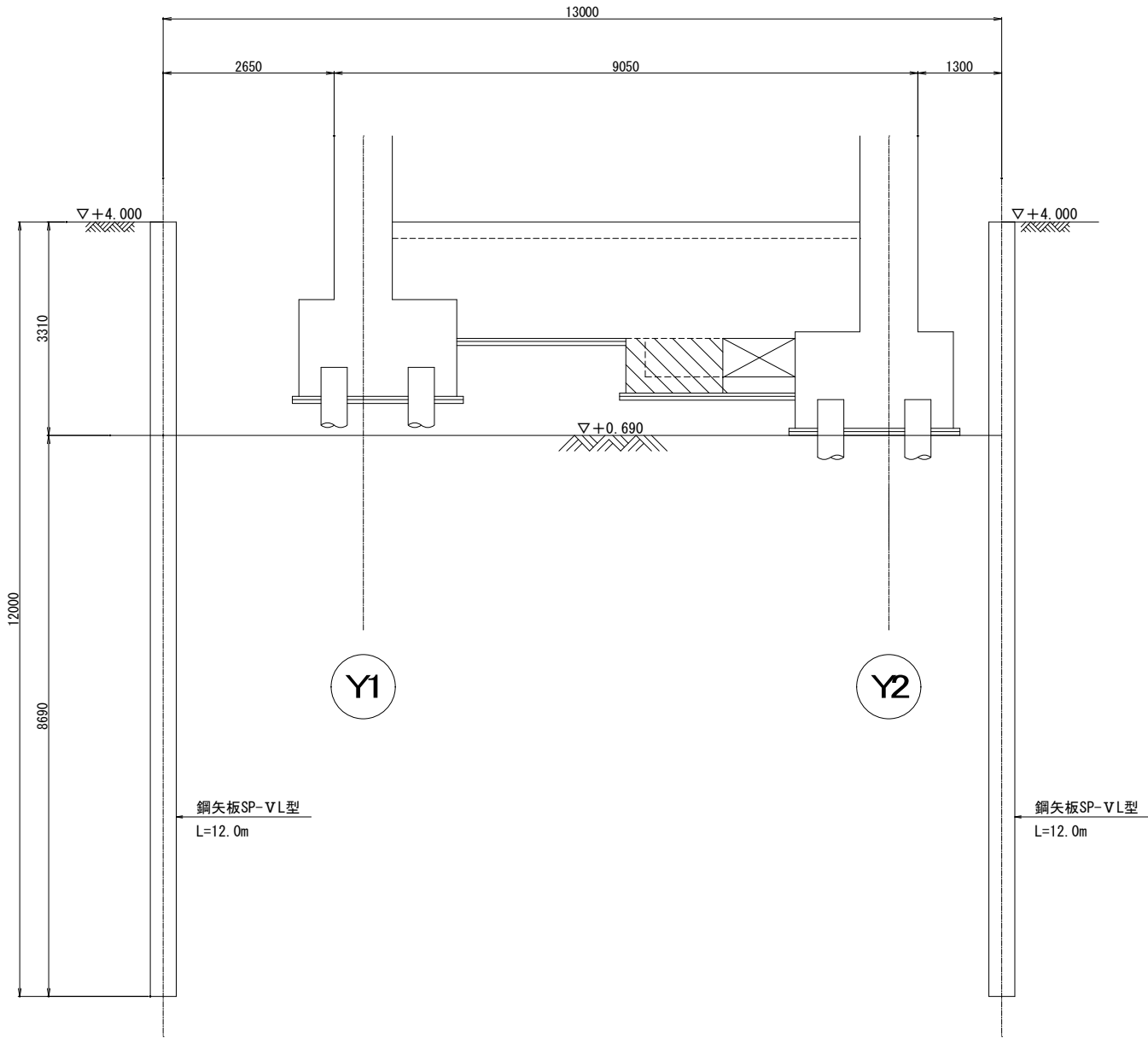
A－A断面図



工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	仮設（山留）断面図（1）		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1／50	図面番号	A－35
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

仮設断面図 S=1/50

B－B断面図



工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	仮設（山留）断面図（2）		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1／50	図面番号	A－36
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

[illegible]

章	項 目	特 記 事 項	章	項 目	特 記 事 項
その他	○ 1. 軽微な変更の対応 (あらかじめ検討)	・ 施工の関係上やむを得ず発生する可能性の高い変更事項への対応方法について、 あらかじめの検討を行っている部分 : 本検討は、計画通知の変更を要しない範囲及び対応方法を定めるものであり、 品質管理上の施工誤差を許容するものではない。 ・ 杭の芯ずれを考慮した検討 : あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ☒ 図示、○ () ・ 杭の長さの変更を見込んだ検討 : あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ☒ 図示、○ () ・ 梁貫通孔の大きさと位置の変更を見込んだ検討 : あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ☒ 図示、○ ()			

・別表「コンクリートの構造体強度補正值(S) 一覧」								
令和4年12月現在 (表6. 3. 2) (表6. 12. 1)								
今回対象地区	地 区	市 町 村 名	セ メ ン ト の 種 類	普通ポルトランドセメント			早強ポルトランドセメント	
			材齢28日間の平均気温	暑中における コンクリート	8以上	0以上 8未満	5以上	0以上 5未満
			補 正 値 (S)	6 (N/mm2)	3 (N/mm2)	6 (N/mm2)	3 (N/mm2)	6 (N/mm2)
○	千 葉 中 央 地 区	千葉市・市原市・四街道市	7/ 6 ～ 9/ 9	2/10 ～ 7/ 5 9/10 ～ 12/ 8	12/ 9 ～ 2/ 9	9/10 ～ 7/ 5	該当なし	
○	千 葉 北 部 地 区	我孫子市・柏市・鎌ヶ谷市・野田市・松戸市・流山市					2/ 3 ～ 7/14 8/29 ～ 12/ 8	12/ 9 ～ 2/ 2
○	千 葉 西 部 地 区	市川市・印西市・浦安市・習志野市・八千代市・船橋市・白井市	7/10 ～ 9/ 3	2/17 ～ 7/ 9 9/ 4 ～ 11/28	11/29 ～ 2/16	1/ 7 ～ 7/ 9 9/ 4 ～ 12/28	12/29 ～ 1/ 6	
●	北 総 地 区	成田市・佐倉市・八街市・神崎町・栄町・酒々井町・芝山町・多古町・富里市					1/29 ～ 7/ 9 9/ 1 ～ 12/10	12/11 ～ 1/28
○	東 総 地 区	旭市・香取市・鏡子市・東庄町	7/24 ～ 9/ 2	2/ 7 ～ 7/23 9/ 3 ～ 12/12	12/13 ～ 2/ 6	9/ 3 ～ 7/23	該当なし	
○	九 十 九 里 地 区	東金市・山武市・茂原市・匝瑿市・いすみ市・大網白里市・一宮町・御宿町 九十九里町・白子町・長南町・長柄町・横芝光町・睦沢町・長生村					該当なし	
○	君津・木更津地区	木更津市・君津市・袖ヶ浦市・富津市	7/12 ～ 8/30	2/15 ～ 7/11 8/31 ～ 12/ 3	12/ 4 ～ 2/14	8/31 ～ 7/11	該当なし	
○	館 山 地 区	館山市・鋸南町・南房総市					該当なし	
○	勝浦・鴨川地区	勝浦市・鴨川市・大多喜町	7/23 ～ 9/ 5	2/ 5 ～ 7/22 9/ 6 ～ 12/15	12/16 ～ 2/ 4	9/ 6 ～ 7/22	該当なし	

工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	構造関係特記仕様書（3） R7. 11		
作成年月日	令和 8 年度		
縮 尺	-	図面番号	S－3
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

構造関係共通事項

1. 総 則

- 1.1 適用範囲
- (1) 構造関係共通事項は、総則、構造関係共通図（配筋標準図、鉄骨標準図）から構成される。
- (2) 構造関係共通図（配筋標準図）は、鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立等の一般的な標準図とする。
- (3) 構造関係共通図（鉄骨標準図）は、鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄骨の加工、組立の一般的な標準図とする。
- (4) 構造関係共通図（配筋標準図、鉄骨標準図）以外について、図面及び監督職員の指示による。

- 1.2 優先順位
- (1) 設計図書間で配筋方法等に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
1. 特記仕様書
 2. 設計図
 3. 構造関係共通図（配筋標準図、鉄骨標準図）
 4. 標準仕様書及び改修標準仕様書
- 1.3 用語の定義
- (1) 設計図とは、建築構造図のうち特記仕様書、構造関係共通図以外の図面をいう。
- (2) 異形鉄筋の径（本文、図、表において「 d 」で示す）は、呼び名に用いた数値とする。
- (3) 長さ、厚さ等の単位は、特記なき限りmmとする。

- 1.4 記号等
- 図面で使用する記号等は、表1.1～表1.8、図1.1を標準とする。

表1.1 異形鉄筋の断面表示記号								
区分 \ 径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築	●	×	∅	●	○	⊙	⊗	⊙

表1.2 各階伏図における記号			
記号	説明	記号	説明
	スラブの配筋種別		柱の位置
	スラブ厚さ		試験杭の位置
	階段の配筋種別		打増しの範囲
	土間コンクリート		スラブ開口
	コンクリートブロック壁（CB壁）		ボーリング位置
	梁・スラブの上り下りの範囲		FLからの上り下り
	耐力壁の種別		一般壁の種別
	片持ちスラブを受け、かつ耐力壁の種別		片持ちスラブ形階段を受け、かつ一般壁の種別
	土圧を受け、かつ耐力壁の種別		

表1.3 梁貫通孔記号															
区分	径	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	400
建築		○	×	+	✱	✱	✱	✱	✱	✱	✱	✱	✱	✱	✱

表1.4 スリープ材質の凡例			
管 名	鋼 管	溶融亜鉛めっき鋼板	硬質塩化ビニル管（薄肉管）
記号（建築用）	SP（白管）	GA	VU
			RS

※建築用以外のスリープ材質は各工事による。

表1.5 高力ボルト径の記号									
区分	径	M12	M16	M20	M22	M24	区分	径	M12
高力ボルト（F10T、S10T）		●	◆	◆	◆	◆	普通ボルト	○	○
溶融亜鉛めっき高力ボルト（F8T相当）									

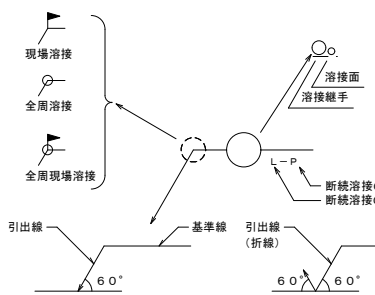
表1.6 普通ボルト径の記号

区分	径	M12	M16	M20	M22	M24
普通ボルト		○	○	○	○	○

表1.7 溶接継手及び溶接面の分類別記号			
分 類	記 号	分 類	記 号
溶 接 継 手	完全溶込み溶接	突合わせ継手	B
		T型継手	T
		かど継手	L
	隅肉溶接		F
	部分溶込み溶接		P
溶 接 面	重ねアーク溶接（フレア溶接）		FL
	片面溶接		1
	両面溶接		2

表1.8 溶接の補助記号

区 分	補助記号
現 場 溶 接	▲
全 周 溶 接	○
全 周 現 場 溶 接	○▲
断続溶接の長さ及び間隔	L-P



※特記無き限り、完全溶込み溶接の溶接方法・溶接面は適切な溶接方法等による。

図1.1 溶接記号の記載例

2. 構造関係共通図（配筋標準図）

1 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径は、表1.1を標準とする。

表1.1 鉄筋の折曲げ内法直径

折曲げ角 度	折曲げ図（余長）	折曲げ内法直径 (D)			
		鉄筋の種類	SD295、SD345		SD390
		呼び名	D16 以下	D19 ～ D38	D19 ～ D38
180°					
135°					
90°			3d 以上	4d 以上	5d 以上
135° 及び 90°					

1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フックまたは135° フックを用いる場合は、余長は 4d 以上とする。
2. 90° 未満の折曲げの内法直径は構造図による。

2 異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。

- (1) 柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部

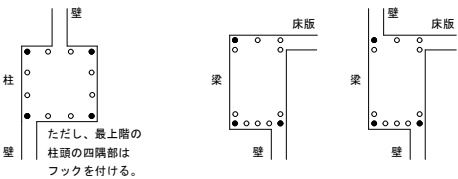


図2.1 末端部にフックを必要とする出隅部の鉄筋（●印）

- (2) 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
- (3) 杭基礎のベース筋
- (4) 帯筋、あばら筋及び幅止筋

3 継手及び定着

- (1) 鉄筋の重ね継手
- (7) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- (i) 柱及び梁主筋並びに耐力壁を除く鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。

表3.1 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	L1（フックなし）	L1h（フックあり）
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24, 27	35d	25d
	30, 33, 36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24, 27	40d	30d
	30, 33, 36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24, 27	45d	35d
	30, 33, 36	40d	30d

- (注) 1. L1、L1h: 重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。
2. フックありの場合の L1h は、図3.1に示すようにフック部分 $\bar{Q}$ を含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。

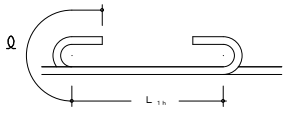
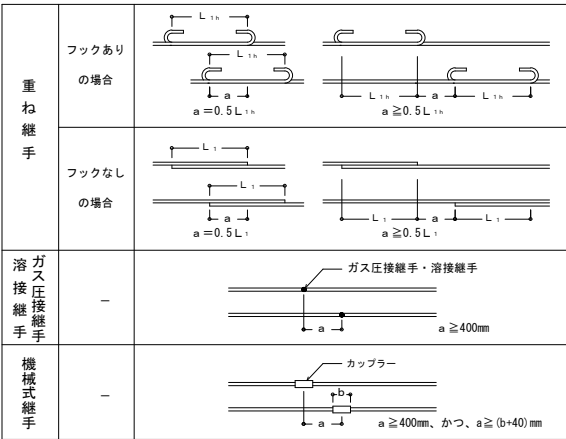


図3.1 フックありの場合の重ね継手の長さ

- (9) 耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、フックありなしにかかわらず40d以上（軽量コンクリートの場合は50d）又は表3.1の重ね継手の長さのうち、いずれか大きい値とする。
- (i) 隣り合う継手の位置は、表3.2による。
- ただし、スラブ筋で D16 以下の場合及び壁筋の場合は除く。

表3.2 隣り合う継手の位置



- (2) 鉄筋の定着
- (7) 鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。

表3.3 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	直線定着の長さ				フックあり定着の長さ			
		L1	L2	L3		L1h	L2h	L3h	
		小梁	スラブ	小梁	スラブ	小梁	スラブ	小梁	スラブ
SD295	18	45d	40d			35d	30d		
	21	40d	35d			30d	25d		
	24, 27	35d	30d	20d	かつ 150mm 以上	25d	20d		
	30, 33, 36	35d	30d			25d	20d		
SD345	18	50d	40d			35d	30d		
	21	45d	35d	(片持ち小梁の場合は 25d)	(片持ちスラブの場合は 25d)	30d	25d	10d	—
	24, 27	40d	35d			30d	25d		
	30, 33, 36	35d	30d			25d	20d		
SD390	21	50d	40d			35d	30d		
	24, 27	45d	40d			35d	30d		
	30, 33, 36	40d	35d			30d	25d		

- (注) 1. L1、L1h: 2 から 4 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
2. L2、L2h: 割製破壊面のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
3. L3 : 小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
4. L3h : 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
5. フックあり定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分 $\bar{Q}$ を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。

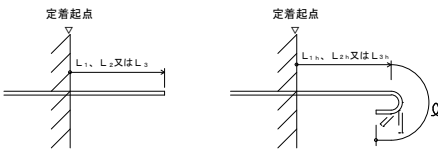


図3.2 直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

- (i) 梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、図3.3により、次の (a)、(b) 及び (c) をすべて満足するものとする。
- (a) 全長は表3.3に示す直線定着の長さ以上
- (b) 余長は 8d 以上
- (c) 土口面から鉄筋外面までの投影定着長さLa及びLbは表3.4に示す長さとする。
- ただし、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

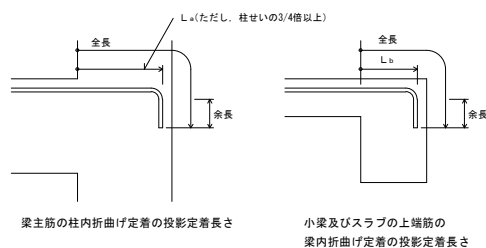


図3.3 折曲げ定着の方法

表3.4 鉄筋の投影定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	La	Lb
SD295	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d
	30, 33, 36	20d	15d

- (注) 1. La : 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
2. Lb : 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。

- (9) 溶接金網の継手及び定着は、図3.4による。
- なお、L1は表3.1に、L2及びL3は表3.3による。

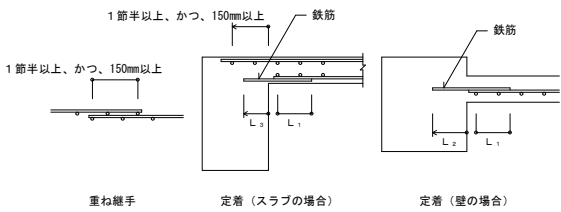


図3.4 溶接金網の継手及び定着

- (1) スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による

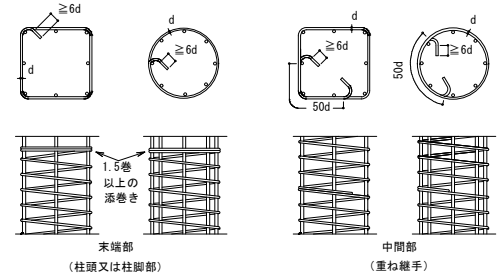


図3.5 スパイラル筋の継手及び定着

4 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

- (1) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。
- ただし、柱及び梁の主筋に D29 以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ（単位：mm）

構造部分の種別			最小かぶり厚さ	
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	仕上がりあり	20	
		仕上がりなし	30	
	柱、梁、耐力壁	屋内	仕上がりあり	30
			仕上がりなし	30
		屋外	仕上がりあり	30
			仕上がりなし	40
	擁壁、耐圧スラブ		40	
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁		40	
	基礎、擁壁、耐圧スラブ		60	
	煙突等高熱を受ける部分		60	

- (注) 1. この表は、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートには適用しない。
- また、塩害を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。
2. 「仕上がりあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。

- (2) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

- (3) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

- (4) 鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。

- (7) 粗骨材の最大寸法の1.25倍

- (i) 25mm

- (9) 隣り合う鉄筋の径（呼び名の数値）の平均の1.5倍

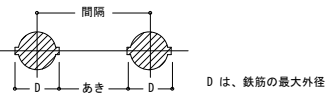


図4.1 鉄筋相互のあき及び間隔

- (5) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(4)による。

- (6) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

5.1 基礎梁

- (1) 一般事項
- (7) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。
- (i) 梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(2)(i)による。

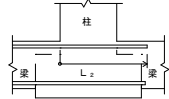
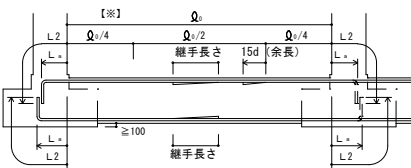


図5.1 梁筋の基礎梁内への定着

- (2) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。



- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

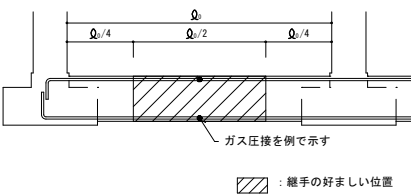
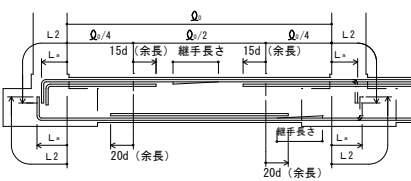


図5.2 主筋の継手、定着及び余長（その1）

- (3) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.3による。
- ただし、耐圧スラブが付く場合は、(4)による。



- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

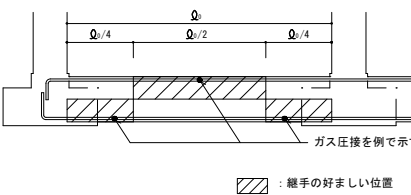


図5.3 主筋の継手、定着及び余長（その2）

工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	構造関係共通事項（その1） R7.11		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	-	図面番号	S-4
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

(4) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。 (耐圧スラブがつく場合を含む) (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。 2. 印は、継手及び余長位置を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)	(2) 柱打増し部 (7) 打増し部分に、壁、梁及びスラブ等がとりつく場合は、壁、梁及びスラブ筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。 (イ) 土に接する柱周囲の打増しは図6.2による。																				
図5.4 主筋の継手、定着及び余長 (その3)	図6.2 柱打増し部																				
5.2 基礎梁のあばら筋等 (1) 一般事項 (7) あばら筋の径および間隔は、設計図による。 (イ) あばら筋組立の形及びフックは7.2(2)、副あばら筋組立の形及びフックの位置は7.2(3)による。ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることができる。 図5.5 あばら筋組立の形及びフックの位置 (2) 腹筋及び幅止め筋は、7.2による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は設計図による。 (3) あばら筋の割付けは、7.2(4)による。	6.2 帯筋 (1) 帯筋の種類及び間隔は、設計図による。 (2) 帯筋組立の形は図6.3により、適用は設計図による。 (7) H形の135° 曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。 (イ) 溶接する場合の溶接長さしは、両面重ねアーク溶接の場合は5d 以上、片面重ねアーク溶接の場合は10d 以上とする。 (ウ) S P形において、柱頭及び柱脚の端部は1.5巻以上の添巻きを行う。 図6.3 帯筋組立の形 (3) フック及び継手の位置は交互とする。 (4) 帯筋の割付けは図6.4とし、それ以外の場合は設計図による。																				
6.1 柱 (1) 一般事項 (7) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、かつ、ho/4 (hoは柱の内法高さ) 以上離れた位置とする。 (イ) 継手、定着及び余長は、図6.1による。 ただし、柱頭定着長さL₁が確保できない場合は、設計図による。 図6.1 柱主筋の継手、定着及び余長 (注) 1. 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上層の柱頭にある場合には、フックを付ける。 2. 隣り合う継手の位置は、表3.2 [隣り合う継手の位置] による。 3. 継手及び定着は、すべての階に適用できる。 図6.1 柱主筋の継手、定着及び余長																					
	7.1 大梁 (1) 一般事項 (7) 梁の上がり下がりは FL を基準とした寸法値とする。 (イ) 地中梁下の砂利地床厚及び捨てコンクリート地床厚は設計図による。 (ウ) 打増し部分に、スラブ、壁、梁筋等が取り付く場合は、スラブ、壁、梁筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。 (2) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項 (7) 継手中心位置は、次による。 上端筋：中央 $Q_u/2$ 以内 下端筋：柱面より梁せい (D) 以上離し、$Q_u/4$ を加えた範囲以内 (イ) 継手中央部の位置、定着長さ及び余長は図7.3及び図7.4による。 (ウ) 梁筋は、連続端で柱に接する梁の主筋が、同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図7.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。 図7.1 大梁主筋の梁内定着 (イ) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。 なお、定着の方法は3(2) (イ) による。 上端筋：曲げ降ろす 下端筋 (一般)：原則、曲げ上げる。 下端筋 (ハンチ付き)：原則、曲げ上げる。 (ウ) 梁にハンチをつける場合、その傾斜は設計図による。 (イ) 段違い梁は、図7.2による。 図7.2 段違い梁 (3) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.3による。 図7.3 大梁の重ね継手、定着及び余長																				
	図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長 (注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合 (基礎梁を除く) には、フックを付ける。 2. 印は、継手及び余長を示す。 3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、 のように引き通すことができる。 4. 破線は、柱内定着を示す。 5. 梁主筋のみ込み長さ (柱せいの3/4倍以上) 図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長																				
7.2 あばら筋等 (1) あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項 (7) あばら筋の種類、径及び間隔は、設計図による。 (イ) 腹筋に継手をつける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは図7.6による。ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さ、定着長さは設計図による。 (ウ) 幅止めの筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。 (2) あばら筋組立の形及びフックの位置 (7) 形は、図7.5.1①とする。 ただし、L形梁の場合は②または③、T形梁の場合は②～④とすることができる。 (イ) フックの位置 (a). ①の場合は交互とする。 (b). ②の場合 L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。 (c). ③の場合は床版の付く側を 90° 折曲げとする。 図7.5.1 あばら筋組立の形 (3) 副あばら筋組立の形及びフックの位置 形は、図7.5.2⑤または⑥とする。 ただし、L形梁またはT形梁の場合は⑦とすることができる。 図7.5.2 副あばら筋組立の形 (4) あばら筋の割付け (7) 間隔が一樣でハンチのない場合は、図7.6による。 図7.6 あばら筋の割付け (その1) (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。 2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。 図7.6 あばら筋の割付け (その1) (イ) 間隔が一樣でハンチのある場合は、図7.7による。 図7.7 あばら筋の割付け (その2) (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。 2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。 図7.7 あばら筋の割付け (その2)																					
	(ウ) 梁の端部で間隔の異なる場合は、図7.8による。 図7.8 あばら筋の割付け (その3) (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。 2. 図中のP@、P' @は、特記されたあばら筋の間隔を示す。 図7.8 あばら筋の割付け (その3) (イ) 腹筋及び幅止め筋 一般の梁は、図7.9による。 図7.9 腹筋および幅止め筋 600 ≤ D < 900 900 ≤ D < 1,200 1,200 ≤ D < 1,500 1. 腹筋に継手をつける場合の継手長さは、150mm程度とする。 2. 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。 図7.9 腹筋および幅止め筋																				
	7.3 小梁 (1) 小梁主筋の継手、定着及び余長 連続小梁の場合は、図7.10による。 図7.10 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その1) (注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。 2. 印は、余長位置を示す。 図7.10 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その1) (2) 単独小梁の場合は、図7.11による。 図7.11 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その2) (3) あばら筋は、7.2による。																				
	<table><tr><td>工事名</td><td colspan="3">佐倉浄水場特高受変電棟建築工事</td></tr><tr><td>図面名</td><td colspan="3">構造関係共通事項 (その2) R7.11</td></tr><tr><td>作成年月日</td><td colspan="3">令和8年度</td></tr><tr><td>縮 尺</td><td>-</td><td>図面番号</td><td>S-5</td></tr><tr><td>事業者名</td><td colspan="3">千葉県企業局工業用水部</td></tr></table>	工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事			図面名	構造関係共通事項 (その2) R7.11			作成年月日	令和8年度			縮 尺	-	図面番号	S-5	事業者名	千葉県企業局工業用水部		
工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事																				
図面名	構造関係共通事項 (その2) R7.11																				
作成年月日	令和8年度																				
縮 尺	-	図面番号	S-5																		
事業者名	千葉県企業局工業用水部																				

- (2) 屋根スラブの補強
屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図9. 9)により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

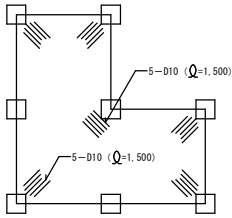
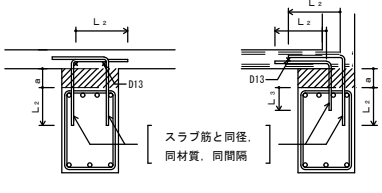


図9. 9 出隅及び入隅部の補強配筋

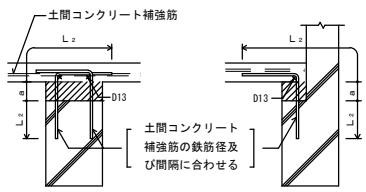
- (3) 土間スラブの打継ぎ補強
基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は図9. 10)による。
ただし、土間スラブとは、土に接するスラブで S形の配筋によるものという。



(注) a ≤ 300の場合

図9.10 打継ぎ補強配筋

- (4) 土間コンクリートの補強
土間コンクリートの補強筋は、設計図による。なお、基礎梁との接合部は、図9. 11)による。



(注) a ≤ 300の場合

図9. 11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

10. 2 二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段は、プレキャストコンクリート部材または現場打ちコンクリート部材とする。
プレキャストコンクリート部材とする場合の躯体への接続方法は構造図による。
二辺固定スラブ形階段の配筋は表10. 2並びに図10. 2及び図10. 3)により、寸法及び配筋種別は、構造図による。

表10. 2 二辺固定スラブ形配筋

配筋種別	上端筋、下端筋とも（全域）
KB1	D13-200φ
KB2	D13-150φ
KB3	D13-100φ
KB4	D13, D16-150φ
KB5	D16-150φ
KB6	D16-125φ
KB7	D16-100φ

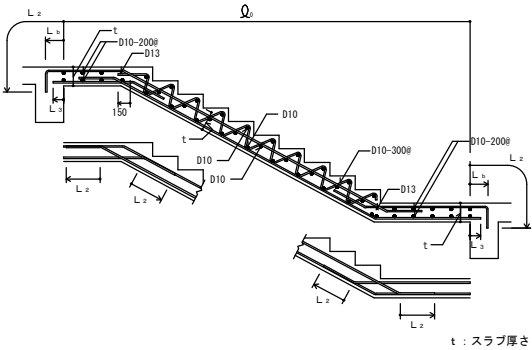
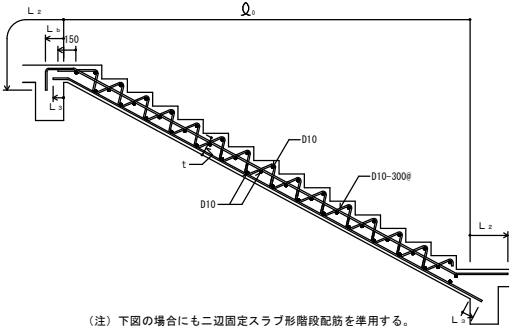


図10. 2 二辺固定スラブ形階段配筋（その1）



(注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

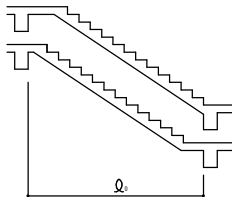


図10. 3 二辺固定スラブ形階段配筋（その2）

11. 1 梁貫通孔

- (1) 梁貫通孔は、次による。
(ア) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図11. 1)による。
(イ) 孔の径は、梁せいの1/3以下とする。
(ウ) 孔の上下方向の位置は、梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3（Dは梁せい）の範囲には設けてはならない。
(エ) 孔は、柱面から原則として、1. 5D 以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
(オ) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の 3倍以上とする。
(カ) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
(キ) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11. 2)による。
(ク) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることで、開口部を避けて配筋でき、補強を省略することができる。
(ケ) 溶接金網の余長は、1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
(コ) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋 1-13φのリング筋を取り付ける。
なお、リング筋は、溶接金網に 4箇所以上溶接する。
(サ) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。
(シ) 他の開孔を設けない範囲は、図11. 3)による。

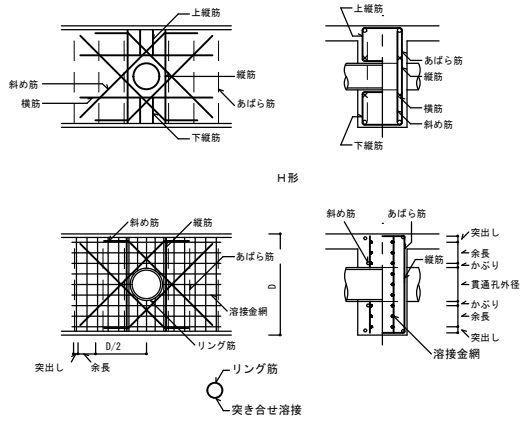


図11. 1 梁貫通孔補強筋の名称等

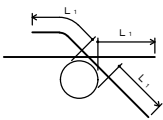


図11. 2 補強筋の定着長さ

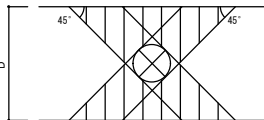


図11. 3 他の開孔を設けない範囲

- (2) 梁貫通孔の補強筋形式は表11. 1～表11. 2)により、配筋種別は設計図による。

表11. 1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

(注) — は、一般部分のあばら筋を示す。

表11. 2 MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	
MH2		2-2-D13		
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100φ	
MH4	4-2-D13			
MH5	4-2-D16			
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100φ	
MH7	4-2-D19			

(注) — は、一般部分のあばら筋を示す。

11. 2 コンクリートブロック帳壁との取合い

- (1) 控壁は、次による。
(ア) 控壁の配置は、設計図による。
(イ) 配筋は、図11. 4)による。

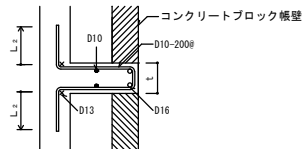


図11. 4 控壁の配筋（水平、垂直とも）

- (2) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図11. 5)による。

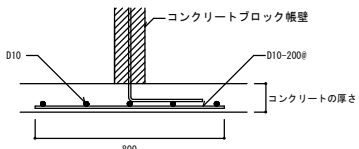


図11. 5 壁付き土間コンクリートの補強配筋

11. 3 バラベット

バラベットの先端補強筋は図11. 6)により、コンクリート厚さ及び配筋は構造図による。

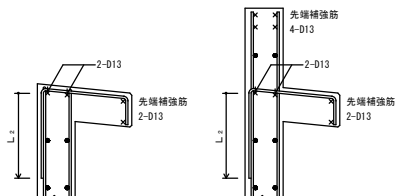


図11. 6 バラベットの先端補強筋

12. 1 擁壁

宅地造成等規制区域外での高さ2m以下の擁壁の鉄筋の定着長さは図12. 1)により、コンクリートの厚さ及び配筋は構造図による。

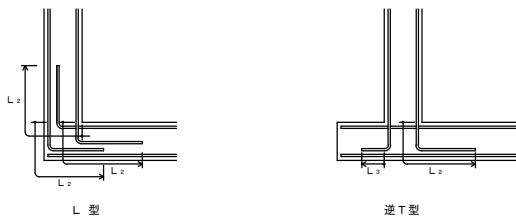


図12. 1 擁壁の鉄筋の定着長さ

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	構造関係共通事項（その4） R7. 11		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	-	図面番号	S-7
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

G－ECSパイル工法設計施工標準（１）

【 回 転 貫 入 鋼 管 杭 ジ ー ・ エ ク ス パ イ ル 】

【 許容支持力および適用範囲】

1 件 名

G－ECSパイル工法

（ 先端地盤：砂質地盤（れき質地盤を含む） ）

（ 先端地盤：粘土質地盤 ）

2 押込み方向支持力

本工法により施工される基礎ぐいの許容支持力を定める際に求める長期並びに短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

1）長期に生ずる力に対する地盤の許容支持力（k N）

$$Ra = \frac{1}{3} \{ \alpha \overline{N} Ap + (\beta \overline{Ns} Ls + \gamma qu Lc) \psi \}$$

2）短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力（k N）

$$Ra = \frac{2}{3} \{ \alpha \overline{N} Ap + (\beta \overline{Ns} Ls + \gamma qu Lc) \psi \}$$

ここで、

α ： くい先端支持力係数 （砂質地盤（れき質地盤を含む） $\alpha=1.84$ ）
（粘土質地盤 $\alpha=1.50$ ）

β ： 砂質地盤におけるくいの周面摩擦係数 （ $\beta=0$ ）

γ ： 粘土質地盤におけるくいの周面摩擦係数 （ $\gamma=0$ ）

$\overline{N}$ ： 基礎ぐいの先端付近（くい先端より下方に1 D w（D w：基礎ぐい先端の実断面積（A g）と等価な円の直径 以下、等価円直径と呼ぶ）の範囲）の地盤の標準貫入試験による打撃回数（N 値）の平均値（回）

（砂質地盤（れき質地盤を含む）（ $5 \leq N \leq 60$ ））
（粘土質地盤（ $10 \leq N \leq 50$ ））

A_p ： 基礎ぐいの先端翼部の有効断面積（m²）

$A_p = e \cdot A_g$

e： 有効率 （くい径300mm未満で1.0 300mm以上で0.97）

A_g ： 基礎ぐい先端の実断面積（m²）

$\overline{Ns}$ ： 基礎ぐい周囲の地盤のうち砂質地盤の標準貫入試験による打撃回数の平均値（回）

L_s ： 基礎ぐい周囲の地盤のうち砂質地盤に接する有効長さの合計（m）

qu ： 基礎ぐい周囲の地盤のうち粘土質地盤の一軸圧縮強度の平均値（k N／m²）

L_c ： 基礎ぐい周囲の地盤のうち粘土質地盤に接する有効長さの合計（m）

ψ ： 基礎ぐい周囲の有効長さ（m）

基礎ぐい先端の実断面積（A g）

く い 径 D p（mm）	114.3	139.8	165.2	190.7	216.3	267.4	318.5	355.6	406.4 （400）
基礎ぐい先端の実断面積 A g（m ² ）	0.0514	0.0780	0.1089	0.1562	0.1993	0.2884	0.4184	0.4359	0.5263

※ D p：一般部くい径

基礎ぐいの先端翼部の有効断面積（A p）および等価円直径（D w）

く い 径 D p（mm）	114.3	139.8	165.2	190.7	216.3	267.4	318.5	355.6	406.4 （400）
基礎ぐい先端の有効断面積 A p（m ² ）	0.0514	0.0780	0.1089	0.1562	0.1993	0.2884	0.4058	0.4228	0.5105
等価円直径 D w（mm）	256.9	314.7	372.3	446.0	503.7	606.0	729.9	745.0	818.6

※ D p：一般部くい径

3 くい体から決まる長期許容支持力

$$Na = \frac{F^*}{1.5} Ae (1 - \alpha 1 - \alpha 2)$$

$$F^* = F \cdot (0.80 + 2.5 \cdot te / r) \quad (0.01 \leq te / r < 0.08)$$

$$F^* = F \quad (te / r \geq 0.08)$$

F： 設計基準強度（N／mm²） Ae： 腐食しを除いた鋼管の断面積（mm²）

r： 鋼管の半径（mm） te： 腐食しを除いた鋼管の厚さ（mm）

$\alpha 1$ ： 長さ径比による低減率 （L>100 D p の場合 $\alpha 1=(L/Dp-100)/100$ ）

$\alpha 2$ ： 溶接継手による低減率（ $\alpha 2=0$ ）

4 引抜き方向の短期支持力

1）地盤から定まる引抜き方向の短期支持力（k N）

$$t Ra = \frac{2}{3} \kappa \overline{N} A_t p + W_b$$

ここで、

κ ： 先端抵抗係数 （砂質地盤（れき質地盤を含む）： $\kappa=5.6$ ）

（粘土質地盤： $\kappa=5.6$ ）

$\overline{N}$ ： 基礎ぐいの先端付近（くい先端より上方に3 D w（D w：基礎ぐい先端の実断面積（A g）と等価な円の直径 以下、等価円直径と呼ぶ）の範囲）の地盤の標準貫入試験による打撃回数（N 値）の平均値（回）

*砂質地盤（れき質地盤を含む）の場合： $10 \leq N_t \leq 60$

ただし、N t を求めるための個々のN 値についてはN<5 の場合はN＝0

N>100の場合はN＝100とする。

*粘土質地盤の場合： $5 \leq N_t \leq 50$

ただし、N t を求めるための個々のN 値についてはN<2 の場合はN＝0

N>50の場合はN＝50とする。

$A_t p$ ： 基礎ぐいの先端の有効面積（m²）

$$A_t p = (D_w^2 - D_p^2) \pi / 4$$

D w： 等価円直径

D p： くい径

W_b ： 浮力を考慮したくい有効自重（k N）

2）くい体から定まる引抜き方向の短期支持力※

$$t Na = F Ae$$

F： 設計基準強度（N／mm²） Ae： 腐食しを除いた鋼管の断面積（mm²）

※ 明らかにt Ra より大きいので、特に検討の必要はない。

5 適用範囲

1) 適用する地盤の種類

*くいの許容支持力（押込み方向）

基礎ぐいの先端地盤： 砂質地盤（れき質地盤を含む）
粘土質地盤 （ $\phi 267.4$ まで）

*引抜き方向の短期支持力

基礎ぐいの先端地盤： 砂質地盤（れき質地盤を含む）
粘土質地盤（ $\phi 267.4$ まで）

最小くい長： 砂質地盤 3mと10 D p（D p：軸部鋼管径）の大きい方
粘土質地盤 5m

2) 最大施工深さ

基礎ぐいの軸部径D p の1.30倍とする。

最大施工深さ（ 施工地盤面より ）									
杭 径 D p（mm）	114.3	139.8	165.2	190.7	216.3	267.4	318.5	355.6	406.4 （400）
最大施工深さ（ m ）	14.86	18.17	21.48	24.79	28.12	※1 34.76	41.40	46.22	52.83 （52.00）

※1 杭先端が粘土質地盤で引抜き方向支持力を使用する場合は31.70m。

3) 適用する建築物の規模

床面積の合計が500.000m²以下のものとする。

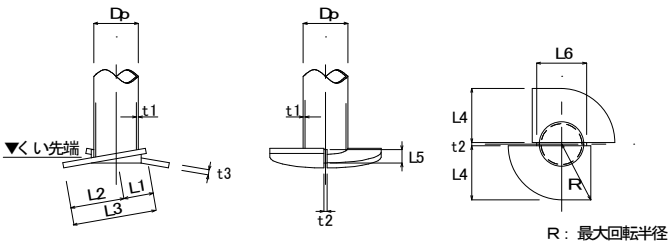
【 G－ECSパイルの構造・規格】

1 G－ECSパイル寸法

（単位は全て mm）

Dp	t1	t2	t3	L1	L2	L3	L4	L5	L6	R
114.3	4.5 6.0	12	16 （SS400）	70	140	210	140	52	135	162
139.8	4.5 6.6	12	19 （SS400）	90	170	260	170	60	165	198
165.2	5.0 7.1	12	19 （SS400）	110	200	310	200	65	185	234
190.7	5.3 7.0	16	22 （SS400）	130	240	370	240	80	225	280
216.3	8.2 10.3 12.7	16	22 （SM490A）	150	270	420	270	90	250	316
267.4	8.0 9.3 12.7 16.0 19.0	19	28 （SS400）	180	325	505	325	110	305	380
318.5	6.9 10.3 12.7 16.0 19.0	22	32 （SS400）	220	390	610	390	115	360	457
355.6	9.5 12.7 16.0※ 19.0	22	32 （SS400）	220	400	620	400	120	390	466
（400）	9.0 12.0	25	36 （SS400）	240	440	680	440	135	440	512
406.4	9.5 12.7 16.0※ 19.0	25	36 （SS400）	240	440	680	440	135	440	512

※は特注品となりますので、事前にご相談ください。



※掘進が困難と想定される地盤では掘削刃付きタイプを使用する。

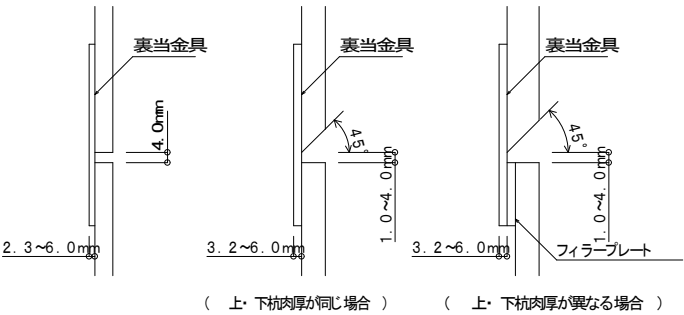
2 G－ECSパイルの材質

部 位	使 用 材 料
基礎ぐいの軸部	○ J I S G 3444（1994）に定めるSTK400及びSTK490 ○ J I S A 5525（1994）に定めるSKK400及びSKK490 ○ J I S G 3475（1996）に定めるSTKN400W、STKN400B及びSTKN490B
くい先端部の翼及び組立板	○ J I S G 3101（1995）に定めるSS400 ○ J I S G 3106（1999）に定めるSM400A、SM400B、SM400C、SM490A SM490B、SM490C、SM490YA、SM490YB
ギヤ材、掘削刃及び裏当て金具	○ J I S G 3101（1995）に定めるSS400 ○ J I S G 3106（1999）に定めるSM400A、SM400B、SM400C、SM490A SM490B、SM490C、SM490YA、SM490YB

3 継手

1) 溶接継手標準図

○ $\phi 139.8$ 以下の場合 ○ $\phi 165.2$ 以上の場合



【現場自動溶接ロボット工法】 ECS－AW

・ロボット本体仕様

本体外形寸法 幅 388mm 奥行き 120mm 高さ 236mm

レール寸法： 幅 120mm 厚さ 20mm

本体重量： 約 4.5kg

・溶接方法： セルフシールドアーク溶接

・適用くい径： D p =165.2mm~406.4mm

2021.04.16 改訂

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	G－ECSパイル工法設計施工標準（１）		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	—	図面番号	S－9
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

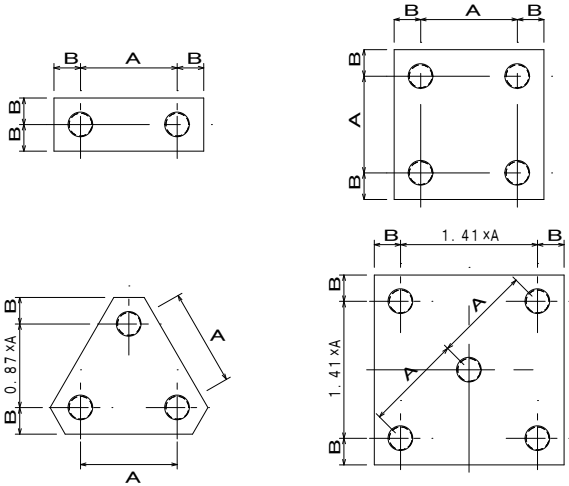
G-ECSパイル工法設計施工標準（2）

【回転貫入鋼管杭 ジー・エクスパイル】

【くい芯間隔とへりあきの推奨値】

・くい芯間隔とへりあきの推奨値を以下に示す。

くい芯間隔とへりあきの推奨値（単位は全て mm）									
くい径 Dp（mm）	114.3	139.8	165.2	190.7	216.3	267.4	318.5	355.6	406.4 (400)
くい芯間隔 A	440	540	640	760	850	1030	1300	1300	1500
へりあき B	140	150	175	210	240	300	400	400	500



【くい頭部の接合例】

・くい頭部の接合例を以下に示す。

○タイプA（弊社推奨例）

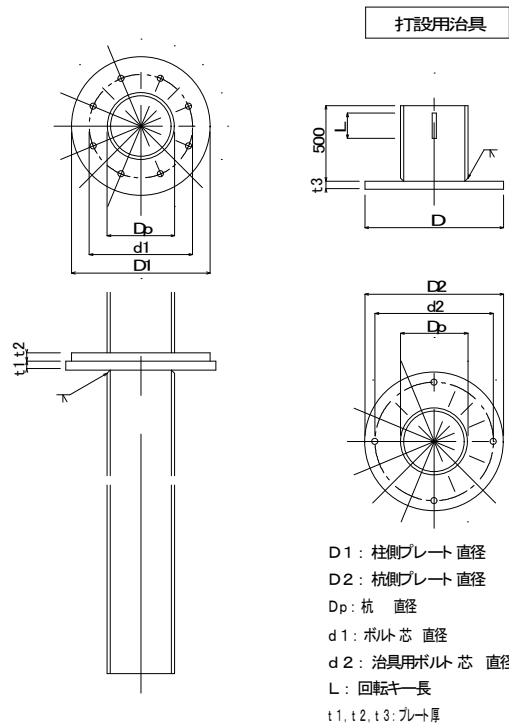
引抜き力を負担しないくいの場合	
	くい頭部をフーチング内へ軸径（Dp）程度埋め込ませる。 吊り型枠を設置する。 中詰めコンクリート2Dpを確保する。 ※詳細図参照

引抜き力を負担させるくいの場合	
	くい頭部をフーチング内へ軸径（Dp）程度埋め込ませる。 くい頭部接合の鉄筋は引抜き力を受けを負担する。 吊り型枠を設置する。 中詰めコンクリート2Dpを確保する。 ※詳細図参照

○タイプB

	くい頭部をフーチング内へ（5d+70）mm程度埋め込ませる。 吊り型枠を設置後、鉄筋を溶接する。 （※くい頭部接合については、別途鉄筋が必要） ※詳細図参照
--	---

【ECS-TP工法】



【ECS-TP工法施工手順図】

(1) 杭芯・造り出し (2) 建て込み	(3) 目 定	(4) 回転設置	(5) 杭の接続	(6) TP杭の接続	(7) 杭の回転設置 (8) 埋設完了	トップレート 孔あけ

- 管理値
ECS-TP工法の水平方向施工管理許容値は± 20mm以内、鉛直方向の施工管理許容値は0～10mmとし、これを超える場合は施工方法について監理者と協議を行うものとする。
- 施工手順
(1)(2) 逃げくいは、直角方向2箇所設定する。
基準は、地面に固定したもの（鉄板等）に印す。
(6)(7) TPくいは、TP治具取付、回転設置。
(8) G-ECSパイル工法打ち止め管理基準を満足していることを確認し、所定レベル 0～10mmで埋設完了とする。
(9) テンプレートを用いて、トップレートの上からボルト孔の墨出しを行い、位置再確認の後、ボルト孔あけドリルにより施工する。
(10) レベル調整用のフィラープレートを敷設し、柱の建方を行う。（鉄骨建て方済み直しの前工程で、杭頭周辺に捨てコンクリートを打設しておくことが望ましい。）

【施工管理方法】

G-ECSパイル工法では、以下の管理方法により現場ごとの「支持層確認管理値」を決定し、くいの先端が確実に支持層に到達していることを確認して、打ち止め管理を行う。

（PR値）

・G-ECSパイル工法では、「PR値」により施工管理を行う。

「PR値」・・・くい1回転あたりの地中への貫入量（mm）

（施工管理方法）

- 本ぐいの施工に先立ち、地盤調査（標準貫入試験）位置または近傍にて試験ぐいの施工を行う。試験ぐいでは、地表面からくい先端所定位置まで全長に渡り、深度・PR値・トルクを測定し、地盤調査資料と比較して整合性を検証する。このとき、地盤調査位置近傍に本ぐいがある場合には、これを試験ぐいとして行うことができる。
※くい先端所定位置：設計上必要とされるN値の発現深度
- 試験ぐいの不整合がなければ、試験ぐいの施工データと比較しながら本ぐいを3本施工し、支持層上部より1.0m上部（引抜き方向の支持力を負担させるくいについては3Dwかつ1.0m上部）から試験ぐいと同一の押圧力でPR値を測定する。
- 試験ぐいを含めた管理値設定ぐい4本について、支持層上部におけるPR値の平均値を求める。また、合わせてトルクの最小値を求める。
- 3）で求めた平均値の130%を当該現場における「支持層確認管理値」とする。また、トルクの最小値とバラツキの適度を考慮して打ち止め参考トルクを設定する。

- 本ぐいの施工時には、支持層上部と想定される深度より1.0m上部（引抜き方向の支持力を負担させるくいについては3Dwかつ1.0m上部）から試験ぐいと同一の押圧力でPR値・トルクを測定し、「支持層確認管理値」以下となった深度を支持層上部とする。

- 支持層上部より1Dp以上くいを根入れし、打ち止めとする。
根入れの際は杭を正転させ、打ち止める。

但し、Dp：くいの軸径の直径。

※ PR値が「支持層確認管理値」以下となった後、根入れの際に

・施工トルクがくいの短期許容ねじり強さを超える場合、

・PR値が「支持層確認管理値」の30%以下となる場合、

には、1Dpの根入れと同等として扱う。

- くいの高止まり時の処置

打ち止め条件が満たしているが、貫入が困難な場合で支持層上部以深の地盤N値の落ち込みがないことが確実な場合は、その位置で打ち止めとし、くい頭は地面で切断とする。

高止まり時の支持層上部より以深の地盤N値の落ち込みが予想される場合

には、くいに逆回転を与えて引抜き、アースオーガー等にて掘削して施工

困難な層を打抜き後、再施工とする。アースオーガー等による先行掘削は

層上端の1.0m程度上部（引抜き方向の支持力を適用するくいについては

3Dwかつ1.0m上部）とする。

- くい長不足の処置

打ち止め条件を満たさないくいは適宜継いで、「支持層確認管理値」

以下になるまで施工する。

但し、最大施工深さを超える場合には、監理者・設計者と協議の上、

指示に従うこととする。

国土交通省大臣認定

G-ECSパイル工法

認定年月日 令和元年 7月23日

認定番号 TACP-0585

認定書 (国指第755号)

指定書 (国指第755-2号)

性能評価書(砂質・れき質) (BCJ基研-FD0124-04)

財団法人 日本建築センター 性能評価

性能評価書(粘土質) (BCJ基研-FD0178-01)

財団法人 日本建築総合試験所 性能証明

建築技術性能証明書(引抜き方向の鉛直支持力BRC 性能証明 第11-05号 改2)

株 式 会 社 三 誠

本 社 東京都中央区新川1-8-8 アクロス新川ビル9F

TEL:03-3551-0211 FAX:03-3551-0217

東日本支店 埼玉県さいたま市南区南浦和12-40-2 南浦和ガーデンビル6階

北関東営業所 TEL:048-813-6612 FAX:048-813-6615

茨城出張所 TEL:0298-82-8820 FAX:0298-82-8821

東北営業所 TEL:022-217-8105 FAX:022-217-8137

新潟営業所 TEL:025-242-2180 FAX:025-242-2183

北海道出張所 TEL:076-231-0750 FAX:076-231-0751

北海道営業所 TEL:011-252-2556 FAX:011-252-2557

東京支店 東京都中央区新川1-8-8 アクロス新川ビル9F

東京支店 TEL:03-3551-0211 FAX:03-3551-0217

千葉出張所 TEL:043-302-7080 FAX:043-302-7080

神奈川出張所 TEL:045-263-1625 FAX:045-263-1626

西日本支店 大阪府大阪市中央区今橋3-2-20 洪庵日生ビル3F

関西営業所 TEL:06-6233-7300 FAX:06-6233-7310

中四国営業所 TEL:082-568-1310 FAX:082-568-1311

中部営業所 TEL:052-203-8551 FAX:052-203-8552

九州支店 福岡県福岡市博多区博多駅前1-31-17 東宝福岡ビル5F

九州営業所 TEL:092-433-5833 FAX:092-433-5834

沖縄営業所 TEL:098-860-3700 FAX:098-860-3750

2021.06.07 改訂

工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	G-ECSパイル工法設計施工標準（2）		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	—	図面番号	S-10
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

G-ECSパイル工法／N-ECSパイル工法 機械式継手工法

【ECS-PJ（小口径鋼管くい用無溶接継手）】

1 件 名
ECS-PJ（小口径鋼管くい用無溶接継手）
BCJ 評定-F D0426-04

2 適用範囲

（１）本継手に使用するくい種は、小口径鋼管杭とする。

使用鋼材	名称	材 種
JIS G 3444	一般構造用炭素鋼鋼管	STK400、STK490
JIS G 3475	建築構造用炭素鋼鋼管	STKN400W、STKN400B、STKN490B

（２）適用する杭径は、φ165.2、φ190.7、φ216.3、φ267.4とする。

（３）回転貫入くい工法に用いる。なお、杭支持力の計算の際は、
周面摩擦力を見込まないものとする。

3 継手耐力のクライテリア

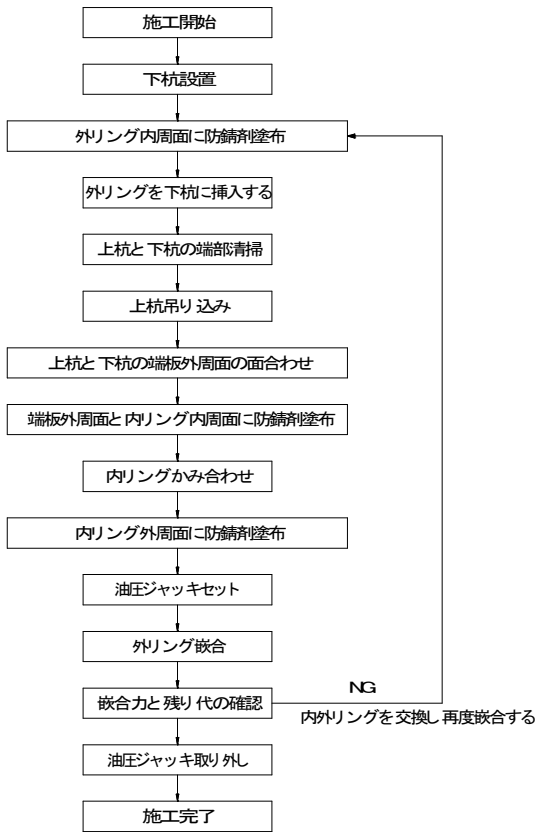
圧縮耐力	くい母材の短期許容圧縮応力を確保
引張耐力	くい母材の短期許容引張力× α ^(注1) を確保
曲げ耐力	くい母材の短期許容曲げモーメントを確保
せん断耐力	くい母材の短期許容せん断力を確保
※ねじり耐力 （継手部の回転許容ねじりモーメント）	φ165.2は 50.9(kN・m) φ190.7は 68.3(kN・m) φ216.3は 108.6(kN・m) φ267.4は 160.7(kN・m)

※施工時のねじり耐力は、継手部の回転許容ねじりモーメントと鋼管杭の短期許容ねじりモーメントのいずれか小さい値を採用する。

（注1） α ：くい径毎の引張耐力低減率を示す。

杭径(mm)	鋼管板厚(mm)	α
165.2	5.0	0.72
	7.1	0.48
190.7	5.3	0.66
	7.0	0.48
216.3	6.0	0.53
	8.2	0.37
267.4	8.0	0.37
	9.3	0.31

4 施工手順



【ECS-MJ（鋼管杭の機械式継手工法）】

1 件 名
MJ 工法（鋼管杭の機械式継手工法）
GBRC性能証明 第19-07号

2 適用範囲

（１）MJ 継手工法を採用できる鋼管の材質は、以下のとおりとする。

使用鋼材	名称	材 種
JIS G 3444	一般構造用炭素鋼鋼管	STK400、STK490
ただし、指定建築材料で基準強度が325N/mm ² 以下の鋼管も使用できる。		

（２）本工法を採用できる鋼管の寸法を下表に示す。

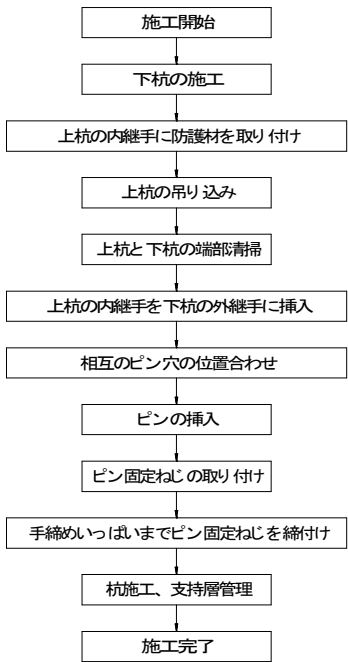
杭径(mm)	鋼管板厚(mm)	材質と適用範囲	
		STK400	STK490
267.4	8.0	●	●
	9.3	●	●
	12.7	●	
318.5	6.9	●	●
	10.3	●	●
	12.7	●	
355.6	9.5	●	●
	12.7	●	
406.4	9.5	●	●
	12.7	●	

※ここで、●は適用範囲内であることを示す。継手位置で杭の板厚・材質が変わる場合は耐力の小さい方に合わせて継手の適用可否を判断する。

3 継手耐力のクライテリア

圧縮耐力	くい母材の短期許容圧縮応力を確保
引張耐力	くい母材の短期許容引張力の60%相当を確保
曲げ耐力	くい母材の短期許容曲げモーメントを確保
せん断耐力	くい母材の短期許容せん断力を確保
※ねじり耐力 （継手部の回転許容ねじりモーメント）	くい母材のねじり耐力を確保

4 施工手順



2021.05.31 改訂

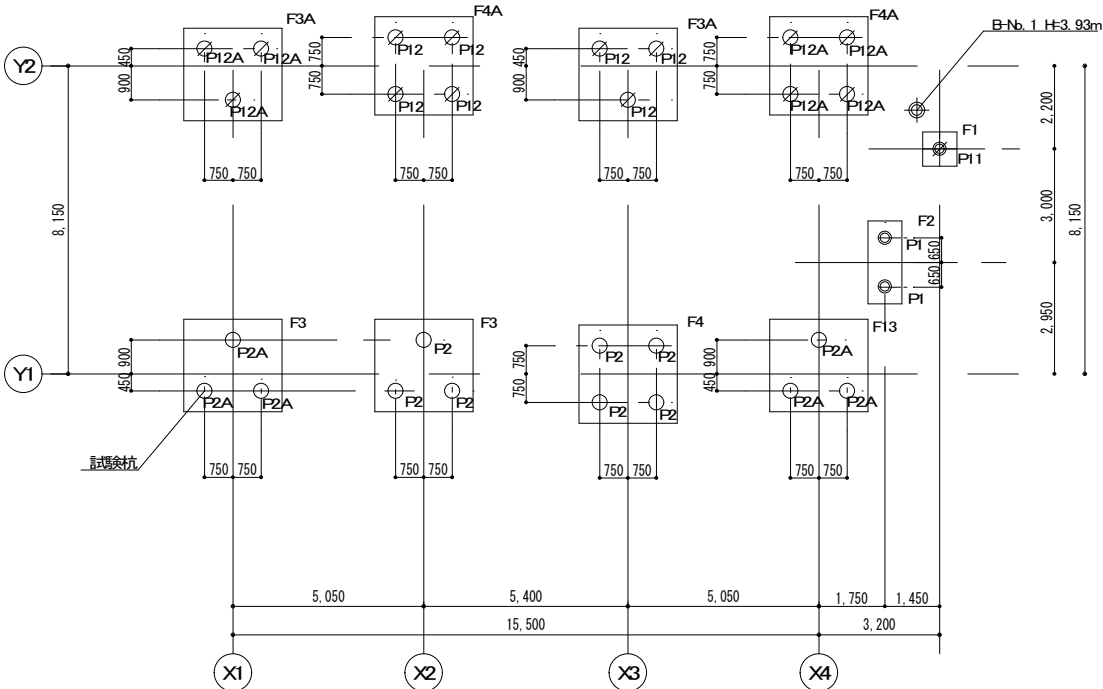
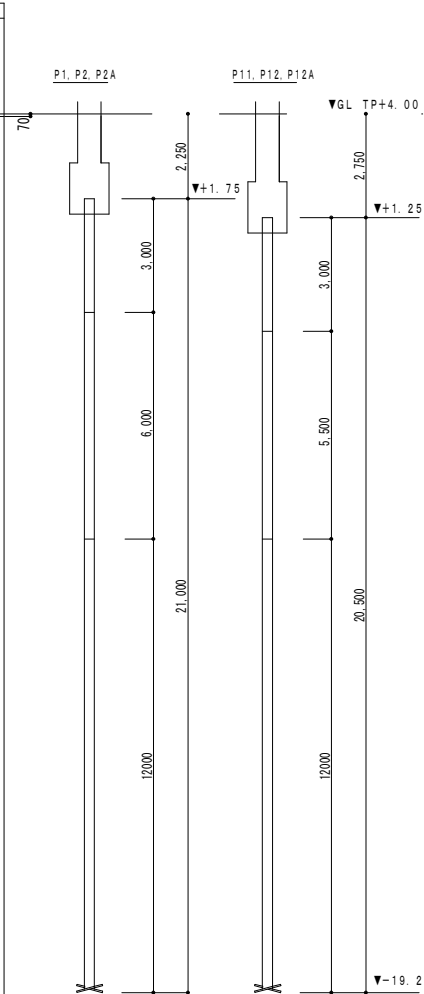
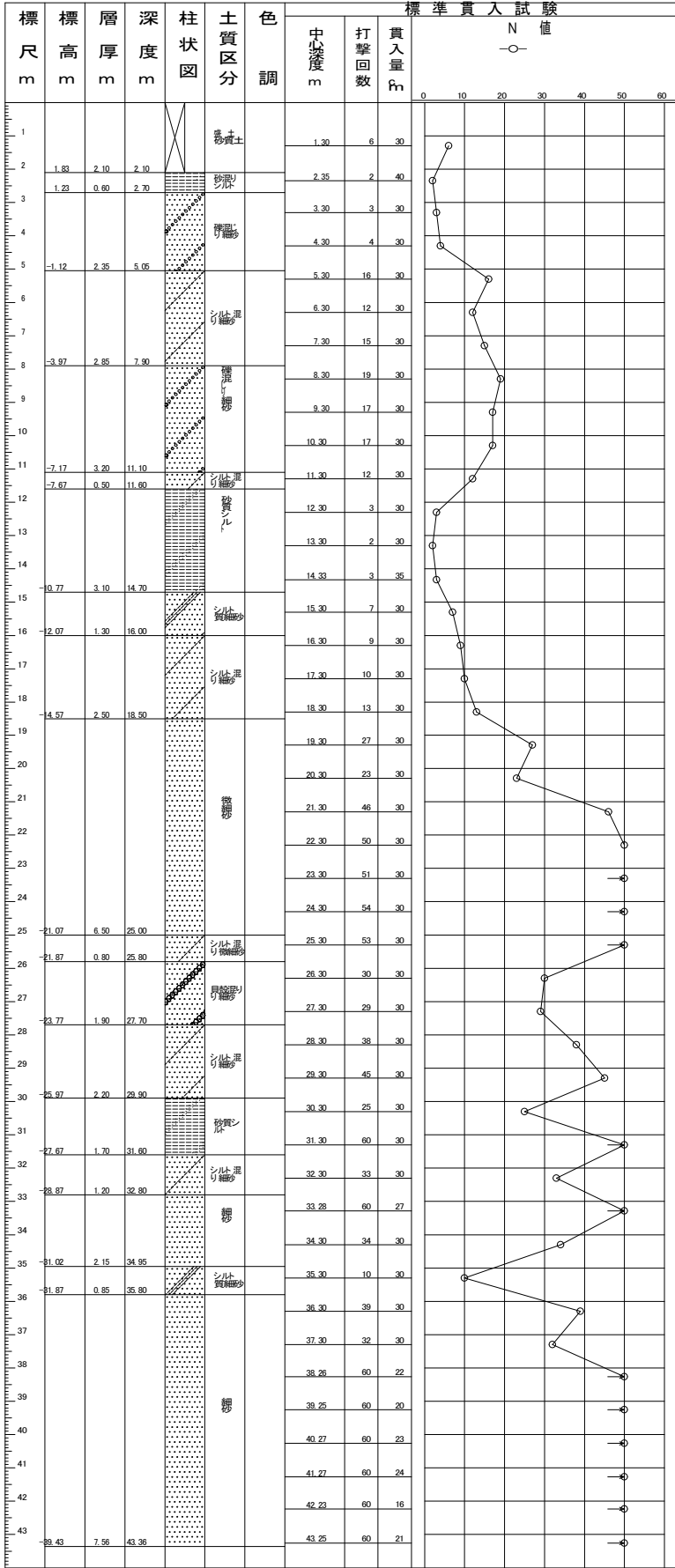
工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	G-ECSパイル工法 機械式継手工法		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	—	図面番号	S-11
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

調査件名: 佐倉浄水場特別高圧受電設備更新実施設計に伴う地盤調査委託

調査時期: 令和6年10月7日~6年10月15日

ボーリング名: No. 1

孔口標高: 3.93m 孔内水位: -1.50m

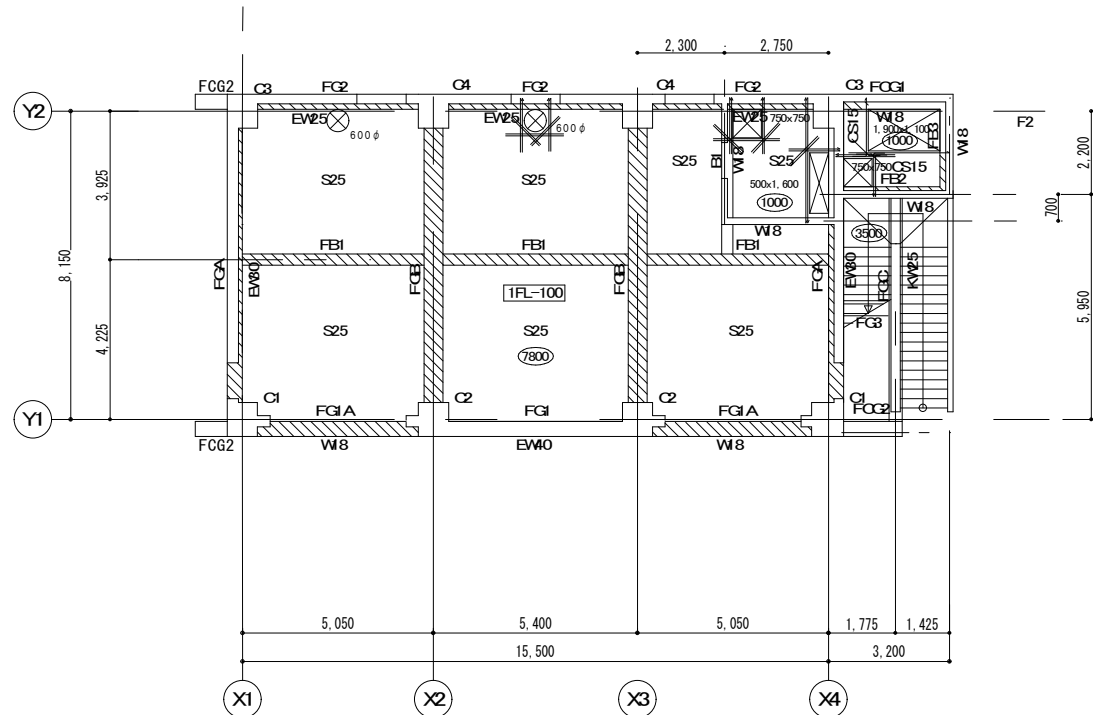


杭伏図 S=1/100

杭リスト

記号	記号	杭径 (mm)	杭頭レベル (m)	杭先端レベル (m)	杭実長 (m)	本数 (本)	杭種				杭頭耐震部	杭頭耐震部
							上杭	中杭	下杭	先端耐震部		
P1	○	355.6	TP+1.75	TP-19.25	21.00	2	鋼管杭 t=16.0 L=3m	鋼管杭 t=12.7 L=6m	鋼管杭 t=9.5 L=12m	Dw=745.0mm	—	
P2, P2A	○	406.4	TP+1.75	TP-19.25	21.00	13	鋼管杭 t=19.0 L=3m	鋼管杭 t=12.7 L=6m	鋼管杭 t=9.5 L=12m	Dw=818.6mm	P2Aのみ10-D19	
P11	○	355.6	TP+1.25	TP-19.25	20.50	1	鋼管杭 t=19.0 L=3m	鋼管杭 t=12.7 L=5.5m	鋼管杭 t=9.5 L=12m	Dw=745.0mm	—	
P12, P12A	○	406.4	TP+1.25	TP-19.25	20.50	14	鋼管杭 t=19.0 L=3m	鋼管杭 t=12.7 L=5.5m	鋼管杭 t=9.5 L=12m	Dw=818.6mm	P12Aのみ10-D19	
合計		—	—	—	—	30						
・特記なき限り下記による。												
・杭種・杭長: 先端耐震鋼管杭 L=20m, 20.5m 材質STK490(上杭 L=3.0m 中杭 L=6.0m 下杭 L=12.0m)												
・許容支持力: 長期 φ355.6: Ra=1290kN/本 φ406.4: Ra=1560kN/本												
・施工方法: 回轉圧入鋼管杭工法(G-ECS/バイル工法 大臣認定工法ACP-0585)												
・施工地盤高: TP+4.00												
・試験杭: 1ヶ所												

工事名	佐倉浄水場特高受電棟建築工事		
図面名	杭伏図		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1/100	図面番号	S-12
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

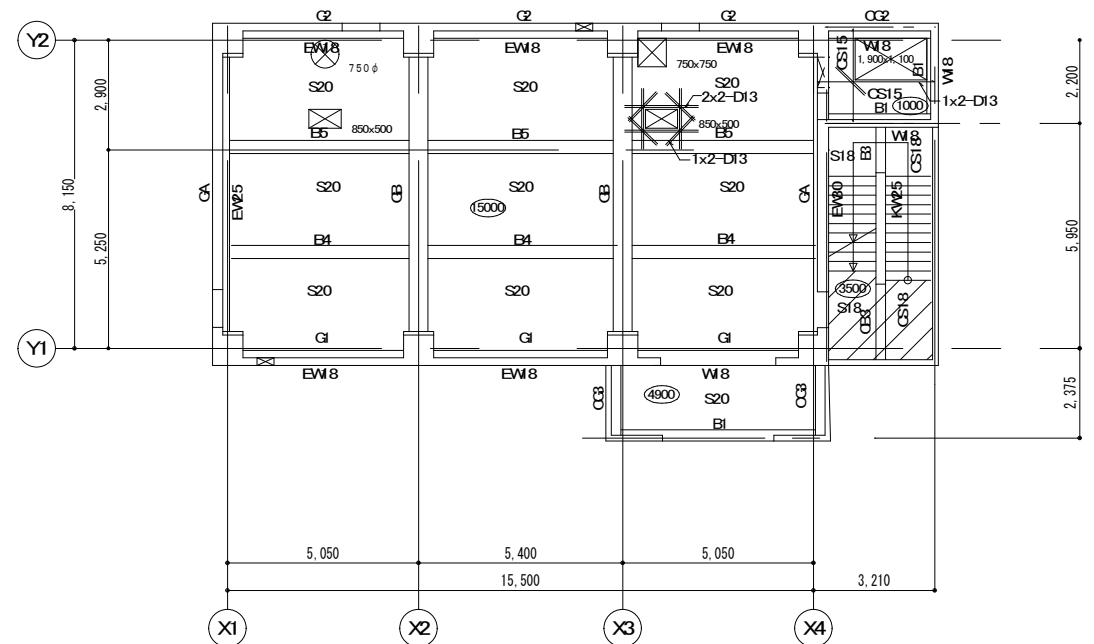


1 階 伏 図 S=1/100

1FL=+4.100
GL=+4.000

スラブ天端レベル
:1FL-100

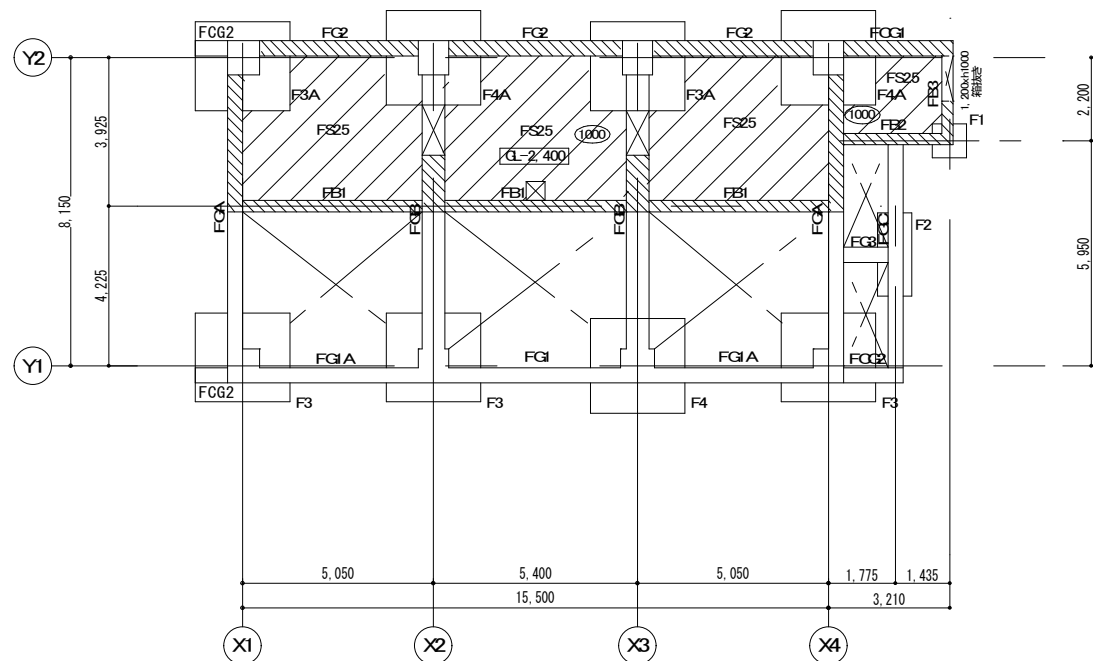
特記なき限り下記による。
1. は梁上端巻し打ちコンクリートを示す。
2. は床用積載荷重 (N/m²) を示す。
3. 特記なき基礎梁天端はGL-250とする。



2 階 伏 図 S=1/100

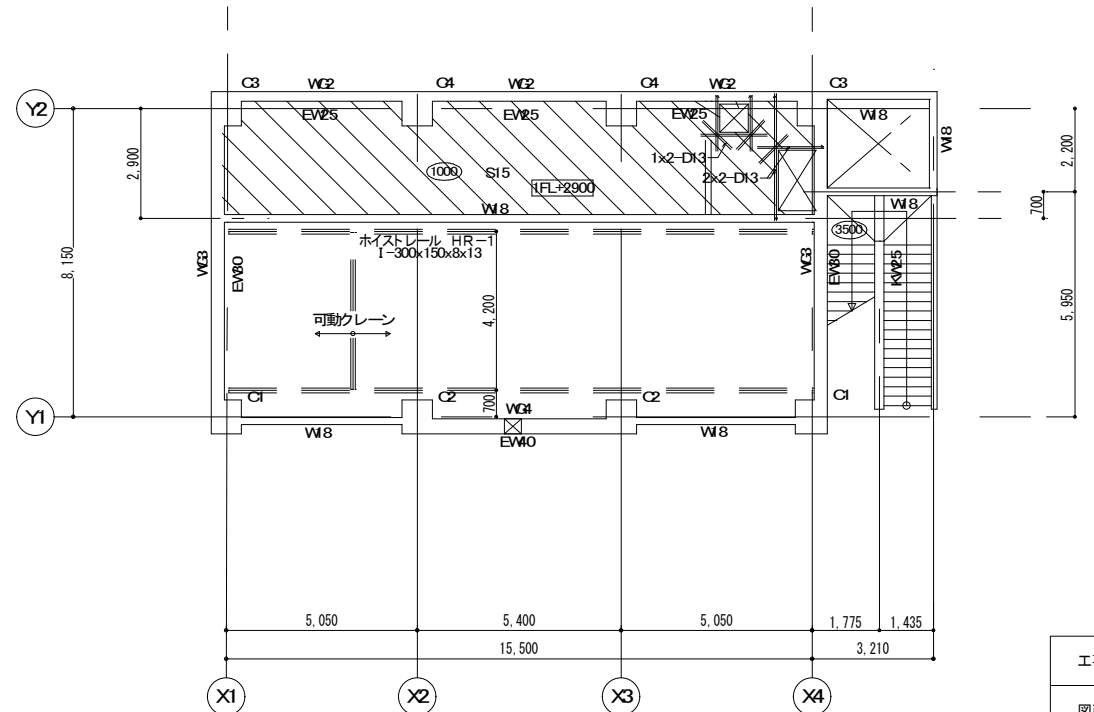
1FL=+10.200
スラブ天端レベル
:2FL-300
:2FL-170

特記なき限り下記による。
1. は床用積載荷重 (N/m²) を示す。
2. 特記なき梁天端はFL-300とする。



基 礎 伏 図 S=1/100

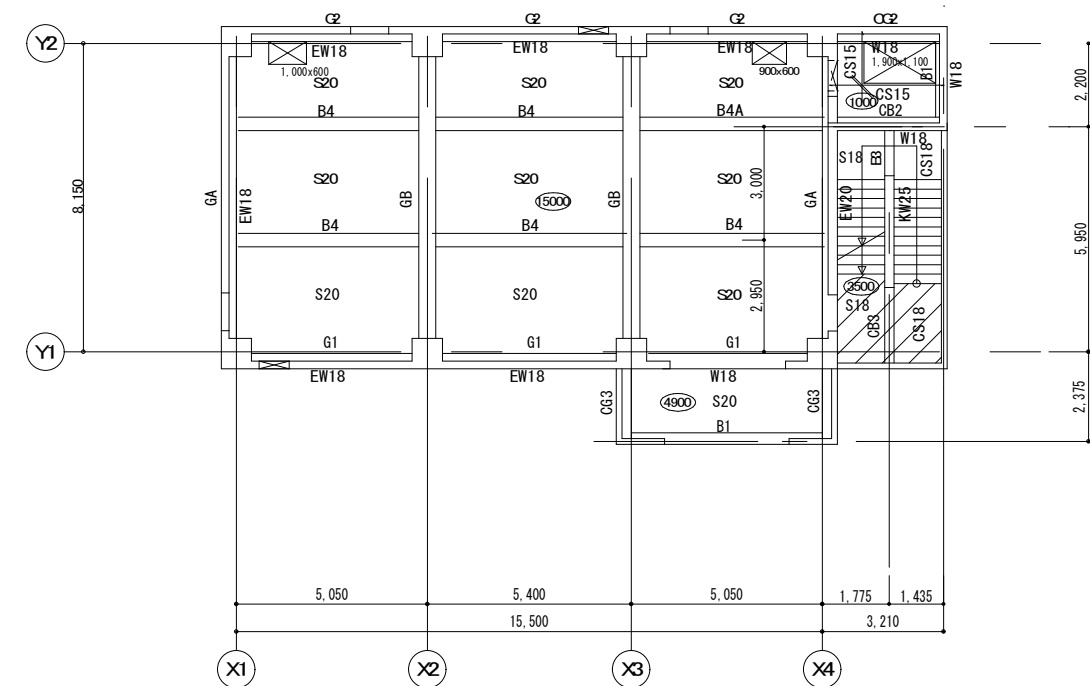
特記なき限り下記による。
1. は梁下端巻し打ちコンクリートを示す。
2. は床用積載荷重 (N/m²) を示す。



1 階 上 部 伏 図 S=1/100

特記なき限り下記による。
1. は床用積載荷重 (N/m²) を示す。

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	基礎、1、2階伏図		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	1/100	図面番号	S-13
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



4階伏図 S=1/100

4FL=+20.700

スラブ天端レベル

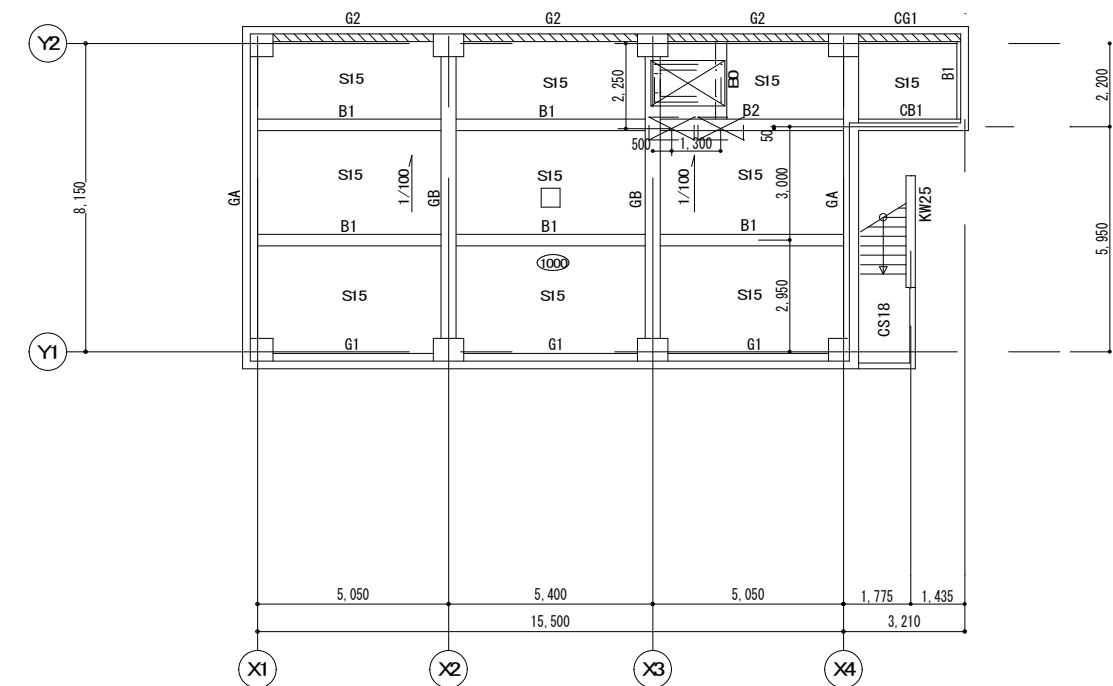
特記なき限り下記による。

1. ○は床用積載荷重(N/m²)を示す。

2. 特記なき梁天端はFL-300とする。

○ : 4FL-300

▨ : 4FL-170



R階伏図 S=1/100

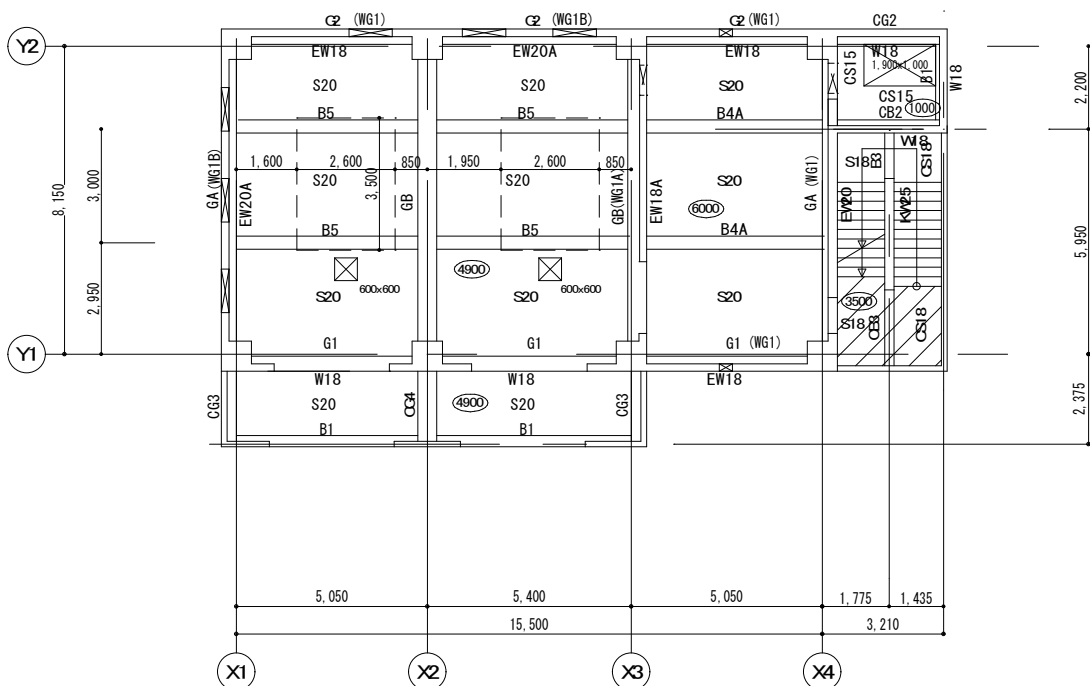
RFL=+24.600(水下)

特記なき限り下記による。

1. ▨は梁上端部、打ちコンクリートを示す。

2. ○は床用積載荷重(N/m²)を示す。

3. 大梁符号の括弧内寸法はRFL(水下)からの下がりを示す。



3階伏図 S=1/100

3FL=+15.100

スラブ天端レベル

特記なき限り下記による。

1. ○は床用積載荷重(N/m²)を示す。

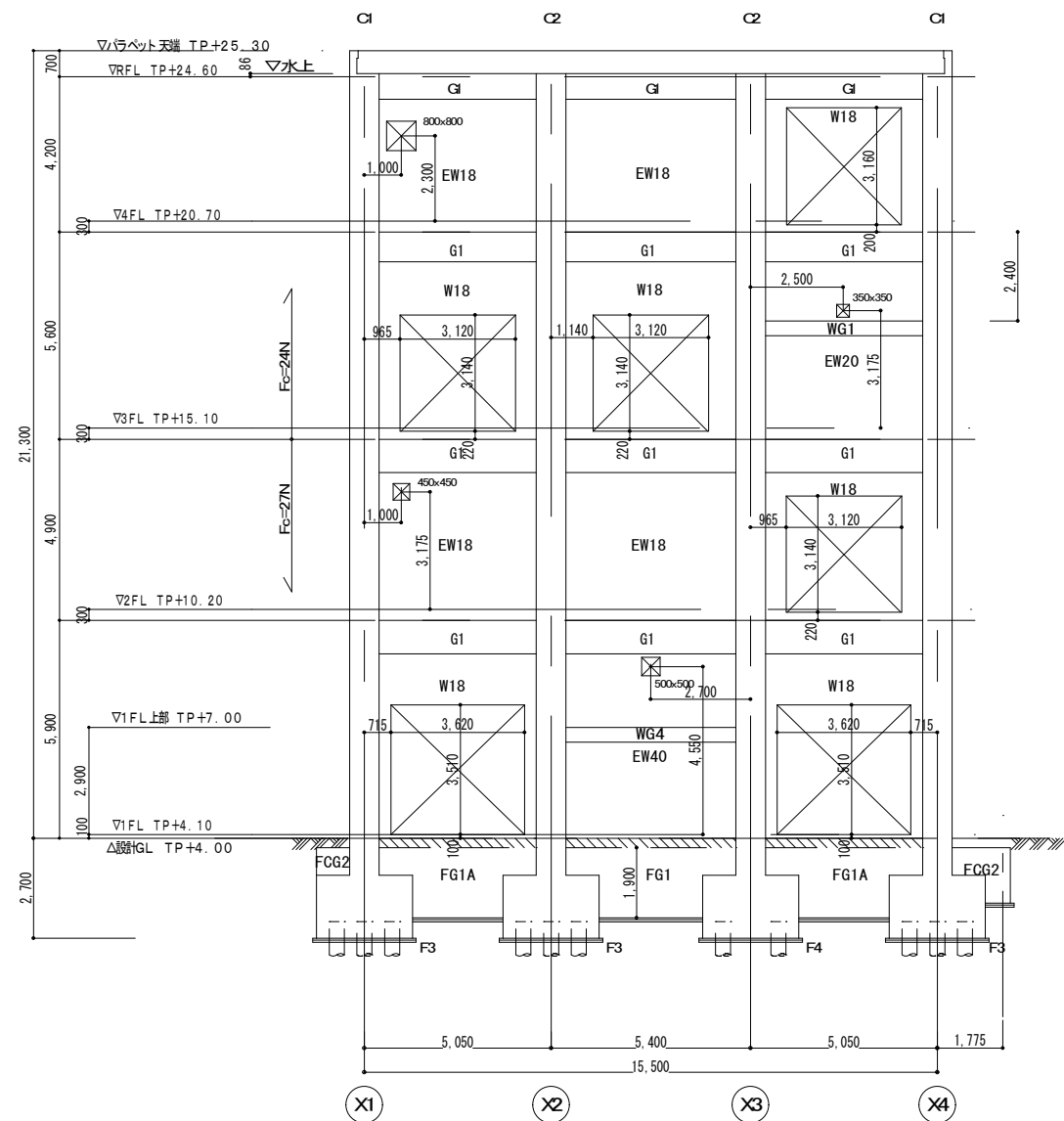
2. ()内梁符号は中根付打ち継ぎ梁を示す。

3. 特記なき梁天端はFL-300とする。

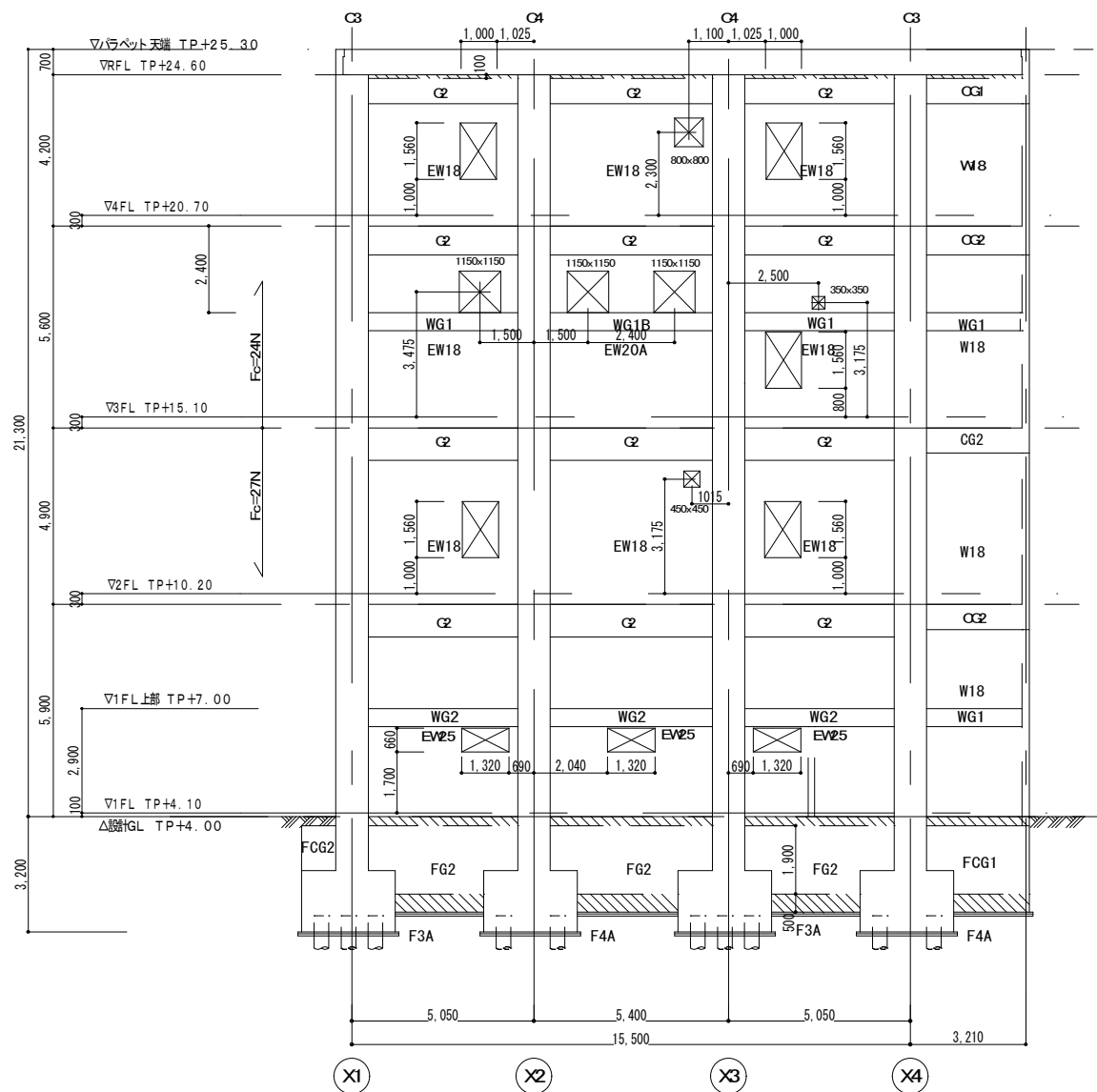
○ : 3FL-300

▨ : 3FL-170

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	3, 4, R階伏図		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1/100	図面番号	S-14
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



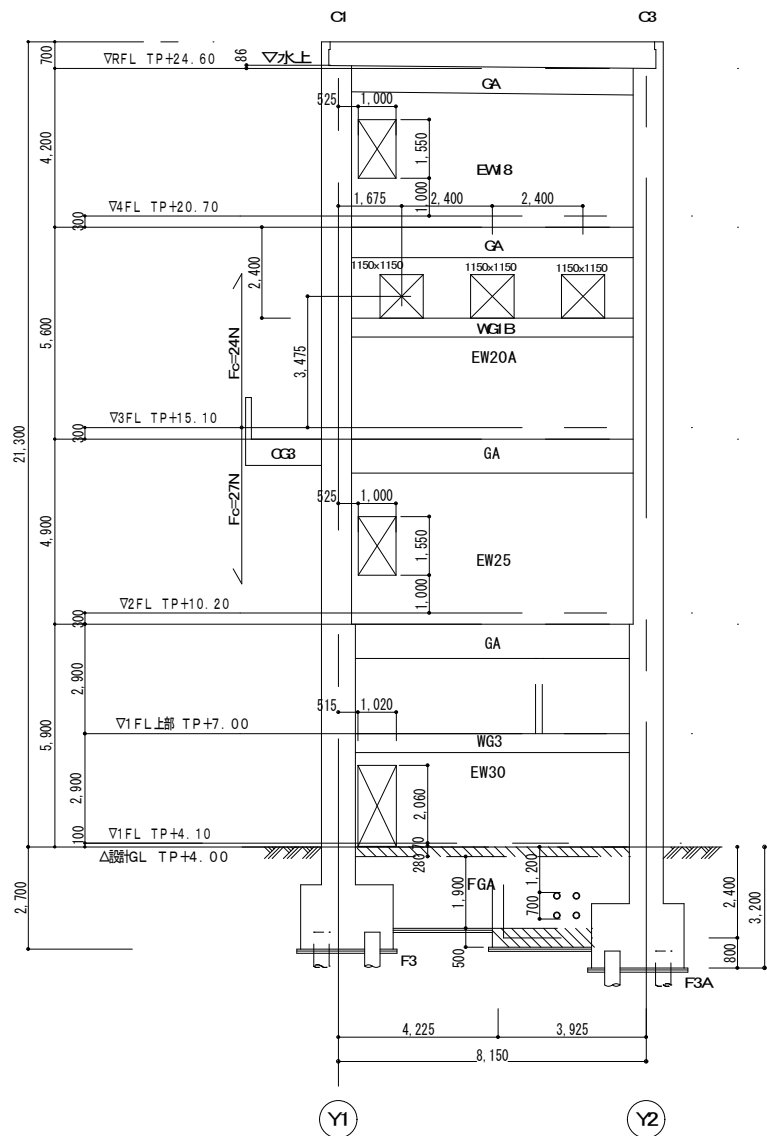
Y 1 通り 軸組図 s=1/100



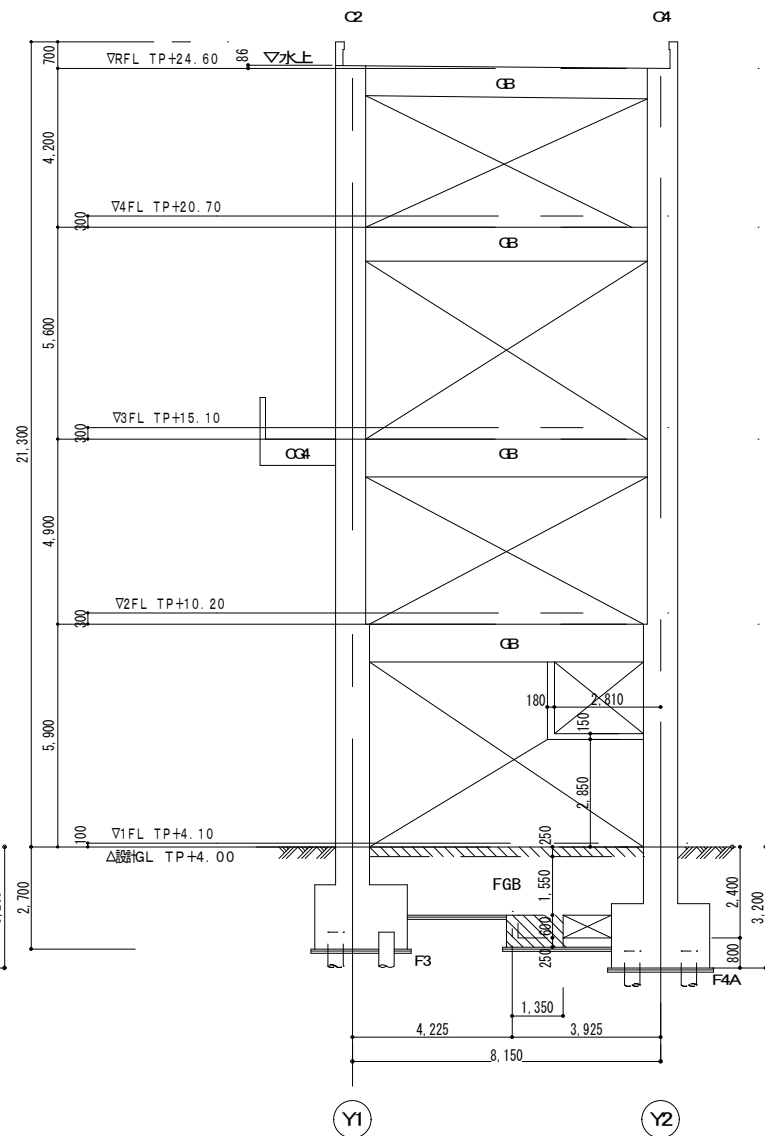
Y 2 通り 軸組図 s=1/100

- 特記なき限り下記による。
1. は梁上脚棚・打ちコンクリートを示す。
 2. プラント設備の引込み、引出しのための躯体へのスリーブ、箱抜き箇所は別途発注のプラント設備工事受注者と協議のうえ、位置を決定し、工事監理者の承諾を得て施工すること。

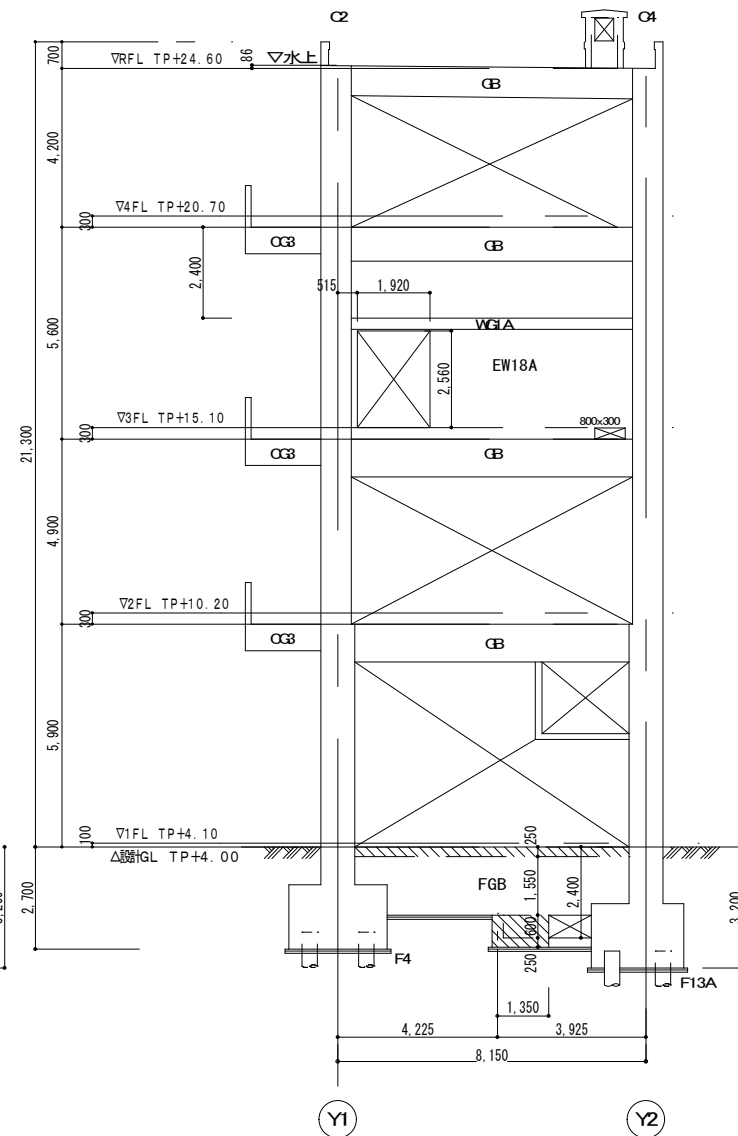
工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	軸組図（1）		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	1／100	図面番号	S-15
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



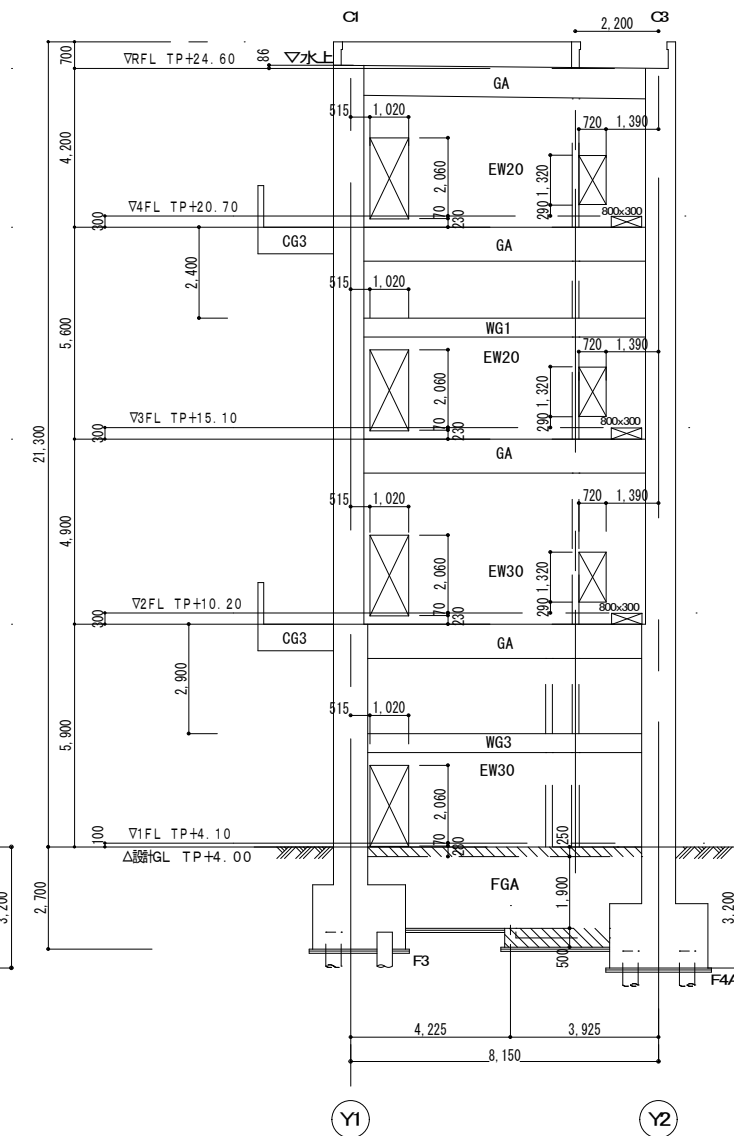
X 1 通り 軸組図 S=1/100



X 2 通り 軸組図 S=1/100



X 3 通り 軸組図 S=1/100

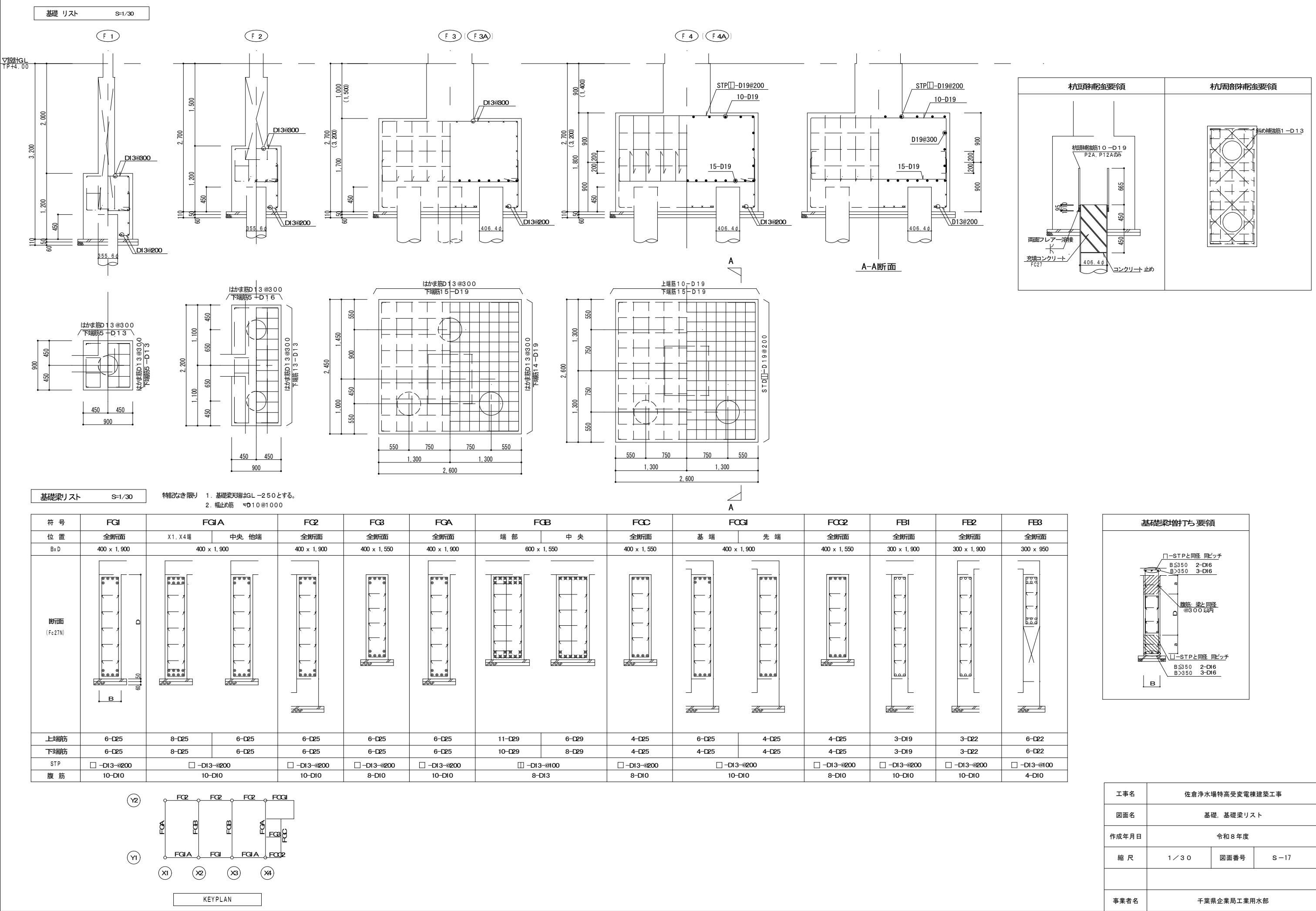


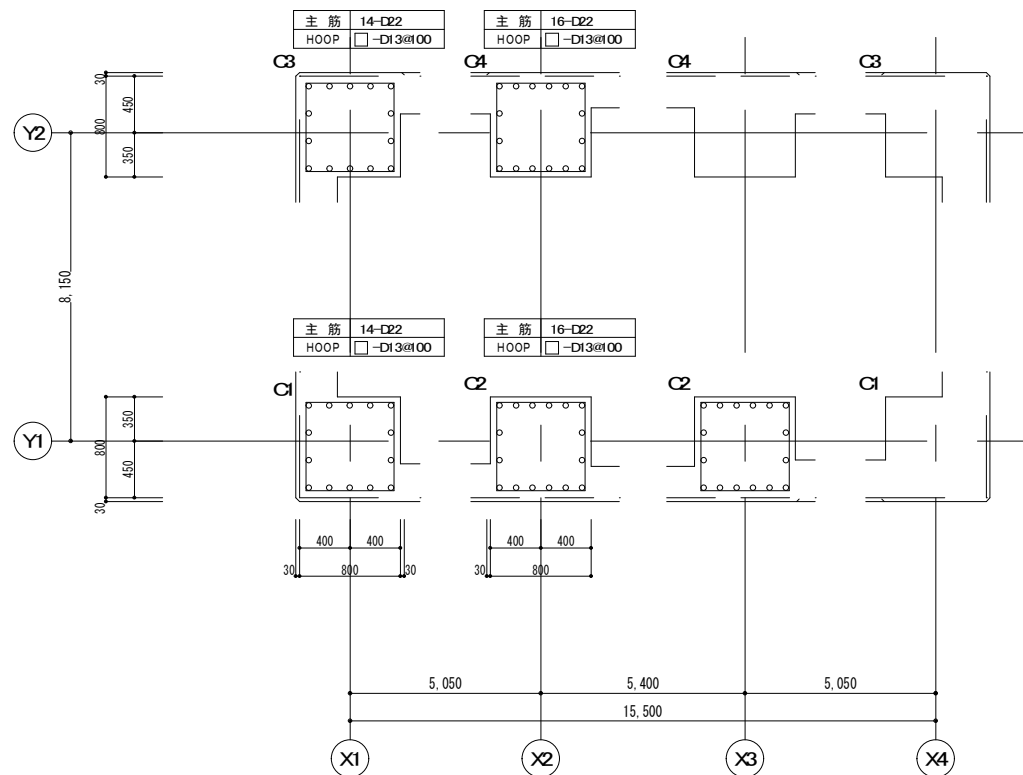
X 4 通り 軸組図 S=1/100

特記なき限り下記による。

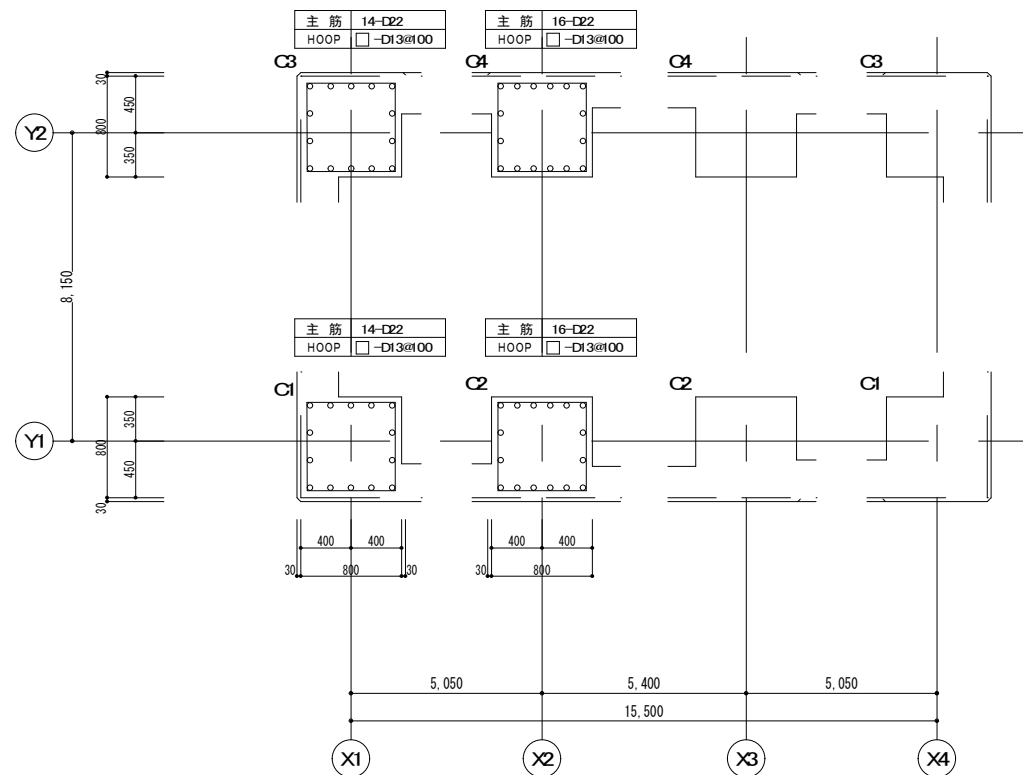
1.  は梁上増築し打ちコンクリートを示す。
2. プラント設備の引込み、引出しのための躯体へのスリーブ、箱抜き箇所は別途発注のプラント設備工事受注者と協議のうえ、位置を決定し、工事監理者の承諾を得て施工すること。

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	軸組図（2）		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1/100	図面番号	S-16
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

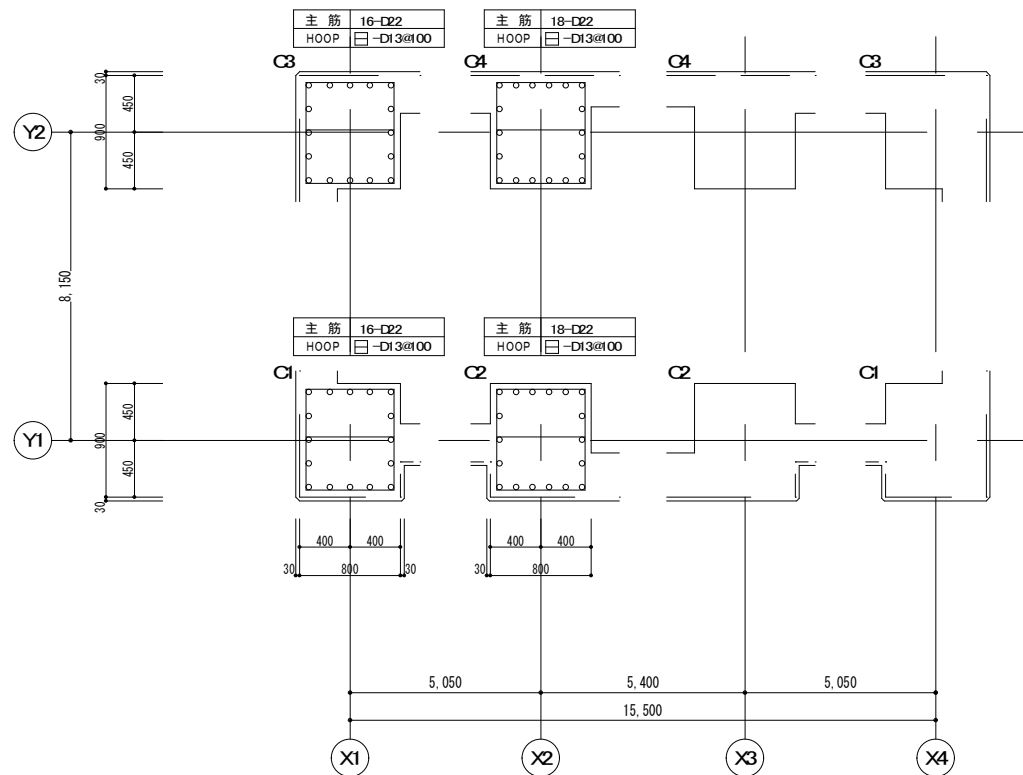




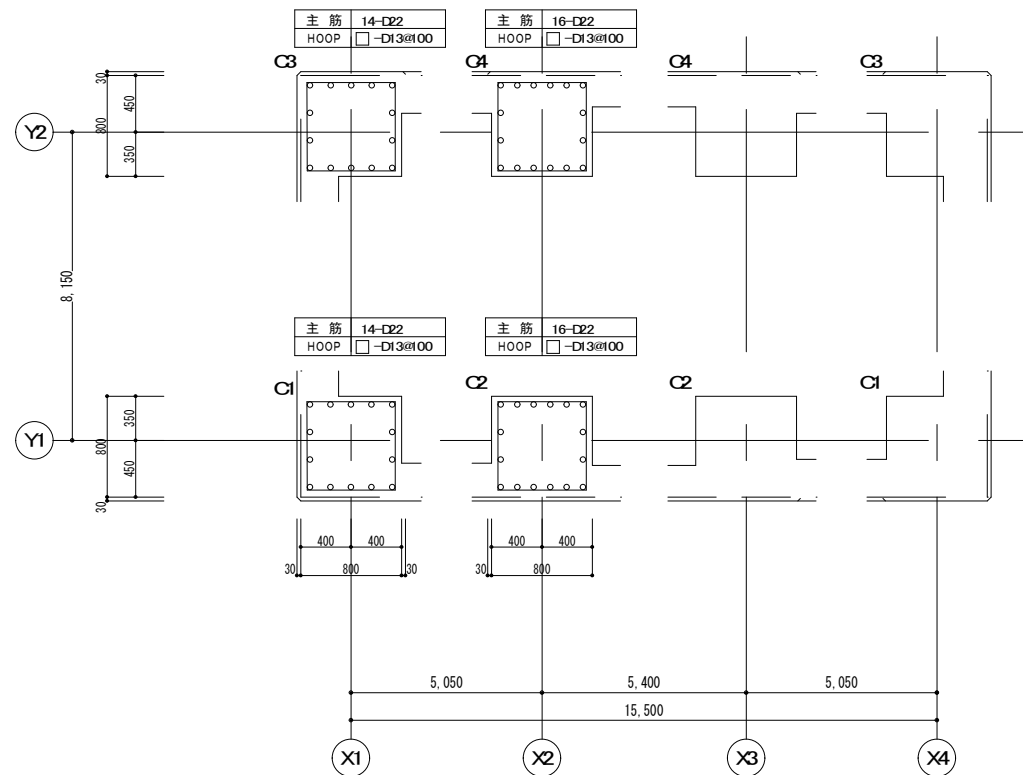
2階 柱リスト S=1/30



4階 柱リスト S=1/30



1階 柱リスト S=1/30

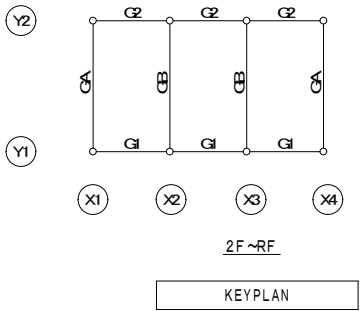


3階 柱リスト S=1/30

特記無き限り
柱梁接合部 (3~RF) □-D13@150
(1~2F) □-D13@125

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	柱リスト		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1/30	図面番号	S-18
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

符 号	G1		G2	GA	GB		
	端 部	中 央	全断面	全断面	端 部	中 央	
	BxD400 x 700		400 x 700	400 x 700	400 x 800		
R F (Fc24N)							
上端筋	4-D25	3-D25	3-D25	3-D25	6-D25	4-D25	
下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	4-D25	
STP	□-D13-@200		□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200		
腹 筋	2-D10		2-D10	2-D10	2-D10		
BxD	400 x 800		400 x 800	400 x 800	450 x 900		
4 F (Fc24N)							
上端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	7-D25	5-D25	
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	
STP	□-D13-@200		□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200		
腹 筋	2-D10		2-D10	2-D10	4-D10		
BxD	400 x 900		400 x 900	400 x 900	450 x 1,000		
3 F (Fc27N)							
上端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	7-D25	5-D25	
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	
STP	□-D13-@200		□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200		
腹 筋	4-D10		2-D10	2-D10	4-D10		
BxD	400 x 900		400 x 900	400 x 900	450 x 1,000		
2 F (Fc27N)							
上端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	7-D25	5-D25	
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	
STP	□-D13-@200		□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200		
腹 筋	4-D10		4-D10	4-D10	4-D10		



符 号	CG1	CG2	CG3	CG4		CB1		CB2		CB3	
	全断面	全断面	全断面	基 端	先 端	基 端	先 端	基 端	先 端	全断面	
	BxD400 x 700	400 x 800	400 x 600	500 x 600		300 x 700		350 x 700		250 x 800	
断 面											
上端筋	4-D25	4-D25	4-D25	7-D25	5-D25	5-D22	3-D19	5-D22	3-D22	4-D19	
下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	4-D25	3-D22	3-D19	3-D22	4-D22	2-D19	
STP	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200		□-D10-@200		□-D10-@200		□-D10-@200	
腹 筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10		2-D10		2-D10		2-D10	

符 号	B0	B1	B2		B3	B4		B4A		B5	
	全断面	全断面	X3端 中央	X4端	全断面	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央
	BxD300 x 500	300 x 600	300 x 700		250 x 600	350 x 700		350 x 700		350 x 800	
断 面											
上端筋	3-D19	3-D22	3-D22	5-D22	2-D19	4-D22	3-D22	5-D22	3-D22	5-D22	3-D22
下端筋	3-D19	3-D22	3-D22	3-D19	2-D19	3-D22	4-D22	3-D22	4-D22	3-D22	4-D22
STP	□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@200		□-D10-@200	□-D10-@200		□-D10-@200		□-D10-@200	
腹 筋	-	2-D10	2-D10		2-D10	2-D10		2-D10		2-D10	

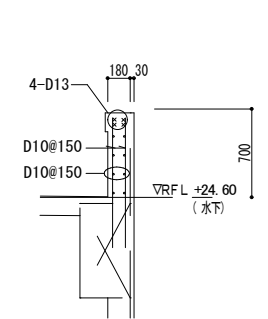
符 号	WG1	WG1A	WG1B	WG2	WG3	WG4	
	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	
	BxD250 x 500	250 x 300	250 x 500	250 x 500	300 x 500	400 x 500	
断 面							
上端筋	2-D19	2-D19	6-D19	2-D19	3-D19	3-D19	
下端筋	2-D19	2-D19	2-D19	2-D19	3-D19	3-D19	
STP	□-D10-@150	□-D10-@150	□-D13-@150	□-D13-@150	□-D13-@150	□-D13-@150	
腹 筋	2-D10	2-D10	-	2-D13	2-D13	2-D13	

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	大梁、小梁リスト		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	1／30	図面番号	S-19
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

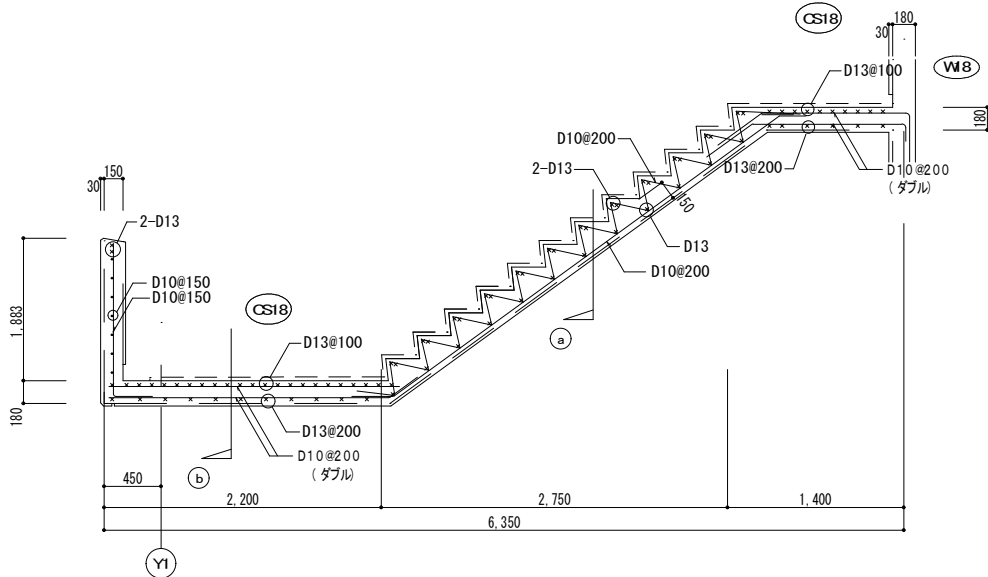
符 号	WM5	WM8	EW8	EW8A	EW20	EW20A	EW25	KW25	EW30	EW40		開口補強要領図
断 面												
縦 筋	D10@150 (シングル)	D10@150 (ダブル)	D10@150 (ダブル)	D10@150 (ダブル)	D10@150 (ダブル)	D13@150 (ダブル)	D10D13@150 (ダブル)	D13@150 (ダブル)	D13D16@150 (ダブル)	D13D16@150 (ダブル)		
横 筋	D10@150 (シングル)	D10@150 (ダブル)	D10@150 (ダブル)	D10@150 (ダブル)	D10@150 (ダブル)	D13@150 (ダブル)	D10D13@150 (ダブル)	D10@150 (ダブル)	D13D16@150 (ダブル)	D13D16@150 (ダブル)		
開口補強	縦 筋	2-D13	4-D13	4-D16	4-D19	4-D16	6-D19	4-D19	2-D19	4-D22	4-D22	
	横 筋	2-D13	4-D13	4-D16	4-D19	4-D16	6-D19	4-D19	2-D19	4-D22	4-D22	
	斜メ筋	1-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D16	-	2-D16	2-D16	
備 考	手摺り壁	外壁	耐震壁	耐震壁	耐震壁	耐震壁	耐震壁	階段受け壁	耐震壁	耐震壁		

スラブリスト					
符 号	版 厚	位 置	主筋方向	配力筋方向	備 考
			全断面	全断面	
S15	150	上端筋	D10D13 @200	D10 @200	屋根 2F床下配線ピット モチアミ配筋
		下端筋	D10D13 @200	D10 @200	
S18	180	上端筋	D13 @100	D10 @200	階段踊り場 モチアミ配筋
		下端筋	D13 @200	D10 @200	
S20	200	上端筋	D13 @200	D13 @200	電気室・B・C 操作室 モチアミ配筋
		下端筋	D13 @200	D13 @200	
S25	250	上端筋	D13 @200	D13 @200	1Fト床 モチアミ配筋 捨てコン 750 砕石 760
		下端筋	D13 @200	D13 @200	
FS25	250	上端筋	D13 @200	D13 @200	配線ピット床 モチアミ配筋 捨てコン 750 砕石 760
		下端筋	D13 @200	D13 @200	
CS15	150	上端筋	D10D13 @200	D10 @200	EPS モチアミ配筋
		下端筋	D13 @200	D10 @200	
CS18	180	上端筋	D13 @100	D10 @200	階段踊り場 モチアミ配筋
		下端筋	D13 @200	D10 @200	

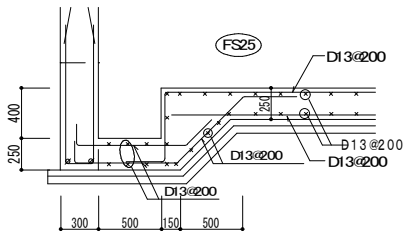
パラベット配筋図 S=1/30



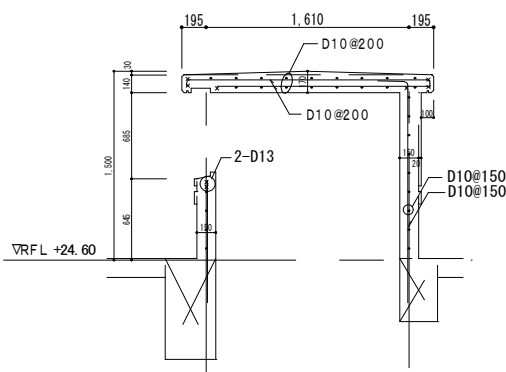
階段配筋図 S=1/30



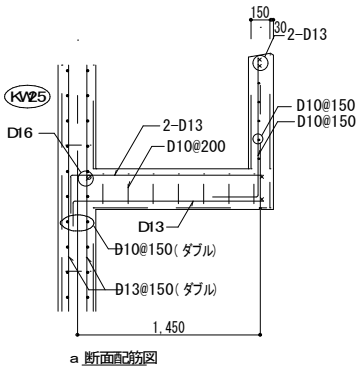
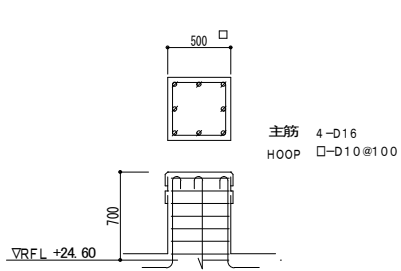
釜場配筋図 S=1/30



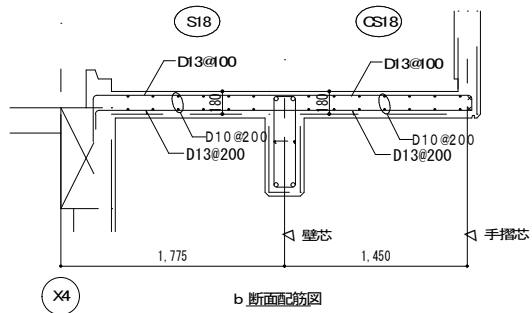
ハト小屋配筋図 S=1/30



避雷針基礎配筋図 S=1/30

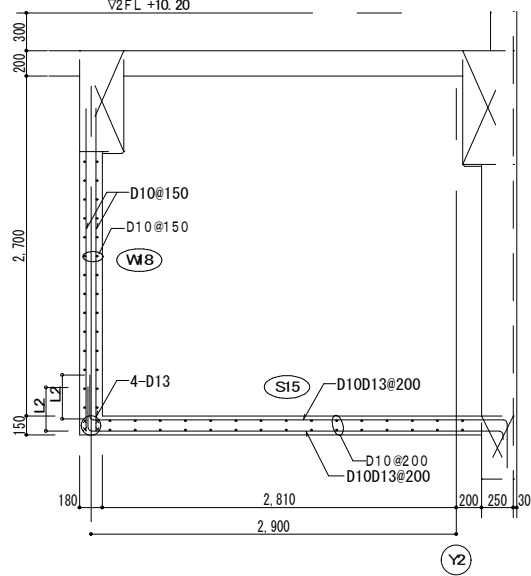


a 断面配筋図

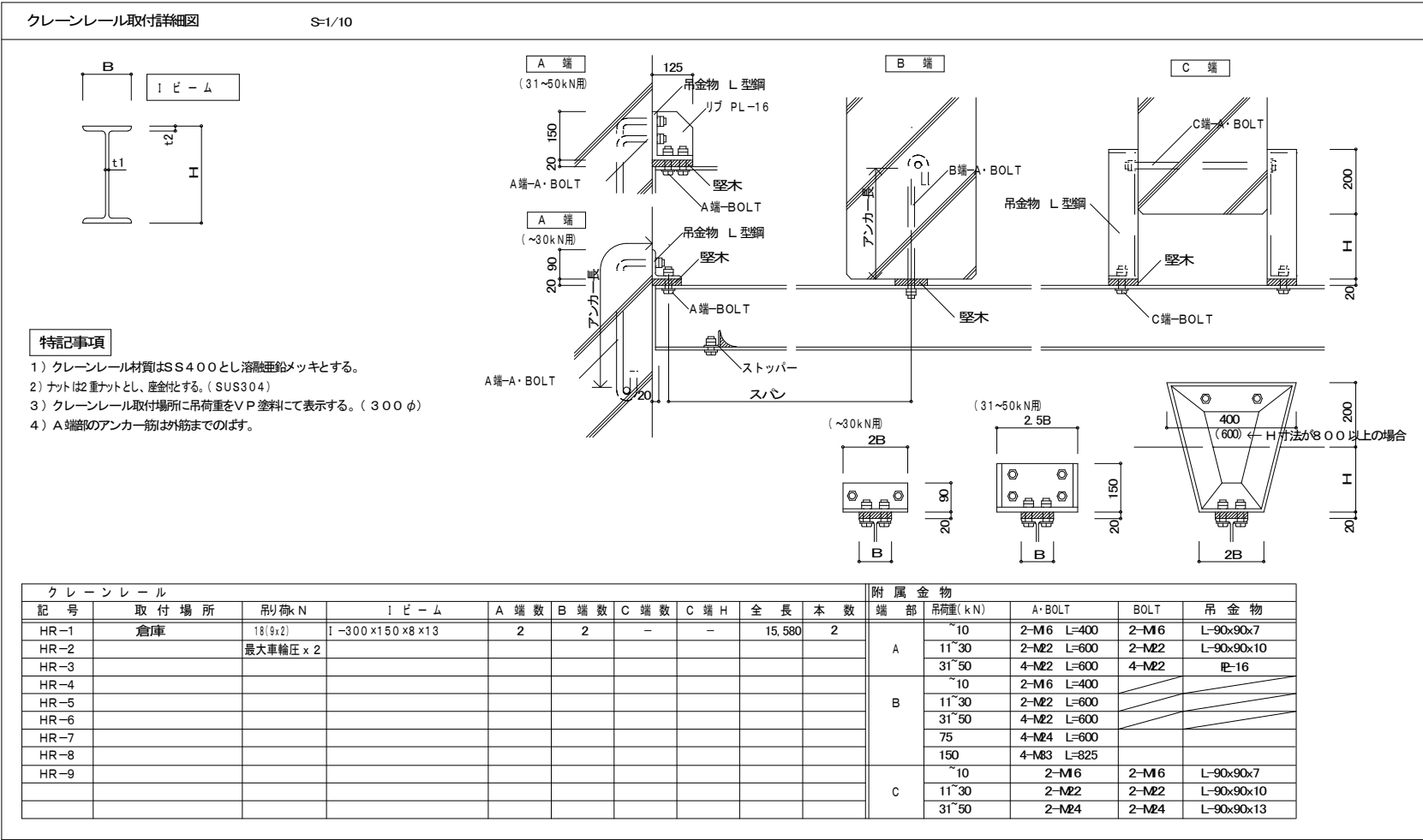


b 断面配筋図

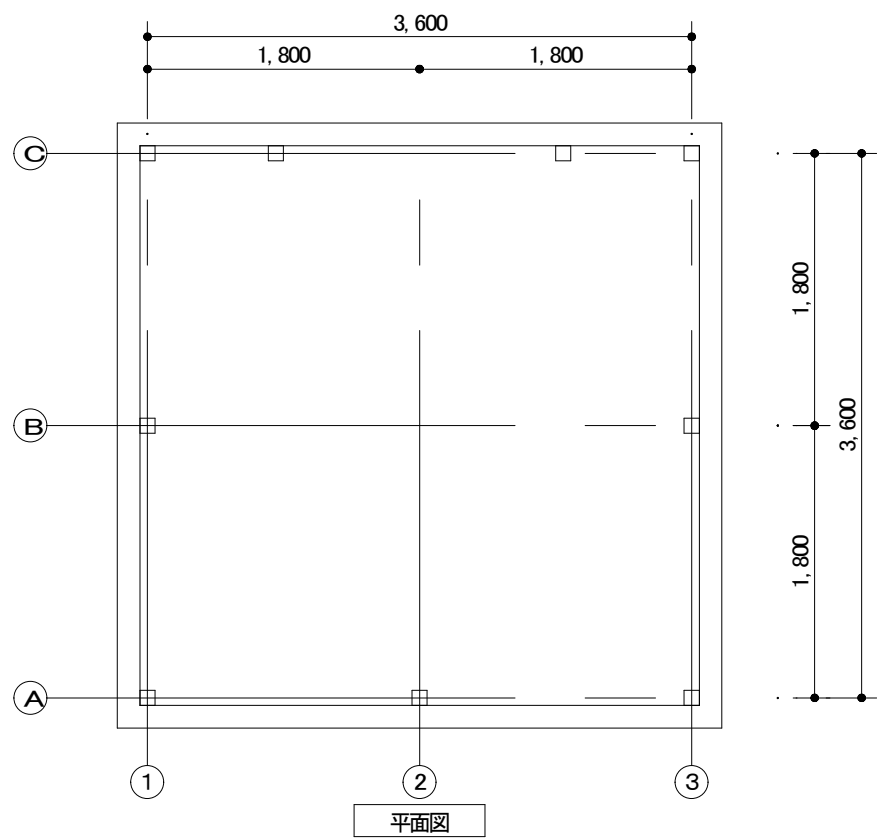
配線室配筋図 S=1/30



工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	壁、スラブリスト		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	1 / 3 0	図面番号	S - 20
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



[illegible]



外部仕上表

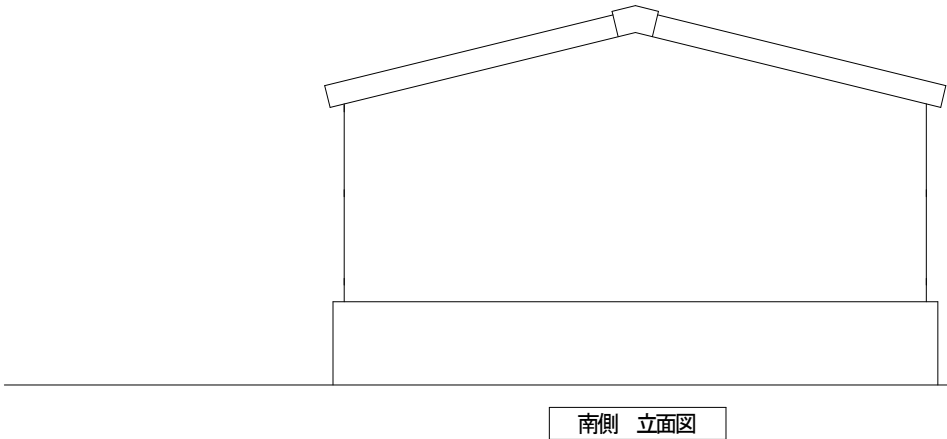
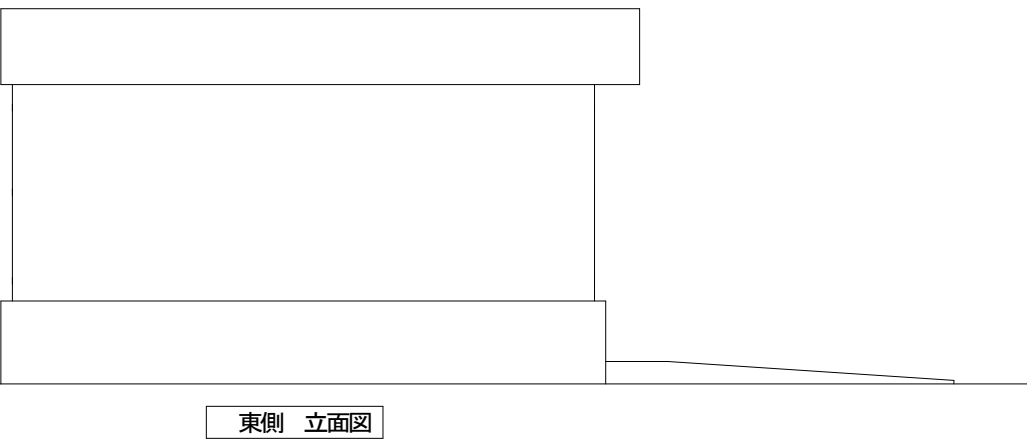
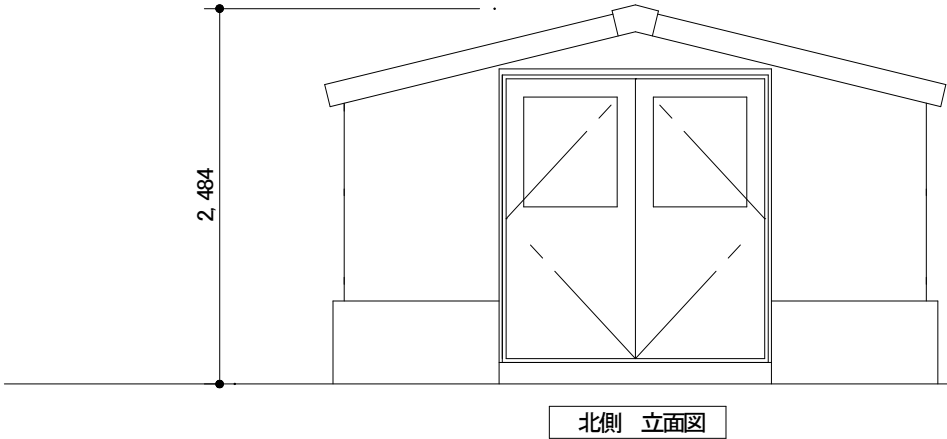
壁	スレート 板
屋根	屋根スレート 板

内部仕上表

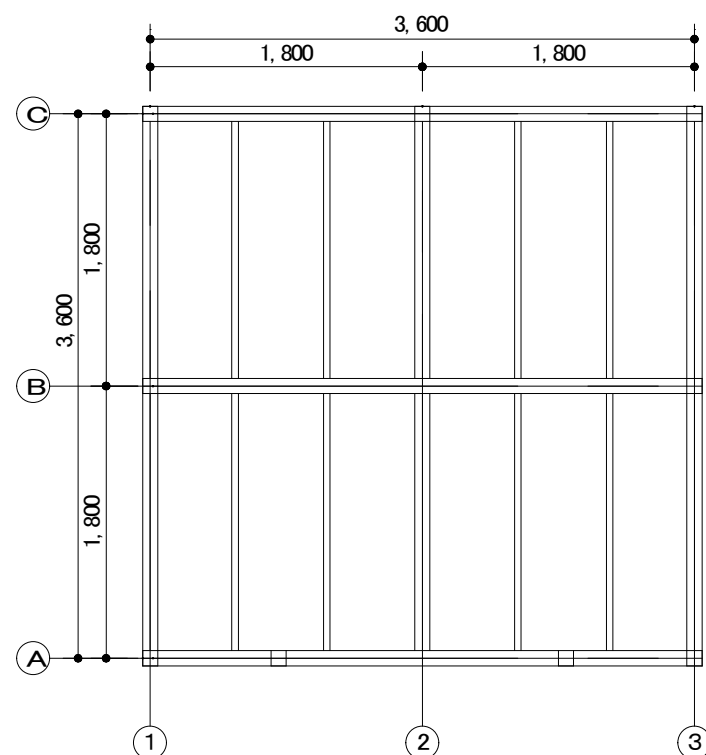
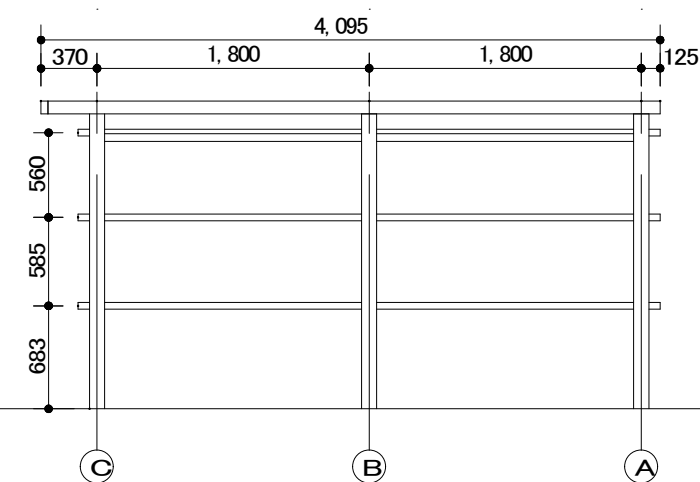
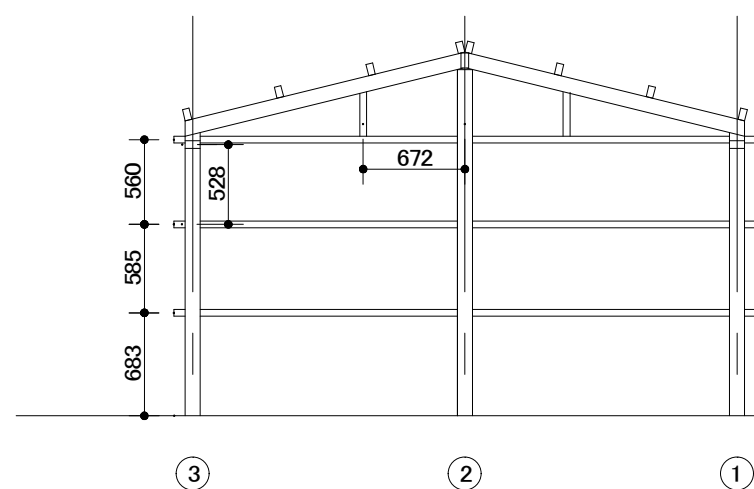
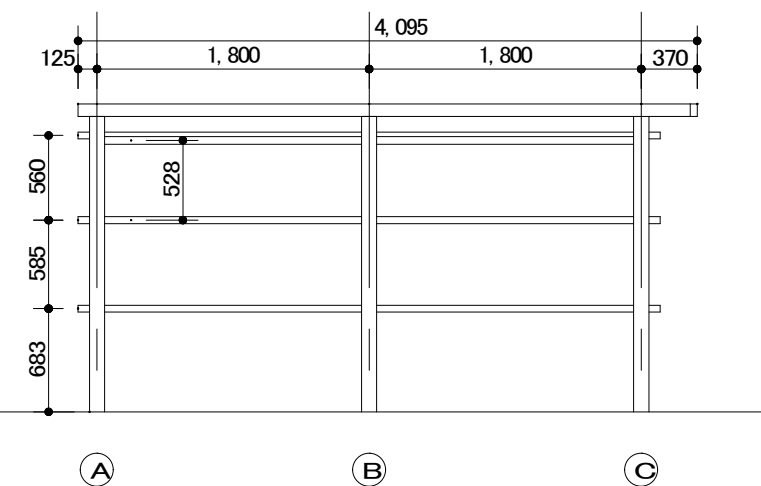
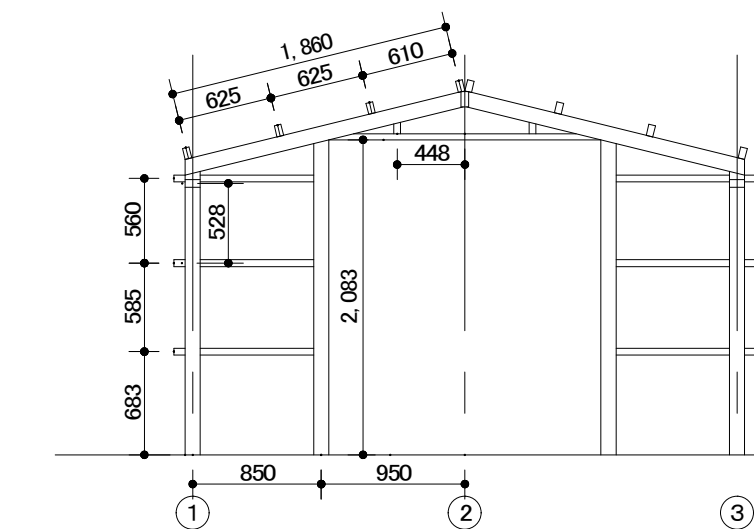
床	土間コン
壁	CB(外部: 珪藻塗)
壁	スレート 板

建具表

符号, 種別, 個数	AD 1	鋼製建具	1
形状 寸法			
枠回り, 水切り		ドア枠	
枠見込 仕上げ		カラー鋼板	
ガラス		網入型ガラス	
特記金物		丁番 錠	
備考			

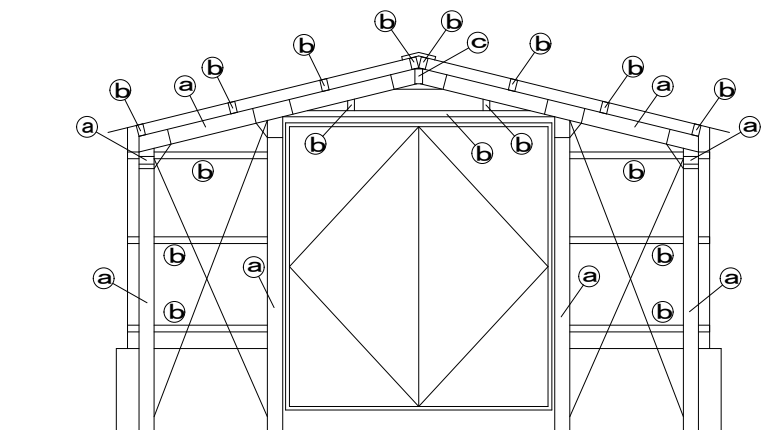


工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	危険物屋内貯蔵所 平面図・立面図		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	1 / 25	図面番号	D-4
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

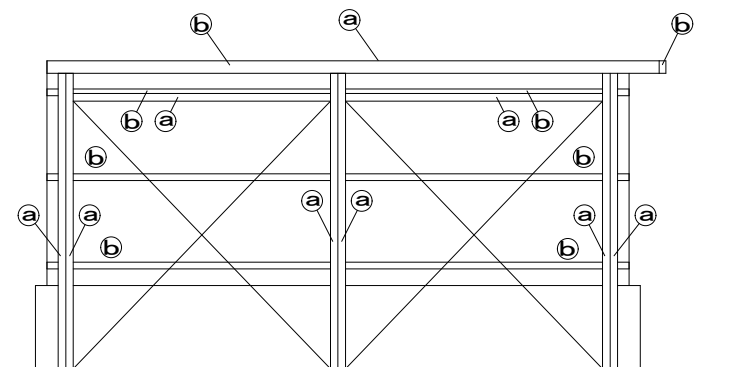


梁伏せ図(上面)

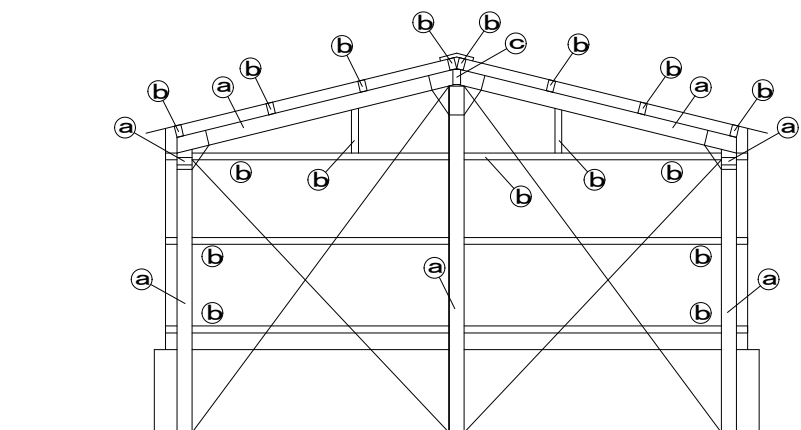
工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	危険物屋内貯蔵所 軸組図(1)		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1/25	図面番号	D-5
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



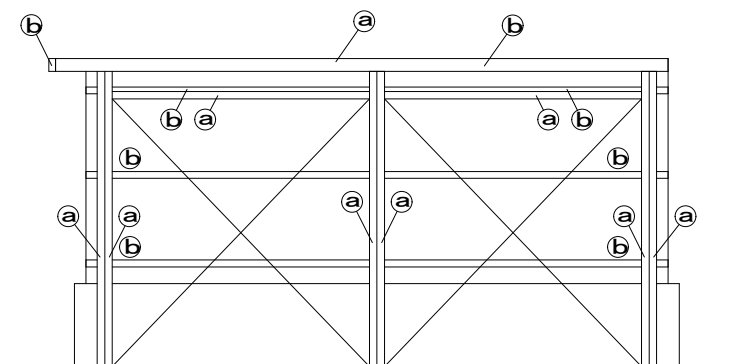
C通 軸組図



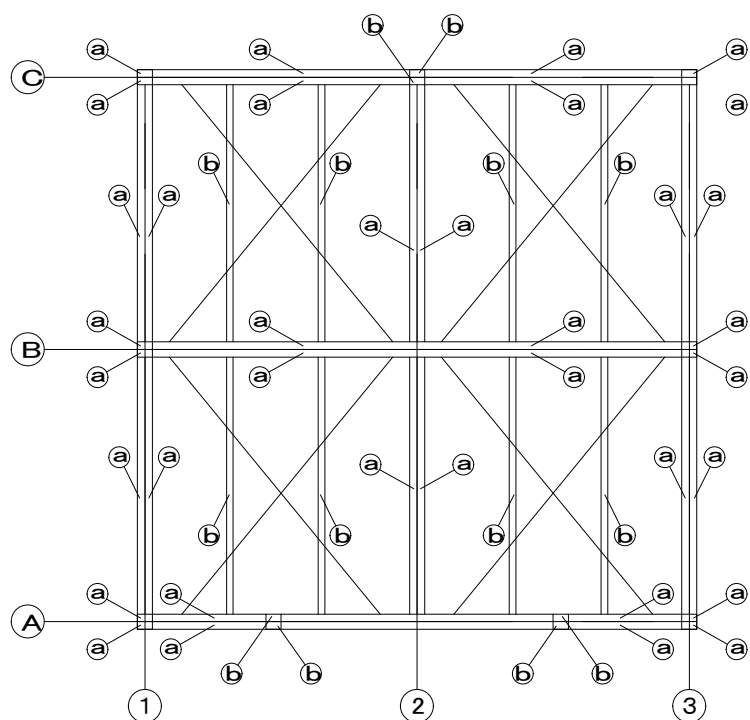
3通 軸組図



A通 軸組図



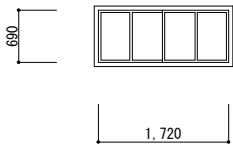
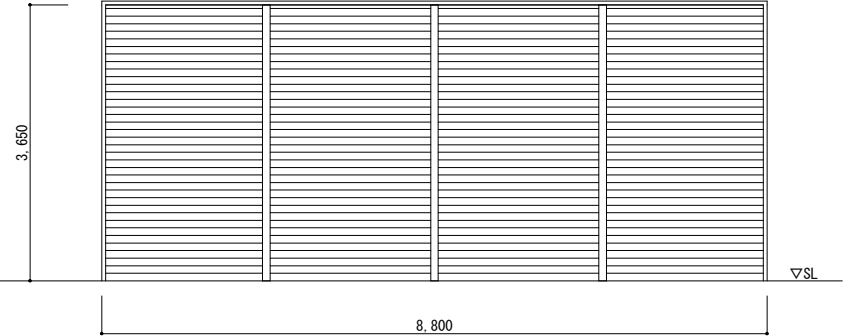
1通 軸組図

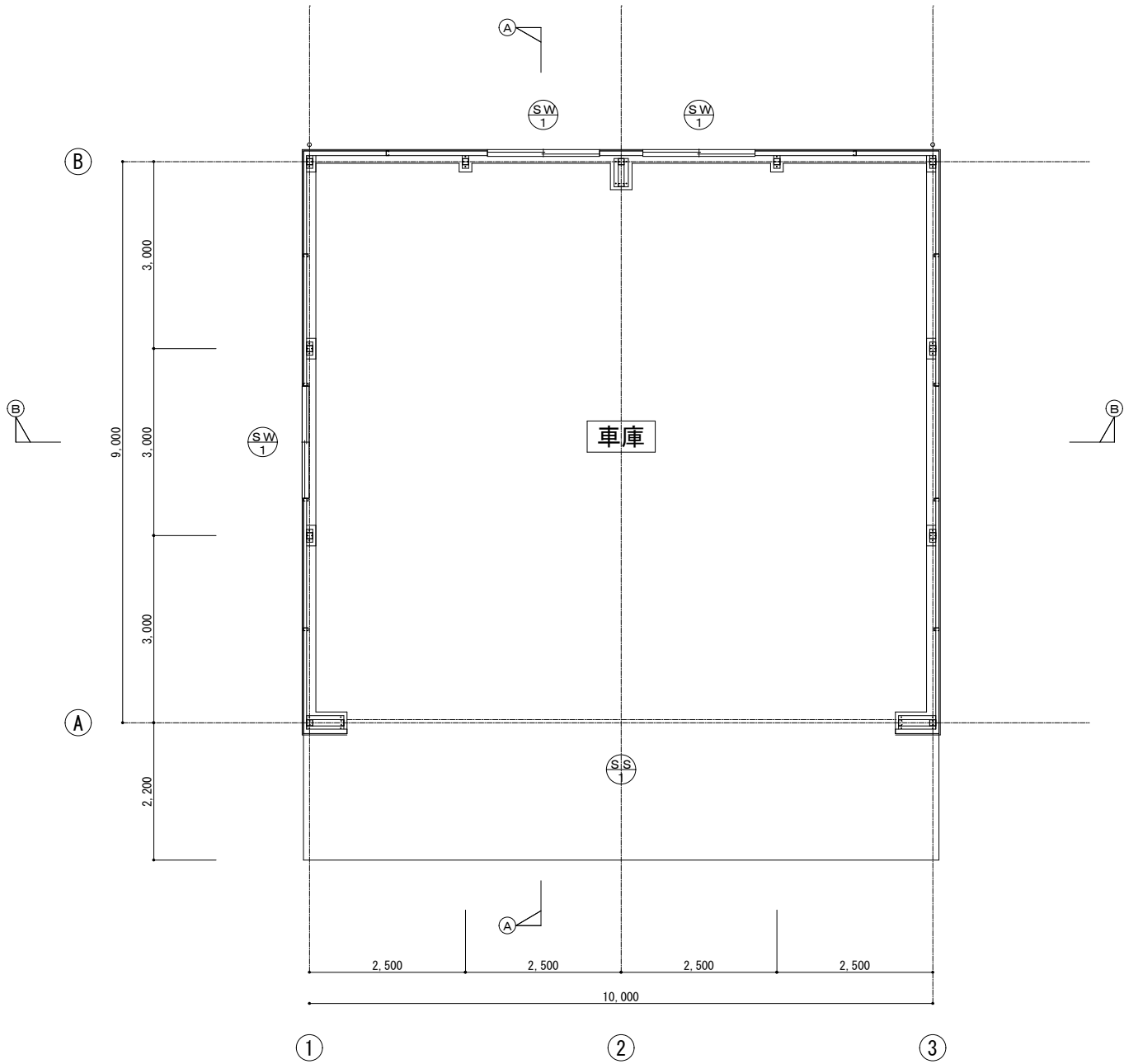


梁伏せ図(上面)

部材	部材寸法
a	50×100
b	45×75

工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	危険物屋内貯蔵所 軸組図(2)		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1/25	図面番号	D-6
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

【建具表】					
符号・名称・個数	ⓈⓌ ₁ 鋼製引違い窓 3		ⓈⓈ ₁ 鋼製シャッター 1		
場 所	車庫		車庫		
見 込	90		-		
ガラス	板ガラス		-		
備 考	水切り L=50		-		
形状・寸法					

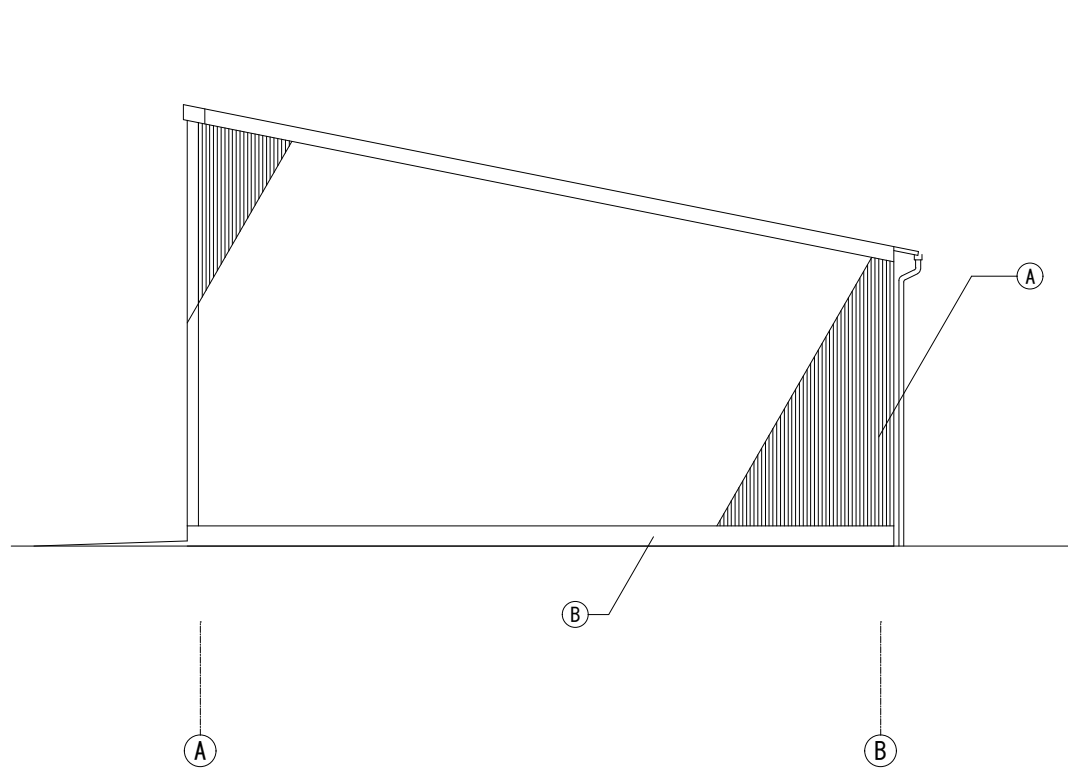


平面図 1/50

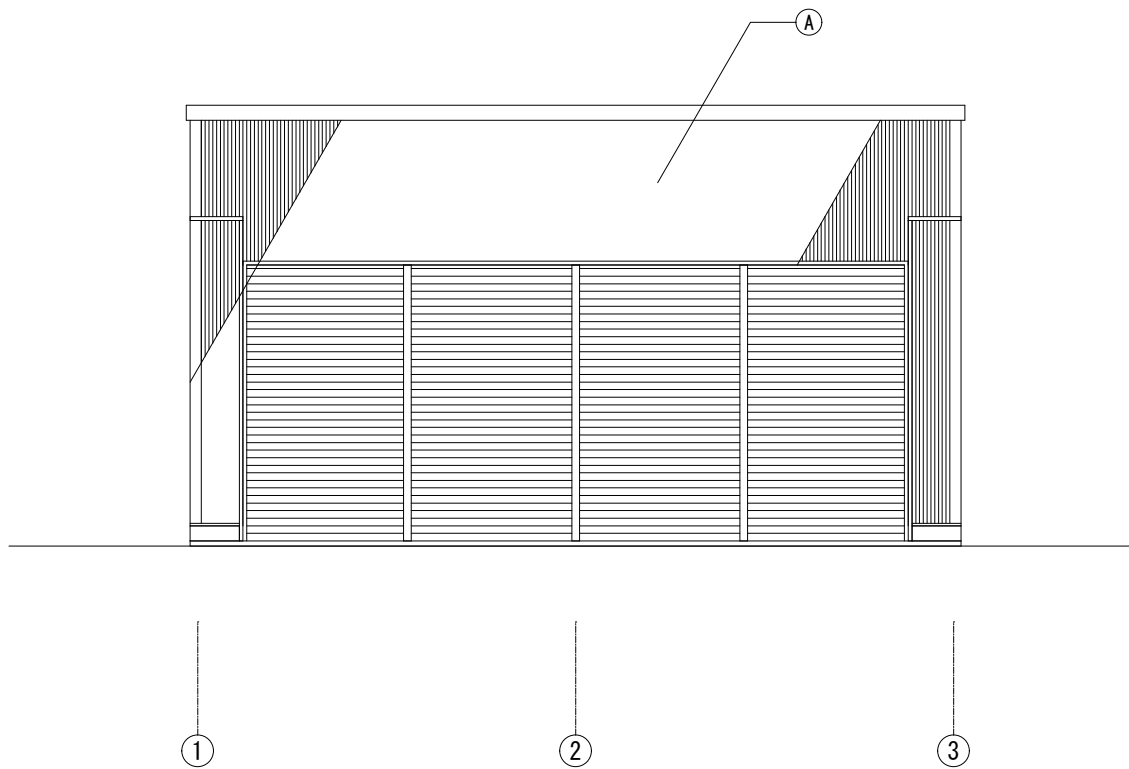
外 部 仕 上 表	
屋 根	大波スレート葺
	母屋：10-75×45×15×2.3
	ネコ：1L-60×60×4
外 壁	亜鉛波型鉄板OP塗
	胴縁：10-75×45×15×2.3
巾 木	コンクリート打放し

内 部 仕 上 表	
床	コンクリート直均し
巾 木	コンクリート打放し
壁	亜鉛波型鉄板OP塗
天 井	大波スレート素地

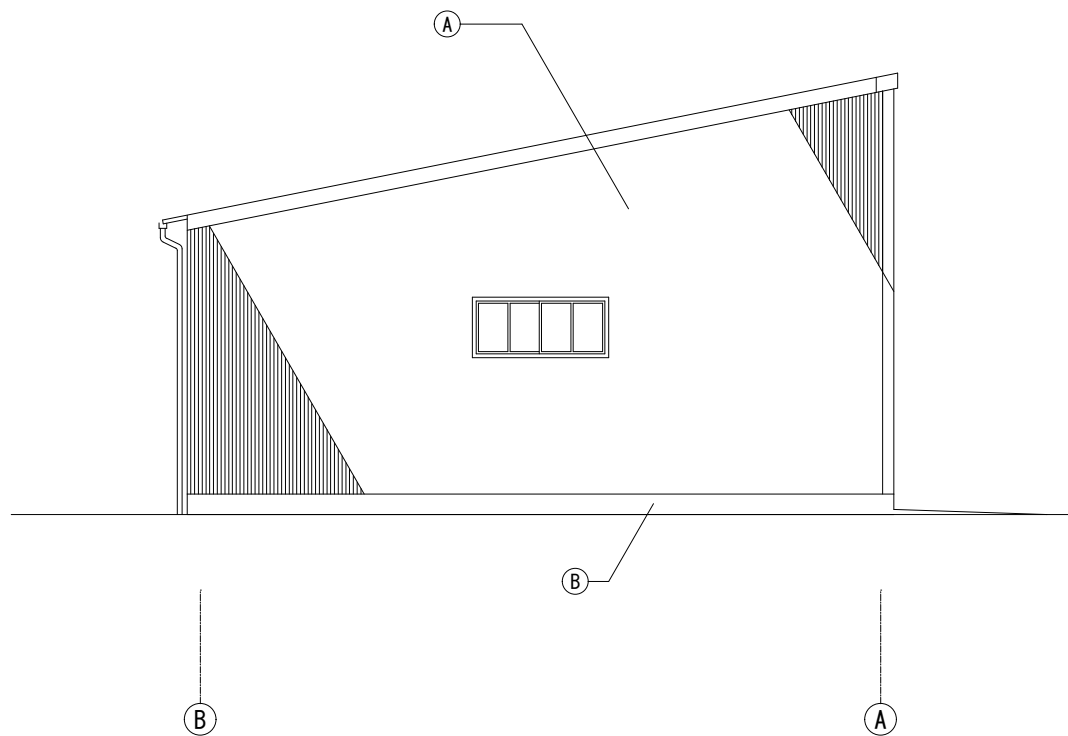
工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	車庫 平面図		
作成年月日	令和 8 年度		
縮 尺	1／5 0	図面番号	D－7
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



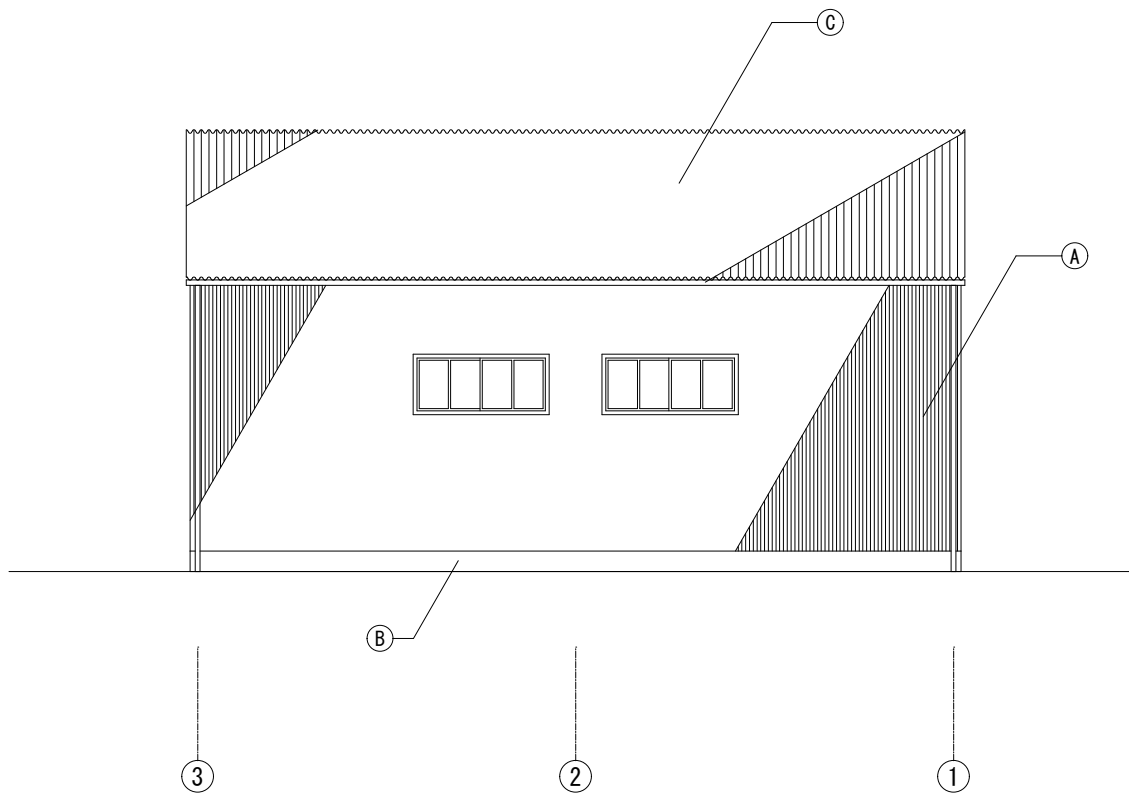
東側 立面図 1/50



北側 立面図 1/50



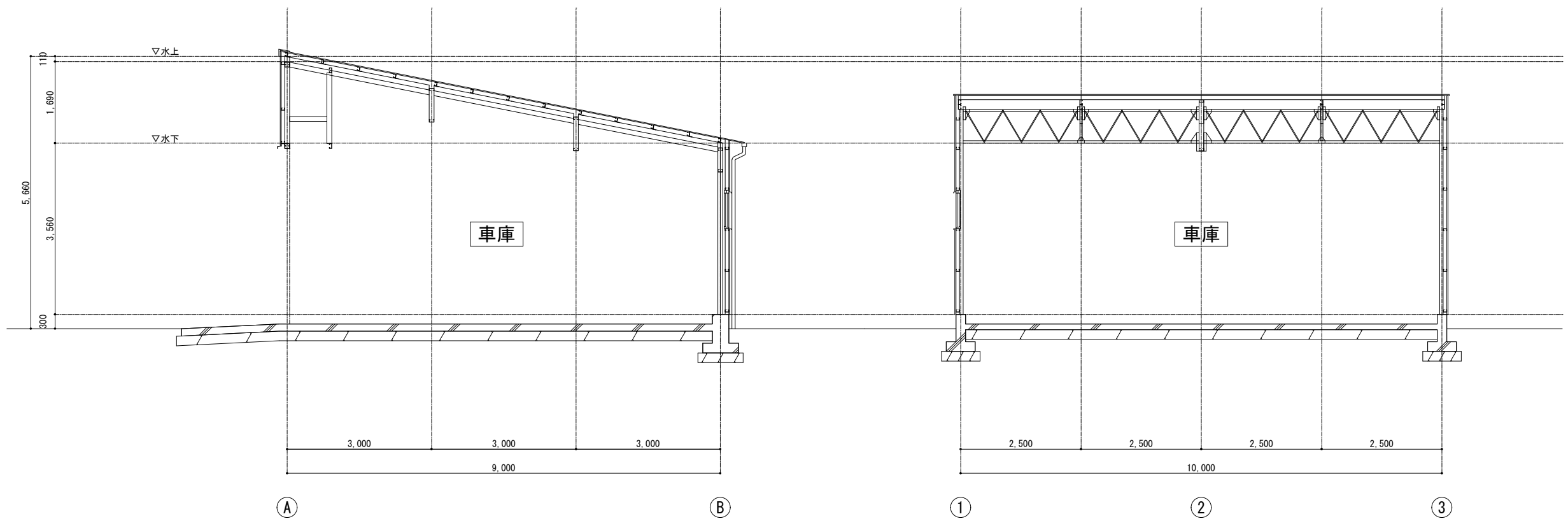
西側 立面図 1/50



南側 立面図 1/50

符号	仕 上
Ⓐ	外壁：亜鉛波型鉄板OP塗
Ⓑ	巾木：コンクリート打放し
Ⓒ	屋根：大波スレート葺

工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	車庫 立面図		
作成年月日	令和 8 年度		
縮 尺	1 / 5 0	図面番号	D - 8
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

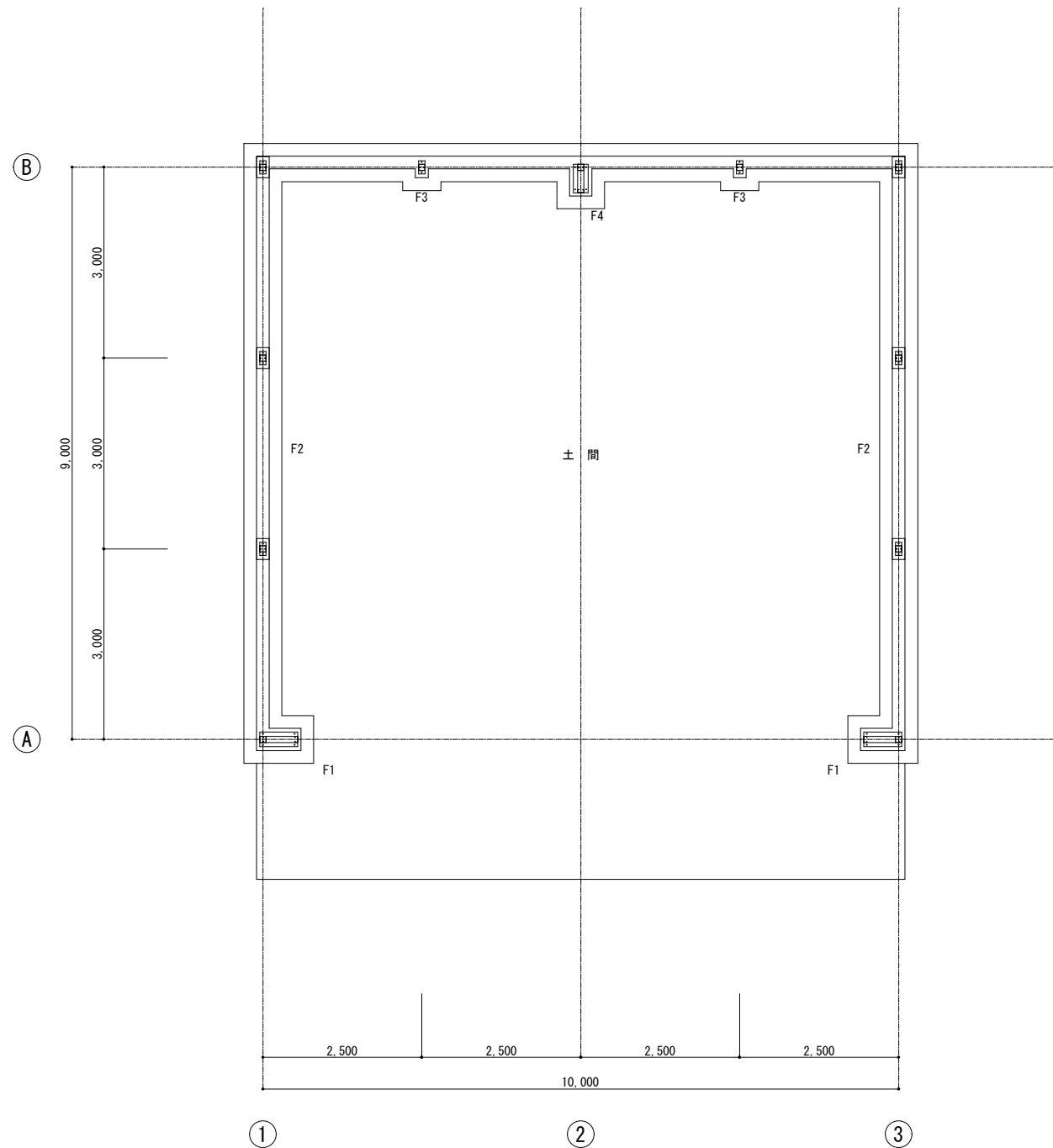


A-A 断面図 1/50

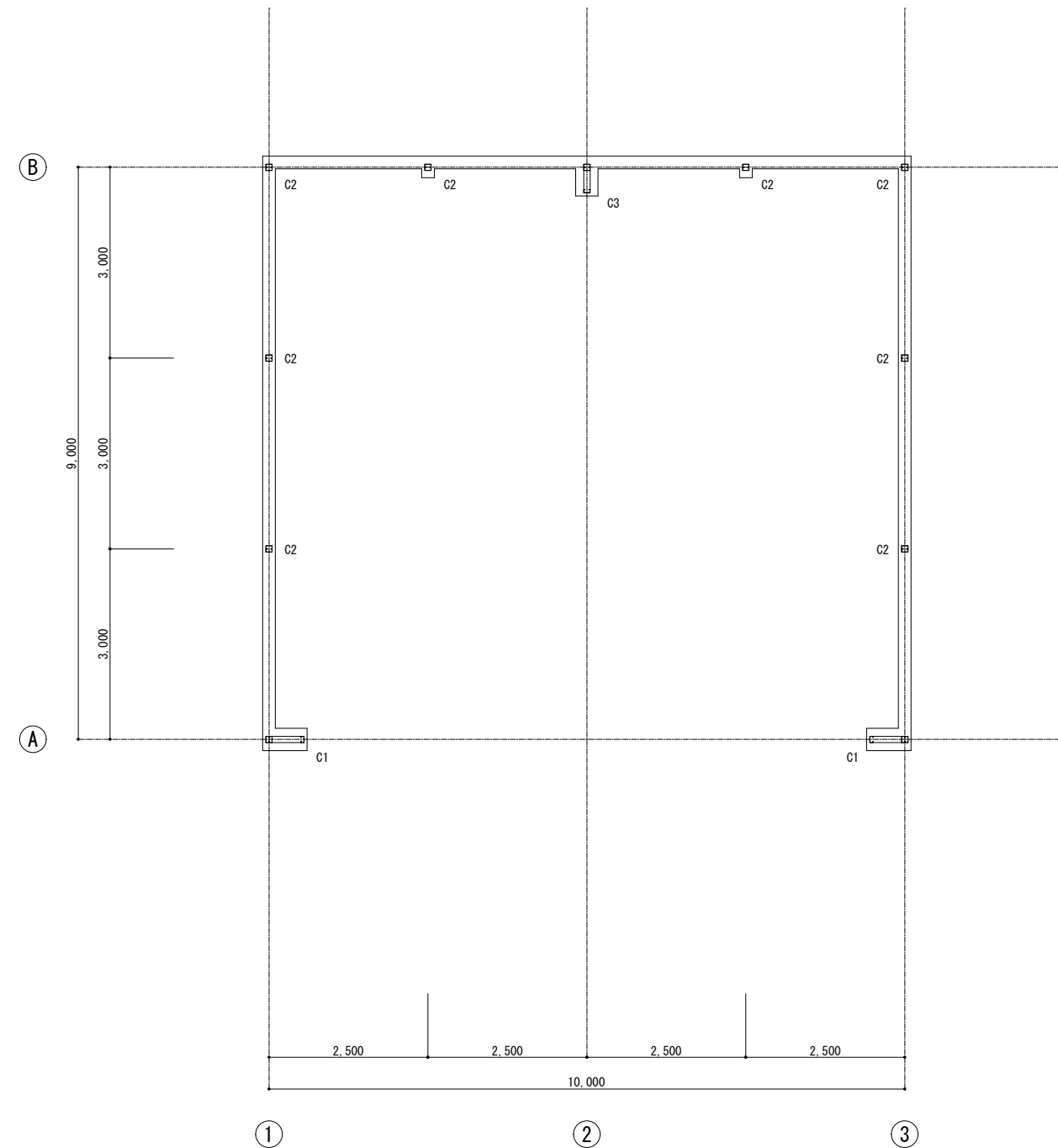
B-B 断面図 1/50

撤去図

工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	車庫 断面図		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1／50	図面番号	D－9
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

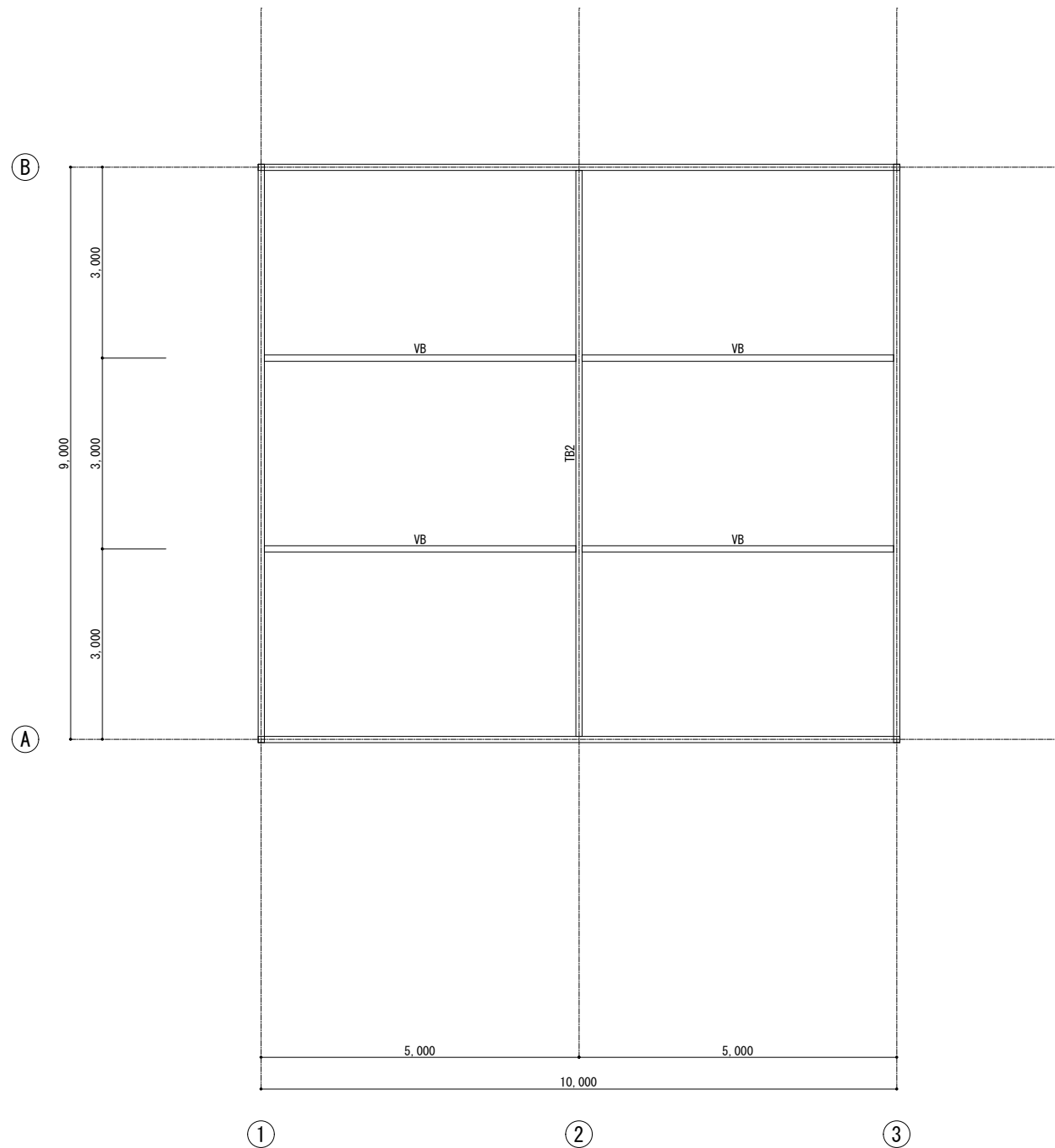


基礎伏図 1/50

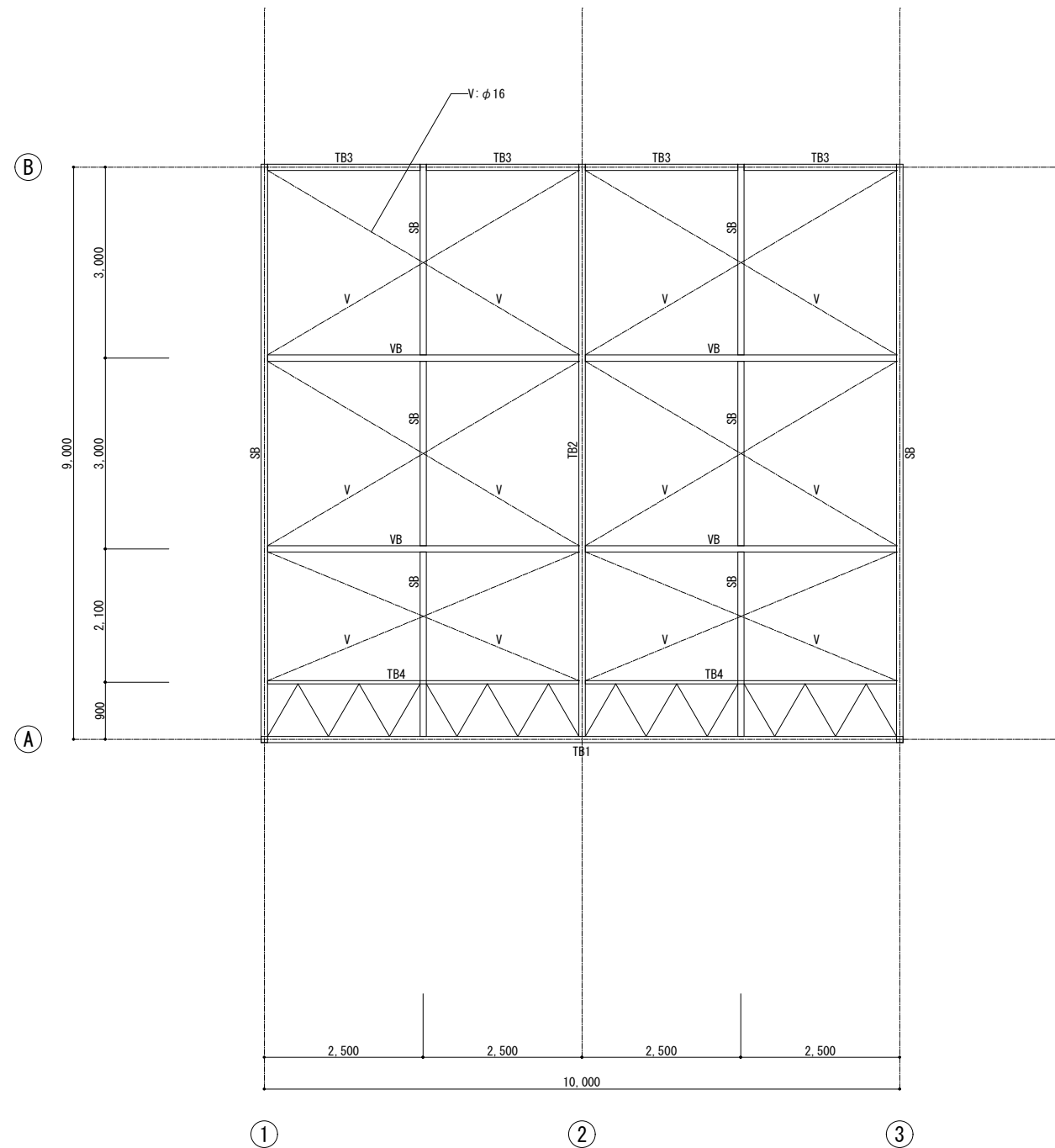


柱状図 1/50

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	車庫 伏図(1)		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1／50	図面番号	D-10
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

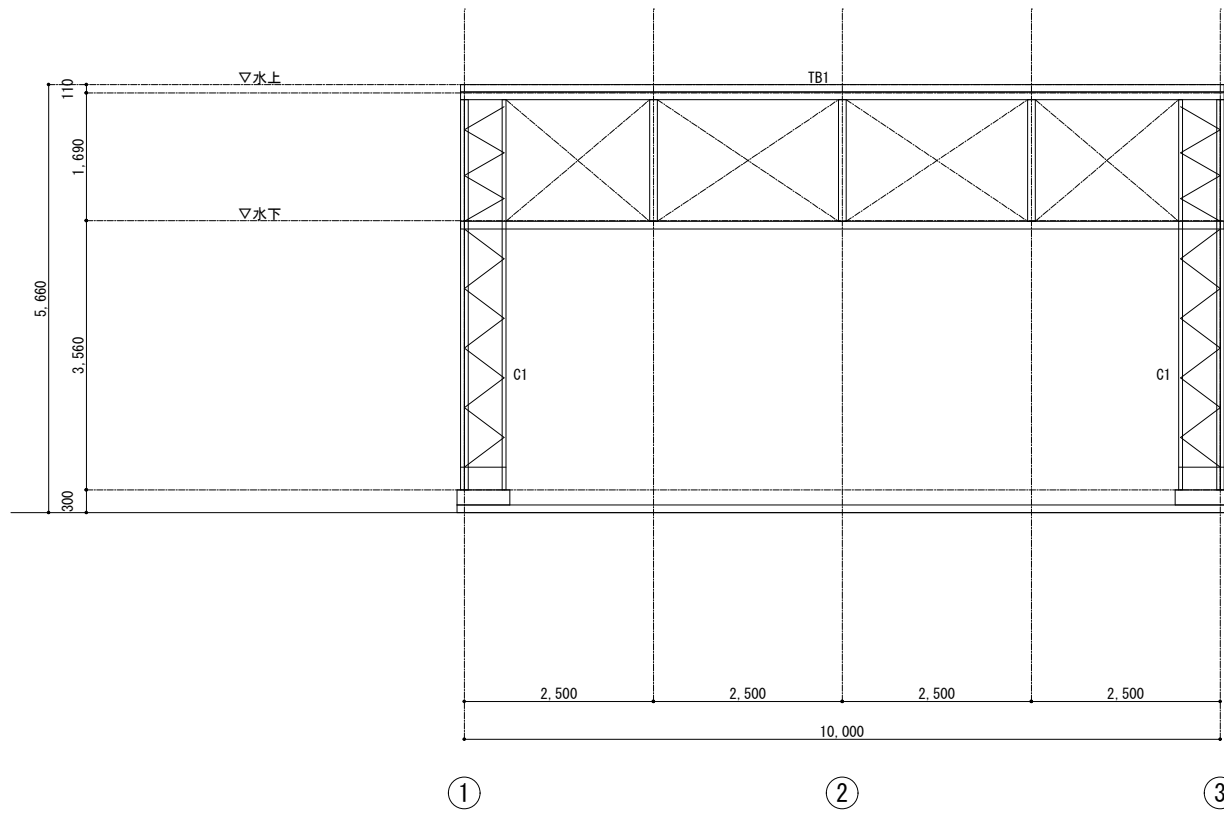


梁伏図(下面) 1/50

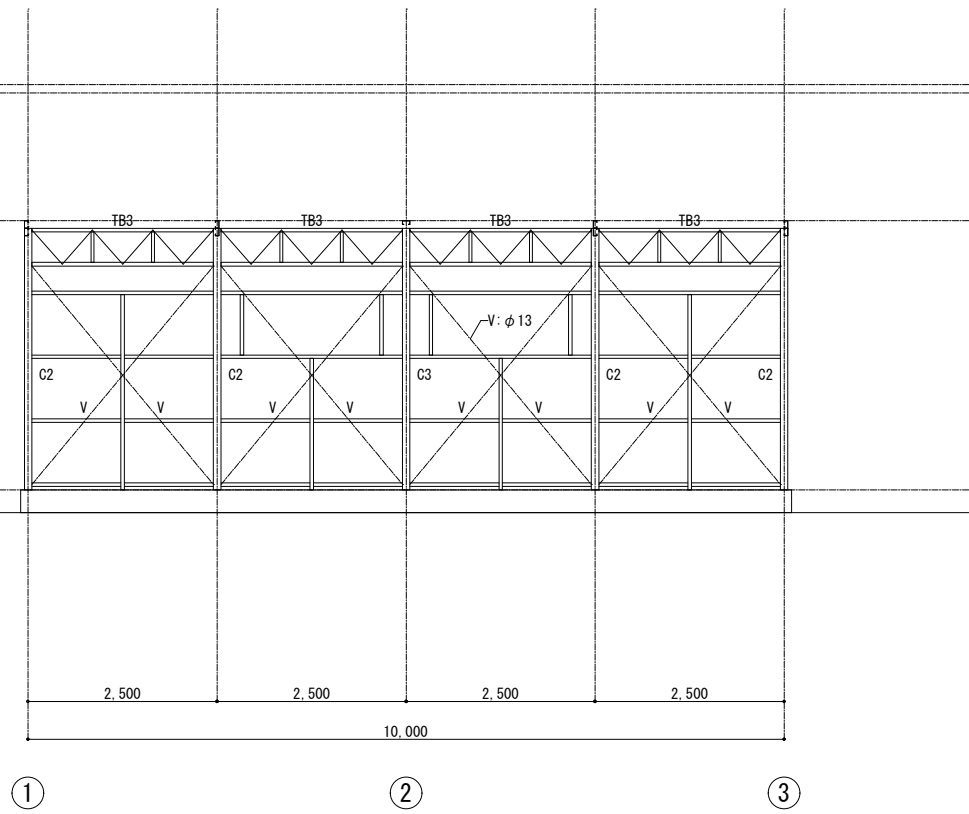


梁伏図(上面) 1/50

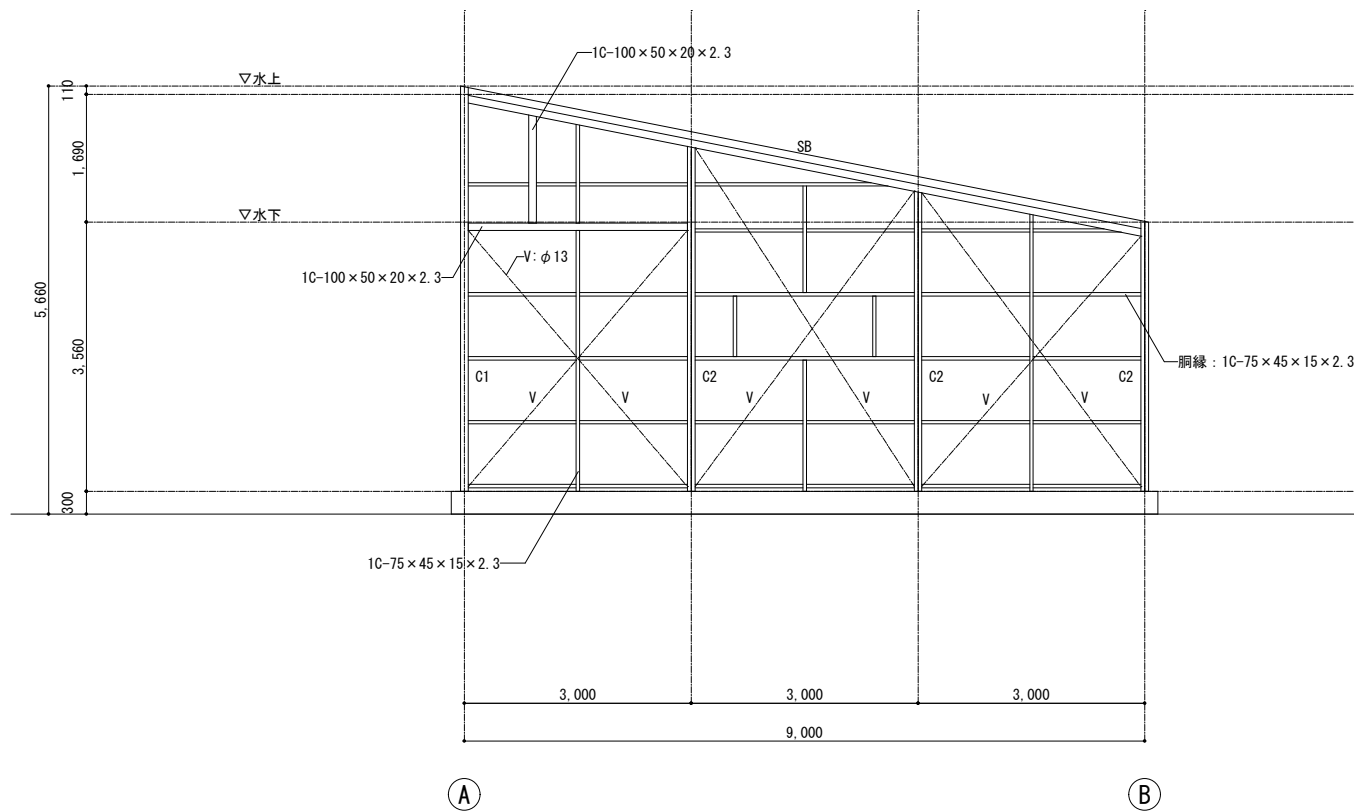
工事名	佐倉浄水場特高変電所建築工事		
図面名	車庫 伏図(2)		
作成年月日	令和 8 年度		
縮 尺	1 / 5 0	図面番号	D-11
事業所名	千葉県企業局工業用水部		



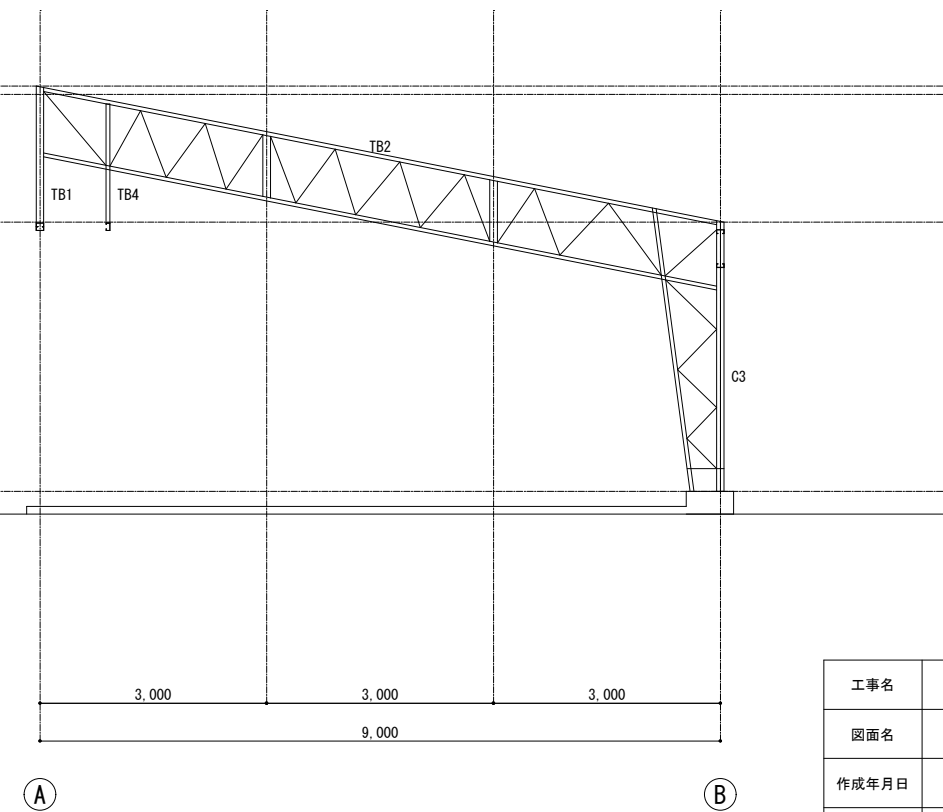
A通り 軸組図 1/50



B通り 軸組図 1/50



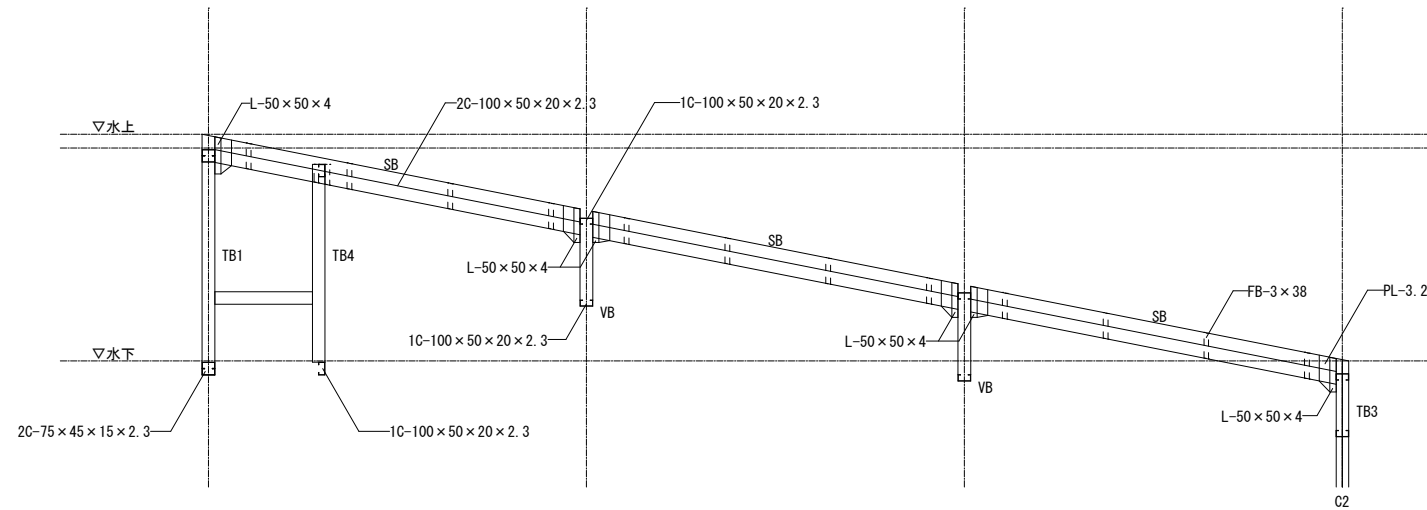
1.3通り 軸組図 1/50



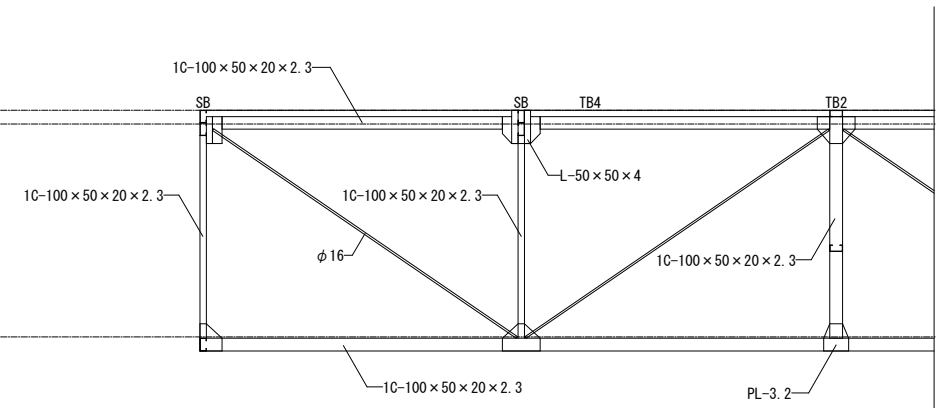
2通り 軸組図 1/50

工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	車庫 軸組図		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1/50	図面番号	D-12
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

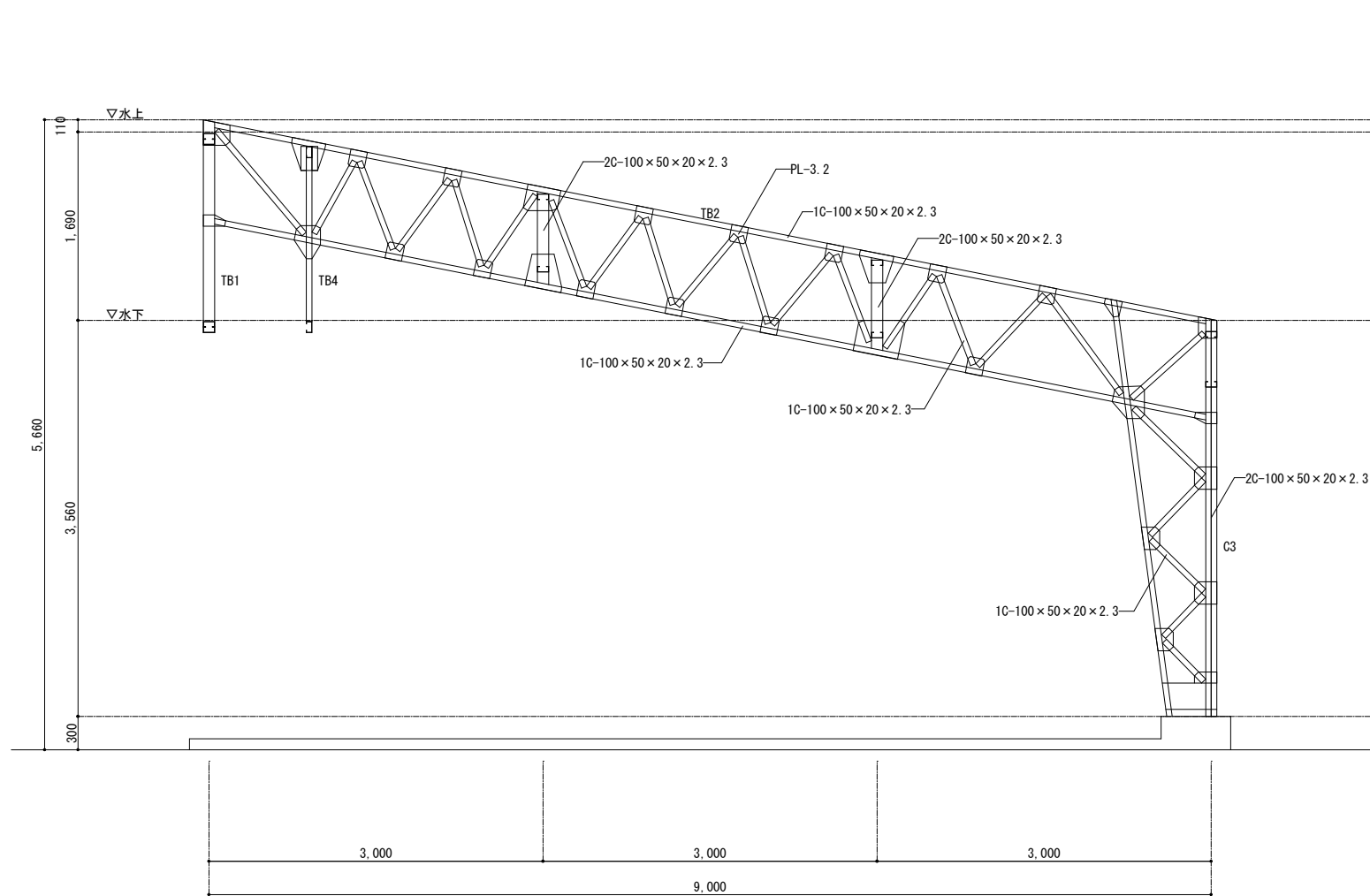
基礎リスト 1/30																								
F1	F2	F3	F4	土間																				
柱リスト 1/10			<table><tr><td>工事名</td><td colspan="3">佐倉浄水場特高変電棟建築工事</td></tr><tr><td>図面名</td><td colspan="3">車庫 基礎リスト・柱リスト</td></tr><tr><td>作成年月日</td><td colspan="3">令和 8 年度</td></tr><tr><td>縮 尺</td><td>1 / 3 0</td><td>図面番号</td><td>D-13</td></tr><tr><td>事業者名</td><td colspan="3">千葉県企業局工業用水部</td></tr></table>		工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事			図面名	車庫 基礎リスト・柱リスト			作成年月日	令和 8 年度			縮 尺	1 / 3 0	図面番号	D-13	事業者名	千葉県企業局工業用水部		
工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事																							
図面名	車庫 基礎リスト・柱リスト																							
作成年月日	令和 8 年度																							
縮 尺	1 / 3 0	図面番号	D-13																					
事業者名	千葉県企業局工業用水部																							
C1	C2	C3																						



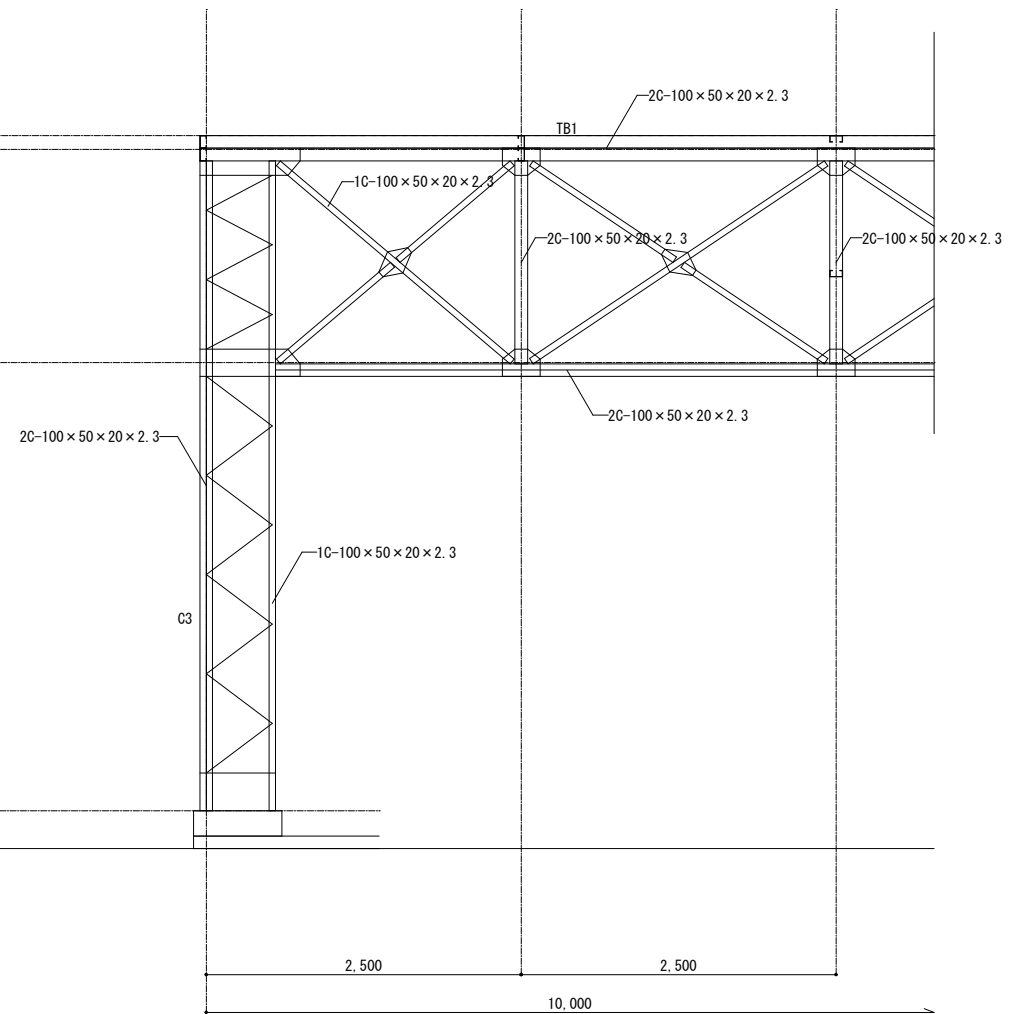
1-2通り 詳細図 1/30



TB4 詳細図 1/30

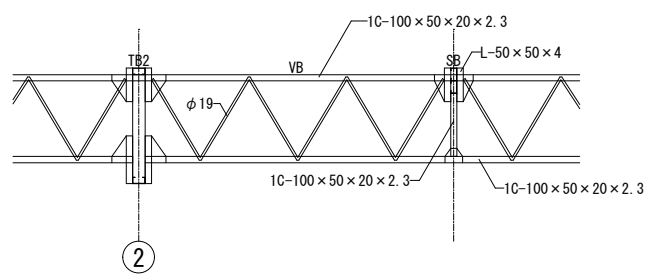


2通り 詳細図 1/30

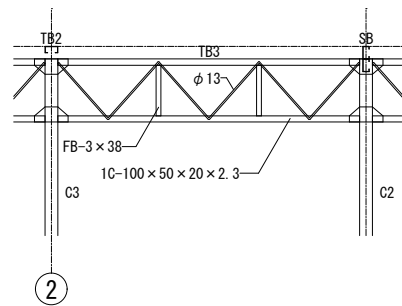


A通り 詳細図 1/30

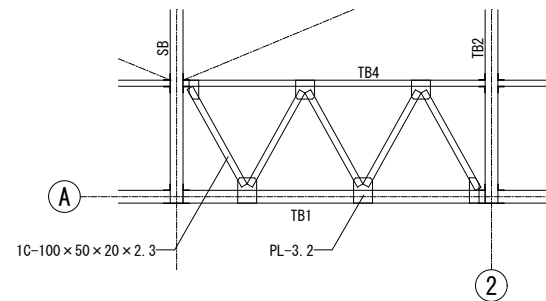
工事名	佐倉浄水場特高変電所棟建築工事		
図面名	車庫 詳細図(1)		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1/30	図面番号	D-14
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



VB 詳細図 1/30



TB3 詳細図 1/30



A通り 平面詳細図 1/30

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	車庫 詳細図 (2)		
作成年月日	令和 8 年度		
縮 尺	1 / 3 0	図面番号	D - 15
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

[illegible]

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	建築機械設備 特記仕様書(1)		
作成年度	令和8年度		
縮尺	—	図面番号	AM-1
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

章 項 目		特 記 事 項		章 項 目		特 記 事 項		章 項 目		特 記 事 項																									
● 設計用温湿度	○ 銅 板 製 煙 道 ○ ダ ク ト ○ 風 量 測 定 口 ○ チ ャ ン パ ー ○ ダ ン パ ー ● 配 管 材 料 ○ 井 類 ○ 温 度 計 ○ 圧 力 計 ○ 瞬間流量計 ○ 油面制御装置 ○ 絶縁継手 ● 保 温 及 び 消 音 内 貼 り	● 下表による。 ○ () の温度条件による。 <table><tr><th rowspan="2"></th><th colspan="2">外 気</th><th colspan="4">屋 内 (調 整 目 標)</th></tr><tr><th>温度 (DB)</th><th>湿度 (RH)</th><th>温度 (DB)</th><th>湿度 (RH)</th><th>温度 (DB)</th><th>湿度 (RH)</th></tr><tr><td>夏 期</td><td>34.8℃</td><td>59.4%</td><td>30.0℃</td><td>50.0%</td><td>℃</td><td>%</td></tr><tr><td>冬 期</td><td>℃</td><td>%</td><td>℃</td><td>%</td><td>℃</td><td>%</td></tr></table> 伸縮継手、掃除口及びばいじん量測定口の位置は図示による。 銅板厚 (○ 3.2mm ○ 4.5mm) ○ 低圧ダクト (○ コーナーボルト工法 (長さの長さが1,500mm以下の部分) ○ アンダルフランジ工法 ○ スパイラルダクト) とする。 ○ 高圧1ダクトの適用範囲は図示による。 ○ ステンレスダクト及び塩化ビニルダクトの仕様及び適用範囲は図示による。 取り付け箇所は図示による。 (1) 内貼りを施すチャンパーの表示寸法は外法を示す。 (2) 空気調和機に取り付けるサブライチャンパー、レタンチャンパー及びダクト系で消音内貼りしたチャンパーには点検口を設け、点検口の大きさは図示による。 (3) ガラリに直接取り付けるチャンパー及びホッパーは雨水の滞留のないように施工する。 (1) 防煙ダンパー 復帰方式(○ 遠隔 ○) 定格入力はDC24V、0.7A以下とする。 (2) ビストンダンパー 復帰方式(○ 遠隔 ○) (1) 冷温水管 ○ (2) 冷却水管 ○ (3) 油 管 ○ (4) 蒸 気 管 給気管 ○ 還 管 ○ (5) 高温水管 ○ (6) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラー等への補給水管 ○ (7) ドレン管 ● 配管用炭素鋼管 (白) (8) 冷媒管 ● 断熱材被覆鋼管 JIS 又は JV (○ 5K ○ 10K (図示部分)) ○ 65A以上の冷温水・冷却水用弁装置の仕切弁はバタフライ弁とする。 ○ 鋼管用伸縮継手の種類は図示による。 ○ ステンレス鋼管に取付ける弁類は、ステンレス製とする。 ○ ファンコイルユニットと冷温水管の接続部 (往・還) には、ボール弁を取付ける。 ○ ファンコイルユニットには、○ 流量調整弁 ○ 定流量弁 を設置する。 取付け箇所は図示による。 取付け箇所は図示による。 取付け箇所は図示による。 なお、瞬間流量計 (○ 固定型 ○ 着脱型) はビート管方式とし、止水コック付とする。 制御盤には、(○ 給油ポンプ制御 ○ 減油警報 ○ 遠隔警報 ○ 漏えい検知警報 ○ 返油ポンプ制御 ○ 減油警報 ○) の端子を設ける。 なお、フオートスイッチ部と制御盤間の配管・配線は製造者の標準仕様とする。 図示の位置に取付ける。 ○ 通りダクトの保温 範囲は (○ 図示による ○) ○ 外気ダクトの保温 範囲は (○ 図示による ○) ○ 膨張タンクよりボイラー等への補給水管の保温は、標準仕様書第2編 3.1.4 の温水管の項による。 ○ 建物内の空気抜き管の保温は、標準仕様書第2編 3.1.4 温水管の項による。(エア抜き弁以降の配管は、除く) ○ 空気調和機及びファンコイルユニットの排水管の保温は、標準仕様書第2編 3.1.5 の排水管の項による。 ● 冷媒管の保温外装は別表一2による。			外 気		屋 内 (調 整 目 標)				温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	夏 期	34.8℃	59.4%	30.0℃	50.0%	℃	%	冬 期	℃	%	℃	%	℃	%	● 配 管 材 料 給 ○ 水 栓 水 ○ 量 水 器 ○ 量 水 器 棚 ○ 絶縁継手 設 ○ 弁 類 備 ● 管の地中埋設深さ ○ 水 栓 柱 ○ 建物導入部配管 ○ 引込納付金等	(1) 一般配管 ○ (2) 地中埋設配管 ● 耐衝撃性塩化ビニル管 (H I V P) (3) 水道直結配管 ○ 引き込みは水道事業者の指定により、量水器以降の地中配管は、(○) とし、他の部分は (1) による。 ○ 台所流し用の水栓は泡沫式とする。 ○ 水抜栓を使用する場合、水栓は固定式とする。 (○ ただし、屋外に設ける水栓は耐寒水栓とする。) ○ 親メーター (貸与品) (○ 直読式 ○ バルス式) ○ 子メーター (買い取り) (○ 直読式 ○ バルス式) ○ 水道事業者指定品 (○ 貸与品 ○ 買い取り) ○ 標準図 MC 形 図示の位置に取付ける。 JIS 又は JV ○ 水道直結部分 (○ 10K ○) ○ その他の部分 (○ 5K ○) ○ ステンレス配管を使用する場合の材質はステンレス製とする。 ● 管の上端より原則として、一般敷地は (30cm) 構内道路は (60cm) 以上とする。 ○ 合成樹脂製 ○ アルミニウム合金製 ○ 人造石とぎ出し製 ○ ステンレス製 標準図 (建物導入部の変位吸収配管要領) の (○ (a) ○ (b) ○ (c)) による。 ○ 要 (○ 別途工事 ○ 本工事) ○ 不要	● 撤 去 内 容 ○ 保 温 材 ● 支持金物等 ○ 石綿含有品 撤 ● 発生材の処理 去 工 事 ○ 冷媒 (フロン類) の回収	● 図示による。 ○ 保温材は、配管・ダクト等より分離する。 撤去方法 ○ 図示による ○ ● 金属類 (● 機器類 ○ ダクト ● 配管 ● その他金属類) の処理は (● 構外搬出適切な処理 (○)) とする。 ○ 特別管理産業廃棄物 (○) の処理は (○ 構外搬出適切な処理 ○ 別途) とする。 ○ 石綿含有産業廃棄物 (○ 配管用成形保温材 ○ フランジ用ガスケット) の処理は (○ 構外搬出適切な処理 ○ 別途) とする。 ○ 上記以外のもの (○) の処理は (○ 構外搬出適切な処理 ○ 別途) とする。 ○ 建設リサイクル法における再資源化等を行なう特定建設資材の構外搬出処理を本工事とする。 ○ 本工事 ○ 別途 冷凍機等の撤去に伴う冷媒の回収方法は、改修標準仕様書第3編2. 4. 3により、次の書類を監督職員に提出する。 ○ フロン回収行程管理表の写し ○ 特定家庭用機器廃棄物管理票 (家電リサイクル券) の写し	○ なし ○ あり (○ 自然換気口 ○ ガス抜き管 ○ 強制換気装置 ○ ガス検知器 ○ その他 ()) ○ 施工にあたって、防災上必要な措置を講じること。
			外 気		屋 内 (調 整 目 標)																														
			温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)																											
		夏 期	34.8℃	59.4%	30.0℃	50.0%	℃	%																											
		冬 期	℃	%	℃	%	℃	%																											
		○ ダ ク ト ○ 風 量 測 定 口 ● ダ ン パ ー ○ 排気ダクトのシール ● チ ャ ン パ ー ○ 保 温	○ 低圧ダクト (○ コーナーボルト工法 (長さの長さが 1500 mm以下の部分) ○ アンダルフランジ工法 ○ スパイラルダクト) とする。 ○ 高圧1ダクトの適用範囲は図示による。 ○ ステンレスダクト及び塩化ビニルダクトの仕様及び適用範囲は図示による。 ○ 厨房系統の長方形排気ダクトの板厚は、標準仕様書より1番手厚いものを使用する。 取付箇所は図示による。 空気調和設備の当該項目による。 ○ 浴室 (シャワー室、脱衣室を含む) 系統 ○ 厨房系統 ○ 高圧2ダクトのシール 長方形ダクト ○ N+Aシール ○ Bシール 円形ダクト ○ A、Bシール ○ Cシール 空気調和設備の当該項目による。 ○ 全熱交換ユニット用の外気ダクト (○ 保温の厚さ25mm、範囲は図示による。) 多湿箇所のダクトの保温要 (○ 保温の厚さ25mm、範囲は図示による。) ○ (○ 厨房 ○ 湯沸室 ○) の隠ぺいダクト (仕様はh・(f)・D) とし、範囲は図示による。		○ 給 配 管 材 料 給 ○ 弁 類 湯 設 ○ 保 温 備	(1) 屋 内 汚 水 管 ○ 給排水管 ○ 通気管 ○ ポンプアップ排水管 ○ (2) 屋 外 第一軒まで ○ 樹 間 ● 塩化ビニル管 (VU) 洗面器に直結する排水管は、器具トラップより1サイズアップとする。 台所流し等の床上露出部分の配管は、ビニル管 (RF-VP) でもよい。 ○ 標準仕様書第2編 2.4.8(f)による。 ○ 図示の箇所に取付ける。 ○ プラスチック樹 (○ 標準図による。) ○ コンクリート樹 (○ 標準図による。 ○ 本図面の施工要領図による。) ○ 要 (○ 別途工事 ○ 本工事) ○ 不要	○ 上ガス対策 ○ その他																												
			○ ダ ク ト ○ 排煙口の形式 ○ 排煙口手動開放装置 (開放及び復帰方式) ○ 排煙風量測定 ○ 中央監視制御装置 ○ システム構成・機能 ○ 電気計装用配線 ○ 自動洗浄装置及びその組み込み小便器 ○ 洗面器 ○ 標 記 板 ○ 自動水栓の電源供給方式 ○ 衛生器具ユニット ○ 洋風便器 ○ 浴室ユニット	○ 垂鉛鉄板 ○ 普通鋼板 (厚1.6mm) ○ 図示による。 ○ ワイヤー式 ○ 電気式 (遠隔操作 ○ 要 ○ 不要) 建築設備定期検査業務基準平成28年度版 (一財) 日本建築設備・昇降機センター) の排煙風量の検査方法に準ずる。 ○ 有リ (○ 新設 ○ 既設) ○ 無し 図示による。 使用する電線及びケーブルは、原則としてEM電線又はEMケーブルとする。 屋外・屋内露出の電線は、図面に特記がなければ金属管配線とする。 天井内隠ぺいの配線は、図面に特記がなければケーブル配線とする。 洗浄水量は4 L/回以下とし、使用状況により洗浄水量が制御できるものとする。 ○ 個別感知777777方式 (一休型) 制御盤 (○ 要 ○ 不要) 手洗器は止水栓付とする。 ○ 要 材質(○) (○ 大便器 ○ 小便器) ○ 不要 ○ A C電源 ○ 自己発電 ○ ユニットの配管材料は、図示による。 タンク式は6. 5 L/回以下とする。 仕様は別図による。		○ 配 管 材 料 給 ○ 弁 類 湯 設 ○ 保 温 備 ○ シ ス テ ム ○ 厨房用熱源 ○ 機器の機能等 ○ ガ ス 種 別 ○ 配 管 材 料 ○ 充 て ん 容 器 ○ 集 合 装 置 ○ 転 倒 防 止 等 ○ メ ー タ ー ○ ガ ス 漏 れ 警 報 器 ○ 漏洩検知装置 ○ 電 気 防 食 ○ 引込負担金等 ○ バルク貯槽 ○ 仕 様 等 ○ 設 備 方 式 ○ 排 水 処 理 設 備 ○ 雨 水 利 用 設 備 ○ 仕 様 等	(1) 屋内消火栓 一 般 ○ 地 中 ○ (2) 連絡送水管 一 般 ○ 地 中 ○ (3) ○ ○ ○ ○ ○ ○ 易操作性1号消火栓 ○ 1号消火栓 ○ 2号消火栓 ○ 1 0 k 屋外露出配管は標準仕様書第2編 3.1.5 e2・(ハ)・Ⅷによる保温を行う。 標準図 (建物導入部の変位吸収配管要領) (○ (a) ○ (b) ○ (c)) による。 別図による。 別図による。 ○ ドライシステム ○ 図示による。 図示による。 (供給者名 : 発熱量 MJ/㎡ (N)) ○ 都市ガス ○ 液化石油ガス ○ 都市ガス ガス事業者の供給規定による。 ○ 液化石油ガス (1) 一 般 ○ (2) 地 中 ○ 別途 (○ 50kg ○) × 本 ○ 標準図 (液化石油ガス容器廻り配管要領) による 本編。 ○ 標準図 (液化石油ガス容器転倒防止施工要領) (○ (a) ○ (b)) による。 ○ 親メーター (貸与品) (○ 直読式 ○ バルス式 (バルス発信器は ○ 買い取り)) ○ 子メーター (買い取り) (○ 直読式 ○ バルス式) ○ 本工事 (図示による) ○ 別途工事 外館警報端子 (○ 無 ○ 有) ○ 要 ○ 不要 ○ 要 ○ 不要 ○ 要 (○ 別途工事 ○ 本工事) ○ 不要 ○ 模型 ○ 堅型 (液化石油ガス貯蔵能力 k g) 別図による。 ○ 排水再利用 ○ 浄化槽 ○ 厨房除害 別図による。																												
</																																			

区分		項目	施工箇所	保温材		保温仕様	外装材	
				GW	RW	PSF		サ SUS AL
給排水衛生設備配管	給水管			☐	☐	☐		-
	排水管・通気管	屋内露出(一般居室、廊下)		☐	☐	☐	保温筒+鉄線(PSFの場合粘着テープ)	-
	給湯管			☐	☐	☐	+合成樹脂製カバー	-
	給水管			☐	☐	☐		-
	排水管・通気管	機械室、書庫、倉庫	☒	☐	☐	保温筒+鉄線(PSFの場合粘着テープ) +原紙+アルミガラスクロス	-	-
	給湯管			☐	☐	☐		-
	給水管			☐	☐	☐		-
	排水管・通気管	天井内、パイプシャフト内、 空調壁中	☐	☐	☐	アルミガラスクロス化粧保温板 +アルミガラスクロス粘着テープ	-	-
	給水管			☐	☐	☐		-
	給水管・消火管	屋外露出	☐	☐	☐	保温筒+鉄線(PSFの場合粘着テープ) +ポリエチレンフィルム+外装材	☐	☐
	(屋外露出、床下、 暗渠内は除く。) (排水工事の分岐点 より100mm以下 の部分)	給湯管	(バルコニー、開放廊下含む) 浴室、厨房等の多湿箇所 (厨房の天井内は含まない)	☐	☐	☐		☐
		給湯管		☐	☐	☐		-
		消火管		☐	☐	☐	保温筒+鉄線(PSFの場合粘着テープ) +ポリエチレンフィルム +着色アルミガラスクロス	-
		給湯管	暗渠内(ビッド内含む)	☐	☐	☐		-
		給湯管		☐	☐	☐		-
給排水衛生設備機器	給湯管(断熱管含む)						80A以下：20mm、100A～150A：25mm、200A以上：40mm	
							80A以下：20mm、100A以上：25mm	
	銅製タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄(PSFの場合鉄又は接着剤) +保温板(厚さ25mm)	☐	-
	排気筒	屋外	☐	☐	☐	+ポリスチレンフィルム+鉄線+外装材	-	-
	貯湯タンク	屋内	☐	☐	☐		-	-
	排気筒	屋外	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	☐	☐
	排気筒	隠ぺい箇所	☐	☐	☐	保温帯(厚さ50mm)+鉄線 +アルミガラスクロス+金網	-	-
	温水管	屋内露出(一般居室、廊下)	☐	☐	☐	保温筒+鉄線+合成樹脂製カバー	-	-
	温水管		☐	☐	☐		-	-
	温水管	機械室、書庫、倉庫	☐	☐	☐	保温筒+鉄線+原紙 +アルミガラスクロス	-	-
	高気管	天井内、パイプシャフト内、 空調壁中	☐	☐	☐	アルミガラスクロス化粧保温筒 +アルミガラスクロス粘着テープ	-	-
	高気管 (低圧(0.1MPa未満)の蒸気)	温水管	屋外露出	☐	☐	☐		☐
		高気管	(バルコニー、開放廊下含む) 浴室、厨房等の多湿箇所 (厨房の天井内は含まない)	☐	☐	☐	保温筒+鉄線 +ポリエチレンフィルム+外装材	☐
		高気管	暗渠内(ビッド内含む)	☐	☐	☐		-
		高気管		☐	☐	☐	保温筒+鉄線+ポリエチレンフィルム +着色アルミガラスクロス	☐
冷媒管(断熱管含む)	保温筒	グラスウール保温筒(GW) ロックウール保温筒(RW)	温水管 80A以下：20mm、100A～150A：25mm、200A以上：40mm 25A以下：20mm、32A～50A：30mm、65A以上：40mm					
	冷水管	屋内露出(一般居室、廊下)	☐	☐	☐	保温筒+鉄線(PSFの場合粘着テープ) +ポリエチレンフィルム +合成樹脂製カバー	-	-
	冷媒管		☐	☐	☐		-	-
	プライン管		☐	☐	☐	保温筒+鉄線+ポリエチレンフィルム +原紙+アルミガラスクロス	-	-
	冷水管	機械室、書庫、倉庫	☐	☐	☐	保温筒+粘着テープ +ポリエチレンフィルム +アルミガラスクロス	-	-
	冷媒管		☐	☐	☐		-	-
	プライン管		☐	☐	☐		-	-
	冷水管	天井内、パイプシャフト内、 空調壁中	☐	☐	☐	保温筒+鉄線(PSFの場合粘着テープ) +ポリエチレンフィルム +アルミガラスクロス	-	-
	冷媒管		☐	☐	☐		-	-
	プライン管		☐	☐	☐		-	-
	冷水管	天井内、パイプシャフト内	☐	☐	☐		-	-
	冷媒管		☐	☐	☐		-	-
	プライン管		☐	☐	☐		-	-
	冷水管	屋外露出	☐	☐	☐	保温筒+鉄線(PSFの場合粘着テープ) +ポリエチレンフィルム+外装材	☐	☐
	冷水管	(バルコニー、開放廊下含む) 浴室、厨房等の多湿箇所 (厨房の天井内は含まない)	☐	☐	☐		-	-
冷媒管		☐	☐	☐		-	-	
プライン管		☐	☐	☐	保温筒+鉄線(PSFの場合粘着テープ) +ポリエチレンフィルム +着色アルミガラスクロス	-	-	
冷媒管(断熱材被覆配管)		グラスウール保温筒(GW) ロックウール保温筒(RW)	25A以下：30mm、32A～200A：40mm、250A以上：50mm					
	保温筒	ポリスチレン フォーム保温筒 (PSF)	冷水管・冷水管 25A以下：30mm、32A～200A：40mm、250A以上：50mm 20A以下：30mm、25A～100A：40mm、125A以上：50mm 25A以下：40mm、25A～80A：50mm、100A以上：65mm					
	ガス管保温筒	20mm以上	冷水管・冷水管 20mm以上：20mm、25A～80A：50mm、100A以上：65mm					
	屋外露出(一般居室、廊下)	☒	合成樹脂カバー	☐	保温化粧ケース	☐	製	
	機械室、書庫、倉庫	☒	合成樹脂カバー	☐	保温化粧ケース	☐	製	
	屋外露出	☒	合成樹脂カバー	☐	保温化粧ケース	☐	製	
	空気調和設備機器	冷水温水ヘッダー	屋内	☐	☐	☐	鉄(PSFの場合鉄又は接着剤) +保温板(厚さ50mm)	☐
	冷水温水ヘッダー	冷水温水タンク	屋外	☐	☐	☐	+ポリスチレンフィルム+鉄線+外装材	-
	冷水温水タンク	冷水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ50mm)+鉄線+外装材	-
	冷水タンク	温水ヘッダー	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-
	温水ヘッダー	高気ヘッダー	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ50mm)+鉄線+外装材	-
	高気ヘッダー	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-
	温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-
	温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-
	温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク	温水タンク	屋内	☐	☐	☐	鉄+保温板(厚さ25mm)+鉄線+外装材	-	
温水タンク								

表-3

工 事 区 分 表

工 事 内 容		施 工 区 分				
		建築	電気	機械		
開口部	はり、床、壁貫通部	鉄筋補強	○	・	・	
		スリーブ、型枠	・	○	○	
	埋込形(分電盤、端子盤、プルボックス)、風道	鉄筋補強	○	・	・	
	埋込形消火栓ボックス、吹出口、吸込口、換気扇、大便器等	スリーブ、型枠	・	○	○	
	軽重鉄骨下地天井、壁ボード類の切込み	補強とも	○	・	・	
基礎	スリーブ穴埋め、窓枠穴埋め	補強のない場合	○	○	○	
	鉄骨、PC版等への穴開け、補強、スリーブ入れ(工場加工)		○	○	○	
	屋内	配電盤、制御盤、発電機、キュービクル 受水槽、サービスタンク	躯体と一体のもの 上記以外	○	・	・
	屋外	配電盤、制御盤、キュービクル 受水槽、消火水槽	鉄筋基礎 無筋基礎	・	○	・
	屋上	テレビアンテナ、避雷針 高架水槽、クーリングタワー、消火栓補給水槽	躯体と一体のもの 上記以外	○	・	・
点検口	築台、アンカーボルト		・	○	・	
			・	・	・	
	床、天井、壁		○	・	・	
			・	・	・	
	配線ビッド、トレンチビッド		○	・	・	
配管			・	・	・	
	機器付属の制御盤（接地とも）	一次側 二次側	・	○	・	
			○	○	○	
	制御盤と動力盤の間（接地とも）	電源供給 操作 配管 回路 配線（ ）	・	○	・	
			・	・	・	
線	天井吊り形FCU及び全熱交換機換気扇（接地とも）	電源供給 操作 配管 回路 配線（ ）	・	○	・	
			・	・	・	
	煙感知器から運動制御盤を経て防火ダンパーに至る配管配線		・	・	・	
	防油堤		○	・	・	
	インゲート、吊りボルト		・	○	○	
換気扇枠		・	・	・		
外部取り付け付ラゲ(ダクト、チャンパー接続用フランジを含む)		○	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		
		・	・	・		

別表-1	機 材 等	
冷媒配管支持要領		
土間下配管詳細図		
土間鉄筋に結束のこと 土間地下配管は、9φ鉄筋（タールエポキシ塗り）にて、U字型支持のこと。 支持間隔は、仕様による。	土間鉄筋に結束のこと 土間鉄筋 土間鉄筋 吊りバンド、棒鋼はステンレス製とする。 棒鋼を土間鉄筋に結束する場合は、直接、接しないよう電触防止策を施すこと。 支持間隔は、仕様による。	土間コンクリート中間位置程度 インサート金物 吊りバンド、棒鋼はステンレス製とする。 棒鋼を土間鉄筋に仮止めする場合は、直接、接しないよう電触防止策を施すこと。 支持間隔は、仕様による。

図1は、既製樹根塊、目地モルタル、既製樹側塊、モルタル仕上げ、モルタル、コンクリート、捨コンクリートなどの構成要素を示す断面図である。図中の寸法は、W（幅）、A（隙間）、H（高さ）、T（側塊高さ）、t（モルタル厚さ）、100（基礎幅）などである。右側の注釈には、100、50、100、60の寸法が示されている。

1. 蓋は鉄製鉄防鼠蓋とする。
(鎖付き、汚水マーク入り)
2. 既製樹側塊、縁塊は、すべて鉄筋入りとする。
3. 既製樹側塊、縁塊は、ズレを防止する構造とする。

図1は、コンクリート蓋（鉄筋入）の断面図を示しています。図には、既装樹側境、目地モルタル、既装樹側境、コンクリート、捨コンクリートなどの構造要素が示されています。寸法として、150、100、100、100、60が記載されています。

深さ	H=600以下	H=600超
寸法	R-1	R-2
W	450×450	600×600
A	520×520	670×670
B	650×650	800×800
T	45	50
t	100	120

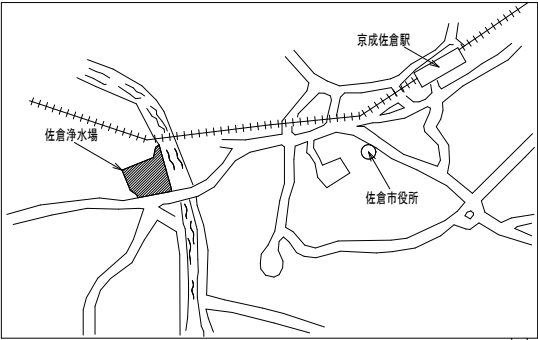
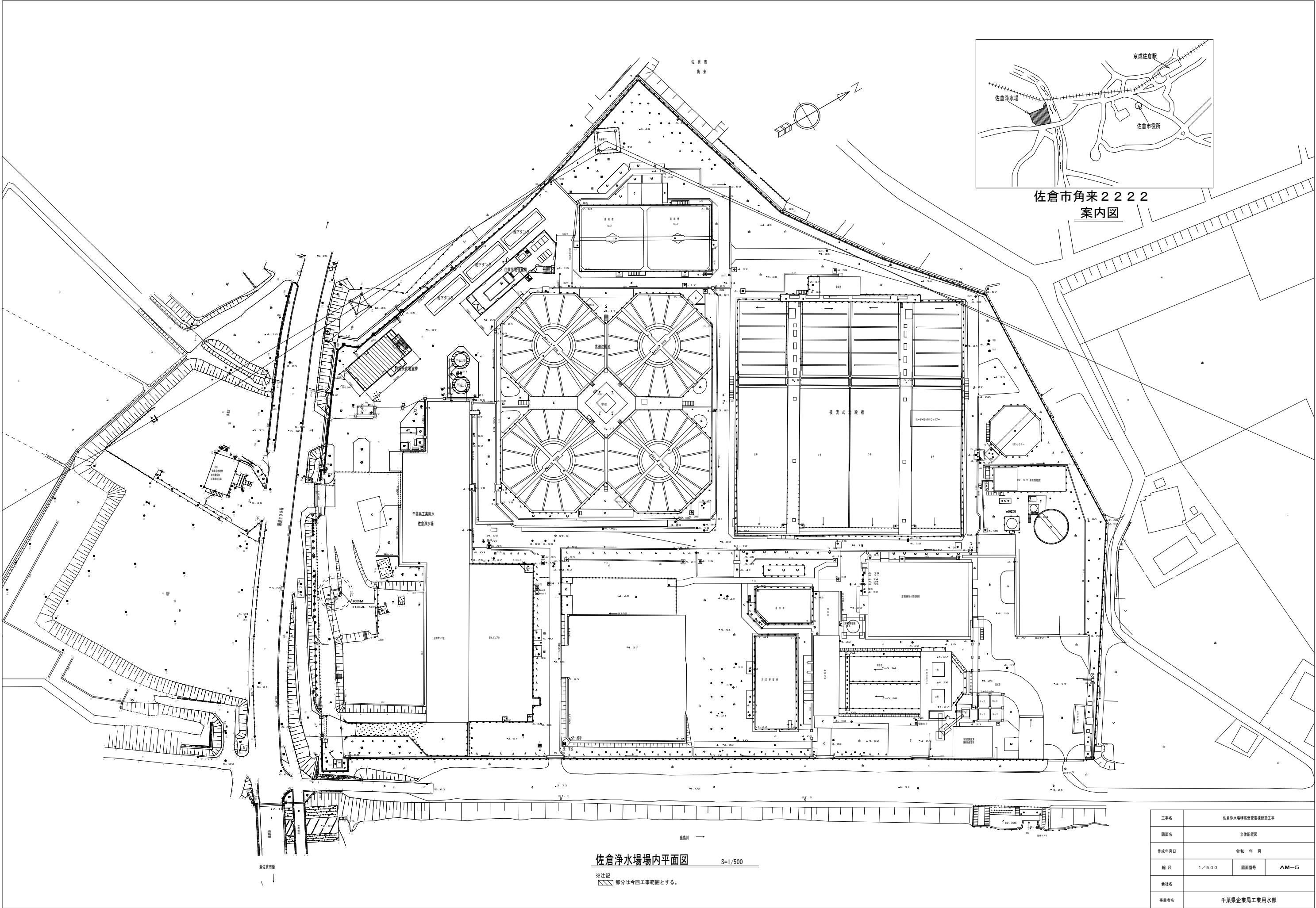
- コンクリート蓋は、既装樹用として、鉄筋入とする。
- 既装樹側境、縁境は、すべて鉄筋入りとする。
- 鉄筋蓋を使用する場合は汚水樹に準ずる。

名 称	記 号	実内径	受 弁	安全荷重	備 考
防臭中耐蓋	MHA-45	450 φ	560	1500kg以上	
防臭中耐蓋	MHA-60	600 φ	710	1500kg以上	
防臭重耐蓋	MHD-45	450 φ	560	5000kg以上	
防臭重耐蓋	MHD-60	600 φ	710	5000kg以上	

樹標準構成表

W	H	側 境				既製 縁境
		150H	300H	450H	600H	
450	250 ~ 400				1	1
450	400 ~ 550	1			1	1
450	560 ~ 700		1		1	1
450	710 ~ 850			1	1	1
600	530 ~ 680		1	1	1	1
600	690 ~ 830	1	1		1	1
600	840 ~ 980				2	1
600	990 ~ 1130	1			2	1
600	1140 ~ 1280		1		2	1
600	1290 ~ 1430	1	1		2	1

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	建築機械設備 特記仕様書(3)		
作成年度	令和8年度		
縮 尺	—	図面番号	AM-3
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



佐倉市角来2222
案内図

工事名	佐倉浄水場特異受電電線建築工事		
図面名	全体配置図		
作成年月日	令和 年 月		
縮 尺	1/500	図面番号	AM-5
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

空調機器表

記号	機器名称	系統名	機器仕様	電気容量			起動連動	台数	設置場所	備考
				φ	V	kW				
ACP-1	パッケージ形	3F特高設備監視室	天吊形				—	2	3F特高設備監視室	
	空調機		冷房能力：3.6kW							
			送風機	3	200	0.1				
			ワイヤードリモコン							
			室外機						屋上	屋上基礎建築工事
			送風機	3	200	0.1				
			圧縮機	3	200	1.0				

換気機器表

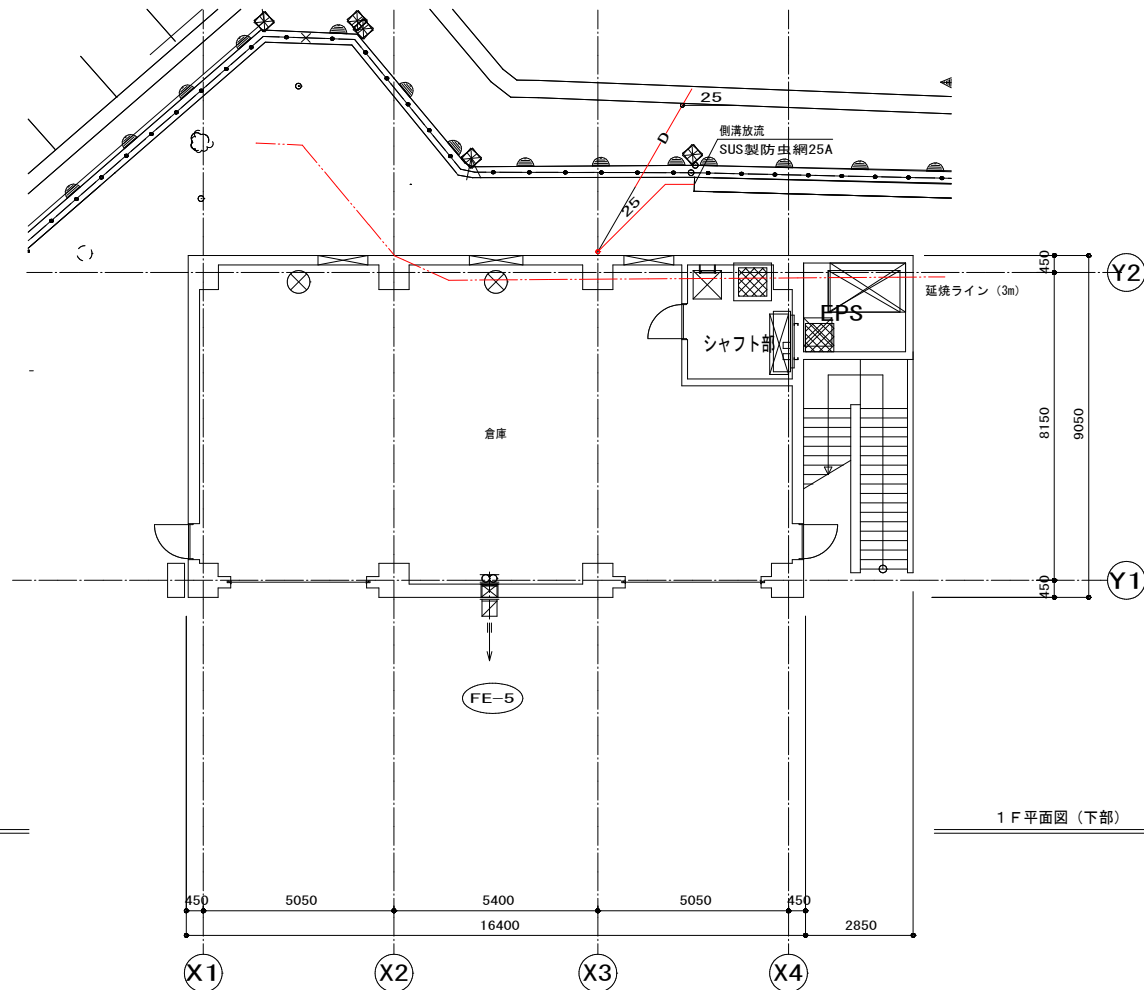
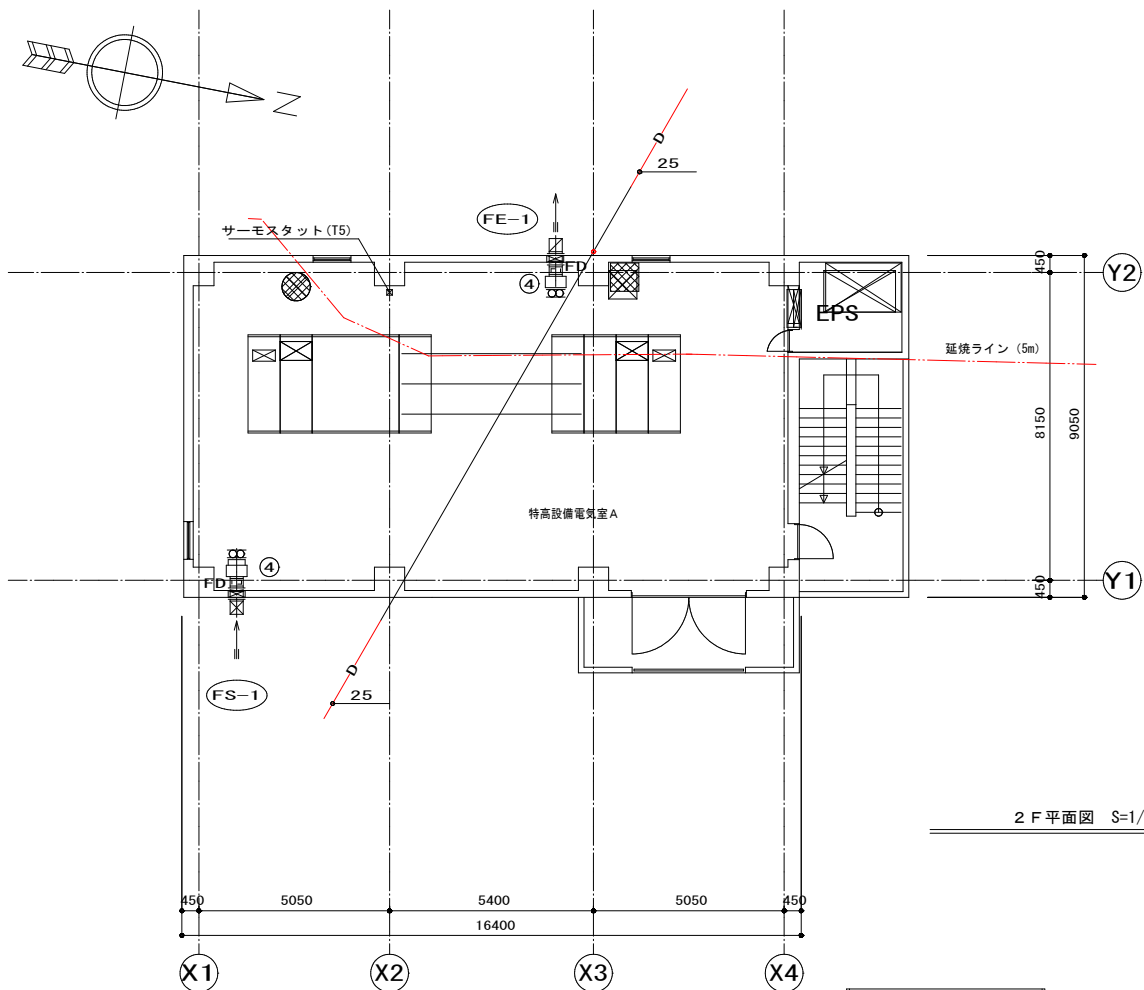
記号	機器名称	系統名	機器仕様	電気容量			起動連動	台数	設置場所	備考
				φ	V	kW				
FS-1	有圧換気扇	2F特高設備電気室A	銅板製	3	200	0.2	タイマー	1	2F特高設備電気室A	
	(給気)		35cm × 2200m3/h × 70Pa				サーモスタット			
			銅板製電動シャッター	1	200	0.1				
			取付枠,SUS製ウェザーカバー（防鳥網付）							
			銅板製フィルターユニット							
FS-2	有圧換気扇	3F特高設備電気室B	銅板製	3	200	11.0	タイマー	3	3F特高設備電気室B	
	(給気)		105cm × 20600m3/h × 170Pa				サーモスタット			
			銅板製電動シャッター,遅延タイマー	1	200	0.1				
			SUS製ウェザーカバー（防鳥網付）							
			銅板製フィルターユニット							
FS-3	有圧換気扇	4F特高設備電気室C	銅板製	3	200	3.7	タイマー	1	4F特高設備電気室C	
	(給気)		70cm × 5900m3/h × 100Pa				サーモスタット			
			銅板製電動シャッター,遅延タイマー	1	200	0.1				
			SUS製ウェザーカバー（防鳥網付）							
			銅板製フィルターユニット							
FS-4	有圧換気扇	3F特高設備監視室	銅板製	3	200	0.1	タイマー	1	3F特高設備監視室	
	(給気)		25cm × 300m3/h × 50Pa							
			銅板製電動シャッター	1	200	0.1				
			取付枠,SUS製ウェザーカバー（防鳥網付）							
			銅板製フィルターユニット							

消音器（ダクトサイレンサーリスト）

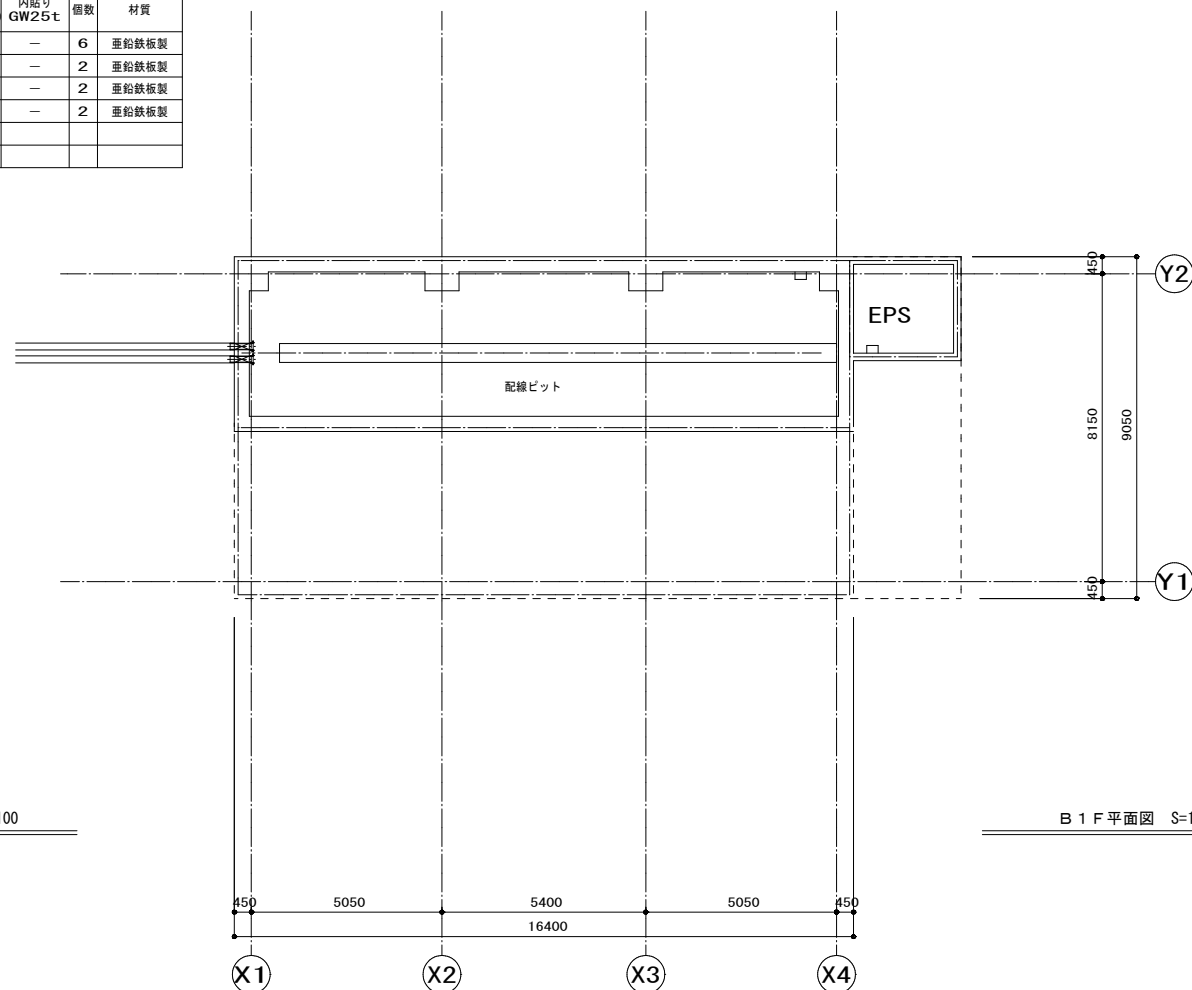
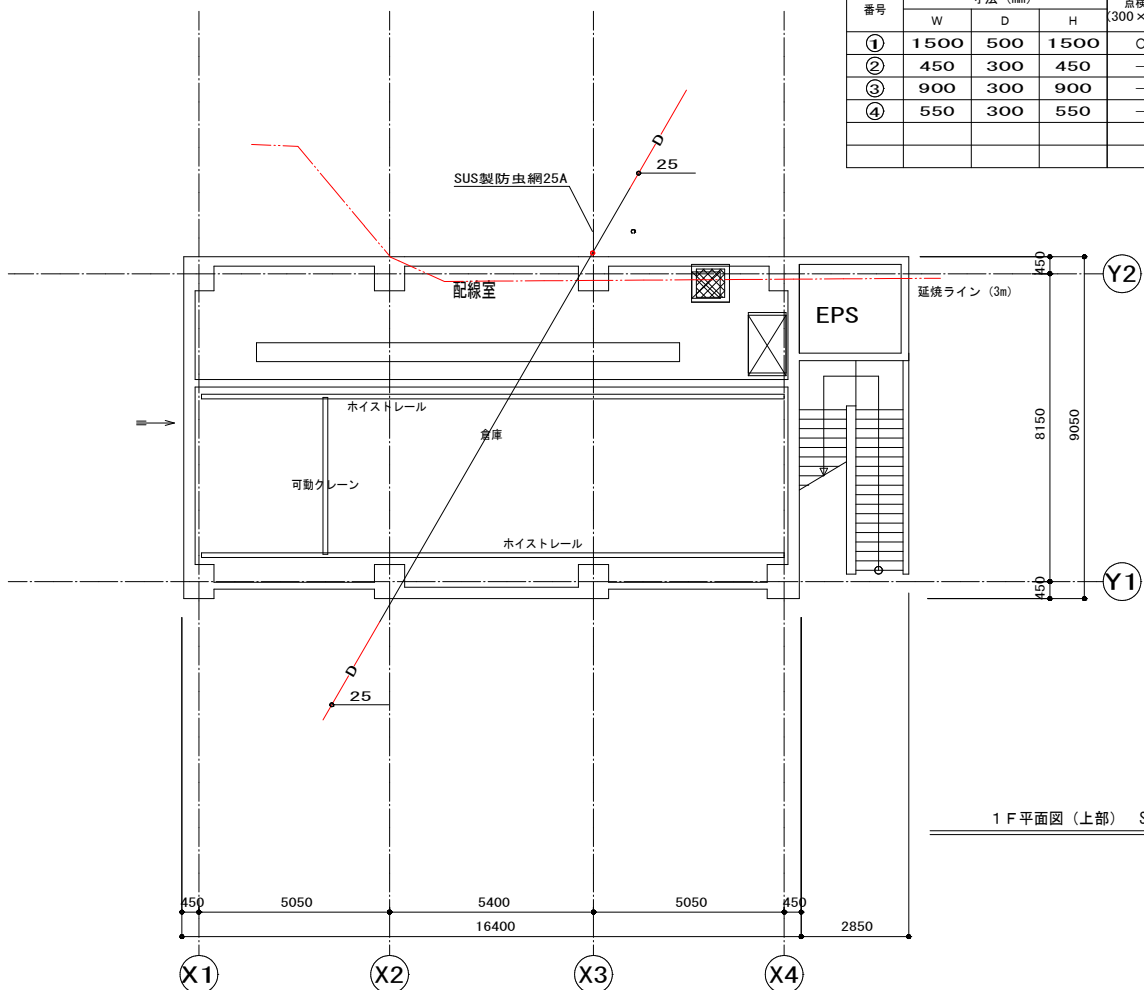
消音性能 記号(系統)		寸法(mm)			個数	系統	減音性能 (dB)								圧力損失 (Pa)	材質	
		W	H	L			中心周波数(Hz)	63Hz	125Hz	250Hz	500Hz	1kHz	2kHz	4kHz			8kHz
SS-1		1200	1200	900	3	FS-2	動的挿入損失 (dB)	-4	-7	-13	-16	-16	-10	-9	-8	12	SUS製
SE-1		1200	1200	1500	3	FE-2	動的挿入損失 (dB)	-12	-14	-27	-35	-33	-19	-14	-13	32	SUS製
SE-2		600	600	1500	1	FE-3	動的挿入損失 (dB)	-13	-16	-29	-36	-34	-18	-15	-13	41	SUS製

記号	機器名称	系統名	機器仕様	電気容量			起動連動	台数	設置場所	備考
				φ	V	kW				
FE-1	有圧換気扇	2F特高設備電気室A	銅板製	3	200	0.2	FS-1連動	1	2F特高設備電気室A	
	(排気)		35cm × 2200m3/h × 50Pa							
			銅板製電動シャッター	1	200	0.1				
			取付枠,SUS製ウェザーカバー（防鳥網付）							
FE-2	有圧換気扇	3F特高設備電気室B	銅板製	3	200	11.0	FS-2連動	3	3F特高設備電気室B	
	(排気)		105cm × 20600m3/h × 120Pa							
			銅板製電動シャッター	1	200	0.1				
			SUS製ウェザーカバー（防鳥網付）							
FE-3	有圧換気扇	4F特高設備電気室C	銅板製	3	200	3.7	FS-3連動	1	4F特高設備電気室C	
	(排気)		70cm × 5900m3/h × 110Pa							
			銅板製電動シャッター	1	200	0.1				
			SUS製ウェザーカバー（防鳥網付）							
FE-4	有圧換気扇	3F特高設備監視室	銅板製	3	200	0.1	FS-4連動	1	3F特高設備監視室	
	(排気)		25cm × 300m3/h × 40Pa							
			銅板製電動シャッター	1	200	0.1				
			取付枠,SUS製ウェザーカバー（防鳥網付）							
FE-5	有圧換気扇	1F倉庫	銅板製	3	200	0.4	タイマー	1	1F倉庫	
	(排気)		40cm × 3500m3/h × 50Pa							
			銅板製電動シャッター	1	200	0.1				
			取付枠,SUS製ウェザーカバー（防鳥網付）							

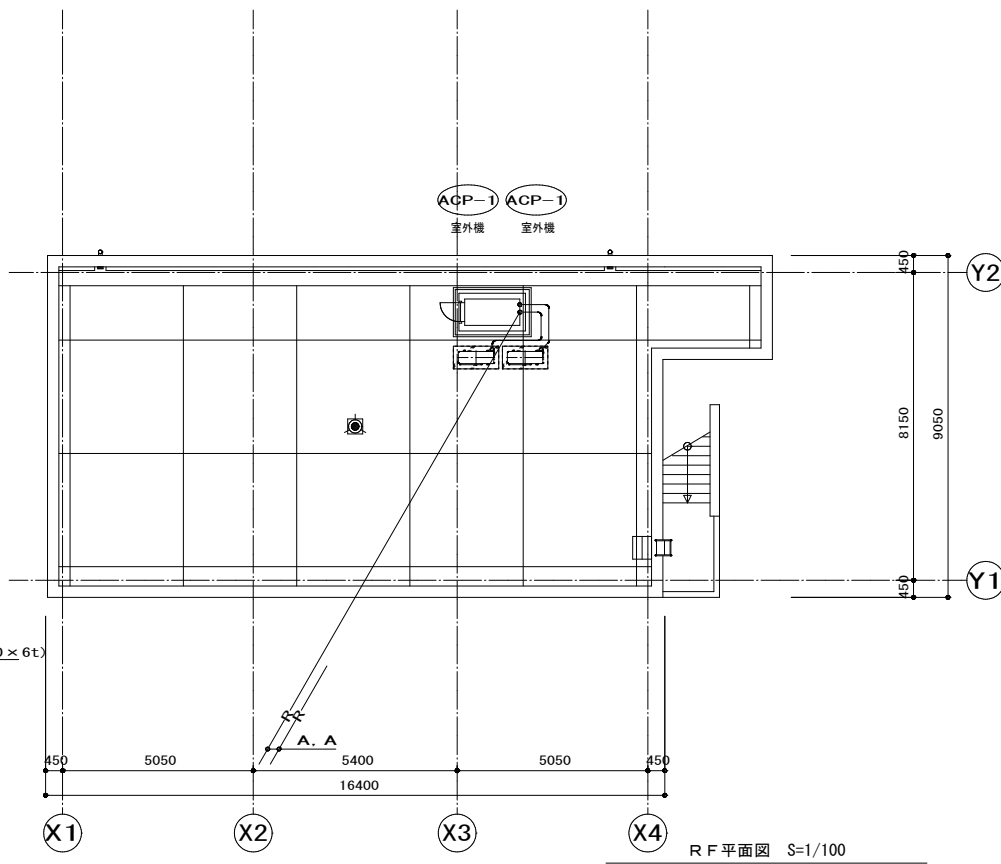
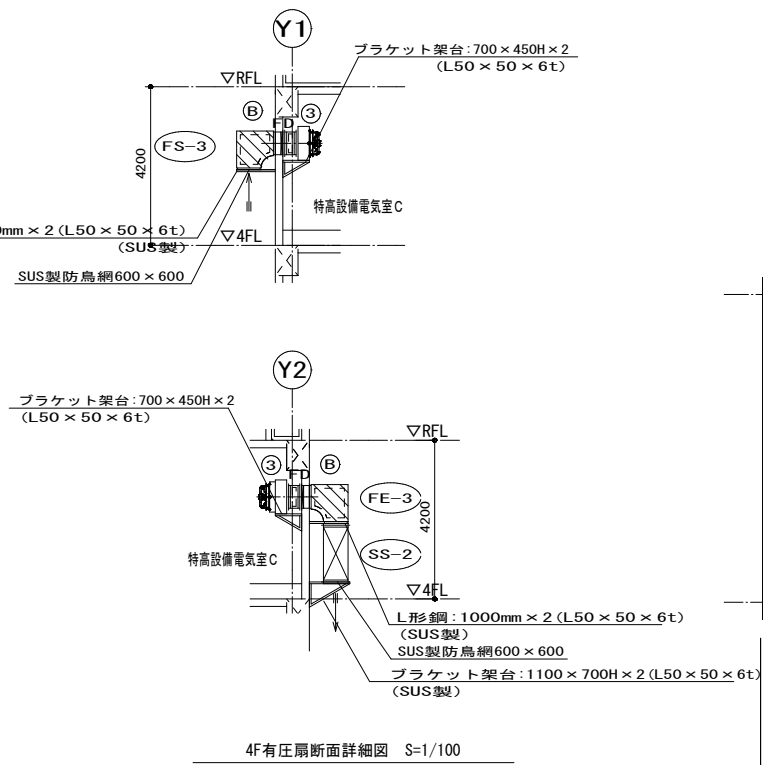
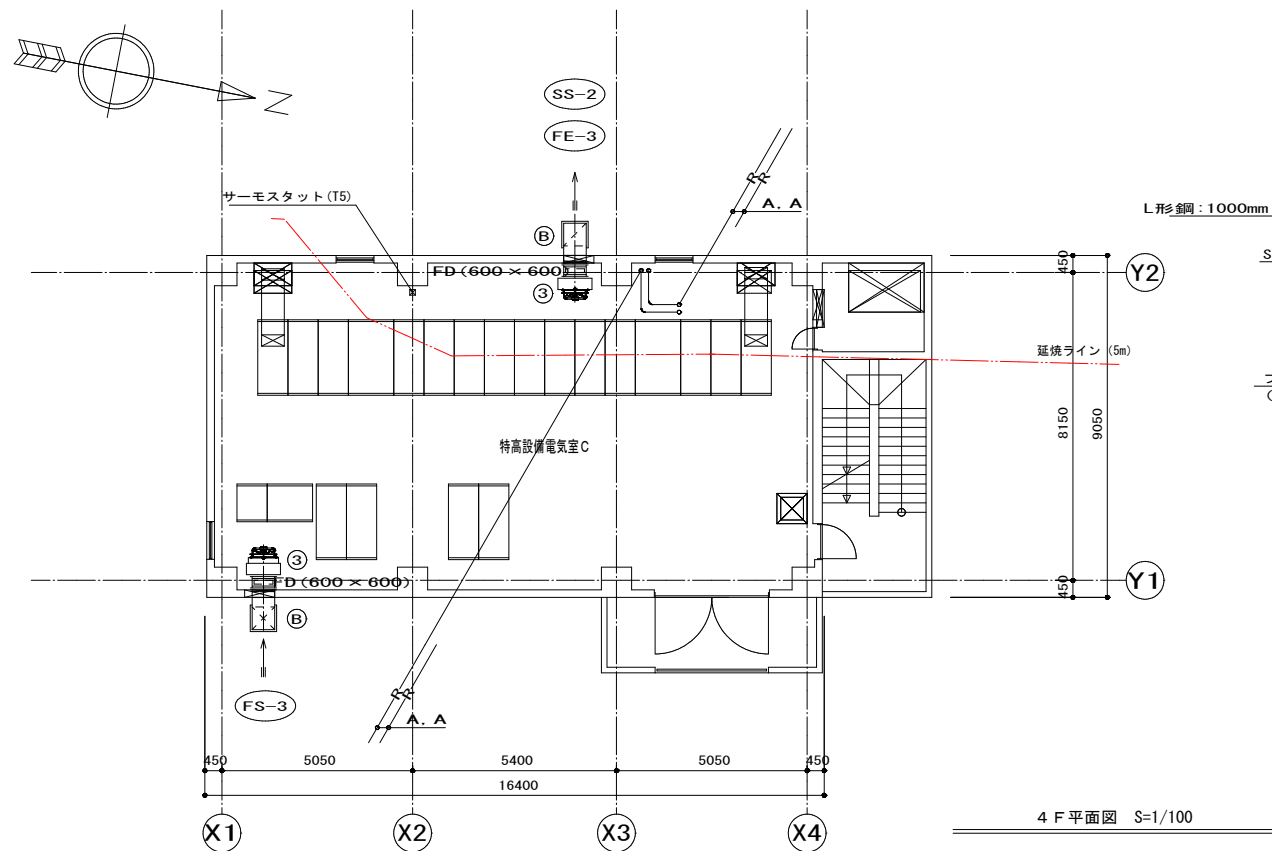
工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	特高変電棟 換気設備 機器表		
作成年度	令和8年度		
縮 尺	—	図面番号	AM-6
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



番号	寸法 (mm)			点検口 300×500	内貼り GW25t	個数	材質
	W	D	H				
①	1500	500	1500	○	—	6	亜鉛鉄板製
②	450	300	450	—	—	2	亜鉛鉄板製
③	900	300	900	—	—	2	亜鉛鉄板製
④	550	300	550	—	—	2	亜鉛鉄板製



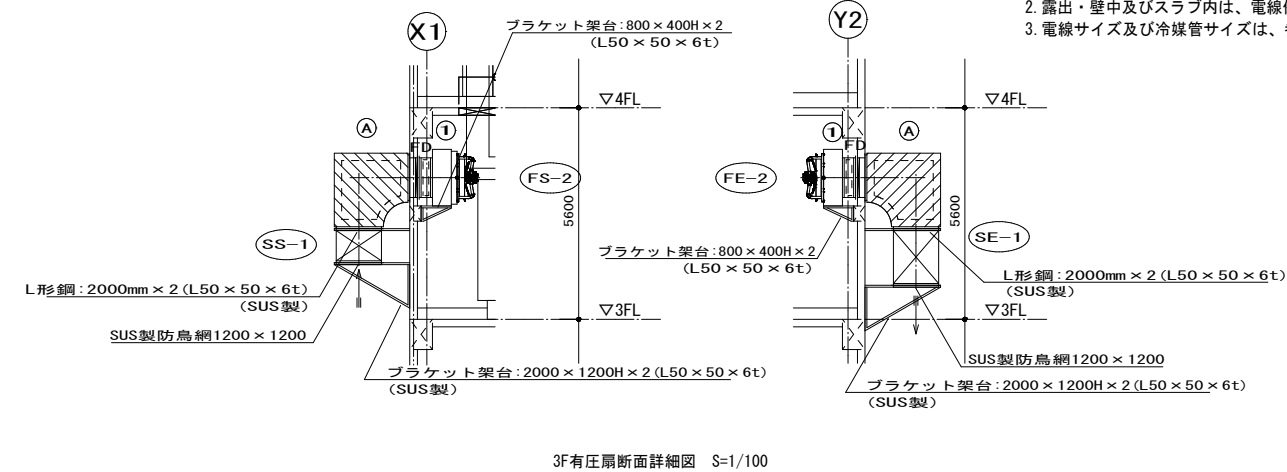
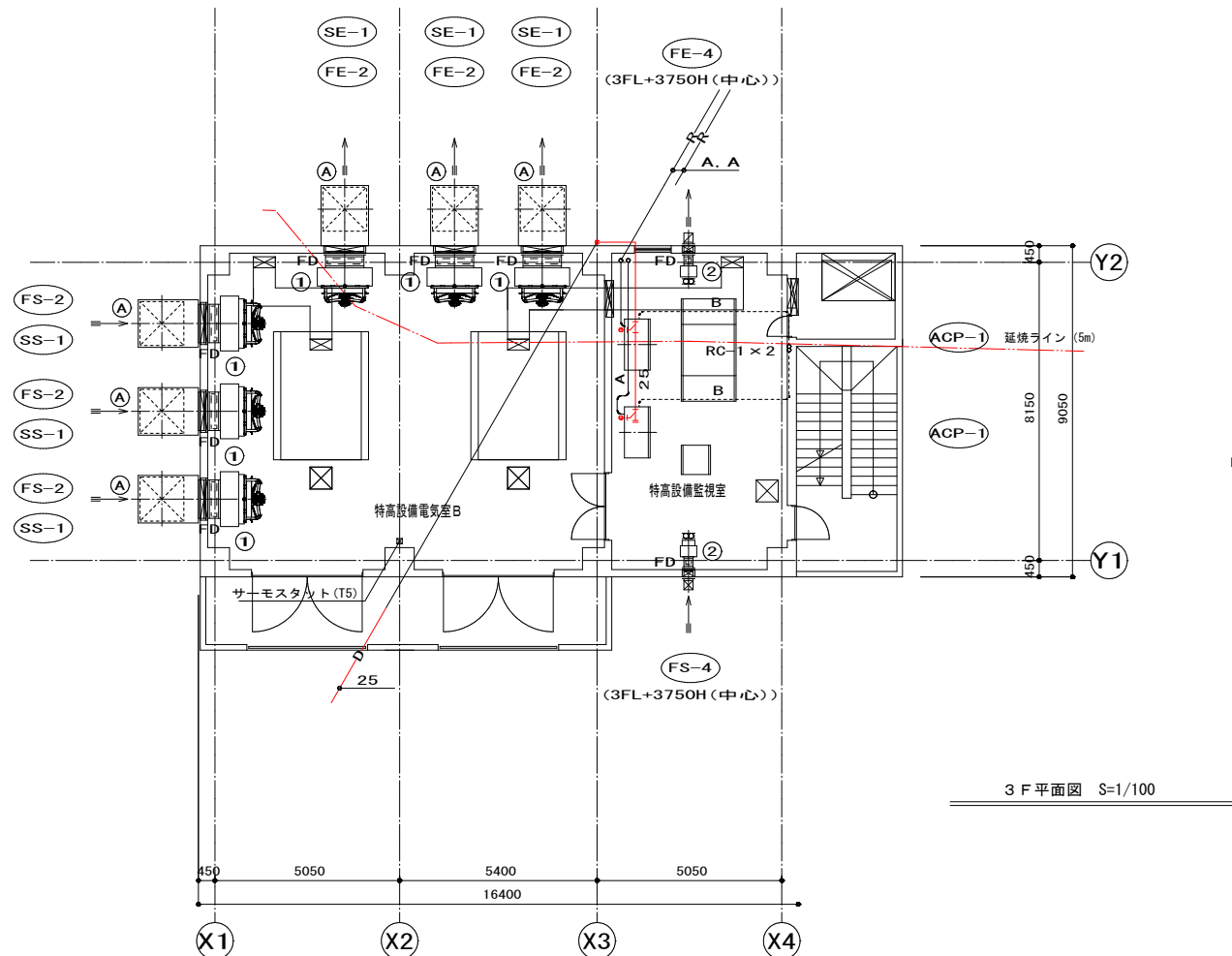
工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	特高変電室棟 換気設備 平面図 (1)		
作成年度	令和8年度		
縮尺	1/100	図面番号	AM-7
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



記号	名称	備考
RC-1	リモコンスイッチ	ACP付属品

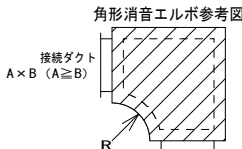
記号	摘要	備考
A	CU12. 7φ-6. 32φ	室内機-室外機 渡り線
	EM-EEF 2. 0mm-3C	(冷媒管共巻き)
B	EM-CEE 1. 25□-2C	ACP操作線

- 注記
- 冷媒管の屋外露出部分の保温外装は、SUSラッキング仕上げとする。
 - 露出・壁中及びスラブ内は、電線保護配管を使用する。
 - 電線サイズ及び冷媒管サイズは、参考値とする。

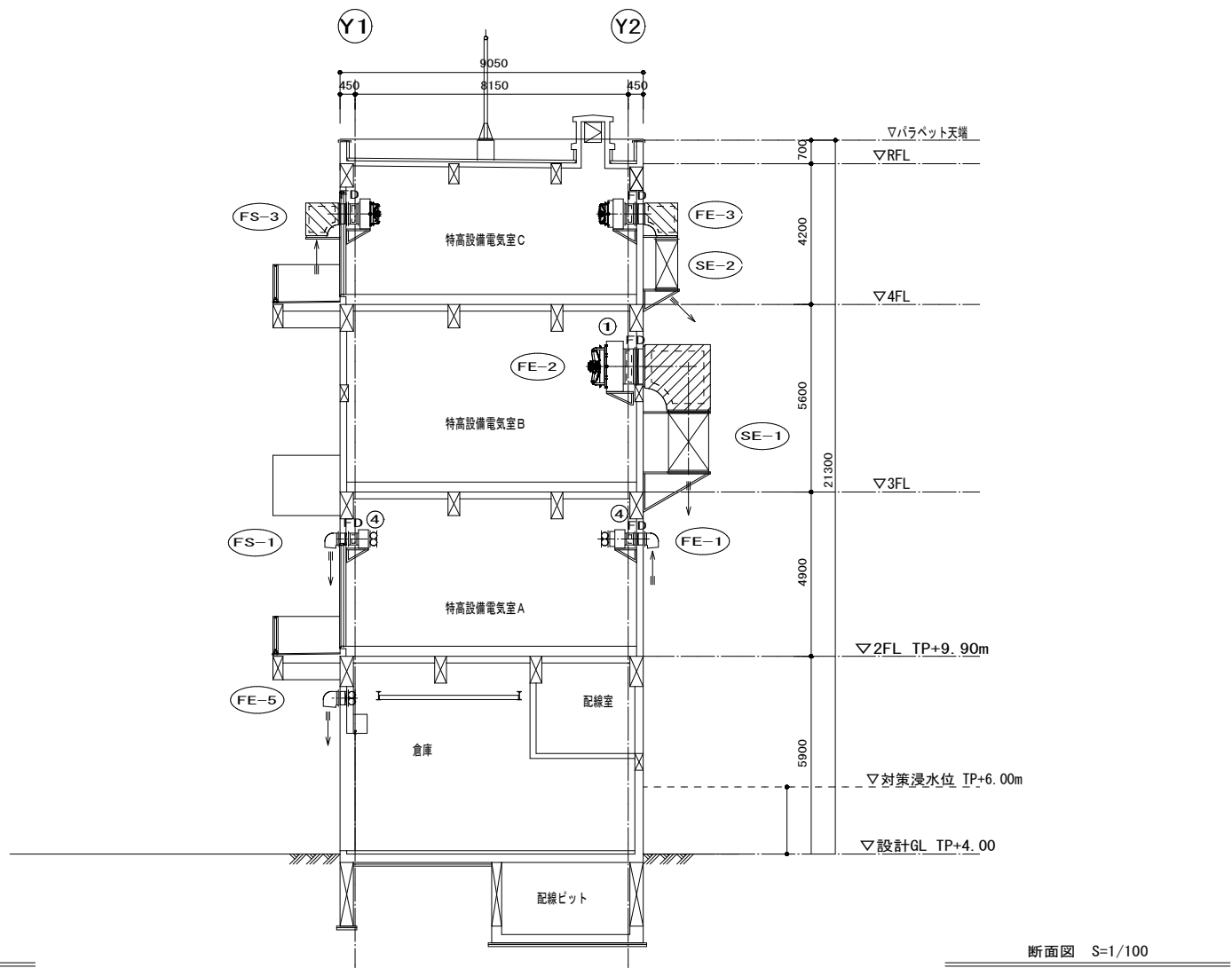
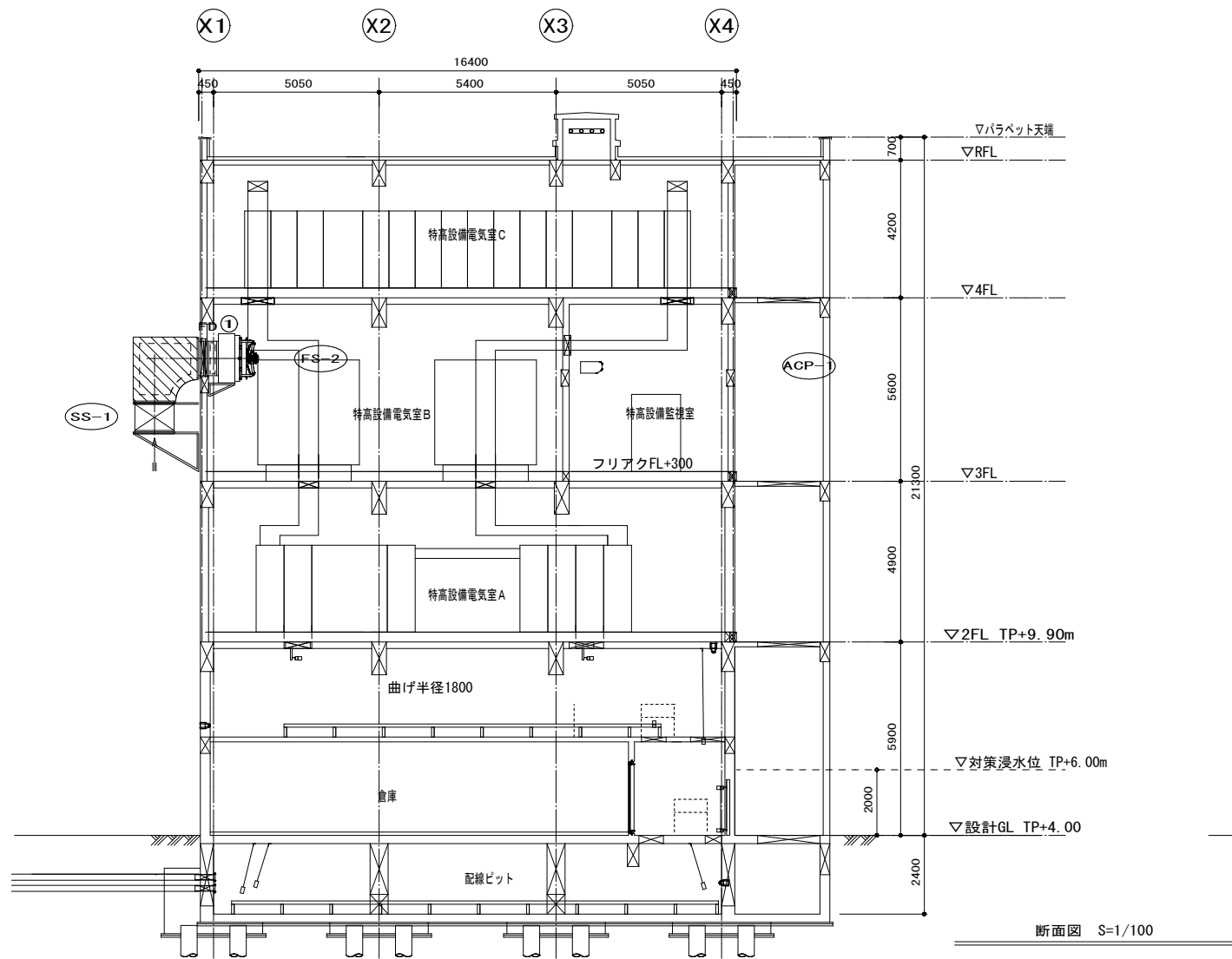


消音エルボサイズ表

記号	寸法 (mm)		内貼り GW50t (M・(□)・IX)	個数	材質
	A	B			
(A)	1200	1200	○	6	SUS製
(B)	600	600	○	2	SUS製



工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	特高変電室棟 換気設備 平面図 (2)		
作成年度	令和8年度		
縮尺	1/100	図面番号	AM-8
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

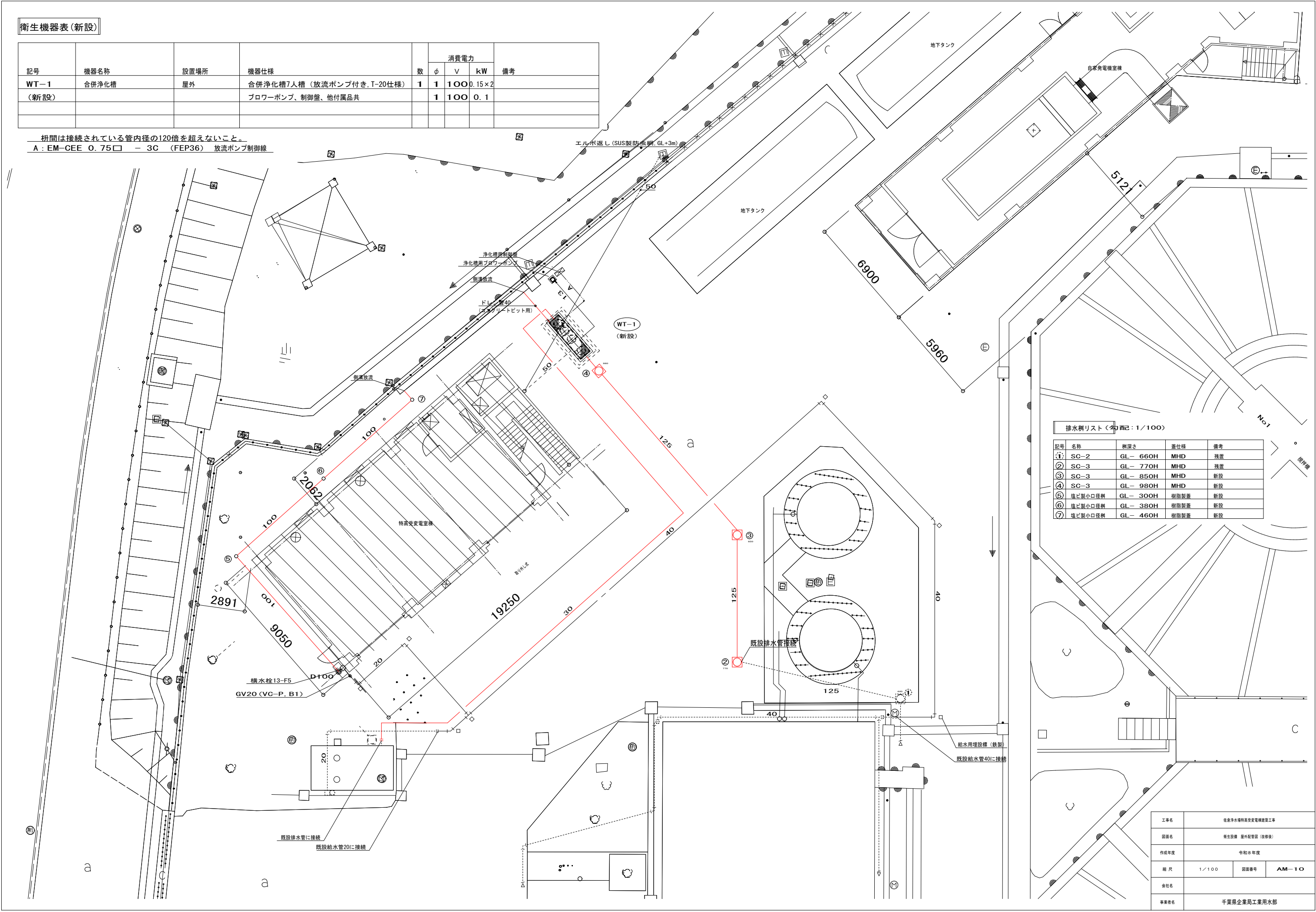


工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	特高変電室棟 換気設備 断面図		
作成年度	令和8年度		
縮尺	1/100	図面番号	AM-9
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

衛生機器表(新設)

記号	機器名称	設置場所	機器仕様	数	消費電力			備考
					φ	V	kW	
WT-1	合併浄化槽	屋外	合併浄化槽7人槽(放流ポンプ付き, T-20仕様)	1	1	100	0.15×2	
(新設)			ブローポンプ、制御盤、他付属品共		1	100	0.1	

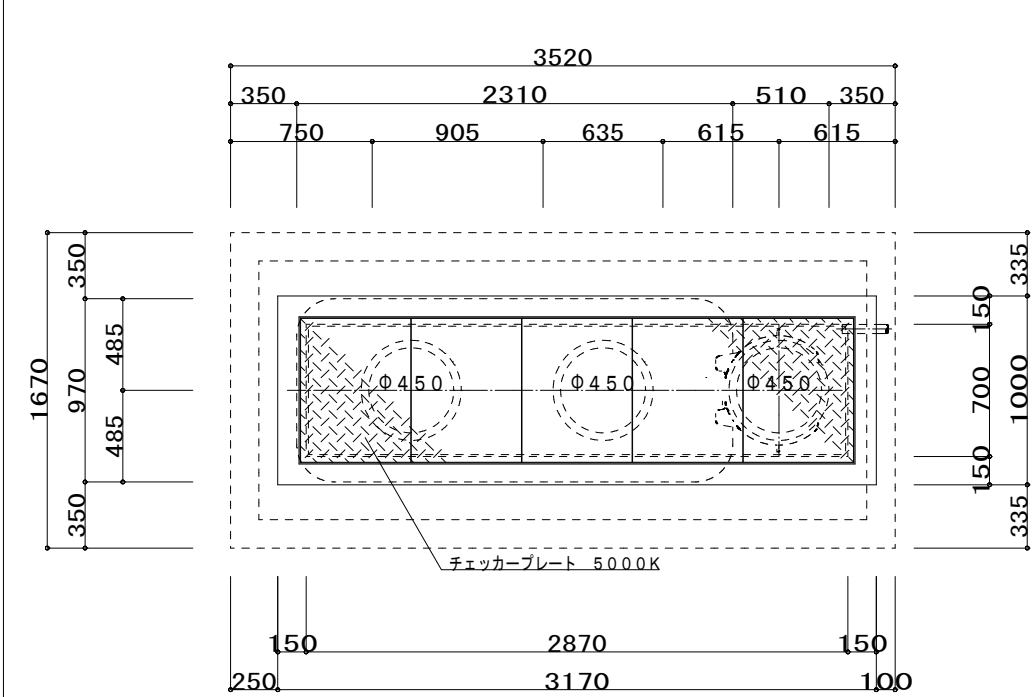
柵間は接続されている管内径の120倍を超えないこと。
A: EM-CEE 0.75□ - 3C (FEP36) 放流ポンプ制御線



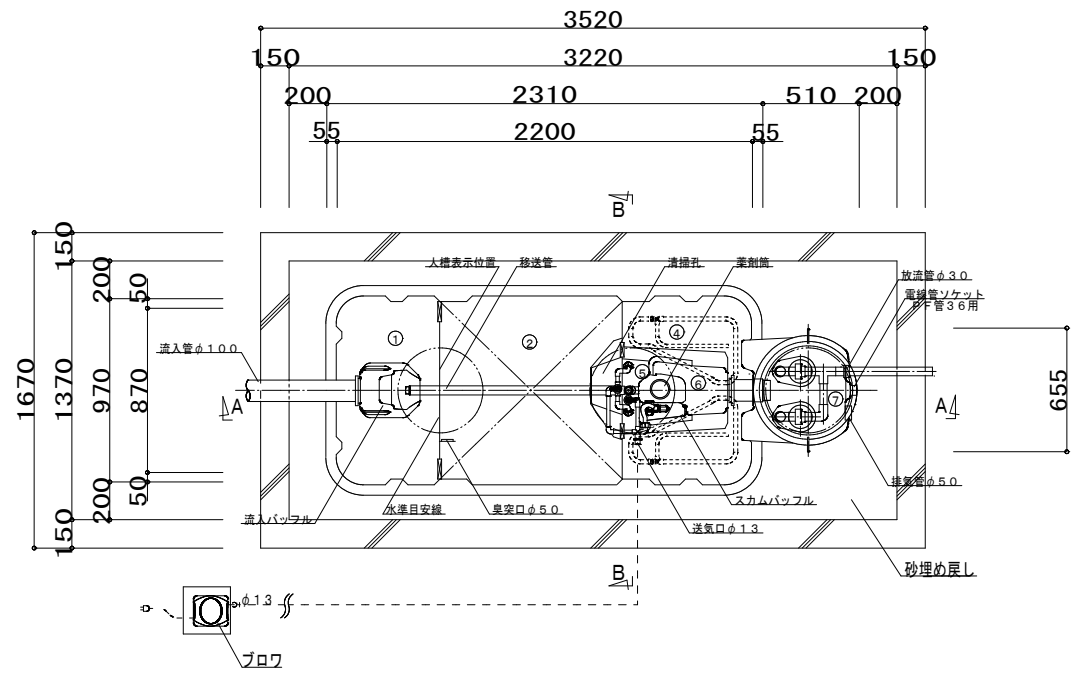
排水樹リスト(20西2: 1/100)

記号	名称	樹深さ	蓋仕様	備考
①	SC-2	GL- 660H	MHD	残置
②	SC-3	GL- 770H	MHD	残置
③	SC-3	GL- 850H	MHD	新設
④	SC-3	GL- 980H	MHD	新設
⑤	塩ビ製小口径樹	GL- 300H	樹脂製蓋	新設
⑥	塩ビ製小口径樹	GL- 380H	樹脂製蓋	新設
⑦	塩ビ製小口径樹	GL- 460H	樹脂製蓋	新設

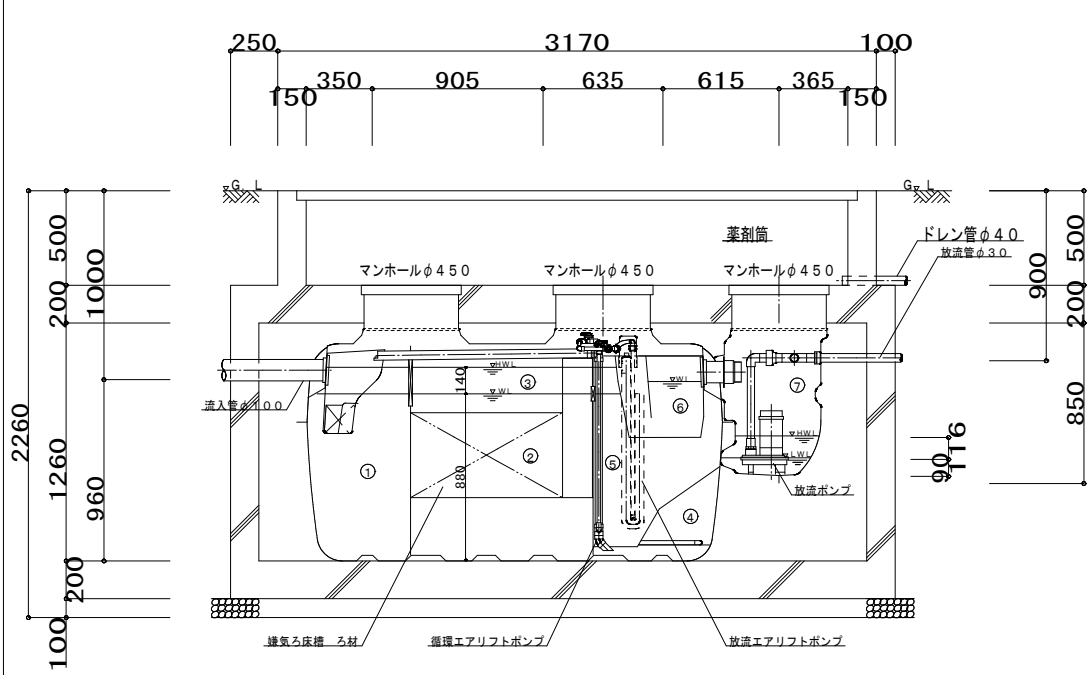
工事名	住居浄水場特高受変電機建築工事		
図面名	衛生設備 屋外配管図 (改修後)		
作成年度	令和8年度		
縮尺	1/100	図面番号	AM-10
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



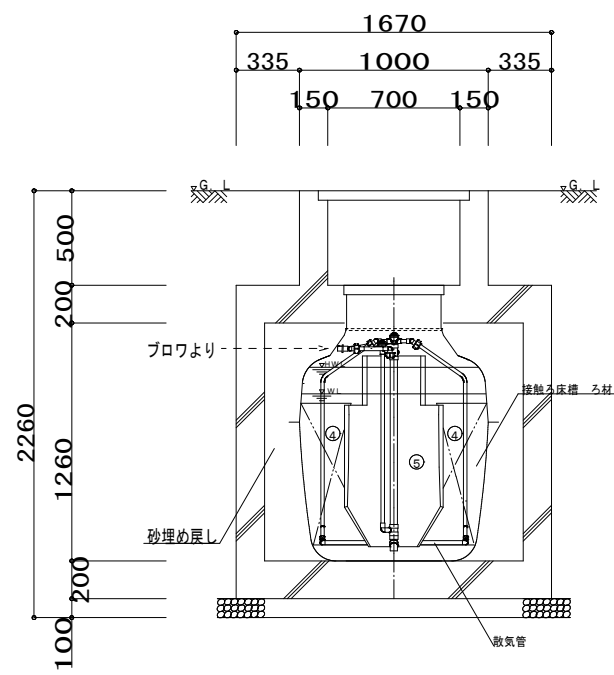
上部平面図 1/20



内部平面図 1/20



A-A断面図 1/20
浄化槽本体に200mmの嵩上げを取り付け



B-B断面図 1/20
浄化槽本体に200mmの嵩上げを取り付け

仕 様 表				
設計番号				
処理対象人員	7人			
汚水量	1. 40m ³ /d			
流入水質	BOD 200mg/L	COD 100mg/L	T-N 45mg/L	SS 160mg/L
放流水質	BOD 20mg/L	COD 30mg/L	T-N 20mg/L	SS 15mg/L
①	沈殿分離槽	有効容量	0. 405 m ³	
②	嫌気ろ床槽	有効容量	0. 764 m ³	
③	ピークカット部	有効容量	0. 259 m ³	
④	接触ろ床槽	有効容量	0. 333 m ³	
⑤	処理水槽	有効容量	0. 171 m ³	
⑥	消毒槽	有効容量	0. 021 m ³	
⑦	放流ポンプ槽	有効容量	0. 028 m ³	
総 容 量		有効容量	1. 953 m ³	
機 器 装 置 仕 様				
嫌気ろ床槽ろ材（網様円筒状）		PPまたはPE		
接触ろ床槽ろ材（網様ロール状）		PPまたはPE		
ブロウ	80 L／min	φ 13	連続運転	1台
放流ポンプ	80 L／min	130または150W	φ 30	自動交互運転 2台
槽本体	FRP			
パイプ類	PVC、PPまたはPE			
マンホール	鋳鉄（5000K）			
消毒剤	固形塩素剤			

配管仕様	
露出配管 (ブロウ廻り)	V P
土中配管	φ 40以下～V P・φ 50以上～V U
槽内配管	メーカー仕様

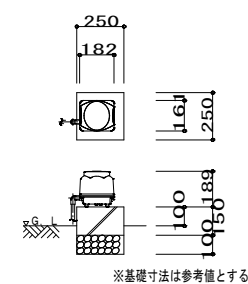
- 注1) 上部は10t車 (T-20) 荷重とする。
注2) 機器電源は単相100Vとする。
注3) 図中の“ G. L” は浄化槽位置での仕上げレベルを示す。
注4) 浄化槽からブロウまでの距離は5m以内とする。
注6) 臭突管接続する場合は嵩上げ必須となる。
注7) ブロウ付近にアース付きコンセント2口×2を設置のこと。

放流ポンプ槽配管仕様	
排気管	VU50
電線管	PFD36

- 注1) 放流ポンプ槽の排気管は必ず接続のこと。
注2) 排気管の放出部は、側溝の最大水位より100mm以上 (目安) 上部に設置のこと。
注3) 排気管は雨水配管や放流配管、他の汚水配管と絶対に合流接続しないこと。
注4) 排気管は途中で水溜りが起こるようなV字配管にしないこと。
注5) 電線管の両端はシリコンシーラントなどで必ずコーキング処理のこと。
注6) これらの処理を怠ると、浄化槽内で発生したガスが浄化槽内、および電線管の接続先付近に設置している設備・機器の金属類を腐食し、機器破損・障害の生ずるおそれがある。

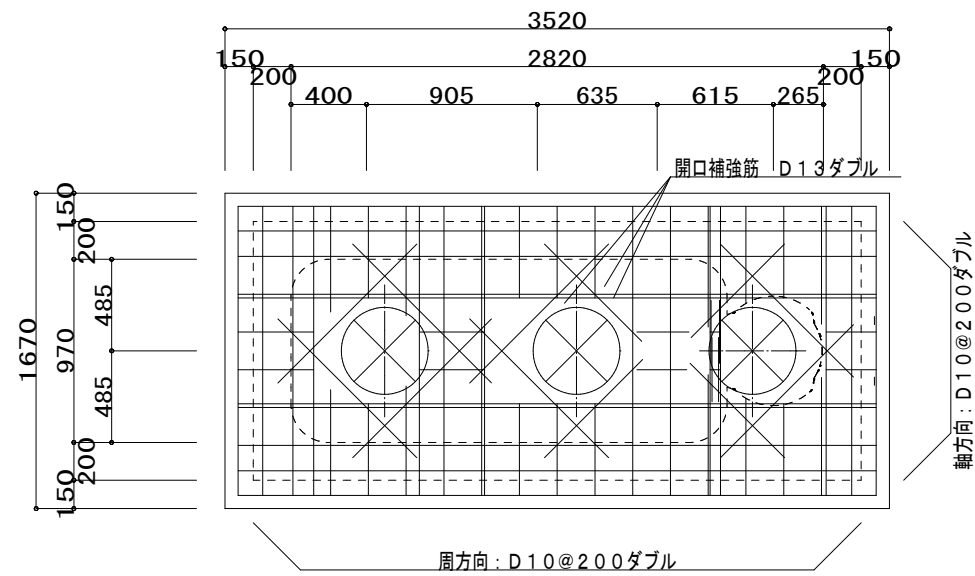
施工高さ範囲				
項 目	嵩上げ高さ	流入管底	放流管底	施工全高
最小寸法 (この図面)	130H	G. L-450	G. L-350	1710H
最大寸法	300H	G. L-620	G. L-520	1880H

- 注) 製品全高は、製品規格で+10、-20mmの公差がある。
流入・放流管底は、製品規格で製品全高に対し±10mmの公差がある。

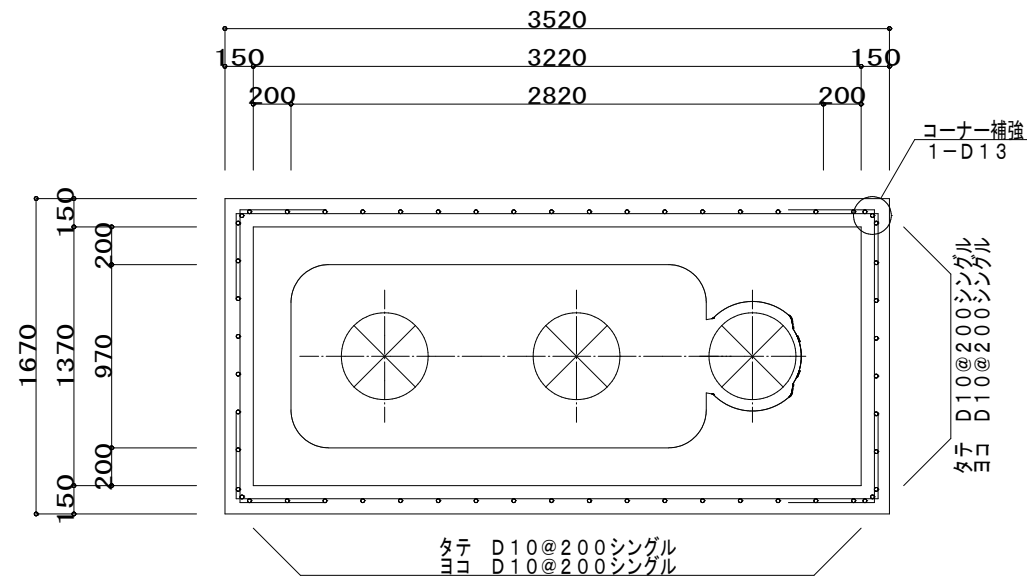


ブロウ 平・断面図 1/20

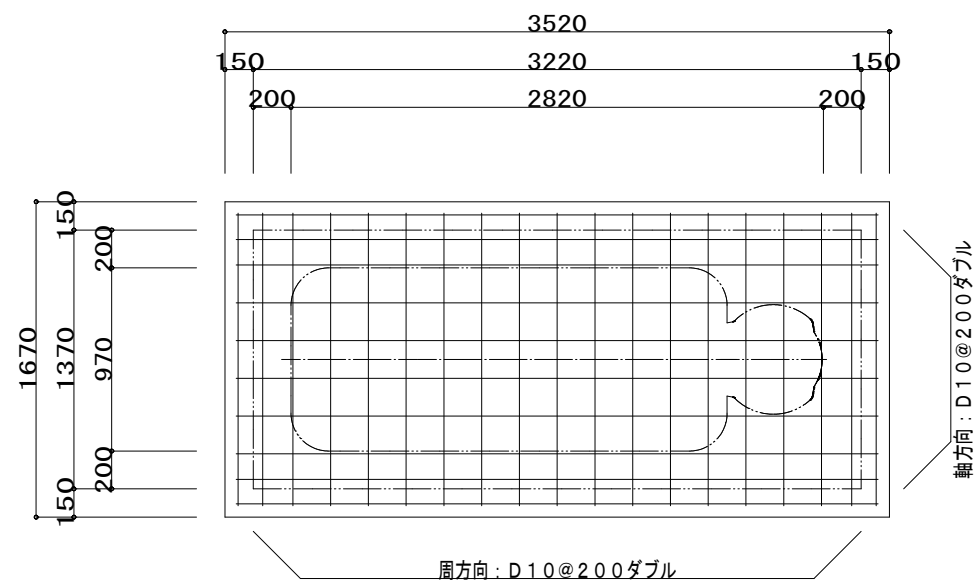
工事名	佐倉浄水場特別高圧受電設備更新実施設計委託		
図面名	衛生設備 浄化槽詳細参考図 (1) (改修後)		
作成年度	令和8年度		
縮 尺	1/20	図面番号	AM-11
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



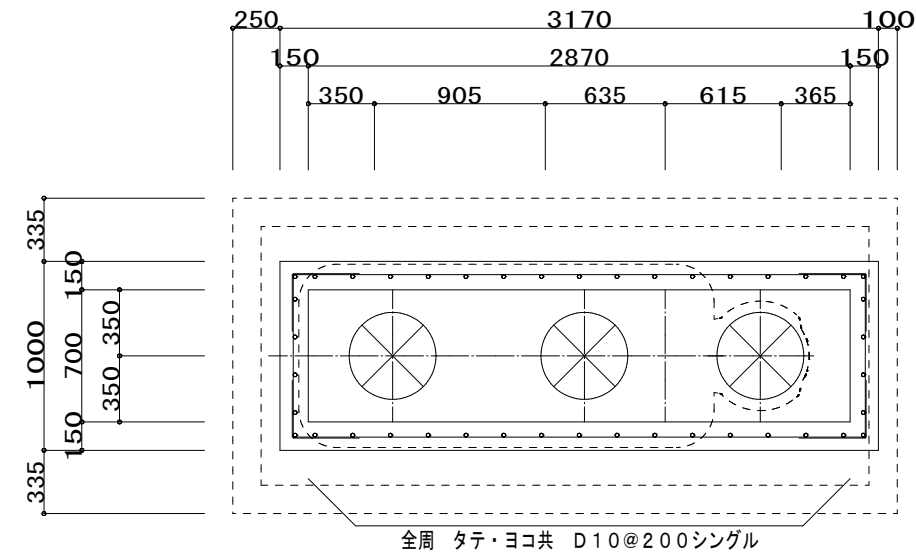
スラブ配筋図 S=1:20



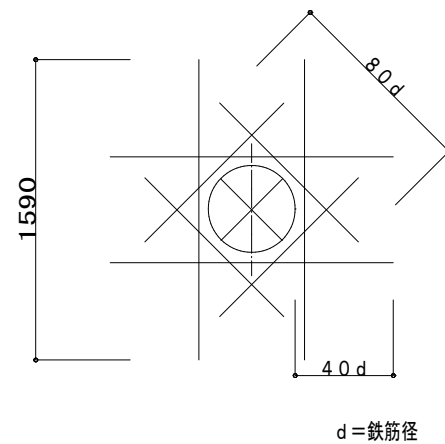
槽周囲壁配筋図 S=1:20



ベース配筋図 S=1:20



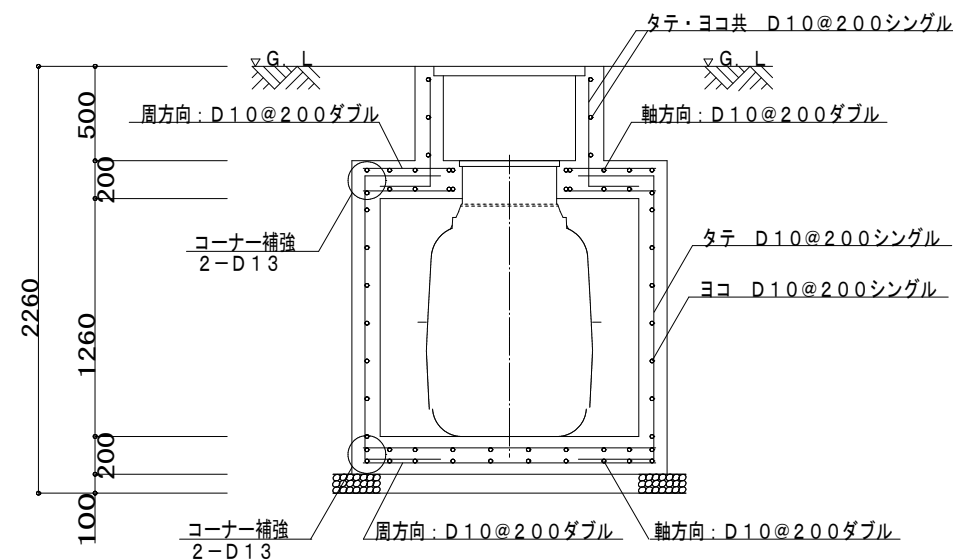
上部点検壁配筋図 S=1:20



開口補強筋詳細図
(ダイヤモンド補強: D13ダブル)

SDS2514A	
一般事項	
コンクリート	$F_c = 21 \text{ N/mm}^2$
鉄筋	SD295A
鉄筋かぶり	スラブ・壁 40
	ベース 60
定着及継手	40d
地業	砕石又はRC 40~0

- 注1) 上部は10t車(T-20)等分布荷重とする。
注2) 図中の" G. L" は浄化槽位置での仕上げレベルを示す。
注3) 地耐力は60kN/m²以上必要とする。
(実際の工事業者が確認後施工の事)
注4) 製品全高は、製品規格で+10、-20mmの公差があります。
流入・放流管底は、製品規格で製品全高に対し±10mmの公差があります。

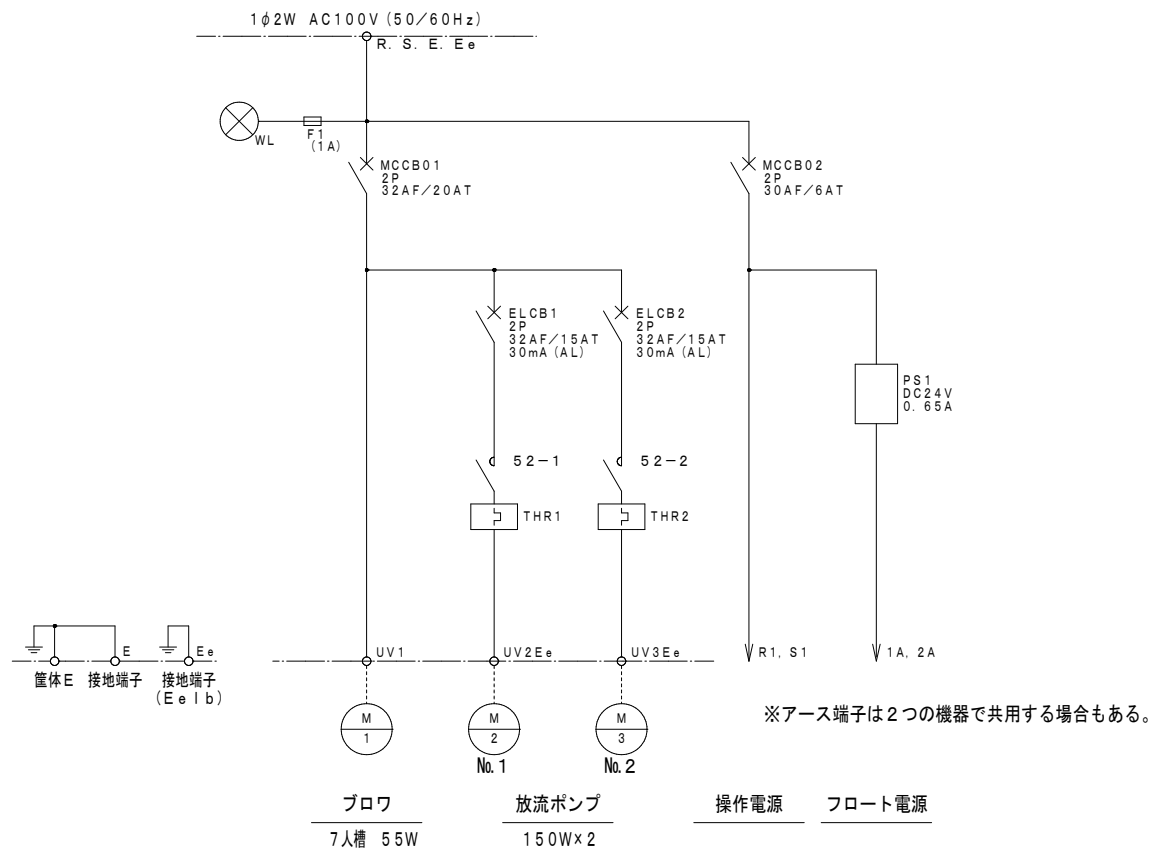


断面配筋図 S=1:20

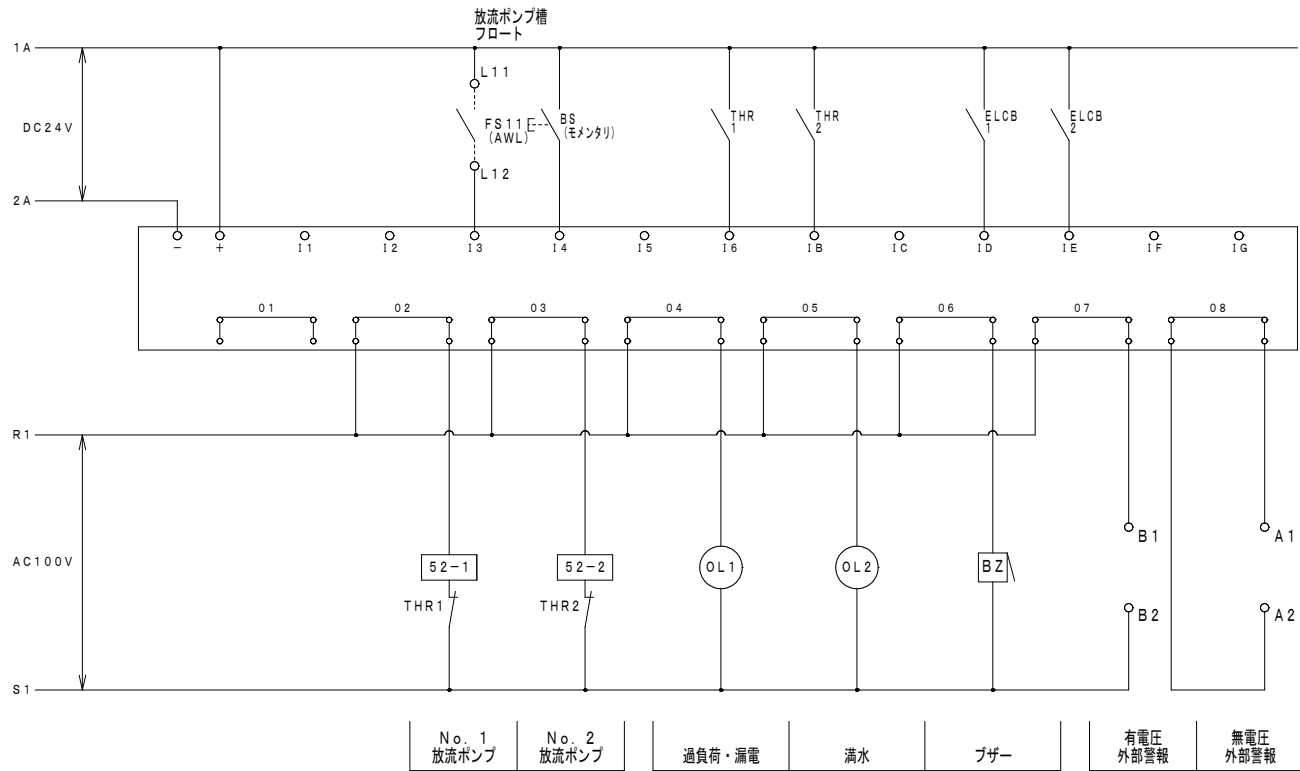
浄化槽本体に200mmの嵩上げを取り付け

工事名	佐倉浄水場特別高圧受電設備更新実施設計委託		
図面名	衛生設備 浄化槽詳細参考図 (2) (改修後)		
作成年度	令和8年度		
縮尺	1/20	図面番号	AM-12
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

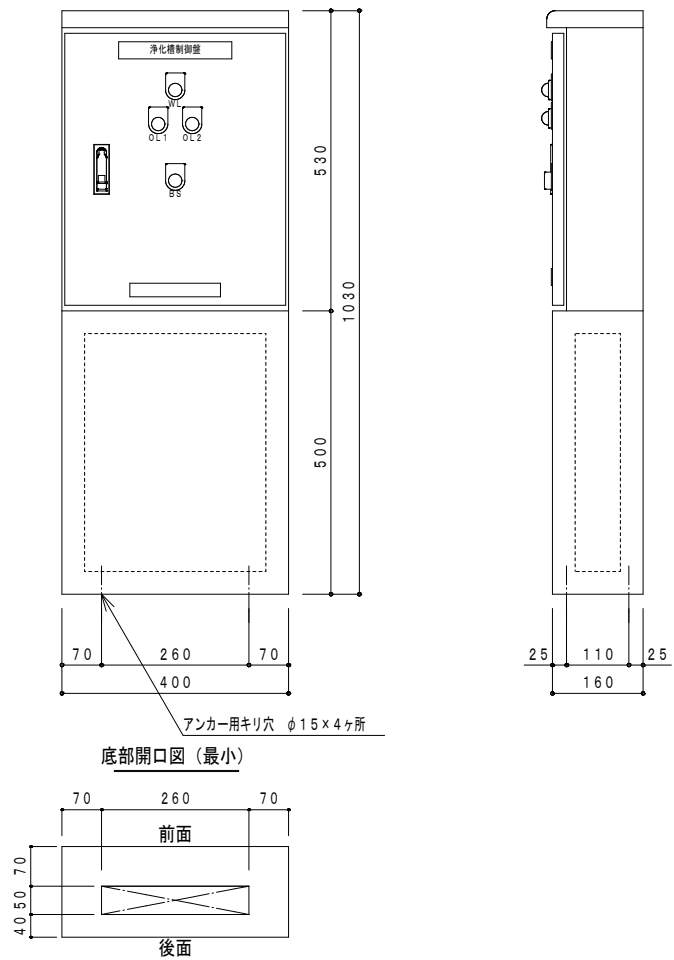
単線結線図



操作回路図



盤姿図



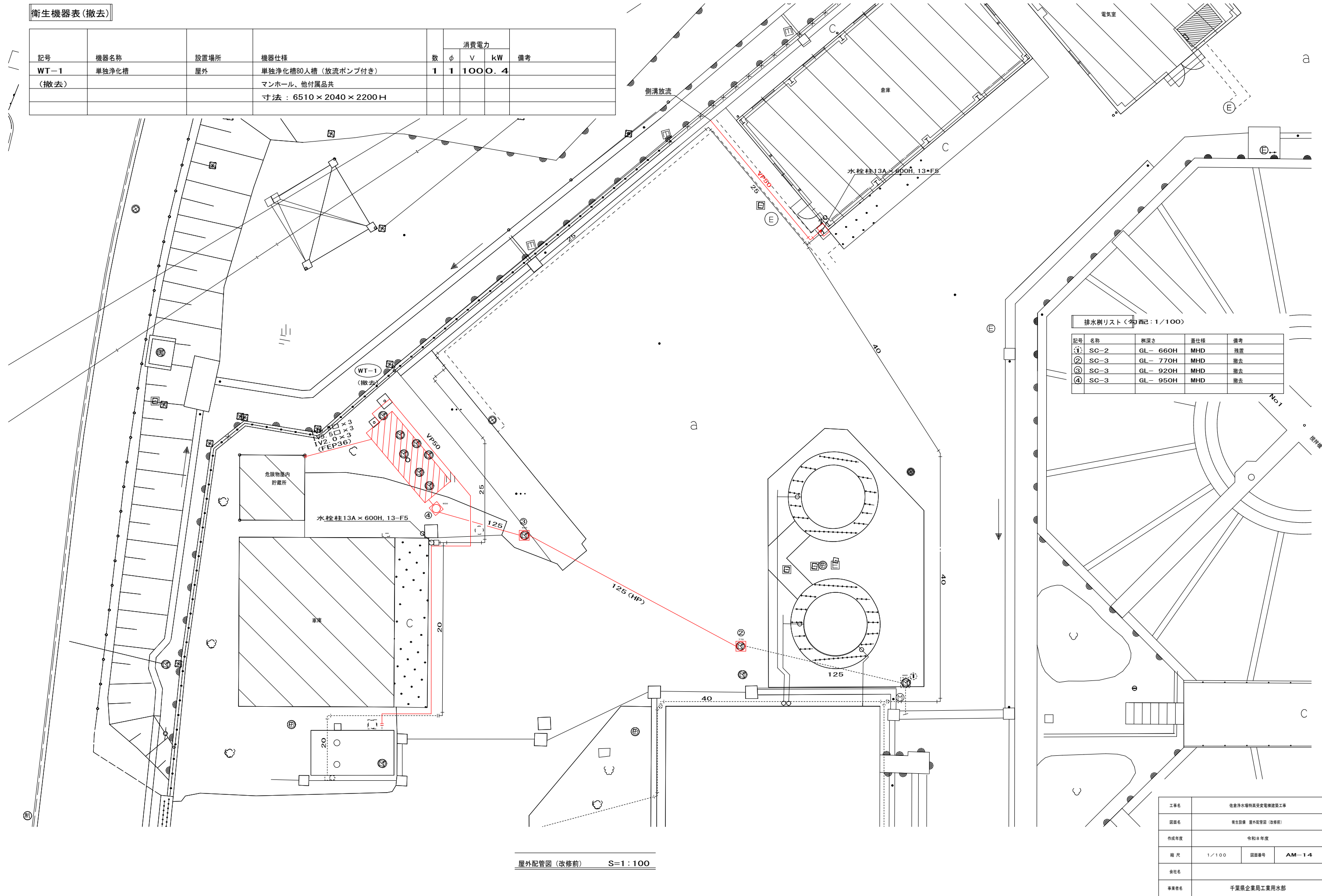
制御盤仕様

構造	水切、防水・防塵構造
板厚	本体 1.6t 扉 1.6t
塗装	外面 マンセル5Y7/1 内面 マンセル5Y7/1

工事名	住倉浄水場特異安全電機建設工事		
図面名	衛生設備 浄化槽詳細参考図 (3) (改修後)		
作成年度	令和8年度		
縮尺	—	図面番号	AM-13
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

衛生機器表(撤去)

記号	機器名称	設置場所	機器仕様	数	消費電力			備考
					φ	V	kW	
WT-1	単独浄化槽	屋外	単独浄化槽80人槽(放流ポンプ付き)	1	1	1000	4	
(撤去)			マンホール、他付属品共					
			寸法: 6510×2040×2200H					



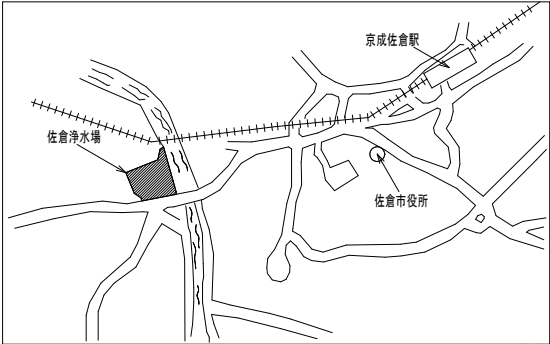
排水樹リスト(参考: 1/100)

記号	名称	樹深さ	蓋仕様	備考
①	SC-2	GL- 660H	MHD	残置
②	SC-3	GL- 770H	MHD	撤去
③	SC-3	GL- 920H	MHD	撤去
④	SC-3	GL- 950H	MHD	撤去

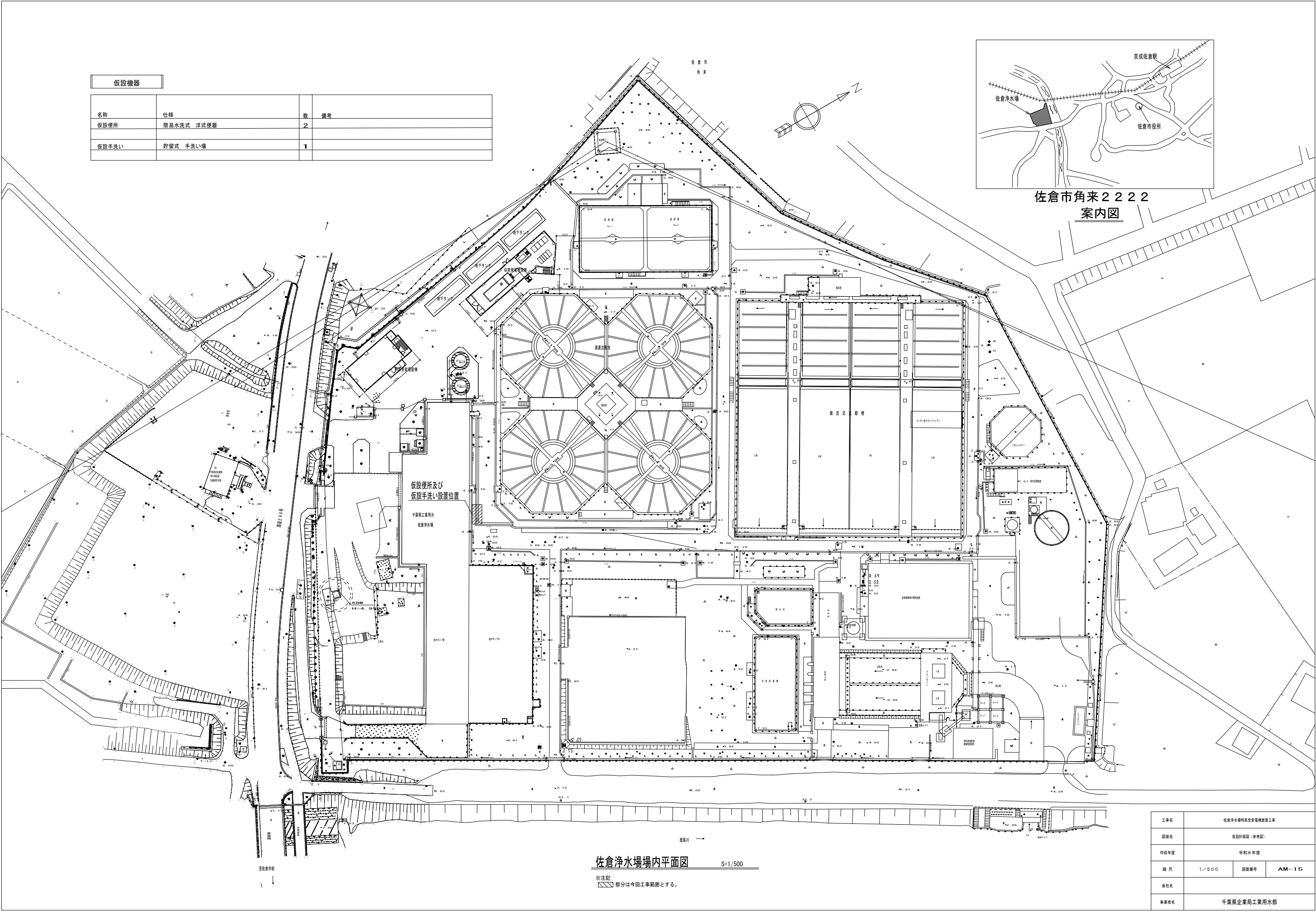
屋外配管図(改修前) S=1:100

工事名	住倉浄水場特異安全電機建築工事		
図面名	衛生設備 屋外配管図(改修前)		
作成年度	令和8年度		
縮尺	1/100	図面番号	AM-14
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

仮設機器			
名称	仕様	数	備考
仮設便所	簡易水洗式 洋式便器	2	
仮設手洗い	貯留式 手洗い場	1	



佐倉市角来2222
案内図



佐倉浄水場場内平面図 S=1/500
※注記
▨ 部分は今回工事範囲とする。

工事名	佐倉浄水場特異安全設備設置工事		
図面名	仮設計画図（参考図）		
作成年度	令和8年度		
縮尺	1/500	図面番号	AM-15
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

[illegible]

項	目	特 記 事 項																																																																		
		2)接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 3)接着剤は、可塑剤(フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く)が添加されていない材料を使用する。 4) 1)の材料を使用して作られた資具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。																																																																		
		2.設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分においては、「規制対象外」とは、次の1)又は2)に該当する材料を指し、同区分第三種」とは次の3)又は4)に該当する材料を指す。 1)建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築物以外の材料 2)建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 3)建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築物材料 4)建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料																																																																		
※	ワンデーレスポンス	本工事は、ワンデーレスポンス対象工事である。 「ワンデーレスポンス」とは受注者からの質問、協議への回答は、基本的に、「その日のうち(24時間以内)」に回答すると予め対応することである。 ただし、即日回答が困難な場合は、いつまでに回答が必要なのかを受注者に確認の上、回答期限を設けるなど、何らかの回答を「その日のうち」にすることとする。 1)受注者は、施工計画に基づいて適正な計画工程を作成し、工事の先々を見直しながら施工すること。 2)受注者は工事施行中において、問題が発生した場合及び計画工程と実施工程を比較照査し、差異が生じる恐れがある場合は、原因を究明するとともに速やかに文書にて監督職員へ報告すること。																																																																		
※	適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には、次の条件を用いる。 ● 風圧力 風速 (V ₀ = 36 m/s) 地表面粗度区分 (○Ⅰ ○Ⅱ ●Ⅲ ○Ⅳ) ○ 積雪荷重 建設省告示第145号における区域 別表 ()																																																																		
●	材料・機材の品質等	1.本工事に使用する材料・機材等は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 2.下記の表に機材名が記載された製造業者等は、次の 1)から 6)までの全ての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承認を受ける。ただし、製造業者名等が記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。 1)品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 2)生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 3)安定的な供給が可能であること。 4)法令等で定めがある場合は、その許可、認可、認定又は免許を取得していること。 5)製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 6)販売、保守等の営業体制が整えられていること。 (表)																																																																		
		<table border="1"><thead><tr><th>機</th><th>材</th><th>等</th></tr></thead><tbody><tr><td>●</td><td>LED照明（一般屋内用に限る。）</td><td></td></tr><tr><td>○</td><td>照明制御装置</td><td></td></tr><tr><td>○</td><td>可変速度運転インバータ装置</td><td></td></tr><tr><td>●</td><td>分電盤</td><td></td></tr><tr><td>●</td><td>制御盤</td><td></td></tr><tr><td>○</td><td>キュービクル式配電盤</td><td></td></tr><tr><td>○</td><td>高圧スイッチギヤ(W形)</td><td></td></tr><tr><td>○</td><td>高圧スイッチギヤ(P形)</td><td></td></tr><tr><td>○</td><td>高圧交流遮断器</td><td></td></tr><tr><td>○</td><td>高圧連相コンデンサ</td><td></td></tr><tr><td>○</td><td>高圧限流ヒューズ</td><td></td></tr><tr><td>○</td><td>高圧負荷開閉器</td><td></td></tr><tr><td>○</td><td>高圧変圧器(特定機種)</td><td></td></tr><tr><td>○</td><td>交流無停電電源装置</td><td></td></tr><tr><td>○</td><td>太陽光発電装置(パワーコンディショナ及び系統連系保護装置)</td><td></td></tr><tr><td>○</td><td>監視カメラ装置</td><td></td></tr><tr><td>○</td><td>中央監視機器(監視制御装置)</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> (表記以外に品質等の確認が必要な機材がある場合は記載する。)	機	材	等	●	LED照明（一般屋内用に限る。）		○	照明制御装置		○	可変速度運転インバータ装置		●	分電盤		●	制御盤		○	キュービクル式配電盤		○	高圧スイッチギヤ(W形)		○	高圧スイッチギヤ(P形)		○	高圧交流遮断器		○	高圧連相コンデンサ		○	高圧限流ヒューズ		○	高圧負荷開閉器		○	高圧変圧器(特定機種)		○	交流無停電電源装置		○	太陽光発電装置(パワーコンディショナ及び系統連系保護装置)		○	監視カメラ装置		○	中央監視機器(監視制御装置)													
機	材	等																																																																		
●	LED照明（一般屋内用に限る。）																																																																			
○	照明制御装置																																																																			
○	可変速度運転インバータ装置																																																																			
●	分電盤																																																																			
●	制御盤																																																																			
○	キュービクル式配電盤																																																																			
○	高圧スイッチギヤ(W形)																																																																			
○	高圧スイッチギヤ(P形)																																																																			
○	高圧交流遮断器																																																																			
○	高圧連相コンデンサ																																																																			
○	高圧限流ヒューズ																																																																			
○	高圧負荷開閉器																																																																			
○	高圧変圧器(特定機種)																																																																			
○	交流無停電電源装置																																																																			
○	太陽光発電装置(パワーコンディショナ及び系統連系保護装置)																																																																			
○	監視カメラ装置																																																																			
○	中央監視機器(監視制御装置)																																																																			
※	工事用水	構内の既存施設 ○ 利用できない ○ 利用できる(○ 有償 ○ 無償)																																																																		
※	工事用電力	構内の既存施設 ○ 利用できない ○ 利用できる(○ 有償 ○ 無償)																																																																		
※	監督監理事務所	○ 設ける ○ 設けない																																																																		
※	工事用仮設物	構内につくることが ○ できる ○ できない																																																																		
※	官公署等への手続	工事に必要な官公署への手続きは受注者が代行し、速やかに行う。																																																																		
※	足場その他	○ 別契約の関係受注者が指定したものは、無償で使用できる。(○ 機械設備工事 ○ 建築工事 で設置する。) ○ 本工事で設置する。 「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの附録1「手すり先行工法による足場の組立て等の作業に関する基準」における2の(1)手すり設置方式又は(2)手すり先行専用足場方式により行う。 ○ 内部足増等(○ 種 ○ 種) ○ 外部足増等(○ 種 ○ 種)																																																																		
※	総合試運転調整	○ 本工事 ○ 別途 調整項目（確認方法等は監督職員の指示による。） ○ 受変電設備及び発電設備の停復電による運動動作等の確認 ○ 火災報知設備と連動する防火戸、ダンパー等の運動動作等の確認																																																																		
※	工事写真	国土交通省大臣官庁官房官営部制定の「営繕工事写真撮影要領(令和5年版)」による。																																																																		
※	設計図CADデータ	設計図CADデータ : ○ 貸与する ○ 貸与しない 貸与する設計図CADデータを当該工事の施工图または完成図の作成以外の目的に使用してはならない。																																																																		

項目	特記事項																							
● 一般事項 ※ 電子納品	1. 本工事は、電子納品の対象工事である。 電子納品は、「千葉県登録建築士に係る電子納品運用ガイドライン【登録工事編】令和4年1月版」（以下、「ガイドライン」という。）に基づいて行う。 2. 工事完成検査時には、（公財）千葉県建設技術センター（以下、「センター」という。）から発行される「千葉県電子媒体（副本）納品事前受付書」を提示すること。 3. 工事完成検査後は、速やかに電子媒体部と「千葉県電子媒体（副本）納品事前受付書」をセンターに送付すること。その後、センターから発行される「千葉県電子媒体（副本）受領書」を監督職員に提出すること。なお、電子成果品は工事請負契約書第45条の対象とし、電子データに不備が確認された場合は、受注者は修正作業を行わなければならない。 4. 「ガイドライン」の解釈に疑義がある場合は、監督職員と協議の上で決定すること。																							
※ 完成時の提出図書等	工事完成時の提出図書等は以下のものとする。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>提出図書</th><th>仕 様</th><th>部数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 完成図面</td><td>○ 図面（A1版）折りたたみ製本 ○ 図面（A1版）見開き製本</td><td>○ A4版 ○ 版</td><td>○ 1部 ○ 部</td></tr> <tr> <td>○ 工事関係図書</td><td>本工事に作成した工事関係書類等をまとめたもの</td><td></td><td>○ 1部 ○ 部</td></tr> <tr> <td>○ 完成写真</td><td>○ キャビネット ○ 撮影箇所</td><td>○ 箇所 ○ 箇所</td><td>○ 1部 ○ 部</td></tr> <tr> <td>○ 保全に関する資料</td><td>○ 建築物等の利用に関する説明書 ○ 機器取扱い説明書 ○ 機器性能試験成績書 ○ 官公署届出書類 ○ 総合計画監別添報告書 建築物等の利用に関する説明書は「建築物等の利用に関する説明書作成の手引き」に基づき作成すること。</td><td></td><td>○ 2部 ○ 部</td></tr> <tr> <td>○ 電子成果品</td><td>電子納品による</td><td></td><td>○ 2部 ○ 部</td></tr> </tbody> </table>	提出図書	仕 様	部数	○ 完成図面	○ 図面（A1版）折りたたみ製本 ○ 図面（A1版）見開き製本	○ A4版 ○ 版	○ 1部 ○ 部	○ 工事関係図書	本工事に作成した工事関係書類等をまとめたもの		○ 1部 ○ 部	○ 完成写真	○ キャビネット ○ 撮影箇所	○ 箇所 ○ 箇所	○ 1部 ○ 部	○ 保全に関する資料	○ 建築物等の利用に関する説明書 ○ 機器取扱い説明書 ○ 機器性能試験成績書 ○ 官公署届出書類 ○ 総合計画監別添報告書 建築物等の利用に関する説明書は「建築物等の利用に関する説明書作成の手引き」に基づき作成すること。		○ 2部 ○ 部	○ 電子成果品	電子納品による		○ 2部 ○ 部
提出図書	仕 様	部数																						
○ 完成図面	○ 図面（A1版）折りたたみ製本 ○ 図面（A1版）見開き製本	○ A4版 ○ 版	○ 1部 ○ 部																					
○ 工事関係図書	本工事に作成した工事関係書類等をまとめたもの		○ 1部 ○ 部																					
○ 完成写真	○ キャビネット ○ 撮影箇所	○ 箇所 ○ 箇所	○ 1部 ○ 部																					
○ 保全に関する資料	○ 建築物等の利用に関する説明書 ○ 機器取扱い説明書 ○ 機器性能試験成績書 ○ 官公署届出書類 ○ 総合計画監別添報告書 建築物等の利用に関する説明書は「建築物等の利用に関する説明書作成の手引き」に基づき作成すること。		○ 2部 ○ 部																					
○ 電子成果品	電子納品による		○ 2部 ○ 部																					
※ 引渡しを要するもの	○ なし ○ あり（ ） 特別管理産業廃棄物 ○ なし ○ あり（P8使用機器： ） P8使用機器は関係法令により適切に処理し、建物管理者に引き渡す。																							
※ 建設副産物の処理等	1. 共通事項 1) 「千葉県建設リサイクル推進計画2016ガイドライン」に基づき、本工事に係る「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を「建設副産物情報交換システム（コプルス・プラス）」により作成し、施工計画に含め各1部提出すること。 また、計画の実施状況（実績）については、「再生資源利用実施書」及び「再生資源利用促進実施書」並びに「建設副産物情報交換システム工事登録証明書」を同システムにより作成し、各1部提出するとともに、これらの記録を工事完成後一年間保存しておくこと。 ◎作成対象工事 「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」は請負金額が、「再生資源利用実施書」及び「再生資源利用促進実施書」並びに「建設副産物情報交換システム工事登録証明書」は最終請負金額が100万円以上の全ての工事について建設資材の利用、建設副産物の発生・搬出の有無にかかわらず作成する。 2) 「建設副産物の処理基準及び再生資材の利用基準」に基づき、建設副産物の処理に先立ち、「建設副産物処理承認申請書」を作成し、監督職員の確認を受け、同申請書を1部提出すること。なお、建設副産物の処理を委託する場合は、収集運搬又は処分について許可業者と各々建設副産物処理契約を締結し、「建設副産物処理委託契約書」を監督職員に提示するとともに、同契約書の写しを同申請書に添付すること。 建設副産物の処理完了後速やかに、「建設副産物処理調査」を作成し、1部提出するとともに、実際に要した処理費等を証明する資料（受入票、写真等）を監督職員に提示し確認を受けること。 3) 建設副産物の処理に当たって、産業廃棄物管理票制度に基づく紙マニフェスト方式による場合は、原則として複写式伝票のD票及びE票を提示することとする。 また、電子マニフェスト方式による場合は、原則として廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき指定された情報処理センターが発行する当該工事のマニフェスト情報を提示すること。 2. 建設発生土 1) 指定（A）（工事間利用）の場合 本工事により発生する建設発生土のうち、下記に示す建設発生土については、工事間利用を図るものとし、下記指定地に搬出すること。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ア 搬出先（相手先工事名、場所等）</th><th>工事</th><th>市</th><th>町</th><th>地先</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>イ 土質及び処理量</td><td>第 種建設発生土</td><td>m³</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>ウ 搬出時期</td><td>年 月 年 月</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> なお、搬出手続き等は監督職員の指示によること。 2) 指定（A）（その他の場合） 建設発生土（ m³）は、 地先に搬出するものとする。 なお、詳細については監督職員の指示によるものとする。 3) 指定（B）の場合 建設発生土（ m³）は、片道運搬距離 kmに搬出するものとする。 3. 路盤廃材 本工事により発生する 路盤廃材（ t）は 市 町地先、片道運搬距離 kmの に運搬し、処理するものとする。 4. 建設廃棄物 本工事により発生する 1) アスコン塊（ t）は 市 町地先、片道運搬距離 kmの に搬出し、処理するものとする。 （※ 中間処理場・最終処分場） 2) コンクリート塊（ t）は 市 町地先、片道運搬距離 kmの に搬出し、処理するものとする。 （※ 中間処理場・最終処分場） 3) 建設発生木材（ t）は 市 町地先、片道運搬距離 kmの に搬出し、処理するものとする。 （※ 中間処理場・最終処分場） 4) 建設汚泥（ t）は 市 町地先、片道運搬距離 kmの に搬出し、処理するものとする。 （※ 中間処理場・最終処分場） 5) （ ）は 市 町地先、片道運搬距離 kmの に搬出し、処理するものとする。 （※ 中間処理場・最終処分場） 6) （ ）は 市 町地先、片道運搬距離 kmの に搬出し、処理するものとする。 （※ 中間処理場・最終処分場） 7) （ ）は 市 町地先、片道運搬距離 kmの に搬出し、処理するものとする。 （※ 中間処理場・最終処分場） なお、運搬に先立ち受け入れ条件等を確認し、監督職員に報告するものとする。 工事発注後、事情により上記の指定処理により難しい場合は、監督職員と協議するものとする。	ア 搬出先（相手先工事名、場所等）	工事	市	町	地先	イ 土質及び処理量	第 種建設発生土	m ³			ウ 搬出時期	年 月 年 月											
ア 搬出先（相手先工事名、場所等）	工事	市	町	地先																				
イ 土質及び処理量	第 種建設発生土	m ³																						
ウ 搬出時期	年 月 年 月																							

項目	特記事項
5. 再生処理土	1) 指定 (A) (工事間利用) の場合 本工により再生処理した処理土のうち、下記に示す処理土については、工事間利用を図るものとし、下記指定地に搬出すること。 イ 搬出先 (相手先工事名、場所等) エ 土質及び処理量 ウ 搬出時期 なお、搬出手続き等は監督職員の指示によること。また、建設汚泥の再生利用にあたっては、平成18年6月12日付国土交通事務次官通知「建設汚泥の再生利用に関するガイドライン」等に基づき、適正に処理すること。
留意事項	
1. 利用先の確保	建設発生土情報交換システム (コプリス・プラス) を活用して、建設発生土と同様、積極的に工事間流通により利用先の確保に努める。
2. 中間処理施設の選定	中間処理施設の選定に当たっては、利用先の品質要件にあう発生処理土を確保するため、他砂土と混ざらないようにいかに再生処理できるかが大きな要素となる。このため、経済性を含めて総合的に判断する必要がある。 また、リサイクル原則化ルールに基づき、建設副産物情報交換システム (コプリス・プラス) の登録処理業者を活用して、50km範囲で検索する。
3. 品質・安全性の確保	処理土の品質・安全性を確認するため、土質試験、土壌分析試験などを行う。
4. 一時保管	利用先との工程調整のため一時保管する場合には、廃棄物処理法等の手続きが必要となるのに注意する。
※ 建設発生土の処理	〇 埋め戻し後の建設発生土は、監督職員が指示する構内の場所に敷きならしとする。 〇
※ 環境への配慮	1. 千葉県で定める「環境配慮物品調達方針」に基づき環境に配慮した物品を優先的に使用する。 2. 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」の特定調達品目の判断基準は「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」(令和7年1月28日変更閣議決定) による。 3. 環境物品等の調達の推進に関する基本方針における公共工事の配慮事項(「資材(材料及び構材を含む)の梱包及び容器は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。」)に留意すること。
※ 環境配慮方針	建設機械は、排出ガス対策型、低騒音型の建設機械を使用すること。
※ 化学物質の濃度測定	〇 施工完了時に室内空気中の揮発性有機化合物の濃度を測定し、報告すること。 〇 ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、ステレン 〇 パラジクロロベンゼン (用途が学校の場合、上記項目に追加する。) 測定はバッチ型採集機器により行う。 着工前の測定 〇 行わない 〇 行う 測定対象室 〇 図示 〇 () 測定箇所数 〇 図示 〇 () 測定値が厚生労働省指値を超えた場合は、発熱後再測定し報告書を提出すること。
※ 保険	本工事については、工事目的物及び工事材料を次に示す内容で火災保険、組立保険その他の保険に附すること。 1) 被保険者 発注者、受注者及びその全下請負人 2) 保険金額 請負代金全額 3) 保険期間 工事着手のときから工事引渡しまでの期間 なお、保険契約を締結したときは、その証券又はこれに代わるものを直ちに監督職員に提示すること。
※ 工事実績情報の登録	本工事の最終請負代金(消費税込)が500万円以上となる場合には、工事実績情報システム(コリンズ)に基づき、工事実績データを作成する。 また、作成した内容について監督職員の確認を受けた後、以下に示す期間内に(一財)日本建設情報総合センターに所定の手続により登録するとともに、登録内容確認書の写しを提出する。 1) 工事受注時 契約締結後10日以内 2) 登録内容の変更時 契約事項の確定日から10日以内 3) 工事完成時 工事完成後10日以内
※ 工事現場管理	受注者は、工事の施工にあたっては、次の事項を遵守すること。 1) 不法・違反無届組(不法・パーソナル無届)を設置したトラック、ダンプカー等を工事現場に立ち入らせないこと。
※ 過積載による違法運行の防止	受注者は、工事の施工にあたっては、次の事項を遵守すること。 1) 積載重量制限を超過して土砂を積み込まず、また積み込ませないこと。 2) さし枠積着車、不表示車等に土砂を積み込まず、また積み込ませないこと。 3) 過積載車両、さし枠積着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受けるなど、過積載を助長することのないようにすること。 4) 取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行い、又はさし枠積着車、不表示車等を土砂運搬に使用している場合は、早急に不正常態を解消する措置を講ずること。 5) 建設発生土の処理及び骨材等の購入にあたって、下請事業者及び骨材等納入者の利益を不当に害することのないようにすること。 6) 以上のことにつき、下請業者にも十分指導すること。
※ 創意工夫等の実施	受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫に関する項目、又は地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに所定の書式により提出することができる。
※ 安全対策	受注者相互の緊密な連絡調整を図り、協力して工事を安全円滑に実施することを目的とする「工事関係者連絡会議」を設置すること。 発注者が組織する安全対策委員会が行う安全審査、施工条件検討、安全点検等に協力すること。
※ 他工事との取合い	別表1による。

工事名	佐倉浄水場特高受変電
図面名	建築電気設備工事 特記
作成年月日	令和8年度
縮尺	— 図面番号

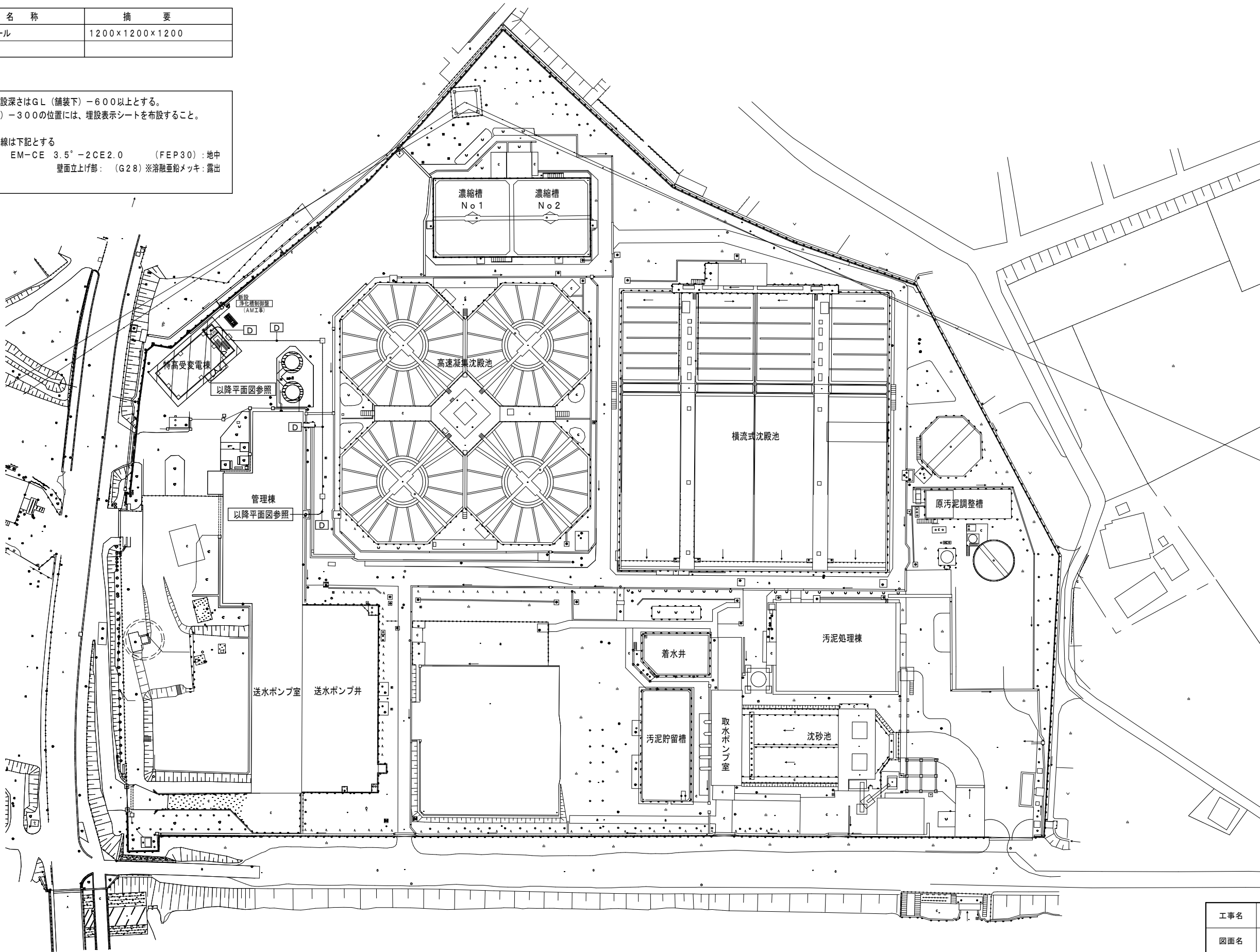
[illegible]

凡 例		
記 号	名 称	摘 要
H	ハンドホール	1200×1200×1200

特 記 事 項

1. 図中特記なき地中埋設深さはGL（舗装下）－600以上とする。
また、GL（舗装下）－300の位置には、埋設表示シートを布設すること。

2. 図中特記なき配管配線は下記とする
EM-CE 3.5' -2CE2.0 (FEP30) : 地中
壁面立上げ部: (G28)※溶融亜鉛メッキ：露出



注 記

構内通信線路
新設特高受変電棟－内線電話機（多機能：2台・一般：3台）増設
・管理棟－既設電話主装置（多機能内線32回線・一般内線：4回線）
新設特高受変電棟の内線電話増設に伴い、予備回線への結線・調整を行う。

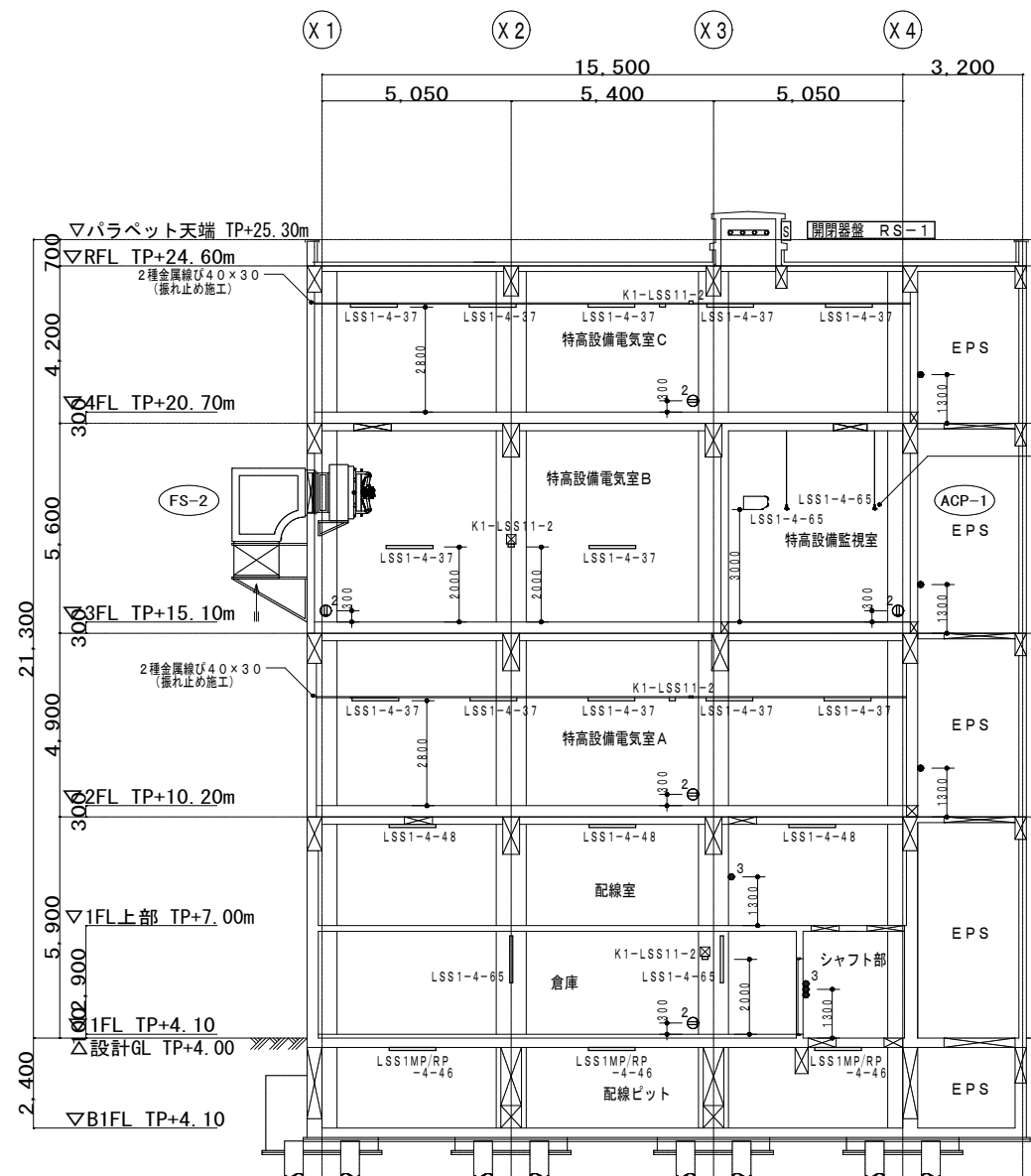
D	EM-CCP-P 0.65-10P	(FEP150)	2T-1
---	-------------------	----------	------

凡 例

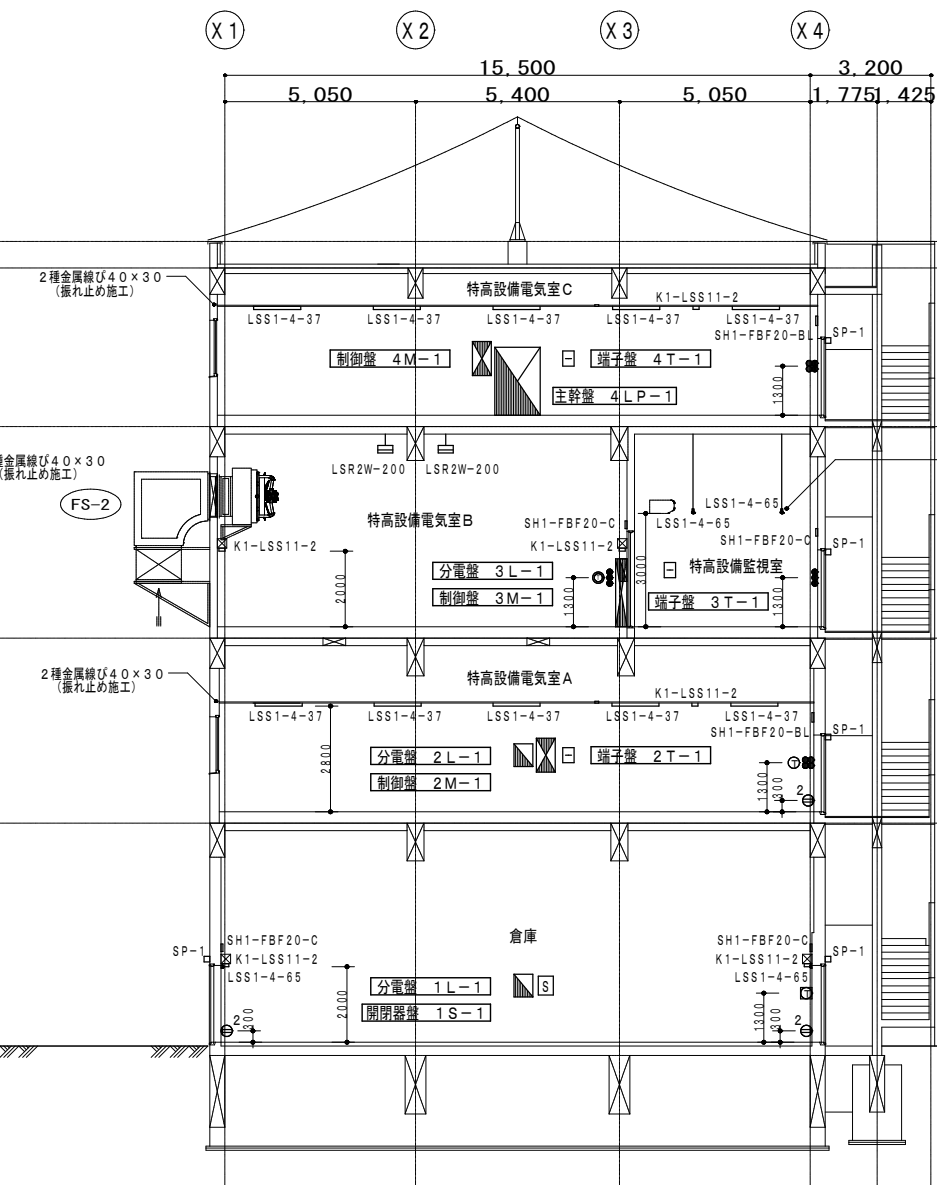
: 今回対象（新設）範囲を示す

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	構内配電線路・通信線路図		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	1／500	図面番号	AE-3
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

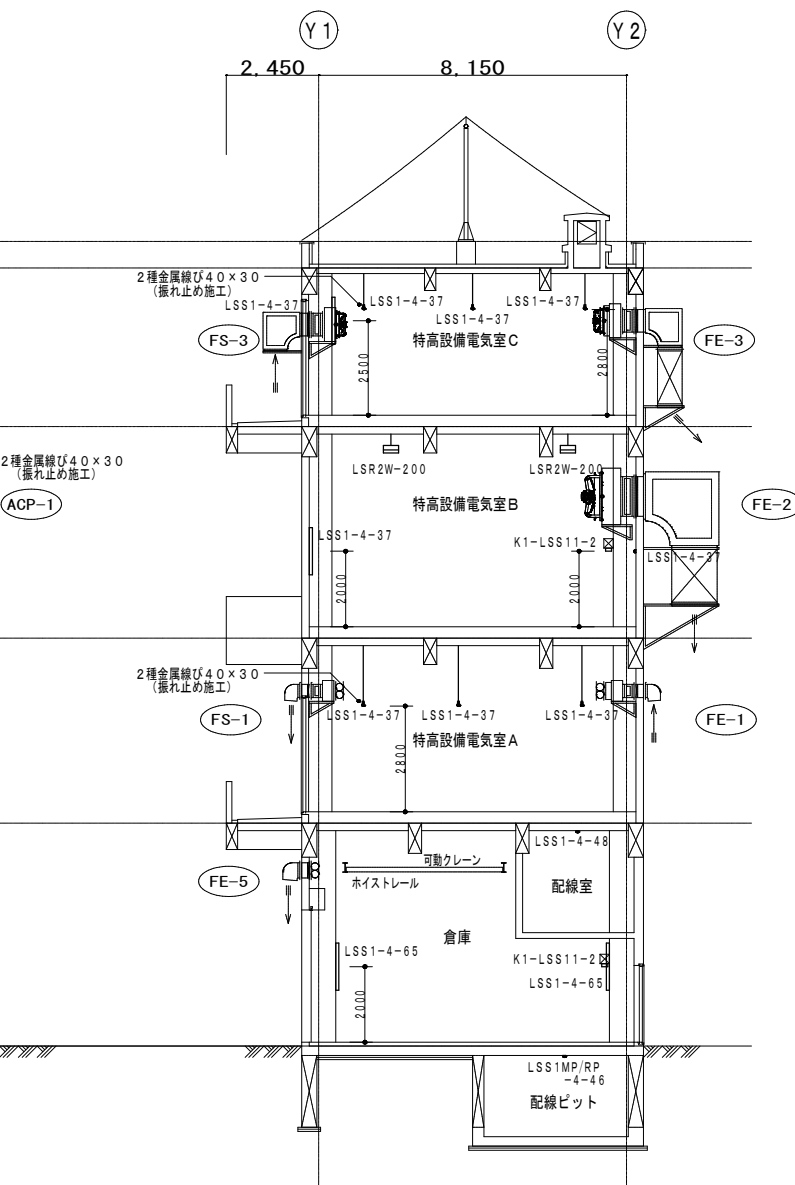
注記)
照明器具は空調吹出口から450mm以上の離隔をとる



A-A断面図 1/100

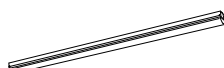
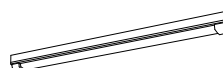
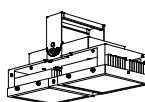
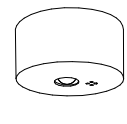
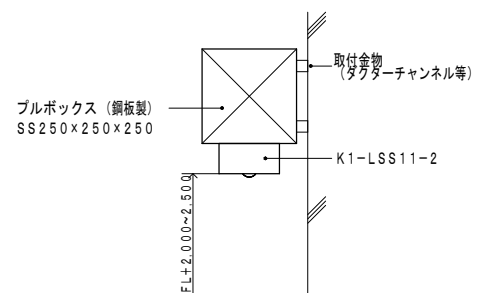


B-B断面図 1/100



C-C断面図 1/100

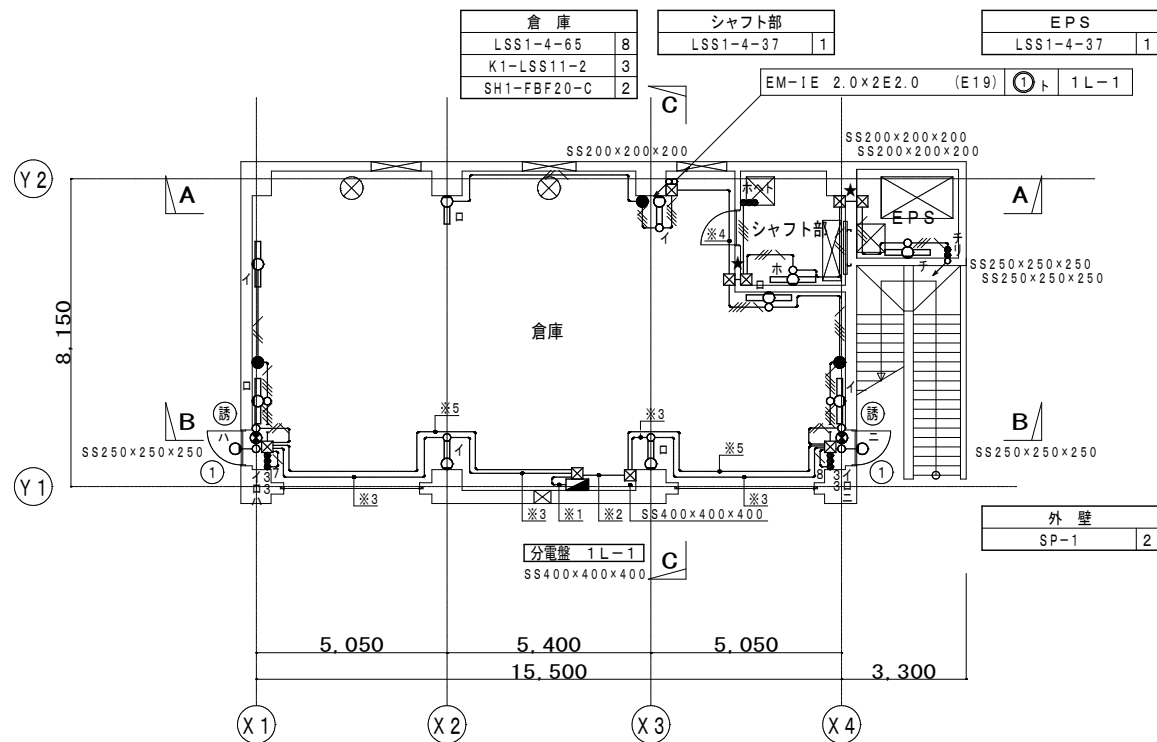
工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	断面図（参考）		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1/100	図面番号	AE-4
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

照明器具参考姿図																(公)：公共施設用照明器具の型番を示す												
																												
						防湿防雨形												本体:アルミダイカスト カバー:ガラス										
器具名称				電圧	制御装置	記 事		器具名称				電圧	制御装置	記 事		器具名称				電圧	制御装置	記 事						
	(公)	LSS1-4-37	光束：3700lm以上	200V	LN				(公)	LSS1MP/RP-4-30	光束：3000lm以上	200V	LN				(公)	LSR2W-200	光束：20000lm以上	200	LJ	落下防止ワイヤー付						
	(公)	LSS1-4-48	光束：4800lm以上	200V	LN				(公)	LSS1MP/RP-4-46	光束：4600lm以上	200V	LN										SP-1	光束：200lm以上	100V	LN	人感・明るさセンサ付	
	(公)	LSS1-4-65	光束：6500lm以上	200V	LN																		LED屋外照明	(白熱灯40W相当)			防雨形	
																												
器具名称				電圧	制御装置	記 事		器具名称				電圧	制御装置	記 事		器具名称				電圧	制御装置	記 事						
	(公)	K1-LSS11-2	LED非常灯	200V		電池内蔵形			(公)	SH1-FBF20-C	LED誘導灯 C級	100V		避難口誘導灯 電池内蔵形														
									(公)	SH1-FBF20-BL	LED誘導灯 BL級	100V		避難口誘導灯 電池内蔵形														

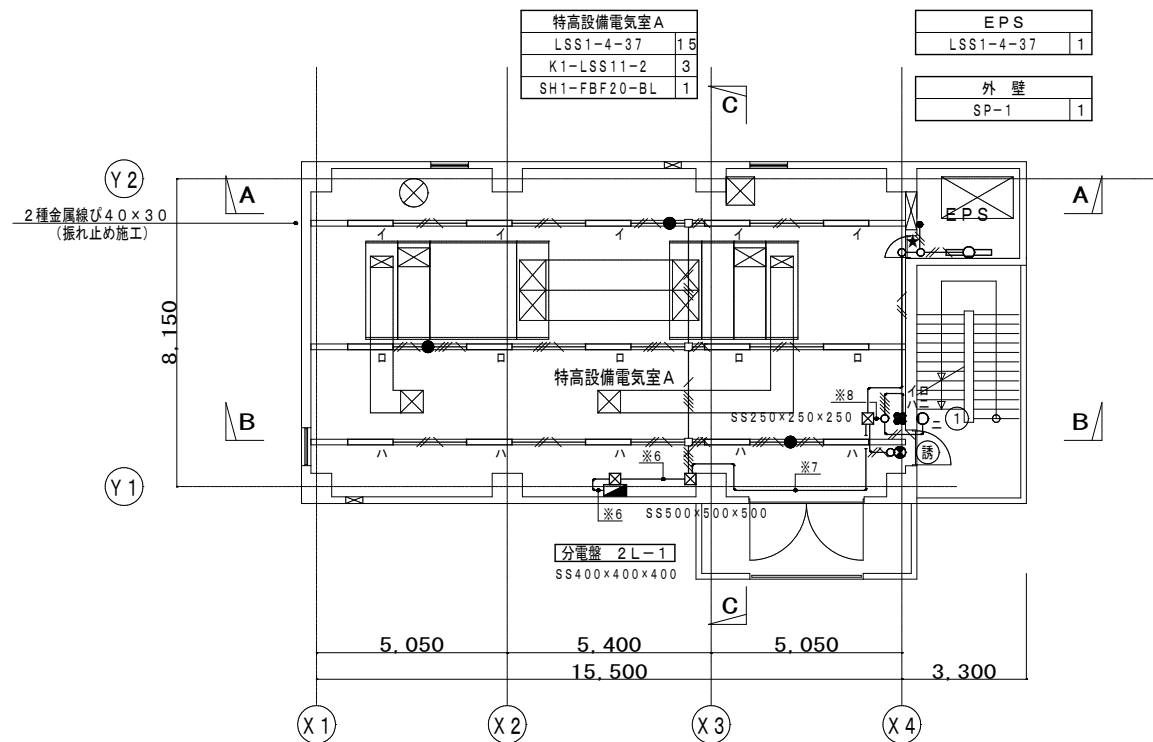
凡 例		
記 号	名 称	摘 要
	分電盤	
	LED灯 天井付	
	LED灯 壁付	横付
	LED灯 壁付	縦付
	LED灯 壁付	電池内蔵型
	LED灯 天井付	高天井用
	LED灯 壁付	
	LED誘導灯	電池内蔵型
	LED非常用照明（保安用）	電池内蔵型
	タンブラスイッチ	1P15A WP：防滴プレート付
	タンブラスイッチ	3W15A WP：防滴プレート付
	ブルボックス	形式・寸法は傍記による
	露出丸形ボックス	

特 記 事 項		
1. 図中特記なき配管配線は下記とする		
※地上階		
	EM-1E 2.0×2	(E19)
	EM-1E 2.0×3	(E19)
	EM-1E 2.0×4	(E25)
	EM-1E 2.0×5	(E25)
	EM-1E 2.0×7	(E31)
	EM-1E 2.0×8	(E31)
	EM-1E 2.0×2E2.0	(E19)
	EM-1E 2.0×3E2.0	(E25)
	EM-1E 2.0×4E2.0	(E25)
	EM-1E 2.0×5E2.0	(E25)
	EM-1E 2.0×2E2.0	(線び内配線)
	EM-1E 2.0×3E2.0	(線び内配線)
※地下階		
	EM-1E 2.0×2E2.0	(HIVE16)
2. 防火区画貫通措置		
★	：防火区画の貫通部を示す	

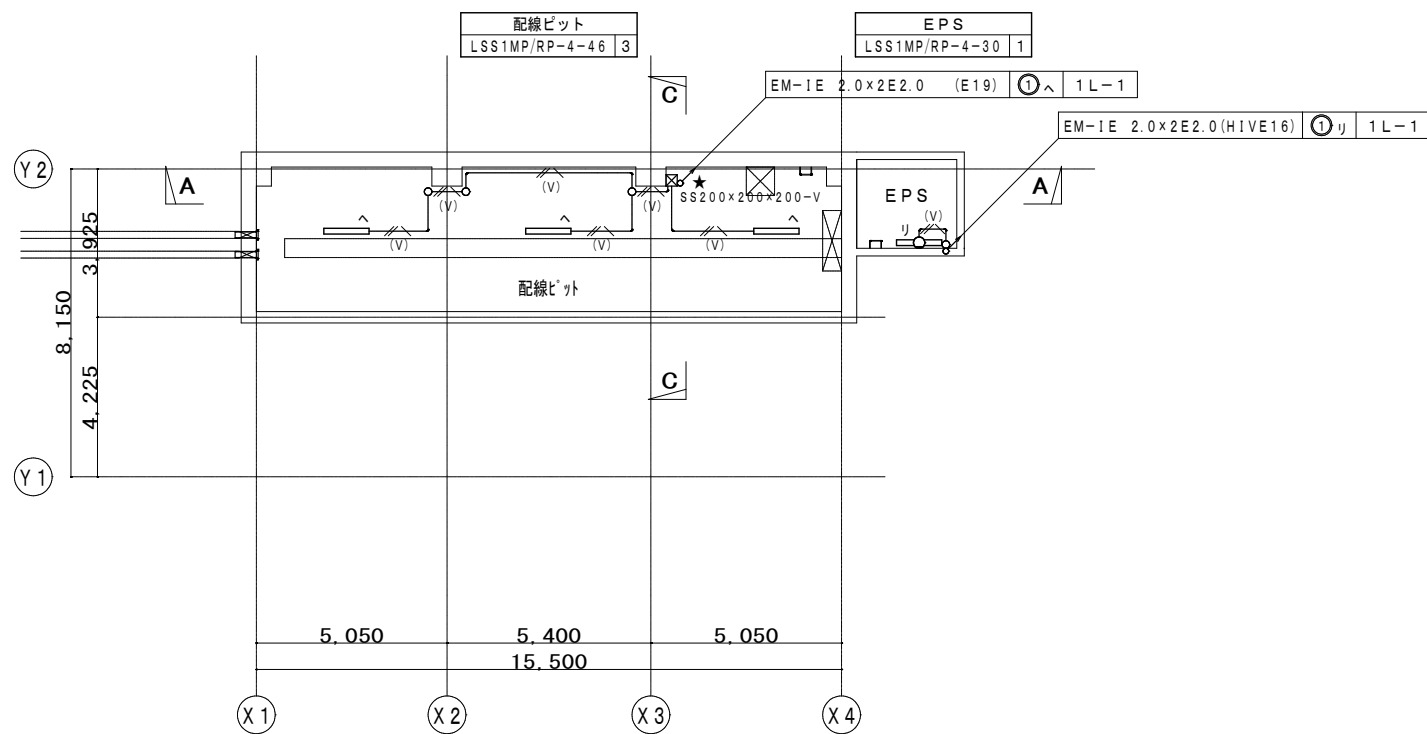
工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	照明器具参考姿図		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	—	図面番号	AE-5
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



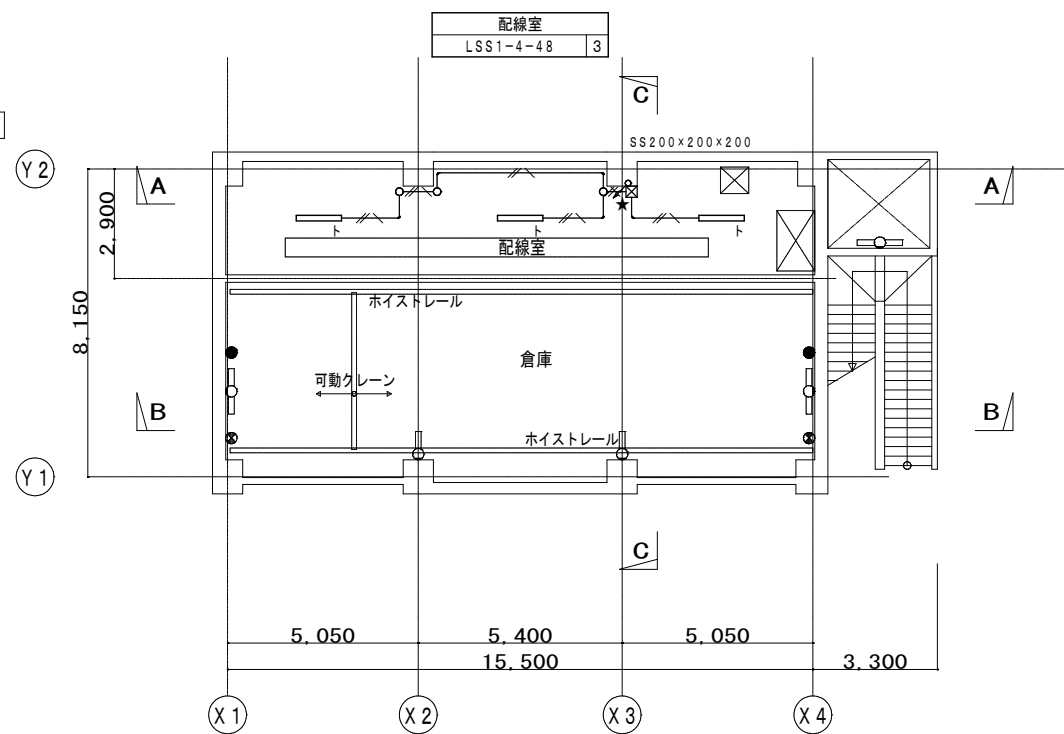
1 F 平面図 (下部) 1/100



2 F 平面図 1/100



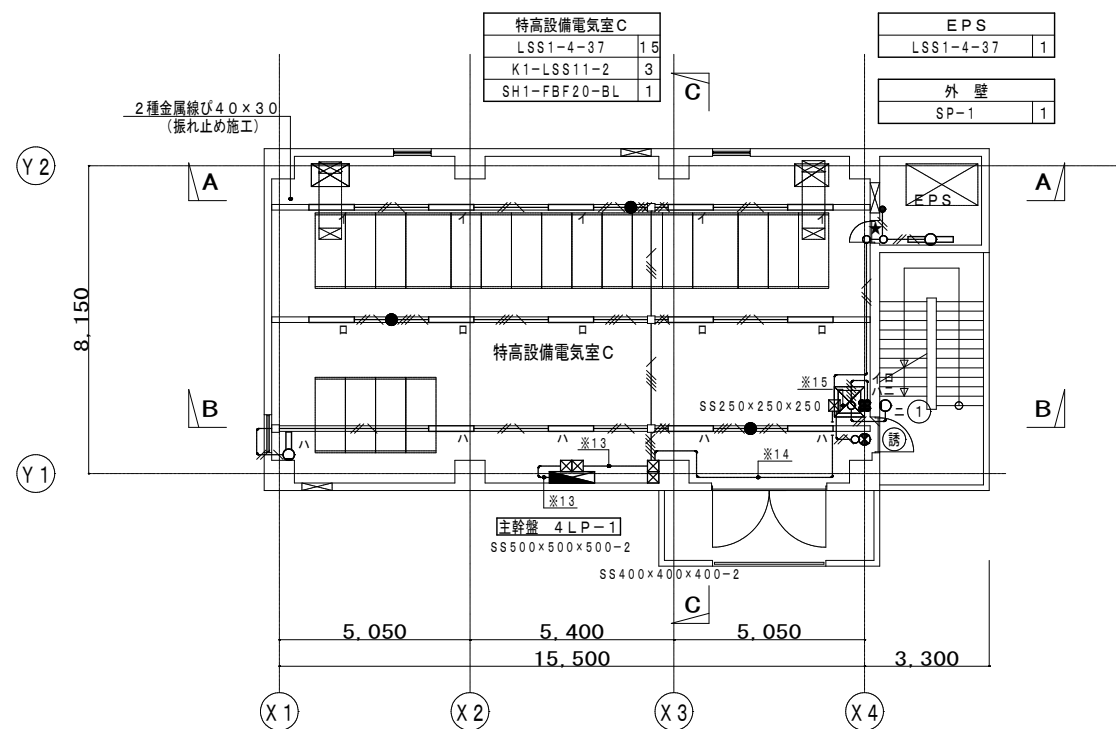
B 1 F 平面図 1/100



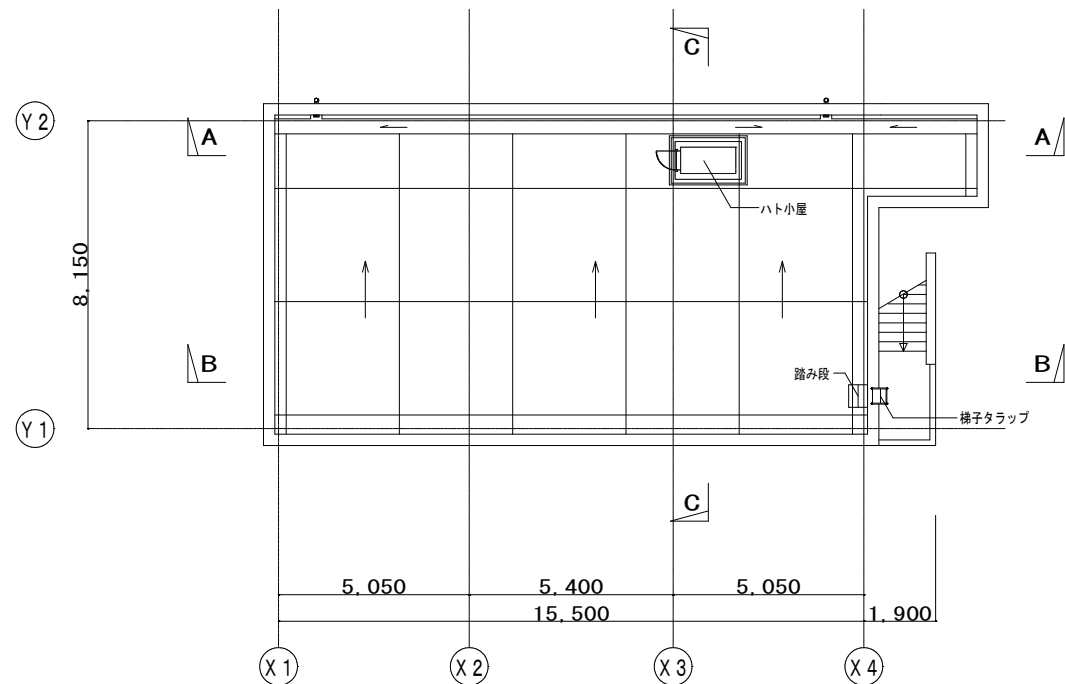
1 F 平面図 (上部) 1/100

※1	EM-1E 2.0x6E2.0 (E31)	①①誘	1L-1
※2	EM-1E 2.0x8E2.0 (E31)	①イロ	1L-1
	EM-1E 2.0x4E2.0 (E25)	①誘	
※3	EM-1E 2.0x8E2.0 (E31)	①イロ	1L-1
※4	EM-1E 2.0x6E2.0 (E31)	①イロハト	1L-1
※5	EM-1E 2.0x4E2.0 (E25)	①誘	1L-1
※6	EM-1E 2.0x6E2.0 (E31)	①①誘	2L-1
※7	EM-1E 2.0x5E2.0 (E31)	①イロハ	2L-1
	EM-1E 2.0x4 (E31)	①誘	
※8	EM-1E 2.0x4 (E31)	①イロハ	2L-1
	EM-1E 2.0x2E2.0 (E31)	①	

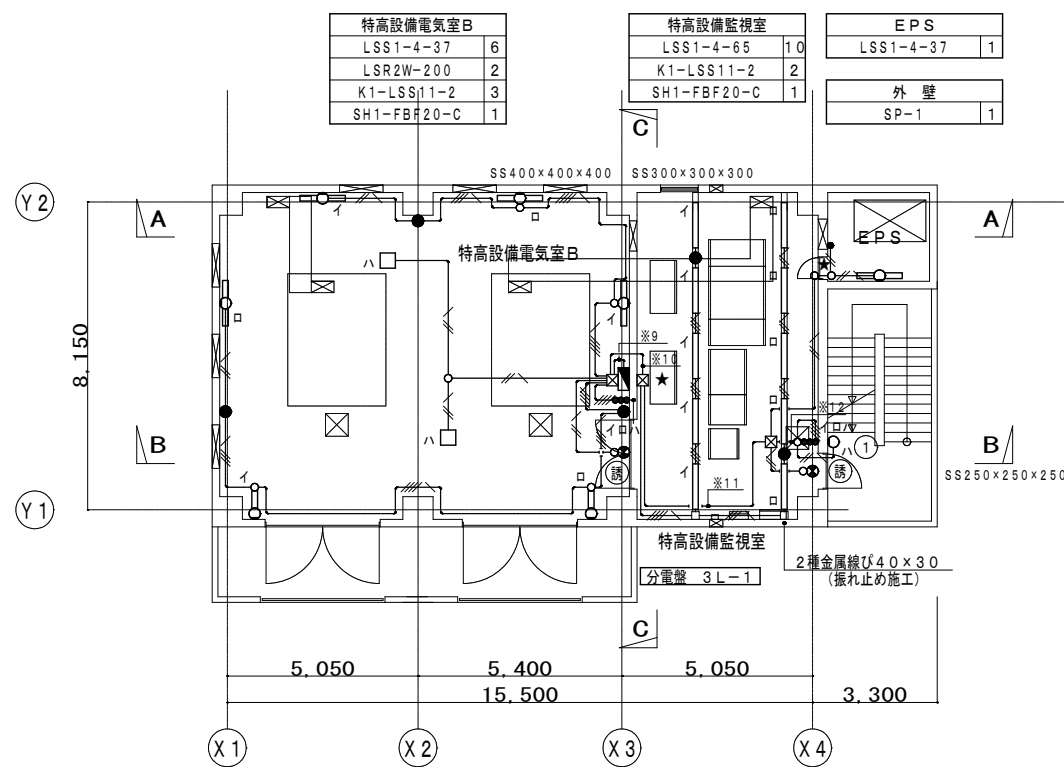
工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	特高受変電室棟 電灯設備 (照明) 配線図 (1)		
作成年月	令和 8 年度		
縮 尺	1 / 100	図面番号	AE-6
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



4 F 平面図 1/100



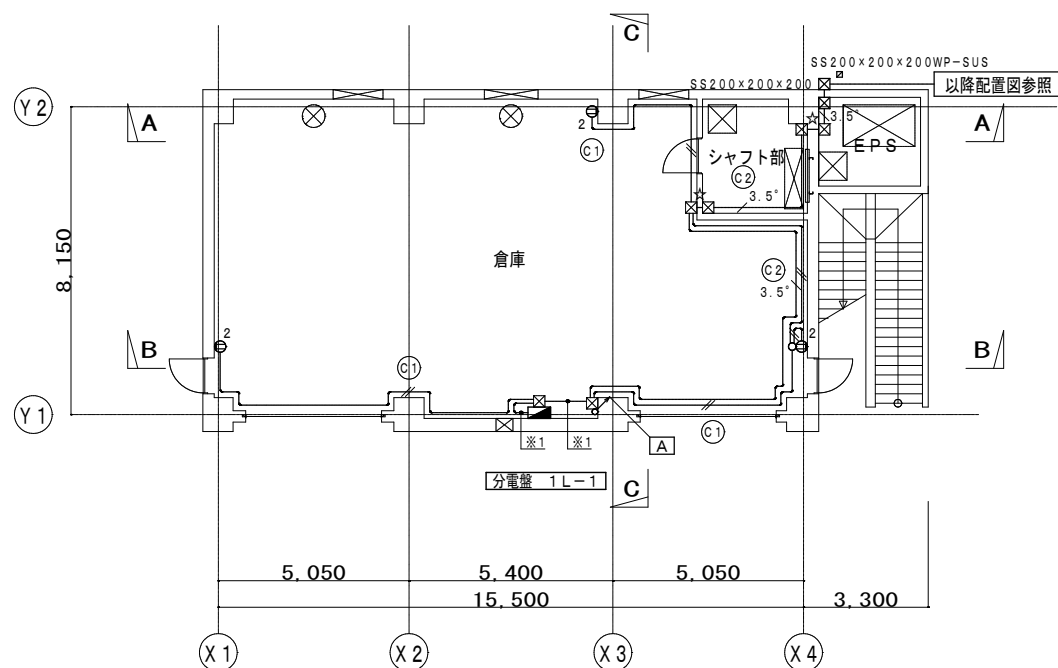
R F 平面図 1/100



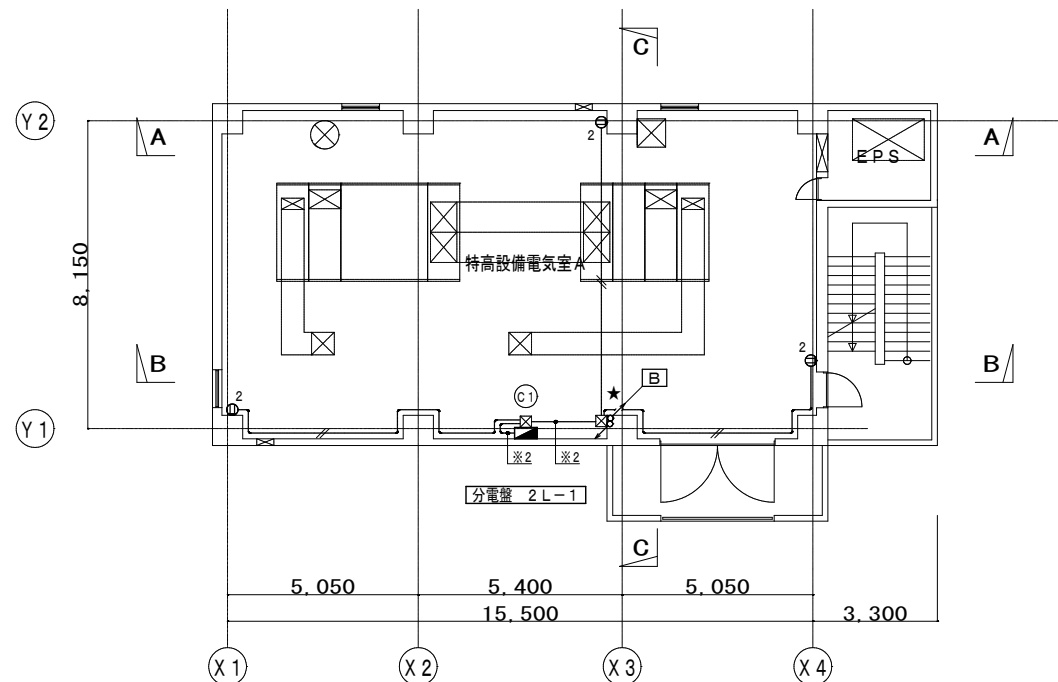
3 F 平面図 1/100

※9	EM-1E 2.0×6E2.0	(E31)	①①(鉄)	3L-1
※10	EM-1E 2.0×6E2.0	(E31)	①①(鉄)	3L-1
※11	EM-1E 2.0×4E2.0 EM-1E 2.0×4	(E31)	①イロ ①(鉄)	3L-1
※12	EM-1E 2.0×3 EM-1E 2.0×2E2.0	(E25)	①イロ ①	3L-1
※13	EM-1E 2.0×6E2.0	(E31)	①①(鉄)	4LP-1
※14	EM-1E 2.0×5E2.0 EM-1E 2.0×4	(E31)	①イロハ ①(鉄)	4LP-1
※15	EM-1E 2.0×4 EM-1E 2.0×2E2.0	(E31)	①イロハ ①	4LP-1

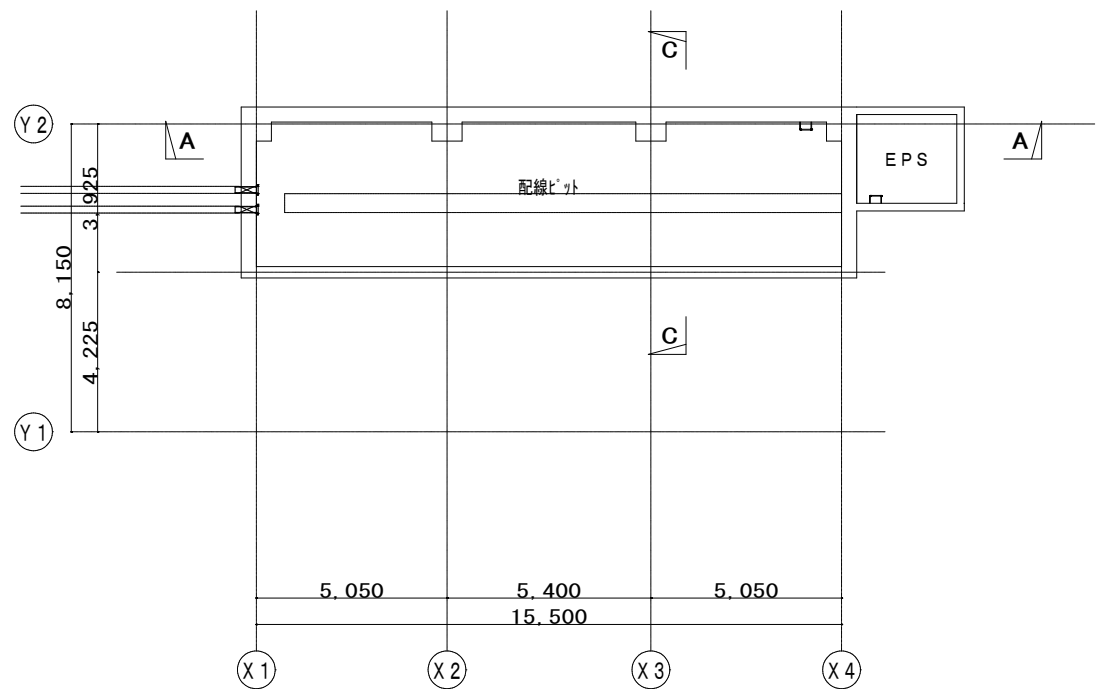
工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	特高受変電室棟 電灯設備（照明）配線図（2）		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1/100	図面番号	AE-7
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



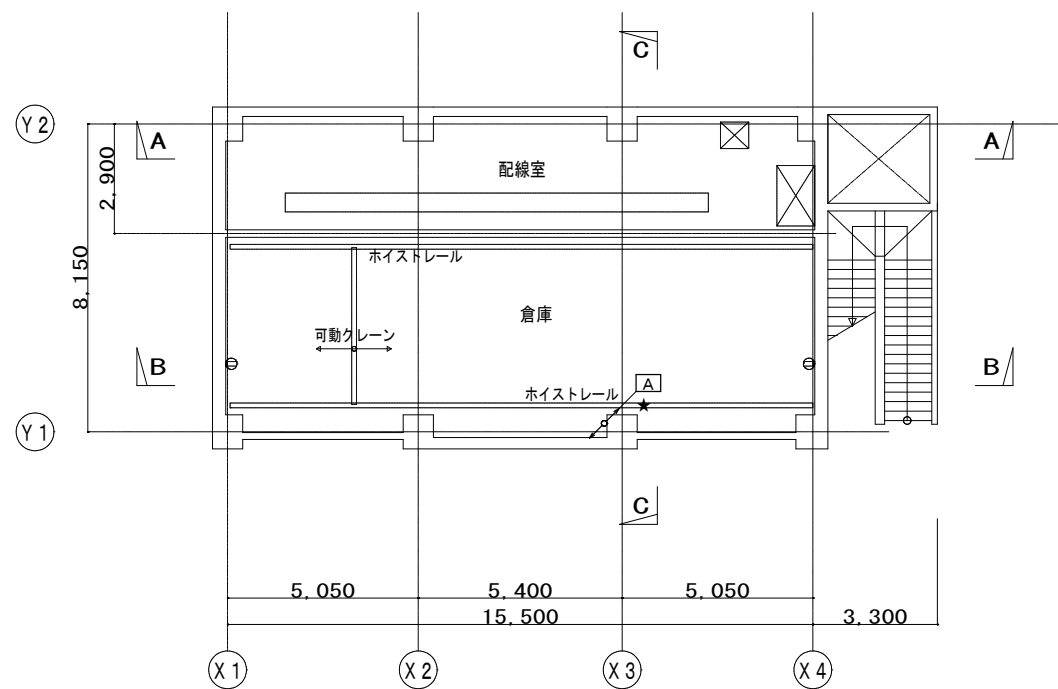
1 F 平面図 (下部) 1/100



2 F 平面図 1/100



B 1 F 平面図 1/100



1 F 平面図 (上部) 1/100

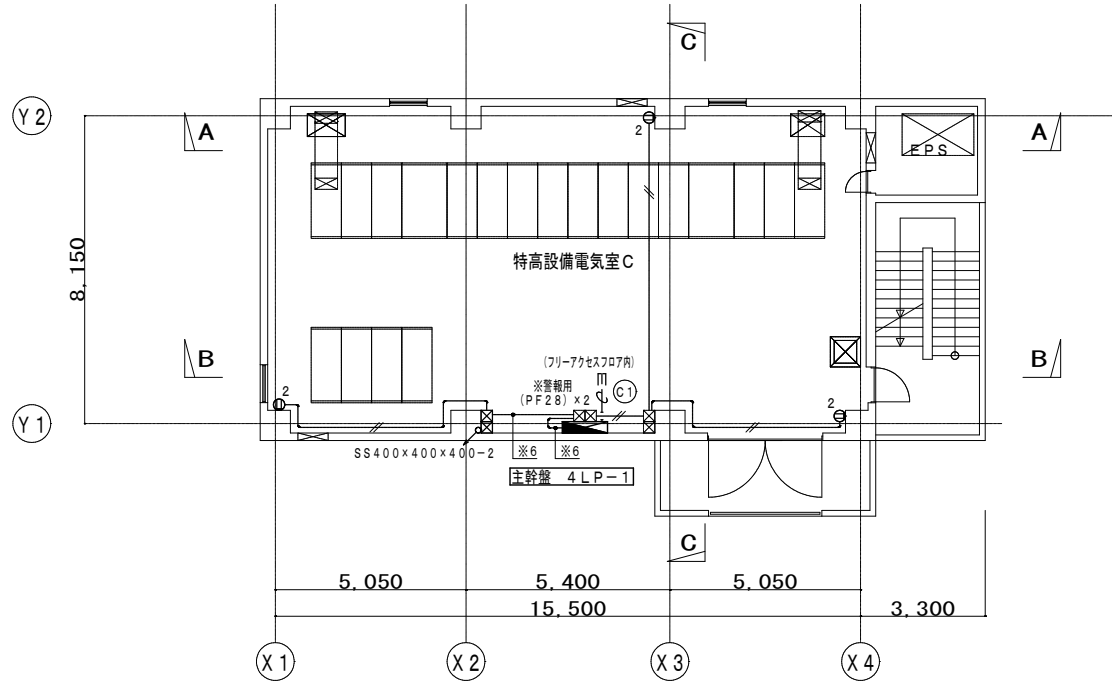
A			
EM-CE 5.5°-3CE2.0×2	(E31)	電灯幹線	1L-1
EM-CEE 2°-2C	(E19)	警報	

B			
EM-CE 5.5°-3CE2.0×2	(E51)	電灯幹線	1L-1
EM-CE 5.5°-3C			2L-1
EM-CEE 2°-2C ×2	(E31)	警報	1・2L-1

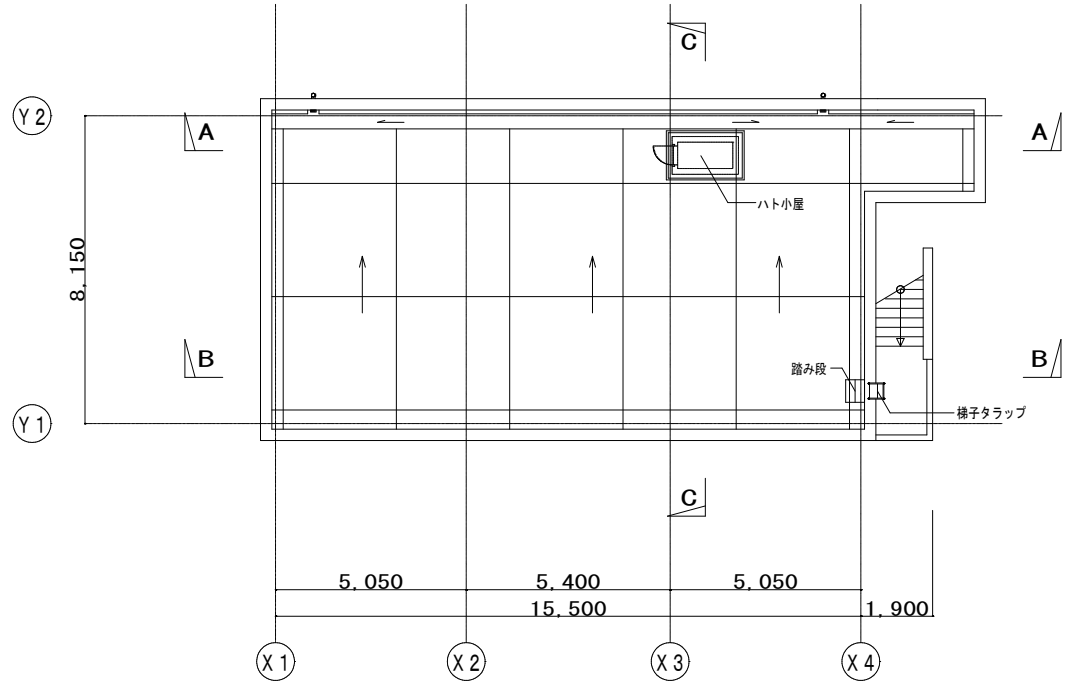
※1			
EM-CE 5.5°-3CE2.0×2	(E31)	電灯幹線	1L-1
EM-CEE 2°-2C	(E19)	警報	
EM-IE 2.0×2	(E19)	①	
EM-CE 3.5°-2CE2.0	(E25)	②	

※2			
EM-CE 5.5°-3CE2.0×2	(E31)	電灯幹線	2L-1
EM-CEE 2°-2C	(E19)	警報	
EM-IE 2.0×2	(E19)	①	

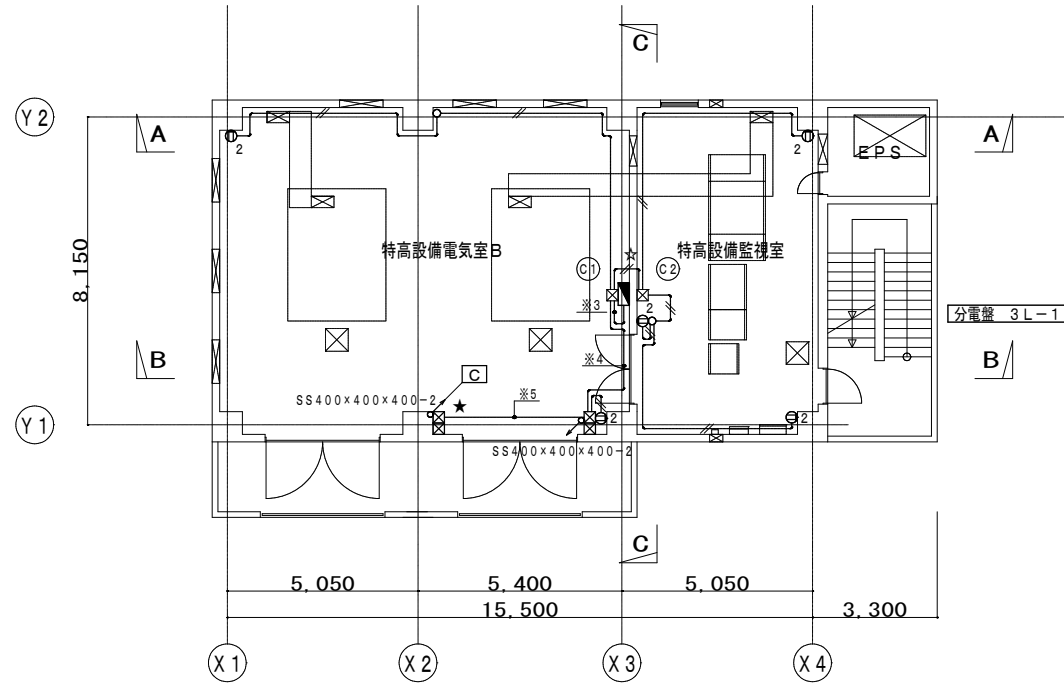
工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	特高変電室棟 電灯設備 (幹線・コンセント) 配線図 (1)		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1/100	図面番号	AE-8
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



4 F 平面図 1/100



R F 平面図 1/100



3 F 平面図 1/100

C			
EM-CE 5.5°-3CE2.0×2	(E51)	電灯幹線	1L-1
EM-CE 5.5°-3C			2L-1
EM-CE 5.5°-3C			3L-1
EM-CEE 2°-2C x3	(E39)	警 報	1~3L-1

凡 例		
記 号	名 称	摘 要
■	分電盤	
Ⓜ ₂	壁付コンセント	2P15A×2
□	埋設標（地中線）	鉄製
☒	ブルボックス	形式・寸法は傍記による
○	露出丸形ボックス	

特 記 事 項	
1. 図中特記なき配管配線は下記とする	
—//—	EM-1E 2.0×2 (E19)
—/3.5°—	EM-CE 3.5°-2CE2.0 (E25)
2. 防火区画貫通措置	
★	: 防火区画の貫通部を示す
☆	: 防火区画の貫通部を示す（他の設備と共用）

※3			
EM-CE 5.5°-3CE2.0×2	(E31)	電灯幹線	3L-1
EM-CEE 2°-2C	(E19)	警 報	
EM-1E 2.0×4	(E25)	Ⓜ ₂ Ⓜ ₂	

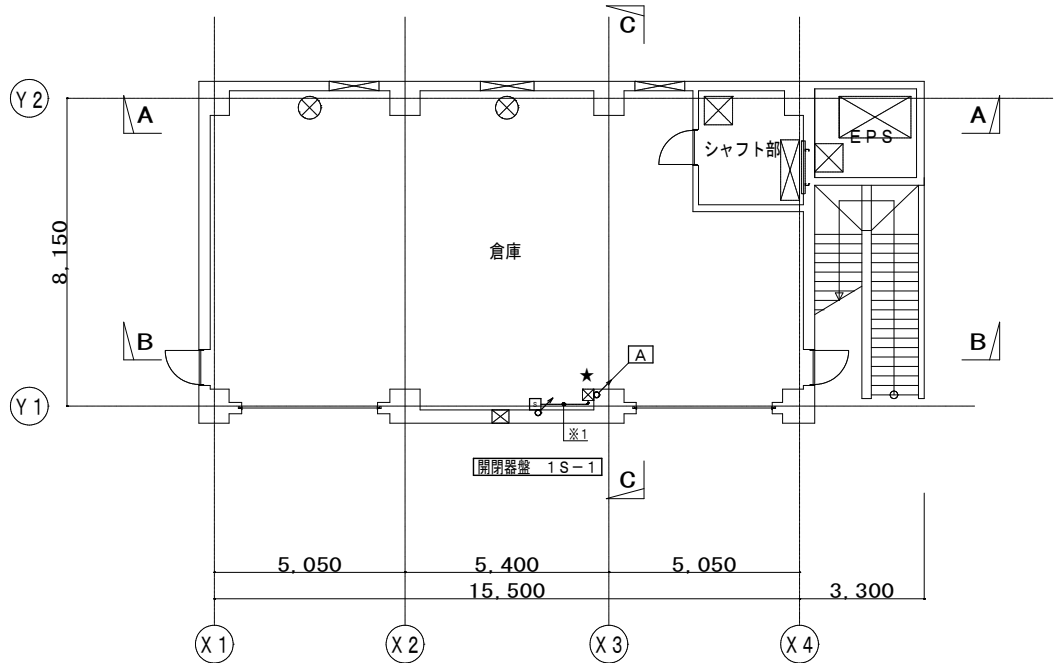
※4			
EM-CE 5.5°-3CE2.0×2	(E31)	電灯幹線	3L-1
EM-CEE 2°-2C	(E19)	警 報	
EM-1E 2.0×2	(E19)	Ⓜ ₂	

※5			
EM-CE 5.5°-3CE2.0×2	(E51)	電灯幹線	1L-1
EM-CE 5.5°-3C			2L-1
EM-CE 5.5°-3C			3L-1
EM-CEE 2°-2C x3	(E39)	警 報	1~3L-1

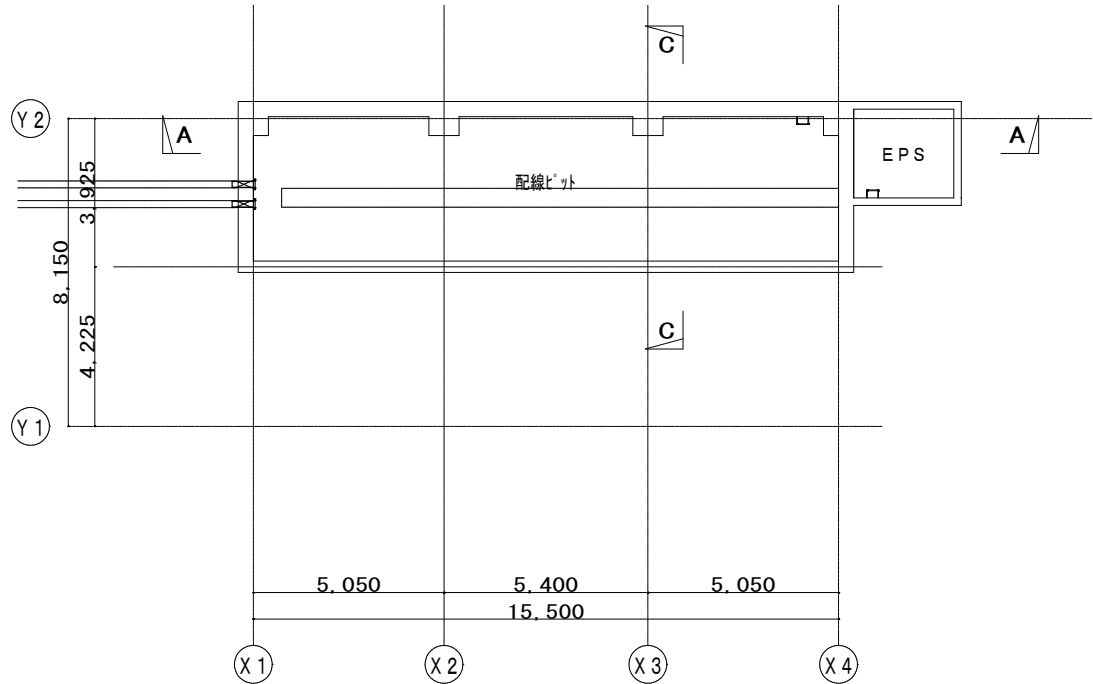
※6			
EM-CE 5.5°-3CE2.0×2	(E51)	電灯幹線	1L-1
EM-CE 5.5°-3C			2L-1
EM-CE 5.5°-3C			3L-1
EM-CEE 2°-2C x3	(E39)	警 報	1~3L-1
EM-1E 2.0×2	(E19)	Ⓜ ₂	4LP-1

工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	特高変電室棟 電灯設備（幹線・コンセント）配線図（2）		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	1／100	図面番号	AE-9
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

動力配線リスト表 (開閉器盤 1S-1)						
No	名 称	相	電圧V	容量kW	台数	配線サイズ
FE-5	有圧換気扇 排気用	3	200	0.4	1	EM-1E 2.0×3E2.0 (E25)
	同上電動シャッター	1	200	0.1	1	

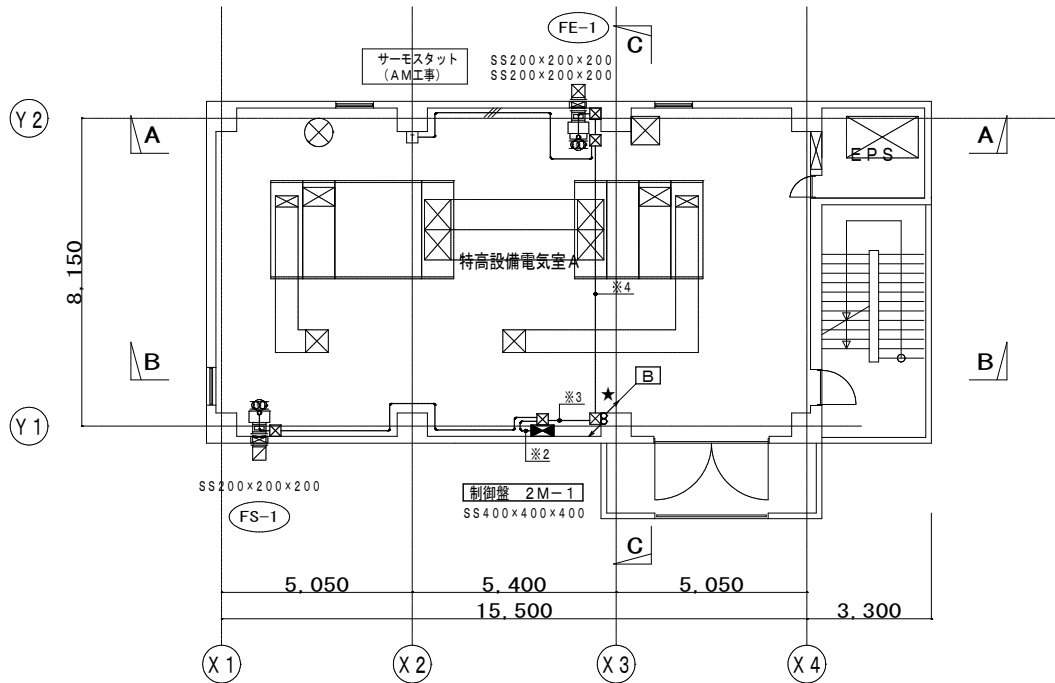


1 F 平面図 (下部) 1/100

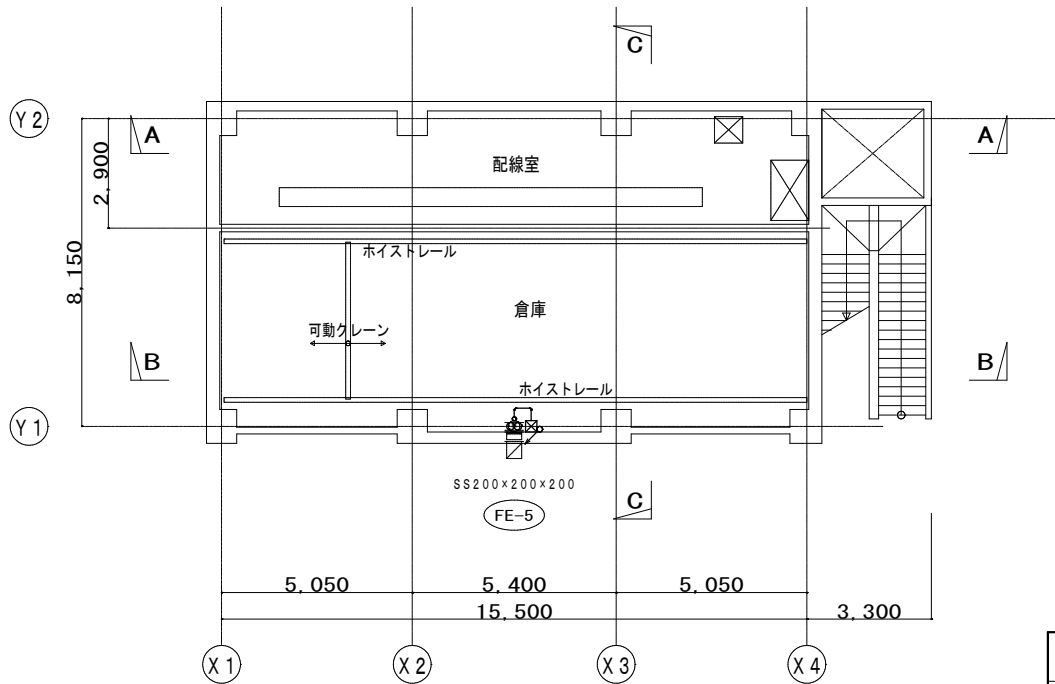


B 1 F 平面図 1/100

動力配線リスト表 (制御盤 2M-1)						
No	名 称	相	電圧V	容量kW	台数	配線サイズ
FS-1	有圧換気扇 給気用	3	200	0.2	1	EM-1E 2.0×3E2.0 (E25)
	同上電動シャッター	1	200	0.1	1	
FE-1	有圧換気扇 排気用	3	200	0.2	1	EM-1E 2.0×3E2.0 (E25)
	同上電動シャッター	1	200	0.1	1	



2 F 平面図 1/100



1 F 平面図 (上部) 1/100

A	EM-1E 2.0×3E2.0 (E25)	FE-5	2M-1
---	-----------------------	------	------

B	EM-CE 5.5' -3CE2.0×2 (E31)	動力幹線	2M-1
	EM-CEE 2' -2C (E19)	警 報	

※1	EM-1E 2.0×3E2.0 (E25)	FE-5	2M-1
----	-----------------------	------	------

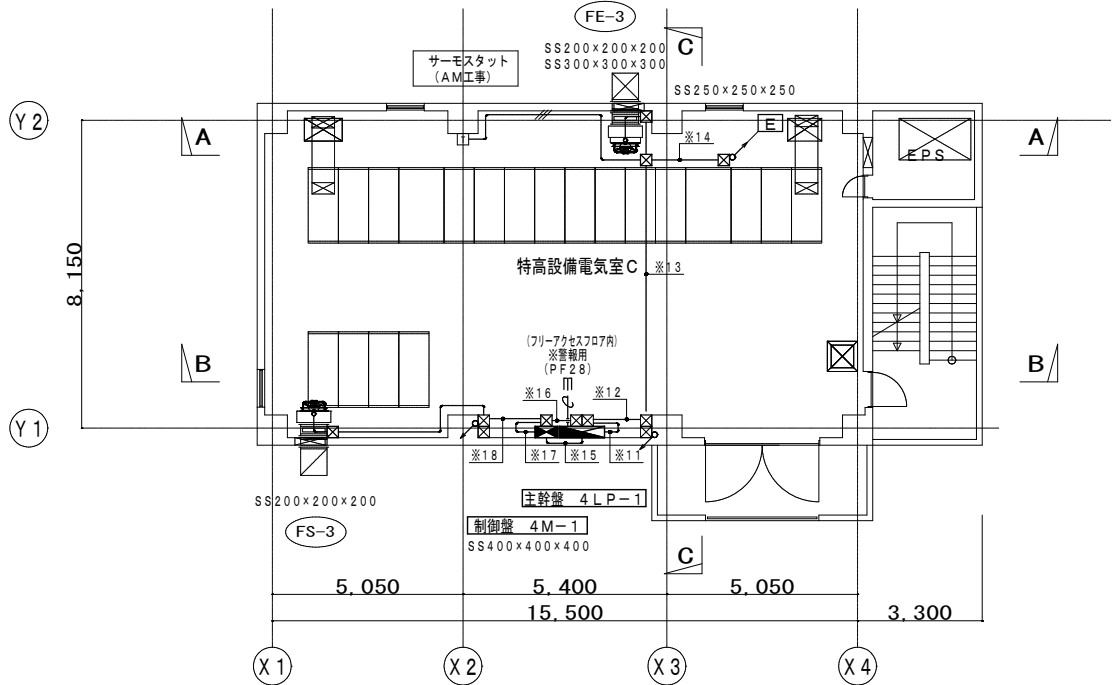
※2	EM-CE 5.5' -3CE2.0×2 (E31)	動力幹線	2M-1
	EM-1E 2.0×3E2.0	FS-1	
	EM-1E 2.0×3	FE-1	
	EM-1E 2.0×3	FE-5	
	EM-CEE 2' -2C	警 報	

※3	EM-CE 5.5' -3CE2.0×2 (E31)	動力幹線	2M-1
	EM-1E 2.0×3E2.0	FE-1	
	EM-1E 2.0×3	FE-5	
	EM-CEE 2' -2C	警 報	

※4	EM-1E 2.0×3E2.0 (E25)	FE-1	2M-1
	EM-CEE 2' -3C (E25)	サーモ	

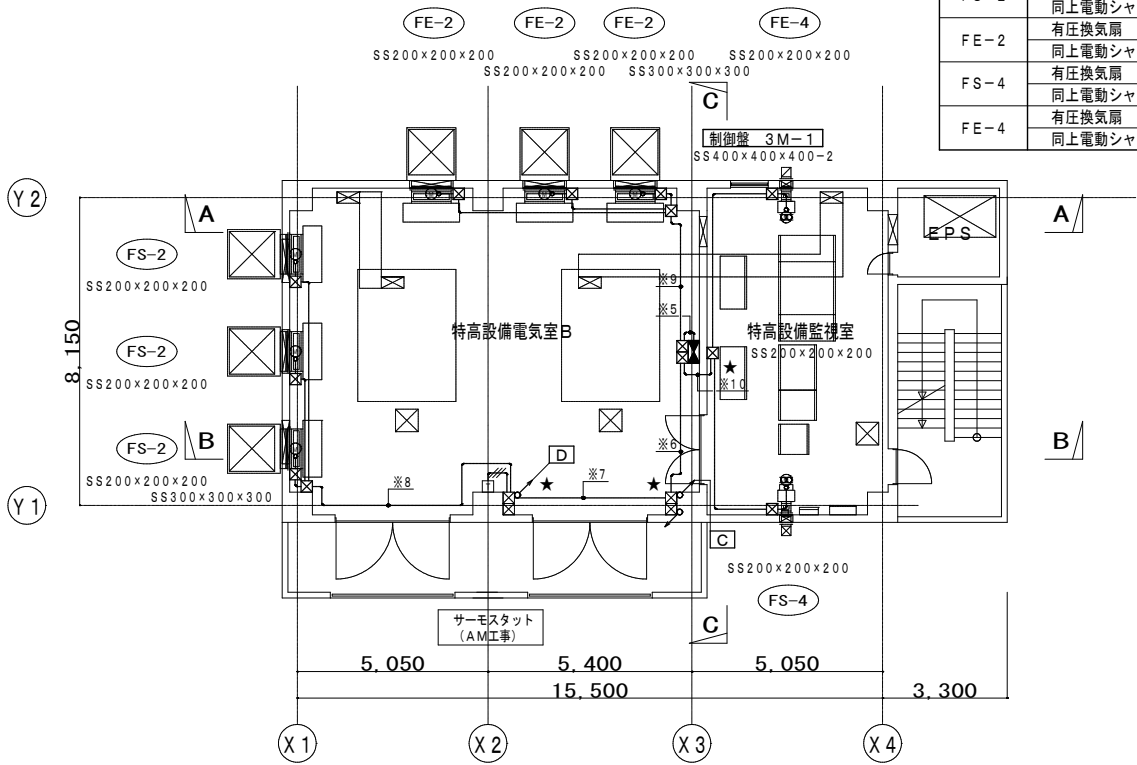
工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	特高変電室棟 動力設備配線図 (1)		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	1 / 100	図面番号	AE-10
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

動力配線リスト表 (制御盤 4M-1)									
No	名 称	相	電圧V	容量kW	台数	配線サイズ	備 考		
FS-3	有圧換気扇 給気用	3	200	3.7	1	EM-1E 2.0×3E2.0	(E31)	タイマー・サーモ運転	
	同上電動シャッター	1	200	0.1	1	EM-1E 2.0×3			
FE-3	有圧換気扇 排気用	3	200	3.7	1	EM-1E 2.0×3E2.0	(E31)	FS-3に連動	
	同上電動シャッター	1	200	0.1	1	EM-1E 2.0×3			



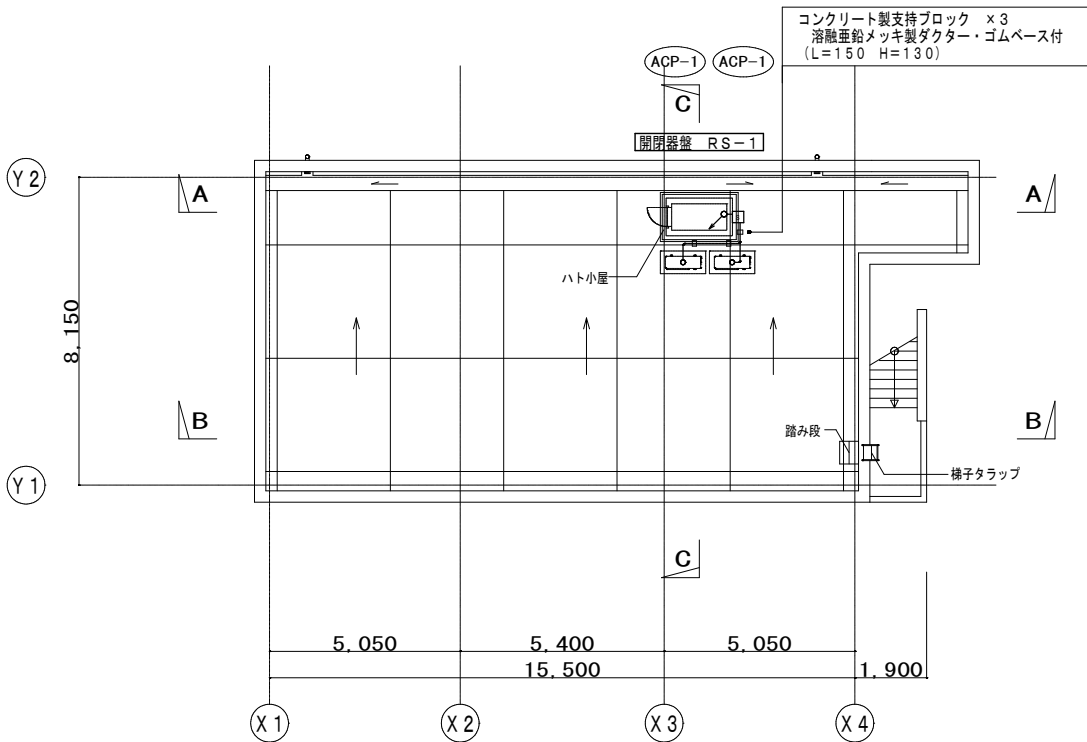
4 F 平面図 1/100

動力配線リスト表 (制御盤 3M-1)									
No	名 称	相	電圧V	容量kW	台数	配線サイズ	備 考		
FS-2	有圧換気扇 給気用	3	200	11.0	3	EM-1E 5.5'×3E2.0	(E31)	タイマー・サーモ運転	
	同上電動シャッター	1	200	0.1	3	EM-1E 2.0×3			
FE-2	有圧換気扇 排気用	3	200	11.0	3	EM-1E 5.5'×3E2.0	(E31)	FS-2に連動	
	同上電動シャッター	1	200	0.1	3	EM-1E 2.0×3			
FS-4	有圧換気扇 給気用	3	200	0.1	1	EM-1E 2.0×3E2.0	(E25)	タイマー運転	
	同上電動シャッター	1	200	0.1	1	EM-1E 2.0×3			
FE-4	有圧換気扇 排気用	3	200	0.1	1	EM-1E 2.0×3E2.0	(E25)	FS-4に連動	
	同上電動シャッター	1	200	0.1	1	EM-1E 2.0×3			



3 F 平面図 1/100

動力配線リスト表			(開閉器盤 RS-1)				
No	名 称	相	電圧V	容量kW	台数	配線サイズ	備 考
ACP-1	空冷ヒートポンプエアコン	3	200	1.2	2	EM-CE 3.5' -4C (G22)	3F特高設備監視室系統
						※溶融亜鉛メッキ	



R F 平面図 1/100

※5		EM-CET38' E8' x2 (E51)	動力幹線	
		EM-CET22' (E51)		
		EM-1E 5.5' x9E2.0 (E51)	FS-2	3M-1
		EM-1E 2.0x9 (E51)		
		EM-1E 5.5' x9E2.0 (E51)	FE-2	3M-1
		EM-1E 2.0x9 (E51)		
		EM-1E 2.0x3E2.0 (E31)	FS-4	3M-1
		EM-1E 2.0x3 (E31)	FE-4	
		EM-CEE 2' -2C (E31)	警 報	3M-1
		EM-CEE 2' -3C (E31)	サーモ	
※6		EM-CET38' E8' x2 (E51)	動力幹線	
		EM-CET22' (E51)		
		EM-1E 5.5' x9E2.0 (E51)	FS-2	3M-1
		EM-1E 2.0x9 (E51)		
		EM-CEE 2' -2C (E31)	警 報	2・3M-1
		EM-CEE 2' -3C (E31)	サーモ	
※7		EM-1E 5.5' x9E2.0 (E51)	FS-2	3M-1
		EM-1E 2.0x9 (E51)		
		EM-CEE 2' -3C (E39)	サーモ	2・3M-1
		EM-CEE 2' -2C x2 (E39)	警 報	
※8		EM-1E 5.5' x9E2.0 (E51)	FS-2	3M-1
		EM-1E 2.0x9 (E51)		
※9		EM-1E 5.5' x9E2.0 (E51)	FE-2	3M-1
		EM-1E 2.0x9 (E51)		

凡 例		
記 号	名 称	摘 要
■	制御盤	
□	開閉器盤	
⊙	電動機	AM工事
☒	ブルボックス	形式・寸法は傍記による
—○—	露出丸形ボックス	

特 記 事 項		
1. 図中特記なき配管配線は下記とする		
EM-CEE 2' -3C (E25)		
2. 防火区画貫通措置		
★ : 防火区画の貫通部を示す		

※10		EM-CE 5.5' -3CE2.0x2 (E31)	動力幹線	2M-1
		EM-CET38' E8' x2 (E51)		
		EM-CET22' (E51)	警 報	2・3M-1
		EM-CEE 2' -2C x2 (E31)		
		EM-CE 3.5' -4C (E25)	ACP-1	4LP-1
		EM-CE 3.5' -4C (E25)		

※11		EM-CE 5.5' -3CE2.0x2 (E31)	動力幹線	2M-1
		EM-CET38' E8' x2 (E51)		
		EM-CET22' (E51)	警 報	2・3M-1
		EM-CEE 2' -2C x2 (E31)		
		EM-CE 3.5' -4C (E25)	ACP-1	4LP-1
		EM-CE 3.5' -4C (E25)		

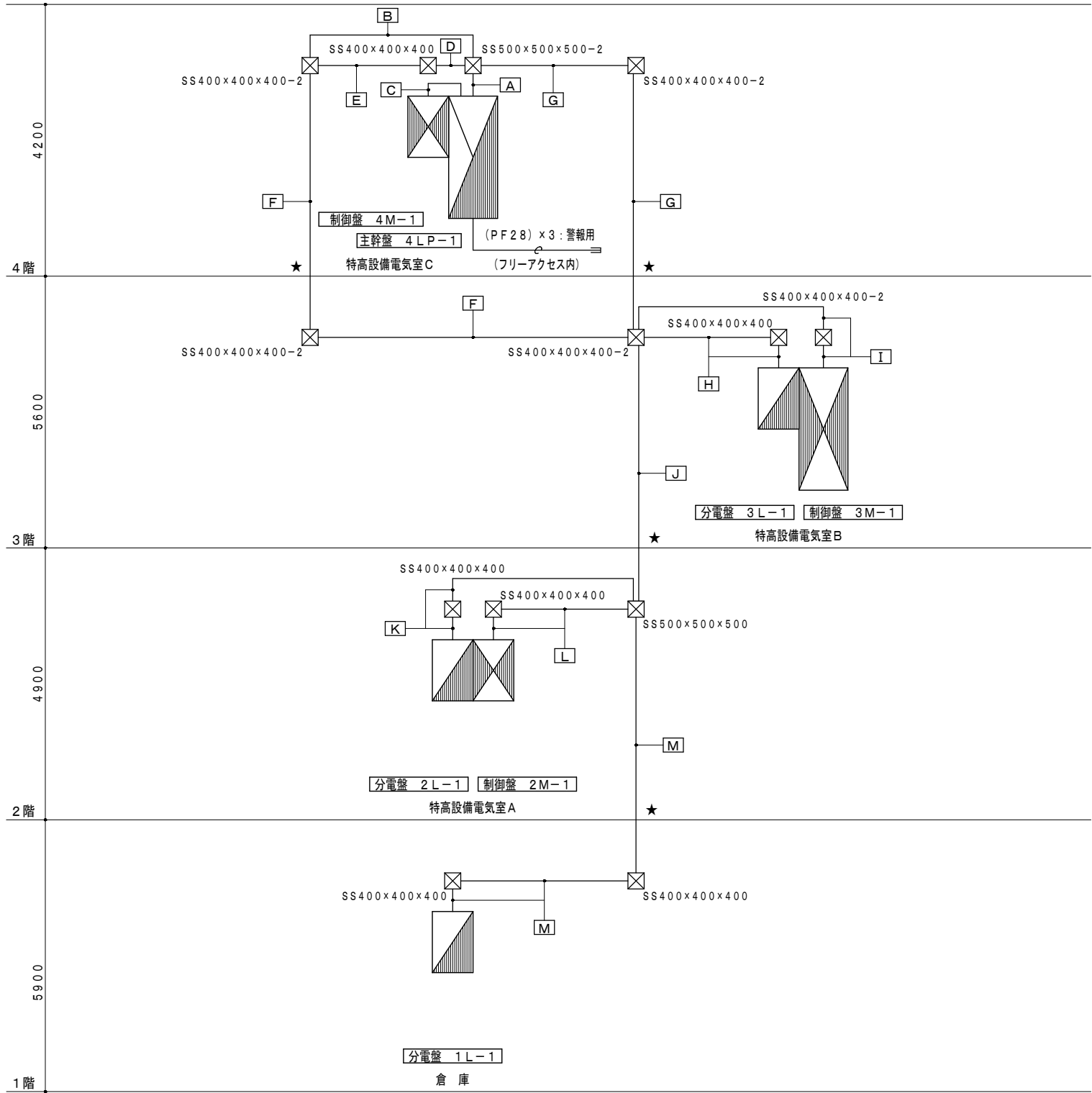
※12		EM-CE 5.5' -3CE2.0x2 (E31)	動力幹線	2M-1
		EM-CET38' E8' x2 (E51)		
		EM-CET22' (E51)	警 報	2・3M-1
		EM-CEE 2' -2C x2 (E31)		
		EM-CE 3.5' -4C (E25)	ACP-1	4LP-1
		EM-CE 3.5' -4C (E25)		

※13		EM-CE 5.5' -3CE2.0x2 (E31)	動力幹線	2M-1
		EM-CET38' E8' x2 (E51)		
		EM-CET22' (E51)	警 報	2・3M-1
		EM-CEE 2' -2C x2 (E31)		
		EM-CE 3.5' -4C (E25)	ACP-1	4LP-1
		EM-CE 3.5' -4C (E25)		

※14		EM-CE 5.5' -3CE2.0x2 (E31)	動力幹線	2M-1
		EM-CET38' E8' x2 (E51)		
		EM-CET22' (E51)	警 報	2・3M-1
		EM-CEE 2' -2C x2 (E31)		
		EM-CE 3.5' -4C (E25)	ACP-1	4LP-1
		EM-CE 3.5' -4C (E25)		

※15		EM-CE 5.5' -3CE2.0x2 (E31)	動力幹線	2M-1
		EM-CET38' E8' x2 (E51)		
		EM-CET22' (E51)	警 報	2・3M-1
		EM-CEE 2' -2C x2 (E31)		
		EM-CE 3.5' -4C (E25)	ACP-1	4LP-1
		EM-CE 3.5' -4C (E25)		

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	特高受変電室棟 動力設備配線図 (2)		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	1 / 100	図面番号	AE-11
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



幹線設備系統図

A			
EM-CE 5.5' -3CE2.0×2	(E51)	電灯幹線	1L-1
EM-CE 5.5' -3C			2L-1
EM-CE 5.5' -3C			3L-1
EM-CE 5.5' -3CE2.0×2	(E31)	動力幹線	2M-1
EM-CET38° E8° x2			3M-1
EM-CET22°			
EM-CEE 2' -2C x3	(E39)	警 報	1~3L-1
EM-CEE 2' -2C x2			2・3M-1

B			
EM-CE 5.5' -3CE2.0×2	(E51)	電灯幹線	1L-1
EM-CE 5.5' -3C			2L-1
EM-CE 5.5' -3C			3L-1
EM-CEE 2' -2C x3	(E39)	警 報	1~3L-1

C			
EM-CE 5.5' -3CE2.0×2	(E31)	動力幹線	4M-1
EM-CEE 2' -2C	(E19)		

D			
EM-CEE 2' -2C x2	(E39)	警 報	2・3M-1

E			
EM-CEE 2' -2C x2	(E31)	警 報	2・3M-1

F			
EM-CE 5.5' -3CE2.0×2	(E51)	電灯幹線	1L-1
EM-CE 5.5' -3C			2L-1
EM-CE 5.5' -3C			3L-1
EM-CEE 2' -2C x3	(E39)	警 報	1~3L-1
EM-CEE 2' -2C x2			2・3M-1

G			
EM-CE 5.5' -3CE2.0×2	(E31)	動力幹線	2M-1
EM-CET38° E8° x2	(E51)		3M-1
EM-CET22°	(E51)		

H			
EM-CE 5.5' -3CE2.0×2	(E31)	電灯幹線	3L-1
EM-CEE 2' -2C	(E19)		

I			
EM-CET38° E8° x2	(E51)	動力幹線	3M-1
EM-CET22°	(E51)		
EM-CEE 2' -2C	(E31)		

J			
EM-CE 5.5' -3CE2.0×2	(E51)	電灯幹線	1L-1
EM-CE 5.5' -3C			2L-1
EM-CE 5.5' -3CE2.0×2	(E31)	動力幹線	2M-1
EM-CEE 2' -2C x2	(E31)	警 報	1・2L-1
EM-CEE 2' -2C			2M-1

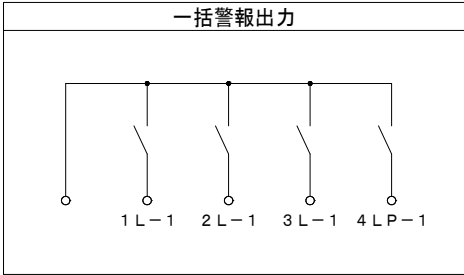
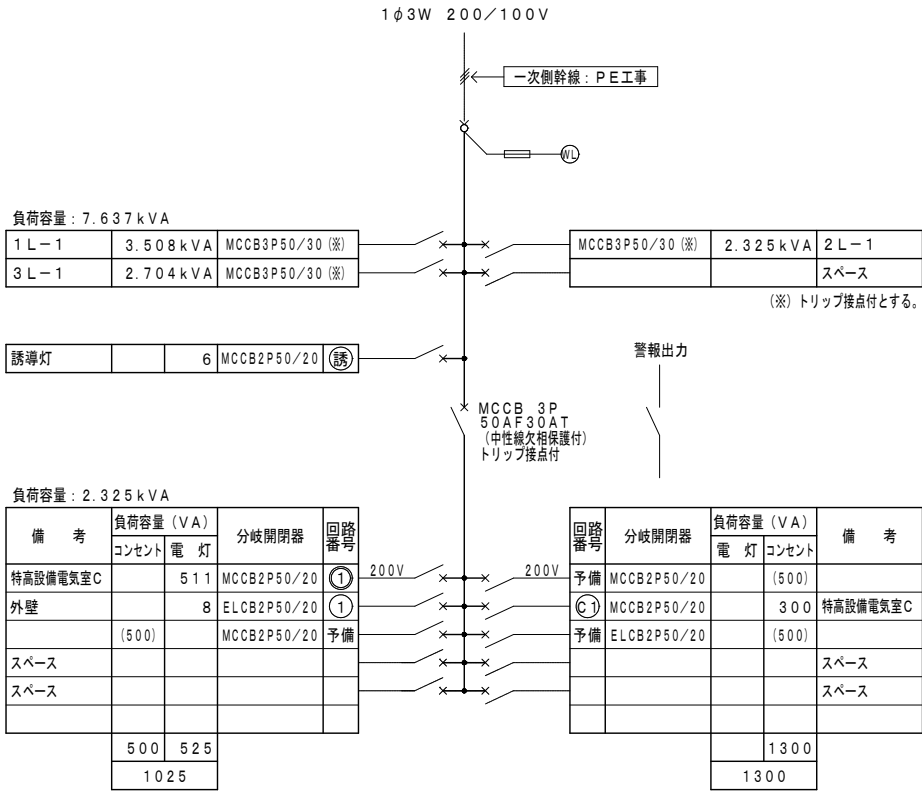
K			
EM-CE 5.5' -3CE2.0×2	(E31)	電灯幹線	2L-1
EM-CEE 2' -2C	(E19)		

L			
EM-CE 5.5' -3CE2.0×2	(E31)	動力幹線	2M-1
EM-CEE 2' -2C	(E31)		

M			
EM-CE 5.5' -3CE2.0×2	(E31)	電灯幹線	1L-1
EM-CEE 2' -2C	(E19)		

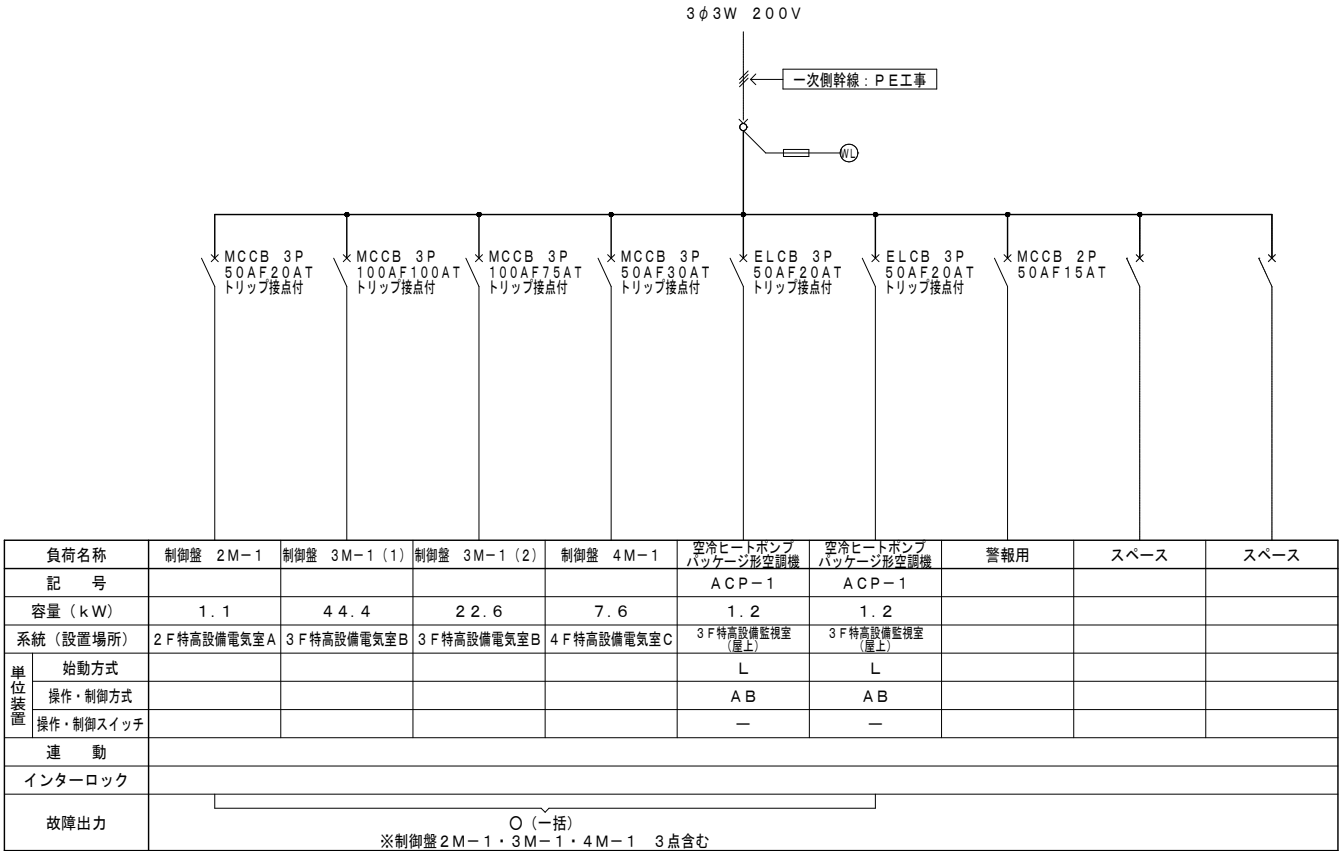
工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	幹線設備系統図		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	—	図面番号	AE-12
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

盤 名 称		主幹盤 4 L P-1	
キャビネット形式		V	
電気方式	種別	常用回路	
	相線	1 φ 3 W	3 φ 3 W
	電圧	200 / 100 V	200 V
負荷容量		2.325 kVA	78.1 kW
		8.537 kVA	
主幹器具	定格電流	30 A	—
	定格遮断電流	10 kA 以上	—



(分電盤)
特記事項
・配線用遮断器は1Pサイズ協約型とする。
・遮断器トリップ警報用の故障出力端子の取付を行う。

セパレータ

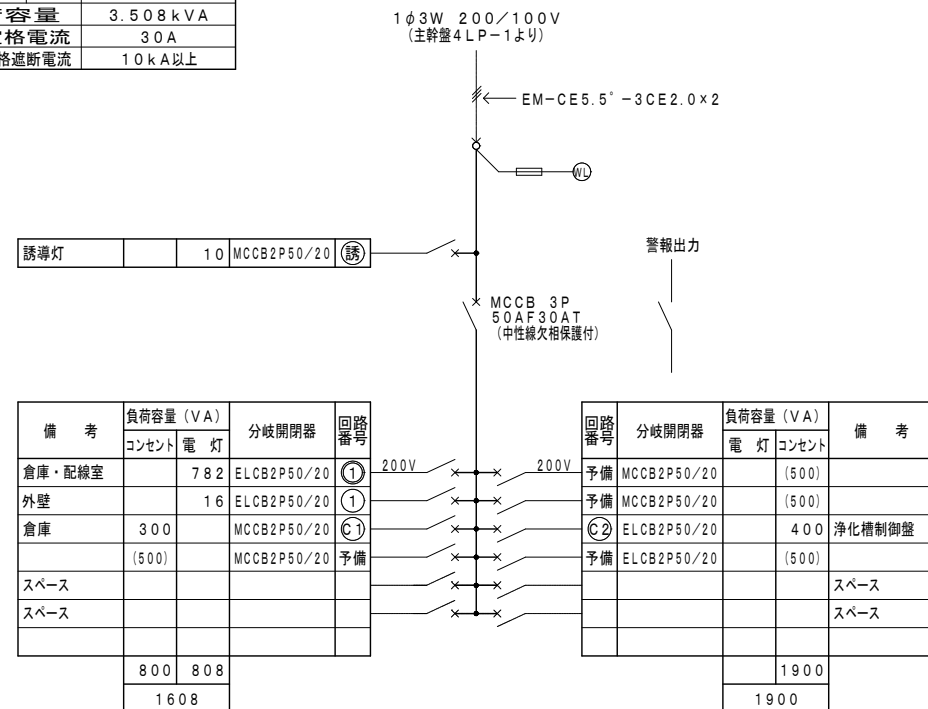


(制御盤)

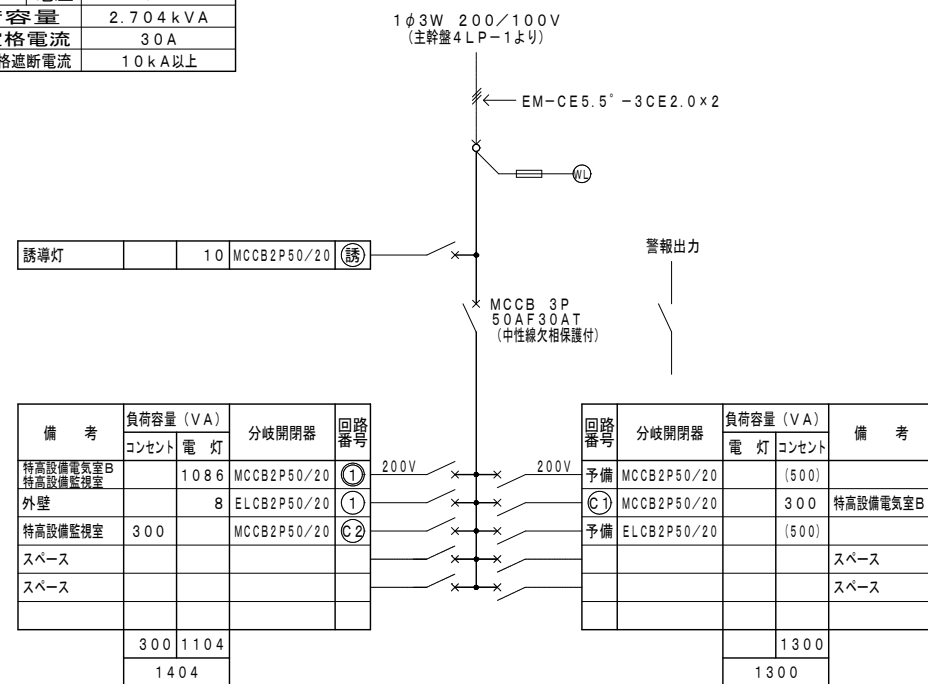
1. 凡例	2. 特記事項
L : 直入起動	・制御盤の警報はブザーとし、停止用タイマーを設ける。
3 : 手動-自動	・全てのMCCB及びELCBは警報スイッチ (AL) 付とし、盤毎の一括警報に含むものとする。
4-1 : 試験-自動	・盤一括警報用の出力端子の取付を行う。
AB : トリップ接点付遮断器 (警報表示付)	・分岐遮断器のトリップは2E故障表示と同一とする。
Ti : タイムスイッチ	・自動時に他の機器を運動させる場合は試験運転時には運動させない。
I : 連動スイッチ	・接地端子はED、ED (ELCB) を設ける。
表示 : 運転-停止-故障	
COS : 手動-自動	
DT : 遅延タイマー 60秒 (電動SS制御用)	

工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	主幹盤 単線結線図		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	—	図面番号	AE-13
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

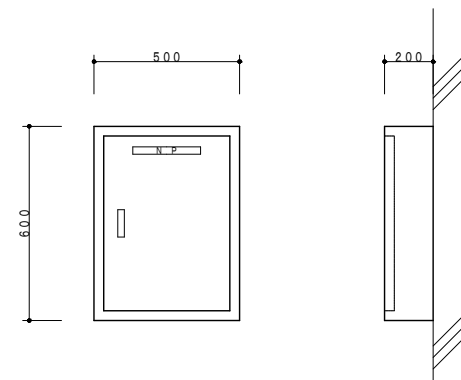
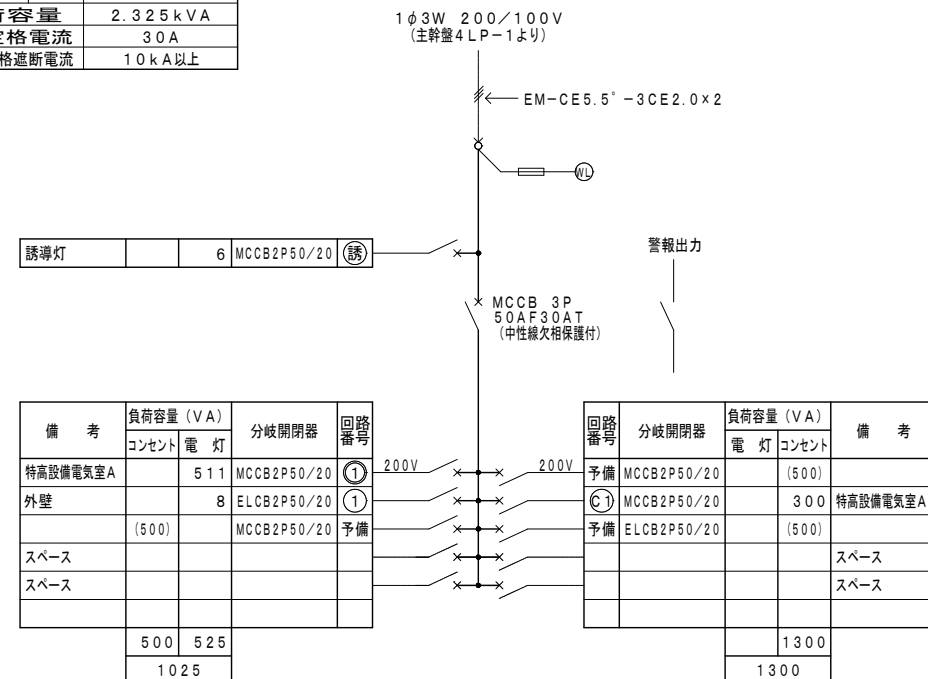
盤 名 称		1 L-1
キャビネット形式		T
電気方式	種別	常用回路
	相線	1 φ 3W
	電圧	200/100V
負荷容量		3.508 kVA
主幹具 子器具	定格電流	30 A
	定格遮断電流	10 kA以上



盤 名 称		3 L-1
キャビネット形式		T
電気方式	種別	常用回路
	相線	1 φ 3W
	電圧	200/100V
負荷容量		2.704 kVA
主幹器具	定格電流	30A
	定格遮断電流	10kA以上



盤 名 称		2 L-1
キャビネット形式		T
電気方式	種別	常用回路
	相線	1 φ 3W
	電圧	200/100V
負荷容量		2.325kVA
主器具	定格電流	30A
	定格遮断電流	10kA以上



設置場所	1 L-1 : 1 F 倉庫
	2 L-1 : 2 F 特高設備電気室
	3 L-1 : 3 F 特高設備電気室
形式	屋内露出形
箱体	鋼板製
塗装	メラミン焼付 指定色
備考	

※形状及び寸法は参考とする

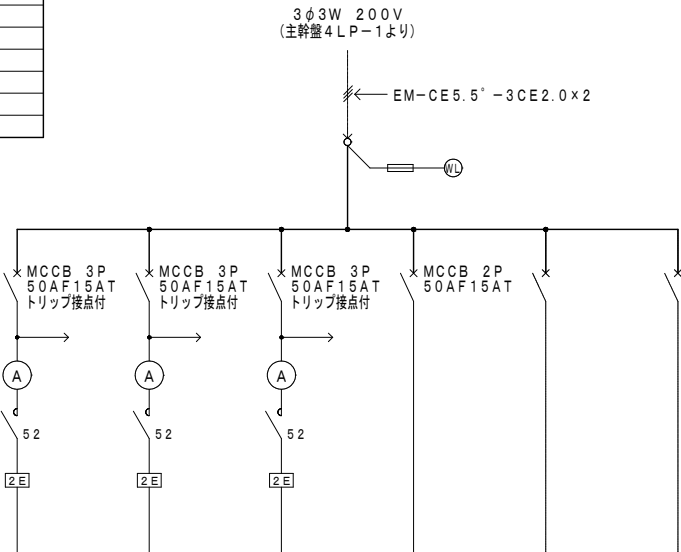
(分電盤)

特記事項

- ・配線用遮断器は1Pサイズ協約型とする。
- ・遮断器トリップ警報用の故障出力端子の取付を行う。

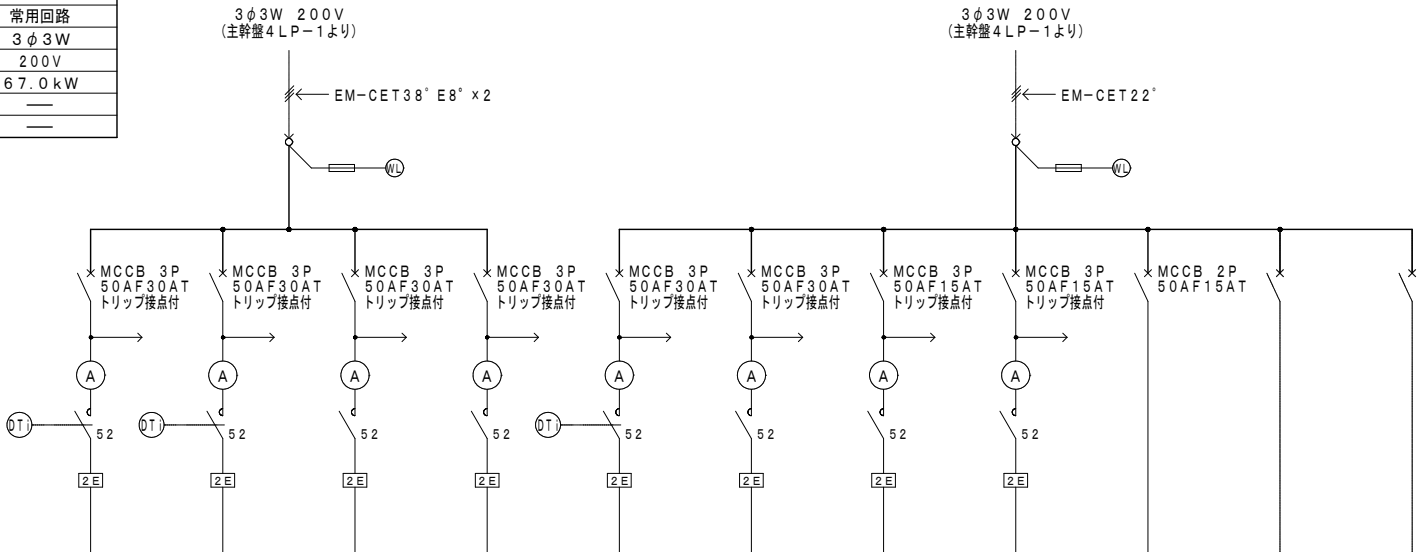
工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	分電盤 単線結線図		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	—	図面番号	AE-14
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

盤 名 称	制御盤 2M-1
キャビネット形式	W
種別	常用回路
電気方式	相線 3φ3W
電圧	200V
負荷容量	1.1kW
主幹器具	定格電流 —
	定格遮断電流 —



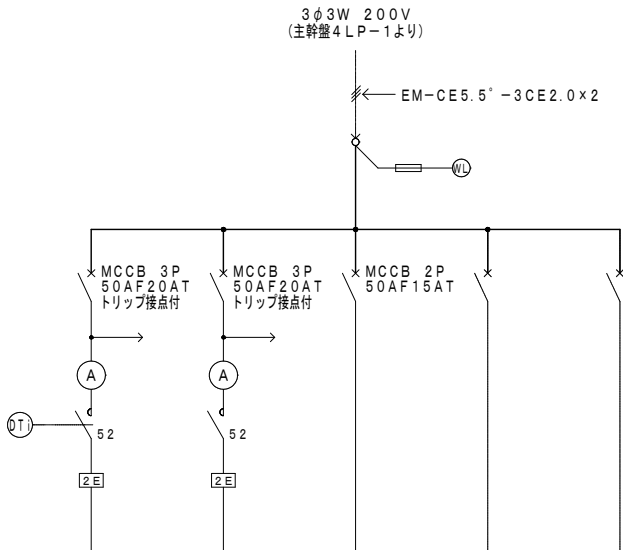
負荷名称	有圧換気扇（給気用）	有圧換気扇（排気用）	有圧換気扇（排気用）	警報用	スペース	スペース
記 号	FS-1	FE-1	FE-5			
容量（kW）	0.3	0.3	0.5			
系統（設置場所）	2F特高設備電気室A (2F特高設備電気室A)	2F特高設備電気室A (2F特高設備電気室A)	1F倉庫 (1F倉庫)			
単位装置	始動方式 L	始動方式 L	始動方式 L			
	操作・制御方式 3AB	操作・制御方式 4-1AB	操作・制御方式 3AB			
	操作・制御スイッチ Ti・Th	操作・制御スイッチ I	操作・制御スイッチ Ti			
連 動						
インターロック						
故障出力	○（一括）					

盤 名 称	制御盤 3M-1
キャビネット形式	V
種別	常用回路
電気方式	相線 3φ3W
電圧	200V
負荷容量	67.0kW
主幹器具	定格電流 —
	定格遮断電流 —



負荷名称	有圧換気扇（給気用）	有圧換気扇（給気用）	有圧換気扇（排気用）	有圧換気扇（排気用）	有圧換気扇（給気用）	有圧換気扇（排気用）	有圧換気扇（給気用）	有圧換気扇（給気用）	有圧換気扇（排気用）	警報用	スペース	スペース
記 号	FS-2	FS-2	FE-2	FE-2	FS-2	FE-2	FS-2	FE-2	FE-4			
容量（kW）	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	0.2			
系統（設置場所）	3F特高設備電気室B (3F特高設備電気室B)	3F特高設備電気室B (3F特高設備電気室B)	3F特高設備電気室B (3F特高設備電気室B)	3F特高設備電気室B (3F特高設備電気室B)	3F特高設備電気室B (3F特高設備電気室B)	3F特高設備電気室B (3F特高設備電気室B)	3F特高設備電気室B (3F特高設備電気室B)	3F特高設備電気室B (3F特高設備電気室B)	3F特高設備監視室 (3F特高設備監視室)			
単位装置	始動方式 L	始動方式 L	始動方式 L	始動方式 L	始動方式 L	始動方式 L	始動方式 L	始動方式 L	始動方式 L			
	操作・制御方式 3AB	操作・制御方式 3AB	操作・制御方式 4-1AB	操作・制御方式 4-1AB	操作・制御方式 3AB	操作・制御方式 4-1AB	操作・制御方式 3AB	操作・制御方式 4-1AB	操作・制御方式 3AB			
	操作・制御スイッチ Ti・Th	操作・制御スイッチ Ti・Th	操作・制御スイッチ I	操作・制御スイッチ I	操作・制御スイッチ Ti・Th	操作・制御スイッチ I	操作・制御スイッチ Ti	操作・制御スイッチ I	操作・制御スイッチ I			
連 動												
インターロック												
故障出力	○（一括）											

盤 名 称	制御盤 4M-1
キャビネット形式	W
種別	常用回路
電気方式	相線 3φ3W
電圧	200V
負荷容量	7.6kW
主幹器具	定格電流 —
	定格遮断電流 —



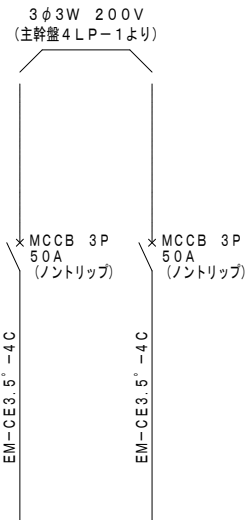
負荷名称	有圧換気扇（給気用）	有圧換気扇（排気用）	警報用	スペース	スペース
記 号	FS-3	FE-3			
容量（kW）	3.8	3.8			
系統（設置場所）	4F特高設備電気室C (4F特高設備電気室C)	4F特高設備電気室C (4F特高設備電気室C)			
単位装置	始動方式 L	始動方式 L			
	操作・制御方式 3AB	操作・制御方式 4-1AB			
	操作・制御スイッチ Ti・Th	操作・制御スイッチ I			
連 動					
インターロック					
故障出力	○（一括）				

盤 名 称	開閉器盤 1S-1
キャビネット形式	T



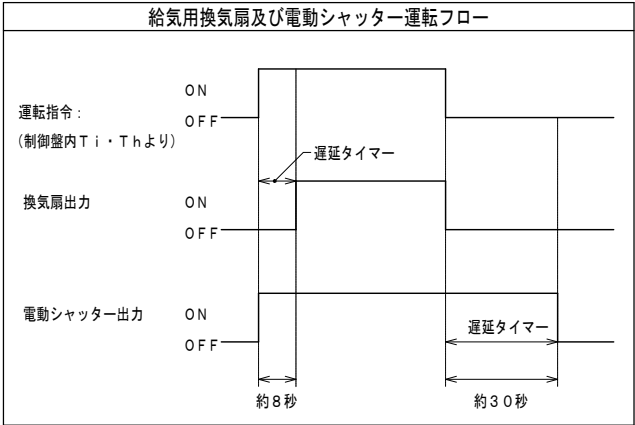
負荷名称	有圧換気扇（排気用）
記 号	FE-5
容量（kW）	0.4
系 統	1F倉庫

盤 名 称	開閉器盤 RS-1
キャビネット形式	T (WP) ステンレス製



負荷名称	空冷ヒートポンプ パッケージ形空調機	空冷ヒートポンプ パッケージ形空調機
記 号	ACP-1	ACP-1
容量（kW）	1.2	1.2
系 統	3F特高設備監視室	3F特高設備監視室

※CE-4C→1C：接地線



（制御盤）	
1. 凡例	2. 特記事項
L : 直入起動	・制御盤の警報はブザーとし、停止用タイマーを設ける。
3 : 手動-自動	・全てのMCCB及びELCBは警報スイッチ（AL）付とし、盤毎の一括警報に含むものとする。
4-1 : 試験-自動	・盤一括警報用の出力端子の取付を行う。
AB : トリップ接点付遮断器（警報表示付）	・分岐遮断器のトリップは2E故障表示と同一とする。
Ti : タイムスイッチ	・自動時に他の機器を連動させる場合は試験運転時には連動させない。
I : 連動スイッチ	・接地端子はED、ED（ELCB）を設ける。
表示 : 運転-停止-故障	
COS : 手動-自動	
OT : 遅延タイマー 60秒（電動SS制御用）	

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	制御盤 単線結線図		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	—	図面番号	AE-15
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

主幹盤 4LP-1 参考姿図

設置場所	4F 特高設備電気室C
形式	屋内自立形
箱体	鋼板製
塗装	メラミン焼付 指定色
備考	

※形状及び寸法は参考とする

制御盤 2M-1・4M-1 参考姿図

設置場所	2M-1 : 2F 特高設備電気室A 4M-1 : 4F 特高設備電気室C
形式	屋内露出形
箱体	鋼板製
塗装	メラミン焼付 指定色
備考	

※形状及び寸法は参考とする

制御盤 3M-1 参考姿図

設置場所	3F 特高設備電気室B
形式	屋内自立形
箱体	鋼板製
塗装	メラミン焼付 指定色
備考	

※形状及び寸法は参考とする

開閉器盤 1S-1 参考姿図

設置場所	1F 倉庫
形式	屋内露出形
箱体	鋼板製
塗装	メラミン焼付 指定色
備考	

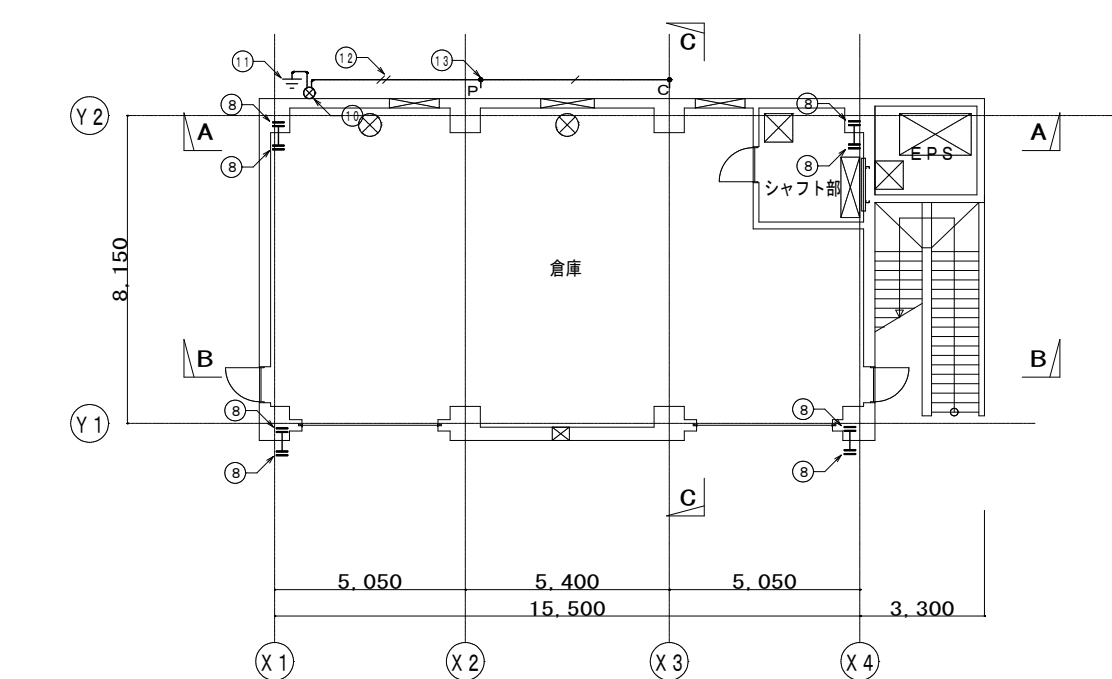
※形状及び寸法は参考とする

開閉器盤 RS-1 参考姿図

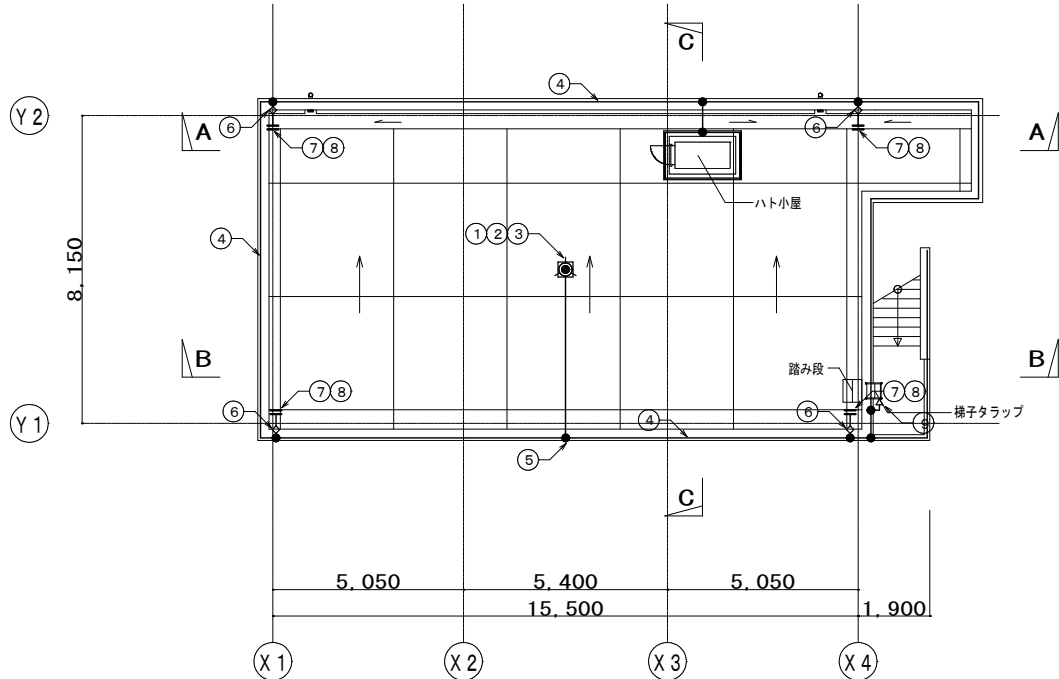
設置場所	屋 上
形式	屋外露出防水形
箱体	ステンレス製
塗装	メラミン焼付 指定色
備考	ハト小屋壁面取付

※形状及び寸法は参考とする

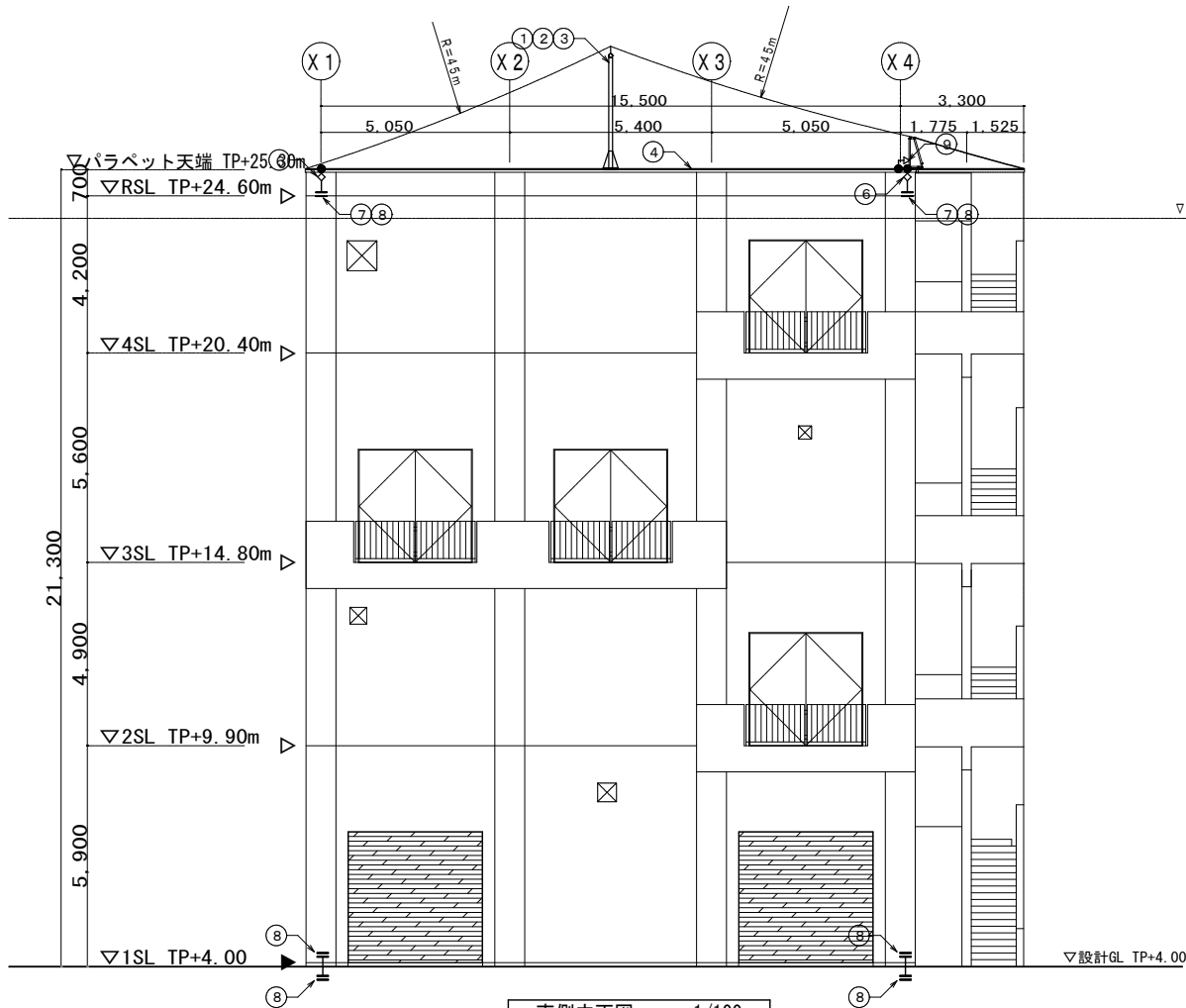
工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	主幹盤・制御盤 参考姿図		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	—	図面番号	AE-16
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



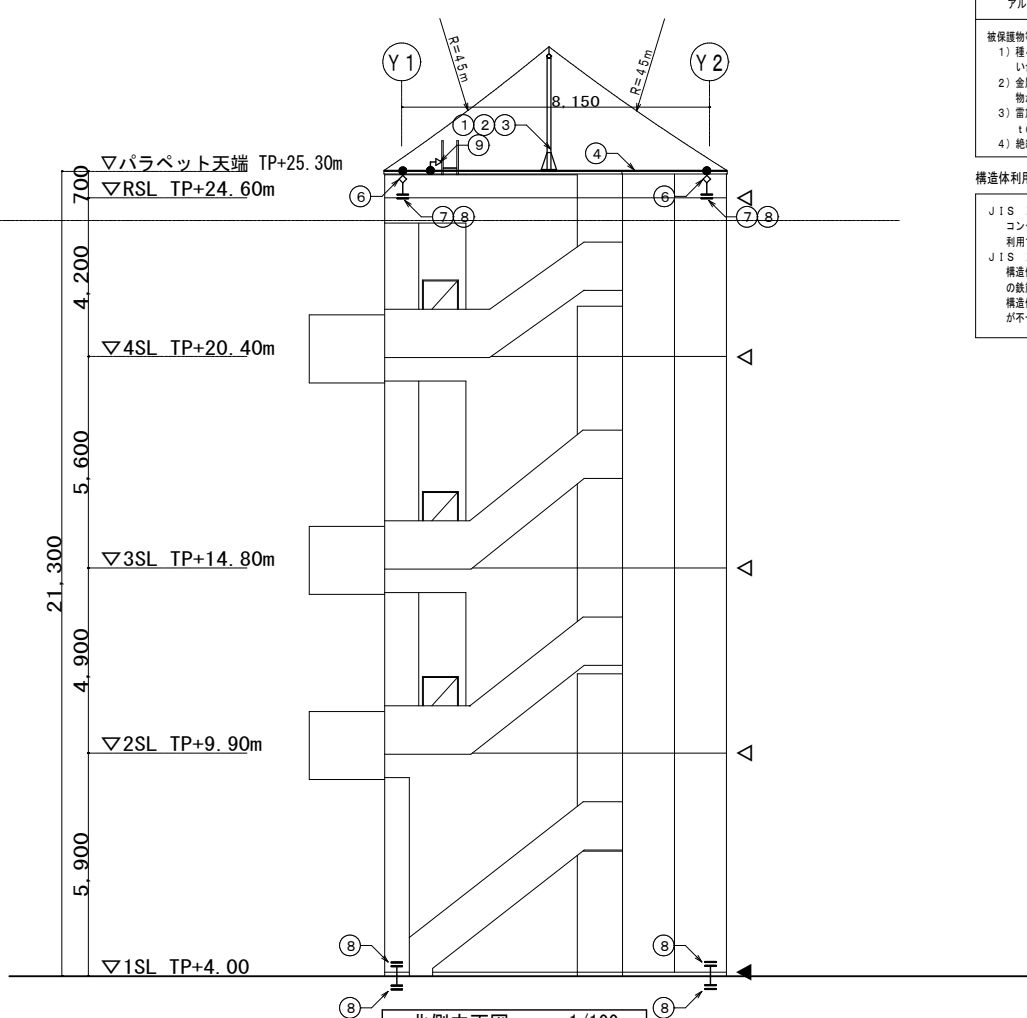
1 F 平面図 (下部) 1/100



R F 平面図 1/100



東側立面図 1/100



北側立面図 1/100

避雷設備凡例

番号	記号	名	称
1	○ T 型	突針	○ T 型
2	⦿	支持管	鋼管 (STK400) 溶融亜鉛めっき 48.6φ (3.2t) 3m
3	△	支持管取付台	(基礎: 建築工事)
4	⦿	アルミ線	20 x 19本
5	⦿	アルミ線取付金物	水平φ600 垂直φ1000
6	⦿	接地棒	14φ x 1500 x 1本
7	⦿	水切端子	14φ x 1500 x 1本
8	⦿	銅線	2.0 x 13本 (PF22) 埋込配管
9	⦿	鉄筋接続クランプ	(2条に接続)
10	⦿	接地端子	(外部階段・手摺: 受雷部代用)
11	⦿	端子ボックス	露出用 1端子 (ステンレス製) TB-SS1A
12	⦿	接地棒	14φ x 1500 x 1本
13	⦿	測定用リード線	1E 5.5mm ²
14	⦿	測定用アース棒	14φ x 300

- ※ JIS Z 9290-3:2019規定に基づく。
- ※ 接地極・構造体利用接地極
- ※ 受雷部導体の突出部は30mm以上突出させること。
- ※ 3電極法又はWennerの4電極法により大地抵抗率を測定する。

LPSクラスに応じた受雷部の配置

LPS クラス	回転球体法 R (m)	メッシュ法幅 (m)
Ⅲ	45	15 x 15

- ※ 回転球体法を適用する。
- ※ 備考1. Rは、回転球体法の球半径。

LPSクラスに応じた引下げ導線の必要箇所数

LPSクラス	平均間隔 (m)	今回建物の場合
Ⅲ	15	外周長 (m) 平均間隔 (m) 必要数 引下げ導線 (箇所数)
		57 ÷ 15 = 3.8 ≦ 4

構造体受雷部利用の材料及び使用条件

材料	厚さ t (mm)	厚さ t' (mm)	断面積 (mm ²)
鉄 (ステンレス・亜鉛めっき鋼)	4	0.5	50
銅	5	0.5	50
アルミニウム合金	7	0.65	50

- 被保護物を覆う金属板として、1) 及び4) を満足し、かつ、2) 又は3) を満足しなければならない。
- 1) 種々の部品の電気的連続性が、恒久的であるもの (例 貫通ろう付、溶接、クランプ、圧着、縫い合せ、ねじ止め又はボルト締め)
- 2) 金属板が雷放電によって穴が空いても差し支えない構造の場合、又は金属板の下部に着火する可燃物がない場合、金属板の厚さが t' の値以上のもの
- 3) 雷放電による開孔及び局所加熱 (ホットスポット) を懸念する場合、金属板の厚さが t の値以上のもの
- 4) 絶縁物で覆われていない

構造体利用接地極

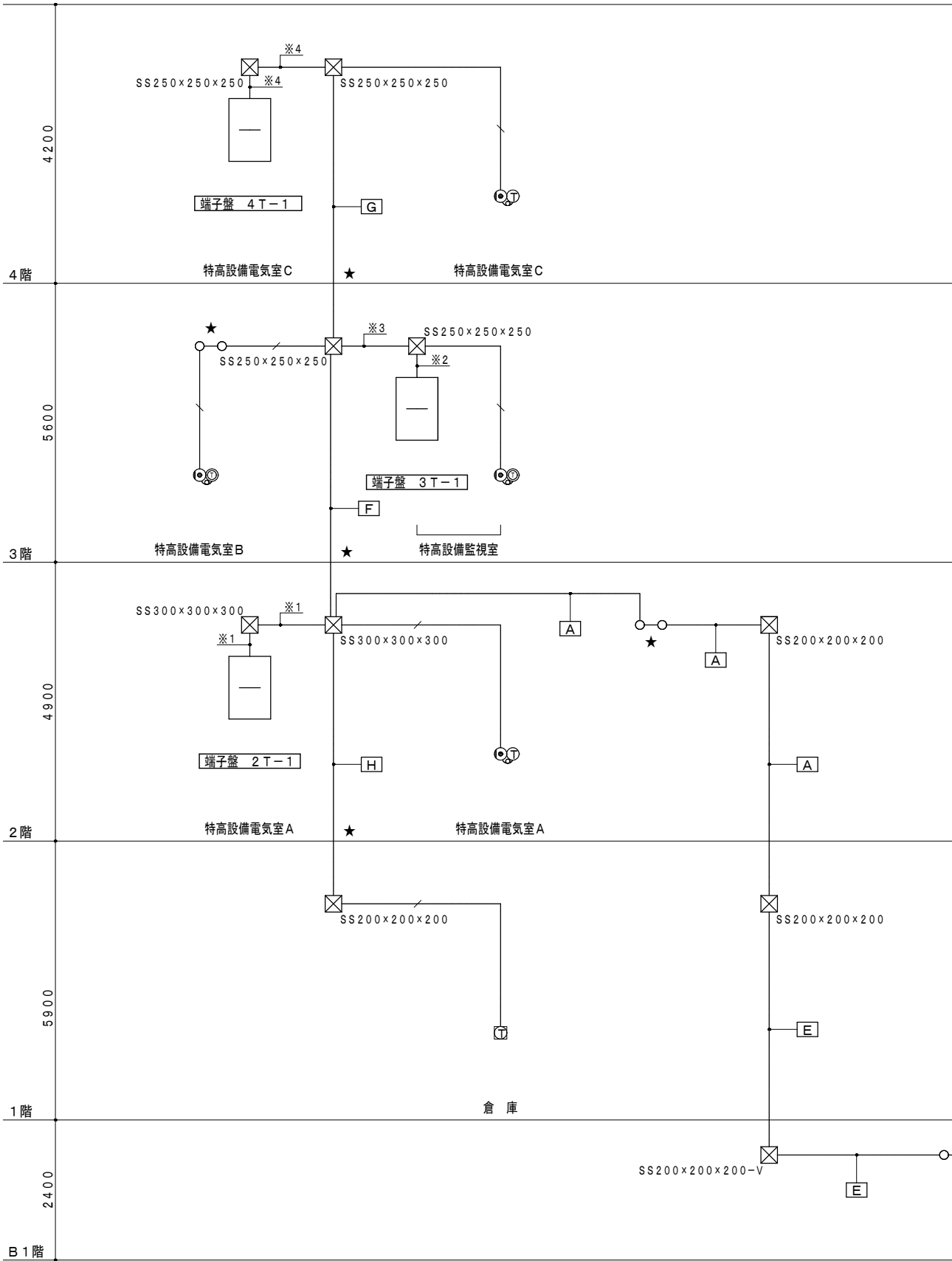
- JIS Z 9290-3:2019 5.4.4 引用
- コンクリート基礎内の相互接続した鉄筋、又は他の適切な埋設金属構造物は、接地極として利用することが望ましい。
- JIS Z 9290-3:2019 解説 4.6.3 引用
- 構造体利用接地極では、建築物等の地下部分構造体の鉄筋又は鉄骨を接地極とし、地上部分の鉄筋又は鉄骨を引下げ導線に利用する方法が最も望ましい。
- 構造体利用接地極と構造体利用引下げ導線の接続部分で、金属製構成部材相互の電気的接続が不十分な場合があるので建築物の建設時に相互の電気的連続性を確認する必要がある。

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	特高受変電室棟 雷保護設備配線図		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1/100	図面番号	AE-17
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

注 記

新設特高受変電棟－内線電話機（多機能：2台・一般：3台）増設
・管理棟－既設電話主装置（多機能内線32回線・一般内線：4回線）
新設特高受変電棟の内線電話増設に伴い、予備回線への結線・調整を行う。

特高受変電棟



ボタン電話機 仕様・参考姿図

◎	ボタン電話機（多機能電話機）	2台
①	ボタン電話機（一般電話機）	3台

形 状	壁掛形
ディスプレイ	日時・ダイヤルモニター・通話時間等を表示
機 能	オンブツダイヤル、保留、転送、再呼サービスクラス等
備 考	・壁掛形で設置する場合、落下防止チェーン付とする ・形状は参考とする

本 体	合成樹脂製
扉	合成樹脂製
窓	アクリル製
保護構造	IP24C以上

端子盤 参考姿図

2T-1:	特高設備電気室A
3T-1:	特高設備監視室
4T-1:	特高設備電気室C

設置場所	屋内露出形
箱体	銅板製
塗装	メラミン焼付 指定色
備考	

[A]		
EM-CCP-P	0.65-10P	(E25) 2T-1
[B]		
EM-CCP-P	0.65-10P	(既設ラック内) 2T-1
[C]		
EM-CCP-P	0.65-10P	(既設ダクト内) 2T-1
[D]		
EM-CCP-P	0.65-10P	(FEP150:PE工事) 2T-1
[E]		
EM-CCP-P	0.65-10P	(HIVE22) 2T-1
[F]		
EM-TKEE	0.5-10P	(E25) 3・4T-1
[G]		
EM-TKEE	0.5-10P	(E25) 4T-1
[H]		
EM-BTIEE	0.4-2P	(E19) 2T-1

※1		
EM-CCP-P	0.65-10P	(E25) 2T-1
EM-BTIEE	0.4-2P×2	(E25)
EM-TKEE	0.5-10P	(E25) 3・4T-1
※2		
EM-TKEE	0.5-10P	(E25) 3T-1
EM-BTIEE	0.4-2P×2	(E25)
※3		
EM-TKEE	0.5-10P	(E25) 3T-1
EM-BTIEE	0.4-2P	(E19)
※4		
EM-TKEE	0.5-10P	(E25) 4T-1
EM-BTIEE	0.4-2P	(E19)

端子盤リスト

盤名称	形 状	電 話
2～4T-1	キャビネット形式：T (銅板製屋内露出形)	10P実装 (内部木板付)

凡 例

記 号	名 称	摘 要
☒	プルボックス	形式・寸法は傍記による
□N	ジョイントボックス	ノズルプレート付
—○—	露出丸形ボックス	

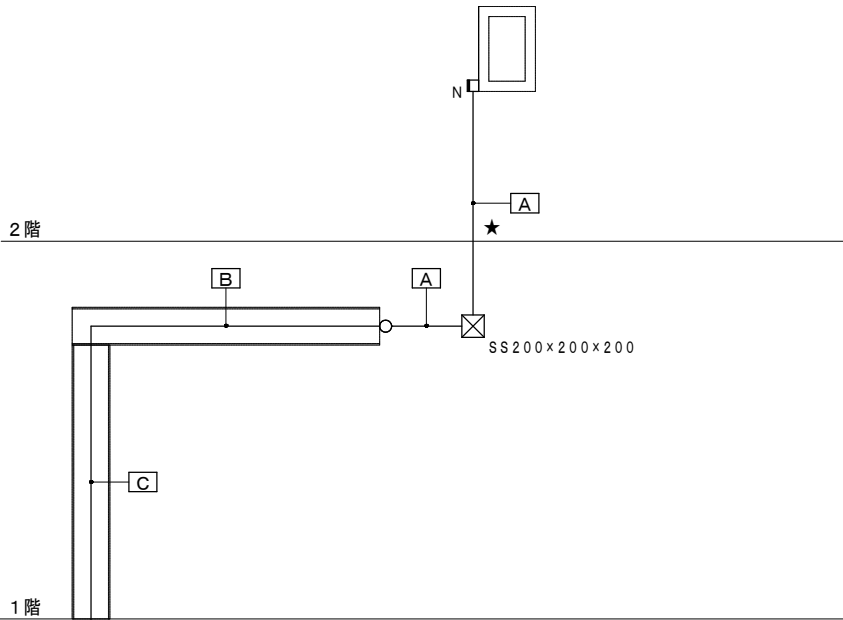
特 記 事 項

1. 図中特記なき配管配線は下記とする
—/— EM-BTIEE 0.4-2P (E19)

2. 防火区画貫通措置
★ : 防火区画の貫通部を示す

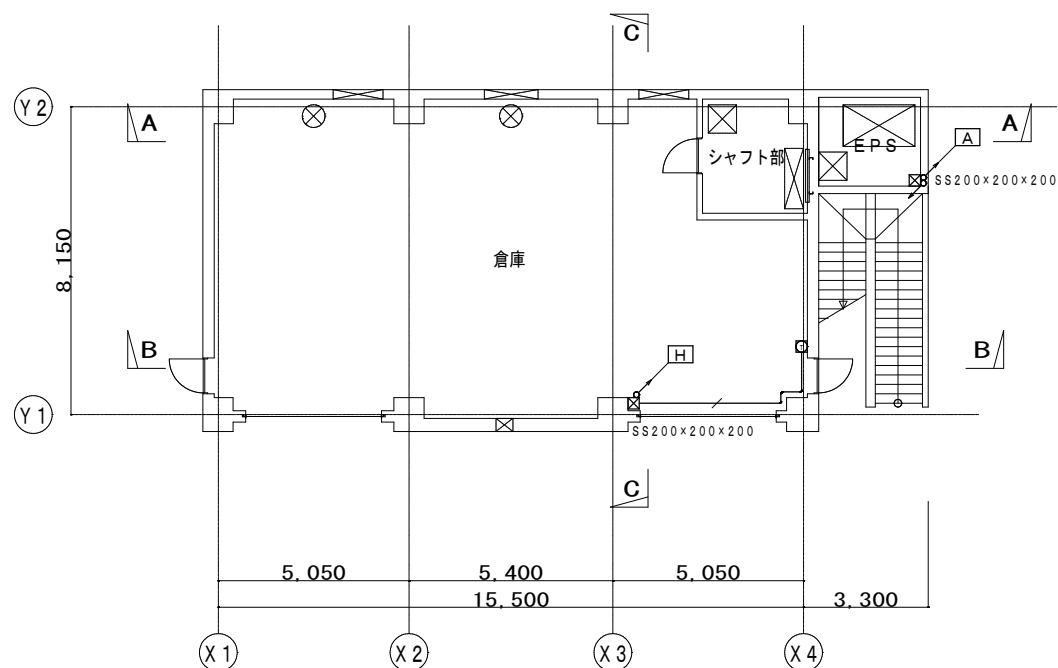
管理棟

既設電話主装置（多機能：32回線・一般：4回線）
新設特高受変電棟の内線電話（多機能：2台・一般3台）増設に伴い、予備回線への結線・調整を行う。

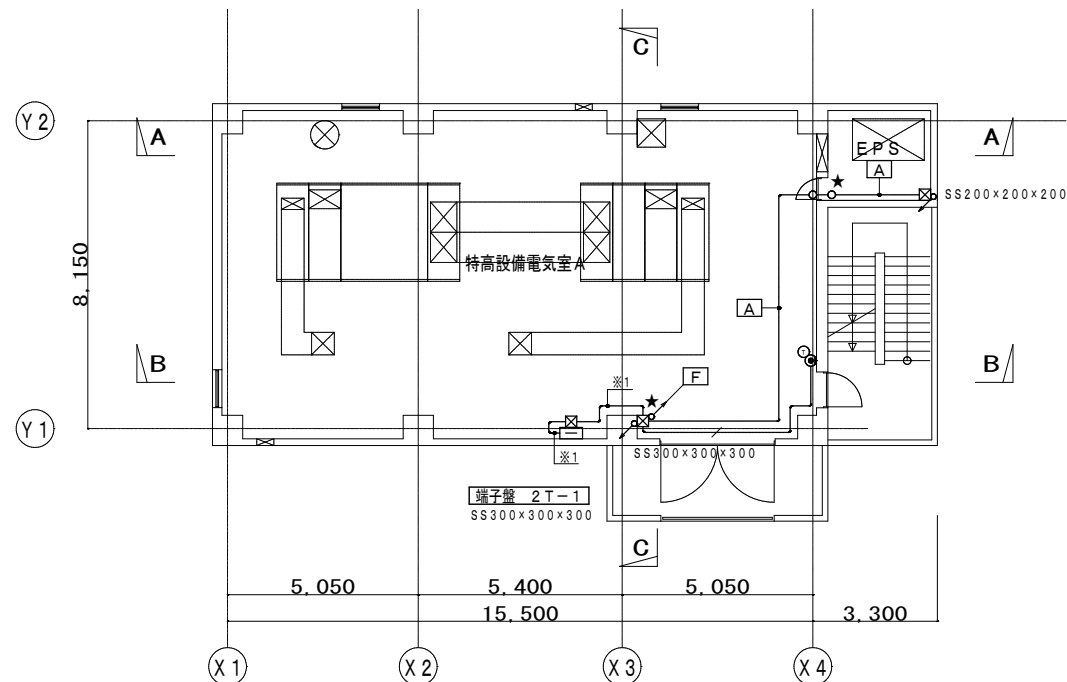


構 内 交 換 設 備 系 統 図

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	構内交換設備系統図		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	—	図面番号	AE-19
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

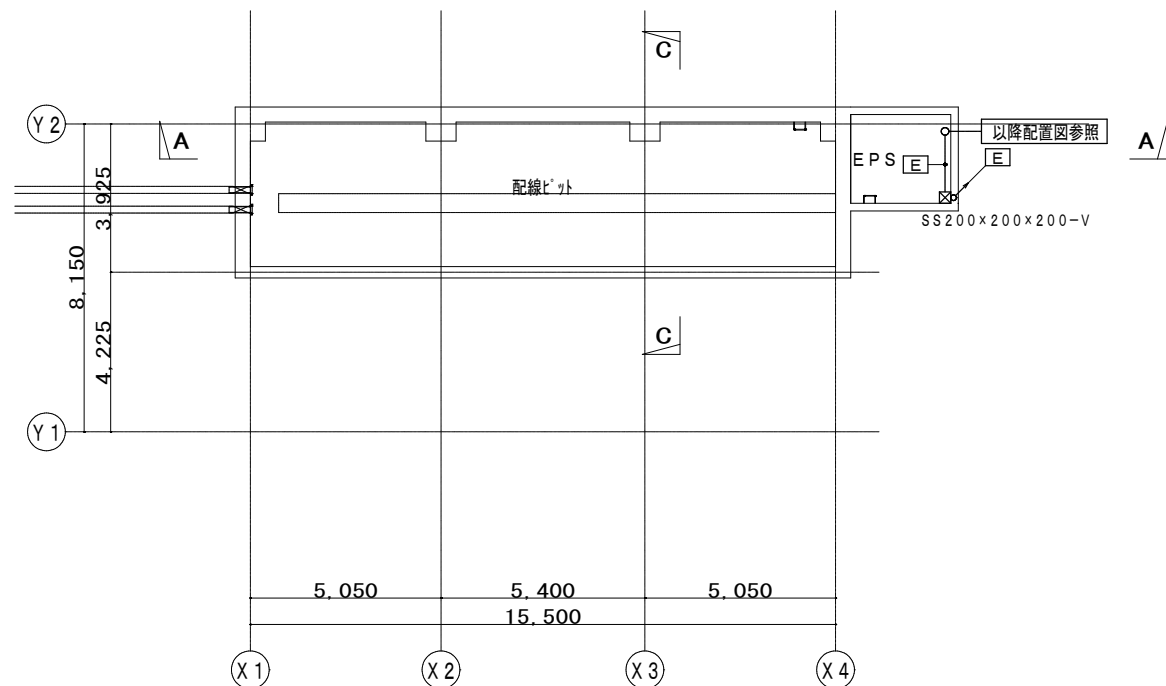


1 F 平面図 (下部) 1/100

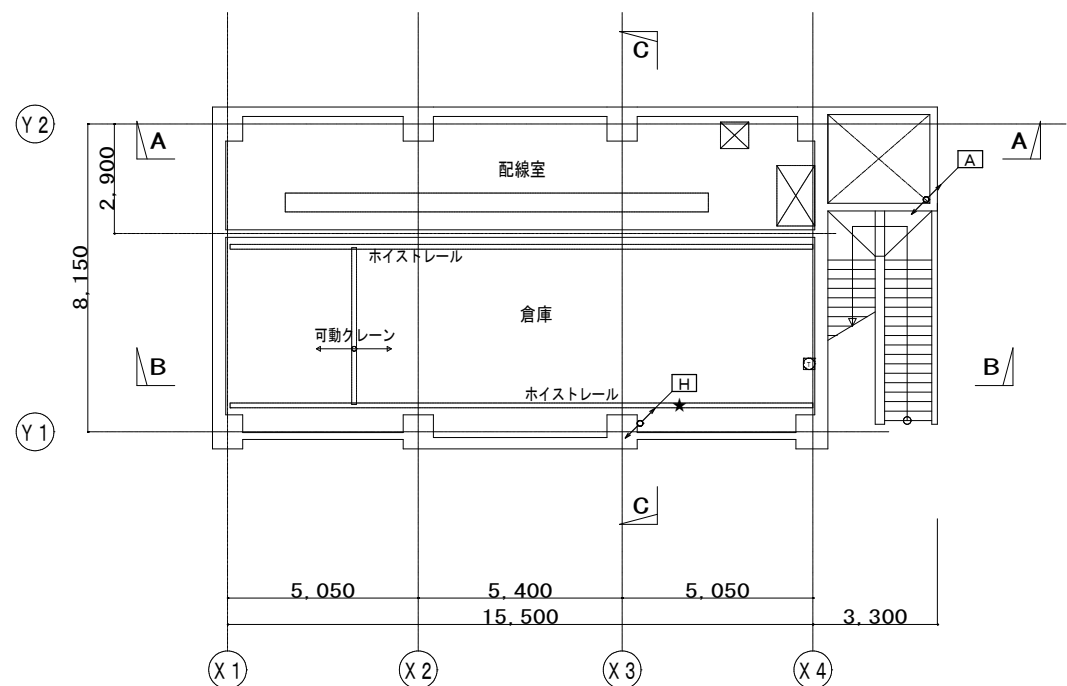


2 F 平面図 1/100

A	EM-CCP-P 0.65-10P	(E25)	2T-1
	EM-CCP-P 0.65-10P (HIVE22)		2T-1
E	EM-CCP-P 0.65-10P	(E25)	2T-1
	EM-TKEE 0.5-10P	(E25)	3・4T-1
F	EM-TKEE 0.5-10P	(E25)	3・4T-1
	EM-BTIEE 0.4-2P	(E19)	2T-1
H	EM-BTIEE 0.4-2P	(E19)	2T-1
	EM-TKEE 0.5-10P	(E25)	3・4T-1



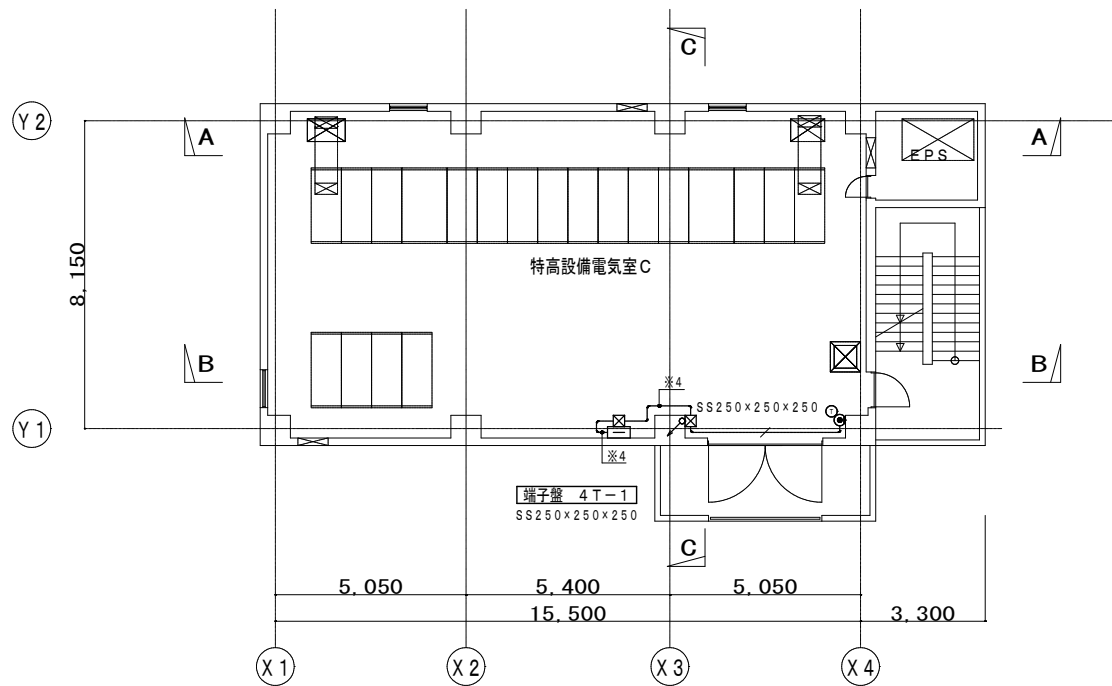
B 1 F 平面図 1/100



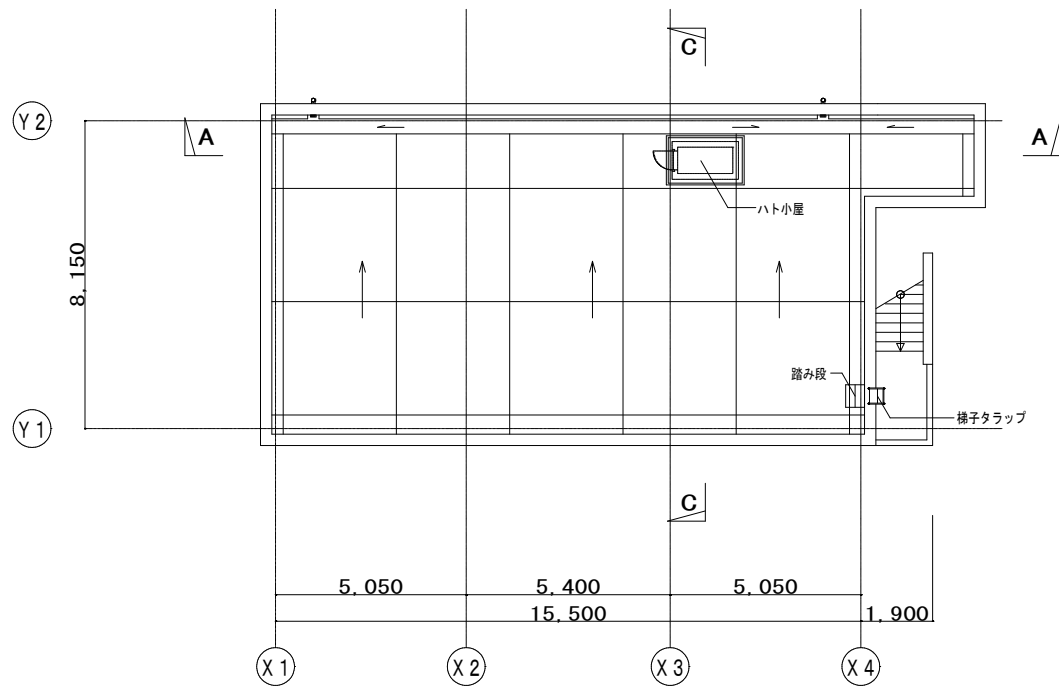
1 F 平面図 (上部) 1/100

※1			
EM-CCP-P 0.65-10P	(E25)	2T-1	
EM-BTIEE 0.4-2Px2	(E25)		
EM-TKEE 0.5-10P	(E25)	3・4T-1	

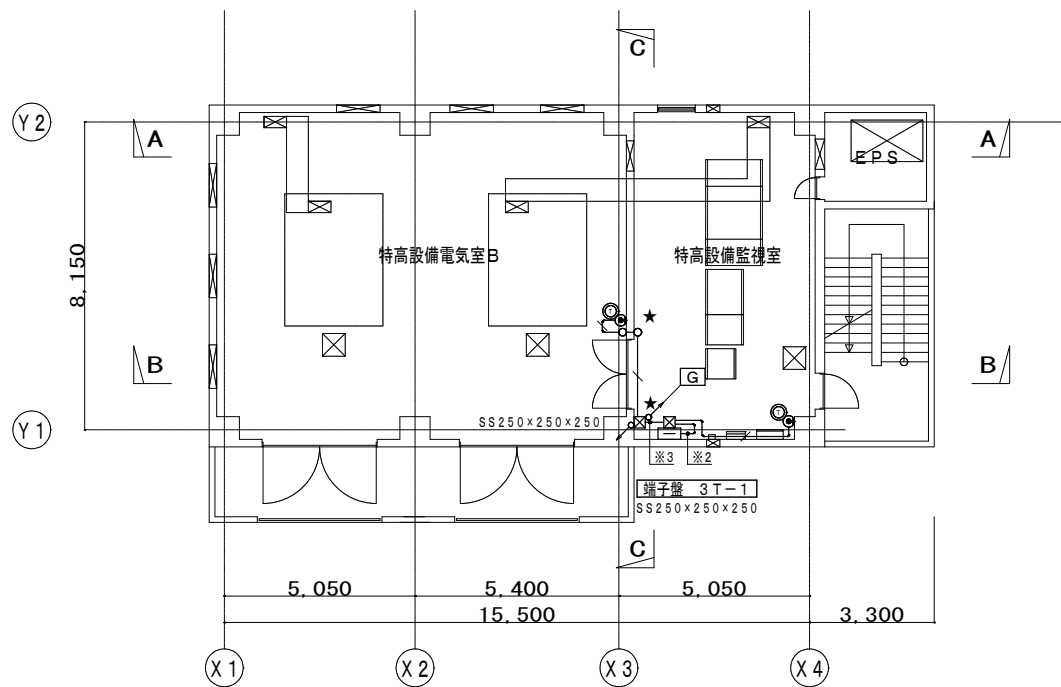
工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	特高変電室棟 構内交換設備配線図 (1)		
作成年月日	令和 8 年度		
縮 尺	1 / 1 0 0	図面番号	AE-20
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



4 F 平面図 1/100



R F 平面図 1/100



3 F 平面図 1/100

凡 例

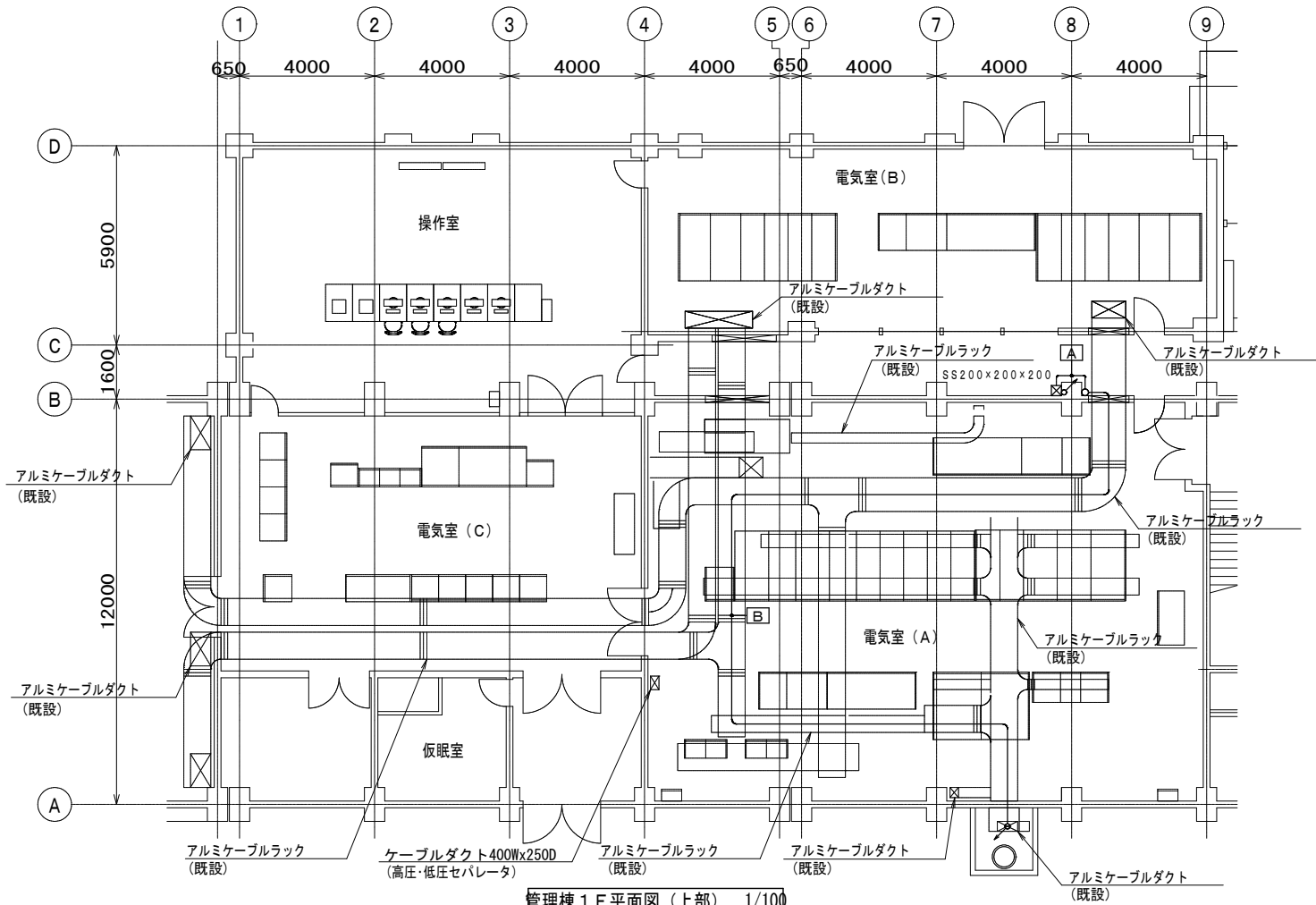
記 号	名 称	摘 要
≡	端子壁	
⊙	ボタン電話機 (一般)	
□	ボタン電話機 (一般)	ボタン電話機収納箱付
⊙	ボタン電話機 (多機能)	
⊙	電話用アウトレット	6極4芯
☒	ブルボックス	形式・寸法は傍記による
—○—	露出丸形ボックス	

特 記 事 項

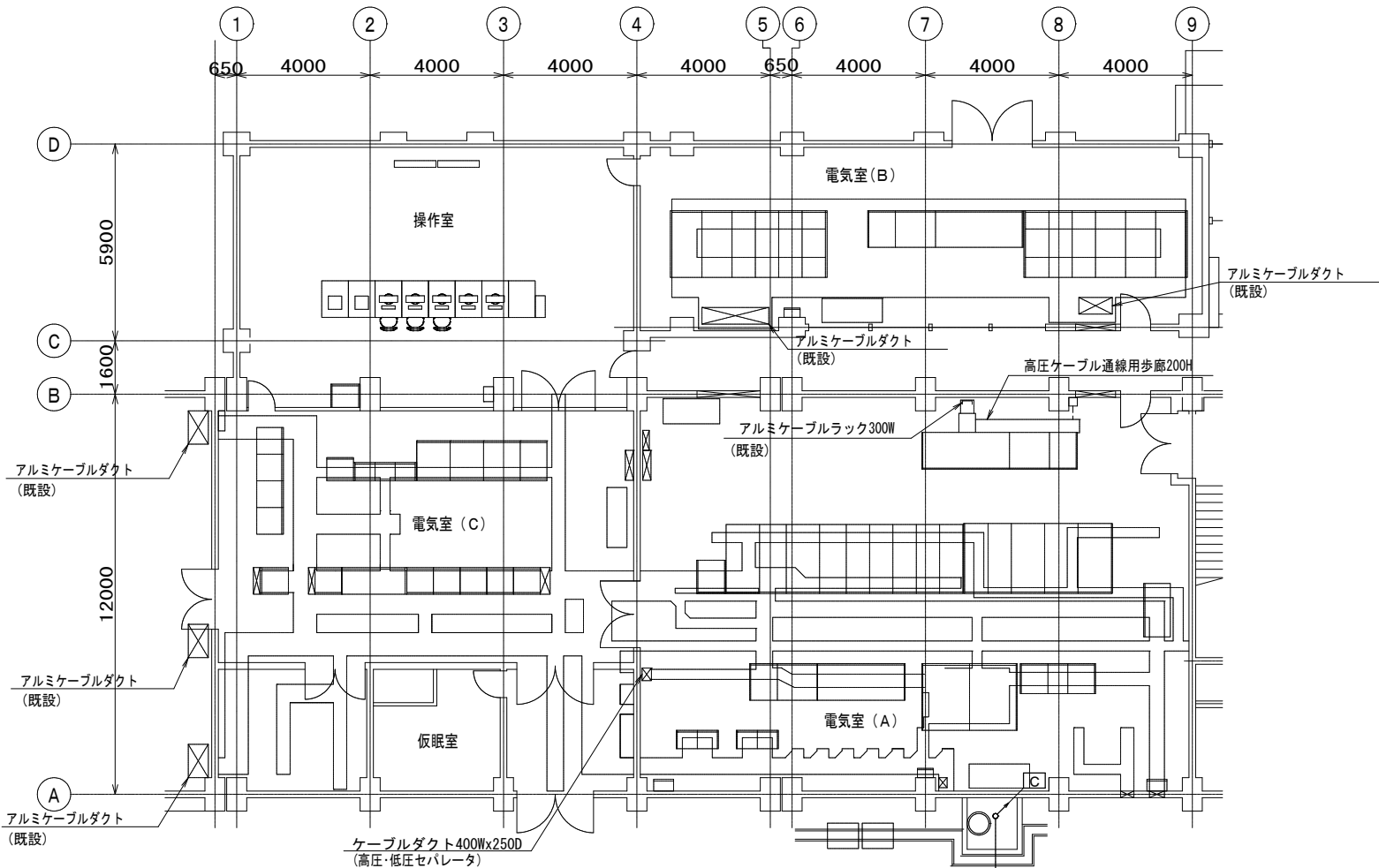
- 図中特記なき配管配線は下記とする
EM-BTIEE 0.4-2P (E19)
- 防火区画貫通措置
★ : 防火区画の貫通部を示す

※2	EM-TKEE 0.5-10P (E25)	3T-1
EM-BTIEE 0.4-2P×2 (E25)		
※3	EM-TKEE 0.5-10P (E25)	3T-1
EM-BTIEE 0.4-2P (E19)		
※4	EM-TKEE 0.5-10P (E25)	4T-1
EM-BTIEE 0.4-2P (E19)		

工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	特高変電室棟 構内交換設備配線図 (2)		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	1 / 100	図面番号	AE-21
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

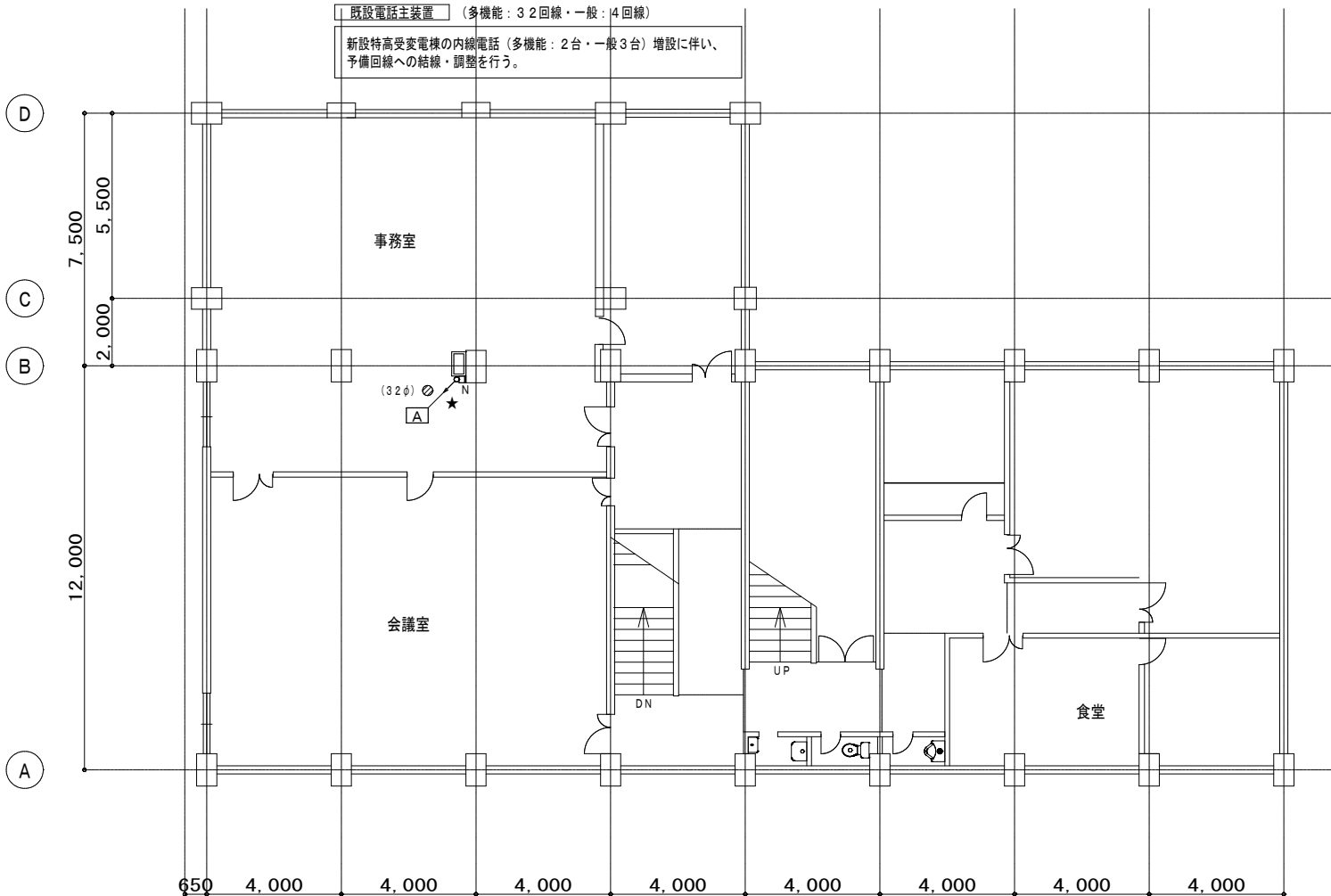


管理棟 1 F 平面図 (上部) 1/100



管理棟 1 F 平面図 (下部) 1/100

以降配置図参照



管理棟 2 F 平面図 1/100

凡 例

記 号	名 称	摘 要
☒	ブルボックス	形式・寸法は傍記による
□ _N	ジョイントボックス	ノズルプレート付
—○—	露出丸形ボックス	
◎	はつり工事 機械貫通	(**φ) : 貫通サイズを示す

特 記 事 項

1. 防火区画貫通措置
★ : 防火区画の貫通部を示す

注 記

新設特高受変電棟-内線電話機 (多機能 : 2 台・一般 : 3 台) 増設
・管理棟-既設電話主装置 (多機能内線 3 2 回線・一般内線 : 4 回線)
新設特高受変電棟の内線電話増設に伴い、予備回線への結線・調整を行う。

A
EM-CCP-P 0.65-10P (E25) 2T-1

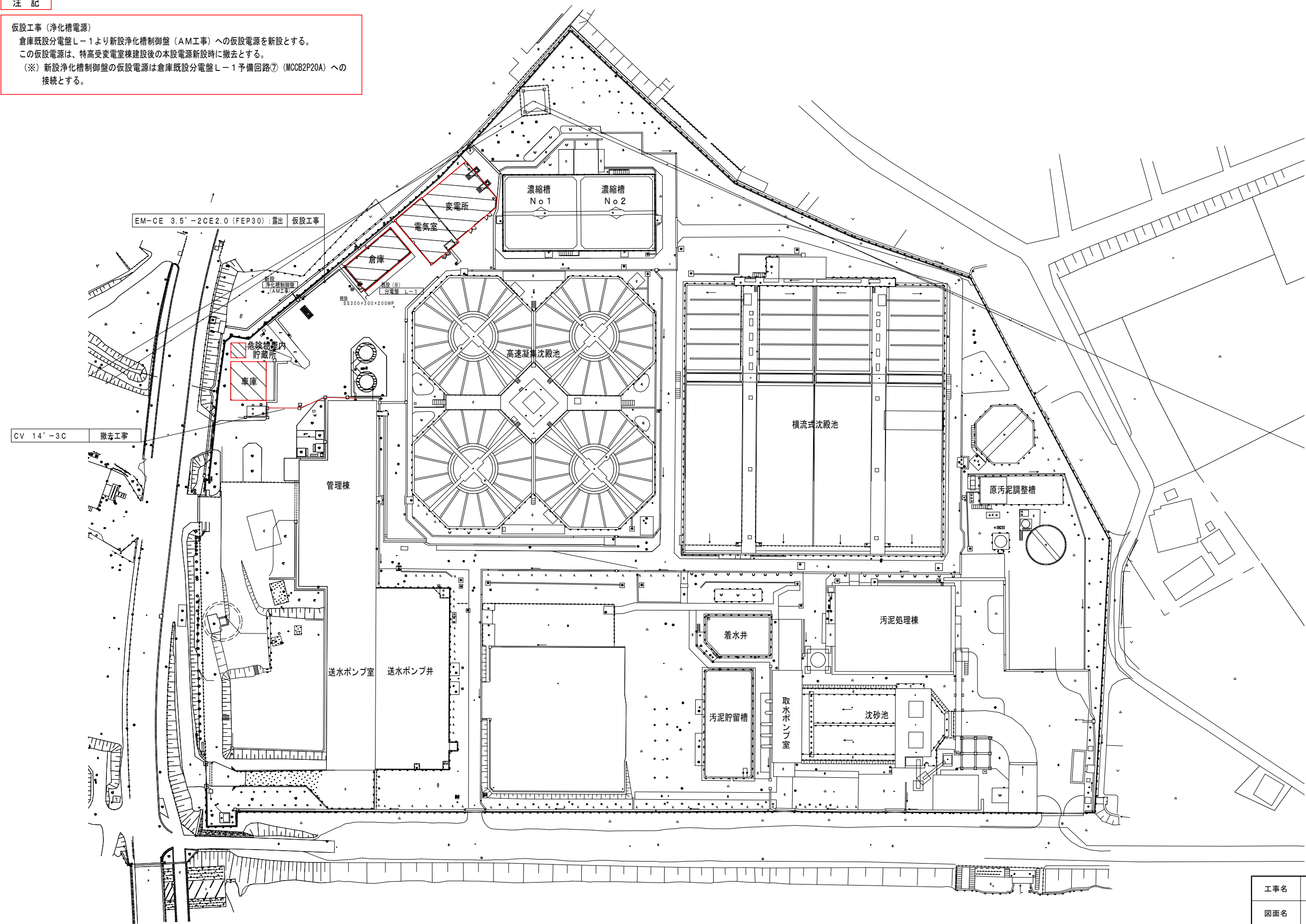
B
EM-CCP-P 0.65-10P (既設ラック内) 2T-1

C
EM-CCP-P 0.65-10P (既設ダクト内) 2T-1

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	既設管理棟 構内交換設備配線図		
作成年月日	令和 8 年度		
縮 尺	1 / 1 0 0	図面番号	AE-22
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

注 記

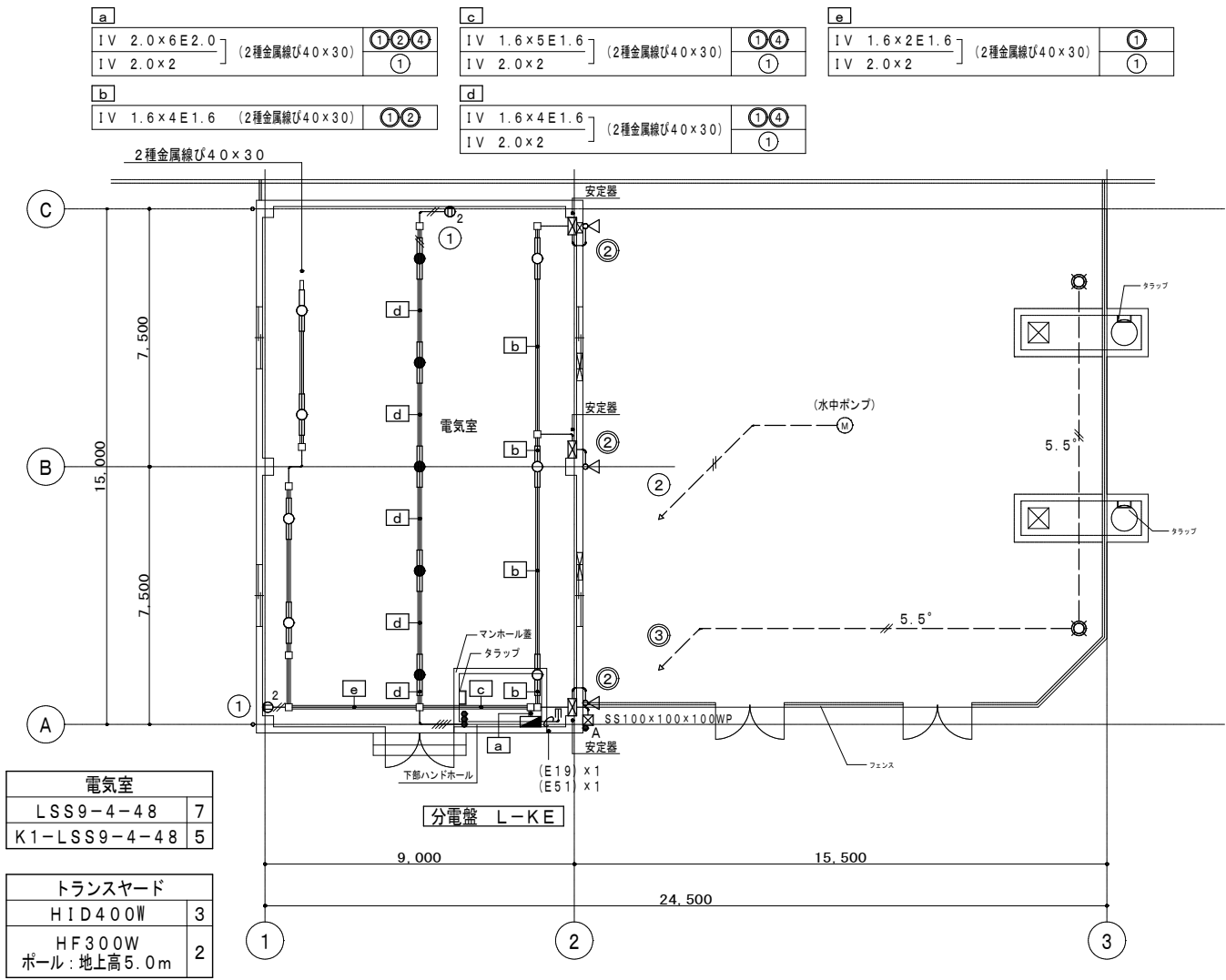
仮設工事（浄化槽電源）
倉庫既設分電盤L-1より新設浄化槽制御盤（AM工事）への仮設電源を新設とする。
この仮設電源は、特高受変電室棟建設後の本設電源新設時に撤去とする。
（※）新設浄化槽制御盤の仮設電源は倉庫既設分電盤L-1 予備回路⑦（MCCB2P20A）への
接続とする。



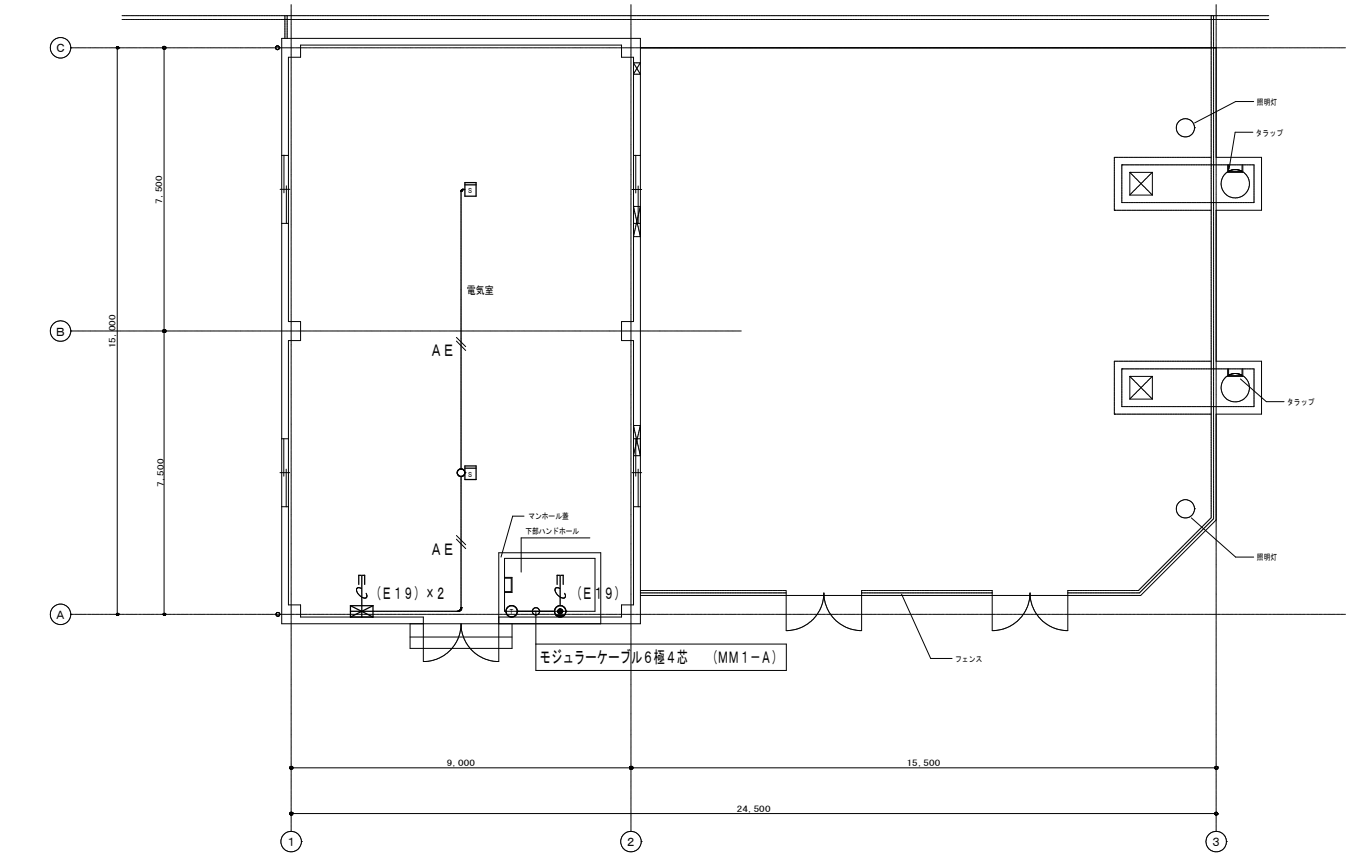
凡 例
: 今回対象（撤去）範囲を示す

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	全体配置図（撤去・仮設工事）		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	1／500	図面番号	AE-23
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

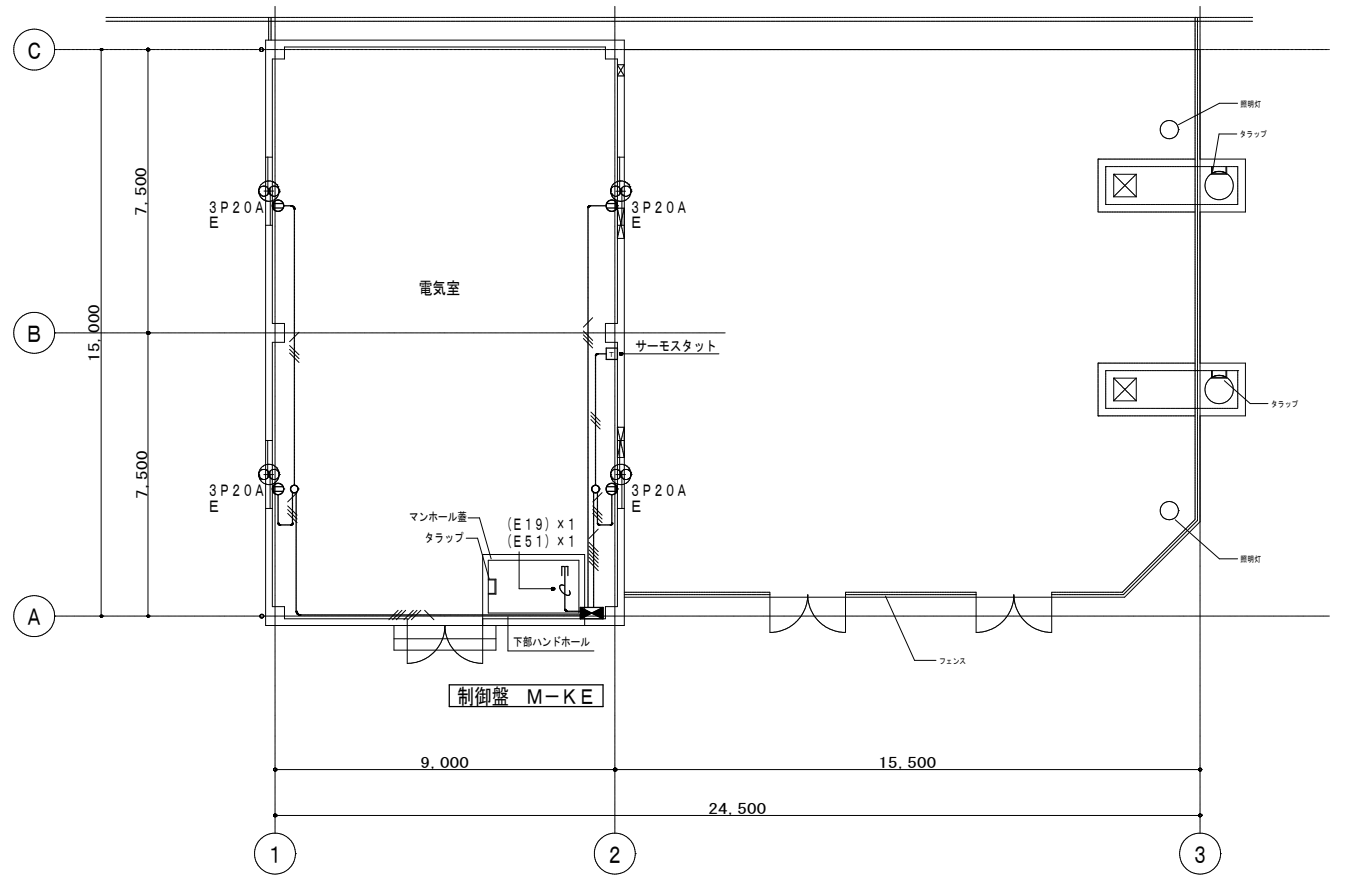
図中の器具類及び配管配線（コンクリート埋込部の電線管は除く）は全て撤去とする。



電気室	
LSS9-4-48	7
K1-LSS9-4-48	5
トランスヤード	
HID400W	3
HF300W	
ポール：地上高5.0m	2



トランスヤード	
HID400W	3
HF300W	
ポール：地上高5.0m	2



凡 例

記 号	名 称	摘 要
(配管配線)		
—	床隠べい配線	
—	露出配線	
—○—	露出丸形ボックス	
(電灯)		
□○	LED灯 (露出形)	天井付
□●	LED灯 (露出形)	天井付 電池内蔵型
●	タンブラスイッチ	1P15A×1 金属製プレート
⊙ ₂	壁付コンセント	2P15A×2 //
●A	自動点滅器	
(動力)		
⊙ _{3P} AE	壁付コンセント	3P20A×1 接地極付 金属製プレート
⊙	有圧換気扇	AM工事
(構内交換)		
①	ボタン電話機	
⊙	電話用アウトレット	モジュージャック 樹脂製プレート
(火災報知)		
⊙	火災受信機	P型2級 3回線
⊙	煙感知器	2種 露出形

特 記 事 項

1. 図中特記なき配管配線は下記とする。		
電灯設備		
—	IV 2.0×2	(E19) : 床隠べい
— _{5.5°}	IV 5.5°×2	(E19) : 床隠べい
—	IV 1.6×4	(E19) : 露出
—	IV 1.6×2E1.6	(E19) : 露出
—	IV 2.0×2	(E19) : 露出
—	IV 1.6×2E1.6	(線び内配線)
—	IV 2.0×2	(線び内配線)
動力設備		
—	IV 1.6×3	(E19) : 露出
—	IV 1.6×3E1.6	(E19) : 露出
—	IV 1.6×6E1.6	(E25) : 露出
火災報知設備		
— _{AE}	AE 1.2-2C	(E19) : 露出

分電盤リスト

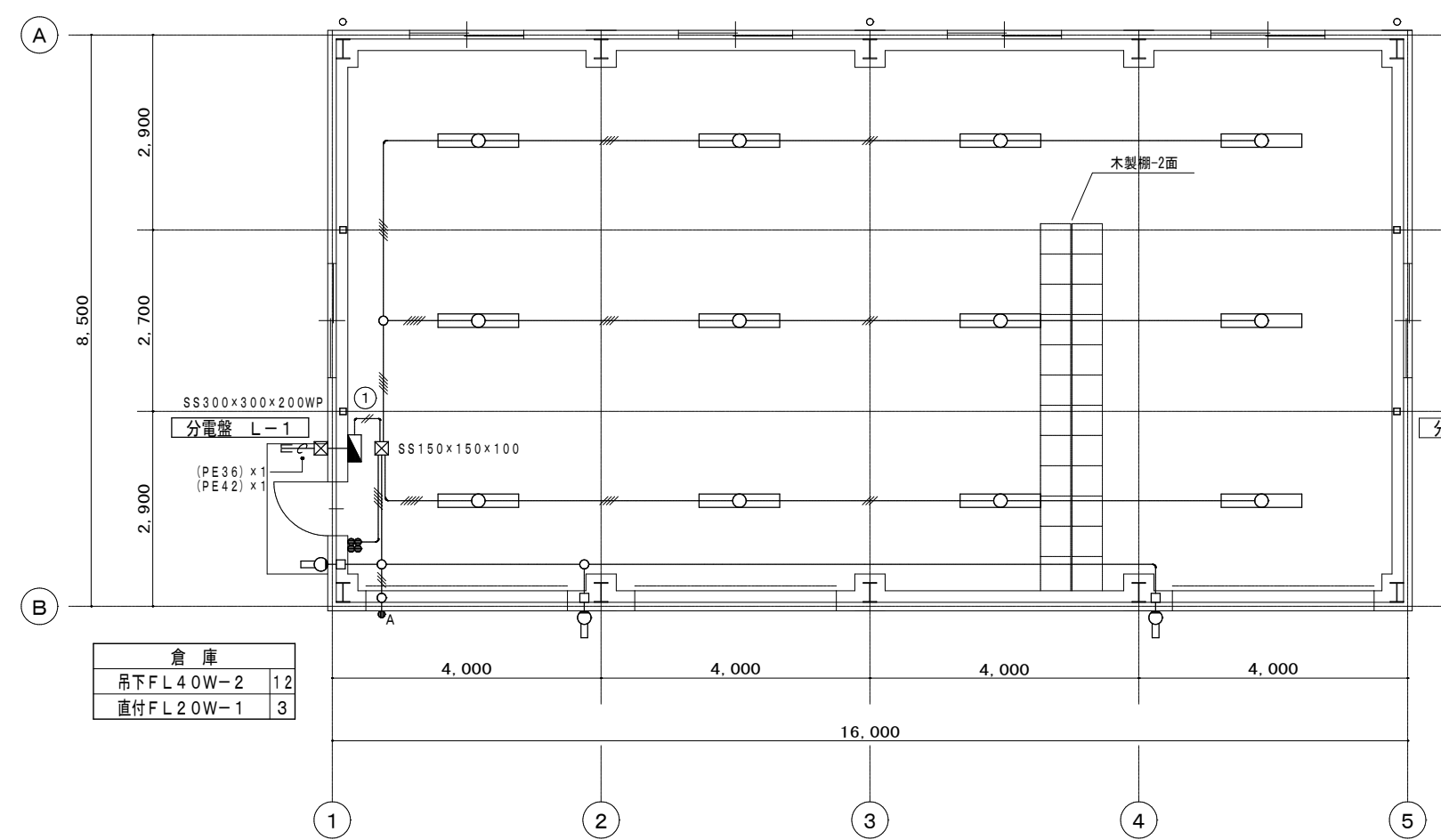
分電盤L-KE (銅板製・露出形)	
主幹 ELCB3P50A	×1
分岐 MCCB2P20A	×4
MCCB1P20A	×4
(寸法：500W×600H×150D)	

制御盤リスト

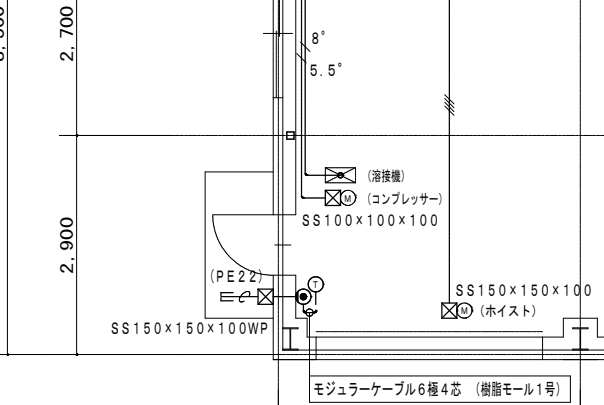
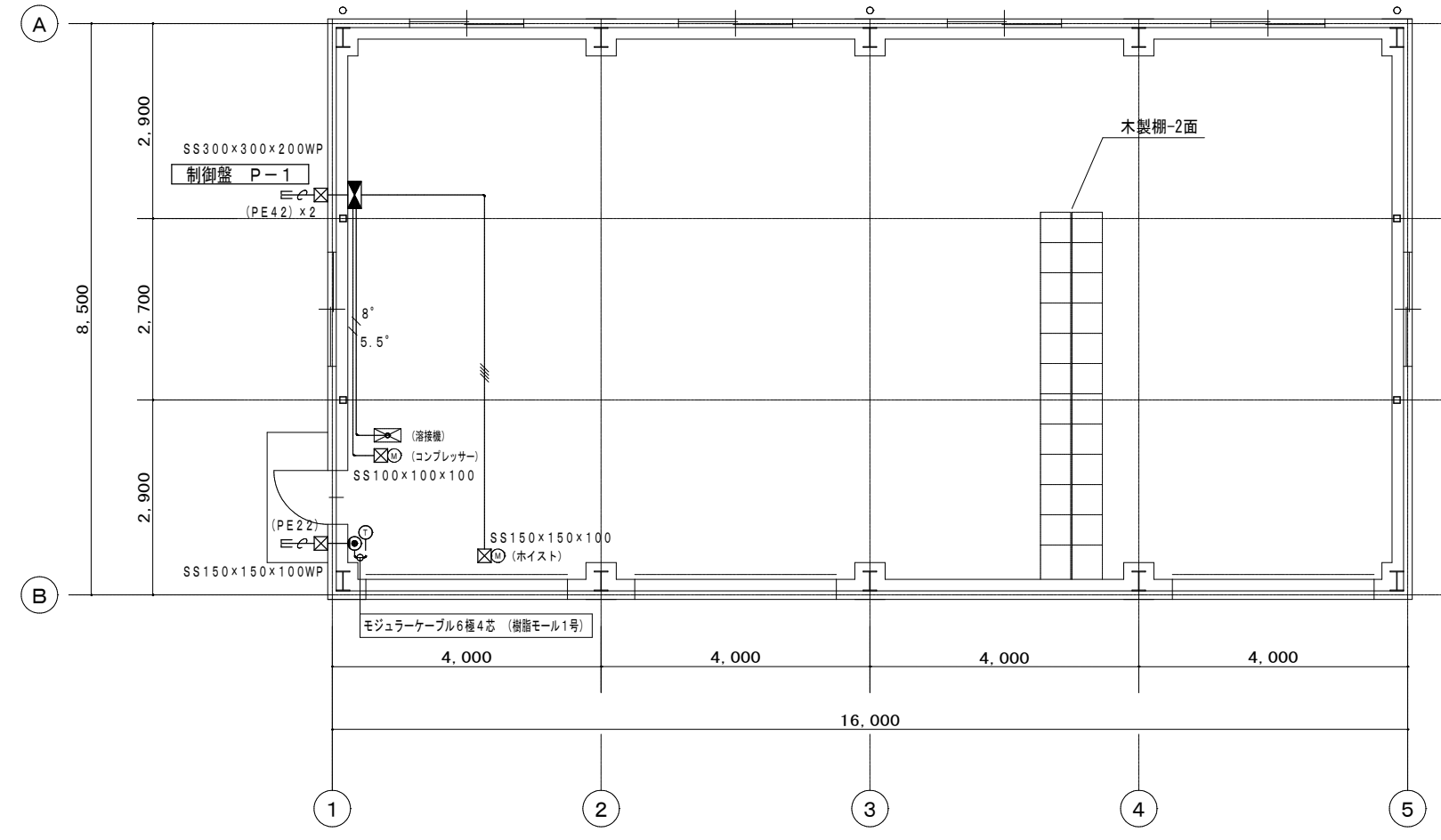
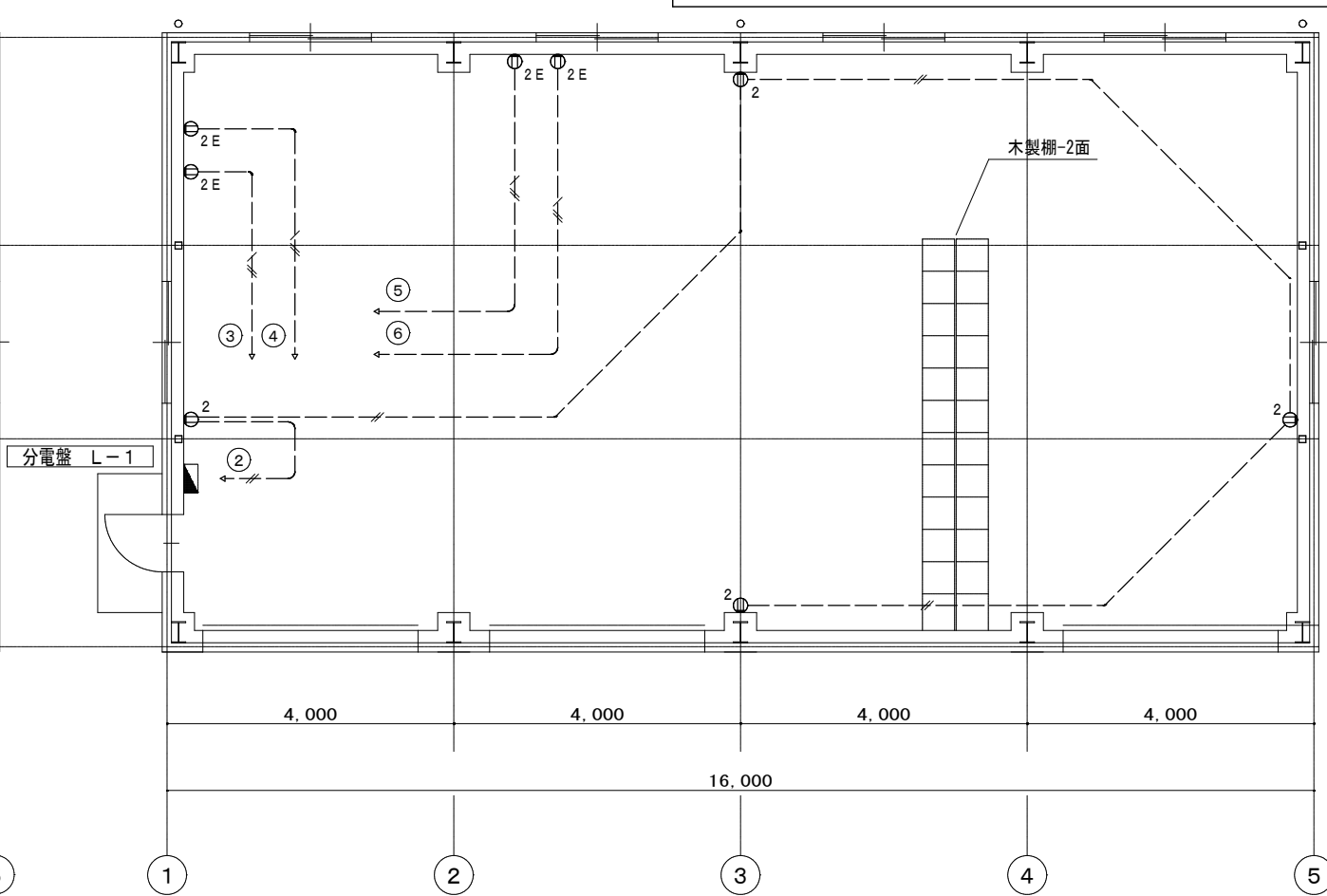
分電盤M-KE (銅板製・露出形)	
主幹 MCCB3P50A	×1
負荷 2.2kW以下	×4
分岐 MCCB3P20A	×1
MCCB2P20A	×1
(寸法：600W×1100H×200D)	

工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	特高変電所 電気設備配線図 (撤去)		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	1/100	図面番号	AE-24
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

図中の器具類及び配管配線（コンクリート埋込部の電線管は除く）は全て撤去とする。



倉庫	
吊下FL40W-2	12
直付FL20W-1	3



凡例

記号	名称	摘要
— — —	床隠ぺい配線	
— — —	露出配線	
☒	プルボックス	形式・寸法は傍記による
—○—	露出丸形ボックス	
（電灯）		
○	蛍光灯（露出形）	FL40W×2灯 天井付
○	蛍光灯（露出形）	FL20W×1灯 壁付
●	タンブラスイッチ	1P15A×1 金属製プレート
②	壁付コンセント	2P15A×2 "
②E	壁付コンセント	2P15A×2E付 "
●A	自動点滅器	
（動力）		
⊙	電動機	AM工事
（構内交換）		
○	ボタン電話機	
●	電話用アウトレット	モジュージャック 樹脂製プレート

特記事項

1. 図中特記なき配管配線は下記とする。
- 電灯設備
- — — 1V 2.0×2 (E19) : 床隠ぺい
 - — — 1V 2.0×2E2.0 (E19) : 床隠ぺい
 - — — 1V 1.6×2 (E19) : 露出
 - — — 1V 1.6×3 (E19) : 露出
 - — — 1V 1.6×4 (E19) : 露出
 - — — 1V 1.6×5 (E25) : 露出
 - — — 1V 2.0×2 (E19) : 露出
 - — — 1V 2.0×2E2.0 (E19) : 露出
- 動力設備
- — — 1V 2.0×4 (E25) : 露出
 - 5.5° — CV 5.5°-4C (露出)
 - 8° — CV 8°-4C (露出)

分電盤リスト

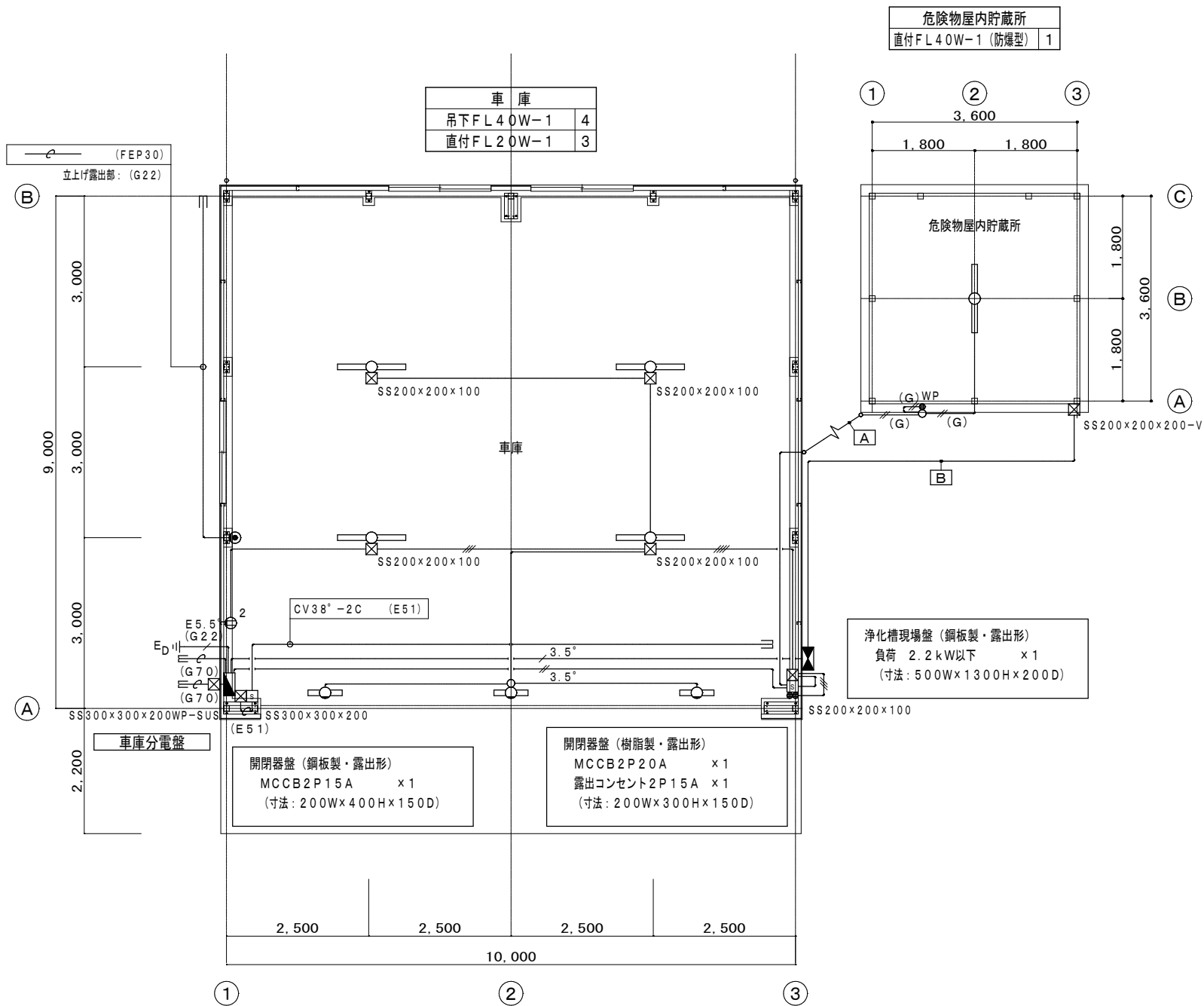
分電盤L-1（銅板製・露出形）
主幹 ELCB3P50A ×1
分岐 MCCB3P20A ×8
(寸法: 600W×600H×150D)

制御盤リスト

制御盤P-1（銅板製・露出形）
主幹 ELCB3P75A ×1
分岐 MCCB3P15A ×1
MCCB3P20A ×1
MCCB3P30A ×1
MCCB3P50A ×1
(寸法: 600W×600H×150D)

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	倉庫 電気設備配線図（撤去）		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	1/50	図面番号	AE-25
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

図中の器具類及び配管配線（コンクリート埋込部の電線管は除く）は全て撤去とする。



A		
DV 2.0-2R	(架空)	電 灯

B		
CE 3.5°-4C	(HIVE28)	浄化槽ポンプ
CEE 2°-4C	(HIVE22)	浄化槽電極棒

凡 例		
記 号	名 称	摘 要
(配管配線)		
—	露出配線	
—		
⊠	ブルボックス	形式・寸法は傍記による
—○—	露出丸形ボックス	
(電灯)		
—○—	蛍光灯（露出形）	天井付
—○—	蛍光灯（露出形）	壁付
•	タンブラスイッチ	1P15A×1 金属製プレート
•WP	防水スイッチ	1P15A×1 樹脂製プレート
Ⓜ ₂	壁付コンセント	2P15A×2 金属製プレート
(動力)		
□	開閉器盤	
(構内交換)		
●	電話用アウトレット	モジュージャック 樹脂製プレート

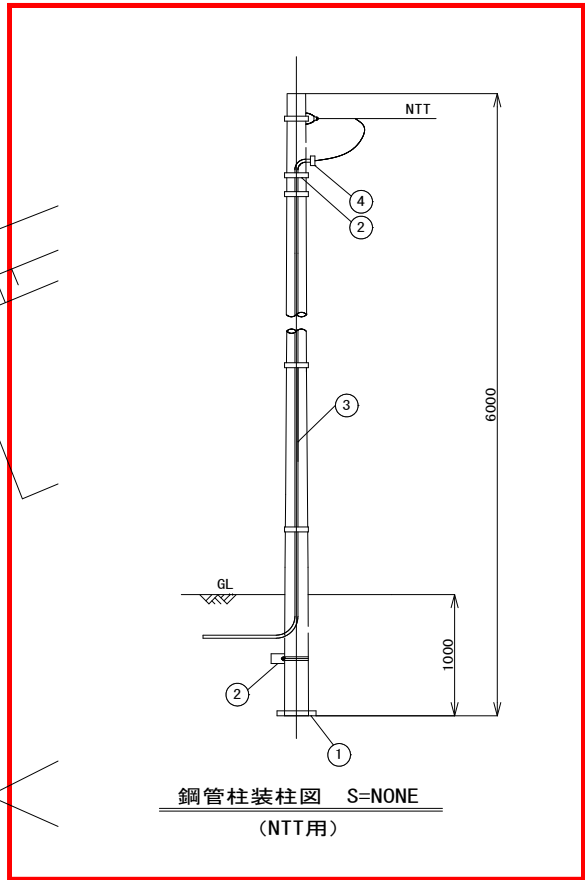
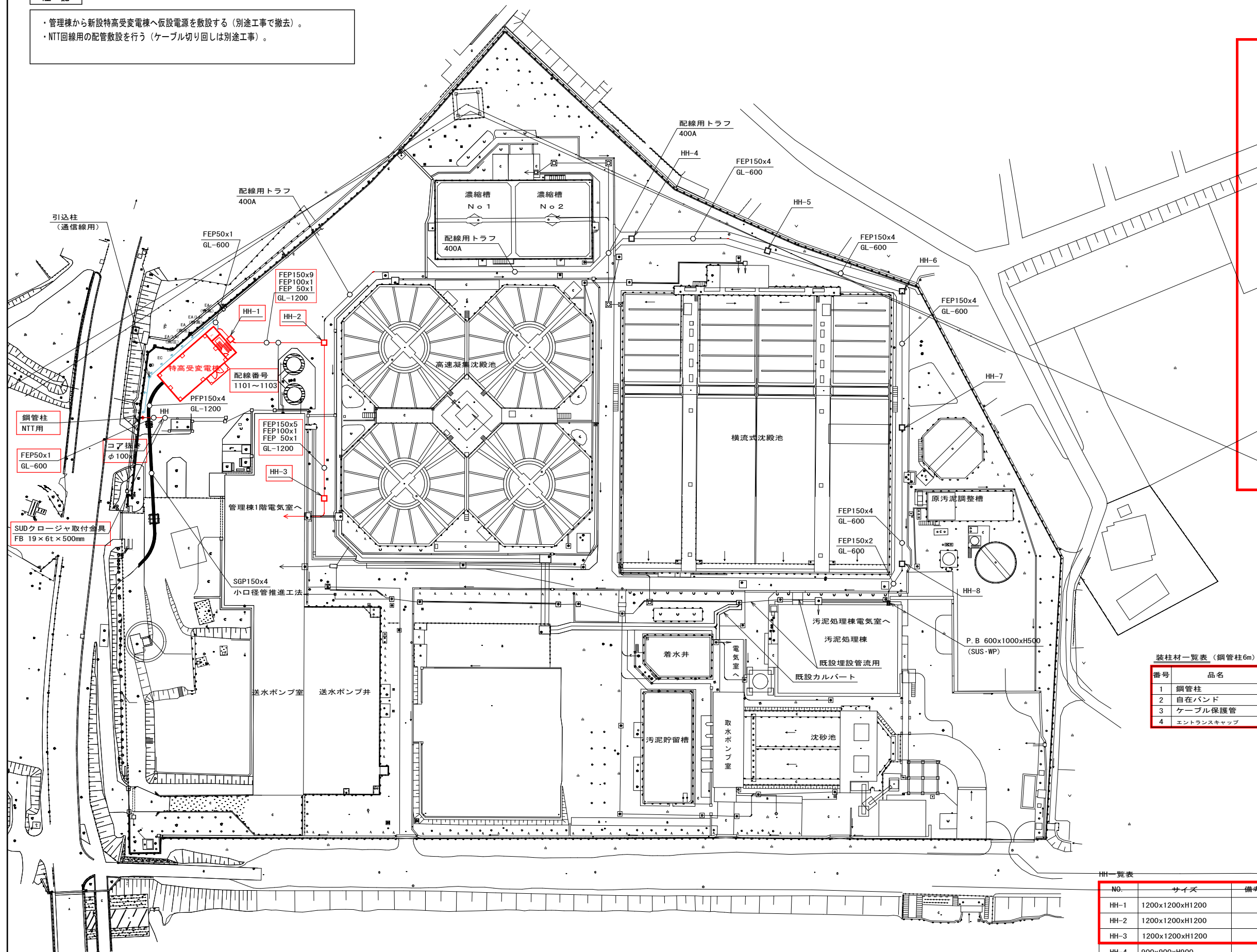
分電盤リスト		
車庫分電盤（銅板製・露出形）		
主幹	ELCB2P30A	×1
	MCCB3P100A	×1
分岐	MCCB1P20A	×4
	ELCB3P10A	×1
	ELCB3P30A	×1
(寸法：600W×900H×150D)		

特 記 事 項		
1. 図中特記なき配管配線は下記とする。		
電灯設備		
—	1V 2.0×2	(E19)：露出
—	1V 2.0×3	(E19)：露出
—	1V 2.0×4	(E19)：露出
—(G)	1V 2.0×2	(G16)：露出
—3.5°	CV 3.5°-3C×2	(露出)
動力設備		
—3.5°	CV 3.5°-3C	(露出)

工事名	佐倉浄水場特高変電棟建築工事		
図面名	車庫・危険物屋内貯蔵所 電気設備配線図（撤去）		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	1／50	図面番号	AE-26
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

注 記

- ・管理棟から新設特高受変電棟へ仮設電源を敷設する（別途工事で撤去）。
- ・NTT回線用の配管敷設を行う（ケーブル切り回しは別途工事）。



鋼管柱装柱図 S=NONE
(NTT用)

装柱材一覽表（鋼管柱6m）

番号	品名	規格	数量	備考
1	鋼管柱	6m	1本	
2	自在バンド		4個	
3	ケーブル保護管	厚鋼（防食テープ巻き）	1式	
4	エントランスキャップ		1個	

注 記

- 1 特に明記なきものは既設を示す。
2  は、今回を示す。
3  は、今回ケーブルを示す。

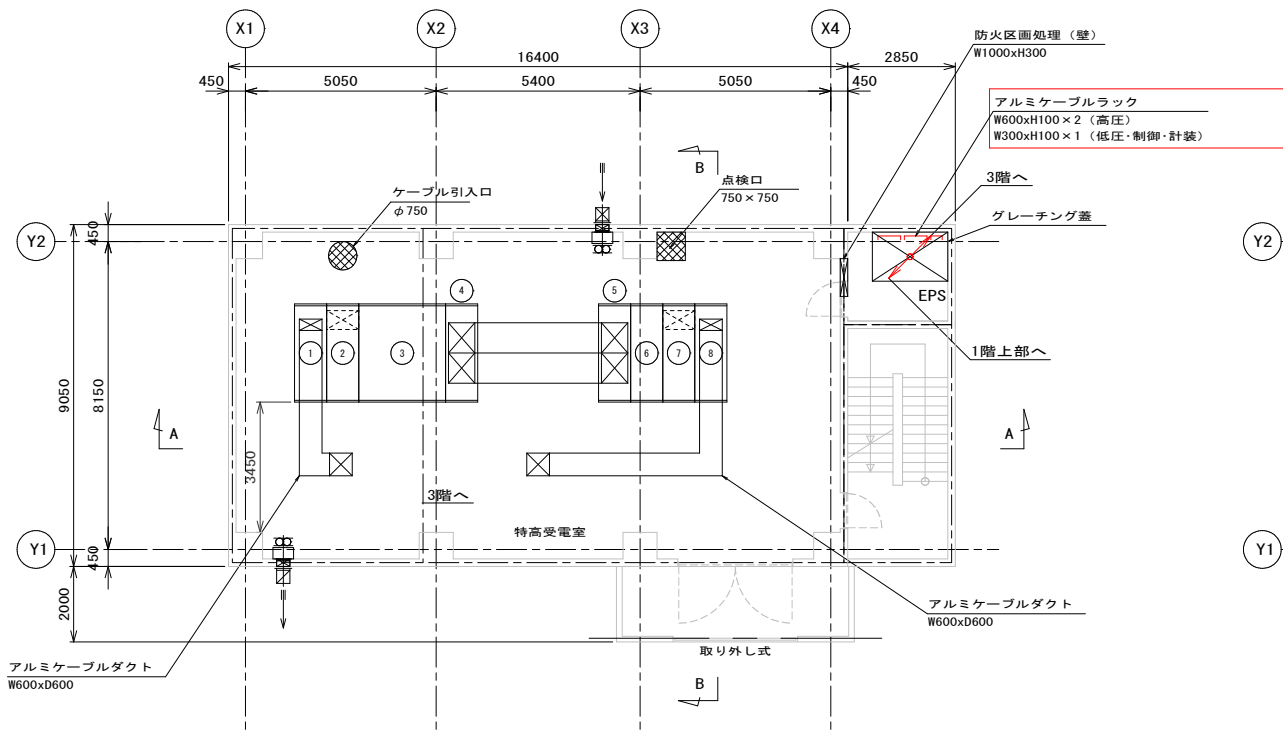
— 三三 — 覽表

NO.	サイズ	備考
HH-1	1200x1200xH1200	
HH-2	1200x1200xH1200	
HH-3	1200x1200xH1200	
HH-4	900x900xH900	
HH-5	900x900xH900	
HH-6	900x900xH900	
HH-7	900x900xH900	
HH-8	900x900xH900	

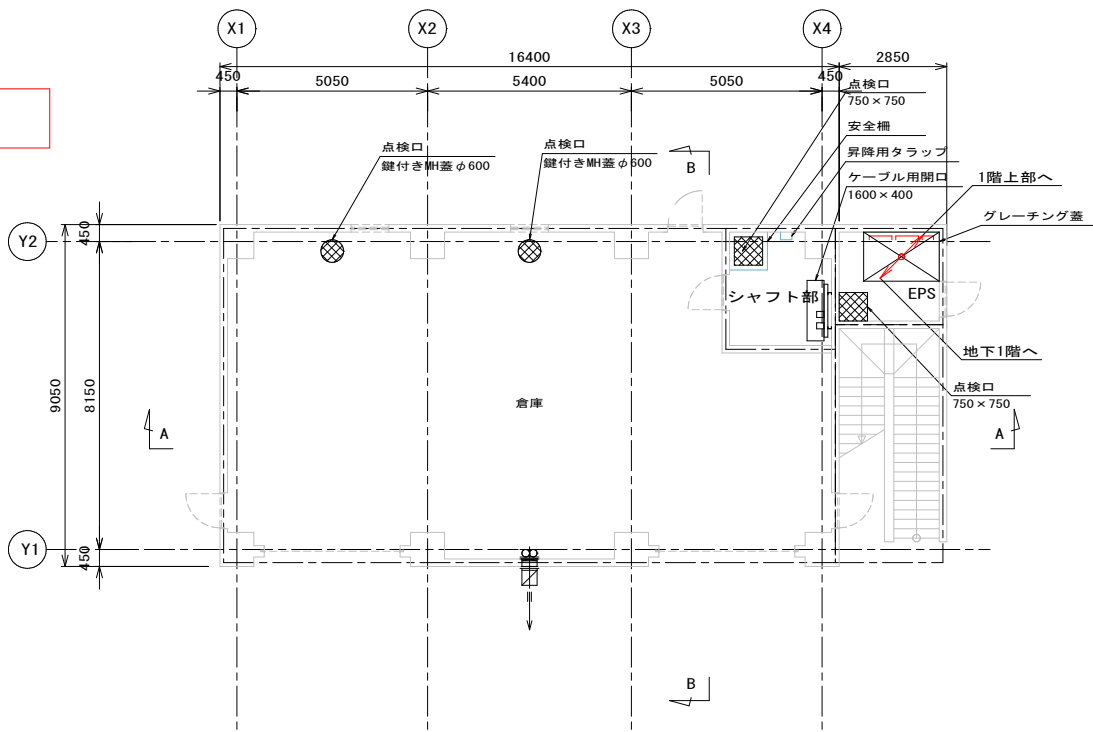
工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	全体平面図 仮設電源・NTT移設（今回）		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	S=1/500	図面番号	AE-27
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

全体平面図 S=1/500
(今回)

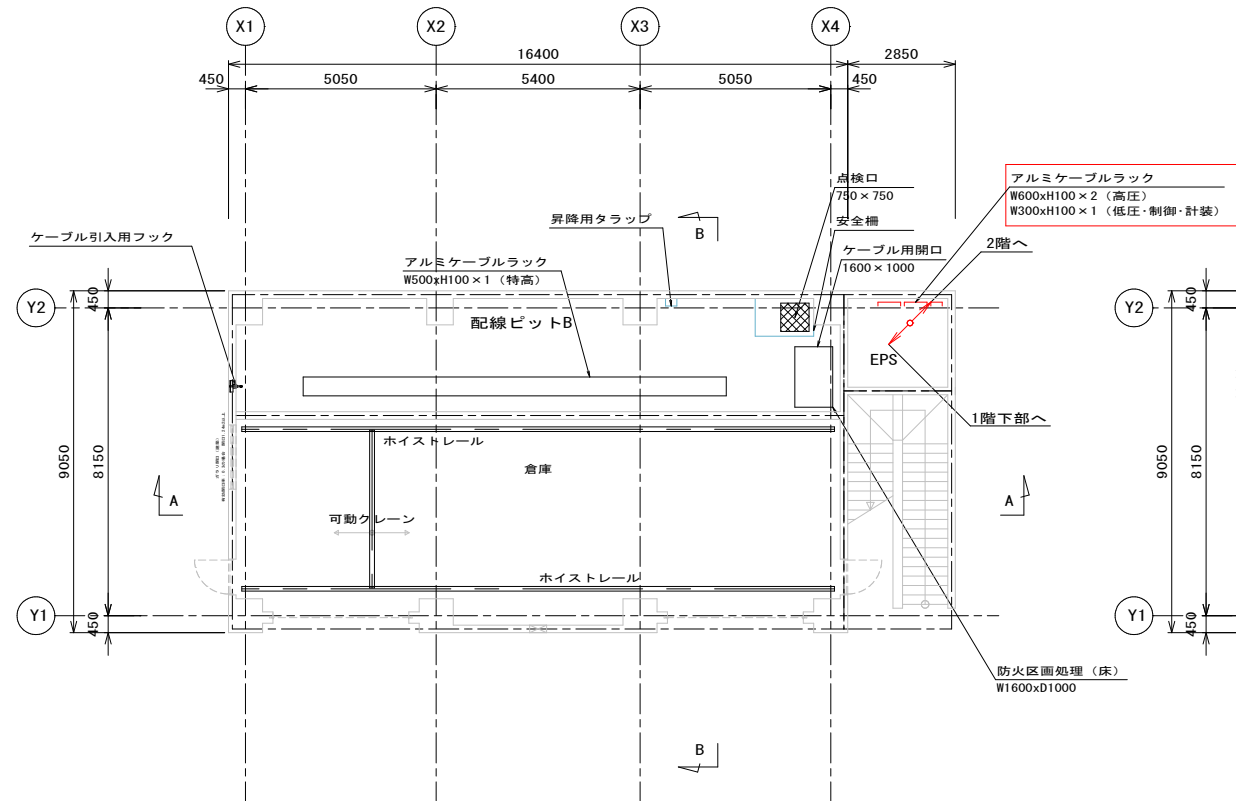
記 録 表										
記 録 号		自		至		記 録 仕 様		注 文		備 考
記 号	名 称	記 号	名 称	種別、サイズ、芯数、本数		量内量外	種別、サイズ	種別、サイズ、本数		
1101	照明分電盤	6P-1	特高標準架付帶動力盤	600v-OT		100 ⁰	Ⅱ			
1102	201-F1.2	Ⅱ	No.1送水*27 補機C/C	600v-OT		60 ⁰	Ⅱ			
1103	接地端子箱	Ⅱ					Ⅳ	100 ⁰		



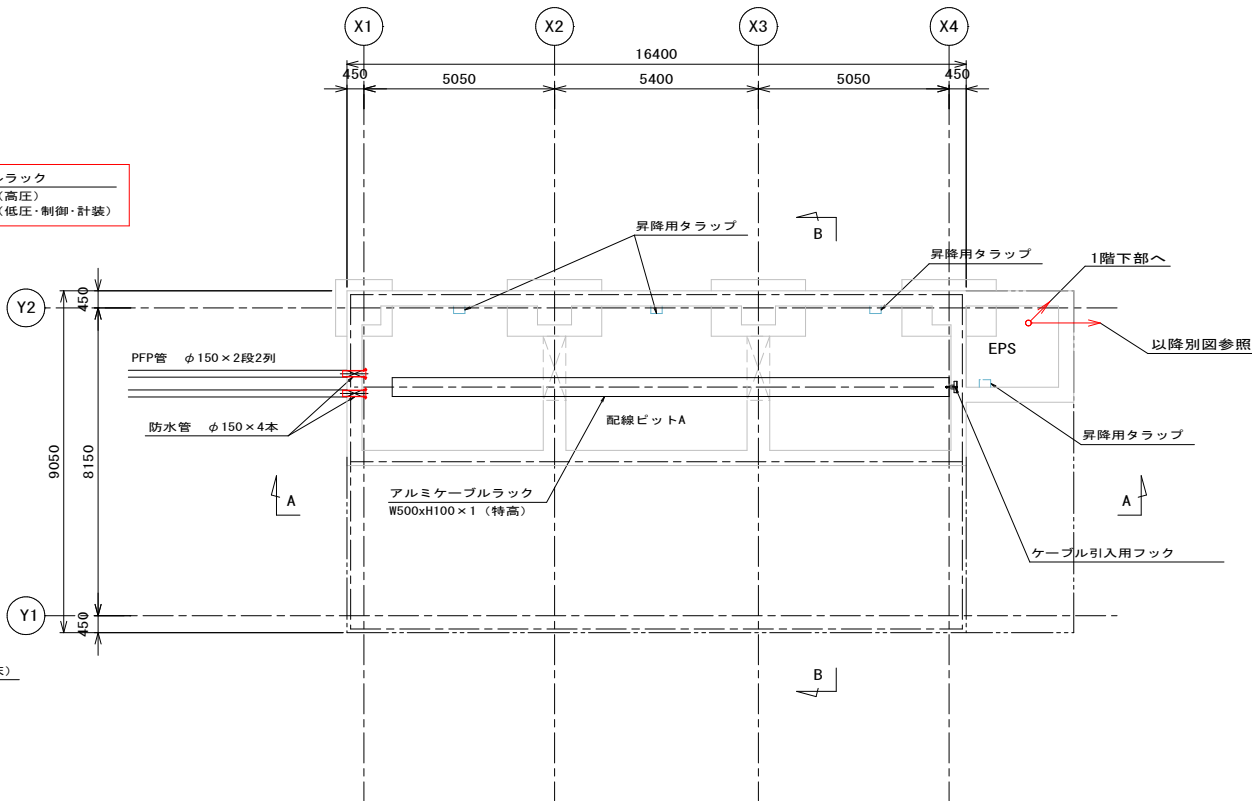
特高変電所2階 平面図 S=1/100
(今回)



特高変電所1階（下部） 平面図 S=1/100
(今回)



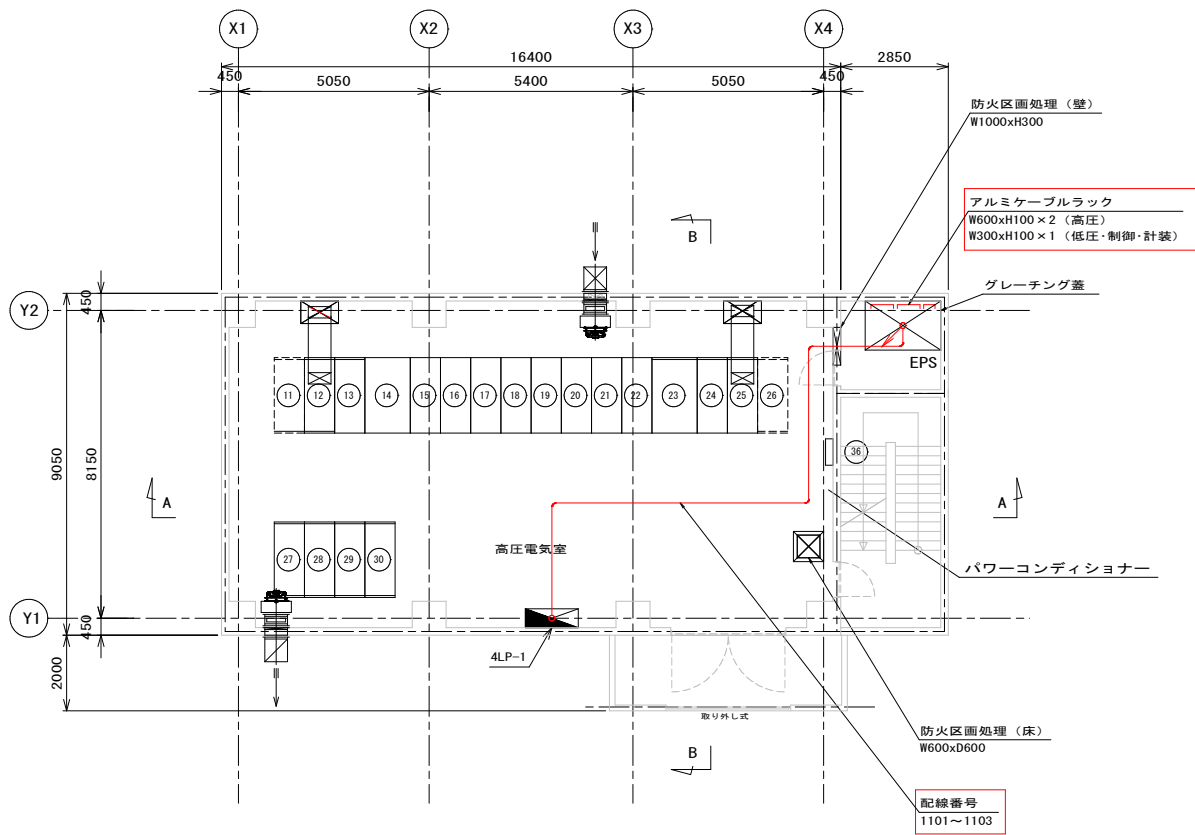
特高変電所1階（上部） 平面図 S=1/100
(今回)



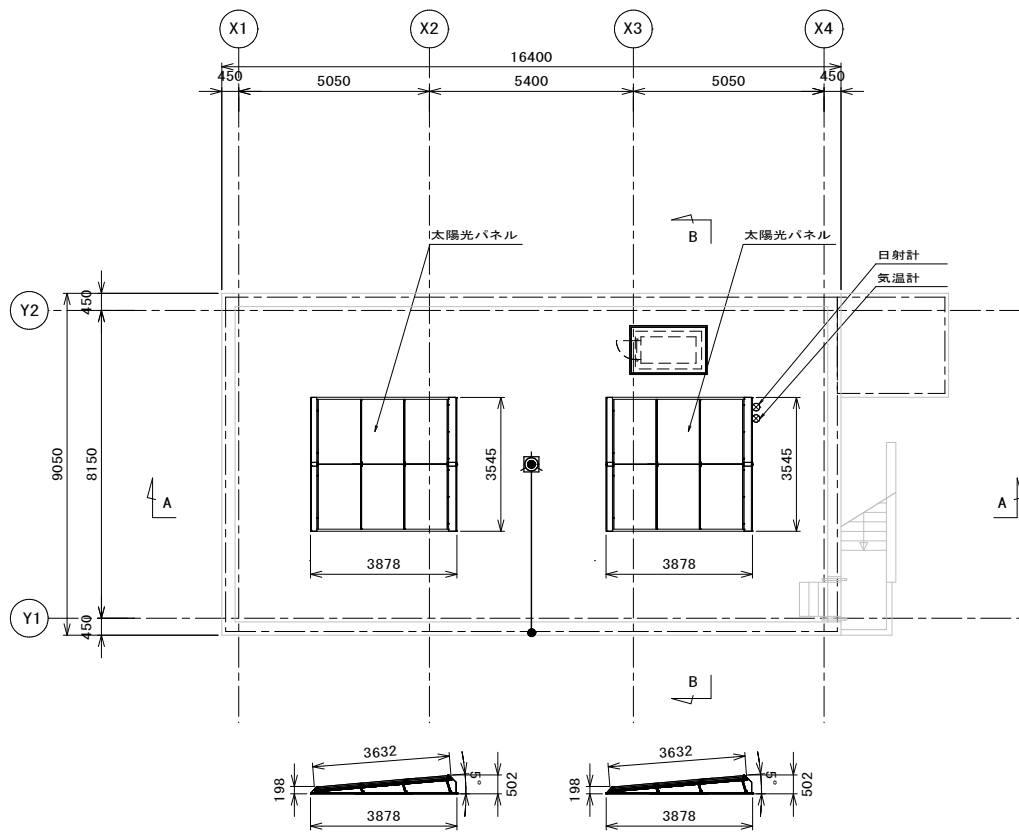
特高変電所地下1階 平面図 S=1/100
(今回)

特高設備電気室 盤名称一覧表			
NO.	盤名称	盤記号	備考
①	NO. 1主変圧器一次盤	HC1-3	今回
②	NO. 1受電盤	HC1-1	〃
③	VCT盤	HC1-2	〃
④	NO. 1母線連絡盤	HC1-B	〃
⑤	NO. 2母線連絡盤	HC2-B	〃
⑥	バイパスDS盤	HC2-2	〃
⑦	NO. 2受電盤	HC2-1	〃
⑧	NO. 2主変圧器一次盤	HC2-3	〃

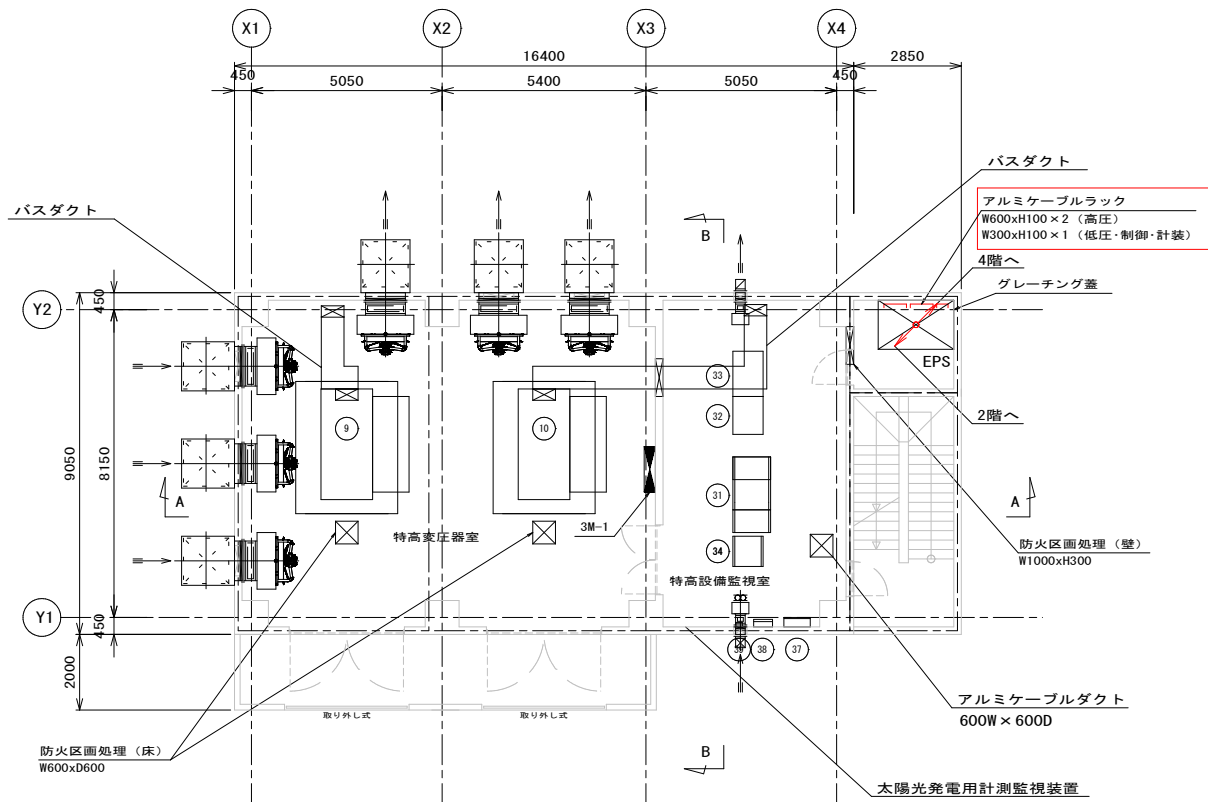
工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	特高変電所平・断面図(1)(今回)		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	S=1/100	図面番号	AE-28
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



特高変電所4階 平面図 S=1/100
(今回)



特高変電所RF階 平面図 S=1/100
(今回)



特高変電所3階 平面図 S=1/100
(今回)

特高設備電気室・監視室 盤名称一覧表

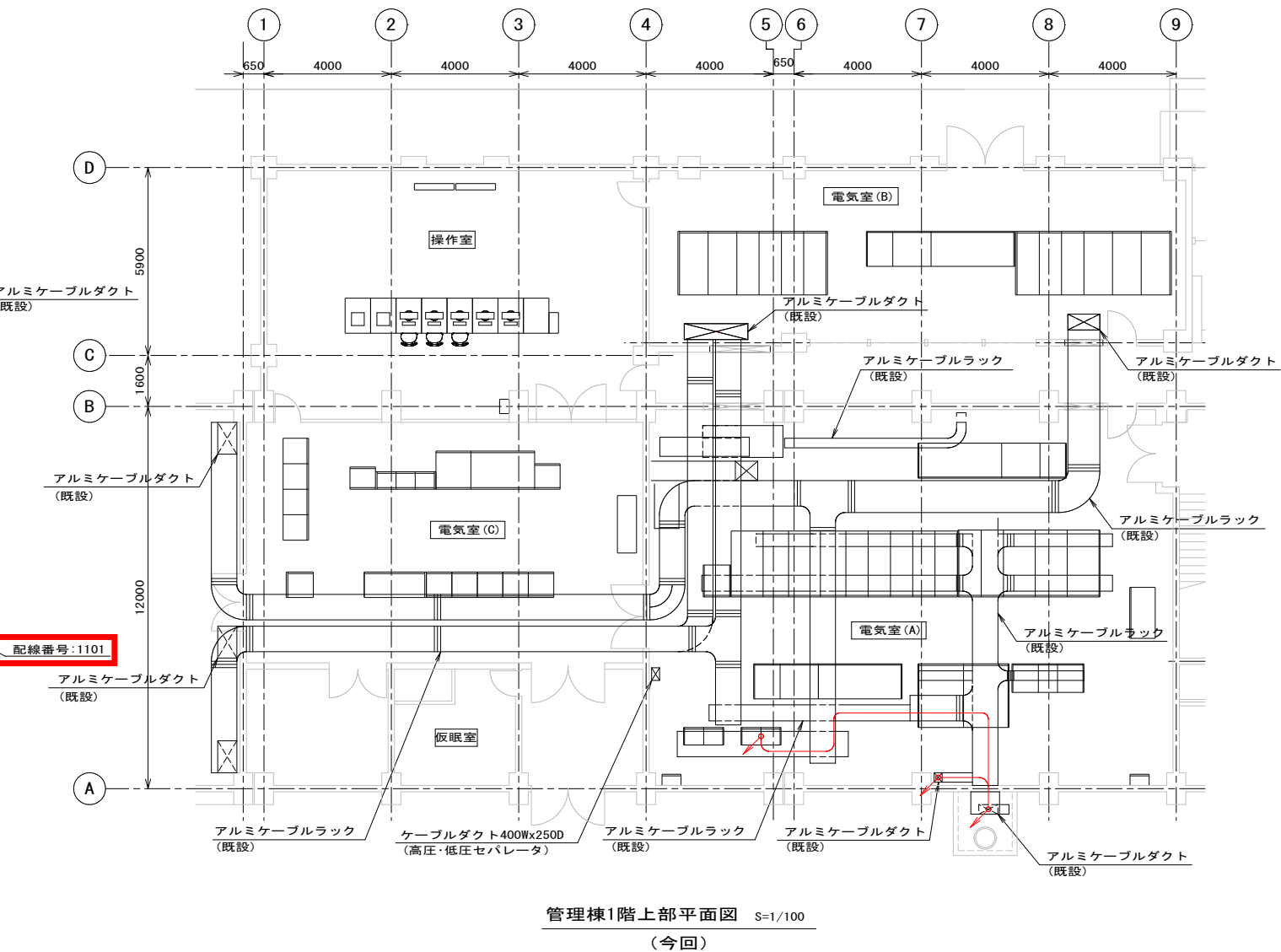
NO.	盤名称	盤記号	備考
9	NO. 1主変圧器		別途工事
10	NO. 2主変圧器		〃
11	NO. 1自家発連絡盤	MC1-1	将来
12	NO. 1主変圧器二次遮断器盤	MC1-2	別途工事
13	NO. 1コンデンサ盤	MC1-3	〃
14	NO. 1接地変圧器盤	MC1-4	〃
15	本館電気室(1)/取水ポンプ設備(1)盤	MC1-5A, B	〃
16	沈殿池設備(1)盤/送水ポンプ設備(1)盤	MC1-6A, B	〃
17	汚泥処理設備(1)/NO. 1所内変圧器一次盤	MC1-7A, B	〃
18	NO. 1母線連絡/NO. 1EVT盤	MC1-B	〃
19	NO. 2母線連絡/NO. 2EVT盤	MC2-B	〃
20	汚泥処理設備(2)/NO. 2所内変圧器一次盤	MC2-7A, B	〃
21	沈殿池設備(2)盤/送水ポンプ設備(2)盤	MC2-6A, B	〃
22	本館電気室(2)/取水ポンプ設備(2)盤	MC2-5A, B	〃
23	NO. 2接地変圧器盤	MC2-4	〃
24	NO. 2コンデンサ盤	MC2-3	〃
25	NO. 2主変圧器二次遮断器盤	MC2-2	〃
26	NO. 2自家発連絡盤	MC2-1	将来
27	NO. 2所内変圧器盤	MC2-8	別途工事
28	NO. 2低圧配電盤	LC2-1	〃
29	NO. 1低圧配電盤	LC1-1	〃
30	NO. 1所内変圧器盤	MC1-8	〃
31	特高設備直流電源装置	HC-DC1~3	〃
32	特高保護継電器盤	HCR	〃
33	特高監視盤	HCLK	〃
34	特高設備コントローラ盤	HC-R10	〃
35	接地端子箱		〃
36	総合計器箱 (電力会社)		〃
37	通信用端子箱 (電力会社)		〃
38	受電状態自動伝達装置 (電力会社)		〃

注 記

- 特に明記なきものは既設を示す。
- は、今回を示す。
- は、今回ケーブルを示す。

配線表		自		空		配線仕様		端末	接地線	電線管	備考
配線番号	記号	名 称	規格、サイズ、芯数、本数	記号	名 称	規格、サイズ、芯数、本数	規格、サイズ、芯数、本数	規格、サイズ	規格、サイズ	規格、サイズ、本数	
1101	01	照明分電盤	600×600	01-1	特高機建策付帯動力盤	600×600	100	2			
1102	021+01.2	No.1送水ポンプ 制御盤	600×600	02		600×600	100	2			
1103	01	接地端子箱		01				100			

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	特高変電所平・断面図(2)(今回)		
作成年月日	令和8年度		
縮 尺	S=1/100	図面番号	AE-29
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		



名称一覧表															
No.	盤 名 称	盤記号	備 考	No.	盤 名 称	盤記号	備 考	No.	盤 名 称	盤記号	備 考	No.	盤 名 称	盤記号	備 考
①	1号進相コンデンサ盤	MP1	既 設	26	NO. 1 150kVA変圧器盤	MC70	既 設	⑤1				⑧3	送水ポンプ設備現場監視盤	LK2	既 設
②	2号進相コンデンサ盤	MP2	〃	27	本館動力補機主幹盤	LC10	〃	⑤2				⑧4	中継端子盤	TB2	〃
③	3号進相コンデンサ盤	MP3	〃	28	NO. 1 200kVA変圧器盤	MC50	〃	⑤3				⑧5	データ入出力装置	CCBT	〃
④	NO. 1予備/1号送水ポンプ盤	MP4A, B	〃	29	NO. 1補機電源1次盤/NO. 1照明電源1次盤	MC40A, B	〃	⑤4				⑧6	電灯分電盤	L-1B	〃
⑤	2号送水ポンプ盤/3号送水ポンプ盤	MP5A, B	〃	30	NO. 1本館高圧幹線盤	MC80	〃	⑤5				⑧7	送水圧力	LCB-K	〃
⑥	NO. 1送水ポンプ幹線盤	MP6	〃	31	NO. 2本館高圧幹線盤	MC29	〃	⑤6	NO. 1送水ポンプ補機コントロールセンタ	CC11-F1	既 設				⑥
⑦				32	計器用変圧器/予備	MC28	〃	⑤7	NO. 1送水ポンプ補機コントロールセンタ	CC11-F2	〃	①	大形ディスプレイ	SCR	既 設
⑧				33	NO. 2照明電源/予備	MC27	〃	⑤8	NO. 2送水ポンプ補機コントロールセンタ	CC12-F1	〃	②	LCD監視制御装置x2/中央監視制御装置(1)(2)	LCD-1, 2/HIS-1, 2	〃
⑨	連結断路器盤	MP7	既 設	34	— /NO. 2補機電源	MC26	〃	⑤9	NO. 2送水ポンプ補機コントロールセンタ	CC12-F2	〃	③	LCD監視制御装置x1/中央監視制御装置(3)	LCD-3/HIS-3	〃
⑩	NO. 2送水ポンプ幹線盤	MP8	〃	35	—	MC25	〃	⑥0	接地端子箱(5P)		〃	④	帳票・メッセージ覧用プリンタ	PRT-1	〃
⑪	4号送水ポンプ盤/5号送水ポンプ盤	MP9A, B	〃	36	—	MC24	〃	⑥1	空調機電源	M-P-1-2	〃	④	ハードコピー用プリンタ	HC	〃
⑫	GPT盤/NO. 2予備	MP10A, B	〃	37	NO. 2 200kVA変圧器(補機)	MC23	〃	⑥2	C電室空調機NFB		〃	⑤	ITV操作卓	ITV	〃
⑬	4号進相コンデンサ盤	MP11	〃	38	照明切換	MC22	〃				⑥	大形ディスプレイ画像切換装置/備票管理用パソコン	SCR-PC/PC-1	〃	
⑭	5号進相コンデンサ盤	MP12	〃	39	NO. 2 150kVA変圧器(照明)	MC21	〃	⑦1	無線電話装置		既 設	⑦	データサーバ	SVR	〃
⑮				40	本館設備保護継電器盤	PR10	〃	⑦2	空調機		〃	⑧	本館送水ポンプ設備プロセスコントローラ (1)(2)	PCS-3A, B	〃
⑯				41	照明分電盤	N1	〃	⑦3	CVCF分電盤	DP-CVCF	〃	⑨	場外設備プロセスコントローラ	PCS-6	〃
⑰				42	1号直流電源装置	DC21	〃	⑦4	無停電電源装置	CVCF	〃	⑩	大形ディスプレイコントローラ	DSP-CTR	〃
⑱				43	2号直流電源装置	DC21	〃	⑦5	蓄電池(1)(2)	SB1, 2	〃	⑪	ITV制御盤	ITV-CTR	〃
⑲				44	直流制御電源分割盤	DC22	〃	⑦6	送水ポンプ設備補助継電器盤(3)	RS13	〃	⑫	集中監視システムインターフェース盤	IF-SK	〃
⑳				45	NO. 1沈澱池変圧器主幹盤	MCT3	〃	⑦7	送水ポンプ設備補助継電器盤(2)	RS12	〃	⑬	集中監視システムデータサーバ		〃
㉑				46	NO. 2沈澱池変圧器主幹盤	MCT4	〃	⑦8	送水ポンプ設備補助継電器盤(1)	RS11	〃				
㉒				47				⑦9	佐倉浄水場 無線テレメータ装置		〃	㉑	空調機(室内機)		既 設
㉓				48				⑧0	遠方監視制御装置盤(3)	TC/TM23	〃	㉒	空調機(室外機)		〃
㉔				49				⑧1	遠方監視制御装置盤(2)	TC/TM22	〃	㉓	手元閉閉器盤	PAC-1, 2	〃
㉕				50				⑧2	遠方監視制御装置盤(1)	TC/TM21	〃				

注 記

1 特に明記なき

2

は、

3

は、

工事名

図面名

配線表												
配線番号	自			至		配 線 仕 様		端 末		接地線	電 線 管	備 考
	記 号	名 称		記 号	名 称	種別、サイズ、芯数、本数	屋外	屋内	種別、サイズ	種別、サイズ、本数		
1101	NI	照明分電盤		4LP-1	特高棟建築付帯動力盤	600V-CVT		2				
1102	CC11-F1.2	No.1送水ポンプ補機C/C		〃	〃	600V-CVT		2				
1103	E	接地端子箱		〃	〃			IV		100		

工事名	佐倉浄水場特高受変電棟建築工事		
図面名	管理棟1階平面図(今回)		
作成年月日	令和8年度		
縮尺	S=1/100	図面番号	AE-30
会社名			
事業者名	千葉県企業局工業用水部		

